

FD Review vol. 7

2011 年度の総括

佛教大学教授法開発室

目 次

はじめに（教授法開発室 12 年間の歩み）	教授法開発室長 藤松 素子
2011 年度 英語基礎力調査 データと分析	教授法開発室員 松本 真治 1
基礎学力調査（国語）の結果報告―新入生の学力差の現状と初年次教育の課題―	
..... 社会学部現代社会学科 近藤 敏夫	15
授業アンケート―学生からの授業評価をいかに捉えるか―	
..... 教授法開発室員 堀家由妃代	25
e－Learning システムの利用状況と今後の展望	
..... 教育研究連携調査課 課長 太田貴久男	155
映像資料を活用した大学授業―保育・教育実践力を高めるための試み―	
..... 教育学科 橋本 憲尚	169
入学前教育	教授法開発室員 林 悠子 179
FD 研究会 実施報告	
第 1 回（黒板とパワーポイント）	教授法開発室員 松本 真治 209
第 2 回（入門ゼミ）	教授法開発室員 小野田 俊藏 232
第 3 回（授業づくり）	教授法開発室員 漆葉 成彦 235
初年次教育	教授法開発室員 水谷 隆之 237
学外研修会報告―2011 年度「授業の基本」ワークショップに参加して―	
..... 教授法開発室員 塩満 卓	245
現実から出発する FD	教学部長 岡崎 祐司 247
活動記録	249
教授法開発室（スタッフ 2011）	251

はじめに

教授法開発室 12 年間のあゆみ

教授法開発室長 藤 松 素 子

教授法開発室は 2000 年 4 月に開設されて以来、佛教大学における FD 活動の推進に努めてきたが、この度の事務機構改革に伴い、その 12 年の歴史に幕を閉じることとなった。2006 年より刊行してきた本『FD Review』も、この vol.7 で最終号となる。やや中途半端な感も否めないが、教授法開発室開設 6 年目の年に活動報告を始めてから、ちょうど 6 年目の折り返し地点にて、ひとまず終了と相成ったのには、なにがしかの因果があるのかもしれない。

発刊当時の松本真治教授法開発室長（2011 年度・同室員）は、創刊号の巻頭「FD Review 発刊にあたって」において、『FD Review』のミッションとして、三つの A を掲げている。それは Accountable, Academic, Aspiring, すなわち、「説明責任」、「学究的」、「意欲的」である。

設立当初から「教授法開発室だより」が刊行されていたわけであるが、リーフレット形式であるために必ずしも十分な情報提供ができていなかったという反省のもと、「全学に対して本学における FD 活動の意義を十分説明できうる情報を提供する」ことの必要性、すなわち説明責任を十分に果たすことを第一に挙げたのである。

二番目の「学究的」という意味は、授業評価アンケート（当時）結果を学生の側から得た情報のみで分析することのリスクや、e-Learning を「システムの薔薇色の側面を強調するだけ」ととどめることの問題点を指摘し、「FD という言葉が本来意味する『教員集団の資質開発』や、さらには教学をはじめとする様々な大学全体の政策決定の基礎資料となる」ことを意図しているのである。

三つ目の「意欲的」とは、「問題先送り方の総括」や「次年度の課題という一言で片づけてしまう逃げ腰姿勢」への非難であり、「全学に向かって新たな課題を提起し、それが本学の教育の質的向上へと結びついていくというサイクル」を期待したものである。

創刊当初に掲げたこれら三つのミッションを、その後の『FD Review』刊行において、十分に果たし得たのか否かの評価については後世に委ねることとして、いずれにしても教授法開発室としての活動は 2012 年 3 月をもって終了することとなった。もっとも、教授法開発室という存在がなくなるということが、佛教大学としての FD 活動の終焉そのものを意味するのではなく、「新たな第一歩を踏み出すための一区切り」となるのだと理解すべきなのであろう。

そこで、これまでの 12 年間を振り返り、その足跡をたどることから佛教大学における FD 活動の到達点を確認すると共に、今後、本学が取り組むべき課題について若干の整理をしておきたい。

○発足までの経緯

本学における FD 活動への取り組みが検討され始めた背景のひとつには、1991 年の大学設置基準の改正に伴う大学教育の規制緩和策が打ち出されたことがある。また、これと並行して各大学において自己点検評価を実施し、教育・研究のレベルの向上に努めることが強く求められるようになった。その結果、全国的にみて、シラバスを作成する大学は、1993 年では 80 大学（15％）から 2009 年には 705 大学（96％）に、学生による授業評価の実施は 38 大学（7％）から 599 大学（80％）に、ファカルティ・ディベロップメントの実施は 151 大学（29％）から 746 大学（99％）にそれぞれ増加してきた（中央教育審議会大学分科会大学教育部会第 103 回配布資料参照）。

こうした全国的な動向に対応して、本学では 1993 年度よりセメスター制度を導入し、新カリキュラムへ全面移行を行った。大学の自己点検・評価に関わる活動としては、大学評価委員会を設置した上で、1995 年には『佛教大学白書』を、1999 年には『佛教大学の現状と展望』を、2006 年には『佛教大学自己点検・評価報告書』を刊行してきた。こうした一連の活動が結実し、2007 年 3 月には財団法人大学基準協会の相互評価ならびに学校教育法で定める認証評価において「適合」の認定を受ける運びとなったのである。

このような自己点検評価活動の中で、とりわけ教育・研究の質的向上をはかる必要性が強調され、1999 年度の大学評価委員会において FD 活動検討委員会が設置され、2000 年 1 月には「佛教大学における FD 活動のあり方について」という答申が出され、同年 4 月に教授法開発室が創設された。

以来 12 年間にわたって、教授法開発室においては「授業方法・内容の改善ならびに教員の教育能力・資質の向上をはかり、教育の質を高める組織的取り組みや活動等（以下「FD」という）推進・支援すること」（教授法開発室規程第 2 条）を目的とした活動を全学的に展開してきたのである。大学設置基準においては、FD を狭義の授業改善と位置付けているが、本学においてはより広義の概念として、教員の能力開発や、教育の質を担保する組織的取組みを推進することを想定しているのが特徴であるといえよう。

○発足～ 2004 年度における取り組みの変遷

教授法開発室発足当初は、そもそも FD とは何であるのか、教授法開発室のミッションはどこにあるのか等々を大学構成員に伝える為に、『教授法開発室だより』を発行して、関連文献のレビューや、学外の FD 関連セミナー・フォーラムへの参加報告等を積極的に掲載していった。一般的に、多くの大学教員は、自分の研究との関係において、「何を教えるのか」についての興味関心は深くとも、「どのように教えるのか」については充分な関心を払ってこなかったといえよう。また、例え、教員が「いい授業をしたい！」と願ったとしても、「大学での教え方入門」を意図した研修システムが学内外に充分備わっているわけではなかった。そのため、大学としての教授法開発にむけたしくみづくりの必要性について、全構成員に認識してもらう取り組みから始めていく必要があったのである。

これに加えて、室員による日常的な教育支援サービスとして、学習指導法の相談、IT 研修会、指導技術の研究交流会などを精力的に展開していった。更に教授法開発室・教育

支援中長期ビジョンを策定し、「情報調査部門」「評価システム開発部門」「学習システム開発部門」の3部門を設け、各室員が責任分担すると共に、各学部・学科単位でFD活動を検討する機会を設けるという構想を提示した。

「情報調査部門」の取り組みとして、2001年度から本格実施となったのが「前提学力調査」（現「基礎学力調査」）である。これは、学生の基礎学力を把握することを目的としたもので、2001年度は1回生のみを、2002～2008年度は1回生および3回生を対象として、いずれも春学期のオリエンテーション期間に実施してきた。調査は外部業者が提供する就職対策試験問題を利用し、「基礎常識」と「社会常識」に分けられる。「基礎常識」は高校までに学習した5教科に対応する「国語」、「数理」、「英語」、「社会」の4科目で構成され、「社会常識」は「日常生活」および「時事問題」の2科目からなるものであった。

7年にわたる調査結果からみえてきたのは、新入生の基礎学力は入試種別により差があるが、3回生時調査と比較すれば、各学科の専門にみあった学力を伸ばしている傾向がみられること、また、全学的に「社会」の学力を伸ばすことが課題となっていること等であった。また、「日常生活」および「時事問題」の知識が全般的に低いことが全学的な特徴であり、この点が大きな課題であることも確認されてきた。

しかしながら、2008年度において過去7年の蓄積データのより詳細な分析を行った際に、データに不備がみつかった。また、当該業者の試験を受験する大学が当初より減少傾向にあり、全国比較に信頼性がおけなくなったこと等を理由に、2009年度以降は他社の「基礎学力調査（国語）」と「学習実態調査（新入生アンケート）」に切り替え、1回生のみを対象に実施してきている。

また、2004年度からは新カリキュラム実施に伴い、全学共通科目「英語」に習熟度別クラス編成が導入されることとなり、TOEIC Bridge テストを活用した「英語基礎力調査」に取り組むこととなった。TOEIC Bridge テストとは、初・中級レベルの英語コミュニケーション能力測定を目的に開発されたもので、リスニングとリーディングで構成されている。以後、今日に至るまで新入生オリエンテーション期間および、3セメスター進級時に実施され、学生に結果をフィードバックすると共に、英語のクラス編成に活用されてきている。

「評価システム開発部門」の取り組みとしては、2001年度より専任・非常勤教員全員に授業アンケートの実施依頼を開始した。同年度春学期においては、専任が34.9%、非常勤34.8%という実施率であった。当時、実施そのものに対する疑義や、明確に協力を拒否するという声も寄せられていたが、その後も教員からの多様な意見をくみ取り、調査項目、方法、実施時期等について検討を繰り返してきた。その結果、2008年度春学期には、実施率が専任88.1%、非常勤79.3%にまでのぼり、その後も若干の増減はみられるものの、ほぼ定着してきたといえるであろう。

「学習システム開発部門」の取り組みとしては、文部省（現文部科学省）の委託事業として1999年度から実施が始まった「エル・ネット オープンカレッジ」の活用、2002年度からは携帯電話を活用したL-Support（Learning Support）システムが導入された。これは①出席管理、②授業評価、③用語集・公式集、④グループ掲示板、⑤質問掲示板、⑥アンケート調査・意識調査・小テストという6つの機能を駆使し、学生の主体的な授業への参加促進に一定の効果をもつものとなった。他方で、電波受信の環境整備上の課題、パケット料金等の学生負担問題等の課題が明らかとなり、本システムは2005年度末をもっ

て停止し、「佛教大学 e-Learning システム」へと移行することとなる。

○ 2005 年度以降の取り組み

2005 年度からは、それまでのいわば啓発的な活動から一步進めて、FD 活動の成果を構成員に還元することを主眼と据えることとなった。教授法開発室の運営体制も前年度までの 3 部門を改編し、新たに「科目関連部門」、「授業関連部門」、「情報関連部門」、「FD 部門」の 4 部門で展開することとなった。

「科目関連部門」においては、従前から取り組んできた「基礎学力調査」および「英語基礎力調査」を継続的に実施し、蓄積されたデータ分析をもとにカリキュラム、科目のあり方をめぐって検討してきている。

各年度のデータ分析は詳細に行い、2011 年度においては学内向けに調査結果の速報を意図した報告会を実施し、共通科目との連携、入門ゼミとの連携の可能性、および入試・キャリア等の部署との連携の必要性等について検討を行った。調査結果を当該学生にフィードバックし個別の学習計画に役立ててもらうことはもとより、学部・学科単位で結果を分析し、学生理解を深め、カリキュラム検討や授業方法等に活用できる工夫をしていくことが今後の課題となっている。

「授業関連部門」においては、授業アンケートの継続的实施と共に、その内容・方法・実施時期等についての検討も引き続き行われている。アンケートに答えた受講生に対する説明責任を果たすことを意図して、2010 年度から「中間アンケート」を試行的に導入している。授業アンケートが量的に処理されるのに対して、本アンケートは学生の具体的な要望を聞き取り、担当者が当該授業期間内に何らかの応答をしていくことを前提に導入されたものである。自由記述で書かれたその内容は、授業の進度に対する要望、板書や PPT 等の用い方、話し方等の授業に関わる技術的な要望、グループワーク等の授業運営についての要望、教室環境に関する要望等々多岐に及ぶ。当然、学生のすべての要望に応えられるわけではないが、改善可能なところは実践し、個々の教員の努力では改善が難しいクラス定員問題や教室環境等の問題については、その旨、受講生に説明する機会ともなる。少なくとも担当教員が指摘された内容について、どのように考えているのかを明らかにすることで、学生の不満感が軽減される効果もみられるようである。

また、2008 年度からは通信教育課程におけるスクーリング科目において試行的に授業アンケートに取り組んでいる。通信教育課程においては、受講生の授業に対する期待や要求も大きいため、対象科目の選定、アンケートシートの独自開発、アンケート方法の検討等々課題は山積しており、今後の大きな課題といえよう。

2005 年度から新たに取り組み始めたのが「授業公開」である。2005 年度秋学期には 5 名、2006 年度春・秋学期共に各 5 名、2007 年度春学期は 7 名、秋学期は 12 名、2008 年度は秋学期に 5 名の教員の協力を得て実施した。2006 年度春学期実施分については、ビデオ撮影を行い、同年 9 月に開催された教員研修会において編集したハイライト版を上映した。

公開授業数が増加するにもかかわらず、参観教員の数は伸びていなかった課題に対応するための方策であったが、通常の授業公開よりも多い参加者を得ることができた。また、2007 年度・2008 年度には、公開後に授業担当教員・参観教員を交えての研究会を行った。

多くの大学教員は授業方法を学ぶ経験、行っている授業についてアドバイスを受ける経験をほとんどしていないのが現状である。その意味で、授業方法・運営・内容等をめぐって率直に議論する場をもてたことは大変有意義であった。

2009年度の教員研修会では、2名の教員が担当する授業風景の映像を視聴し、担当者から授業概要・評価・工夫点等についてプレゼンテーションを行い、学外講師からコメントを得るという方式を採用した。事後のアンケートにおいて、参加者からは有意義であった旨の意見が多々寄せられたが、残念ながら必ずしも多くの参加者を得ることはできなかった為、2010年度以降は全学での「授業公開」の実施は見合わせ、学部・学科における相互参観等にきりかえながら、その有効なあり方をめぐって検討をしている。

「情報関連部門」においては、2006年度より「佛教大学 e-Learning」システムに移行し、e-Learning と FD 活動を結びつけるための取り組みが始まった。「佛教大学 e-Learning」システムにおいては、デジタルえんま帖（講義管理・課題提出確認・成績管理等）、フォーラム（学生相互の意見交流）、教材箱（教材提供・共有・管理）、お知らせ（情報提供）機能が活用できる。2006年度春学期において本システムの使用教員数は、わずか8名にとどまっていたが、2011年度春学期79名、秋学期73名と増加してきている。もちろん、FD活動の促進という意味では単にIT機器を活用することを奨励するのではなく、その活用を通じて授業改善されることにこそ意義がある。e-Learning システムの活用がいかに関業改善に結びついているのかについての検討を引き続き行っていくことが重要であろう。

4番目の「FD部門」では、2006年度より『FD Review』を刊行し、当該年度における本学FD活動の成果を学内外に向けて可視化していく取り組みがなされている。総括的な役割を果たす『FD Review』が創刊されたことにより、『教授法開発室だより』では活動の速報に重きがおかれるようになってきた。

このほか、入学前教育の本格的な取り組みが始まった。2003年度入試より特別推薦入試等の合格者を対象に実施されてきていたが、2007年度より①学部教育に対する理解の促進、②学習意欲の向上、③学習に対する意識付け、④学習への不安解消を目的として、レポート作成コースと授業体験コースの2コースを設けて実施を開始した。その後、種々検討の後に、2011年度入試よりその目的にリメディアル教育、入学前の学生間ネットワークの構築を加え、学力別に3プログラムを用意し、レポート作成と授業体験を組み合わせたプログラムを実施している。プログラムへの参加率も向上し、参加後のアンケート結果においても高い満足度が示されている。

また、2010年度より全学部・学科に設定されている「入門ゼミ1」を、全学共通シラバスのもと、初年次教育として位置づけた授業運営を開始した。この検証のために、初年度においては受講生を招いての研究会を、2011年度においては各学科の科目担当者および教務担当主任を招いた研究会を開催した。入学者の学力低下が議論される昨今、初年次教育の重要性はいうまでもないことであるが、この重要な科目にいかに関組み、どのような成果をあげていくのかについて丁寧な検討を行っていくことが引き続き求められているといえよう。

2011年度におけるFD研究会は、この初年次教育をめぐる課題以外に2回開催することができた。1回目は「黒板とパワーポイントの効果的な活用法」と題するもので、授業アンケートにおいて受講生からの改善要求が高かった黒板とPPTの活用をめぐり、学外講

師を招いて開催したものである。教員の関心が高いテーマでもあったため、学外にも開放したところ多くの参加希望が寄せられ、学内参加者とあわせて多くの参加者を得ることができ、講演後のディスカッションも非常に活発に行われた（詳細は『教授法開発室だより』vol.20を参照）。

第3回は「授業の基本と授業づくり」と題する講演とワークショップで、学外講師を招聘し、非常勤も含めて多くの参加者を得て成功裏に終了できた。授業の教材研究、授業計画からはじまり、板書や発声方法、机間巡視や発問の仕方などを学び、実際に授業計画を立ててみるといった内容で、あらためて授業の基礎を学び直し、ワークショップにおいてコンサルテーションを受ける機会ともなった。また、これは「研修会等参加支援」制度を活用して学外研修に参加した教員が企画したものであり、研修成果を学内にフィードバックさせるしくみとしても大変有効な取り組みとなったといえよう。

○むすびにかえて

以上、やや前後しながらも教授法開発室におけるこれまでの取り組みの変遷について時系列的にふりかえってきた。

2012年3月7日に開催された中央教育審議会大学分科会では、中長期的な大学教育のあり方について議論された。そこでは「学生が主体的な学びを深めるとともに、学生同士が切磋琢磨し、刺激を受け合いながら知的に成長することができるよう、課題解決型の能動的学修といった学生の思考や表現を引き出しその知性を鍛える双方向の授業を中心とした質の高い教育へと学士課程教育を質的に転換」することが強調されている。

それは、「学修時間の増加・確保による主体的な学びの確立」を始点に、「カリキュラムの体系化」、「教育方法の改善・成績評価の厳格化」、「教員の教育力の向上」、「学修成果の把握」と大学の「学位プログラム・学習支援環境の充実」が有機的にリンクした全学的な教学マネジメントの発揮によって実現されるものとして描かれている。当然、その前提には大学としての三つの方針（学位授与方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針）が位置づくものであり、大学組織全体の質的転換を意図的に取り組んでいくことが求められているといえるであろう。その意味で、本学が取り組むべき広義のFD活動は、教授法開発室の範疇に留まらず、更に大きな全学的枠組みの中で推進していくことが不可欠であろう。

教授法開発室発足当初から取り組んできた「授業アンケート」、「基礎学力調査」、「英語基礎力調査」は、学生の総合的把握、授業改善の方途を模索するために何らかの形で発展的に継続していく必要があるであろう。また、得られたデータをいかに共有し、活用していくのかをめぐり更に踏み込んだ検討が不可欠となる。

入学前教育のプログラムは比較的效果のあるものとして定着しつつあるが、これを初年次教育との関連性を明らかにしつつ、4年間を通じた学部・学科教育に連動させていくことが大きな課題となる。本学の入学者にふさわしいリメディアル教育のあり方と、個々の学生を主体的な学習者として育むための動機づけをいかに行っていくのかについて、継続した研究が必要となる。

また、e-Learningの活用方法をはじめ、教員のニーズに適応した講習会・研究会の開

催や授業方法の改善に向けた個別の支援体制をより充実化させていくことも課題であろう。

何より、2008 年度からの学士課程における FD 義務化以降の取り組みとしては、FD の必要性を説く段階は既に過ぎ、その実質化に向けた具体的な方策を検討し提示していくことが求められる。その根拠となるものとして、各 FD 活動の取り組みで得られたデータを総合的に把握し活用できるシステムとして IR の構築に向けて全学をあげた取り組みが待たれるところである。

これまで教授法開発室を中心に取り組んできた個々の FD 活動の関連性について再度検討を行い、あらためて佛教大学の三つの方針と照らし合わせて各学部・学科のカリキュラムの見直しを行いながら、学生に真摯に向き合い、共に学び合える環境を組織的に創造していく努力は、今後も地道に継続していかなければならないであろう。

2011 年度 英語基礎力調査 データと分析

教授法開発室員 松 本 真 治

1. はじめに

佛教大学では2004年度より、新1回生全員を対象にして、入学時（4月初め）と1回生終了時（1月末もしくは2月初め）にTOEIC Bridge IPテストを使用した英語基礎力調査を実施している。この調査によって本学1回生の英語力を把握し、正課もしくは課外における英語教育プログラムの改善に役立てることが可能となる。全学共通科目の必修科目「英語」（1回生：Intensive Reading 1/2、Integrated Communication Skills 1/2/3/4、2回生：Integrated Communication Skills 5/6）は、この調査によるTOEIC Bridge IPテストのスコアを用いた習熟度別クラス編成となっている。また、個人スコアは各受験者に返却され、それによって各自の英語力を客観的な尺度で把握することができ、1年間の学修によってどの程度英語力が上昇したかを知ることができる。

本稿では2011年度に実施した2回の英語基礎力調査の結果を報告するとともに、第1回と第2回の両方の試験を受験した学生のデータを抽出し、英語力の伸びを検討する。

2. 英語基礎力調査

2.1 TOEIC Bridge IP テスト

TOEIC Bridge テストはTOEIC テストよりも平易で、初級から中級レベルの英語力を測定するための英語テストである。分量的にもTOEIC テストの半分となっており、リスニング（25分・50問）とリーディング（35分・50問）の2つのセクションから構成されている。スコアは2点刻みで表示され、リスニング、リーディングの各セクションとも10点～90点、トータルスコア20点～180点となる。問題はすべて英語で書かれており、全問マークシート方式の客観テストとなっている。TOEIC テストよりも日常的で身近なコミュニケーション場面や素材が問題として取り上げられており、リスニングセクションの出題スピードはTOEIC テストよりも遅く、ネイティブスピーカーが注意深く話す際のスピードとなっている（TOEIC Bridge ホームページ参照）。

TOEIC Bridge と TOEIC テストとの相関性については、次の比較表がTOEIC Bridge ホームページ上で公開されている（2006年5月公開）。

TOEIC Bridge と TOEIC テストのスコア比較表

TOEIC Bridge	90	100	110	120	130	140	150	160
TOEIC	230	260	280	310	345	395	470	570

なお、TOEIC テストへの移行のガイドラインとされていたTOEIC Bridge のスコアが

160 点から 150 点に変更になっている（2007 年 8 月）。

IP [=Institutional Program] とは団体特別受験制度のことで、財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会の実施する公開テストではなく、実施団体（つまり今回の場合は本学）が独自に運営・管理する試験ということである。

2.2 基礎データ

◇ 2011 年度 第 1 回

実施日：2011 年 4 月 4 日（月）

対象者：全 1 回生

受験者数：1,553 人

◇ 2011 年度 第 2 回

実施日：2012 年 1 月 7 日（土）

対象者：全 1 回生

受験者数：1,315 人

◇ 学部・学科構成

仏教学部：仏教学科

文 学 部：日本文学科／中国学科／英米学科

歴史学部：歴史学科／歴史文化学科

教育学部：教育学科／臨床心理学科

社会学部：現代社会学科／公共政策学科

社会福祉学部：社会福祉学科

保健医療技術学部：理学療法学科／作業療法学科

【資料 1】2011 年度 TOEIC Bridge IP テスト〈全体〉スコア

	第 1 回			第 2 回		
	Total	Listening	Reading	Total	Listening	Reading
平均点	121.8	60.0	61.8	126.1	61.4	64.7
標準偏差	18.4	8.4	11.8	20.1	10.3	11.7
伸 び	—	—	—	4.3	1.4	2.9
最高点	168	86	88	174	88	88
最低点	40	22	18	36	18	12
受験者数	1,553	1,553	1,553	1,315	1,315	1,315
無効数	0	3	0	0	2	0
有効数	1,553	1,550	1,553	1,315	1,313	1,315

※無効数は未受験者（無回答＝0 点）を指す。

※平均点・標準偏差は受験者数を母数とする。

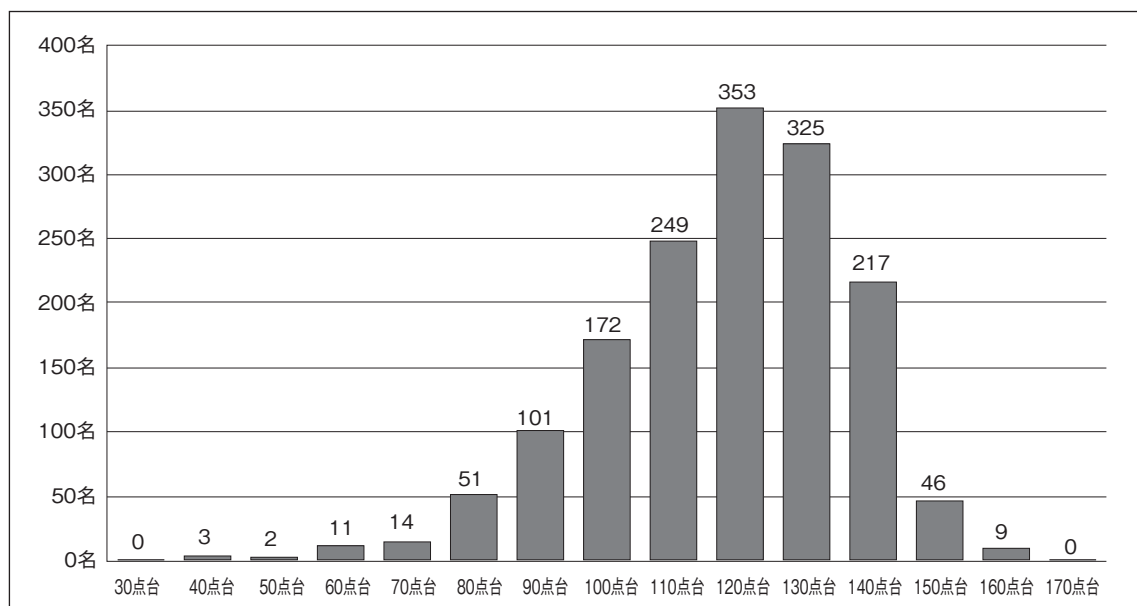
※最低点には 0 点を含まない。

【資料2】 2011 年度 TOEIC Bridge IP テスト 〈全体〉 スコア分布

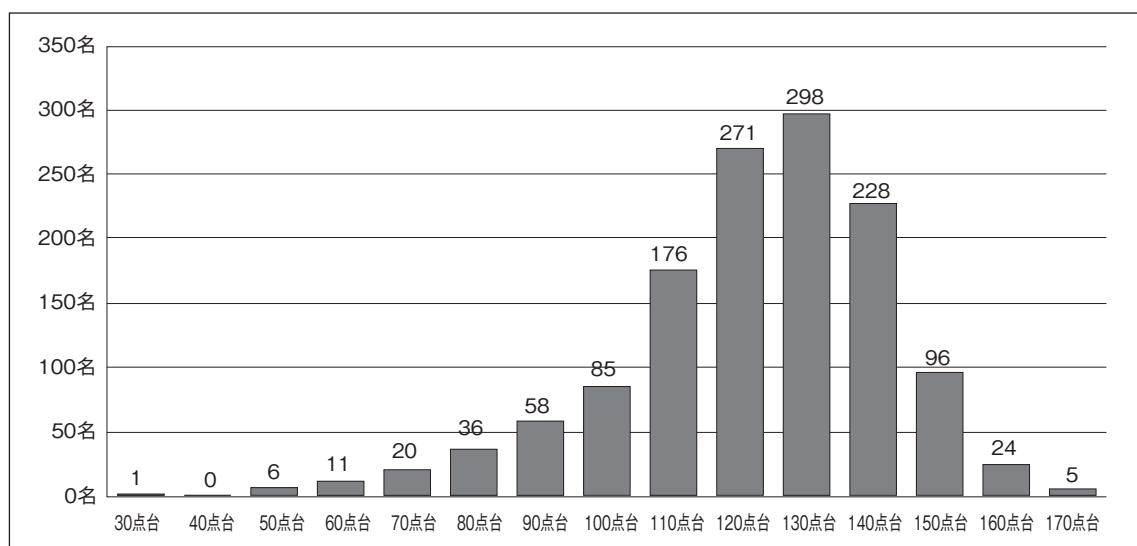
第 1 回															
30 点台	40 点台	50 点台	60 点台	70 点台	80 点台	90 点台	100 点台	110 点台	120 点台	130 点台	140 点台	150 点台	160 点台	170 点台	
0	3	2	11	14	51	101	172	249	353	325	217	46	9	0	
0.0%	0.2%	0.1%	0.7%	0.9%	3.3%	6.5%	11.1%	16.0%	22.7%	20.9%	14.0%	3.0%	0.6%	0.0%	
受験者 1553															
第 2 回															
30 点台	40 点台	50 点台	60 点台	70 点台	80 点台	90 点台	100 点台	110 点台	120 点台	130 点台	140 点台	150 点台	160 点台	170 点台	
1	0	6	11	20	36	58	85	176	271	298	228	96	24	5	
0.1%	0.0%	0.5%	0.8%	1.5%	2.7%	4.4%	6.5%	13.4%	20.6%	22.7%	17.3%	7.3%	1.8%	0.4%	
受験者 1315															

【資料2】

第 1 回 Total スコア分布



第 2 回 Total スコア分布



【資料3】第1回〈学科〉スコア

第1回 Total													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均点	106.3	121.5	115.3	130.8	121.3	118.3	130.3	132.5	118.7	116.2	120.1	137.7	123.4
標準偏差	18.3	17.5	19.8	17.7	18.8	15.4	16.2	16.1	16.9	17.4	16.9	15.3	18.7
最高点	144	158	156	168	154	150	160	166	148	152	162	166	154
最低点	56	52	72	46	74	80	68	86	64	68	40	100	68
受験者数	67	148	57	92	131	82	180	61	234	135	288	40	38
無効数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有効数	67	148	57	92	131	82	180	61	234	135	288	40	38

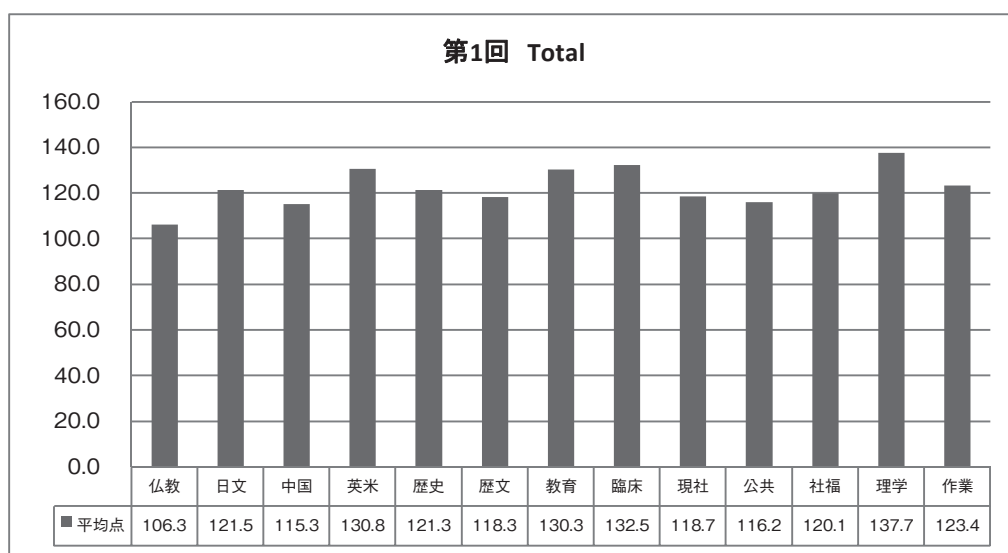
第1回 Listening													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均点	55.4	60.5	58.1	63.5	60.4	58.3	62.1	64.0	58.5	57.4	59.3	66.5	61.4
標準偏差	8.1	8.0	8.5	9.7	8.1	8.2	7.3	8.0	7.5	7.8	9.0	6.9	6.5
最高点	70	82	76	82	78	78	76	84	76	74	86	82	76
最低点	30	24	42	30	40	36	40	42	34	28	22	46	42
受験者数	67	148	57	92	131	82	180	61	234	135	288	40	38
無効数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0
有効数	67	148	57	91	131	82	180	61	234	135	286	40	38

第1回 Reading													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均点	50.9	61.0	57.2	67.4	60.9	60.0	68.2	68.5	60.2	58.7	60.8	71.2	62.0
標準偏差	11.8	11.2	12.3	9.8	12.3	9.1	10.8	9.4	11.5	11.4	10.5	9.7	13.9
最高点	76	82	80	86	84	78	88	84	82	84	84	86	84
最低点	18	26	30	40	28	36	28	38	24	24	18	46	26
受験者数	67	148	57	92	131	82	180	61	234	135	288	40	38
無効数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有効数	67	148	57	92	131	82	180	61	234	135	288	40	38

※無効数は未受験者（無回答＝0点）を指す。

※平均点・標準偏差は受験者数を母数とする。

※最低点には0点を含まない。



【資料 4】第 2 回〈学科〉スコア

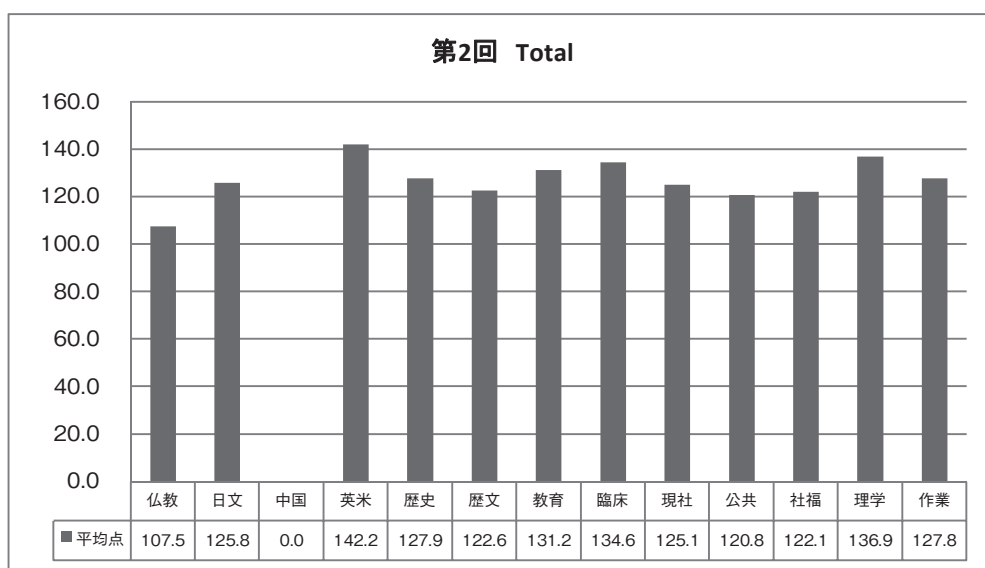
第 2 回 Total													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均点	107.5	125.8	—	142.2	127.9	122.6	131.2	134.6	125.1	120.8	122.1	136.9	127.8
標準偏差	21.6	18.5	—	14.1	15.8	16.3	19.5	18.7	18.0	20.2	19.7	23.4	20.6
伸 び	1.2	4.3	—	11.4	6.6	4.3	0.9	2.1	6.4	4.6	2.0	▲ 0.8	4.4
最高点	154	164	—	174	154	150	170	160	158	160	168	170	162
最低点	54	76	—	100	76	78	60	90	60	56	56	36	78
受験者数	58	114	0	82	96	57	163	58	209	124	281	40	33
無効数	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有効数	58	114	—	82	96	57	163	58	209	124	281	40	33
第 2 回 Listening													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均点	54.0	60.8	—	70.4	61.1	59.9	63.0	65.5	61.3	58.7	59.8	66.2	61.2
標準偏差	12.4	9.3	—	7.7	8.1	8.4	10.8	9.5	9.3	10.1	9.8	11.5	10.5
伸 び	▲ 1.4	0.3	—	6.9	0.7	1.6	0.9	1.5	2.8	1.3	0.5	▲ 0.3	▲ 0.2
最高点	74	80	—	88	80	76	88	86	80	78	86	86	80
最低点	18	34	—	56	34	34	28	46	26	28	28	24	34
受験者数	58	114	0	82	96	57	163	58	209	124	281	40	33
無効数	1	0	—	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
有効数	57	114	—	82	96	57	162	58	209	124	281	40	33
第 2 回 Reading													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均点	53.4	64.9	—	71.9	66.8	62.7	68.2	69.1	63.8	62.2	62.2	70.8	66.5
標準偏差	12.9	10.7	—	8.4	9.8	9.3	11.1	11.7	10.7	11.5	11.5	13.4	11.5
伸 び	2.5	3.9	—	4.5	5.9	2.7	0.0	0.6	3.6	3.5	1.4	▲ 0.4	4.5
最高点	80	84	—	86	84	84	88	86	84	84	84	84	84
最低点	12	36	—	44	38	40	26	36	26	28	22	12	40
受験者数	58	114	0	82	96	57	163	58	209	124	281	40	33
無効数	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有効数	58	114	—	82	96	57	163	58	209	124	281	40	33

※無効数は未受験者（無回答＝0点）を指す。

※平均点・標準偏差は受験者数を母数とする。

※最低点には0点を含まない。

※▲はマイナスを示す。



第1回（入学時）の全体のトータルスコアの平均点は121.8点であった。2006年度から2008年度の3年間は124点台が続いたが、それ以降は2009年度が121.8点、2010年度は120.5点であり、121点前後がこの3年間の傾向となっている。

第2回の全体のスコアを見ると、トータルスコア、リスニングセクション、リーディングセクションのいずれも第1回よりはスコアが上昇しているが、学科別に見てみると、仏教学科と作業療法学科がリスニングセクションにおいてスコアが下降し、理学療法学科ではトータル、リスニング、リーディングのいずれにおいてもスコアが下降したという結果になっている。成績の伸びに関しては、第1回と第2回の両方の試験を受験した学生のデータを抽出して、あらためて検討したい。

2.3 TOEIC Bridge 150 点以上

TOEIC Bridge 150 点に達すると TOEIC テストの受験を推奨されるレベルとなる。本学の英語プログラムの教学目標は、2年間の学修で TOEIC 500 点に到達することであるが、TOEIC Bridge では150 点が TOEIC 470 点に相当するので、そのスコアを超える人数を集計すると次のようになる。

【資料5】 TOEIC Bridge 150 点以上

第1回														
	全体	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
150点以上	55	0	3	3	10	4	1	11	8	0	1	4	8	2
	3.5%	0.0%	2.0%	5.3%	10.9%	3.1%	1.2%	6.1%	13.1%	0.0%	0.7%	1.4%	20.0%	5.3%
受験者数	1553	67	148	57	92	131	82	180	61	234	135	288	40	38
第2回														
	全体	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
150点以上	125	1	6	—	23	5	2	24	15	14	5	13	11	6
	9.5%	1.7%	5.3%	—	28.0%	5.2%	3.5%	14.7%	25.9%	6.7%	4.0%	4.6%	27.5%	18.2%
受験者数	1315	58	114	0	82	96	57	163	58	209	124	281	40	33

全体としては、第1回テストで TOEIC Bridge 150 点以上のスコアを超えたのは55人であったのが、第2回では125人と倍増している。学科単位では英米学科、臨床心理学科、理学療法学科が、第2回テストで各学科受験者の25%以上が150点以上のスコアに達している。過年度においては2009年度第2回目の129人（10.6%）というのが最高記録である。毎年、およそ受験者の10%程度が第2回で150点以上のスコアを出しており、その意味では2011年度に大きな変化が見られたというわけではない。今後は1回生終了時点での150点以上到達者の数が飛躍的に増加することを期待したい。

3. 対応のあるデータ

3.1 対応のあるデータ

1年間の英語学習の伸びをより正確に把握するために、第1回と第2回の両テストを受験した学生のデータ〈対応のあるデータ〉を抽出すると次のような結果となる。

【資料6】2011年度 TOEIC Bridge IP テスト〈対応のあるデータ／全体〉スコア

	第1回			第2回		
	Total	Listening	Reading	Total	Listening	Reading
平均点	123.1	60.5	62.6	126.3	61.5	64.7
標準偏差	17.6	7.8	11.6	19.8	9.9	11.6
最高点	168	86	88	174	88	88
最低点	40	22	18	36	18	12
対象者数	1,303					

※対象者は第1回、第2回とも Listening および Reading の両方を受験した者。

【資料7】〈対応のあるデータ／全体〉スコアの伸び

	Total	Listening	Reading
平均	3.1	1.0	2.1
標準偏差	14.2	8.3	9.1
最高	48	30	34
最低	▲ 88	▲ 42	▲ 48
対象者数	1,303		

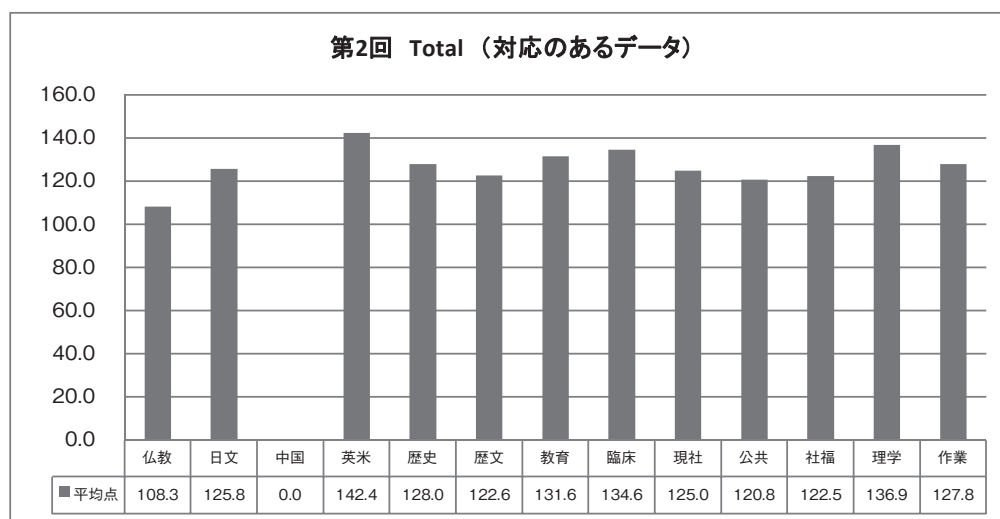
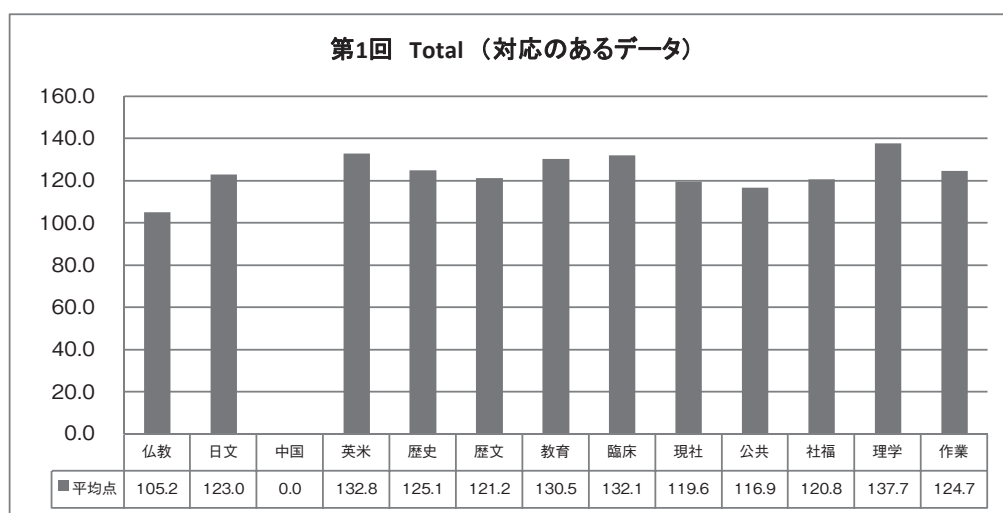
※▲はマイナスを示す。

【資料8】〈対応のあるデータ／学科〉第1回スコア

第1回 Total													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴文	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均点	105.2	123.0	—	132.8	125.1	121.2	130.5	132.1	119.6	116.9	120.8	137.7	124.7
標準偏差	18.0	16.2	—	12.9	17.9	13.8	16.4	16.2	16.8	17.3	15.9	15.3	17.1
最高点	144	158	—	168	154	150	160	166	148	152	162	166	154
最低点	56	66	—	104	82	86	68	86	64	68	40	100	90
第1回 Listening													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴文	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均点	55.4	61.1	—	64.6	61.7	59.5	62.1	63.7	58.8	57.8	59.8	66.5	61.8
標準偏差	8.3	7.3	—	5.7	8.0	7.1	7.4	8.0	7.5	7.5	7.6	6.9	5.8
最高点	70	82	—	82	78	76	76	84	76	74	86	82	76
最低点	30	40	—	54	40	44	40	42	34	28	22	46	50
第1回 Reading													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴文	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均点	49.8	61.9	—	68.2	63.3	61.7	68.4	68.3	60.8	59.1	61.0	71.2	62.8
標準偏差	11.4	10.6	—	8.6	11.5	8.6	10.9	9.6	11.5	11.6	10.4	9.7	13.2
最高点	76	82	—	86	84	78	88	84	82	84	84	86	84
最低点	18	26	—	48	40	42	28	38	24	24	18	46	38

【資料8】〈対応のあるデータ／学科〉第2回スコア

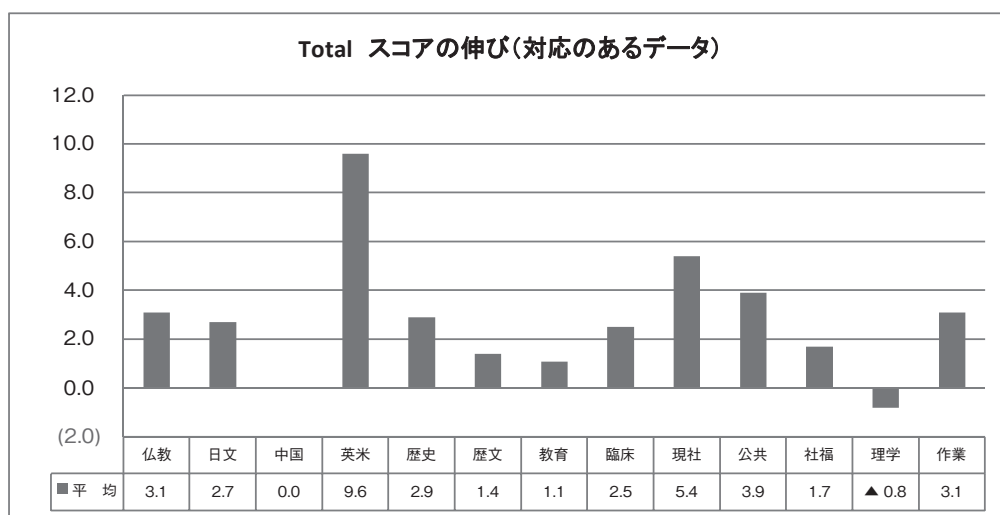
第2回 Total													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均点	108.3	125.8	—	142.4	128.0	122.6	131.6	134.6	125.0	120.8	122.5	136.9	127.8
標準偏差	21.2	18.5	—	13.2	15.8	16.3	18.8	18.7	18.0	20.2	19.2	23.4	20.6
最高点	154	164	—	174	154	150	170	160	158	160	168	170	162
最低点	54	76	—	112	76	78	60	90	60	56	56	36	78
第2回 Listening													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均点	55.0	60.8	—	70.3	61.2	59.9	63.4	65.5	61.2	58.7	60.1	66.2	61.2
標準偏差	10.3	9.3	—	7.4	8.1	8.4	9.6	9.5	9.2	10.1	9.6	11.5	10.5
最高点	74	80	—	88	80	76	88	86	80	78	86	86	80
最低点	18	34	—	56	34	34	28	46	26	28	28	24	34
第2回 Reading													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均点	53.2	64.9	—	72.1	66.9	62.7	68.2	69.1	63.8	62.2	62.4	70.8	66.5
標準偏差	13.0	10.7	—	7.8	9.8	9.3	11.1	11.7	10.7	11.5	11.4	13.4	11.5
最高点	80	84	—	86	84	84	88	86	84	84	84	84	84
最低点	12	36	—	54	38	40	26	36	26	28	22	12	40
対象者数	56	114	—	79	95	57	162	58	208	124	277	40	33



【資料9】〈対応のあるデータ／学科〉スコアの伸び

Total													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均	3.1	2.7	—	9.6	2.9	1.4	1.1	2.5	5.4	3.9	1.7	▲ 0.8	3.1
標準偏差	15.6	11.6	—	9.7	13.2	12.9	15.5	12.1	14.4	15.2	14.5	16.5	14.7
最高	34	26	—	44	44	24	48	42	40	38	48	22	36
最低	▲ 38	▲ 38	—	▲ 20	▲ 44	▲ 56	▲ 74	▲ 38	▲ 60	▲ 54	▲ 64	▲ 88	▲ 24
Listening													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均	▲ 0.3	▲ 0.3	—	5.8	▲ 0.6	0.4	1.3	1.8	2.4	0.8	0.3	▲ 0.4	▲ 0.6
標準偏差	10.5	6.7	—	5.5	7.8	7.8	8.4	7.3	8.2	9.2	8.3	9.2	9.1
最高	24	20	—	24	20	12	20	30	28	26	30	14	22
最低	▲ 38	▲ 18	—	▲ 10	▲ 30	▲ 32	▲ 36	▲ 14	▲ 34	▲ 30	▲ 32	▲ 42	▲ 22
Reading													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
平均	3.4	3.1	—	3.8	3.5	1.0	▲ 0.2	0.7	3.0	3.1	1.4	▲ 0.5	3.7
標準偏差	9.4	8.3	—	7.7	8.2	7.6	9.8	6.9	9.1	9.1	9.6	9.3	8.8
最高	22	26	—	28	26	20	30	14	30	34	24	14	22
最低	▲ 22	▲ 22	—	▲ 14	▲ 18	▲ 24	▲ 48	▲ 24	▲ 40	▲ 26	▲ 38	▲ 46	▲ 12
対象者数	56	114	—	79	95	57	162	58	208	124	277	40	33

※▲はマイナスを示す。



全体としては、トータルスコア、リスニングセクション、リーディングセクションのスコアの伸びが認められるが、学科単位で見るとそうではない。理学療法学科はトータルスコア、リスニングセクション、リーディングセクションでスコアの下降が見られる。仏教学科、日本文学科、歴史学科、作業療法学科はリスニングセクションにおいて、教育学科はリーディングセクションにおいてスコアの下降が見られる。

個々の学生レベルでは、教育学科と社会福祉学科で48点もトータルスコアを伸ばした学生がいる一方で、英米学科と作業療法学科以外の学科において、38点から88点と大きくスコアを落とした学生が見られる。大きなスコア下降の原因は特定できないが、真面目にテストを受けた結果として下降したのであれば、英語プログラムのあり方が問われることになる。今後は、大きくスコアを落とした学生と面談をし、その原因を明らかにした

上で解決策を検討するというようなことも考えるべきではなかろうか。

3.2 スコアの有意な伸び：英語力の伸び

個人レベルでの英語力の伸びを判断するための一つの基準となるのが、スコアの有意な伸びである。TOEIC Bridge テストでは、トータルスコアで 10 点以上、リスニング、リーディングの各セクションでは 6 点以上の伸びで有意な伸びとされる（TOEIC Bridge Newsletter, No.9 [August 2006]）。

【資料 10】〈対応のあるデータ／全体〉スコアの有意な伸び

	Total	Listening	Reading
有意な伸び	417 32.0%	384 29.5%	466 35.8%
対象者数	1,303		

【資料 11】〈対応のあるデータ／学科〉スコアの有意な伸び

Total													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
有意な伸び	20 35.7%	36 31.6%	— —	40 50.6%	27 28.4%	14 24.6%	37 22.8%	14 24.1%	82 39.4%	44 35.5%	85 30.7%	9 22.5%	9 27.3%
Listening													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
有意な伸び	15 26.8%	22 19.3%	— —	45 57.0%	17 17.9%	15 26.3%	53 32.7%	14 24.1%	77 37.0%	36 29.0%	73 26.4%	8 20.0%	9 27.3%
Reading													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
有意な伸び	24 42.9%	47 41.2%	— —	28 35.4%	39 41.1%	15 26.3%	42 25.9%	14 24.1%	88 42.3%	48 38.7%	102 36.8%	9 22.5%	10 30.3%
対象者数	56	114	—	79	95	57	162	58	208	124	277	40	33

全体としては 30% 程度の学生が有意な伸びを示している。学科別では、当然のことながら英米学科の学生の 50% 程度が有意な伸びを見せており、仏教学科、現代社会学科、公共政策学科の 3 学科が全体の平均よりも高い割合を示している。学科の傾向としては、英米学科と教育学科はリーディングセクションよりもリスニングセクションにおいて、より多くの学生が有意な伸びを見せているが、歴史文化学科と臨床心理学科を除く残りの学科はリーディングセクションの方でより多くの学生が有意な伸びを見せている。

有意な伸びを示した学生の、入学時（第 1 回）のトータルスコアの分布は以下の通りである。

【資料 12】〈有意な伸びを示した集団／全体〉第 1 回のスコア分布

40 点台	50 点台	60 点台	70 点台	80 点台	90 点台	100 点台	110 点台	120 点台	130 点台	140 点台	150 点台
1 0.2%	0 0.0%	7 1.7%	9 2.2%	16 3.8%	39 9.4%	60 14.4%	83 19.9%	98 23.5%	66 15.8%	31 7.4%	7 1.7%
対象者 417											

【資料 13】各得点層における有意な伸びを示した集団の割合

	40 点台	50 点台	60 点台	70 点台	80 点台	90 点台	100 点台	110 点台	120 点台	130 点台	140 点台	150 点台
母集団	3	2	11	14	51	101	172	249	353	325	217	46
有意な 伸び	1 33.3%	0 0.0%	7 63.6%	9 64.3%	16 31.4%	39 38.6%	60 34.9%	83 33.3%	98 27.8%	66 20.3%	31 14.3%	7 15.2%

有意な伸びを示した集団は、第 1 回のトータルスコアが 90 点台から 140 点台にほぼ集中している。各得点層の母集団と有意な伸びを示した集団を比較してみると、90 点台では 38.6%が有意な伸びを示したが、140 点台では 14.3%となっており、高得点層になるにつれて、有意な伸びを示した集団の割合が低くなっている。120 点台、130 点台でもその割合は 30%を切っており、120 点台以上の層のさらなる引き上げが重要であろうと思われる。

4. アンケート

4.1 アンケート結果

英語基礎力調査では、TOEIC Bridge テストのみならず、英語学習に関する意識・実態調査も同時に行っている。技術的な制約により複数回答が不可となっているため、複数の回答が考えられる設問であっても、回答は 1 つに限定されている。

【資料 13】英語基礎力調査アンケート

I あなたは英語力を伸ばしたいですか。

もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	自分の英語力に満足ではないが伸ばしたいと思わない
第 1 回 (有効回答数 1,544)				
519 33.6%	418 27.1%	509 33.0%	16 1.0%	82 5.3%
第 2 回 (有効回答数 1,227)				
439 35.8%	326 26.6%	371 30.2%	22 1.8%	69 5.6%

II 次のような英語教育への取り組みのうち、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください。

習熟度別 (プレイスメントテ ストによる学力別) のクラス編成	TOEIC や英検等の 資格試験対策	CALL (パソコンを使った 自学自習システム)	15 人程度の 少人数クラス編成	外国人教員による 英語のみを使用する 授業	英米の文学や 文化を通して英語を 学ぶ授業
第 1 回 (有効回答数 1,543)					
325 21.1%	357 23.1%	60 3.9%	355 23.0%	137 8.9%	309 20.0%
第 2 回 (有効回答数 1,228)					
228 18.6%	284 23.1%	57 4.6%	263 21.4%	114 9.3%	282 23.0%

Ⅲ 英語の授業を受ける際、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください。

クラスメイトとの良好な関係	教室内の自由でリラックスした雰囲気	学習者に興味のある内容を扱うこと	教師と学習者の良好な関係	教師がなるべく多く英語でやりとりする機会をつくること	学習者に自信を持たせるよう教師が気を配ること	学習者の自主性を育てること	教師の個性や熱意	社会が英語学習の価値を高く評価していること
第1回 (有効回答数 1,544)								
350 22.7%	321 20.8%	349 22.6%	236 15.3%	107 6.9%	57 3.7%	54 3.5%	50 3.2%	20 1.3%
第2回 (有効回答数 1,226)								
275 22.4%	230 18.8%	296 24.1%	202 16.5%	64 5.2%	43 3.5%	50 4.1%	46 3.8%	20 1.6%

Ⅳ あなたが自分に最も必要だと思う英語のスキルを次から選んでください。

リスニング	スピーキング	ライティング	リーディング	語彙	文法
第1回 (有効回答数 1,540)					
285 18.5%	637 41.4%	78 5.1%	159 10.3%	202 13.1%	179 11.6%
第2回 (有効回答数 1,224)					
334 27.3%	499 40.8%	53 4.3%	100 8.2%	132 10.8%	106 8.7%

Ⅴ 次のうちあなたが英語を学習する理由として最も大きなものを選んでください。

自分とは異なる文化圏の人々と友達になりたいから	外国へ旅行したいから	英米文化に興味があるから	教養として英語は大切だから	将来の就職や留学のため	国際社会の中で国際的な視野を持つ働くため	英米の音楽に興味があるから	なんとなく必要性を感じるから	さまざまな情報を得るための手段として必要だから
第1回 (有効回答数 1,542)								
104 6.7%	193 12.5%	430 27.9%	61 4.0%	279 18.1%	119 7.7%	35 2.3%	229 14.9%	92 6.0%
第2回 (有効回答数 1,222)								
57 4.7%	191 15.6%	44 3.6%	359 29.4%	248 20.3%	74 6.1%	29 2.4%	140 11.5%	80 6.5%

Ⅵ あなたは授業時間以外で週に何時間くらい英語の勉強をしていますか。

全くしていない	30分未満	30分～1時間未満	1時間～1時間30分未満	1時間30分～2時間未満	2時間～2時間30分未満	2時間30分～3時間未満	3時間以上
第1回 (有効回答数 1,542)							
867 56.2%	214 13.9%	172 11.2%	192 12.5%	35 2.3%	17 1.1%	24 1.6%	21 1.4%
第2回 (有効回答数 1,223)							
462 37.8%	230 18.8%	196 16.0%	218 17.8%	57 4.7%	20 1.6%	28 2.3%	12 1.0%

4.2 英語学習に関する意識・実態

設問Ⅰ「あなたは英語力を伸ばしたいですか」に対しては、9割以上の学生が英語力を伸ばしたいと考えており、これは第1回、第2回でも変わることがない。

設問Ⅲ「英語の授業を受ける際、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください」であるが、「クラスメイトとの良好な関係」は直接英語の授業とは関係のないものである。しかしながら、22.7%、22.4%の学生がこの選択肢を選んでいる。1回生は週に3回の英語の授業を受講することになっているが、3回とも同じメンバーのクラス編成となっており、クラスメイトとの良好な関係を築くとい

う点では少なからぬ貢献をしていると言ってもよいのではなかろうか。

設問Ⅳ「あなたが自分に最も必要だと思う英語のスキルを次から選んでください」では、40%以上の学生がスピーキングであると回答している。本学の英語プログラムではコミュニケーション力養成を軸に、できる限り最低1科目はネイティブスピーカーの授業を受講できるようにクラス編成を行っている。ただ、残念なことにTOEICテストではスピーキング力を直接測定することができないので、学生の望むスピーキング力の上達も何らかの形で測定することができれば望ましいであろう。

設問Ⅴ「あなたは授業時間以外で週に何時間くらい英語の勉強をしていますか」であるが、文字通りに受け取ると、90%の学生が週に1時間30分未満の英語学習しかしていないことになる。1回生は英語の授業を週に3回受講しているわけであるから、それぞれの予習・復習を考えるなら3時間以上の勉強時間があっても不思議ではないと思われる。ただこれは学生側の問題だけではなく、授業担当者が相応の課題を課せていないということも考えられるであろう。

5. おわりに

今回の調査結果から判断して提言したいのは、以下のことである。

- ◇1回生終了段階でTOEIC Bridge 150点以上到達の学生数を増やすこと。
- ◇そのためにも、入学時に120点以上の学生の引き上げに取り組むこと。トータルスコアで10点以上の伸びが有意であるなら、140点台の学生全員を150点台に引き上げなければ、有意な伸びとはならない。
- ◇授業時間以外での英語学習時間を最低でも週3時間となるように、授業担当者は適切な課題を受講生に与えること。

90%の学生が英語力を伸ばしたいと考えているのであるから、その思いを実現させるべく、英語教員が学生の期待に応えることのできる授業づくりをしていかなければならないであろう。

基礎学力調査の結果報告

——新入生の学力差の現状と初年次教育の課題——

社会学部現代社会学科 近 藤 敏 夫

1 調査の概要

本学では2000年度の新入生より基礎学力調査を実施している。2011年度はその12回目にあたる。調査に使用した試験問題は民間業者作成のものである。2008年度まではA社とB社の就職対策用問題を使用し、対象者は新入生と新3回生である。2009年度からはC社の「学習力調査」(国語40分：現代文のみ)と「新入生アンケート」(学習実態調査15分)を併用することとし、対象者は新入生のみである。

調査は春学期オリエンテーション期間(2011年4月4日)に実施し、新入生1,569人のうち受験者1,556人(99.1%)、有効回答を1,555票(99.1%)とした。

「学習力調査」の科目に国語が選ばれた理由は、国語(現代文)が大学の学習に必要とされる基礎学力であるとみなされるからである。国語試験の内容は、「語彙・表現」、「論理的文章読解」、「情緒的文章読解」の3つの領域に分かれている。他方、「新入生アンケート(学習実態調査)」では、大学志望理由、高校時代の学習習慣、大学入学後の目標等について尋ねている。調査結果は学生個人に郵送され、全国レベルの評価と佛教大学内の評価が記載されている。

以下、「学習力調査」(国語)と「新入生アンケート(学習実態調査)」を分析し、新入生の学力差について、その実態を紹介する。

2 国語の学力

本学の新入生の半数が大学の学習に支障をきたすレベル

図表1はC社が定めている国語の学力の評価基準である。評価基準はC社の大学受験用模擬試験(毎年約40万人が受験)を参考にして定められている。この基準は6段階に分かれており、AランクとBランクが大学の学習に支障のない学力である。C+以下のランクでは大学の学習に何らかの支障があるとされる。

図表 1 国語の学力の評価基準

評価	評価の意味
A	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法は習得できている。 大学での講義やテキストの読み込み・理解など、問題ないレベルである。
B	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法は概ね習得できている。 大学での講義やテキストの読み込みなどには、ついていけるレベルである。
C+	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法はおおよそ習得できているが、大学でのテキストの読み込み・講義の理解などには若干の支障を来す可能性がある。
C-	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法はある程度習得できているが、大学での講義や与えられたテキストの内容理解には支障を来す恐れがあり、何らかの補習が必要である。
D+	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法の習得に問題が見られ、大学での講義や一般書・新聞等の内容理解がままならないと思われる。学生の学習理解の状況を調査する必要がある。
D-	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法が習得できておらず、大学での講義のみならず、一般書や新聞等の読み取りもままならないと思われる。しっかりとしたフォローが必要。

図表 2 は国語の学力である。新入生全体の平均点は 52.6 である。学科別の平均点は「臨床心理」(59.1)、「日本文学」(57.9)、「歴史」(57.7)、「教育」(56.6)、「歴史文化」(56.4)の順に高かった。2010 年度の傾向をみても(『FD Review vol.6』参照)、高得点は教育学部、歴史学部、文学部の「日本文学科」であった。文学部は学科による得点差が大きい。なお、国語(現代文)の問題は 2009 年度以降、全く同一の設問から構成されているため、年度による比較が可能である。

図表 2 の評価で A (大学の学習に問題がないと考えられるレベル) をみると、大学全体で A 評価の学生は 15.9% にしか過ぎない。学科別では、「臨床心理」(30.5%)、「日本文学」(25.0%)、「歴史文化」(25.0%) が上位の学科である。しかし、それらの学科でも大学の学習に問題がないと考えられる学生は、3 割程度ないしそれ以下である。

また、評価の A と B の合計(大学の学習についてくることができると考えられるレベル)をみると、全体では 50.5% (2010 年度: 46.2%、2009 年度: 49.5%) である。つまり、本

図表 2 国語得点(学科別)

		平均点	評価						A と B の合計
			A	B	C+	C-	D+	D-	
学科	仏教（ 69 人）	44.6	5.8%	26.1%	20.3%	31.9%	5.8%	10.1%	31.9%
	日文（148 人）	57.9	25.0%	39.2%	18.9%	10.8%	4.7%	1.4%	64.2%
	中国（ 56 人）	44.8	3.6%	32.1%	16.1%	25.0%	14.3%	8.9%	35.7%
	英米（ 92 人）	45.9	7.6%	27.2%	16.3%	28.3%	15.2%	5.4%	34.8%
	歴史（133 人）	57.7	21.1%	44.4%	19.5%	9.0%	3.0%	3.0%	65.4%
	歴史（ 88 人）	56.4	25.0%	31.3%	21.3%	18.8%	1.3%	2.5%	56.3%
	教育（181 人）	56.6	22.7%	36.5%	19.9%	12.7%	7.2%	1.1%	59.1%
	臨床（ 59 人）	59.1	30.5%	39.0%	15.3%	10.2%	1.7%	3.4%	69.5%
	現社（236 人）	52.7	12.7%	39.4%	19.5%	19.9%	6.8%	1.7%	52.1%
	公共（135 人）	49.4	10.4%	31.9%	19.3%	27.4%	7.4%	3.7%	42.2%
	社福（288 人）	49.1	10.4%	29.2%	21.2%	27.4%	7.6%	4.2%	39.6%
	理学（ 40 人）	55.8	20.0%	35.0%	30.0%	7.5%	5.0%	2.5%	55.0%
	作業（ 38 人）	54.9	21.1%	31.6%	26.3%	13.2%	5.3%	2.6%	52.6%
全体（1,555 人）		52.6	15.9%	34.6%	19.9%	19.6%	6.7%	3.3%	50.5%

※ 網掛けは上位 3 学科

※ 図表の数値を合計したとき合計数値の小数点第 1 位が 0.1 ずれて記載されることがある。これは小数点第 2 位以下が四捨五入されて表記されるためである。以下同様。

学の新入生の半数は大学の学習についてくることができるが、残りの半数は大学の学習に支障をきたすレベルであるとみなせる。

学科別に A と B の合計をみると、50%を超える学科は、「臨床」(69.5%)、「歴史」(65.4%)、「日本文学」(64.2%)、「教育」(59.1%)、「歴史文化」(56.3%)、「理学療法」(55.0%)、「作業療法」(52.6%)、「現代社会」(52.1%) の 8 学科である。その他の学科では半数以上の学生が大学の学習に何らかの支障があると考えられる。

入試種別の学力差が大きい

図表 3 で、入試種別の平均点をみると、「センター後期」(63.2)、「センター前期」(62.2)、「A 日程」(55.5) の順に高い。その他の入試種別の順位も、「法人系列校」を除けば 2010 年度の基礎学力調査とほぼ同様の結果であった(『FD Review vol.6』を参照)。

評価欄をみると入試種別の差が大きいことが分る。A 評価でみると「センター後期」(35.2%)、「センター前期」(26.3%)、「A 日程」(20.7%) の順に高かった。他方、「法人系列校」、「スポーツ強化枠」、「課外活動」では A 評価の学生がいなかった。評価の A と B の合計が 50%を超える入試種別は、「センター後期」(75.9%)、「センター前期」(73.7%)、「A 日程」(58.0%)、「B 日程」(55.7%)、「公募制推薦」(50.4%) であった。

ここで便宜的に 13 種別の入試を 3 つのグループに分けて、その特徴をみることにする(ただし、留学生等の入試種別は人数が少ないため除外した)。

個性重視型は「AO 選抜」、「スポーツ強化枠」、「課外活動」、「宗門後継者」、「法人系列校」の 5 つであり、学力以外の基準を重視して本学に入学を許可された学生である。

関係重視型は「指定校推薦」、「教育連携校」、「同窓推薦」の 3 つであり、学力をある程度重視はするが入試の条件として本学と何らかの関係のある学生が受験できる種別である。

学力重視型は「公募制推薦」、「A 日程」、「B 日程」、「センター前期」、「センター後期」の 5 つであり、学力試験の成績で入学を許可された学生である(ただし、公募制推薦合格者のなかには高校の学業成績が加味される者もいる)。

図表 3 の網掛けは平均点または各評価の上位 3 位を示している。個性重視型は平均点が 33.0 から 43.1 であり、評価は C+ から D- の学生が多い。A と B の合計(大学の学習についてくることができるレベル)が 10.3%から 22.2%である。つまり個性重視型の学生の 8 割から 9 割が大学の学習に支障をきたしていると考えられる。

関係重視型は平均点が 43.7 から 47.6 であり、A と B の合計が 25.8%から 35.8%である。つまり、3 割前後の学生が大学の学習についてくことができ、7 割前後の学生が大学の学習に支障があると考えられる。

学力重視型は平均点が 52.9 から 63.2 であり、A と B の合計は 50.4%から 75.9%である。センター試験利用者は 75%前後の学生が大学の学習についてくことができると考えられる。本学作成の学力試験の成績で選抜された学生は 5 割から 6 割が大学の学習についてくことができると考えられる。

図表3 国語の学力（入試種別）

入試種別		平均点	評価						AとBの合計
			A	B	C+	C-	D+	D-	
個性重視型	法人系列校（29人）	33.0	0.0%	10.3%	10.3%	31.0%	17.2%	31.0%	10.3%
	スポーツ強化枠（16人）	37.4	0.0%	12.5%	18.8%	31.3%	25.0%	12.5%	12.5%
	課外活動（18人）	39.2	0.0%	22.2%	11.1%	33.3%	27.8%	5.6%	22.2%
	宗門後継者（20人）	40.5	5.0%	15.0%	30.0%	25.0%	10.0%	15.0%	20.0%
	AO選抜（26人）	43.1	3.8%	11.5%	38.5%	30.8%	11.5%	3.8%	15.4%
関係重視型	指定校推薦（93人）	43.7	7.5%	18.3%	16.1%	32.3%	14.0%	11.8%	25.8%
	教育連携校（21人）	47.1	14.3%	23.8%	19.0%	19.0%	19.0%	4.8%	38.1%
	同窓推薦（34人）	47.6	8.8%	26.5%	17.6%	35.3%	8.8%	2.9%	35.3%
学力重視型	公募制推薦（456人）	52.9	14.0%	36.4%	22.4%	20.0%	5.7%	1.5%	50.4%
	B日程（219人）	54.2	14.2%	41.6%	22.4%	15.5%	4.6%	1.8%	55.7%
	A日程（545人）	55.5	20.7%	37.2%	17.8%	17.6%	4.8%	1.8%	58.0%
	センター前期（19人）	62.2	26.3%	47.4%	21.1%	5.3%	0.0%	0.0%	73.7%
	センター後期（54人）	63.2	35.2%	40.7%	13.0%	7.4%	1.9%	1.9%	75.9%
全体（1,555人）		52.6	15.9%	34.6%	19.9%	19.6%	6.7%	3.3%	50.5%

※ 網掛けは項目別の上位3入試種別

図表4は、国語の問題で「語彙・基礎表現」、「論理的文章読解」、「情緒的文章読解」の3つの領域の得点率をみたものである。全体でみると、「語彙・基礎表現」（69.4%）、「論理的文章読解」（51.3%）、「情緒的文章読解」（39.7%）の順である。3つの領域とも学力重視型、関係重視型、個性重視型の順に得点率が高いことが分る。とくに大学の学習に必要と思われる「論理的文章読解」では学力重視型（51.3%）と個性重視型（31.9%）の間に20ポイント以上の大きな差がある。

図表4 国語の分野別平均得点率（単位%）

	語彙・基礎表現	論理的文章読解	情緒的文章読解
個性重視型	56.3	31.9	29.7
関係重視型	62.0	43.0	32.7
学力重視型	71.4	53.9	41.4
全体	69.4	51.3	39.7

個性重視型は入学の条件として学力が重視されておらず、法人系列校を除けば入学年度前の12月までに入学が決定している学生である。そのため、受験勉強をする必要がなかった学生である。個性重視型の学生には学習習慣と基礎学力を身につけてもらう必要があるとの判断から、入学前教育で国語（現代文）の問題を課している（ただし、法人系列校の学生は合格時期が遅れるため国語の問題を課してはいない）。

入学前教育の効果を上げるためには、早期に入学が決定する個性重視型の学生と関係重視型の学生に対して、大学の学習についてくることができるよう手厚い教育が必要になるだろう（入試グループ別の分析は『FD Review vol.6』を参照）。現在実施している入学前教育の効果を検証し、今後の対策を立てる必要がある。

ただし、入学後の初年次教育に関しては事情が異なる。入試種別による学力差は平均値の違いであり、それぞれの入試種別のなかに高得点の者と低得点の者がいる。初年次教育では、入試種別ではなく、個人の学力に応じた教育を実施する必要がある。前節でみたよ

うに、本学の新入生の半数は大学の学習についてくることができないと考えられる。学生に予習や復習といった個人的努力を促すだけでは不十分である。通常の授業に加えて何らかの教育・学習支援体制を整えることが必要だろう。

以下、新入生の学力差による学習態度についてみてみよう。

3 学力差による学習態度の違い

新入生に今後、どのような活動にどの程度力を入れたいかを尋ねてみた。図表5をみると、「専門的な勉強」に「とても力を入れたいと思う」と回答した学生は、学力評価がA（81.0%）とB（76.2%）の学生に8割前後と多い。学力評価がD+（58.7%）とD-（59.6%）の学生は6割程度に減少する。学力差によって専門的な勉強への学習意欲に違いがみられる。

図表6で「幅広い教養を身につける」に「とても力を入れたいと思う」と回答した学生は、学力評価がA（60.7%）の学生に6割と多く、D+（40.4%）とD-（44.2%）の学生が4割から4割5分と少ない。

図表7で「論理的思考力を身につける」に「とても力を入れたいと思う」と回答した学生は、学力評価がA（43.7%）とB（38.3%）の学生に4割前後と多く、D-（25.0%）の学生が2割5分と少ない。

図表8で「文章作成能力を身につける」に「とても力を入れたいと思う」と回答した学生は、学力評価がA（56.7%）の学生で6割弱、B（48.1%）の学生で5割弱と多く、D+（41.3%）とD-（40.4%）の学生が4割と少ない。

図表9は、大学の授業でどちらがよいかを尋ねたものである。「あまり興味がなくても、単位を楽に取れる授業がよい」か「単位を取るのが難しくても、自分の興味のある授業がよい」という質問に対して、「興味のある授業」と答えた学生は、学力評価がA（87.0%）の学生に9割近くと多く、D-（57.7%）の学生が6割弱と少ない。

以上から、新入生の学習態度は学力差によって違いがあることが分る。学力評価の高い学生は「専門的な勉強」に力を入れ、「幅広い教養」を身につけたいと思う割合が高く、また、「論理的思考力」や「文章作成能力」を身につけたいと思う割合も高い。大学に期待する授業も「単位を取るのが難しくても、自分の興味のある授業がよい」と回答する学生が多い。他方、学力評価の低い学生は、学習態度があまりよくない。

図表5 専門的な勉強への学習意欲

		専門的な勉強				合計
		まったく 力を入れようと 思わない	あまり 力を入れようと 思わない	やや 力を入れたいと 思う	とても 力を入れたいと 思う	
評価	A		0.4%	18.6%	81.0%	100.0%
	B	0.2%	2.2%	21.4%	76.2%	100.0%
	C+		2.3%	23.3%	74.4%	100.0%
	C-	0.3%	2.0%	21.5%	76.2%	100.0%
	D+		2.9%	38.5%	58.7%	100.0%
	D-		7.7%	32.7%	59.6%	100.0%
全体		0.1%	2.1%	22.9%	74.9%	100.0%

図表6 幅広い教養を身につける

		幅広い教養				合計
		まったく 力を入れよう と思わない	あまり 力を入れよう と思わない	やや 力を入れたい と思う	とても 力を入れたい と思う	
評価	A	0.8%	4.9%	33.6%	60.7%	100.0%
	B	0.2%	6.3%	40.5%	53.0%	100.0%
	C+	0.3%	5.5%	40.1%	54.0%	100.0%
	C-	0.3%	6.2%	45.2%	48.2%	100.0%
	D+		10.6%	48.1%	40.4%	100.0%
	D-		15.4%	40.4%	44.2%	100.0%
全体		0.4%	6.5%	40.8%	52.3%	100.0%

図表7 論理的思考力を身につける

		論理的思考力				合計
		まったく 力を入れよう と思わない	あまり 力を入れよう と思わない	やや 力を入れたい と思う	とても 力を入れたい と思う	
評価	A	0.4%	6.5%	49.4%	43.7%	100.0%
	B	0.4%	11.9%	49.4%	38.3%	100.0%
	C+	1.0%	12.6%	51.5%	35.0%	100.0%
	C-	0.7%	17.4%	52.8%	29.2%	100.0%
	D+		13.5%	51.9%	34.6%	100.0%
	D-		17.3%	57.7%	25.0%	100.0%
全体		17.2%	34.4%	34.8%	13.6%	100.0%

図表8 文章作成能力を身につける

		文章作成能力				合計
		まったく 力を入れよう と思わない	あまり 力を入れよう と思わない	やや 力を入れたい と思う	とても 力を入れたい と思う	
評価	A	0.4%	3.2%	39.7%	56.7%	100.0%
	B		6.3%	45.5%	48.1%	100.0%
	C+	1.0%	7.8%	47.6%	43.7%	100.0%
	C-	0.7%	10.2%	44.9%	44.3%	100.0%
	D+		10.6%	48.1%	41.3%	100.0%
	D-		13.5%	46.2%	40.4%	100.0%
全体		0.4%	7.4%	45.1%	47.1%	100.0%

図表9 楽な授業と興味のある授業

		どちらの授業がよいか		合計
		楽な授業	興味のある授業	
評価	A	13.0%	87.0%	100.0%
	B	21.2%	78.8%	100.0%
	C+	19.7%	80.3%	100.0%
	C-	25.2%	74.8%	100.0%
	D+	35.6%	64.4%	100.0%
	D-	42.3%	57.7%	100.0%
全体		22.1%	77.9%	100.0%

4 高校時代の学習習慣

高校時代（特に高校3年生）の学習習慣について尋ねたところ、「予習をした」、「復習をした」、「板書をノートにとった」、「先生に質問・相談に行った」、「宿題・課題をきちんとやった」については学力の違いによって差があまりなかった。学力の違いによる差がみられたのは以下の4つの学習習慣である。

図表 10 で「板書以外もノートにとった」をみると、「よくした」と回答した学生は、学力評価が A（26.3％）と B（24.5％）の学生に多く、「まあした」と合計すると A 評価の学生は 67.6％、B 評価の学生は 64.3％の学生が「板書以外もノートにとった」と回答している。他方、「まったくしなかった」と回答した学生は、D+（21.2％）と D-（21.2％）の学生に多かった。大学では高校のように教員が丁寧な板書をするとは限らないため、「板書以外もノートにとる」という学習習慣は大学の学習には必要である。ノートの取り方を指導することが課題になるだろう。

図表 11 で「インターネットで情報を検索する」をみると、「よくした」と回答した学生は、学力評価が A（41.3％）と B（33.5％）の学生に多く、「まあした」と合計すると A 評価の学生は 83.0％、B 評価の学生は 76.1％の学生が「インターネットで検索」をしたと回答している。他方、D+ 評価の学生は「よくした」（19.2％）と「まあした」（31.7％）を合計して 50.9％、D- 評価の学生は「よくした」（23.1％）と「まあした」（40.4％）を合計して 63.5％であった。

図表 12 で「新聞やニュースで社会を知る」をみると、「よくした」と回答した学生は、学力評価が A（23.5％）と B（18.4％）の学生に多く、「まあした」と合計すると A 評価の学生は 70.5％、B 評価の学生は 62.8％の学生が「新聞やニュースで社会を知る」と回答している。他方、D+ 評価の学生は「よくした」（12.5％）と「まあした」（32.7％）を合計して 45.2％、D- 評価の学生は「よくした」（11.5％）と「まあした」（40.4％）を合計して 51.9％であった。

図表 13 で「高校時代の読書量（マンガや雑誌を除く）」をみると、「月に 4 冊以上」と回答した学生は、学力評価が A（19.4％）と B（12.5％）の学生に多く、「月に 2 ～ 3 冊くらい」と合計すると A 評価の学生は 44.9％、B 評価の学生は 32.5％の学生が読書習慣があると考えられる。他方、「ほとんど読まなかった」と回答した学生は、D+（61.5％）と D-（58.8％）の学生に多かった。

学力の違いによって差がみられた学習習慣（「板書以外もノートにとる」、「インターネットで検索する」、「新聞やニュースで社会を知る」、「読書量」）は、学生の主体的学習にかかわる習慣である。これらの学習習慣は、本学で実施している「入門ゼミ」の授業テーマになっている。初年次教育等で低学力の学生に主体的な学習習慣を身につけさせることが、まずは必要であろう。

図表 10 板書以外もノートにとった

		板書以外もノートにとった				合計
		まったくしなかった	あまりしなかった	まあした	よくした	
評価	A	7.3%	25.1%	41.3%	26.3%	100.0%
	B	9.3%	26.4%	39.8%	24.5%	100.0%
	C+	13.9%	27.8%	36.9%	21.4%	100.0%
	C-	12.8%	27.9%	37.7%	21.6%	100.0%
	D+	21.2%	35.6%	27.9%	15.4%	100.0%
	D-	21.2%	25.0%	38.5%	15.4%	100.0%
全体		11.8%	27.3%	38.2%	22.7%	100.0%

図表 11 インターネットで検索

		インターネットで検索				合計
		まったく しなかった	あまり しなかった	まあした	よくした	
評価	A	3.6%	13.4%	41.7%	41.3%	100.0%
	B	5.6%	18.4%	42.6%	33.5%	100.0%
	C+	6.2%	27.3%	37.3%	29.2%	100.0%
	C-	8.5%	29.8%	39.0%	22.6%	100.0%
	D+	15.4%	33.7%	31.7%	19.2%	100.0%
	D-	7.7%	28.8%	40.4%	23.1%	100.0%
全体		6.7%	23.0%	39.9%	30.4%	100.0%

図表 12 新聞やニュースで社会を知る

		新聞やニュースで社会を知る				合計
		まったく しなかった	あまり しなかった	まあした	よくした	
評価	A	6.1%	23.5%	47.0%	23.5%	100.0%
	B	5.0%	32.2%	44.4%	18.4%	100.0%
	C+	8.1%	35.4%	39.0%	17.5%	100.0%
	C-	8.9%	39.3%	36.7%	15.1%	100.0%
	D+	12.5%	42.3%	32.7%	12.5%	100.0%
	D-	13.5%	34.6%	40.4%	11.5%	100.0%
全体		7.3%	33.6%	41.3%	17.8%	100.0%

図表 13 高校時代の読書量

		高校時代の読書量				合計
		ほとんど 読まなかった	月に 1冊くらい	月に 2～3冊くらい	月に 4冊以上	
評価	A	22.3%	32.8%	25.5%	19.4%	100.0%
	B	39.0%	28.3%	20.3%	12.5%	100.0%
	C+	44.8%	29.2%	18.5%	7.5%	100.0%
	C-	52.1%	25.9%	16.1%	5.9%	100.0%
	D+	61.5%	24.0%	10.6%	3.8%	100.0%
	D-	58.8%	19.6%	15.7%	5.9%	100.0%
全体		42.2%	28.1%	19.1%	10.5%	100.0%

5 今後の課題

『私立大学教員の授業改善白書 平成 22 年度の調査結果』（私立大学情報教育協会、平成 23 年 5 月）をみると、全国的に学生に関する問題としては、「基礎学力の不足」、「自発性の不足」、「学習意欲の低下」が解決すべき焦眉の課題として指摘されている。この課題は本学の新入生にもそのままあてはまるものである。私立大学情報教育協会では、大学が全体として取り組むべき課題として、第一に「自律・自立を促す教育指導の強化」、第二に「教育・学習支援体制の充実」をあげている。学生の自主的学習に任せるだけでは、大学教育が成立しえず、高大連携による基礎学力の向上や ICT（情報通信技術）の活用による教育・学習支援体制の充実などが全国の私立大学で試みられようとしている。ただし、本学が現状で取り組むことができる課題は他にあるだろう。

近年、文部科学省の方針で単位の実質化が問題にされている。2 単位ものの講義の場合、90 時間の学修を必要とする。通常の授業は、1.5 時間を四捨五入して 2 時間で計算しても、15 週で 30 時間にしかない。残りの 60 時間は授業の前後に予習と復習が必要とされる。学力評価の A と B の学生はテキストを読解し、講義を理解することができるとされるため、

個人で予習・復習をすることが可能だろう。しかし、学力評価がC+以下の学生は個人で予習・復習をする能力がそもそも身につけていないと考えられる。単位の実質化のためには、学生に予習・復習を実際に行わせ、大学の学習についてこさせることが課題になる。学生本人の自発性と学習意欲がまずは必要であるが、それに加えて教育・学習支援体制を整備する必要がある。本学では入門ゼミがその役割を担っている科目である。

入門ゼミでは各種情報を検索する技法を習得させ、本を読んでレジュメを作成し、それを発表するゼミ形式が採用されている。入門ゼミは学習全般に役立つ技法を身につけさせるとともに、卒業研究ゼミにまで結びつくような大学生としての学び方を習得させるための科目であろう。しかし、現状では、入門ゼミが他の科目と連動してはいない。入門ゼミで学んだことが、1回生時の他の科目で生かせておらず、4回生の卒業研究ゼミに結びついているとは言い難い。

入門ゼミを生かすための具体的な方策としては、ノートの取り方、文献・資料の検索、文献一覧の作成、レジュメの作り方、レポートの書き方など、入門ゼミで習得した技法が他の授業で生かされているかチェックすることが考えられる。

また、入門ゼミではグループで学習する形態を取り入れ、授業時間外に学生同士で課題に取り組ませる工夫も有効であろう。上回生が新入生に学習のアドバイスを行えるような仕組みを作ることも有効だろう。個人の学力では大学の学習についてくることができない学生に、第一に自発性と学習意欲をもたせること、第二に授業時間外の実質的な学習を可能とするような教育・学習支援体制を整備すること、この2つが初年次教育の課題になる。

授業アンケート

——学生からの授業評価をいかに捉えるか——

教授法開発室員 堀 家 由 妃 代

1. はじめに－授業アンケートの意義

例年のことであるのだが、学期末に授業アンケートの結果が返却されるたび、予想以上の高評価に驚かされたり反対に自信を失ったりと一喜一憂してしまう。それは、そのアンケート結果が何となく私自身の「人間性」まで評価されているような錯覚に陥っているからかもしれない。

けれど、授業アンケートというものはあくまで「教育内容」に対する評価であり、教授者各々の授業改善のみならず、大学組織としてのカリキュラムへの評価ともなりうる、非常にソーシャルなものであることに注意を払うべきである。

また、アンケートそのものについて否定的な意見も耳にするが、昨今の高等教育の趨勢を鑑みると、学生の学び・成長を中心に据えた教育の在り方が十分に模索されるべきであり、とりわけ授業のスキルやテクニクに関しては、学生からの評価が一定程度効果的であるとされている。現在では、国公立大学の80%で学生による授業評価が実施されている（文科省「大学における教育内容等の改革状況について（平成21年度）」より）。

2. 2011年度授業アンケートに関する本学の取り組み状況

本学では授業改善の指標・手段として、セメスターごとに「中間」および「期末」授業アンケートを実施している。期末のアンケートは①学生自身の取組②授業運営③教育効果の3つのカテゴリーと④自由記述欄により構成されており、中間アンケートは授業実施中の教育内容の改善をねらいとして昨年度から導入された。今年度はその中間アンケートの実施報告を任意で依頼した。

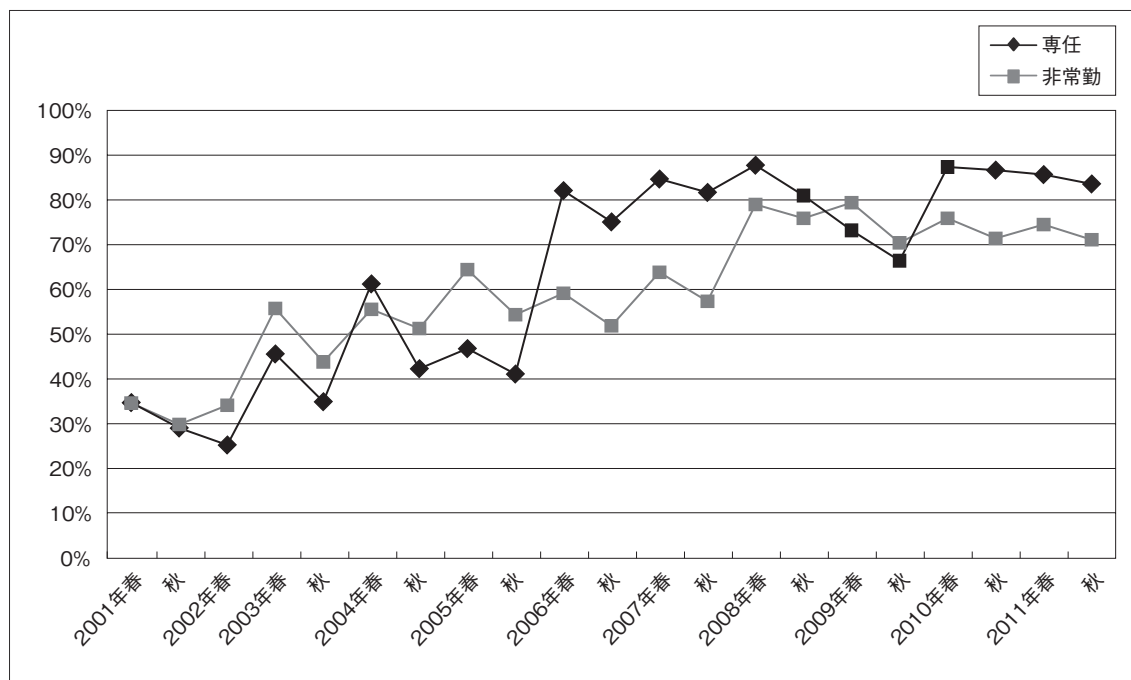
今年度、中間アンケートの実施件数は春学期7,800枚、秋学期4,750枚となっており、期末アンケートの実施率は春学期58.79%（前年度比8.07%減）、秋学期56.88%（前年度比7.72%減）となっている。

授業アンケート実施者数・実施率の推移

		2001 年春	秋	2002 年春	2003 年春	秋	2004 年春	秋
専任	実施者数 (名)	59	49	44	77	59	107	74
	総 数 (名)	169	168	173	168	168	174	174
	実 施 率 (%)	34.9	29.2	25.4	45.8	35.1	61.5	42.5
非常勤	実施者数 (名)	151	130	181	308	242	300	277
	総 数 (名)	434	434	527	550	550	538	538
	実 施 率 (%)	34.8	30.0	34.3	56.0	44.0	55.8	51.5

2005 年春	秋	2006 年春	秋	2007 年春	秋	2008 年春	秋
87	76	140	129	153	146	171	157
185	184	170	171	180	178	194	193
47.0	41.3	82.4	75.4	85.0	82.0	88.1	81.3
321	294	352	309	311	277	382	346
496	538	593	593	485	481	482	454
64.7	54.6	59.4	52.1	64.1	57.6	79.3	76.2

2009 年春	秋	2010 年春	秋	2011 年春	秋
144	130	185	181	178	172
196	195	211	208	207	205
73.5	66.7	87.7	87.0	86.0	83.9
369	331	333	306	354	320
463	468	437	427	473	448
79.7	70.7	76.2	71.7	74.8	71.4



しかし、本学が実施しているこれらのアンケート内容・方法については課題も多い。まず、期末アンケートの項目が通信と通学、一斉講義形式と演習形式、大人数講義と少人数での指導など、授業の目的や内容が多様であるにもかかわらずほぼ同じフォーマットを採用している事の制約が大きい。この点においては例年議論にあがることであるが、量的データの価値として、経年での追跡による授業やカリキュラムの改善可能性があることを考慮すると、項目の大幅改良にもデメリットが伴う難しい問題である。また、アンケート結果のフィードバックの問題もある。現在は当該教員にその結果が返却され、その後の判断・対応は教員個々の裁量に任されるに止まっている。真の意味での学生への反映を考えると、評価が低かった教員へのサポート体制の構築など、より組織的な対応が必要となってくる。

そして、もっとも根本的な問題は、上述したことも含め「なんのための／誰のためのアンケートなのか？」というアンケートそのものの目的の不明確さである。私自身もぼんやりと授業改善のためとは思っているが、その目的が全学的に共有され、目的を達成させるための諸手段が練られているかといえそうとは言い切れないだろう。実施率が毎年7割近くの授業アンケートであるが、より有効に活用するためにはまだまだ議論の余地がある。

以下では、本年度実施した中間および期末の授業アンケートについて概観したいが、その際、アンケートの目的を私なりに「振り返り・授業改善」、「学生からのメッセージ」の2つに大別し、それぞれ期末・中間の結果と照らし合わせて検討してみたい。ここからはあくまで私個人の関心からの視点の提供となるため、実際の結果の詳細についてはP. 35～P. 152をご覧ください。

3. アンケート結果をオモテからみる ：「振り返り・授業改善」としてのアンケート

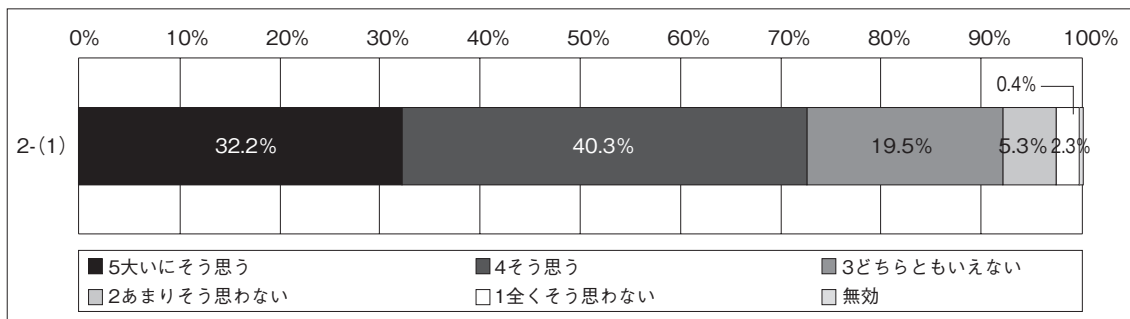
ここでは、春学期・秋学期の期末アンケートについてみていく。先述したように、期末の授業アンケート内容は①学生自身の取組（5項目）②授業運営（11項目）③教育効果（4項目）の3つのカテゴリと④自由記述欄（3項目）で構成されている。そして、評価のレベルは「大いにそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の5段階となっている。

アンケートの目的を教員の「振り返り・授業改善」とするとき、②の結果が直接的に③に、そして結果的には①にまで影響をもたらすと考えられるが、ここでは紙幅の都合上、②の諸項目の結果について簡単に確認しておこう。詳細についてはP. ●を見て頂きたいが、まず注目すべきは、授業のわかりやすさ、教員の熱意、話し方、授業時間の遵守については、7割以上の学生が「大いにそう思う」か「そう思う」という高評価にマークしていることである。授業のわかりやすさや教員の授業に対する姿勢について、学生たちはおおむね満足していると素直にみてよいだろう。

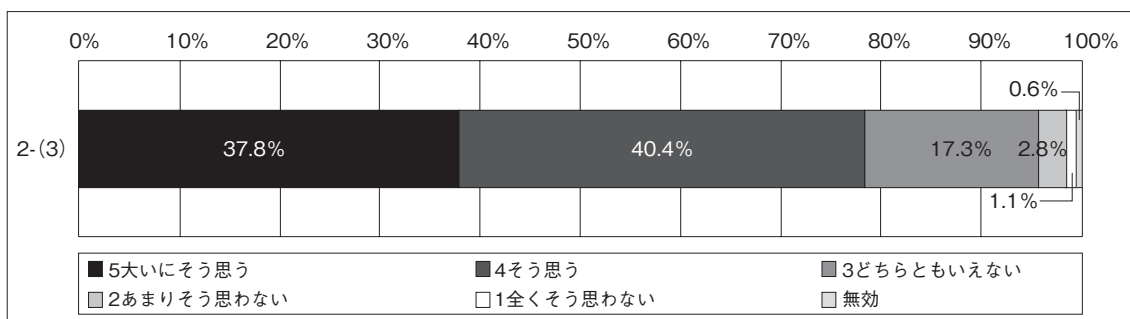
春学期 授業アンケート 全体集計

2. この授業の運営について

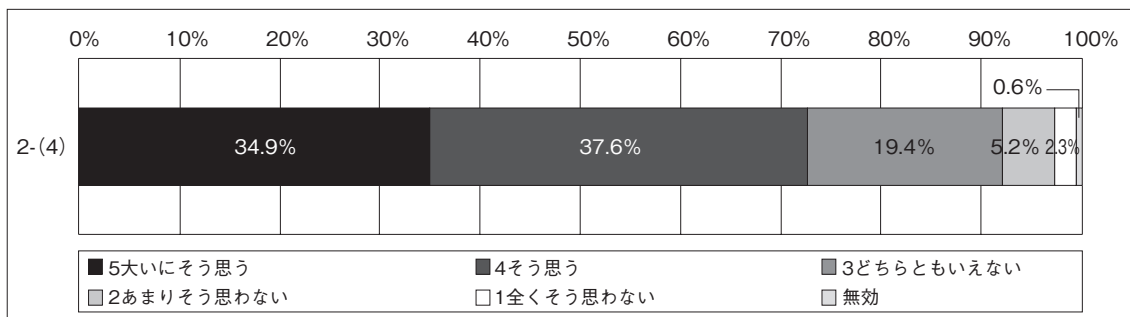
Q2－(1) わかりやすい授業であった



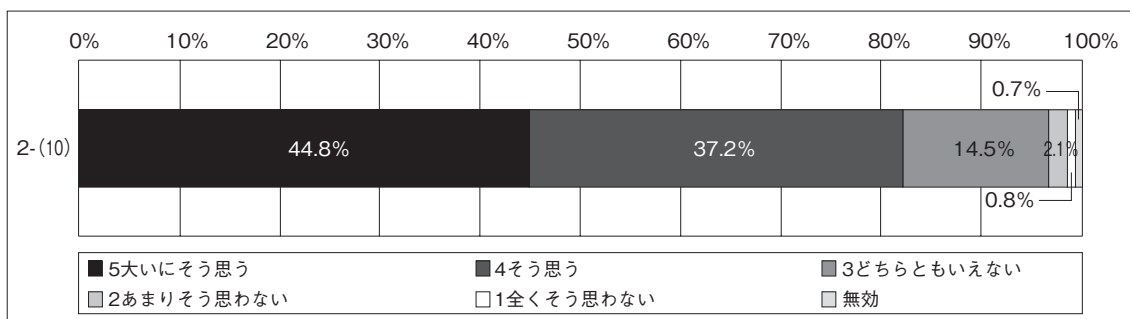
Q2－(3) 教員の熱意が伝わってきた



Q2－(4) 聴きやすい話し方だった



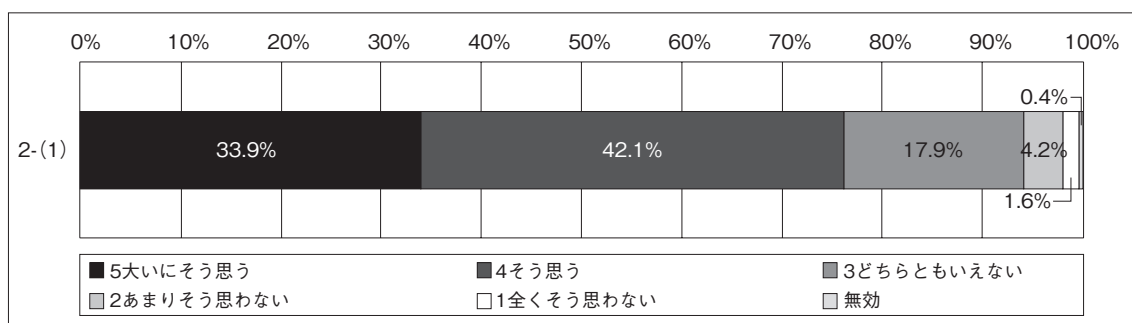
Q2－(10) 授業時間が守られていた



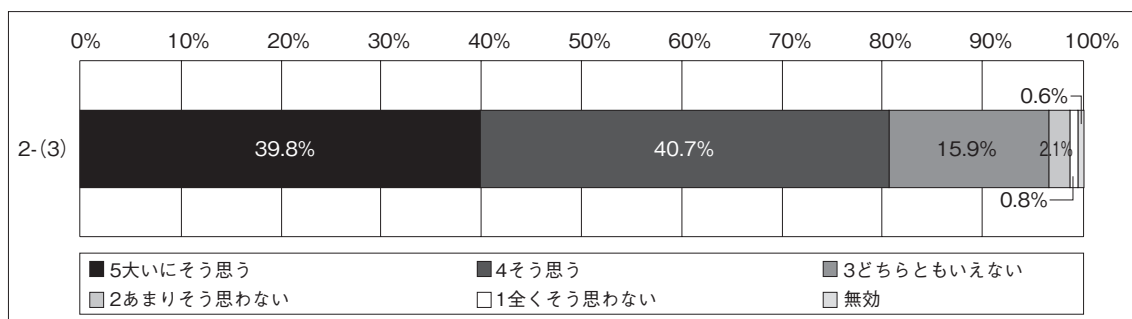
秋学期 授業アンケート 全体集計

2. この授業の運営について

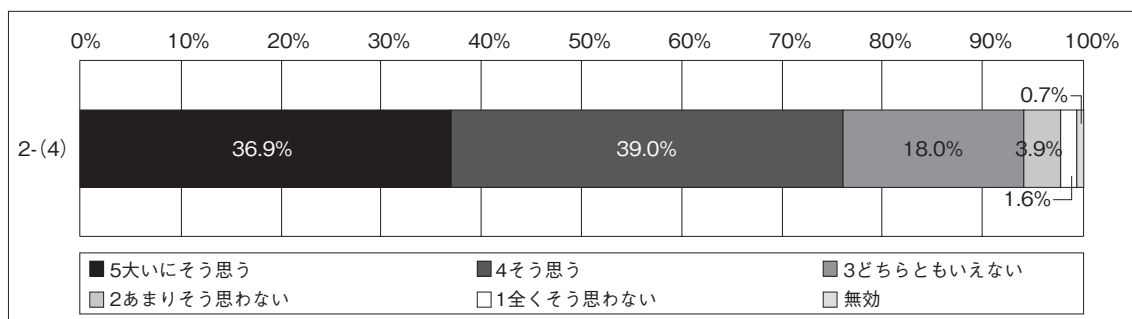
Q2－(1) わかりやすい授業であった



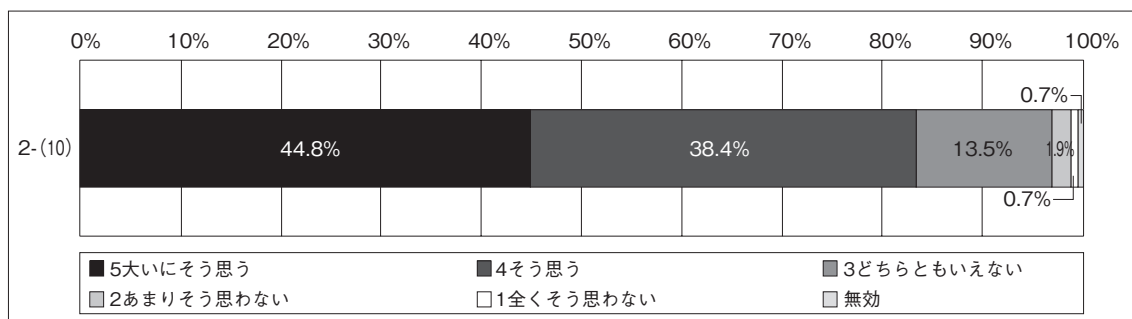
Q2－(3) 教員の熱意が伝わってきた



Q2－(4) 聴きやすい話し方だった



Q2－(10) 授業時間が守られていた

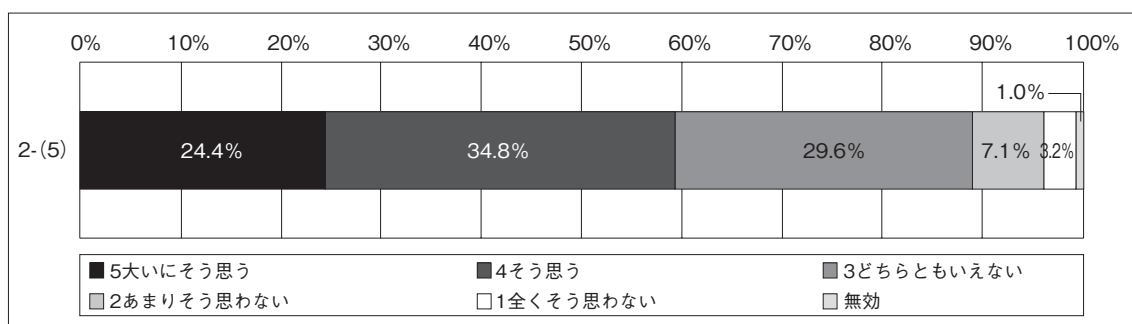


また、板書や教材、学習形態など主に学習環境の整備に関する部分については、ポジティブな評価は5～6割となっている。環境整備については、2010年度の授業アンケートの自由記述の分析結果からも、学生のニーズが高いことが示されている。その分析によれば、2010年度の通学課程の自由記述をテキストマイニングした結果、「板書」「文字」「パワーポイント」「レジュメ」などの視覚ツールにかかわるキーワードについて「見にくい、見づらい」「汚い、薄い、小さい」といった言及が多数あることが確認されている。これらの項目については、授業内容に加えて受講者数や教室などの物理的環境の影響も大きいと考えられるが、そうした環境の制約があっても評価の高い教員も少なくないことから、個々の教員の工夫や教員間でのアイデアの共有などによって、まだまだ改善可能性が残されていると考えられる。

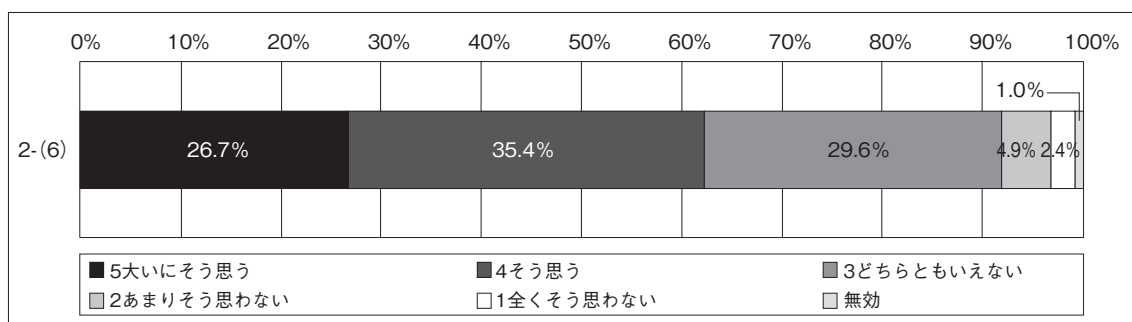
春学期 授業アンケート 全体集計

2. この授業の運営について

Q2－(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった



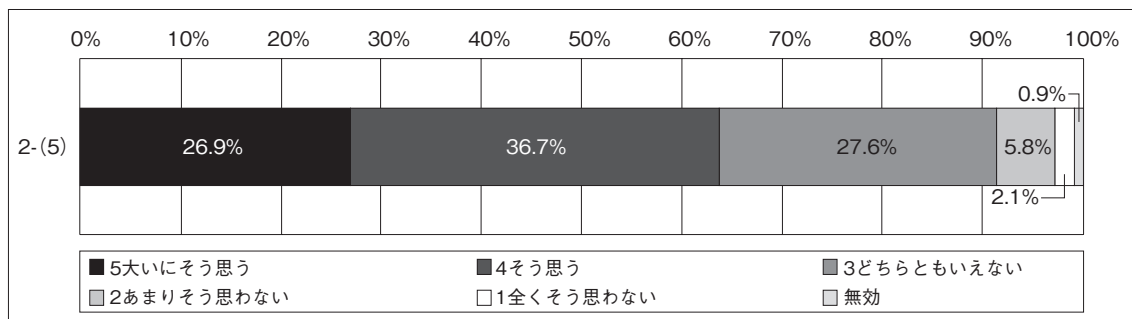
Q2－(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった



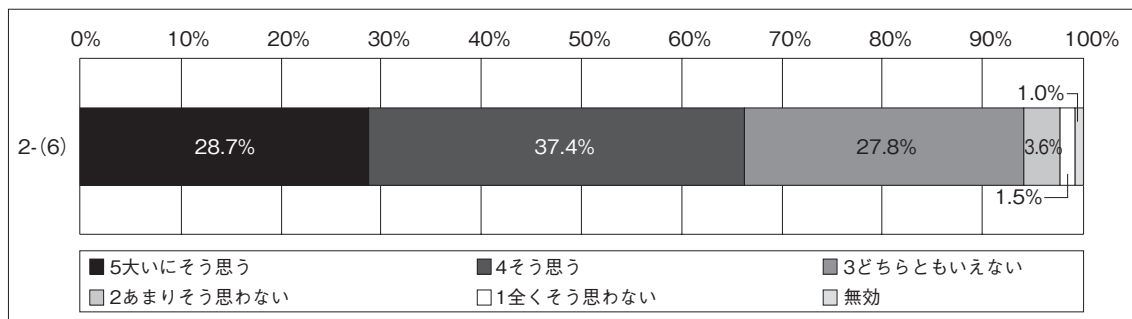
秋学期 授業アンケート 全体集計

2. この授業の運営について

Q2－(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった



Q2－(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

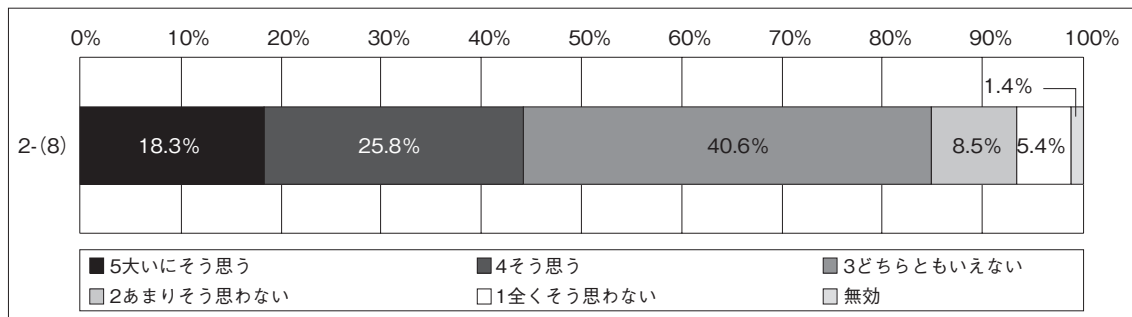


そして、春・秋ともに「どちらともいえない」が4割（これは「大いにそう思う」と「そう思う」の合計とほぼ同数値である）となっているのが、教員と学生とのコミュニケーションについてである。この項目についても授業の性質や環境によるところが大きく、学生自身もコミュニケーションが必要あるいは物理的に可能な授業なのかどうかで評価をしかねている部分があるものと推測できる。ただし、この「コミュニケーション」については、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」という、「どちらともいえない」よりもより明確な意識を持って付けられていると思われる評価の割合が他の項目のそれに比べて大きいのも非常に特長的な点である。その点に注目し、以下では「学生からのメッセージ」としてのアンケートについてみていく。

春学期 授業アンケート 全体集計

2. この授業の運営について

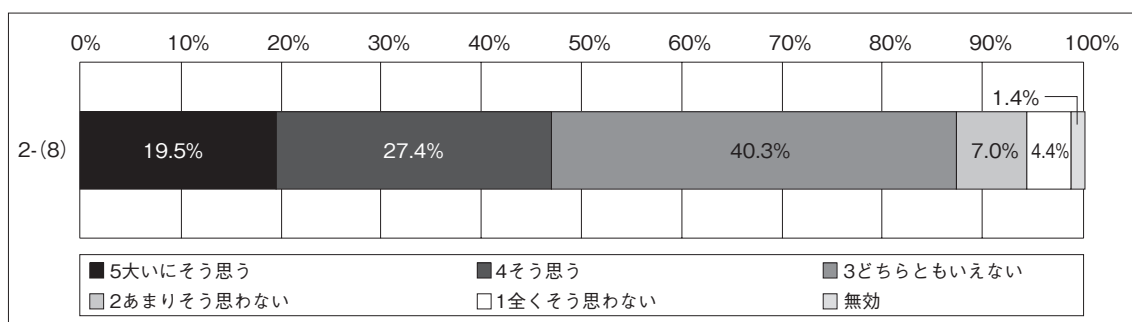
Q2－(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）” 含む）に工夫がみられた



秋学期 授業アンケート 全体集計

2. この授業の運営について

Q2－(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）” 含む）に工夫がみられた



4. アンケート結果をウラからみる

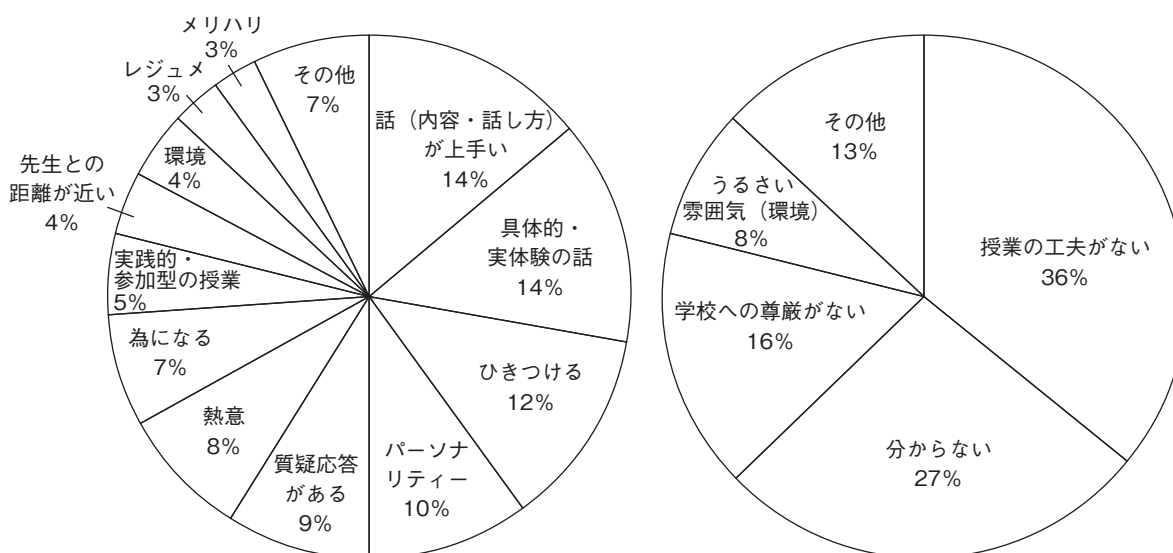
：「学生からのメッセージ」としてのアンケート

自分たちの教育環境の改善のためとはいえ、学生たちは各々が受講する授業の数だけアンケートに答える必要がある。しかも、非常に限られた時間のなかで20近くの項目について5段階評価をつけ、必要があれば自由記述まで済ませなければならない。そうしたなかで、「どちらともいえない」といったあいまいなものでなく明確な評価、とりわけネガティブな評価にマークをするということは、「質問項目であげられているような授業運営のねらいは、この授業では達成されていない」といった、学生側からの「メッセージ」と捉えてよいのではないだろうか。こうした評価は裏を返せば、学生たちの我々教員に対する強い期待とみることもできる。

私自身も大人数講義をしていると、居眠りや内職をしている学生に注意せざるをえない状況に出くわすことがある。いくら授業準備を自分の満足する程度までしていてもそうし

たことに直面し、ショックを受ける。一度だけ私語が予想以上に激しくなり、1時間程度で授業を中断し、その後補講をしたことがあった。真面目に授業を受けていた学生からは「なぜ自分たちまで犠牲にならないといけないのか」と異議があり、また、「先生の授業はおもしろいし楽しみにしているのに、そうでない学生がいるのが不思議だ」と慰めてくれるような意見もあった。私自身も学生の期待に応えようと教材の工夫や話し方など、それなりの努力をしてきたつもりであるが、それは果たして学生のニーズと合致し、また教育効果として真に有効であったのか…そもそも学習者である彼らは授業や教員になにを求めて授業に参加しているのか…それを中間アンケートで検証したいと考えた。

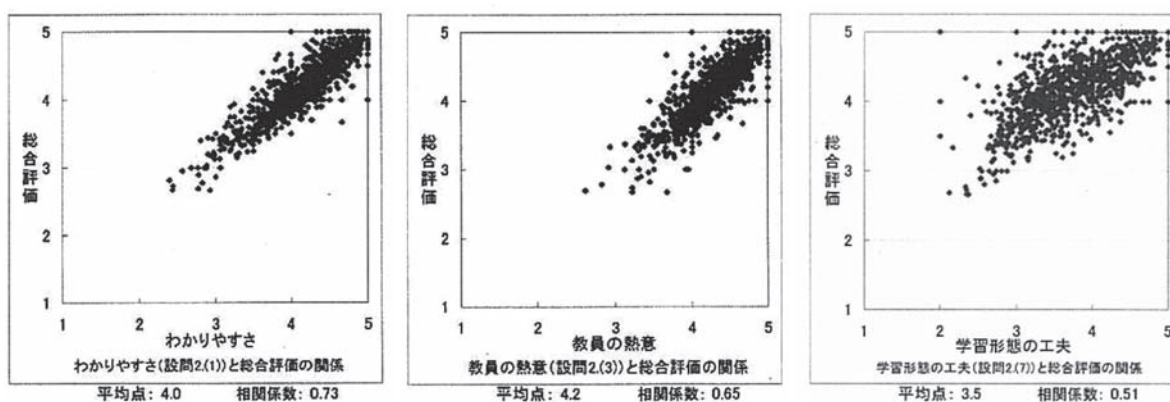
そこで、教育学科のなかで授業中に声をあげてくれた学生を中心に、「なぜオレたちは授業中しゃべってしまうのか?」をテーマとし、100名以上の学生を対象とした中間アンケートの分析をさせた。アンケートの内容として、私の授業だけでなく、学生たちが半期間で受講した授業のなかで彼らが素朴に「よかった」「辛かった」と感じた授業を具体的に想起させ、その理由を書かせた。学生たちが「なぜよかったのか（なぜ辛かったのか）」の中身を分析することで、学生が教員や授業に求めているものを知るためである。結論として、学生たちが素朴に「よかった」と思える授業の要素として、①学生たちは教員に授業での工夫（話し方・授業の進め方など）を求めていること、そして、②内容だけでなく、教員のパーソナリティについても期待をしていることが明らかになり、それが学生たちの授業のなかでの達成感（授業を受けているなあという実感や、授業がよく分かったという“気分”）を生み出しているという考察が引き出された。また、「辛かった」理由の分析からは、①授業内容への期待の反映としての「分からない・工夫がない」という不満や、②学生を単なる聴講者でなく一人の人格ある個人としてみてほしいという願い、③環境要因などが授業へのモチベーションと関係していることが見出された。



グラフ:よかった授業（左）と辛かった授業（右）の理由（ゼミにおける中間アンケートの分析より）

私が行ったものは決して洗練された調査とはいえないが、結果としては期末のアンケートで量的に把握されたものと非常に似通っていた。先にあげた 2010 年度のアンケート項

目についての相関散布図をみてみても、学生たちの総合評価の高さと、授業のわかりやすさ、教員の熱意や工夫といった項目が、非常に相関関係が高いという分析結果が出ている。



アンケート結果はその信憑性や妥当性などについて議論の分かれるところがあるが、学生たちはアンケートを通して我々教員に対し、様々にメッセージを送ってくれている…そのようにみることもできるのではないだろうか。

5. まとめ

以上、非常に個人的な関心によるアンケートの紹介になってしまったが、この1年間教授法開発室に携わることで、高等教育における授業改革について組織的に考えることと同時に、一授業者として学生たちの教育保障について内省する機会にも恵まれた。

学生からの授業評価としてアンケートを実施する以上、我々教員はそこから“何か”を受け取らねばならない。それはこれまでの授業の振り返りであり、より良い次の授業への新たな視点であり、また、学生からの切実なメッセージでもある。授業アンケートを有効に機能させるためには、項目および実施方法の洗練、そして教員や学生への具体的なフィードバックの在り方などについて引き続き議論を重ねていく必要があるだろう。

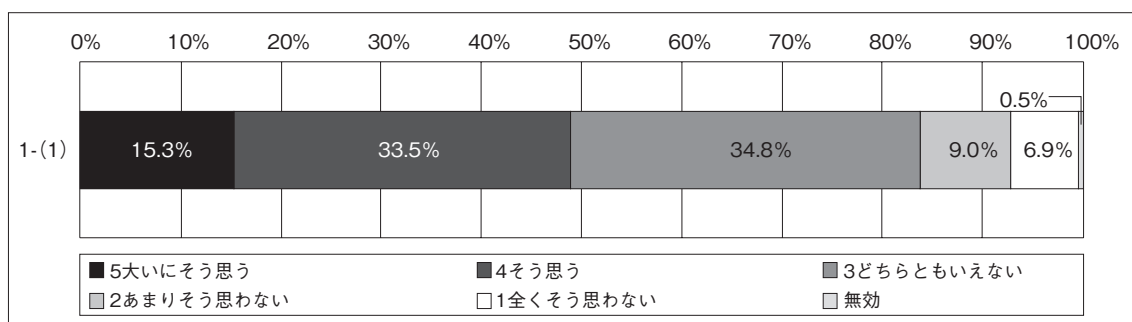
2011 年度 春学期 授業アンケート 全体集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1－(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名（延べ）]

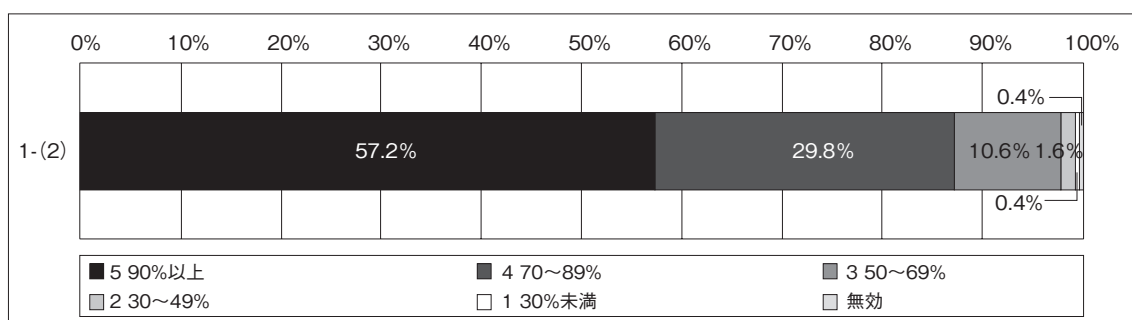
5 大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
5,643	12,316	12,803	3,311	2,554	177	36,804



Q1－(2) これまでの授業の出席率

[単位：名（延べ）]

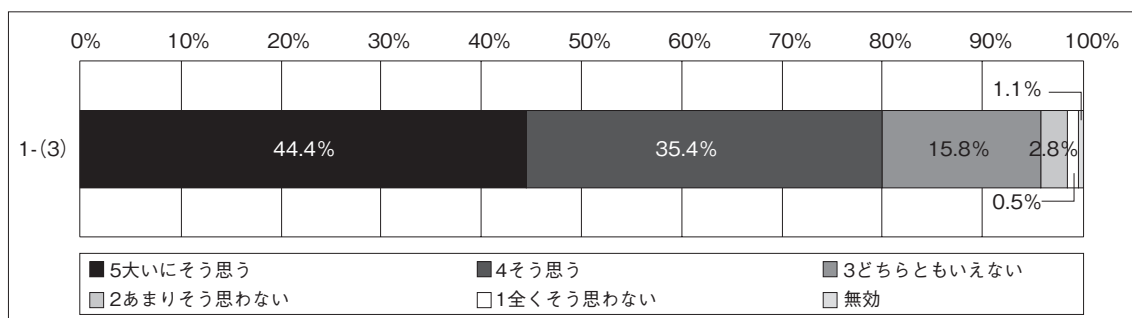
5 90% 以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30% 未満	無効	合計
21,062	10,951	3,914	574	158	145	36,804



Q1－(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった

[単位：名（延べ）]

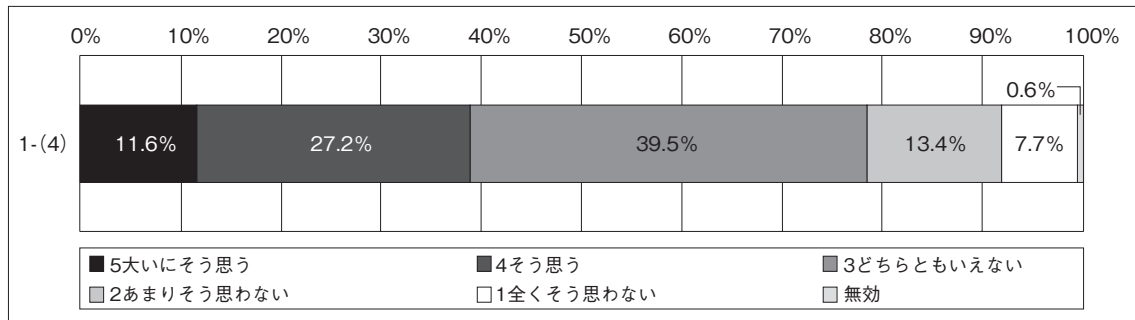
5 大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
16,339	13,025	5,797	1,037	407	199	36,804



Q1－(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名（延べ）]

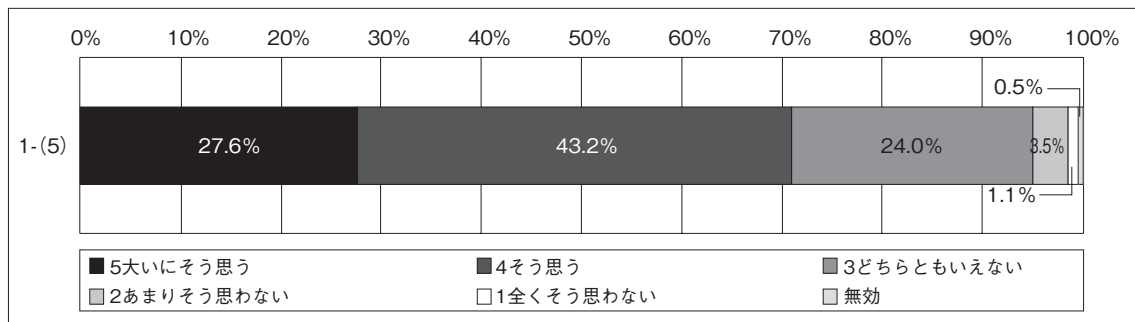
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
4,258	10,023	14,549	4,950	2,819	205	36,804



Q1－(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名（延べ）]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
10,154	15,912	8,840	1,280	423	195	36,804

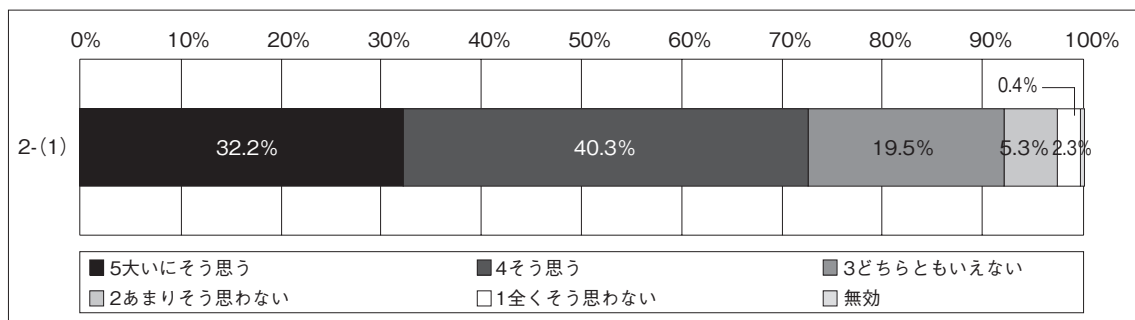


2. この授業の運営について

Q2－(1) わかりやすい授業であった

[単位：名（延べ）]

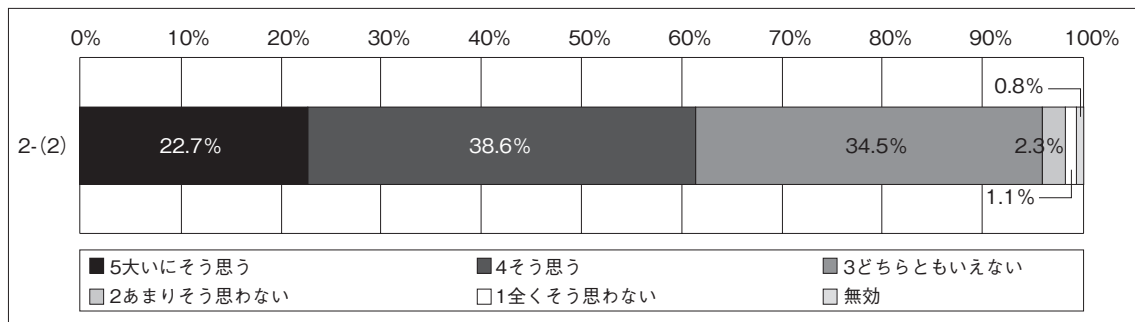
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
11,853	14,844	7,177	1,950	837	143	36,804



Q2－(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名（延べ）]

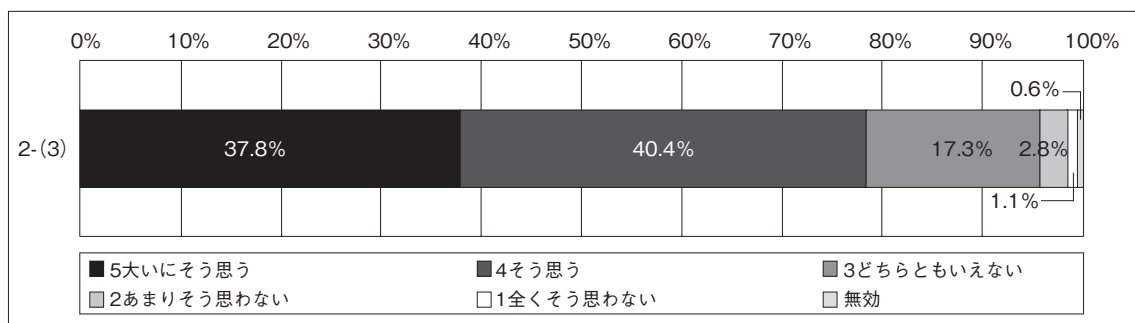
5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
8,344	14,221	12,687	850	421	281	36,804



Q2－(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名（延べ）]

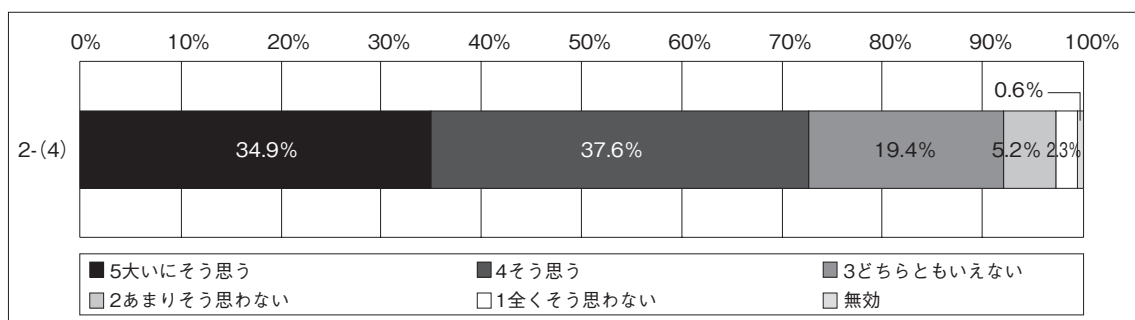
5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
13,900	14,873	6,352	1,046	421	212	36,804



Q2－(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名（延べ）]

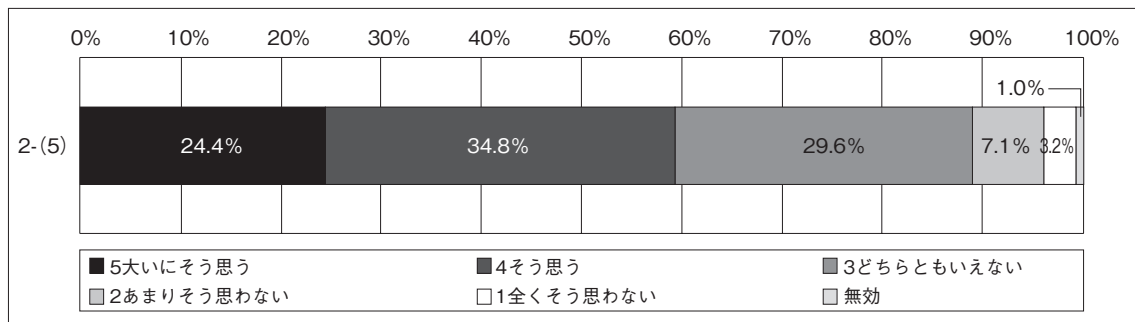
5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
12,854	13,823	7,142	1,924	840	221	36,804



Q2－(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

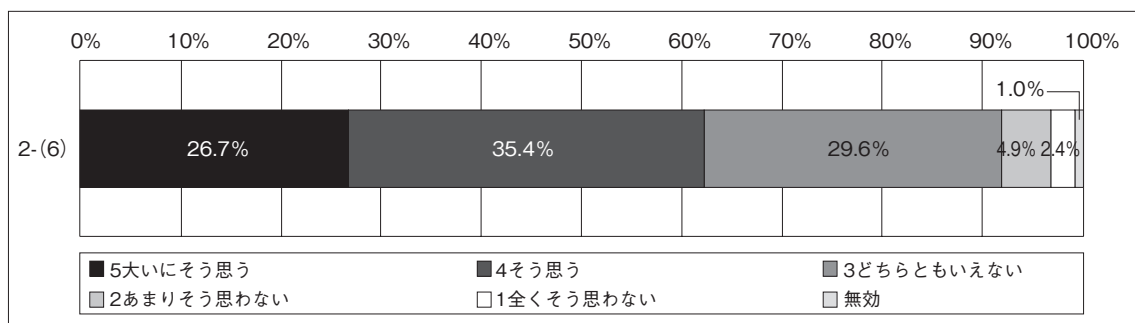
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
8,968	12,825	10,884	2,612	1,165	350	36,804



Q2－(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

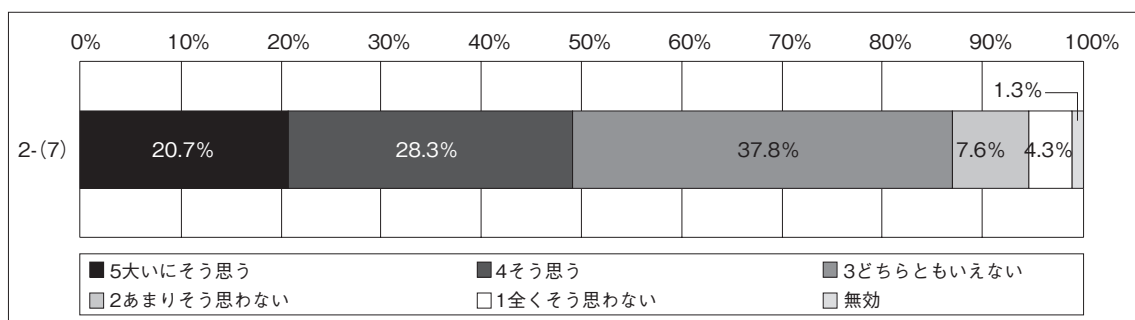
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
9,826	13,032	10,885	1,817	881	363	36,804



Q2－(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

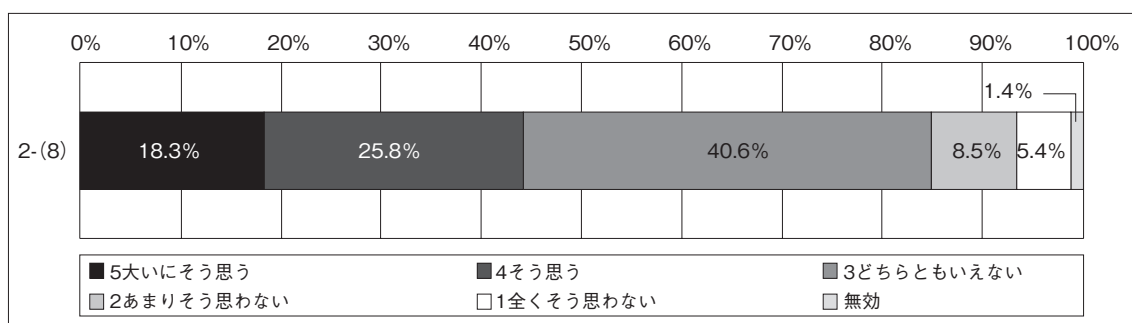
[単位：名（延べ）]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
7,627	10,407	13,898	2,805	1,599	468	36,804



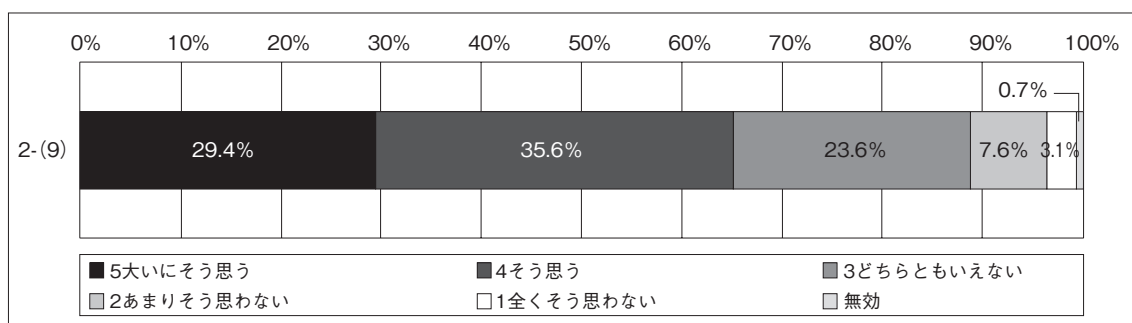
Q2－(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）”含む）に工夫がみられた [単位：名（延べ）]

5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
6,734	9,499	14,949	3,127	1,980	515	36,804



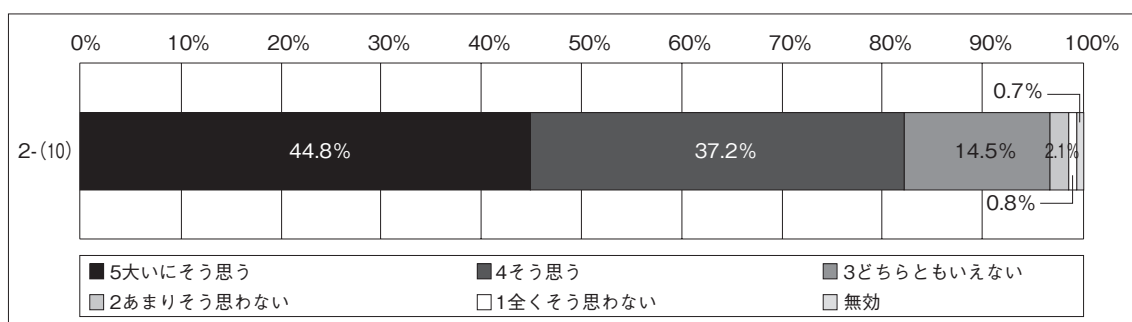
Q2－(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた [単位：名（延べ）]

5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
10,815	13,106	8,701	2,792	1,128	262	36,804



Q2－(10) 授業時間が守られていた [単位：名（延べ）]

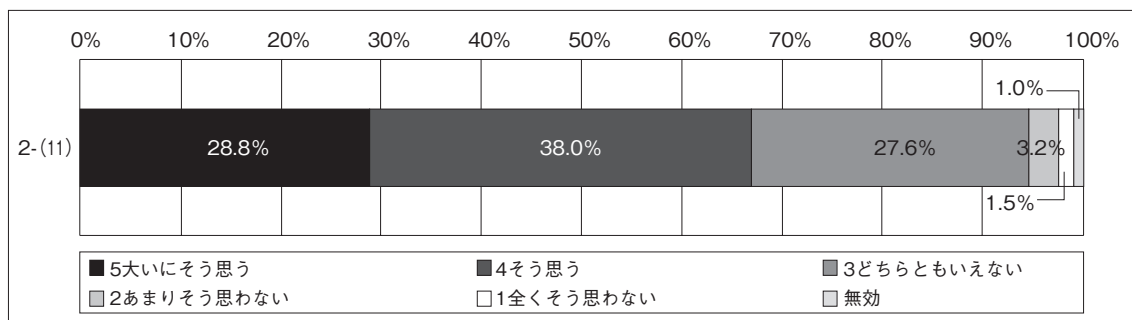
5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
16,470	13,699	5,333	766	286	250	36,804



Q2－(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名（延べ）]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
10,585	13,969	10,152	1,182	540	376	36,804

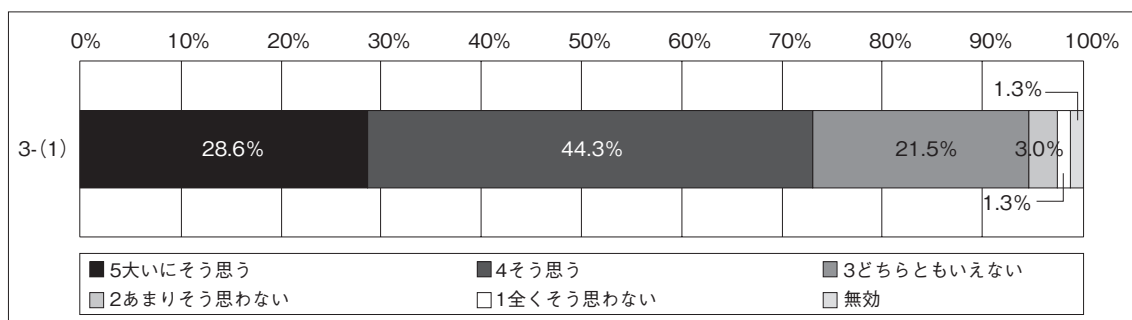


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3－(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名（延べ）]

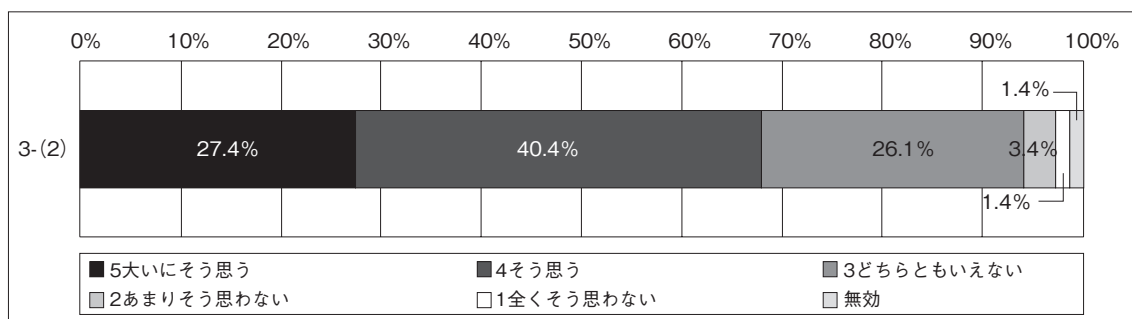
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
10,526	16,290	7,916	1,118	463	491	36,804



Q3－(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名（延べ）]

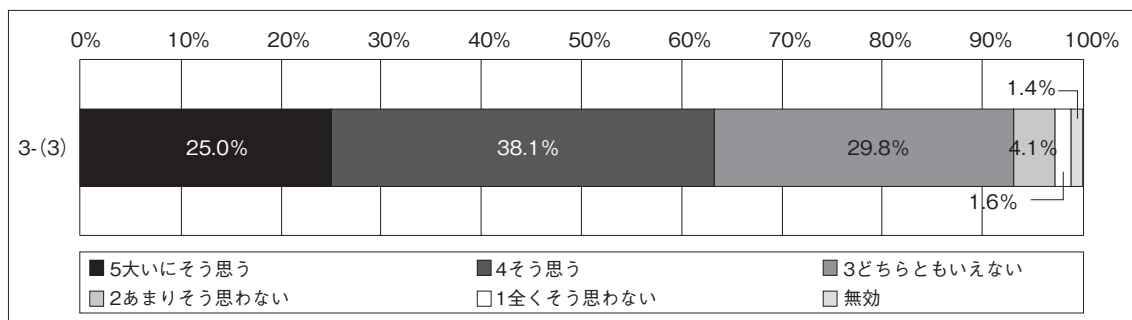
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
10,072	14,852	9,620	1,237	508	515	36,804



Q3－(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名（延べ）]

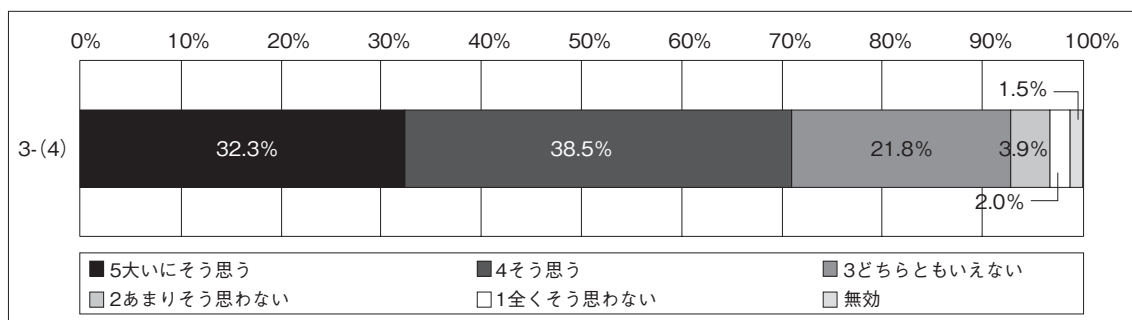
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
9,196	14,014	10,972	1,499	600	523	36,804



Q3－(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名（延べ）]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
11,880	14,175	8,030	1,425	740	554	36,804



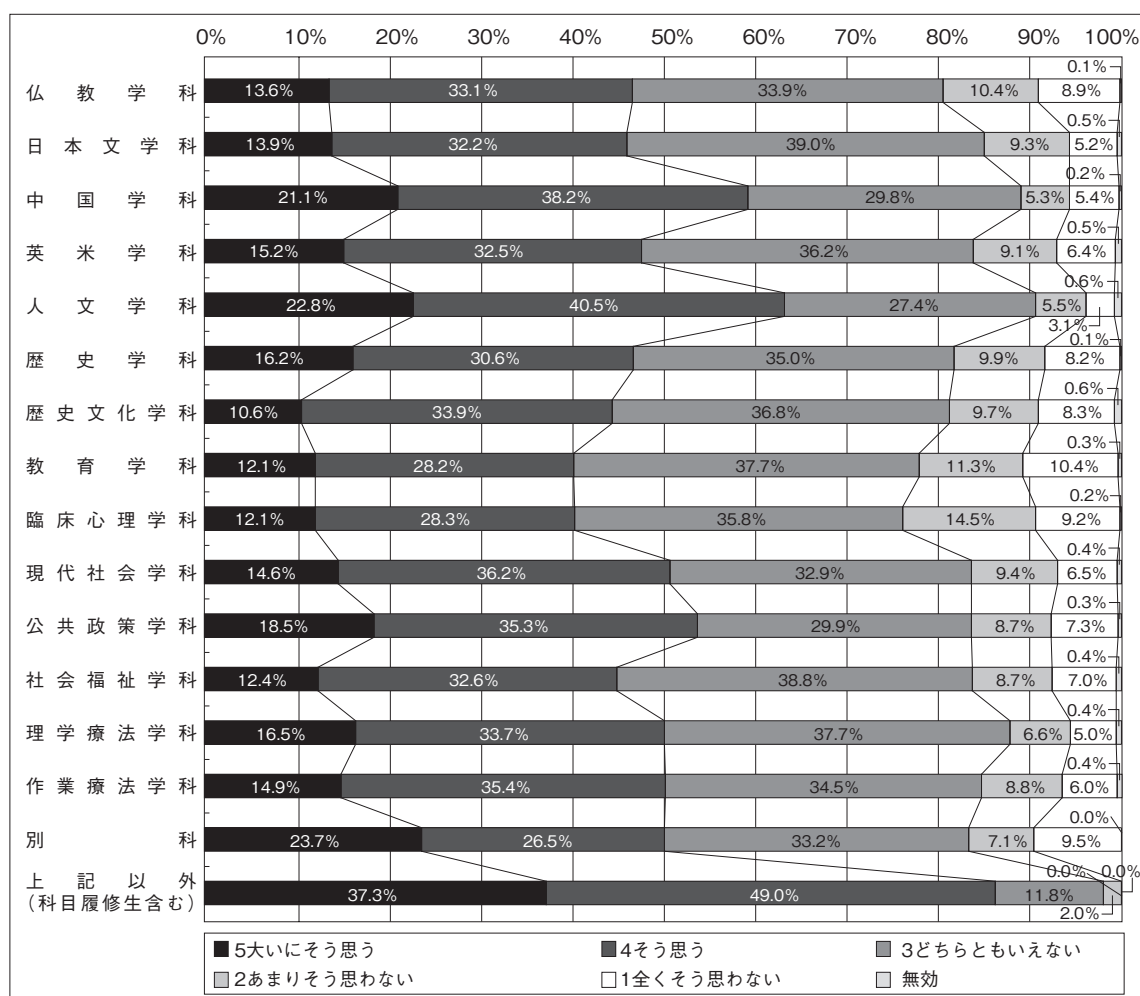
2011 年度 春学期 授業アンケート マーク学科別集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1－(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名（延べ）]

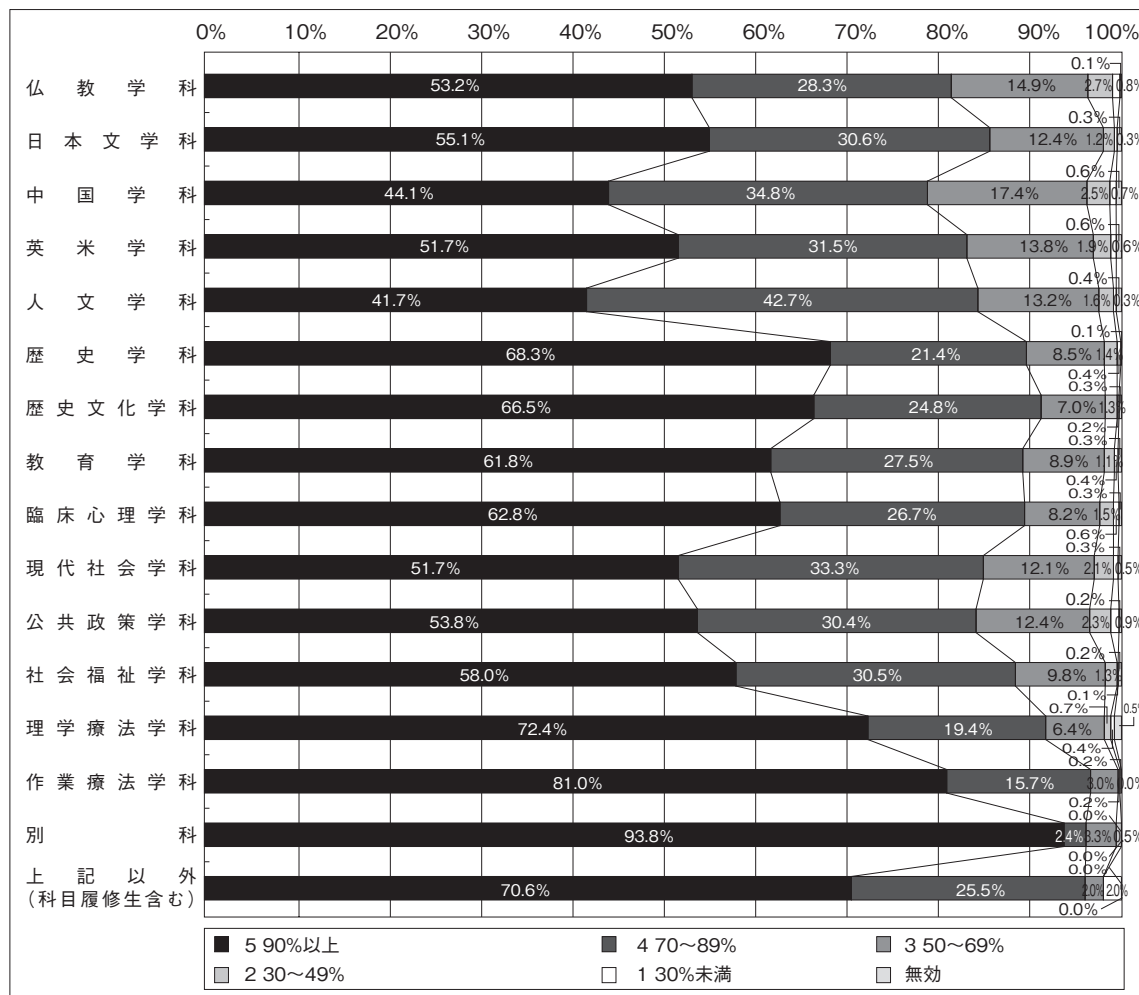
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	122	298	305	94	80	1	900
日 本 文 学 科	334	775	940	225	125	11	2,410
中 国 学 科	225	407	318	56	58	2	1,066
英 米 学 科	331	709	790	199	140	11	2,180
人 文 学 科	724	1,287	870	176	100	20	3,177
歴 史 学 科	400	755	862	243	201	3	2,464
歴史文化学科	153	488	530	140	120	9	1,440
教 育 学 科	484	1,133	1,515	454	416	12	4,014
臨床心理学科	188	441	557	225	143	3	1,557
現代社会学科	712	1,762	1,600	455	315	21	4,865
公共政策学科	514	980	832	243	203	7	2,779
社会福祉学科	840	2,203	2,621	588	476	28	6,756
理学療法学科	185	378	423	74	56	5	1,121
作業療法学科	159	377	368	94	64	4	1,066
別 科	50	56	70	15	20	0	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	19	25	6	1	0	0	51



Q1－(2) これまでの授業の出席率

[単位：名（延べ）]

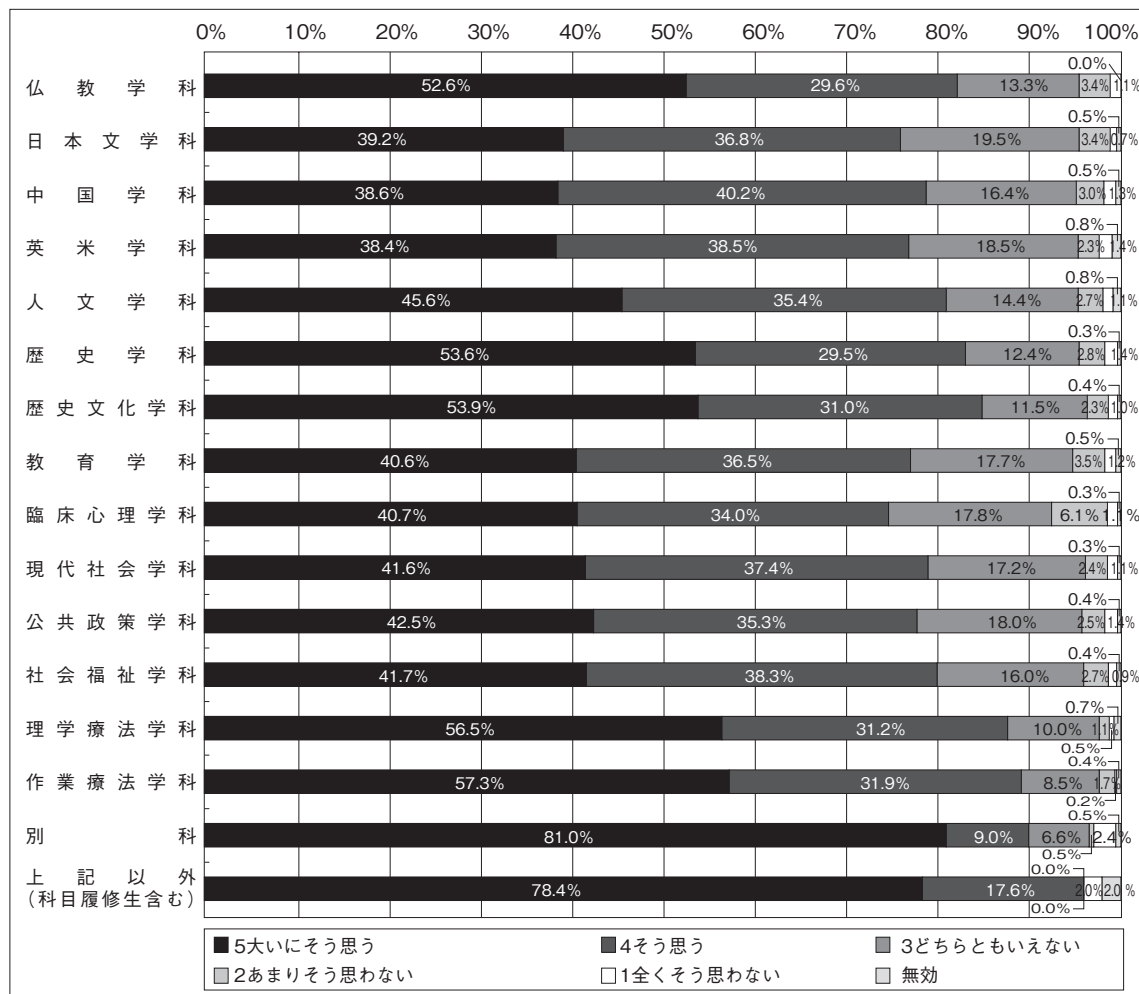
	5 90%以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30%未満	無効	合計
仏 教 学 科	479	255	134	24	7	1	900
日 本 文 学 科	1,329	737	300	30	7	7	2,410
中 国 学 科	470	371	185	27	7	6	1,066
英 米 学 科	1,128	686	300	41	12	13	2,180
人 文 学 科	1,324	1,358	419	51	11	14	3,177
歴 史 学 科	1,682	527	209	34	10	2	2,464
歴史文化学科	957	357	101	18	3	4	1,440
教 育 学 科	2,480	1,104	358	45	16	11	4,014
臨床心理学科	978	415	128	23	9	4	1,557
現代社会学科	2,514	1,621	590	104	22	14	4,865
公共政策学科	1,495	845	345	63	25	6	2,779
社会福祉学科	3,918	2,061	664	91	10	12	6,756
理学療法学科	812	218	72	8	5	6	1,121
作業療法学科	863	167	32	2	0	2	1,066
別 科	198	5	7	1	0	0	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	36	13	1	0	1	0	51



Q1－(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった

[単位：名（延べ）]

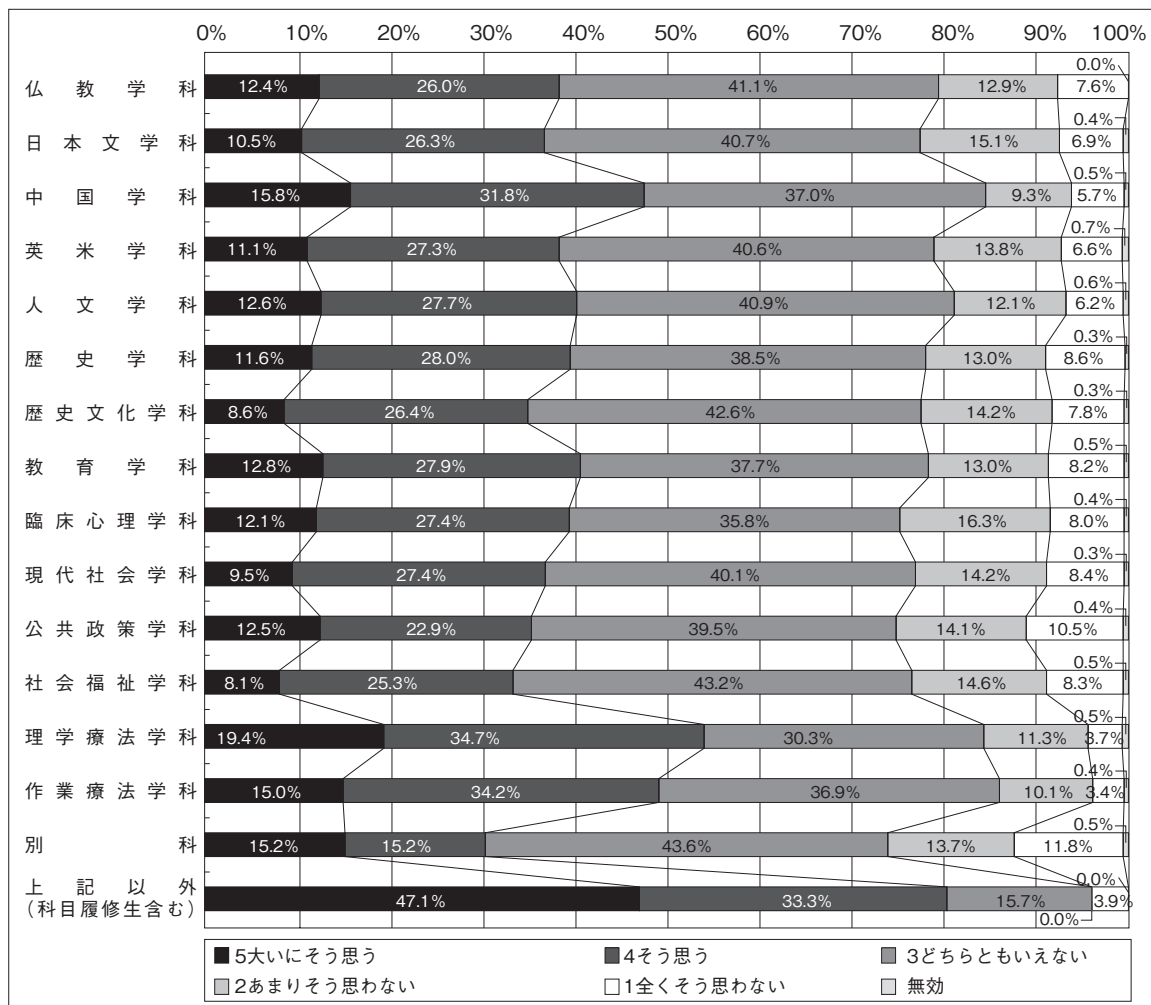
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	473	266	120	31	10	0	900
日 本 文 学 科	944	887	469	82	17	11	2,410
中 国 学 科	411	429	175	32	14	5	1,066
英 米 学 科	838	840	404	51	30	17	2,180
人 文 学 科	1,449	1,126	457	87	34	24	3,177
歴 史 学 科	1,320	728	305	69	35	7	2,464
歴史文化学科	776	446	165	33	14	6	1,440
教 育 学 科	1,629	1,467	711	140	48	19	4,014
臨床心理学科	634	529	277	95	17	5	1,557
現代社会学科	2,024	1,818	836	117	54	16	4,865
公共政策学科	1,180	982	499	69	39	10	2,779
社会福祉学科	2,819	2,587	1,082	182	62	24	6,756
理学療法学科	633	350	112	12	6	8	1,121
作業療法学科	611	340	91	18	2	4	1,066
別 科	171	19	14	1	5	1	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	40	9	0	0	1	1	51



Q1－(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名(延べ)]

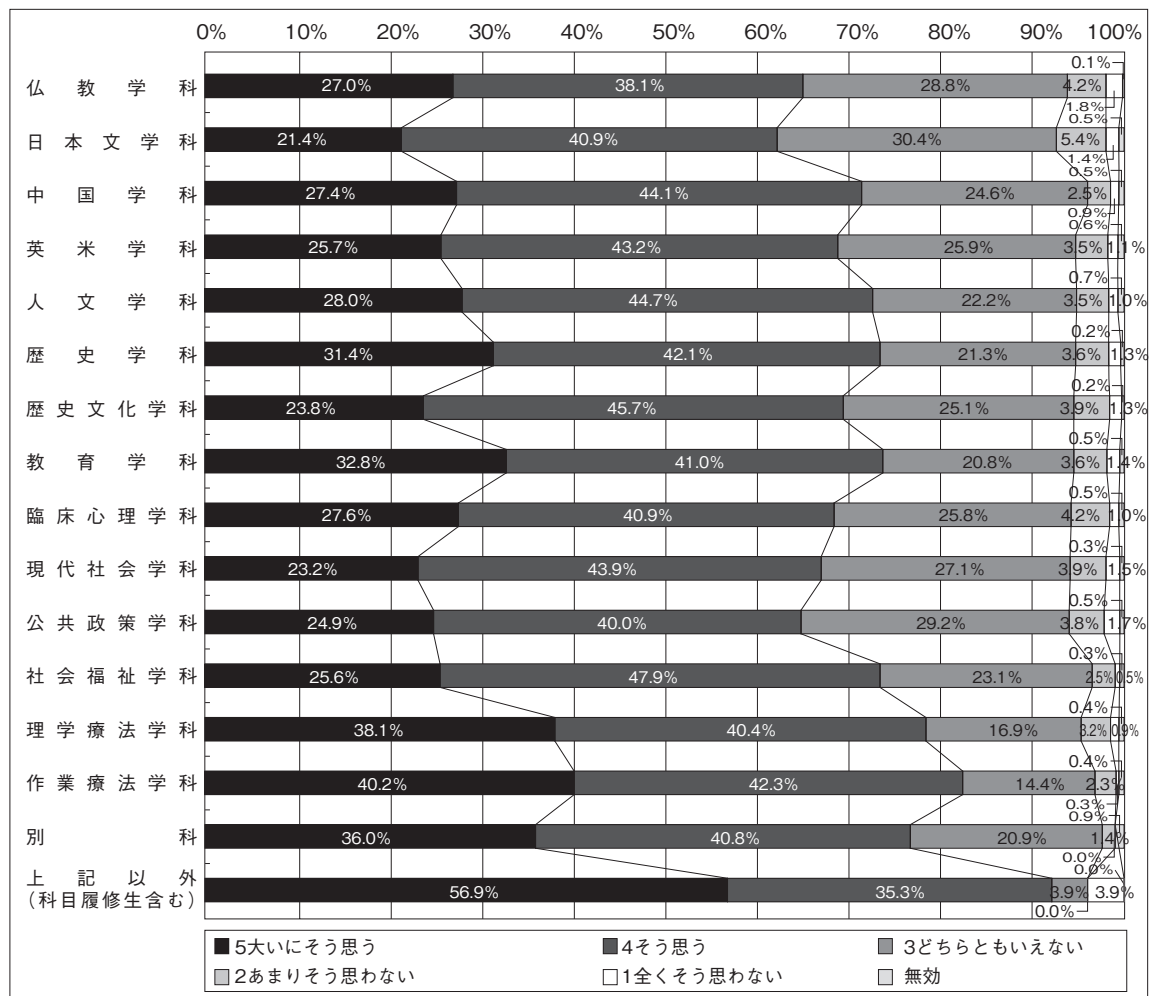
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	112	234	370	116	68	0	900
日 本 文 学 科	252	635	981	365	167	10	2,410
中 国 学 科	168	339	394	99	61	5	1,066
英 米 学 科	241	595	886	300	143	15	2,180
人 文 学 科	400	880	1,298	384	196	19	3,177
歴 史 学 科	286	689	948	321	212	8	2,464
歴史文化学科	124	380	614	205	112	5	1,440
教 育 学 科	512	1,118	1,513	523	328	20	4,014
臨床心理学科	188	427	557	254	125	6	1,557
現代社会学科	464	1,333	1,950	693	410	15	4,865
公共政策学科	348	637	1,097	393	293	11	2,779
社会福祉学科	550	1,706	2,918	988	562	32	6,756
理学療法学科	218	389	340	127	41	6	1,121
作業療法学科	160	365	393	108	36	4	1,066
別 科	32	32	92	29	25	1	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	24	17	8	0	2	0	51



Q1－(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	243	343	259	38	16	1	900
日 本 文 学 科	516	986	732	131	34	11	2,410
中 国 学 科	292	470	262	27	10	5	1,066
英 米 学 科	560	941	565	76	25	13	2,180
人 文 学 科	889	1,419	705	111	31	22	3,177
歴 史 学 科	774	1,038	525	89	32	6	2,464
歴史文化学科	343	658	361	56	19	3	1,440
教 育 学 科	1,316	1,644	834	143	56	21	4,014
臨床心理学科	430	637	401	65	16	8	1,557
現代社会学科	1,130	2,138	1,320	189	71	17	4,865
公共政策学科	691	1,111	811	105	46	15	2,779
社会福祉学科	1,731	3,239	1,564	167	35	20	6,756
理学療法学科	427	453	190	36	10	5	1,121
作業療法学科	429	451	154	25	3	4	1,066
別 科	76	86	44	3	0	2	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	29	18	2	0	2	0	51

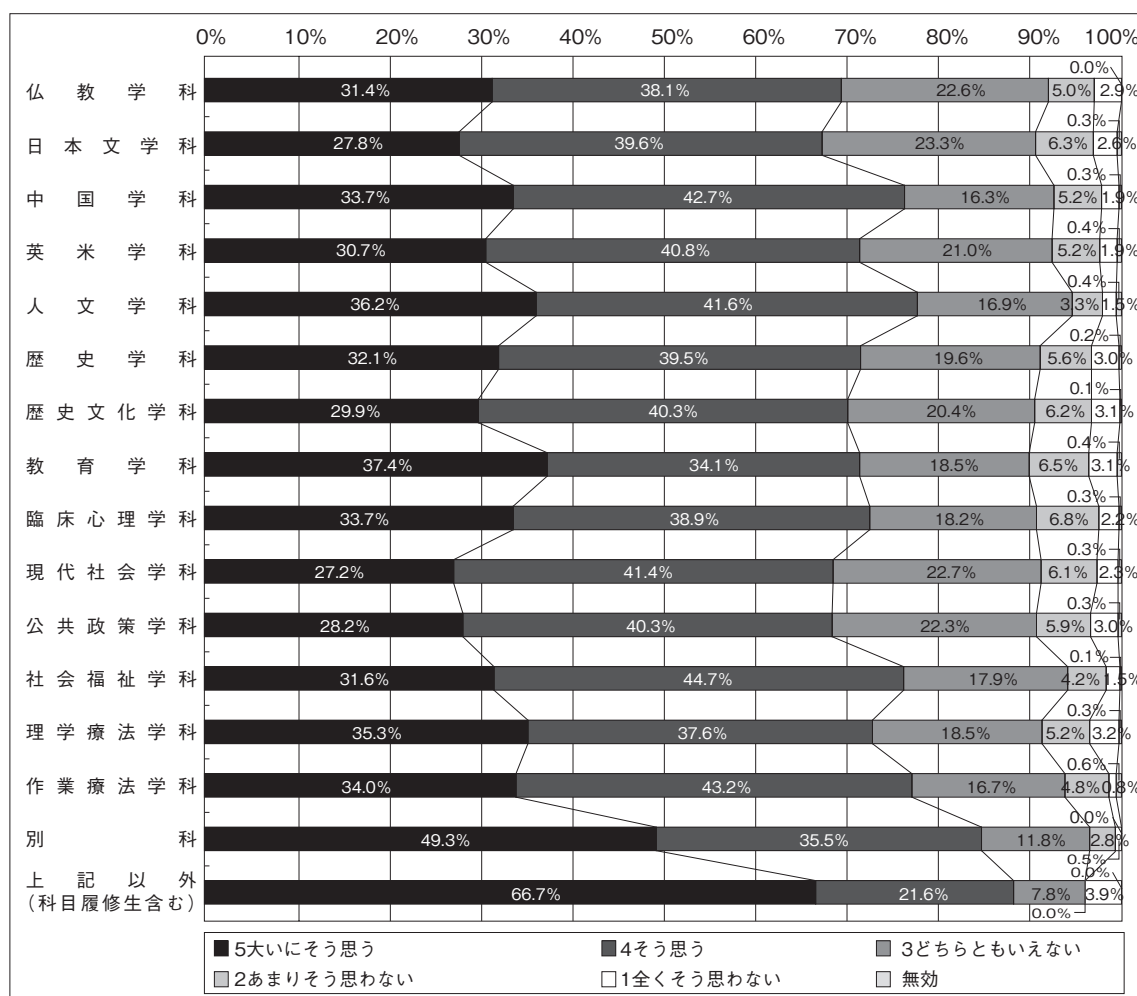


2. この授業の運営について

Q2－(1) わかりやすい授業であった

[単位：名（延べ）]

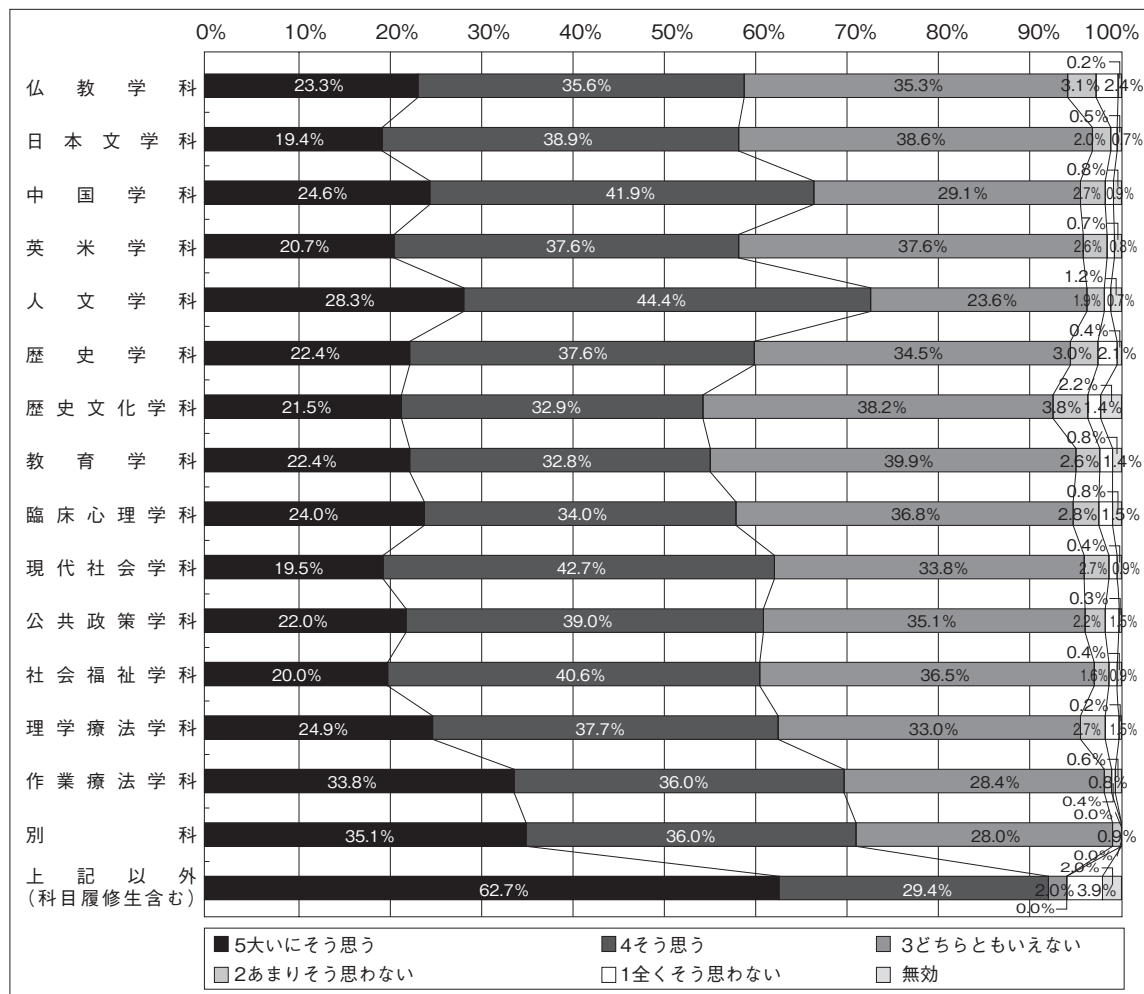
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	283	343	203	45	26	0	900
日 本 文 学 科	671	954	562	153	62	8	2,410
中 国 学 科	359	455	174	55	20	3	1,066
英 米 学 科	670	889	458	114	41	8	2,180
人 文 学 科	1,150	1,323	538	106	48	12	3,177
歴 史 学 科	791	973	482	138	74	6	2,464
歴史文化学科	430	581	294	89	44	2	1,440
教 育 学 科	1,500	1,369	742	261	126	16	4,014
臨床心理学科	525	605	283	106	34	4	1,557
現代社会学科	1,323	2,016	1,105	296	112	13	4,865
公共政策学科	785	1,120	619	164	83	8	2,779
社会福祉学科	2,136	3,019	1,208	281	102	10	6,756
理学療法学科	396	421	207	58	36	3	1,121
作業療法学科	362	461	178	51	8	6	1,066
別 科	104	75	25	6	1	0	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	34	11	4	0	2	0	51



Q2－(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名（延べ）]

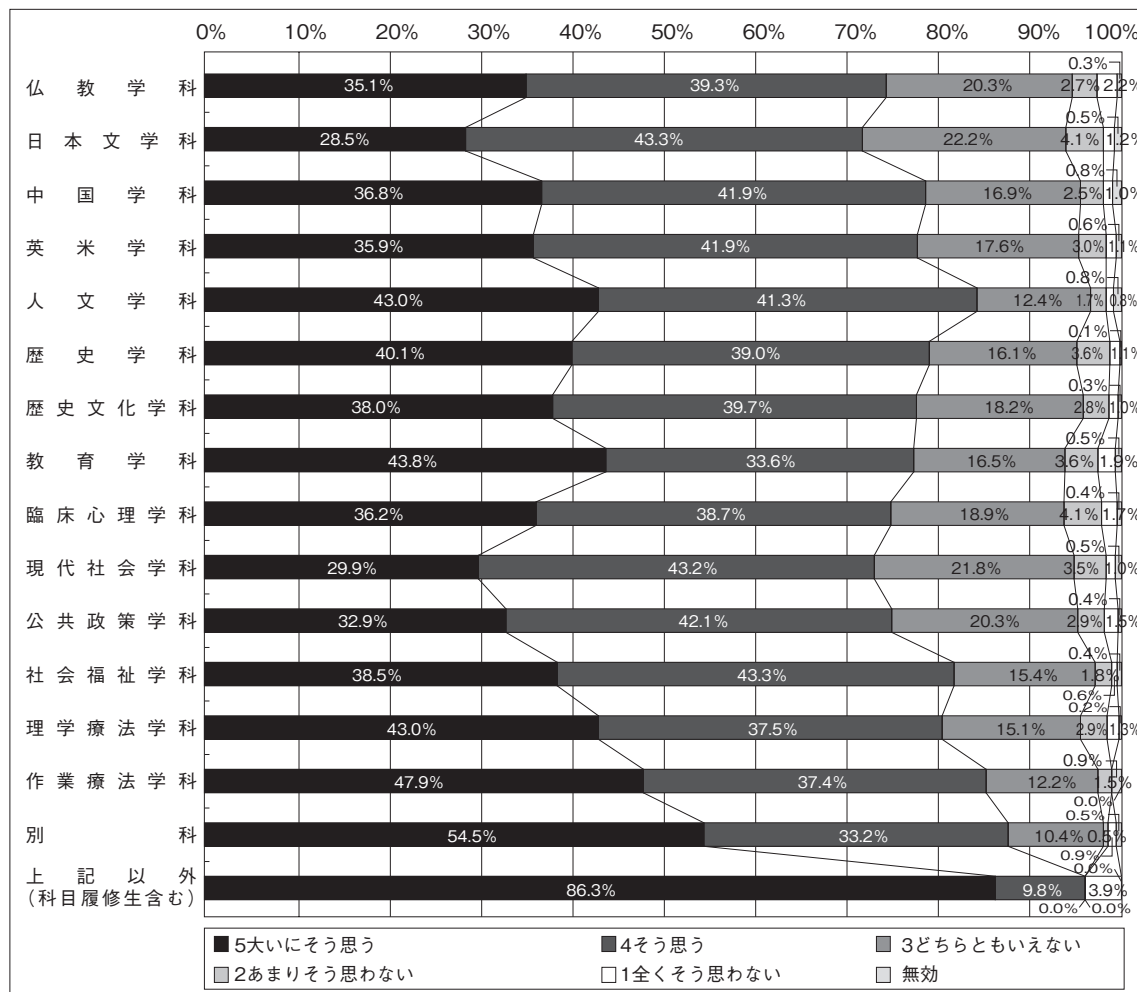
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	210	320	318	28	22	2	900
日 本 文 学 科	468	937	930	47	17	11	2,410
中 国 学 科	262	447	310	29	10	8	1,066
英 米 学 科	451	819	820	57	18	15	2,180
人 文 学 科	898	1,411	750	59	21	38	3,177
歴 史 学 科	552	926	849	75	52	10	2,464
歴史文化学科	310	474	550	55	20	31	1,440
教 育 学 科	900	1,318	1,603	105	56	32	4,014
臨床心理学科	374	530	573	44	24	12	1,557
現代社会学科	950	2,077	1,643	131	43	21	4,865
公共政策学科	610	1,083	976	60	41	9	2,779
社会福祉学科	1,353	2,741	2,468	107	58	29	6,756
理学療法学科	279	423	370	30	17	2	1,121
作業療法学科	360	384	303	9	4	6	1,066
別 科	74	76	59	2	0	0	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	32	15	1	0	2	1	51



Q2－(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名(延べ)]

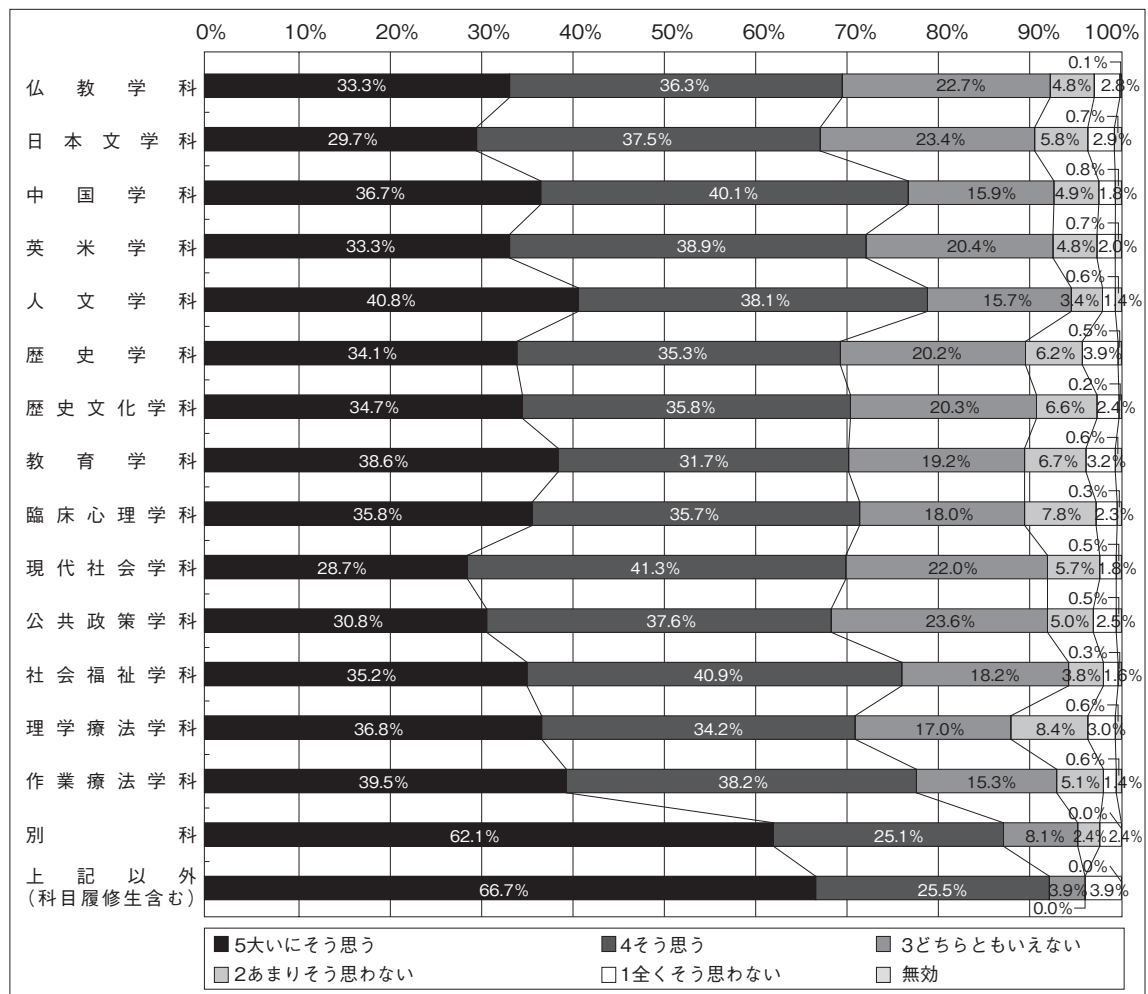
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	316	354	183	24	20	3	900
日 本 文 学 科	688	1,044	536	100	29	13	2,410
中 国 学 科	392	447	180	27	11	9	1,066
英 米 学 科	783	913	383	66	23	12	2,180
人 文 学 科	1,365	1,312	394	55	26	25	3,177
歴 史 学 科	988	961	396	89	27	3	2,464
歴史文化学科	547	571	262	41	15	4	1,440
教 育 学 科	1,758	1,348	663	146	77	22	4,014
臨床心理学科	563	603	294	64	27	6	1,557
現代社会学科	1,456	2,102	1,063	171	50	23	4,865
公共政策学科	913	1,169	563	81	42	11	2,779
社会福祉学科	2,602	2,928	1,038	123	39	26	6,756
理学療法学科	482	420	169	33	15	2	1,121
作業療法学科	511	399	130	16	0	10	1,066
別 科	115	70	22	1	2	1	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	44	5	0	0	2	0	51



Q2－(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名（延べ）]

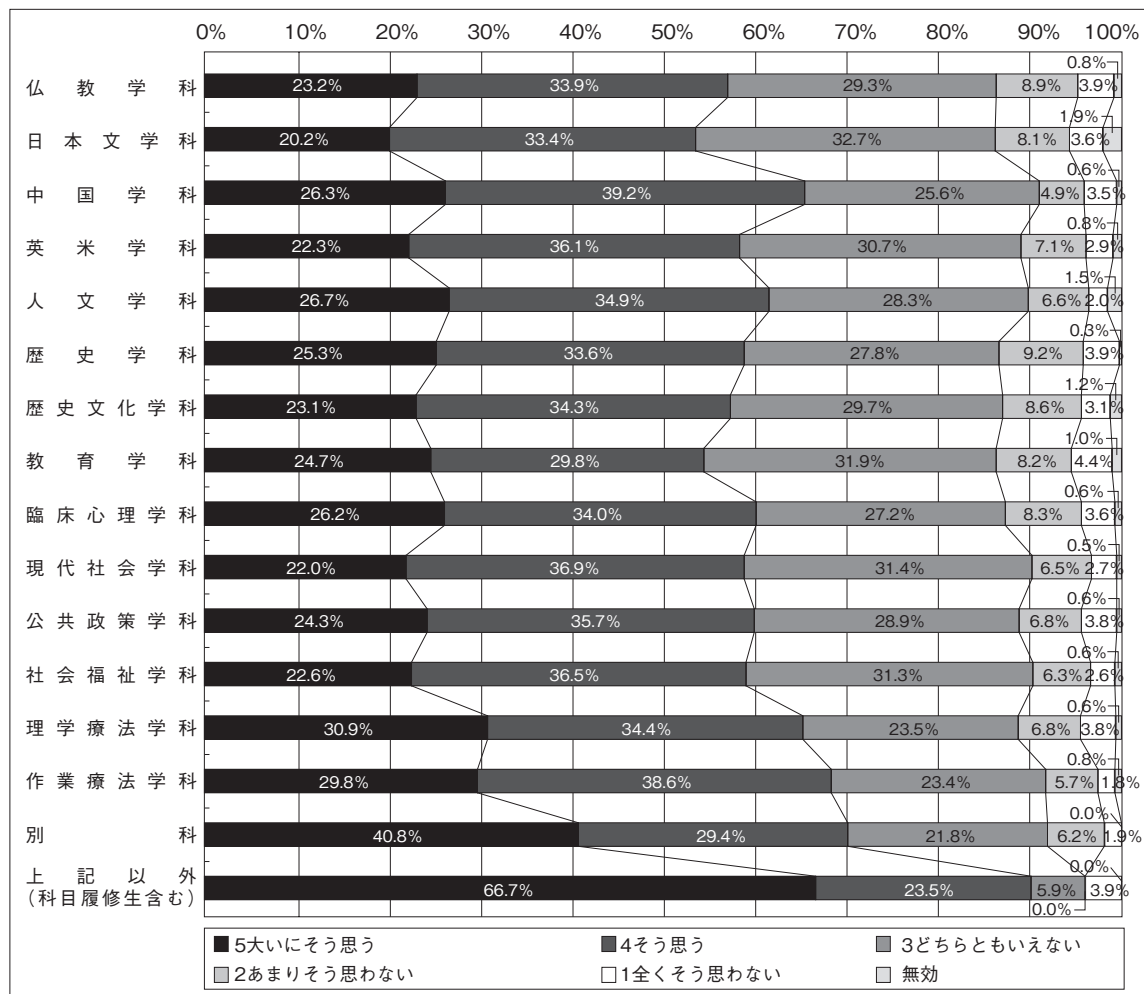
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	300	327	204	43	25	1	900
日 本 文 学 科	716	904	564	139	71	16	2,410
中 国 学 科	391	427	169	52	19	8	1,066
英 米 学 科	725	848	444	105	43	15	2,180
人 文 学 科	1,296	1,212	498	107	46	18	3,177
歴 史 学 科	839	869	497	152	95	12	2,464
歴史文化学科	499	516	292	95	35	3	1,440
教 育 学 科	1,549	1,272	772	268	128	25	4,014
臨床心理学科	558	556	280	122	36	5	1,557
現代社会学科	1,397	2,011	1,070	275	89	23	4,865
公共政策学科	856	1,046	657	138	69	13	2,779
社会福祉学科	2,377	2,764	1,227	255	110	23	6,756
理学療法学科	412	383	191	94	34	7	1,121
作業療法学科	421	407	163	54	15	6	1,066
別 科	131	53	17	5	5	0	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	34	13	2	0	2	0	51



Q2－(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

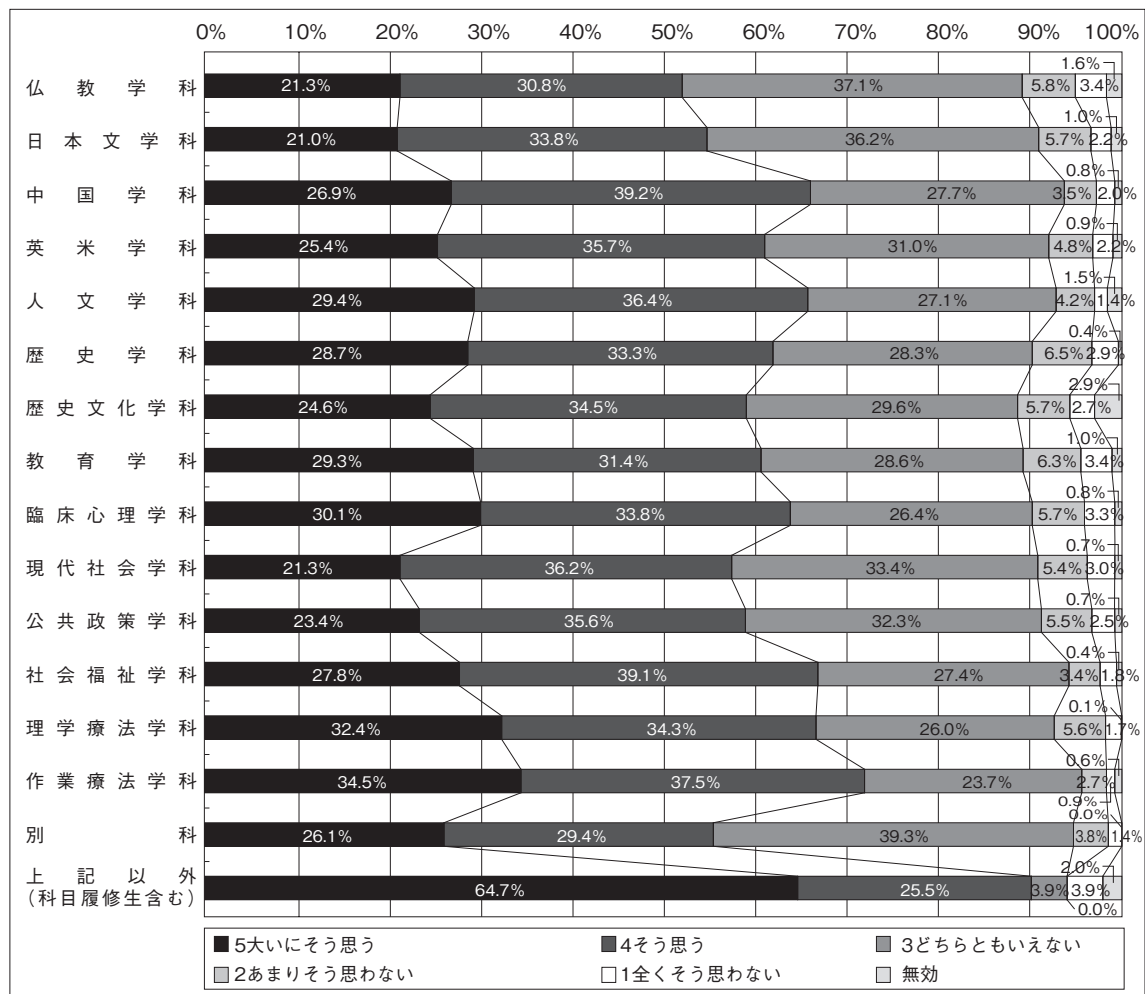
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	209	305	264	80	35	7	900
日 本 文 学 科	488	806	789	196	86	45	2,410
中 国 学 科	280	418	273	52	37	6	1,066
英 米 学 科	486	788	670	155	64	17	2,180
人 文 学 科	849	1,110	900	209	62	47	3,177
歴 史 学 科	623	828	684	226	95	8	2,464
歴史文化学科	332	494	428	124	45	17	1,440
教 育 学 科	993	1,198	1,280	329	175	39	4,014
臨床心理学科	408	530	424	130	56	9	1,557
現代社会学科	1,070	1,794	1,526	318	131	26	4,865
公共政策学科	674	991	804	188	106	16	2,779
社会福祉学科	1,529	2,466	2,114	427	179	41	6,756
理学療法学科	346	386	263	76	43	7	1,121
作業療法学科	318	411	249	61	19	8	1,066
別 科	86	62	46	13	4	0	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	34	12	3	0	2	0	51



Q2－(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

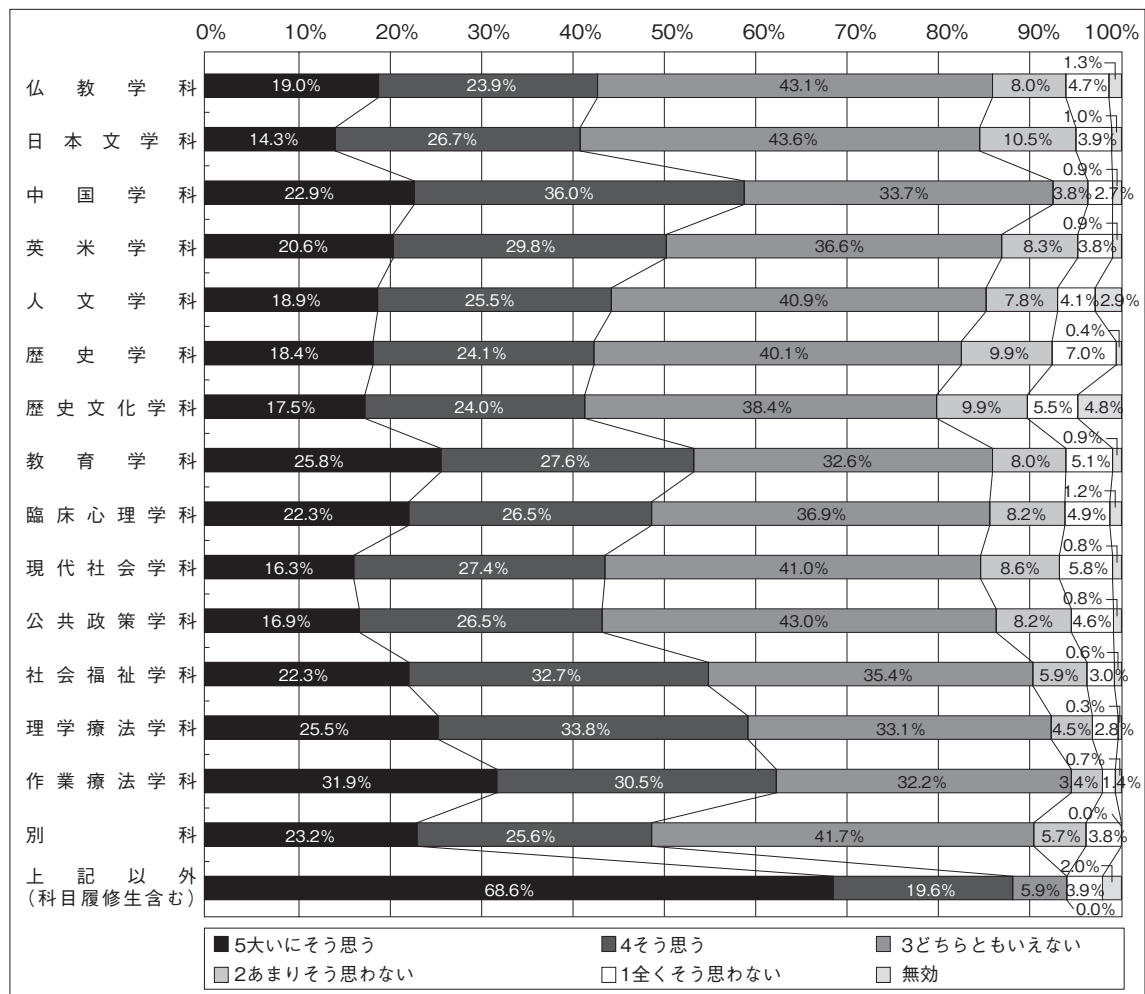
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	192	277	334	52	31	14	900
日 本 文 学 科	506	815	873	138	54	24	2,410
中 国 学 科	287	418	295	37	21	8	1,066
英 米 学 科	553	779	675	105	49	19	2,180
人 文 学 科	933	1,156	861	132	46	49	3,177
歴 史 学 科	706	821	697	159	72	9	2,464
歴史文化学科	354	497	426	82	39	42	1,440
教 育 学 科	1,176	1,261	1,150	253	135	39	4,014
臨床心理学科	468	527	411	88	51	12	1,557
現代社会学科	1,036	1,763	1,623	265	144	34	4,865
公共政策学科	651	989	897	153	70	19	2,779
社会福祉学科	1,881	2,644	1,849	233	120	29	6,756
理学療法学科	363	384	291	63	19	1	1,121
作業療法学科	368	400	253	29	10	6	1,066
別 科	55	62	83	8	3	0	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	33	13	2	0	2	1	51



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

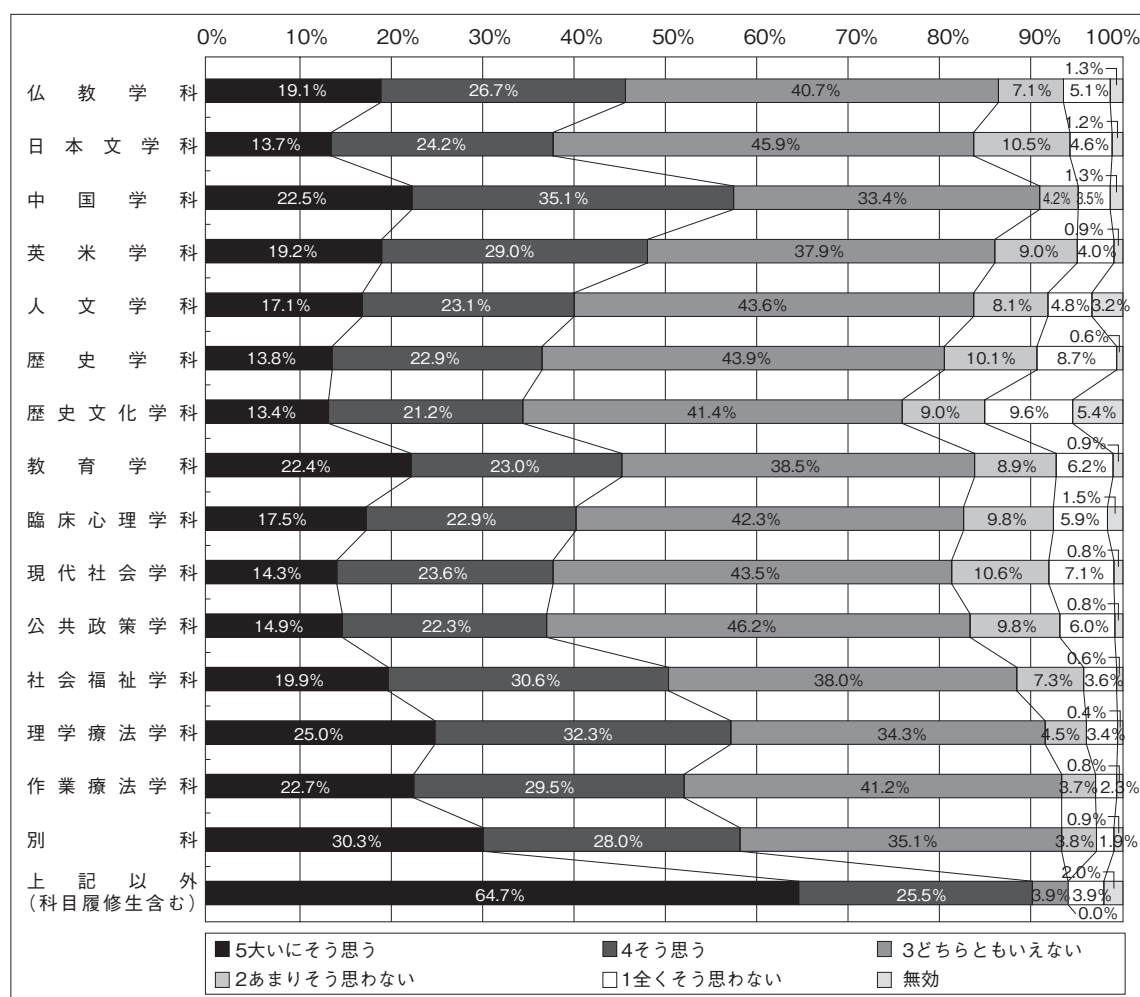
[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	171	215	388	72	42	12	900
日 本 文 学 科	345	644	1,051	252	95	23	2,410
中 国 学 科	244	384	359	40	29	10	1,066
英 米 学 科	450	650	798	181	82	19	2,180
人 文 学 科	602	809	1,299	247	129	91	3,177
歴 史 学 科	453	594	989	244	173	11	2,464
歴史文化学科	252	345	553	142	79	69	1,440
教 育 学 科	1,036	1,109	1,309	320	203	37	4,014
臨床心理学科	347	413	574	128	77	18	1,557
現代社会学科	795	1,331	1,997	420	281	41	4,865
公共政策学科	470	736	1,196	227	127	23	2,779
社会福祉学科	1,508	2,208	2,395	399	206	40	6,756
理学療法学科	286	379	371	51	31	3	1,121
作業療法学科	340	325	343	36	15	7	1,066
別 科	49	54	88	12	8	0	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	35	10	3	0	2	1	51



Q2－(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）” 含む）に工夫がみられた [単位：名（延べ）]

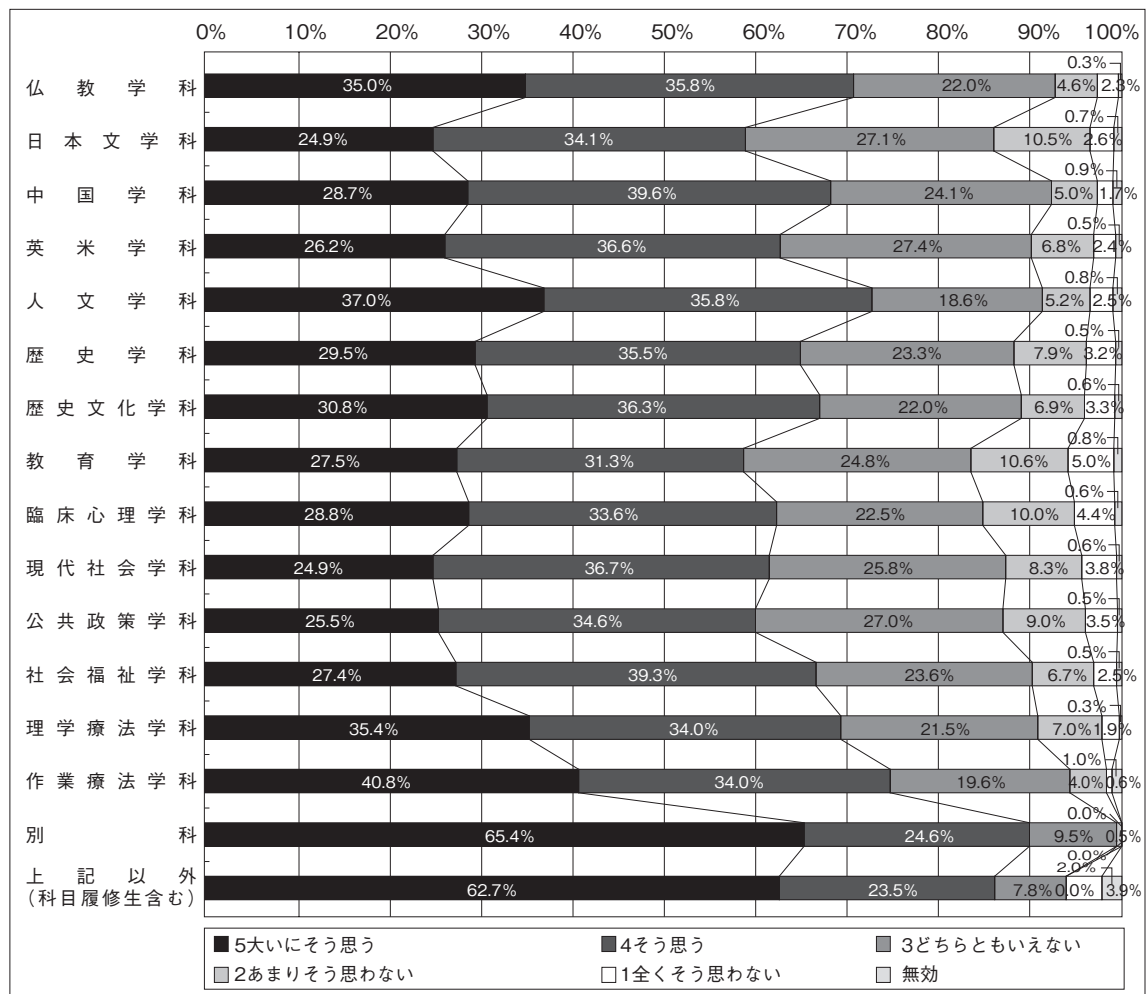
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	172	240	366	64	46	12	900
日 本 文 学 科	330	583	1,105	253	110	29	2,410
中 国 学 科	240	374	356	45	37	14	1,066
英 米 学 科	419	632	826	197	87	19	2,180
人 文 学 科	544	734	1,386	258	153	102	3,177
歴 史 学 科	340	565	1,081	249	214	15	2,464
歴史文化学科	193	305	596	130	138	78	1,440
教 育 学 科	901	924	1,545	359	248	37	4,014
臨床心理学科	273	357	658	153	92	24	1,557
現代社会学科	697	1,148	2,118	517	344	41	4,865
公共政策学科	413	619	1,284	272	168	23	2,779
社会福祉学科	1,344	2,069	2,567	494	244	38	6,756
理学療法学科	280	362	385	51	38	5	1,121
作業療法学科	242	314	439	39	24	8	1,066
別 科	64	59	74	8	4	2	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	33	13	2	0	2	1	51



Q2－(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた

[単位：名（延べ）]

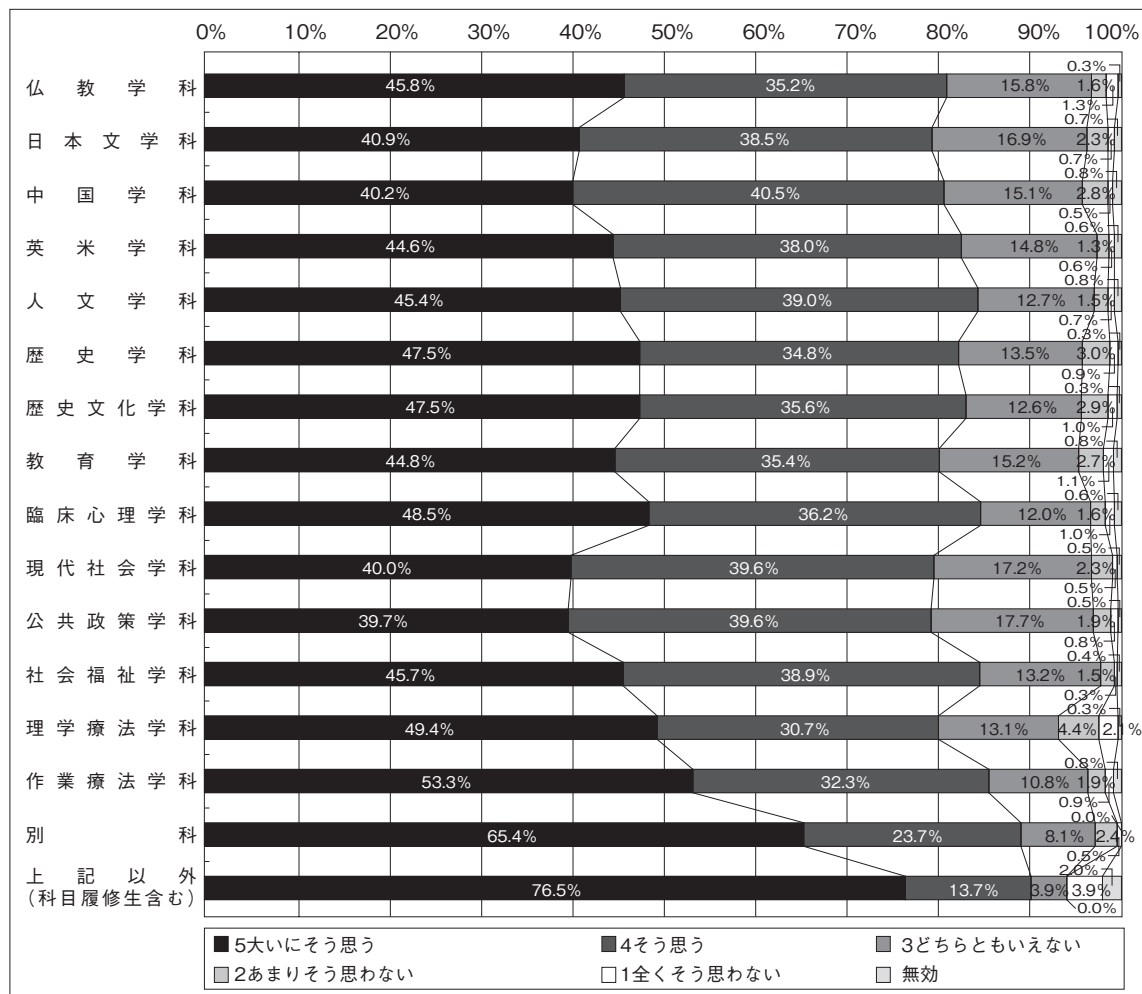
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	315	322	198	41	21	3	900
日 本 文 学 科	601	823	653	254	62	17	2,410
中 国 学 科	306	422	257	53	18	10	1,066
英 米 学 科	572	797	598	149	53	11	2,180
人 文 学 科	1,176	1,138	592	166	81	24	3,177
歴 史 学 科	728	875	575	194	79	13	2,464
歴史文化学科	443	523	317	100	48	9	1,440
教 育 学 科	1,103	1,257	994	424	202	34	4,014
臨床心理学科	449	523	351	156	68	10	1,557
現代社会学科	1,211	1,785	1,254	404	184	27	4,865
公共政策学科	708	962	749	249	98	13	2,779
社会福祉学科	1,854	2,655	1,594	454	168	31	6,756
理学療法学科	397	381	241	78	21	3	1,121
作業療法学科	435	362	209	43	6	11	1,066
別 科	138	52	20	1	0	0	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	32	12	4	0	2	1	51



Q2－(10) 授業時間が守られていた

[単位：名（延べ）]

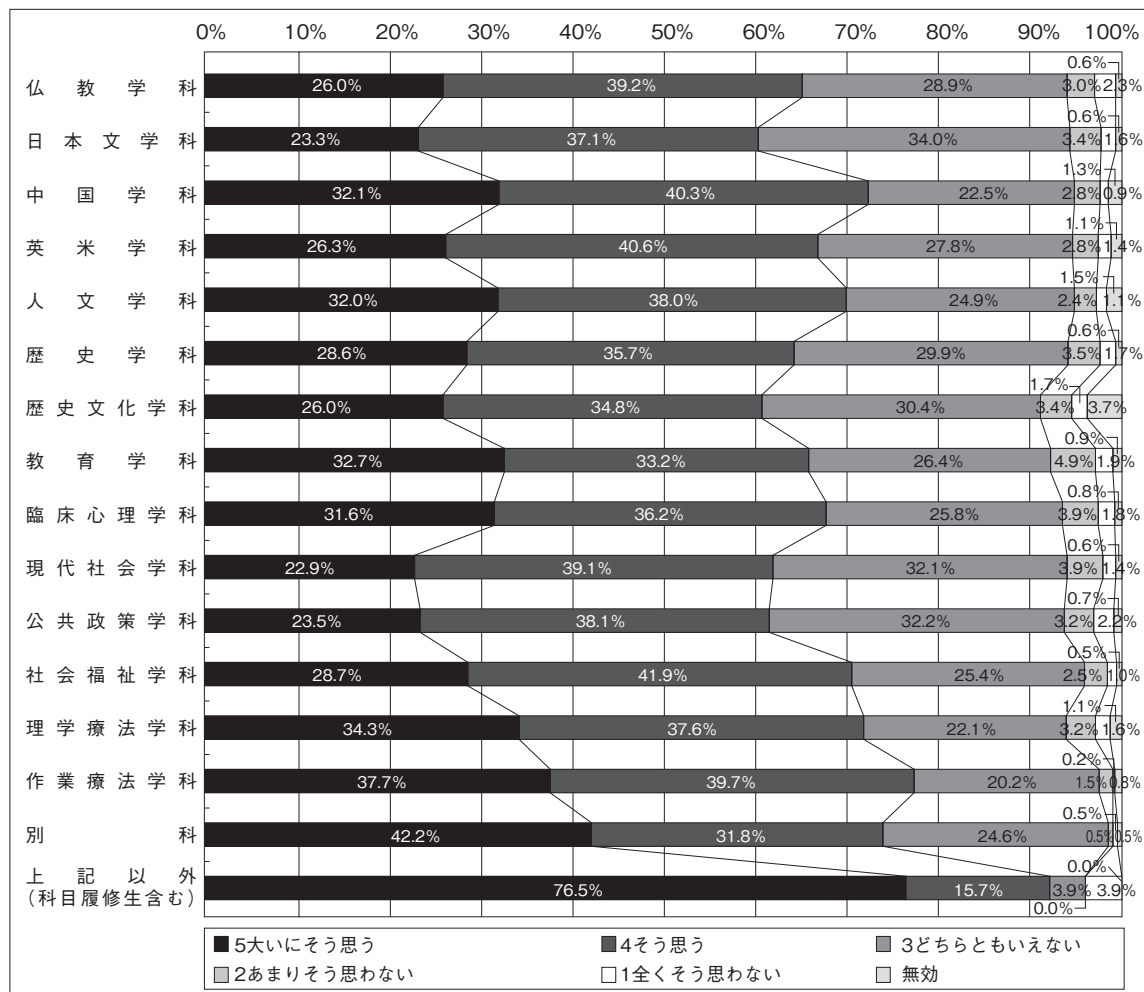
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	412	317	142	14	12	3	900
日 本 文 学 科	985	927	408	55	18	17	2,410
中 国 学 科	429	432	161	30	5	9	1,066
英 米 学 科	973	829	323	29	12	14	2,180
人 文 学 科	1,441	1,239	404	47	21	25	3,177
歴 史 学 科	1,171	857	332	73	23	8	2,464
歴史文化学科	684	513	182	42	14	5	1,440
教 育 学 科	1,799	1,419	609	109	45	33	4,014
臨床心理学科	755	564	187	25	16	10	1,557
現代社会学科	1,944	1,926	837	110	26	22	4,865
公共政策学科	1,102	1,100	491	52	21	13	2,779
社会福祉学科	3,088	2,627	891	100	23	27	6,756
理学療法学科	554	344	147	49	24	3	1,121
作業療法学科	568	344	115	20	10	9	1,066
別 科	138	50	17	5	1	0	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	39	7	2	0	2	1	51



Q2－(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	234	353	260	27	21	5	900
日 本 文 学 科	562	895	819	81	38	15	2,410
中 国 学 科	342	430	240	30	10	14	1,066
英 米 学 科	574	884	606	61	31	24	2,180
人 文 学 科	1,017	1,208	792	75	36	49	3,177
歴 史 学 科	704	880	737	87	41	15	2,464
歴史文化学科	375	501	438	49	24	53	1,440
教 育 学 科	1,312	1,334	1,058	195	78	37	4,014
臨床心理学科	492	563	401	61	28	12	1,557
現代社会学科	1,115	1,904	1,561	189	69	27	4,865
公共政策学科	654	1,060	895	90	61	19	2,779
社会福祉学科	1,936	2,831	1,714	172	70	33	6,756
理学療法学科	385	422	248	36	18	12	1,121
作業療法学科	402	423	215	16	2	8	1,066
別 科	89	67	52	1	1	1	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	39	8	2	0	2	0	51

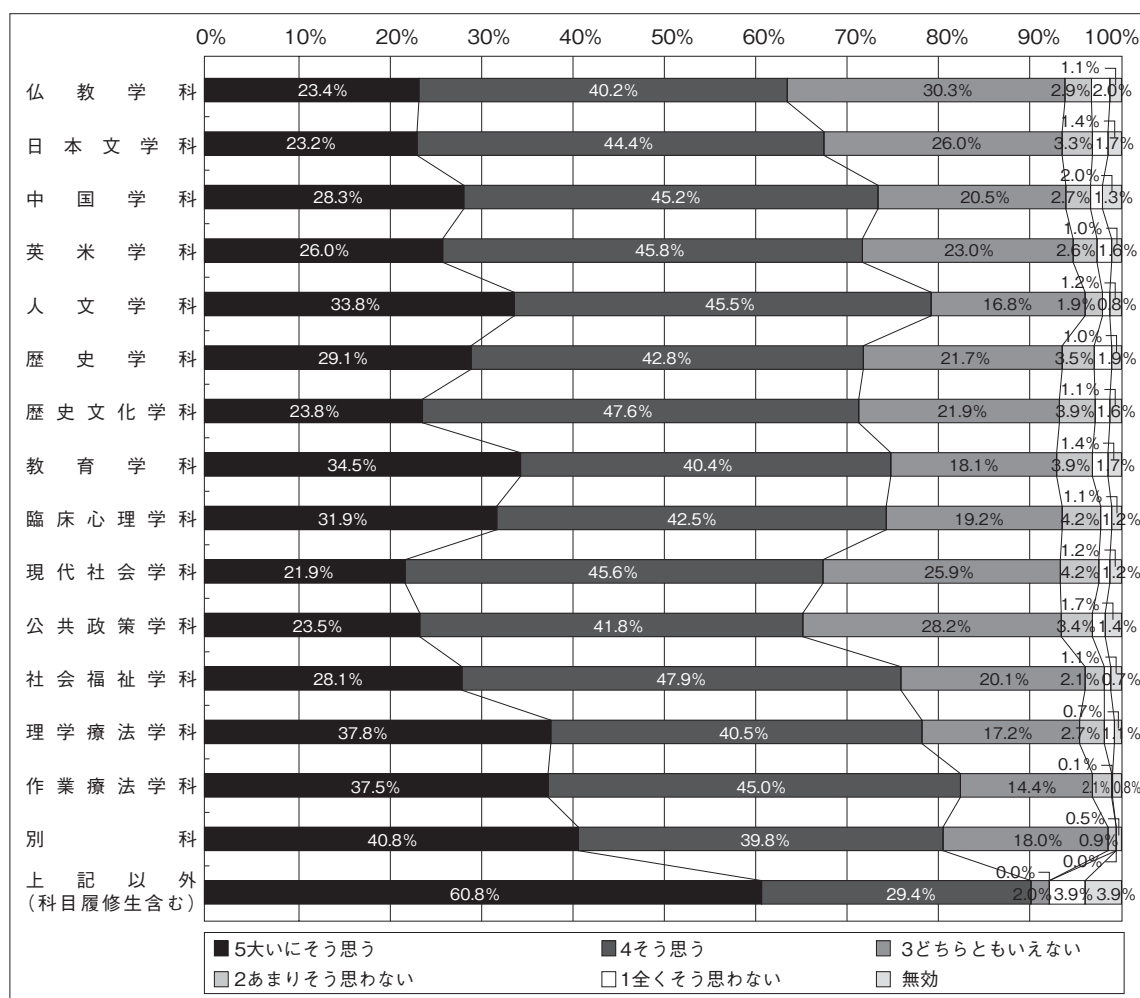


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3－(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名(延べ)]

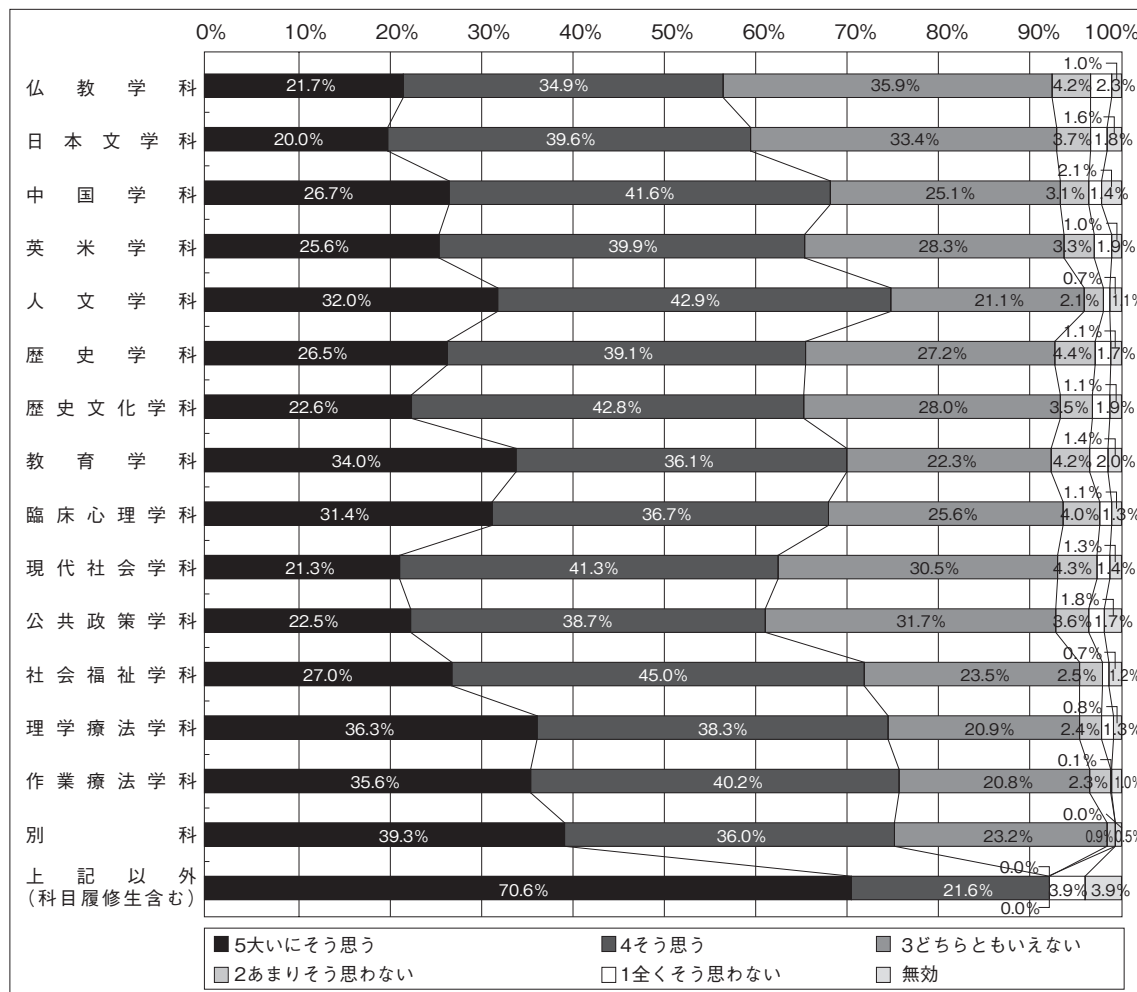
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	211	362	273	26	18	10	900
日 本 文 学 科	558	1,070	627	80	42	33	2,410
中 国 学 科	302	482	218	29	14	21	1,066
英 米 学 科	567	999	501	57	35	21	2,180
人 文 学 科	1,075	1,447	534	60	24	37	3,177
歴 史 学 科	717	1,054	535	87	46	25	2,464
歴史文化学科	343	686	316	56	23	16	1,440
教 育 学 科	1,384	1,623	727	156	69	55	4,014
臨床心理学科	497	661	299	65	18	17	1,557
現代社会学科	1,066	2,220	1,259	202	60	58	4,865
公共政策学科	652	1,161	784	95	40	47	2,779
社会福祉学科	1,899	3,238	1,355	142	47	75	6,756
理学療法学科	424	454	193	30	12	8	1,121
作業療法学科	400	480	154	22	1	9	1,066
別 科	86	84	38	2	0	1	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	31	15	1	0	2	2	51



Q3－(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名(延べ)]

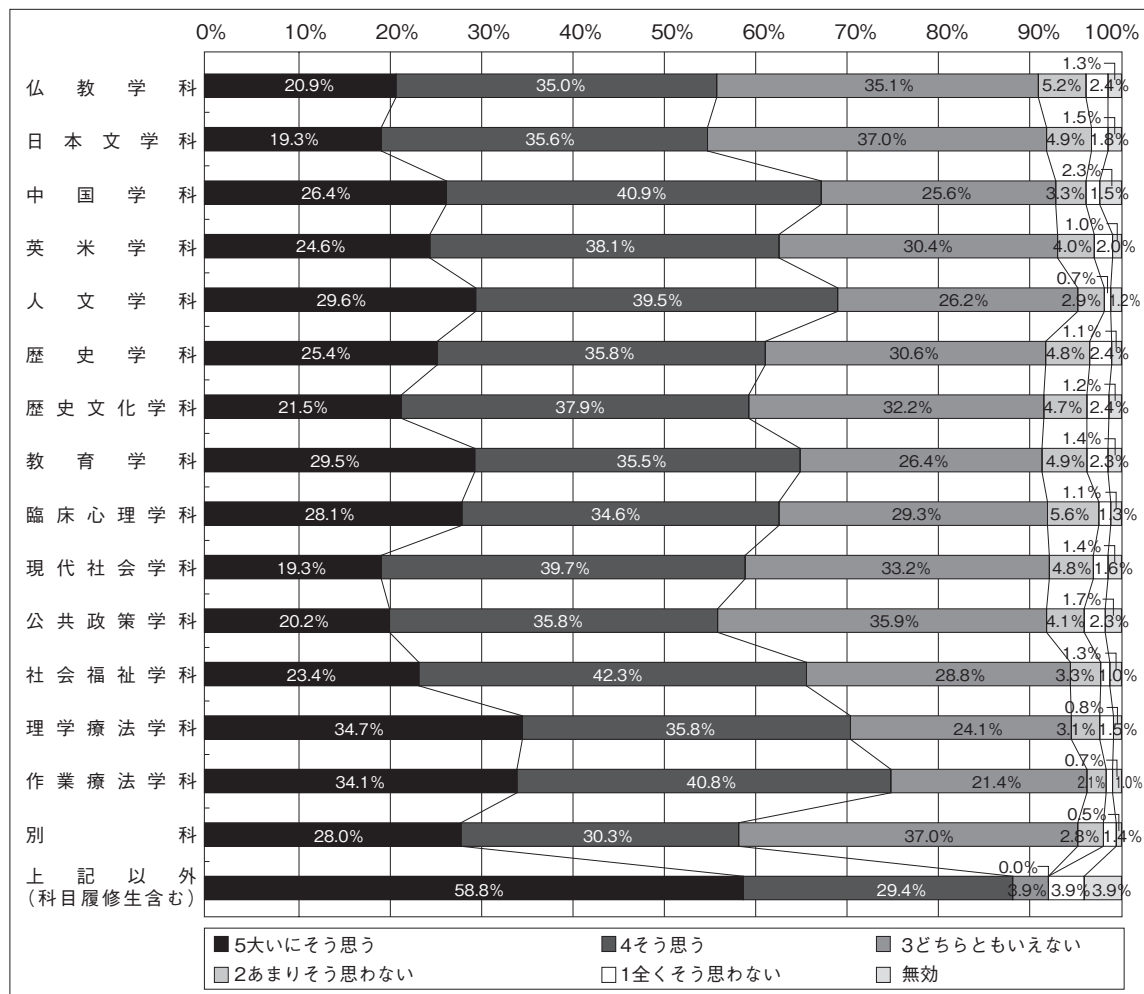
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	195	314	323	38	21	9	900
日 本 文 学 科	481	954	804	88	44	39	2,410
中 国 学 科	285	443	268	33	15	22	1,066
英 米 学 科	558	869	618	72	42	21	2,180
人 文 学 科	1,016	1,364	670	68	23	36	3,177
歴 史 学 科	654	963	670	109	41	27	2,464
歴史文化学科	326	617	403	51	27	16	1,440
教 育 学 科	1,363	1,449	896	168	80	58	4,014
臨床心理学科	489	571	398	62	20	17	1,557
現代社会学科	1,035	2,008	1,484	207	70	61	4,865
公共政策学科	626	1,076	880	100	48	49	2,779
社会福祉学科	1,824	3,041	1,590	170	48	83	6,756
理学療法学科	407	429	234	27	15	9	1,121
作業療法学科	379	428	222	25	1	11	1,066
別 科	83	76	49	2	0	1	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	36	11	0	0	2	2	51



Q3－(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名(延べ)]

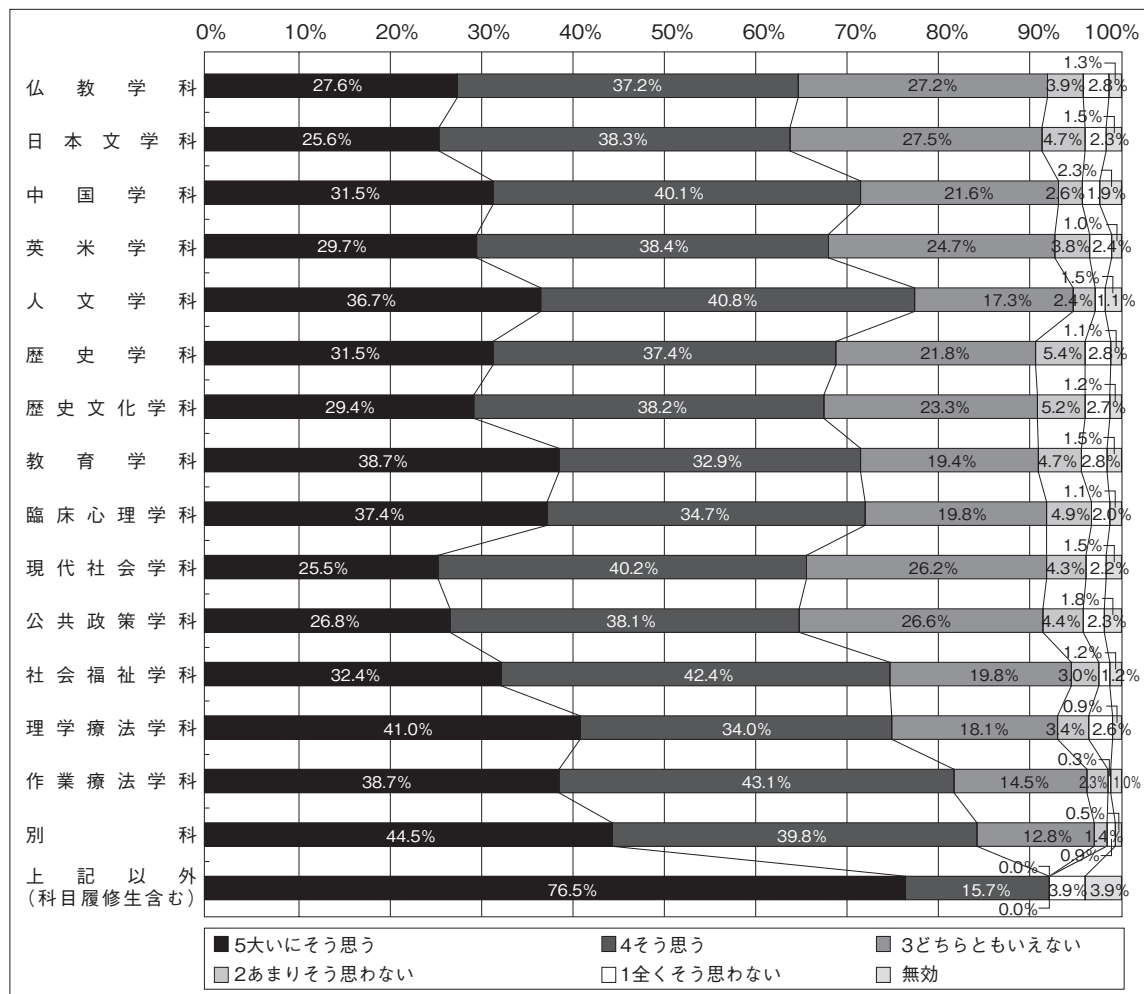
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	188	315	316	47	22	12	900
日 本 文 学 科	465	857	891	118	43	36	2,410
中 国 学 科	281	436	273	35	16	25	1,066
英 米 学 科	536	831	662	87	43	21	2,180
人 文 学 科	939	1,254	833	92	22	37	3,177
歴 史 学 科	627	881	753	118	59	26	2,464
歴史文化学科	310	546	464	68	35	17	1,440
教 育 学 科	1,183	1,424	1,061	198	91	57	4,014
臨床心理学科	438	539	456	87	20	17	1,557
現代社会学科	940	1,930	1,616	234	79	66	4,865
公共政策学科	562	995	999	114	63	46	2,779
社会福祉学科	1,578	2,860	1,943	223	67	85	6,756
理学療法学科	389	401	270	35	17	9	1,121
作業療法学科	363	435	228	22	7	11	1,066
別 科	59	64	78	6	3	1	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	30	15	2	0	2	2	51



Q3－(4) 総合的にみてこの授業に満足えた

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	248	335	245	35	25	12	900
日 本 文 学 科	618	924	663	113	55	37	2,410
中 国 学 科	336	427	230	28	20	25	1,066
英 米 学 科	648	837	539	82	53	21	2,180
人 文 学 科	1,167	1,297	551	77	36	49	3,177
歴 史 学 科	776	922	538	134	68	26	2,464
歴史文化学科	424	550	335	75	39	17	1,440
教 育 学 科	1,553	1,321	778	189	112	61	4,014
臨床心理学科	583	541	308	77	31	17	1,557
現代社会学科	1,243	1,958	1,277	210	106	71	4,865
公共政策学科	745	1,058	740	123	63	50	2,779
社会福祉学科	2,186	2,863	1,341	202	80	84	6,756
理学療法学科	460	381	203	38	29	10	1,121
作業療法学科	413	459	155	25	3	11	1,066
別 科	94	84	27	3	2	1	211
上 記 以 外 (科目履修生含む)	39	8	0	0	2	2	51



2011 年度 春学期 授業アンケート 開講科目種別集計

科目種別は以下の3分割で分類しています。

共通科目：全学共通科目の仏教・自校教育・リテラシー・キャリア・スポーツ・総合

外国語科目：全学共通科目の外国語科目

専門基礎科目：専門基礎科目

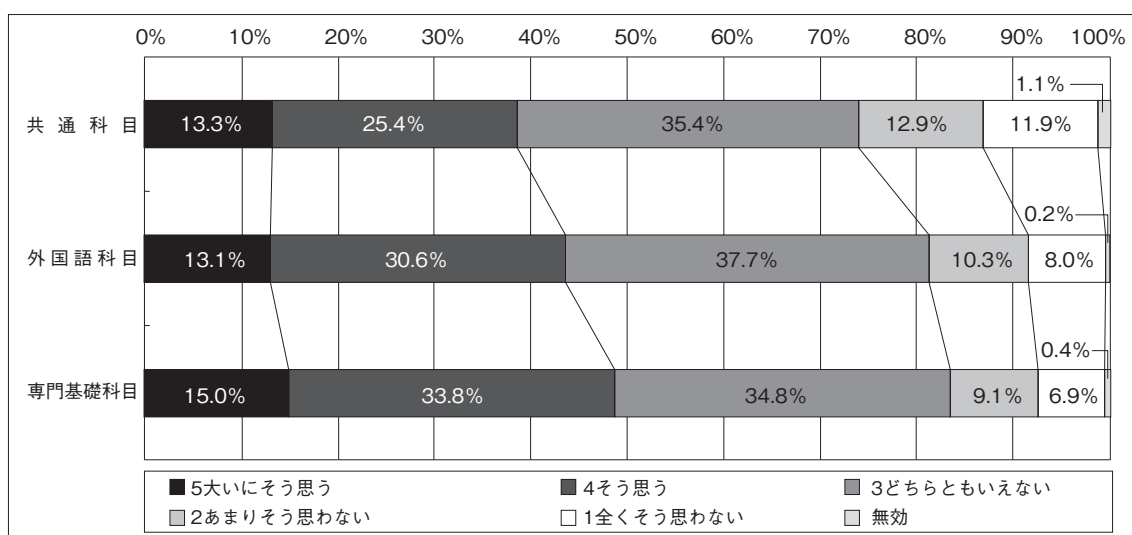
※学部基幹科目・学科基礎科目・コース科目・発展科目は学部集計で集計しています。

1. あなた自身の取り組みについて

Q1ー(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名(延べ)]

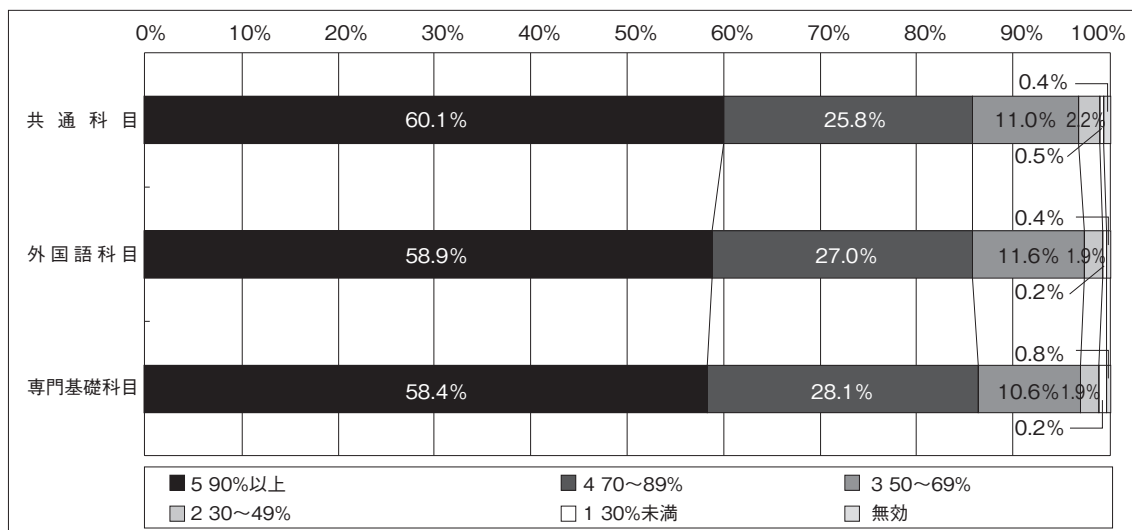
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	249	478	665	243	224	20	1,879
外国語科目	816	1,904	2,343	641	499	12	6,215
専門基礎科目	545	1,233	1,269	332	251	13	3,643



Q1－(2) これまでの授業の出席率

[単位：名（延べ）]

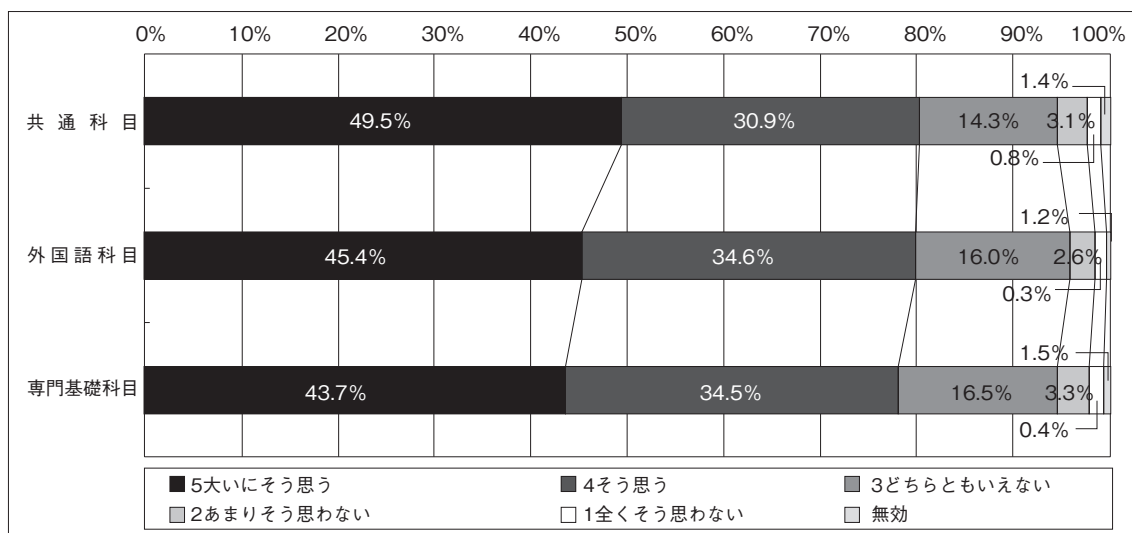
	5 90%以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30%未満	無効	合計
共 通 科 目	1,130	485	206	42	7	9	1,879
外 国 語 科 目	3,659	1,681	719	121	25	10	6,215
専門基礎科目	2,129	1,022	385	69	29	9	3,643



Q1－(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった

[単位：名（延べ）]

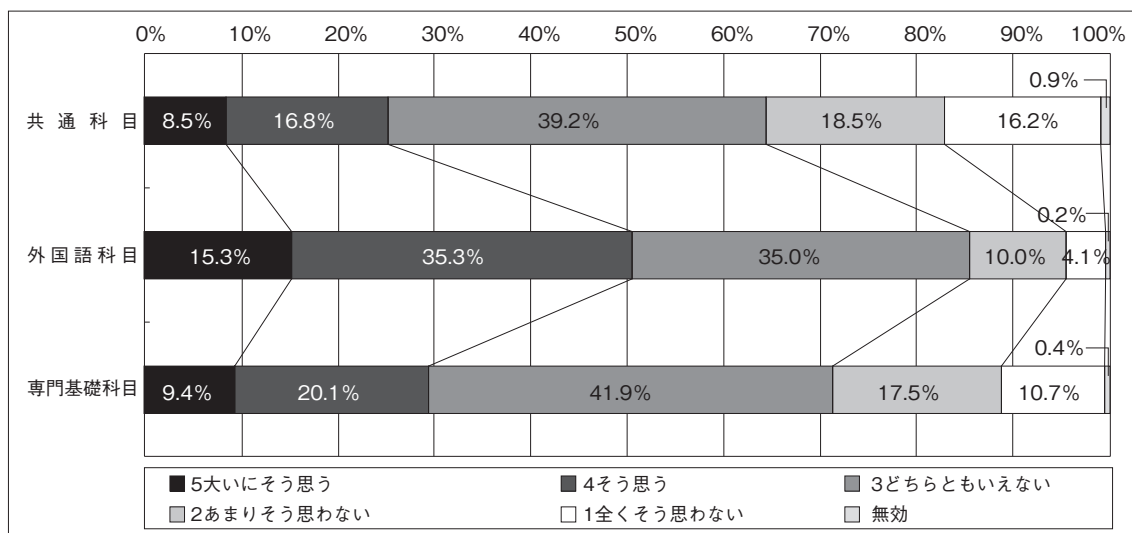
	5 大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
共 通 科 目	930	580	269	58	27	15	1,879
外 国 語 科 目	2,821	2,153	993	159	72	17	6,215
専門基礎科目	1,593	1,257	602	122	54	15	3,643



Q1－(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名(延べ)]

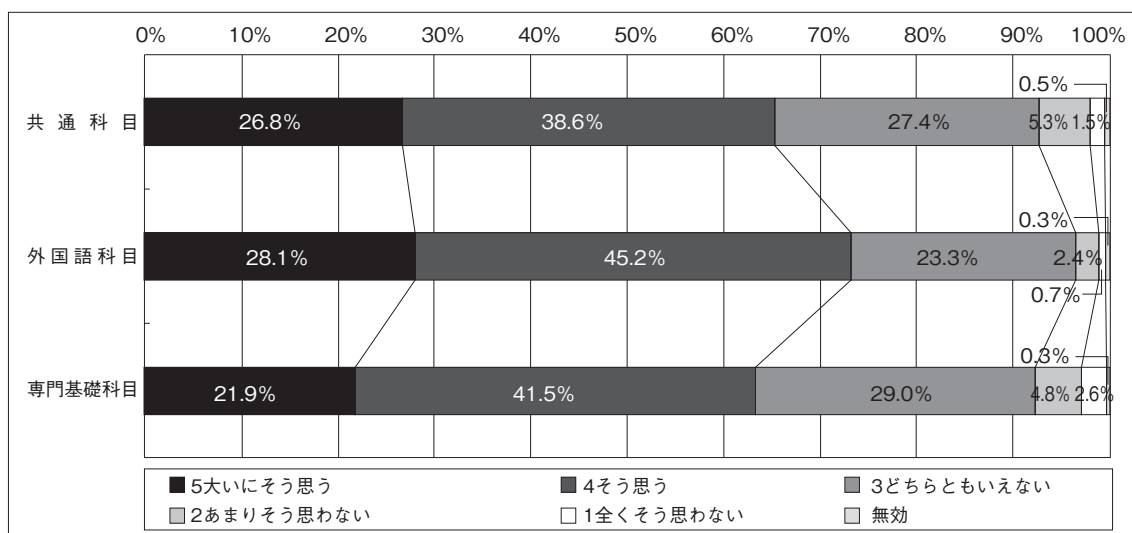
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共 通 科 目	159	315	736	348	304	17	1,879
外 国 語 科 目	954	2,197	2,174	623	252	15	6,215
専門基礎科目	342	733	1,527	637	391	13	3,643



Q1－(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共 通 科 目	503	725	514	99	29	9	1,879
外 国 語 科 目	1,744	2,812	1,447	152	43	17	6,215
専門基礎科目	796	1,512	1,056	175	94	10	3,643

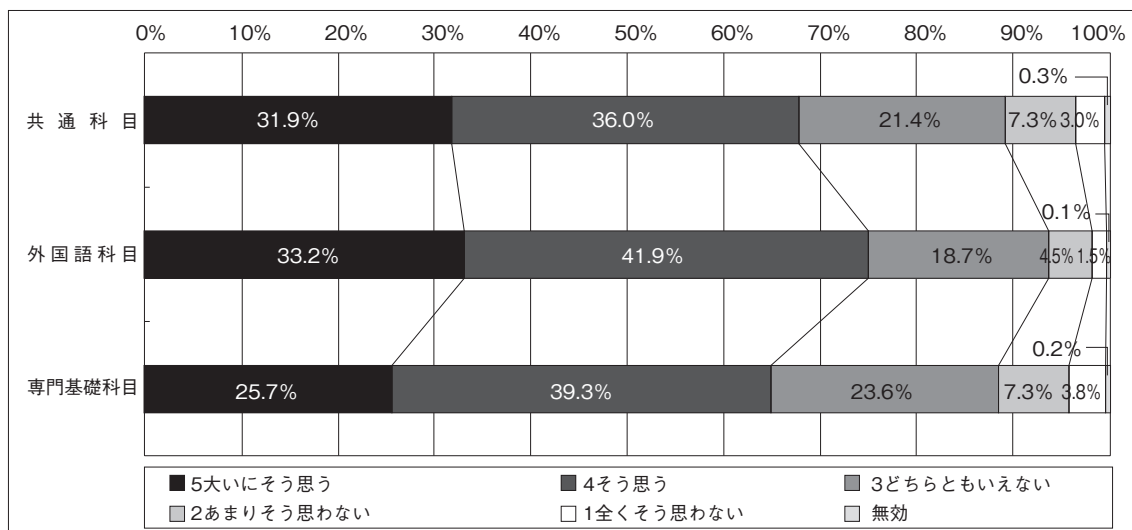


2. この授業の運営について

Q2－(1) わかりやすい授業であった

[単位：名（延べ）]

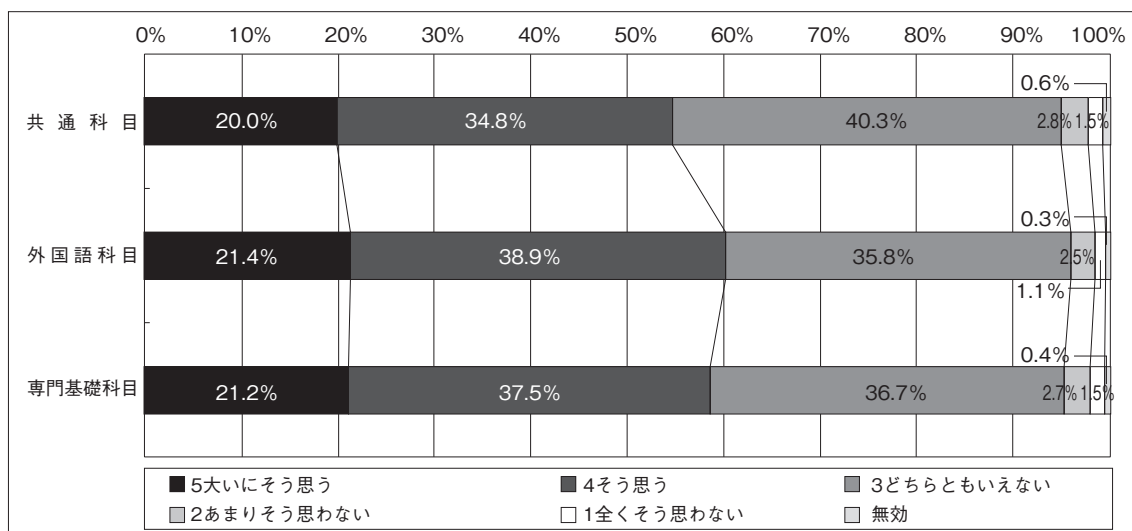
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	600	676	403	137	57	6	1,879
外 国 語 科 目	2,063	2,605	1,162	280	96	9	6,215
専門基礎科目	938	1,433	860	265	139	8	3,643



Q2－(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名（延べ）]

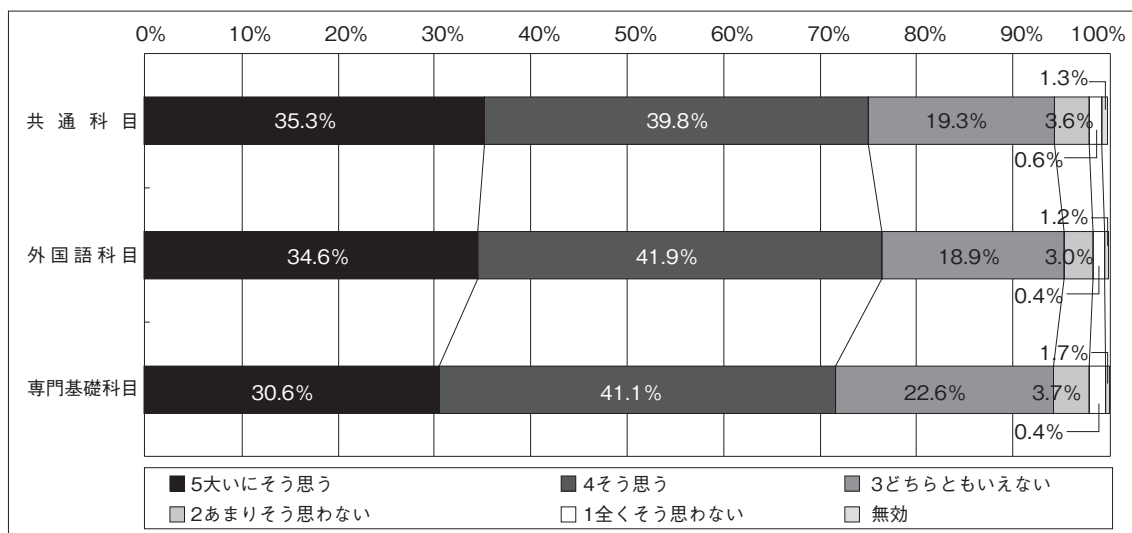
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	375	654	757	53	29	11	1,879
外 国 語 科 目	1,331	2,415	2,225	155	69	20	6,215
専門基礎科目	774	1,365	1,337	98	53	16	3,643



Q2－(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名（延べ）]

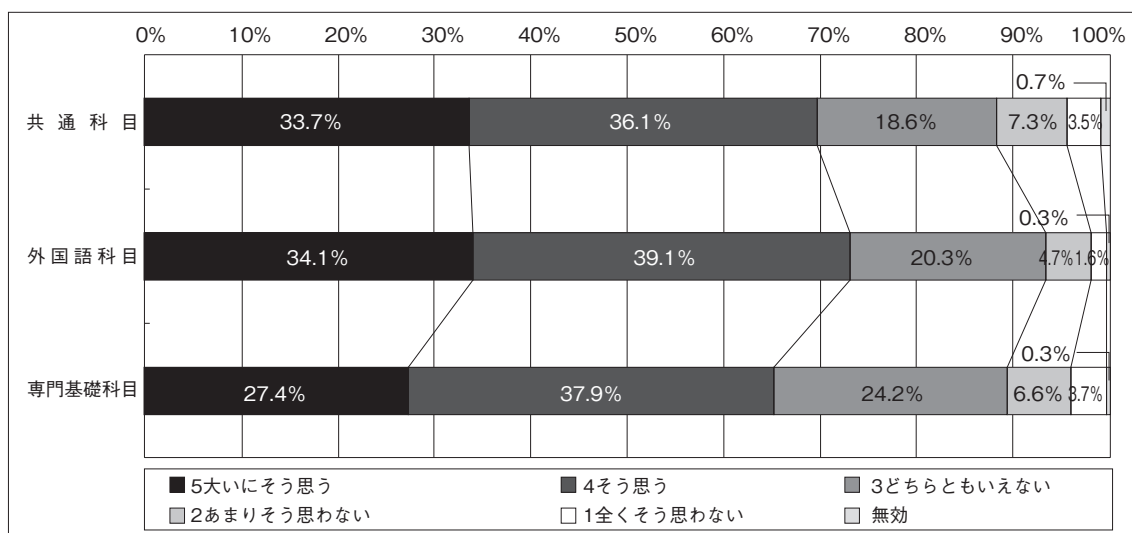
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	664	748	363	68	25	11	1,879
外 国 語 科 目	2,153	2,601	1,172	189	74	26	6,215
専門基礎科目	1,113	1,496	824	133	63	14	3,643



Q2－(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名（延べ）]

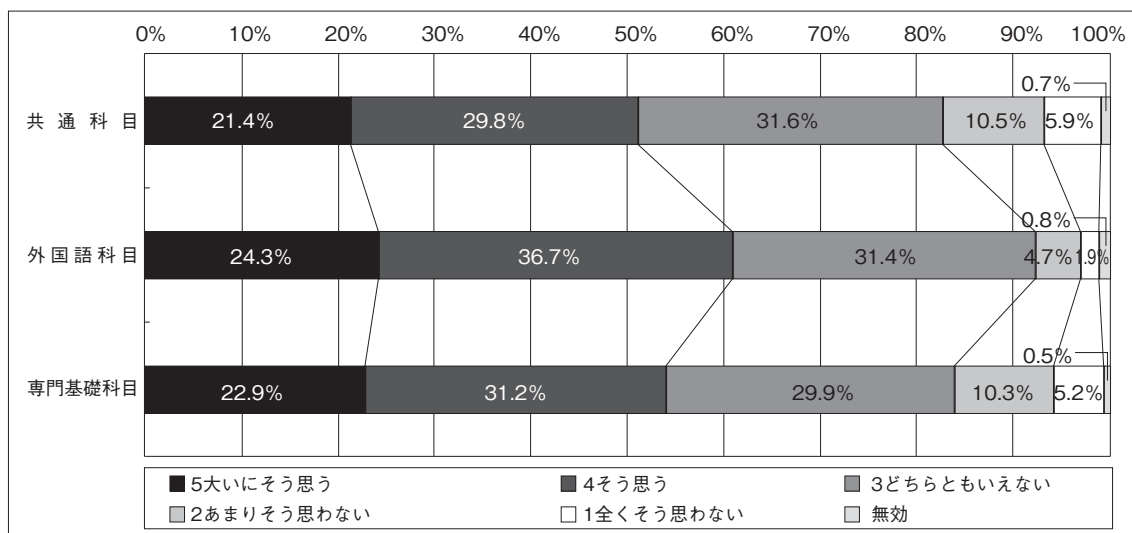
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	634	678	350	138	66	13	1,879
外 国 語 科 目	2,120	2,427	1,261	291	98	18	6,215
専門基礎科目	997	1,380	882	239	135	10	3,643



Q2－(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

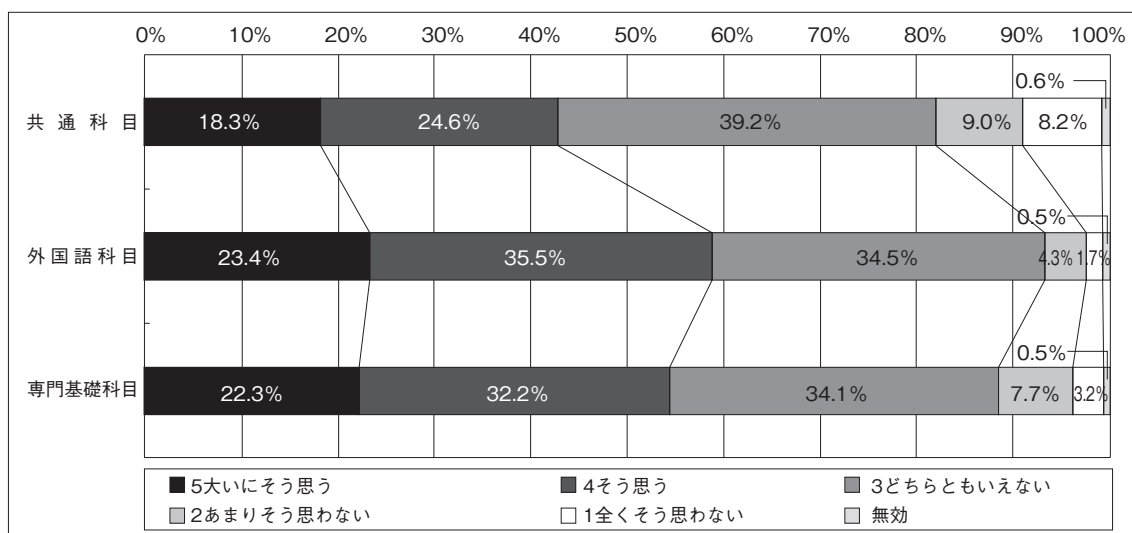
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共 通 科 目	403	560	594	198	111	13	1,879
外 国 語 科 目	1,513	2,284	1,954	292	121	51	6,215
専門基礎科目	834	1,137	1,090	375	189	18	3,643



Q2－(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

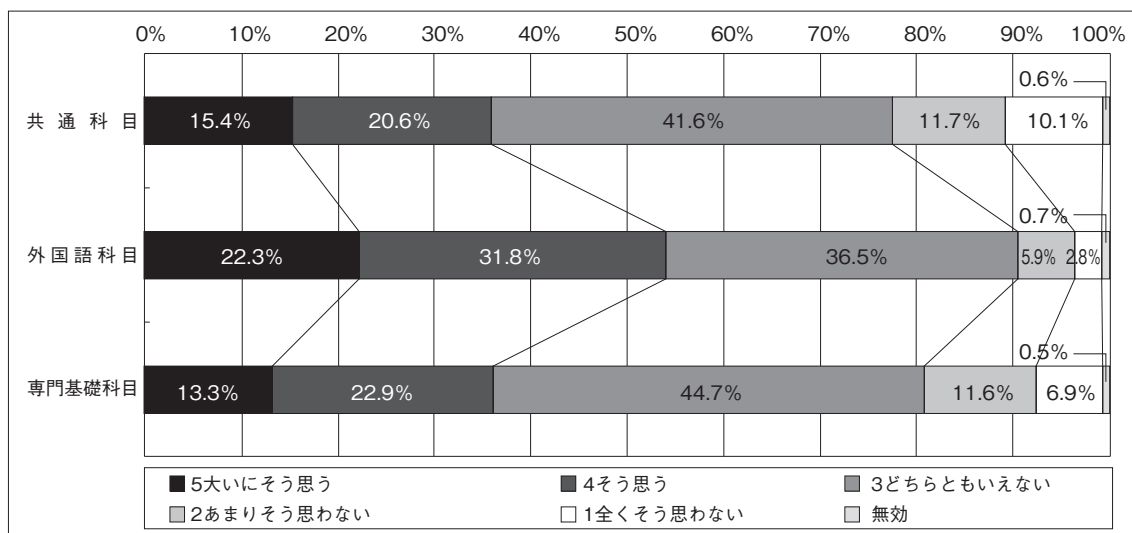
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共 通 科 目	344	463	736	170	155	11	1,879
外 国 語 科 目	1,457	2,208	2,144	268	105	33	6,215
専門基礎科目	814	1,174	1,242	280	116	17	3,643



Q2－(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

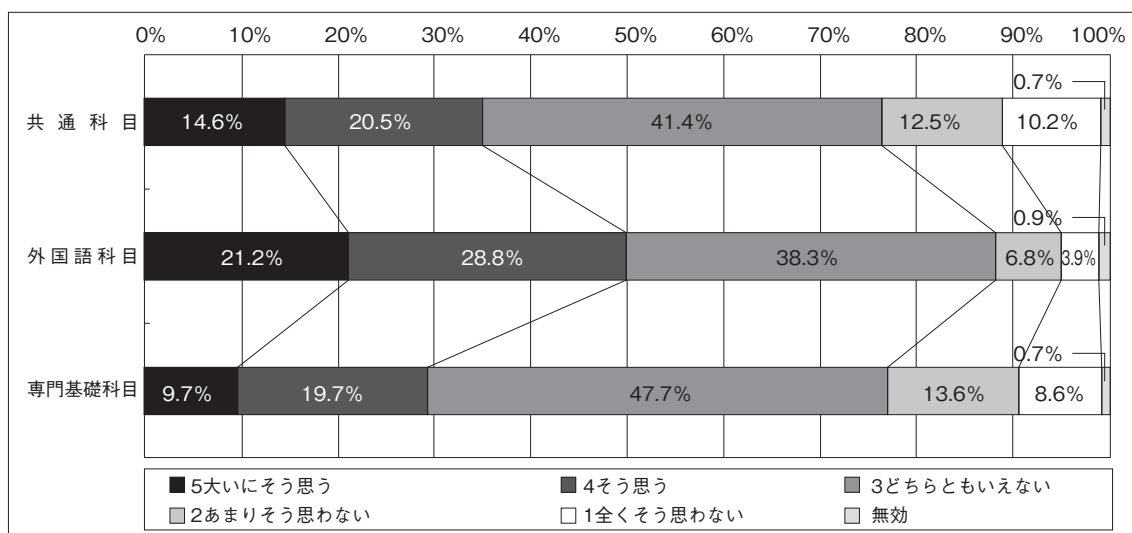
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共 通 科 目	290	387	781	220	190	11	1,879
外 国 語 科 目	1,388	1,979	2,270	364	173	41	6,215
専門基礎科目	483	836	1,630	422	253	19	3,643



Q2－(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）” 含む）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

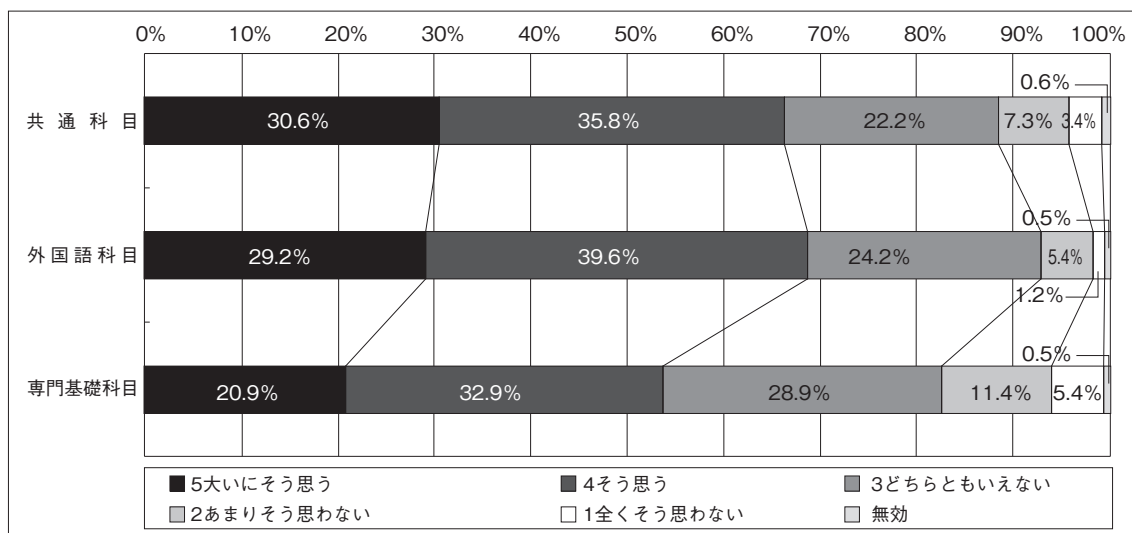
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共 通 科 目	275	386	778	235	192	13	1,879
外 国 語 科 目	1,318	1,791	2,381	424	245	56	6,215
専門基礎科目	353	717	1,738	496	312	27	3,643



Q2－(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた

[単位：名（延べ）]

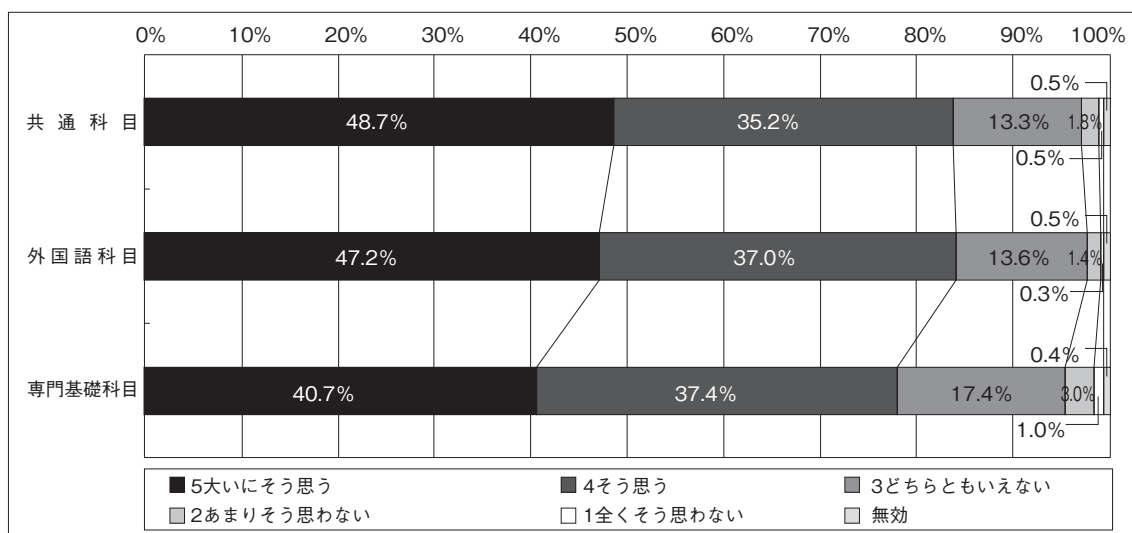
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	575	673	417	138	64	12	1,879
外 国 語 科 目	1,812	2,462	1,502	336	73	30	6,215
専門基礎科目	762	1,198	1,052	417	195	19	3,643



Q2－(10) 授業時間が守られていた

[単位：名（延べ）]

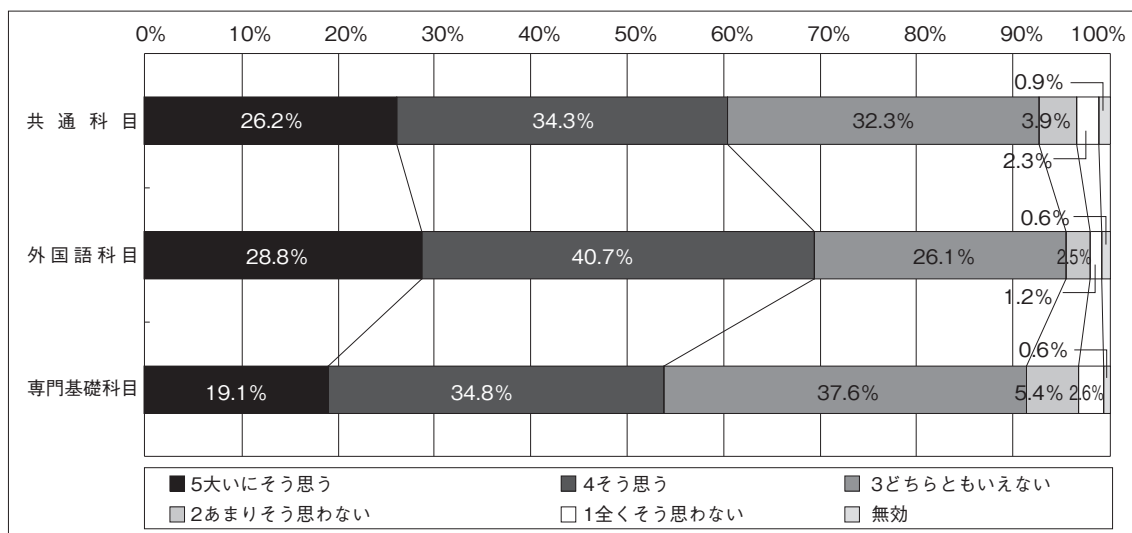
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	916	661	249	33	10	10	1,879
外 国 語 科 目	2,933	2,302	844	88	20	28	6,215
専門基礎科目	1,483	1,362	634	111	37	16	3,643



Q2－(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名（延べ）]

	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共 通 科 目	493	644	607	74	44	17	1,879
外 国 語 科 目	1,789	2,532	1,624	158	75	37	6,215
専門基礎科目	695	1,268	1,369	197	93	21	3,643

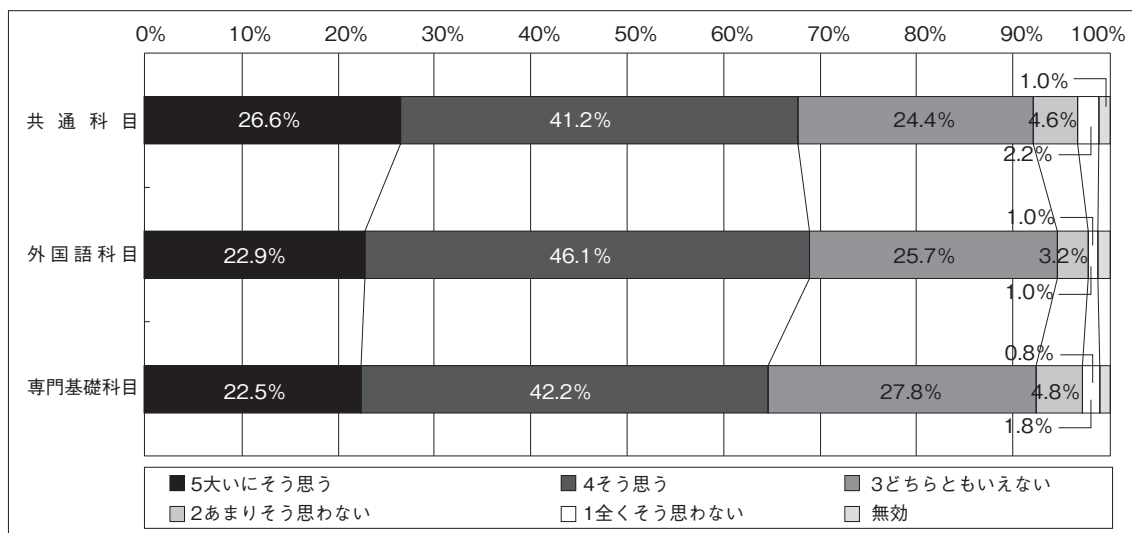


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3－(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名（延べ）]

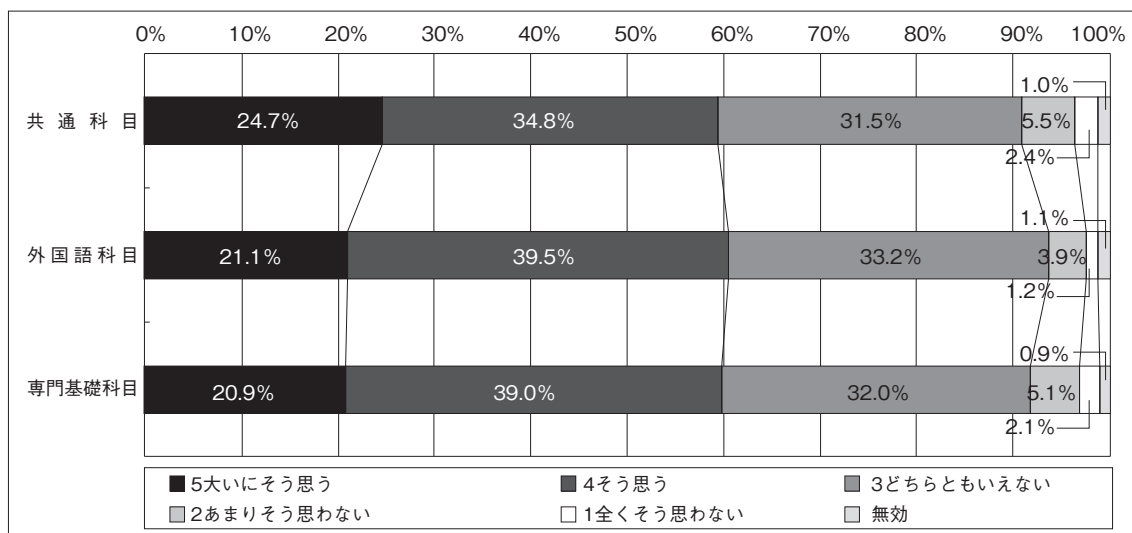
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共 通 科 目	499	774	459	87	41	19	1,879
外 国 語 科 目	1,424	2,867	1,599	196	65	64	6,215
専門基礎科目	821	1,539	1,012	175	67	29	3,643



Q3－(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名（延べ）]

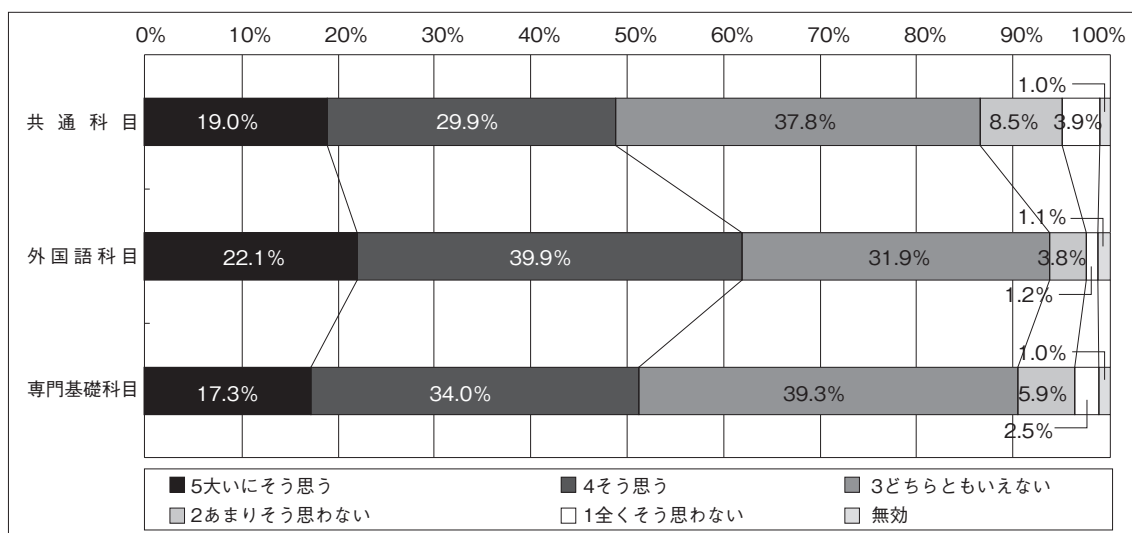
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	465	653	592	104	46	19	1,879
外 国 語 科 目	1,309	2,457	2,062	243	74	70	6,215
専門基礎科目	763	1,422	1,165	185	76	32	3,643



Q3－(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名（延べ）]

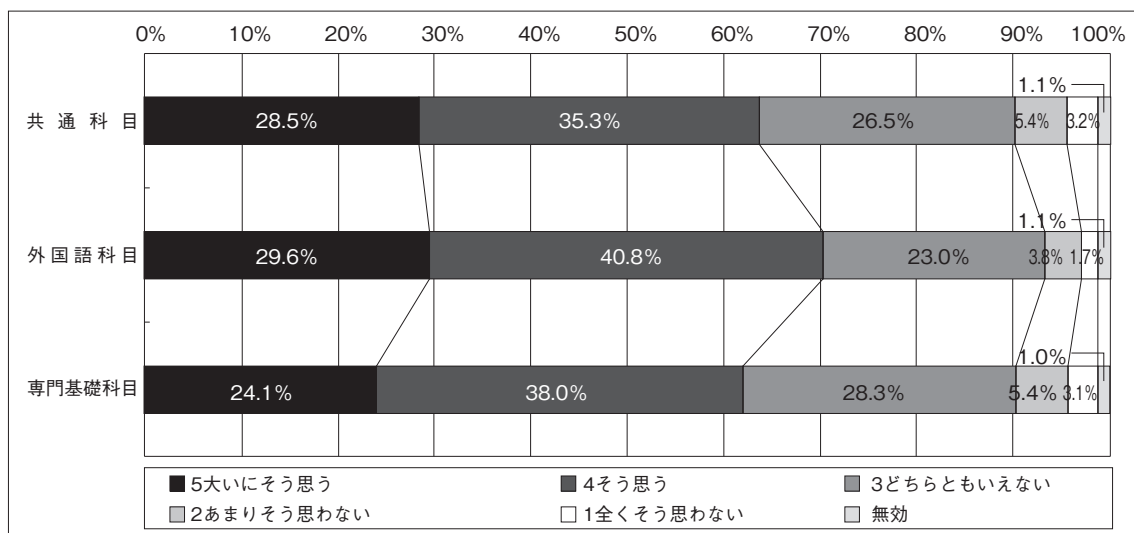
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	357	561	710	159	73	19	1,879
外 国 語 科 目	1,372	2,479	1,983	239	74	68	6,215
専門基礎科目	630	1,239	1,432	216	90	36	3,643



Q3－(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名（延べ）]

	5大いに思う	4 と思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	536	664	497	101	60	21	1,879
外 国 語 科 目	1,840	2,536	1,427	235	106	71	6,215
専門基礎科目	878	1,386	1,032	197	113	37	3,643



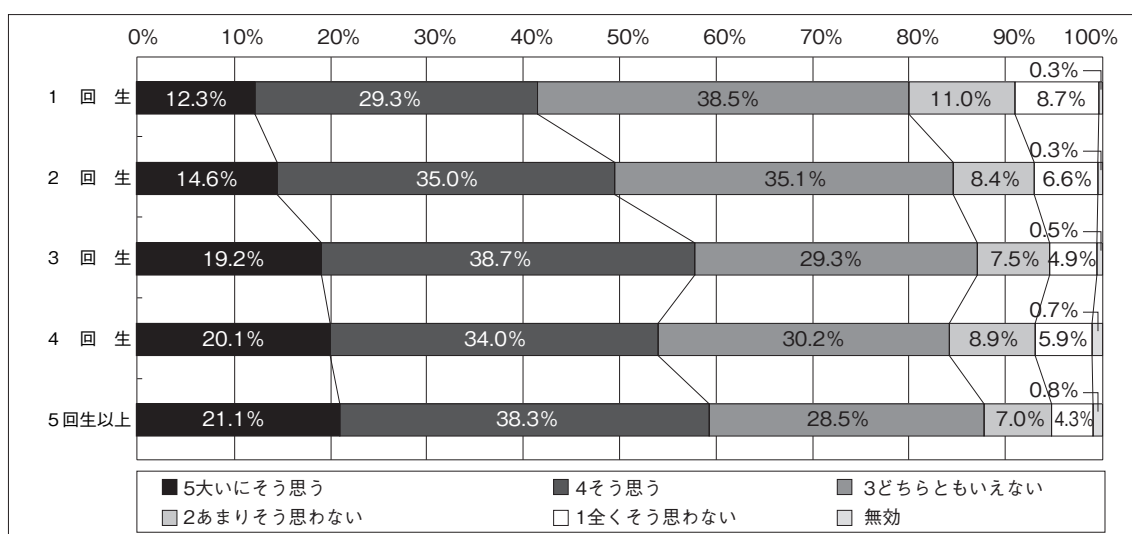
2011 年度 春学期 授業アンケート 回生別集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1－(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名（延べ）]

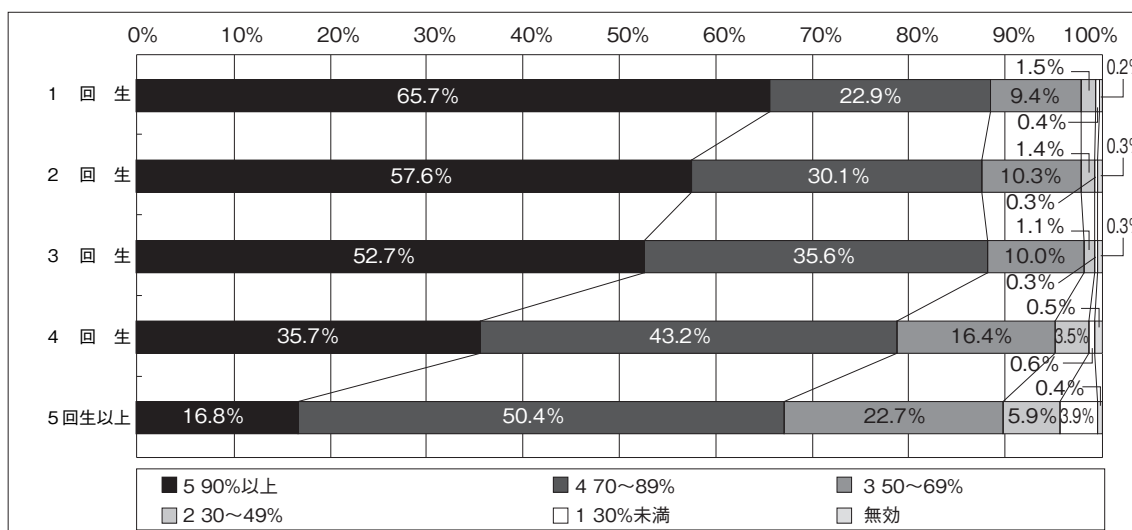
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
1 回 生	1,522	3,634	4,768	1,358	1,083	33	12,398
2 回 生	1,534	3,678	3,688	885	693	36	10,514
3 回 生	1,442	2,909	2,201	561	365	34	7,512
4 回 生	508	860	764	226	150	18	2,526
5 回生以上	54	98	73	18	11	2	256



Q1－(2) これまでの授業の出席率

[単位：名（延べ）]

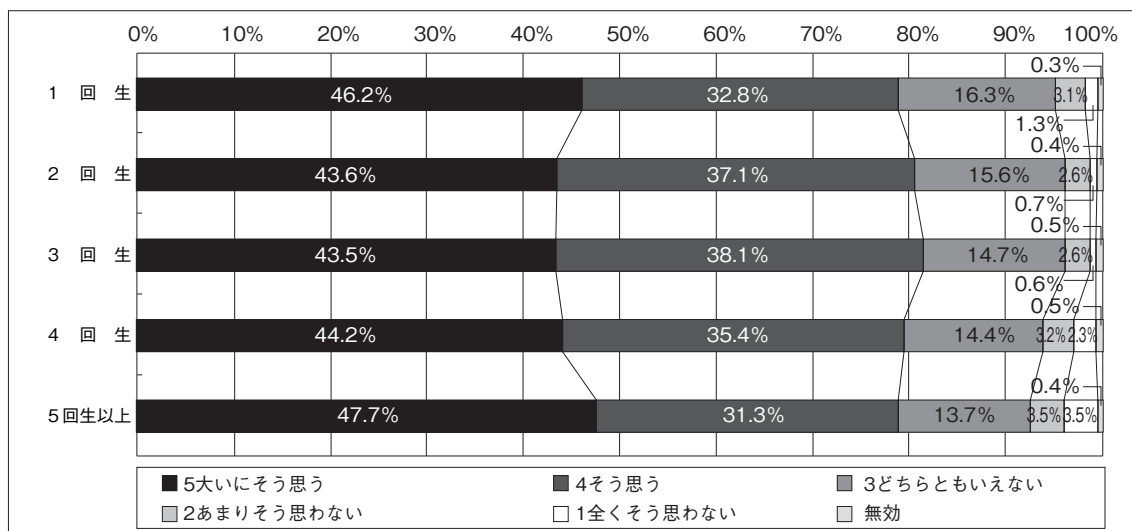
	590% 以上	470～89%	350～69%	230～49%	130% 未満	無効	合計
1 回 生	8,143	2,835	1,164	187	49	20	12,398
2 回 生	6,054	3,166	1,088	146	32	28	10,514
3 回 生	3,956	2,672	754	86	20	24	7,512
4 回 生	903	1,091	415	89	16	12	2,526
5 回生以上	43	129	58	15	10	1	256



Q1－(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった

[単位：名（延べ）]

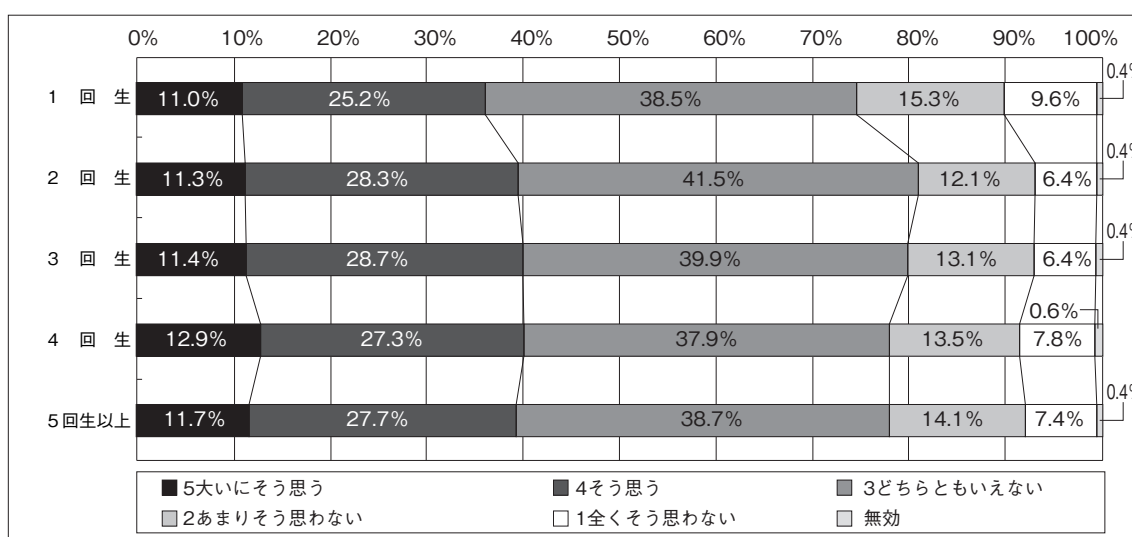
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	5,729	4,070	2,019	385	157	38	12,398
2 回 生	4,585	3,899	1,643	269	77	41	10,514
3 回 生	3,264	2,860	1,107	194	48	39	7,512
4 回 生	1,116	895	363	81	59	12	2,526
5 回生以上	122	80	35	9	9	1	256



Q1－(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名（延べ）]

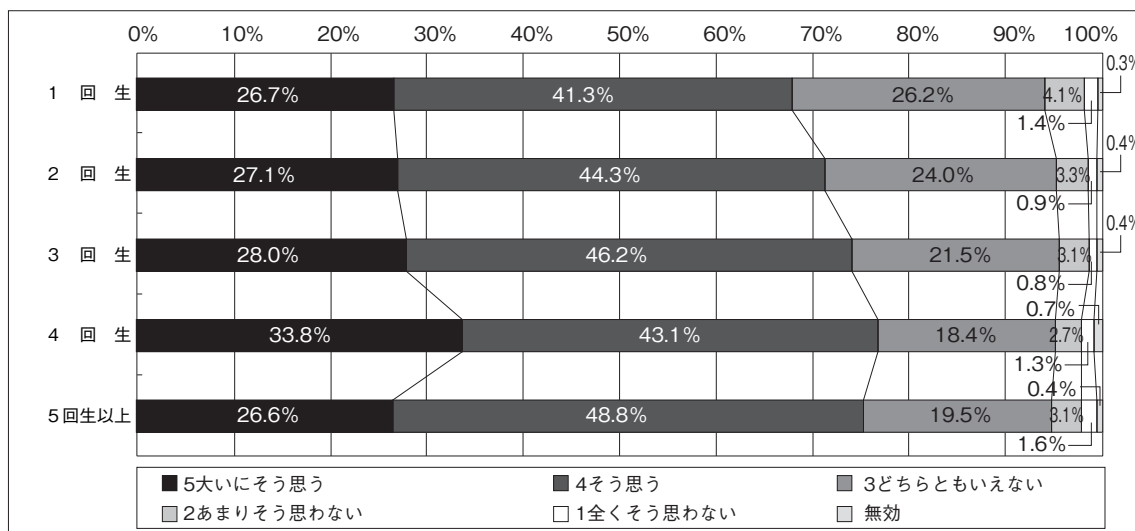
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	1,366	3,121	4,771	1,898	1,196	46	12,398
2 回 生	1,193	2,978	4,360	1,275	669	39	10,514
3 回 生	854	2,157	3,000	987	482	32	7,512
4 回 生	326	689	958	341	198	14	2,526
5 回生以上	30	71	99	36	19	1	256



Q1－(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,305	5,117	3,252	508	174	42	12,398
2 回 生	2,847	4,662	2,521	350	94	40	10,514
3 回 生	2,104	3,474	1,612	232	58	32	7,512
4 回 生	855	1,088	465	69	32	17	2,526
5 回生以上	68	125	50	8	4	1	256

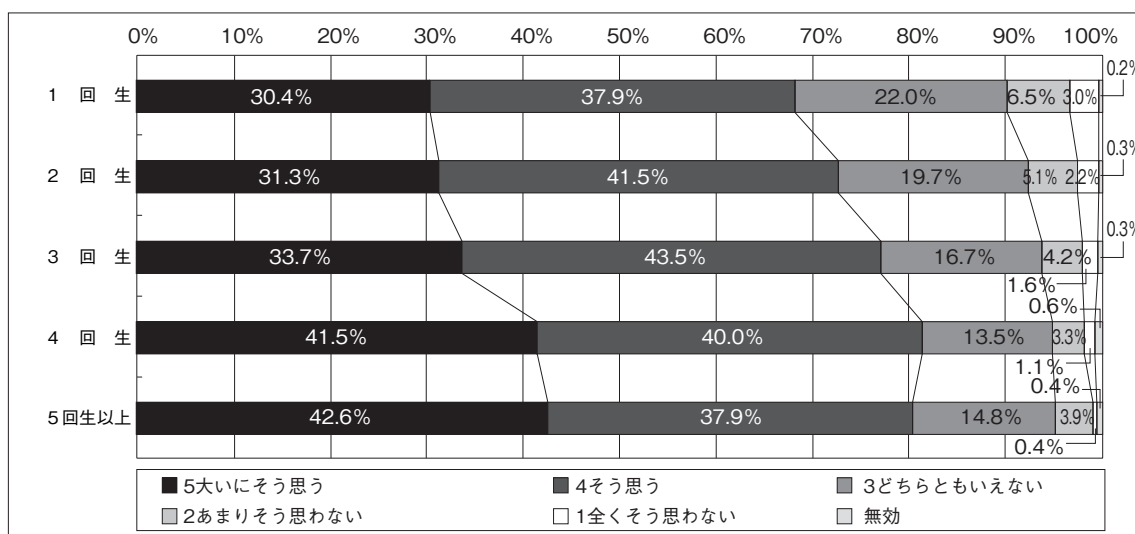


2. この授業の運営について

Q2－(1) わかりやすい授業であった

[単位：名（延べ）]

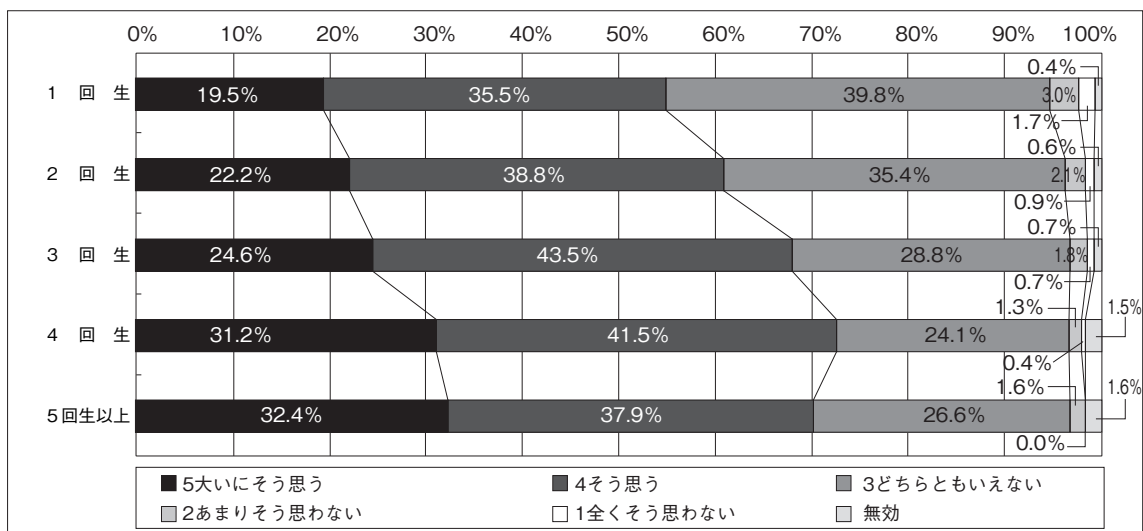
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,764	4,704	2,729	805	375	21	12,398
2 回 生	3,286	4,365	2,073	531	229	30	10,514
3 回 生	2,529	3,265	1,258	317	121	22	7,512
4 回 生	1,049	1,010	341	83	28	15	2,526
5 回生以上	109	97	38	10	1	1	256



Q2－(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名（延べ）]

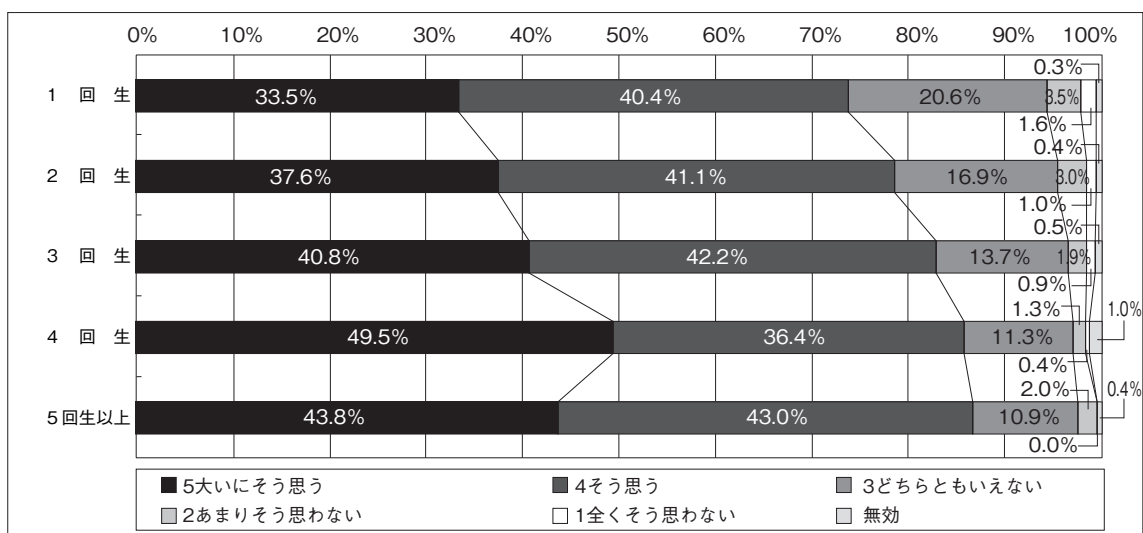
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,418	4,405	4,930	378	216	51	12,398
2 回 生	2,334	4,080	3,721	220	92	67	10,514
3 回 生	1,845	3,271	2,160	132	51	53	7,512
4 回 生	788	1,049	609	32	11	37	2,526
5 回生以上	83	97	68	4	0	4	256



Q2－(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名（延べ）]

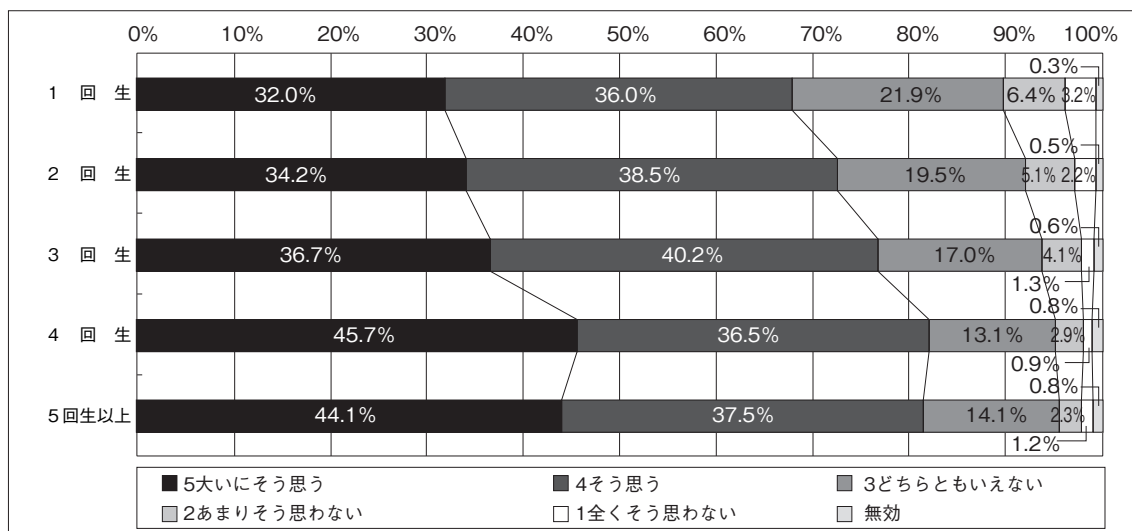
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	4,155	5,010	2,556	439	196	42	12,398
2 回 生	3,956	4,318	1,779	320	100	41	10,514
3 回 生	3,066	3,168	1,026	141	71	40	7,512
4 回 生	1,251	920	286	34	10	25	2,526
5 回生以上	112	110	28	5	0	1	256



Q2－(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名（延べ）]

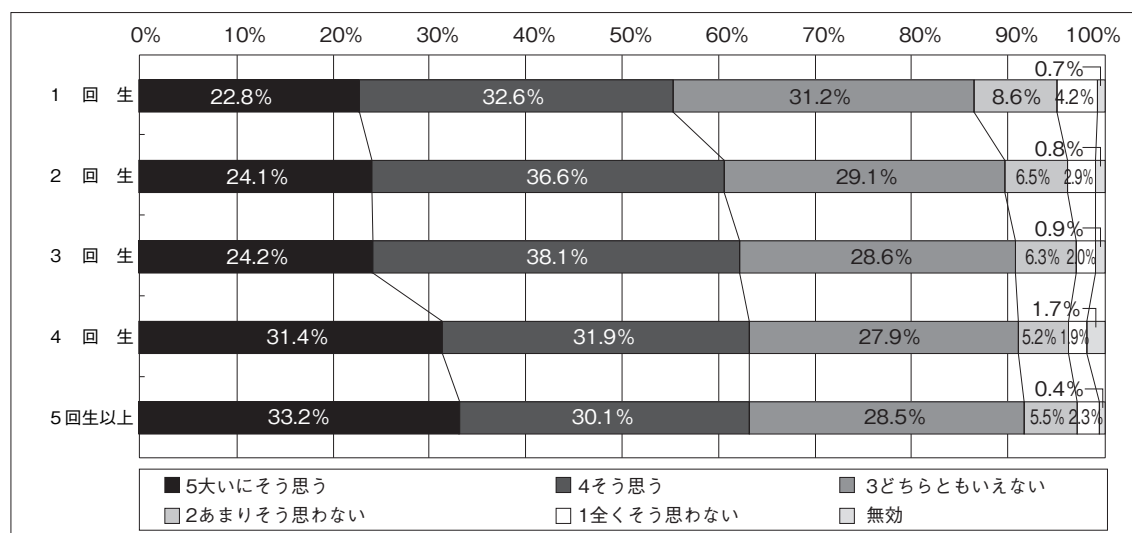
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,973	4,469	2,719	799	402	36	12,398
2 回 生	3,596	4,052	2,049	532	231	54	10,514
3 回 生	2,760	3,021	1,279	310	99	43	7,512
4 回 生	1,155	923	332	74	23	19	2,526
5 回生以上	113	96	36	6	3	2	256



Q2－(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

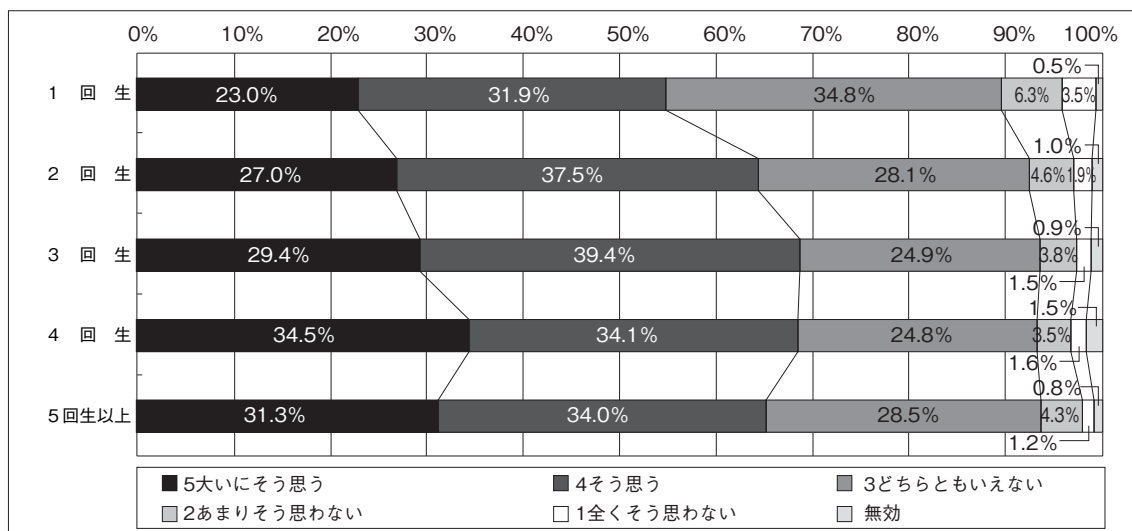
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,821	4,044	3,862	1,066	523	82	12,398
2 回 生	2,533	3,849	3,058	680	308	86	10,514
3 回 生	1,816	2,863	2,146	473	148	66	7,512
4 回 生	793	807	705	131	48	42	2,526
5 回生以上	85	77	73	14	6	1	256



Q2－(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

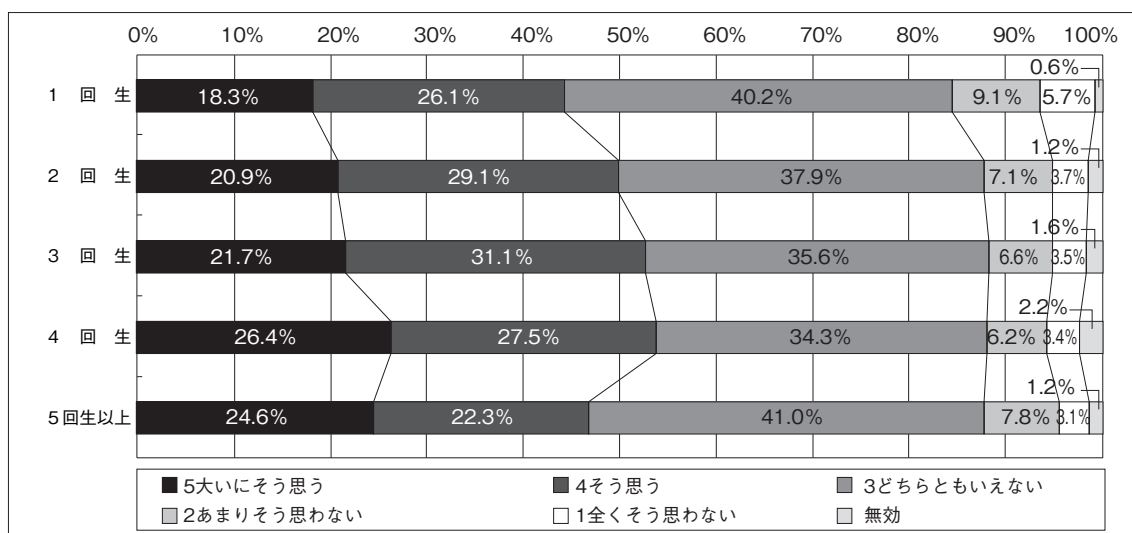
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,851	3,961	4,310	780	428	68	12,398
2 回 生	2,836	3,945	2,955	481	195	102	10,514
3 回 生	2,212	2,958	1,872	283	116	71	7,512
4 回 生	871	861	627	88	41	38	2,526
5 回生以上	80	87	73	11	3	2	256



Q2－(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

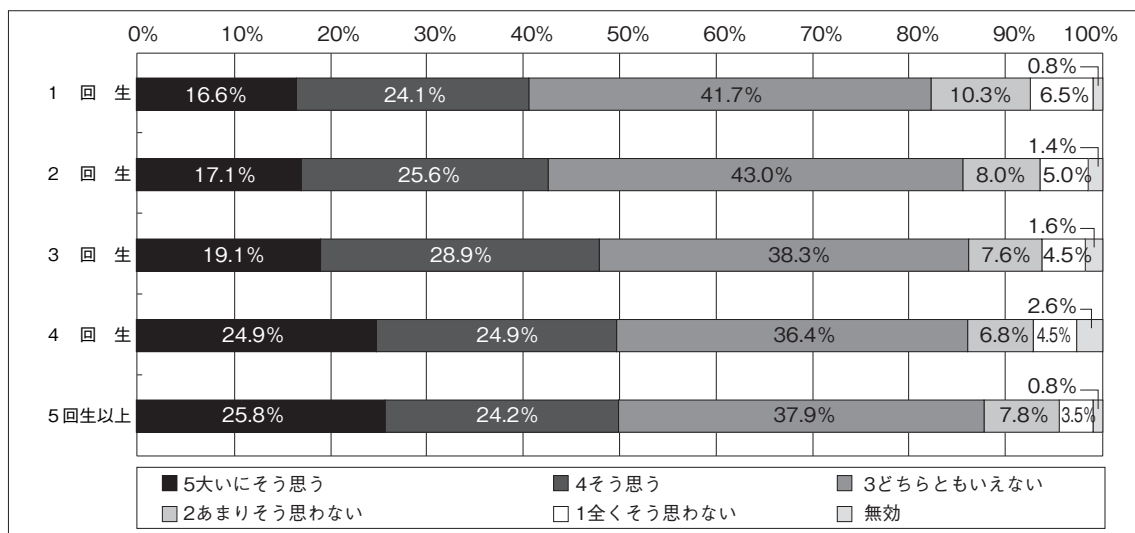
[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,271	3,241	4,982	1,125	701	78	12,398
2 回 生	2,202	3,063	3,989	744	389	127	10,514
3 回 生	1,627	2,334	2,675	499	260	117	7,512
4 回 生	668	694	867	157	85	55	2,526
5 回生以上	63	57	105	20	8	3	256



Q2－(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）” 含む）に工夫がみられた [単位：名（延べ）]

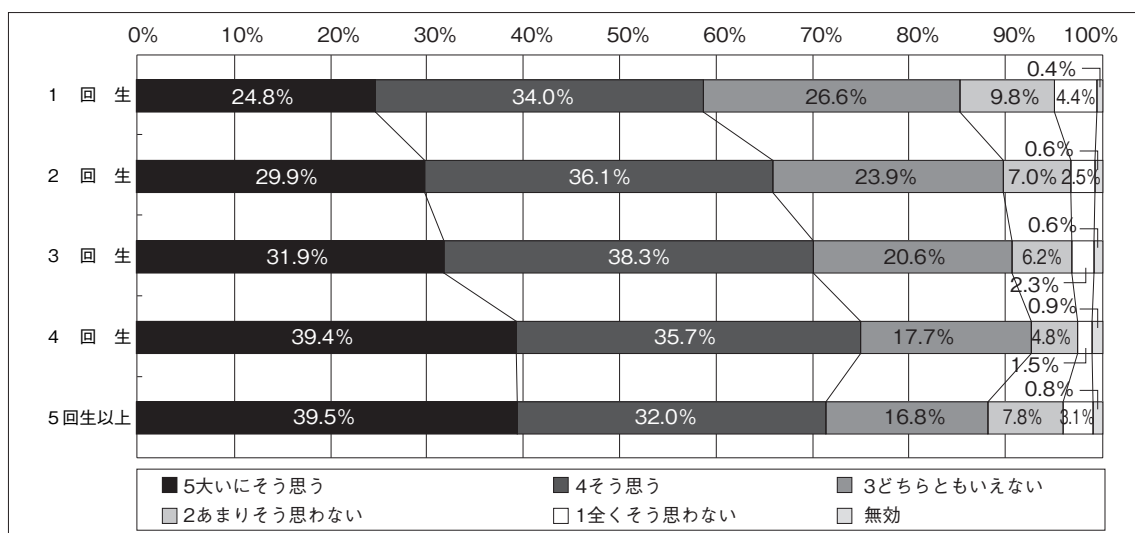
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,061	2,986	5,171	1,278	809	93	12,398
2 回 生	1,798	2,693	4,516	841	524	142	10,514
3 回 生	1,437	2,173	2,874	569	339	120	7,512
4 回 生	629	628	919	172	113	65	2,526
5 回生以上	66	62	97	20	9	2	256



Q2－(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた

[単位：名（延べ）]

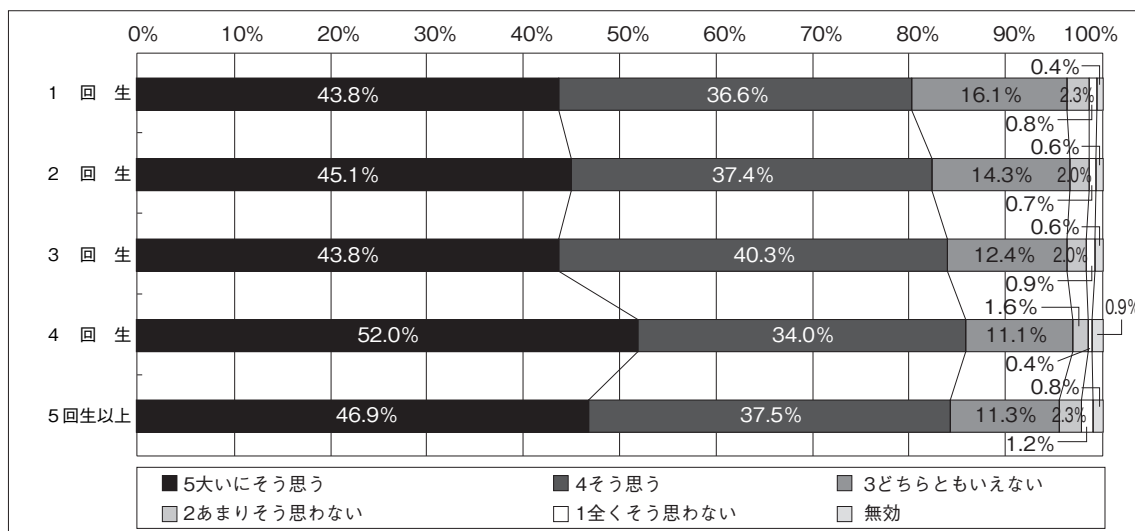
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,077	4,216	3,298	1,210	542	55	12,398
2 回 生	3,139	3,795	2,513	741	263	63	10,514
3 回 生	2,400	2,876	1,546	469	176	45	7,512
4 回 生	995	901	447	122	38	23	2,526
5 回生以上	101	82	43	20	8	2	256



Q2－(10) 授業時間が守られていた

[単位：名（延べ）]

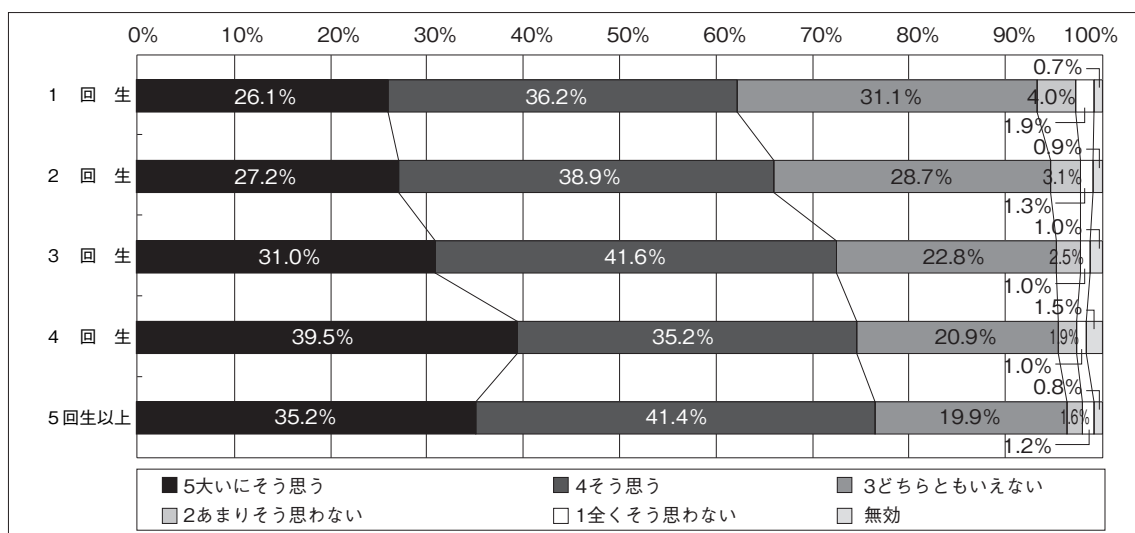
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	5,426	4,536	2,000	280	103	53	12,398
2 回 生	4,737	3,936	1,499	212	71	59	10,514
3 回 生	3,289	3,030	934	152	65	42	7,512
4 回 生	1,313	860	281	40	10	22	2,526
5 回生以上	120	96	29	6	3	2	256



Q2－(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,232	4,487	3,857	498	241	83	12,398
2 回 生	2,858	4,088	3,018	322	137	91	10,514
3 回 生	2,331	3,123	1,715	191	77	75	7,512
4 回 生	999	888	529	47	26	37	2,526
5 回生以上	90	106	51	4	3	2	256

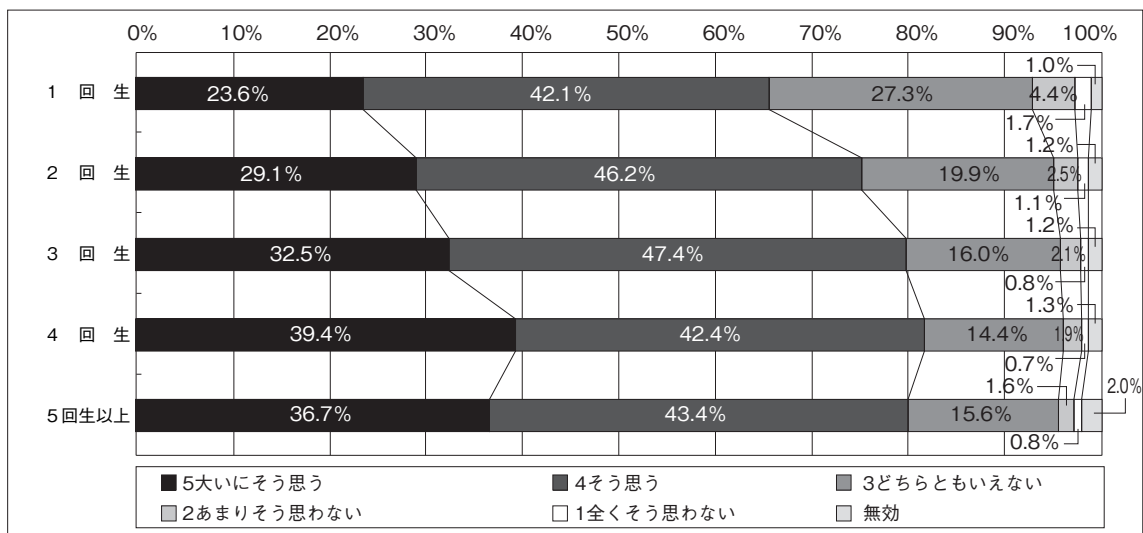


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3－(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名（延べ）]

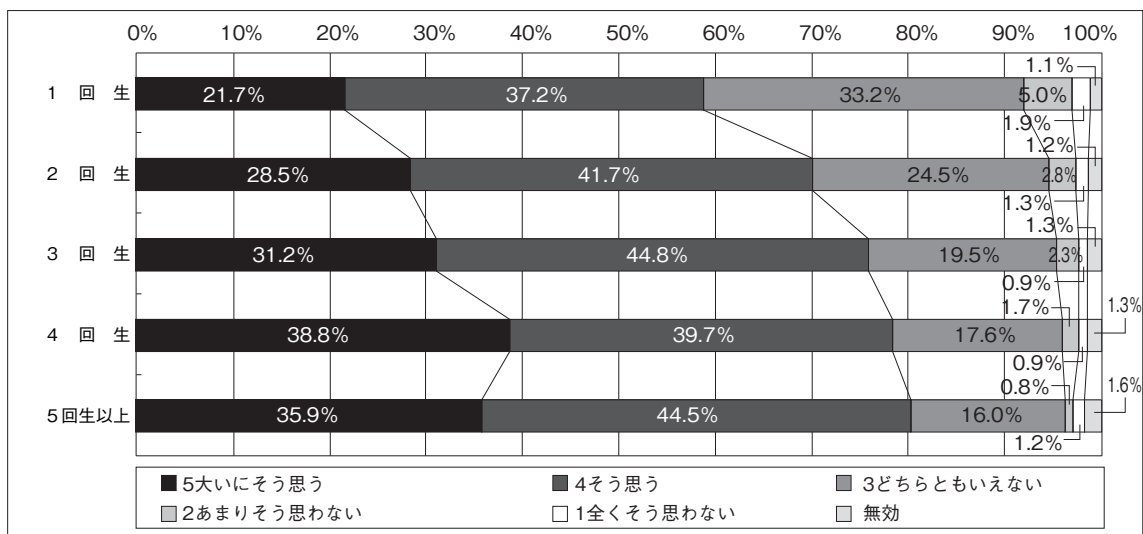
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,921	5,216	3,382	542	215	122	12,398
2 回 生	3,064	4,855	2,095	261	116	123	10,514
3 回 生	2,441	3,562	1,200	160	58	91	7,512
4 回 生	994	1,072	363	47	17	33	2,526
5 回生以上	94	111	40	4	2	5	256



Q3－(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名（延べ）]

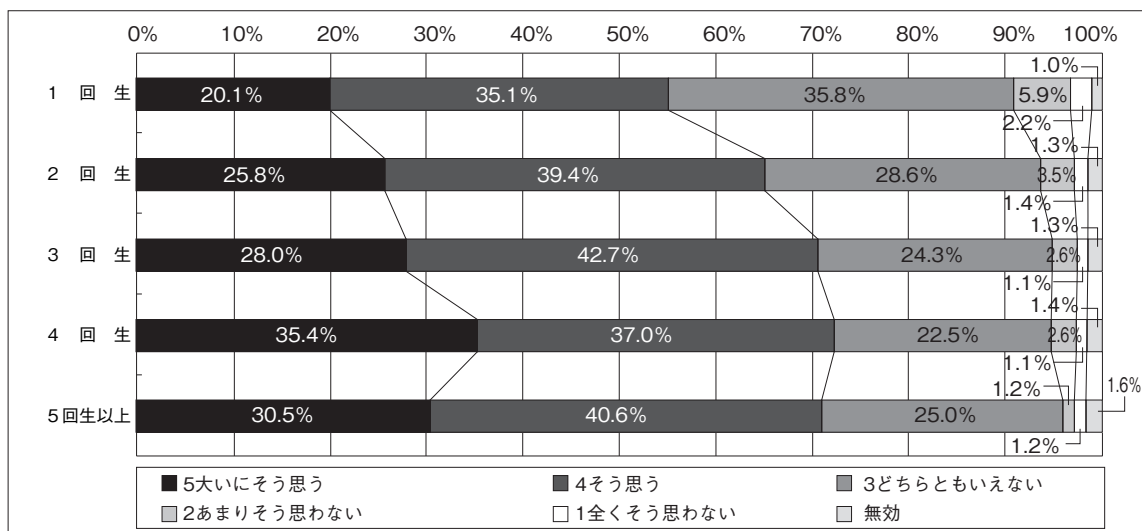
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,692	4,607	4,118	615	231	135	12,398
2 回 生	2,996	4,381	2,581	291	137	128	10,514
3 回 生	2,345	3,366	1,466	172	67	96	7,512
4 回 生	979	1,003	445	43	22	34	2,526
5 回生以上	92	114	41	2	3	4	256



Q3－(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名(延べ)]

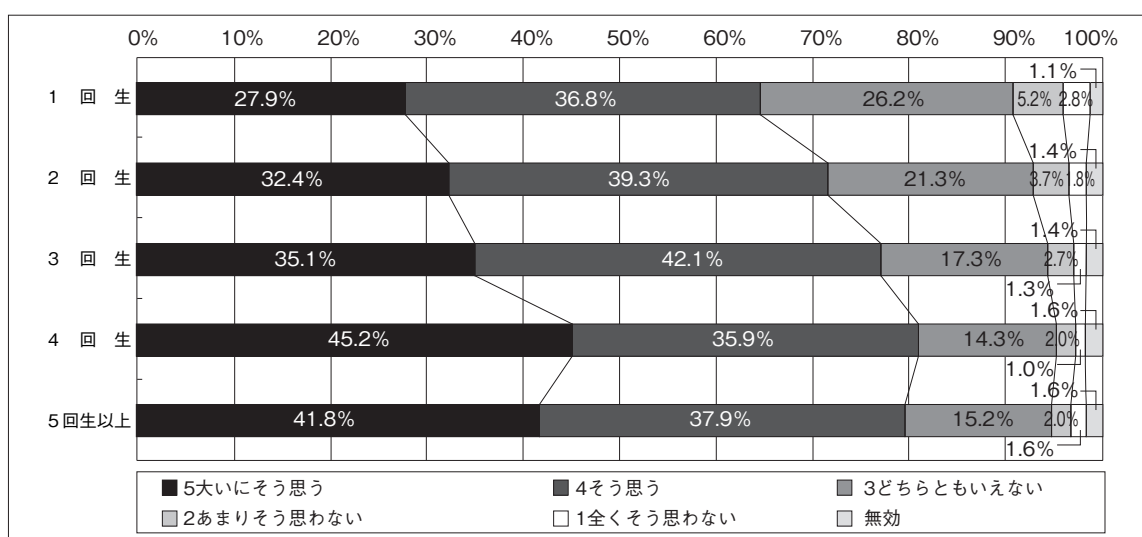
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,493	4,350	4,433	727	267	128	12,398
2 回 生	2,710	4,138	3,011	371	152	132	10,514
3 回 生	2,100	3,209	1,828	193	84	98	7,512
4 回 生	894	934	569	66	27	36	2,526
5 回生以上	78	104	64	3	3	4	256



Q3－(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,464	4,557	3,253	649	342	133	12,398
2 回 生	3,411	4,132	2,239	393	193	146	10,514
3 回 生	2,639	3,162	1,303	203	101	104	7,512
4 回 生	1,142	907	361	50	25	41	2,526
5 回生以上	107	97	39	5	4	4	256



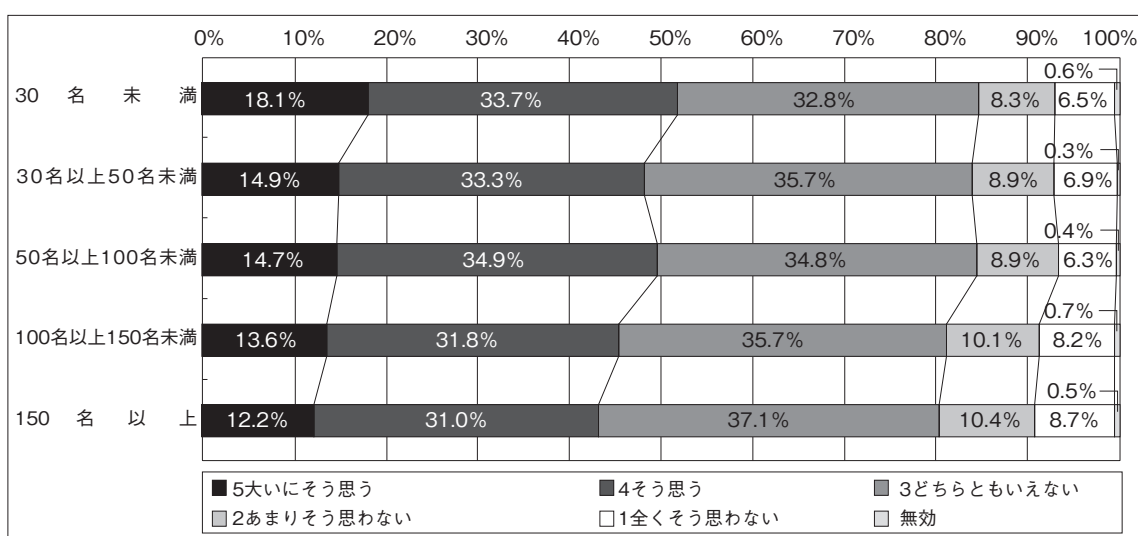
2011 年度 春学期 授業アンケート クラス規模別集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1－(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名（延べ）]

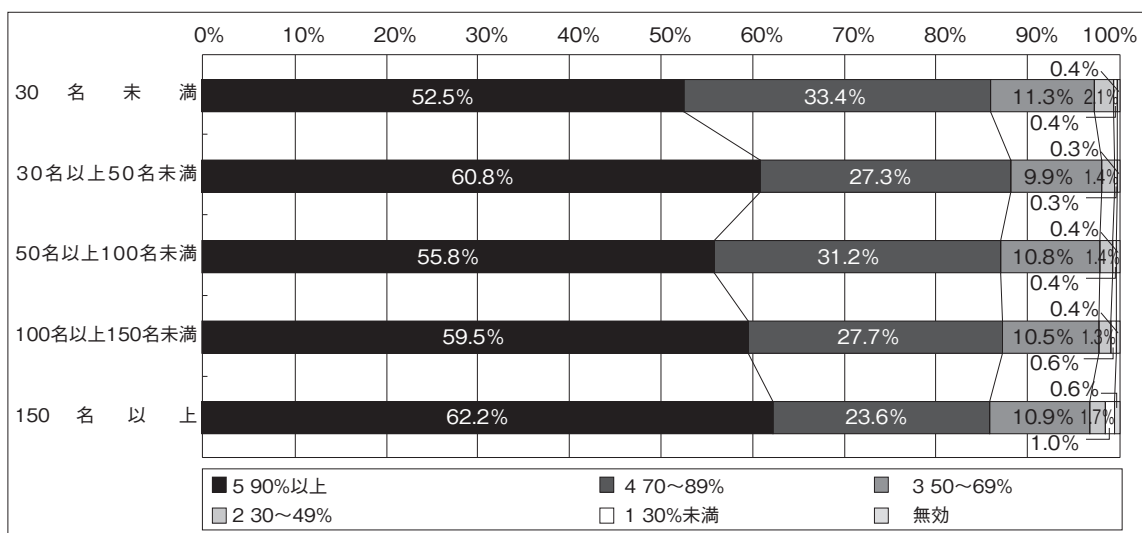
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	1,699	3,157	3,069	774	610	55	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	1,502	3,363	3,604	898	702	32	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	1,449	3,428	3,424	873	618	43	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	740	1,727	1,938	551	443	36	5,435
150 名 以 上	253	641	768	215	181	11	2,069



Q1－(2) これまでの授業の出席率

[単位：名（延べ）]

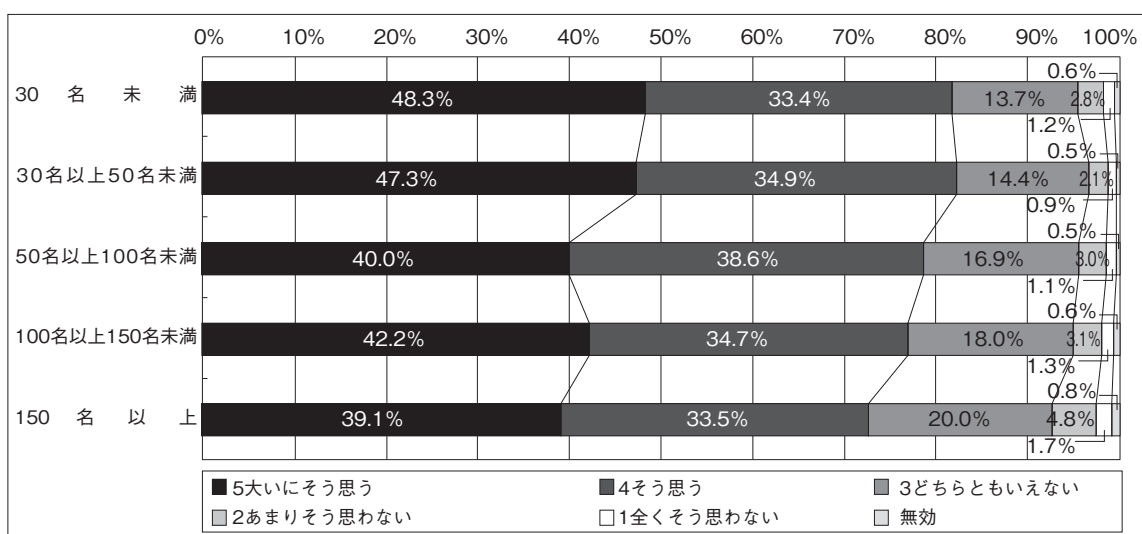
	5 90%以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30%未満	無効	合計
30名未満	4,915	3,124	1,057	193	35	40	9,364
30名以上50名未満	6,138	2,758	1,005	139	28	33	10,101
50名以上100名未満	5,491	3,073	1,058	133	44	36	9,835
100名以上150名未満	3,232	1,508	569	73	30	23	5,435
150名以上	1,286	488	225	36	21	13	2,069



Q1－(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった

[単位：名（延べ）]

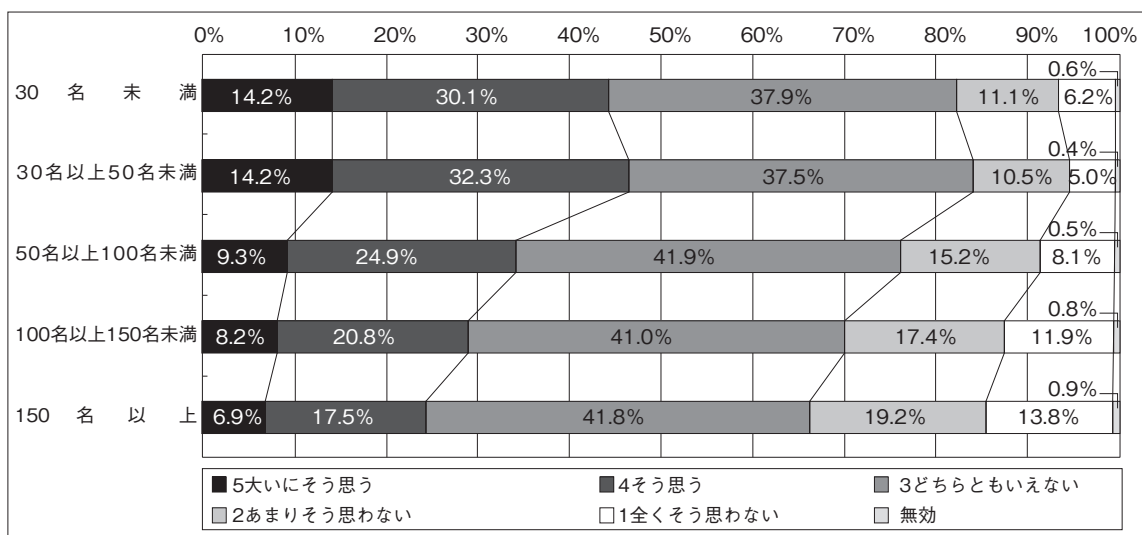
	5 大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
30名未満	4,520	3,130	1,285	263	110	56	9,364
30名以上50名未満	4,782	3,521	1,453	211	86	48	10,101
50名以上100名未満	3,934	3,792	1,665	293	104	47	9,835
100名以上150名未満	2,293	1,888	981	170	72	31	5,435
150名以上	810	694	413	100	35	17	2,069



Q1－(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名(延べ)]

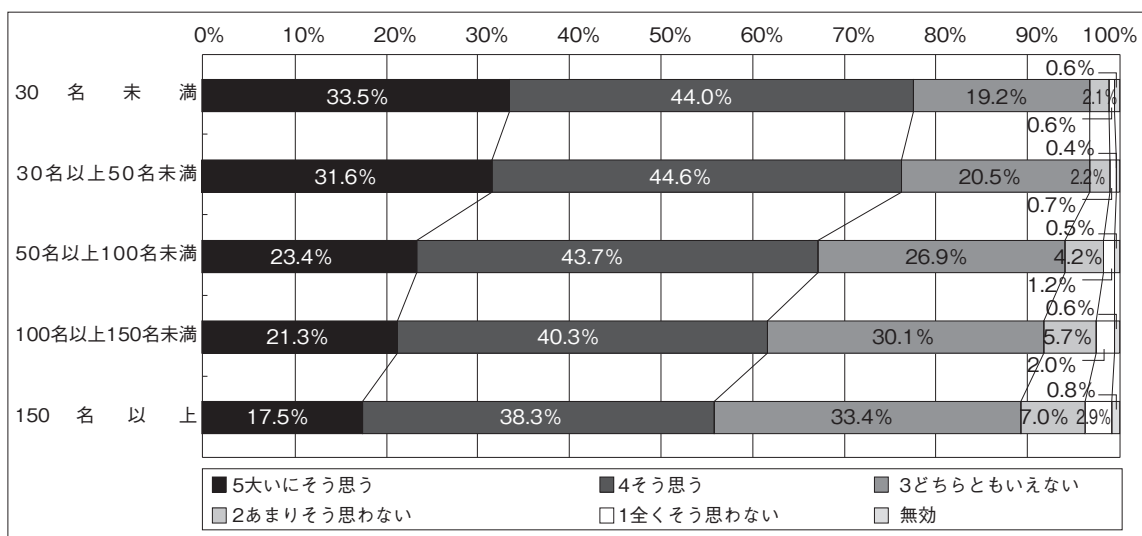
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	1,327	2,820	3,548	1,041	576	52	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	1,432	3,266	3,786	1,065	510	42	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	912	2,446	4,125	1,499	801	52	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	445	1,129	2,226	948	646	41	5,435
150 名 以 上	142	362	864	397	286	18	2,069



Q1－(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,135	4,122	1,794	193	60	60	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	3,192	4,509	2,070	223	70	37	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	2,306	4,300	2,646	411	122	50	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	1,158	2,188	1,638	308	111	32	5,435
150 名 以 上	363	793	692	145	60	16	2,069

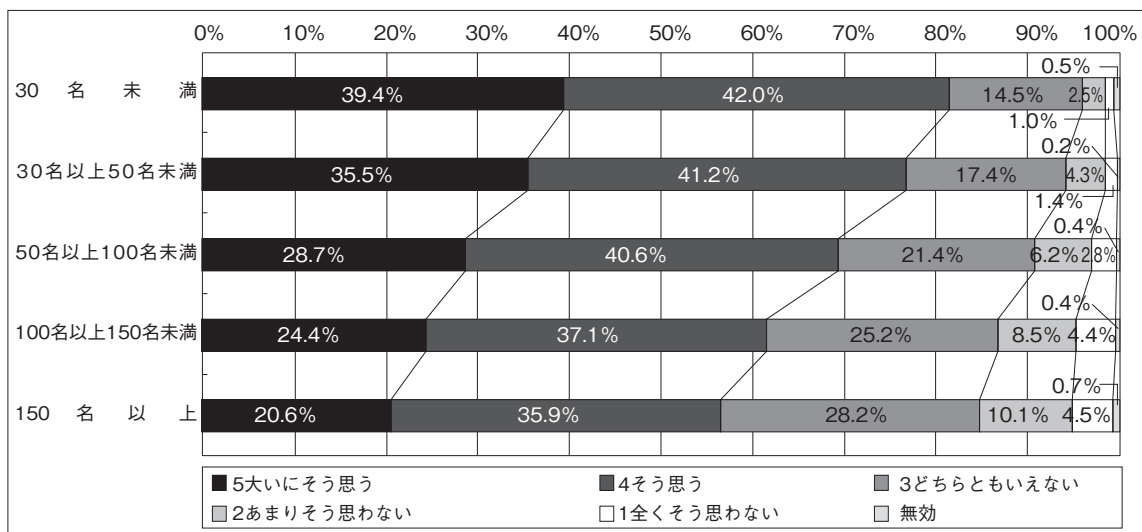


2. この授業の運営について

Q2－(1) わかりやすい授業であった

[単位：名（延べ）]

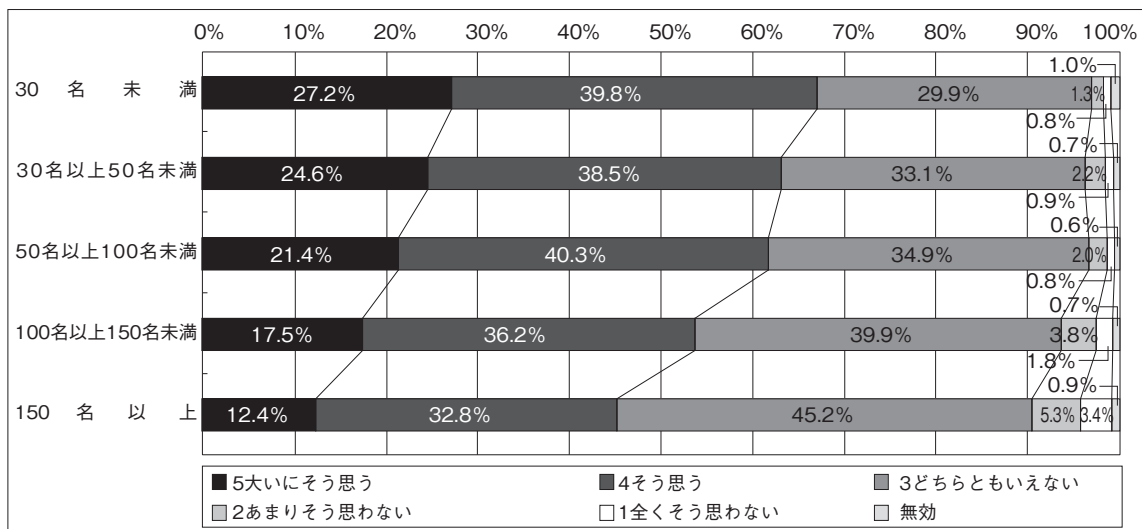
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,688	3,934	1,361	238	95	48	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	3,585	4,165	1,755	435	137	24	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	2,827	3,989	2,106	606	272	35	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	1,327	2,014	1,372	461	240	21	5,435
150 名 以 上	426	742	583	210	93	15	2,069



Q2－(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名（延べ）]

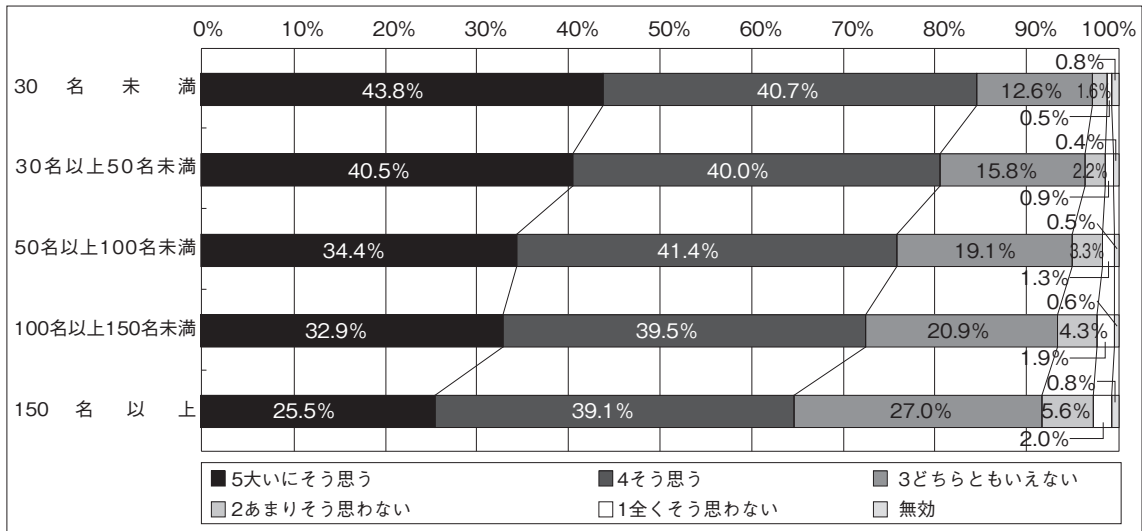
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	2,548	3,723	2,800	122	74	97	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	2,487	3,886	3,348	219	95	66	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	2,101	3,963	3,433	195	82	61	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	952	1,970	2,171	204	100	38	5,435
150 名 以 上	256	679	935	110	70	19	2,069



Q2－(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名（延べ）]

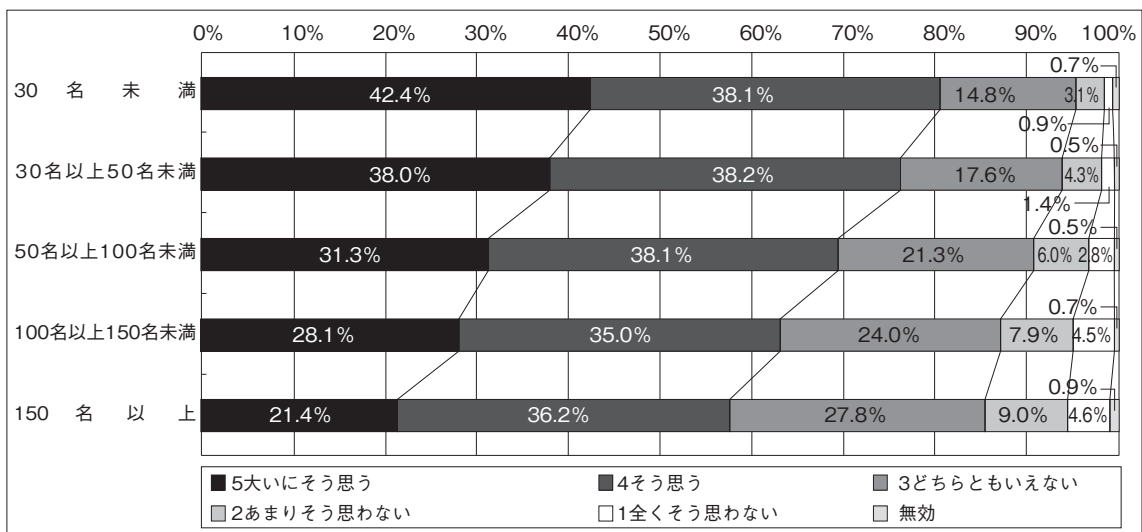
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	4,104	3,807	1,182	149	48	74	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	4,094	4,043	1,599	227	95	43	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	3,387	4,068	1,878	322	132	48	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	1,787	2,146	1,134	233	105	30	5,435
150 名 以 上	528	809	559	115	41	17	2,069



Q2－(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名（延べ）]

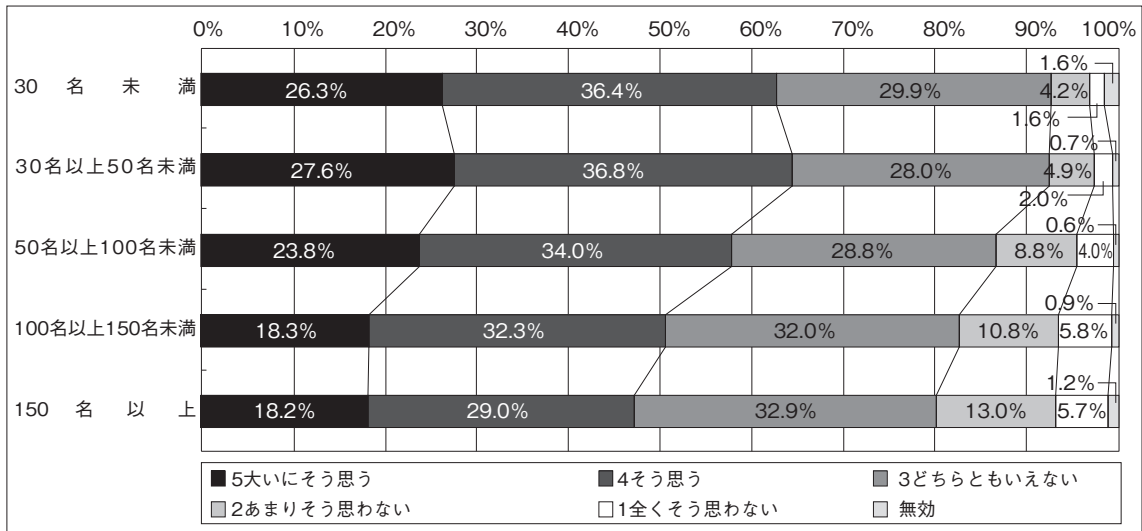
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,969	3,564	1,390	289	86	66	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	3,837	3,857	1,782	436	141	48	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	3,081	3,752	2,092	586	273	51	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	1,525	1,900	1,302	427	244	37	5,435
150 名 以 上	442	750	576	186	96	19	2,069



Q2－(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

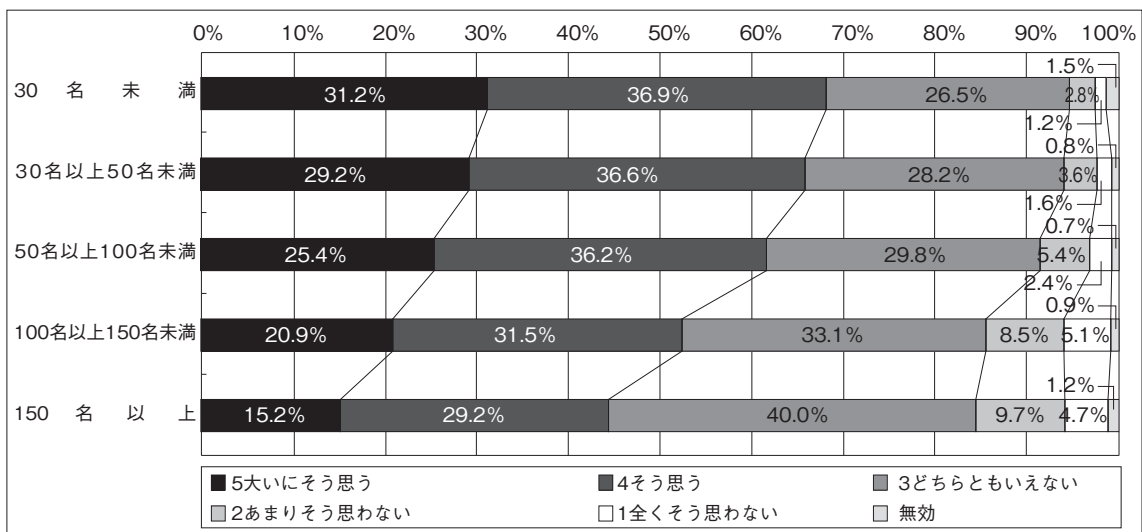
	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	2,467	3,407	2,803	393	146	148	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	2,787	3,717	2,833	497	200	67	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	2,342	3,345	2,828	868	389	63	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	995	1,755	1,739	585	313	48	5,435
150 名 以 上	377	601	681	269	117	24	2,069



Q2－(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

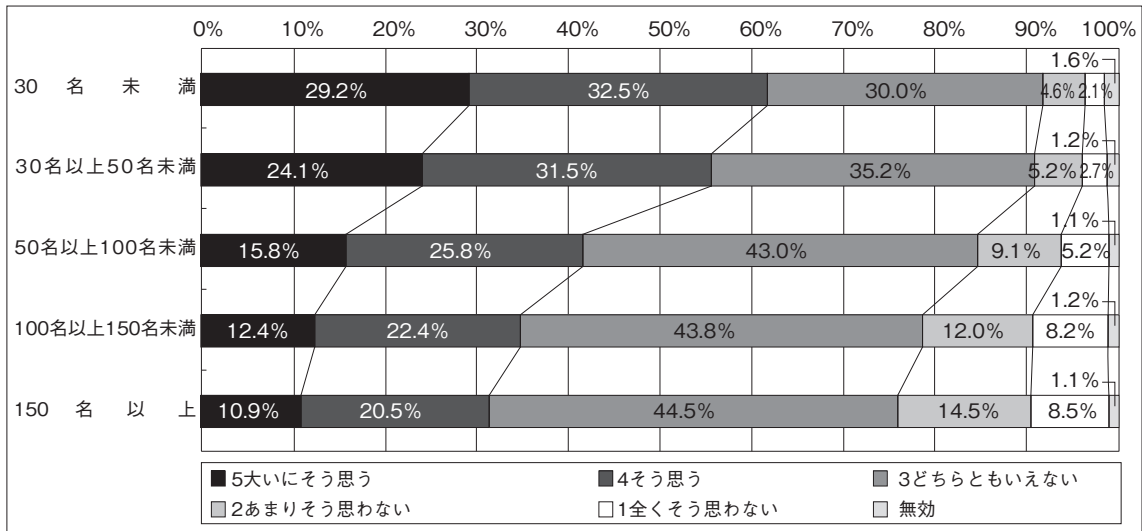
	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	2,925	3,456	2,478	258	109	138	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	2,951	3,696	2,850	364	161	79	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	2,500	3,563	2,928	535	238	71	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	1,135	1,712	1,801	460	276	51	5,435
150 名 以 上	315	605	828	200	97	24	2,069



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

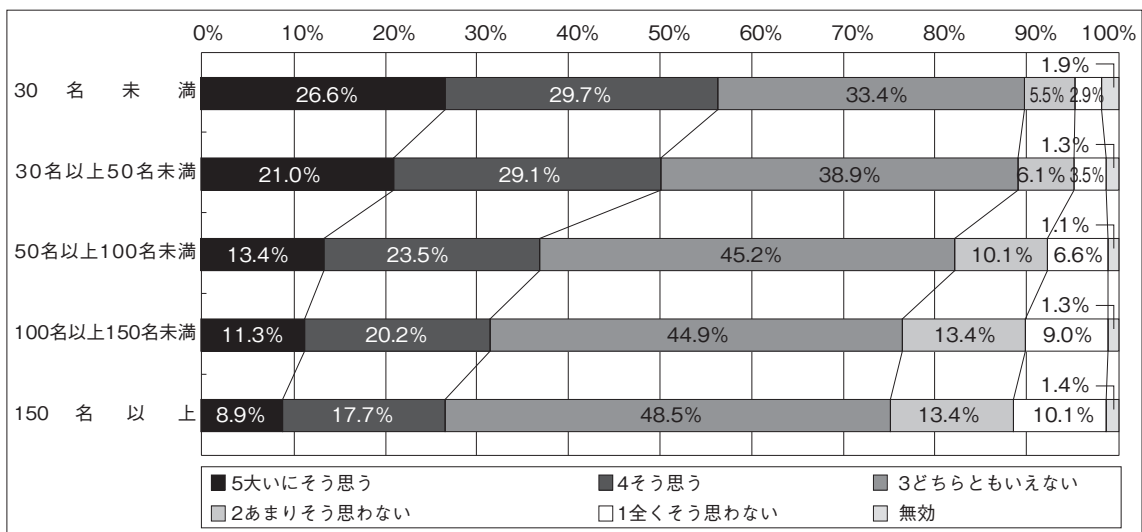
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	2,738	3,039	2,809	433	193	152	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	2,430	3,185	3,558	530	272	126	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	1,557	2,542	4,230	891	511	104	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	676	1,216	2,381	651	447	64	5,435
150 名 以 上	226	425	920	300	176	22	2,069



Q2-(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）” 含む）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

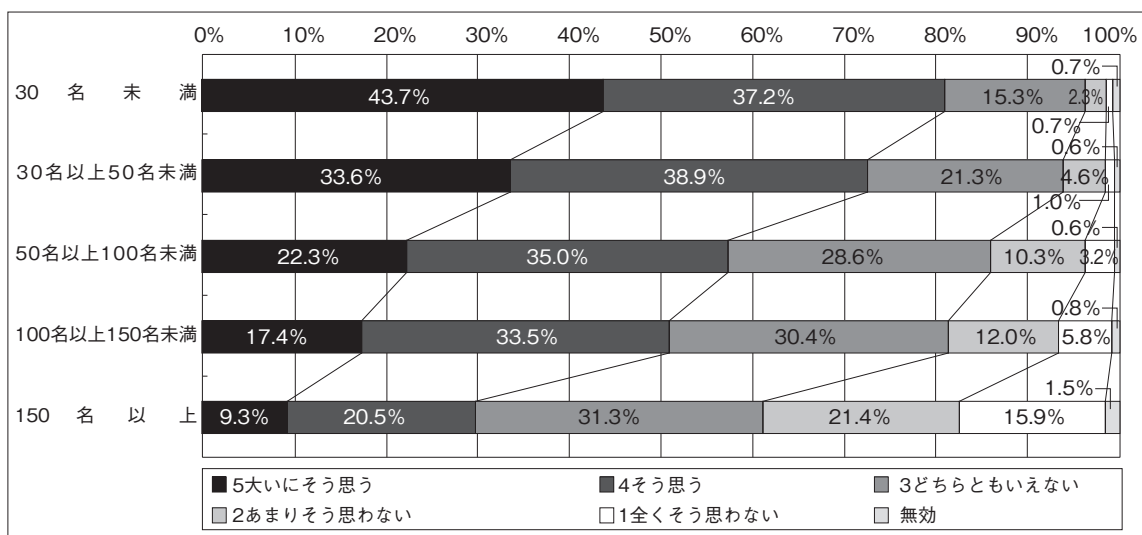
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	2,489	2,785	3,131	511	269	179	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	2,125	2,941	3,928	616	358	133	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	1,321	2,309	4,449	996	654	106	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	615	1,097	2,438	726	490	69	5,435
150 名 以 上	184	367	1,003	278	209	28	2,069



Q2－(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた

[単位：名（延べ）]

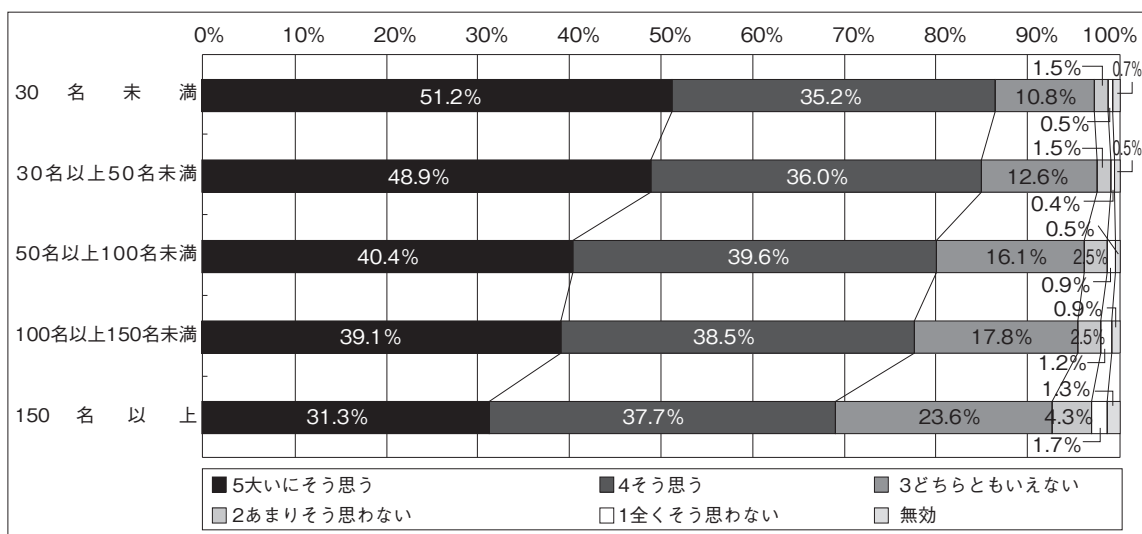
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	4,089	3,487	1,435	219	70	64	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	3,389	3,934	2,149	467	98	64	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	2,196	3,439	2,815	1,012	314	59	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	948	1,821	1,654	652	316	44	5,435
150 名 以 上	193	425	648	442	330	31	2,069



Q2－(10) 授業時間が守られていた

[単位：名（延べ）]

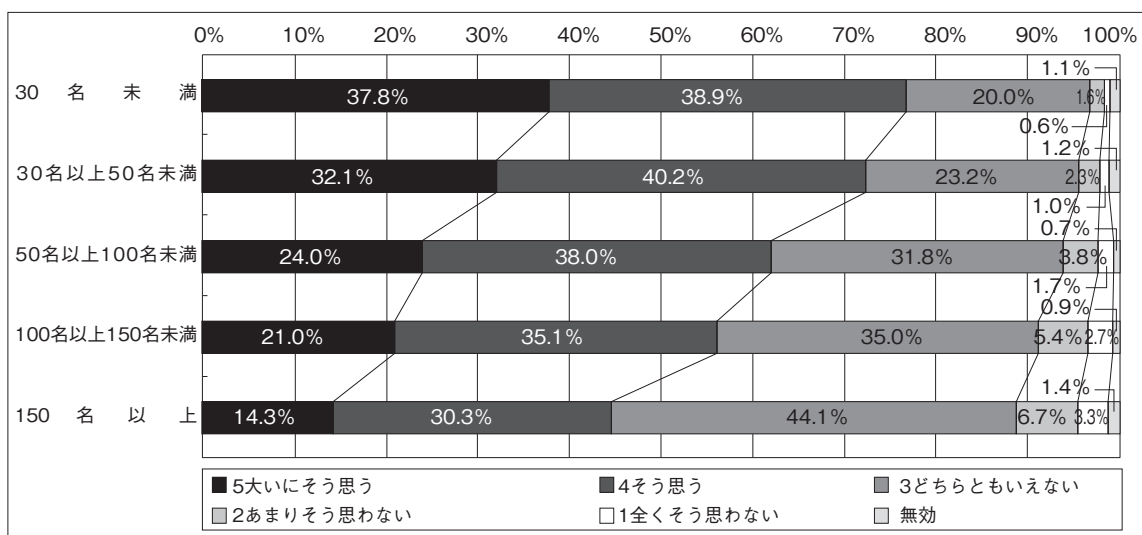
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	4,794	3,299	1,015	143	46	67	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	4,935	3,637	1,276	154	44	55	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	3,969	3,890	1,587	243	93	53	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	2,125	2,093	966	136	67	48	5,435
150 名 以 上	647	780	489	90	36	27	2,069



Q2－(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,536	3,639	1,874	149	59	107	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	3,247	4,064	2,342	233	97	118	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	2,364	3,735	3,123	371	169	73	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	1,142	1,905	1,901	291	146	50	5,435
150 名 以 上	296	626	912	138	69	28	2,069

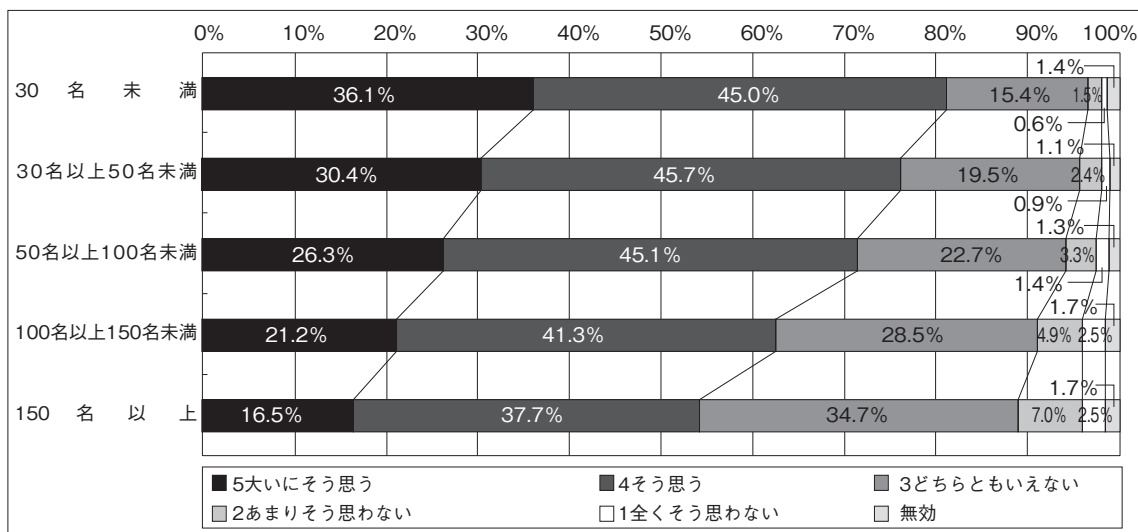


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3－(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名（延べ）]

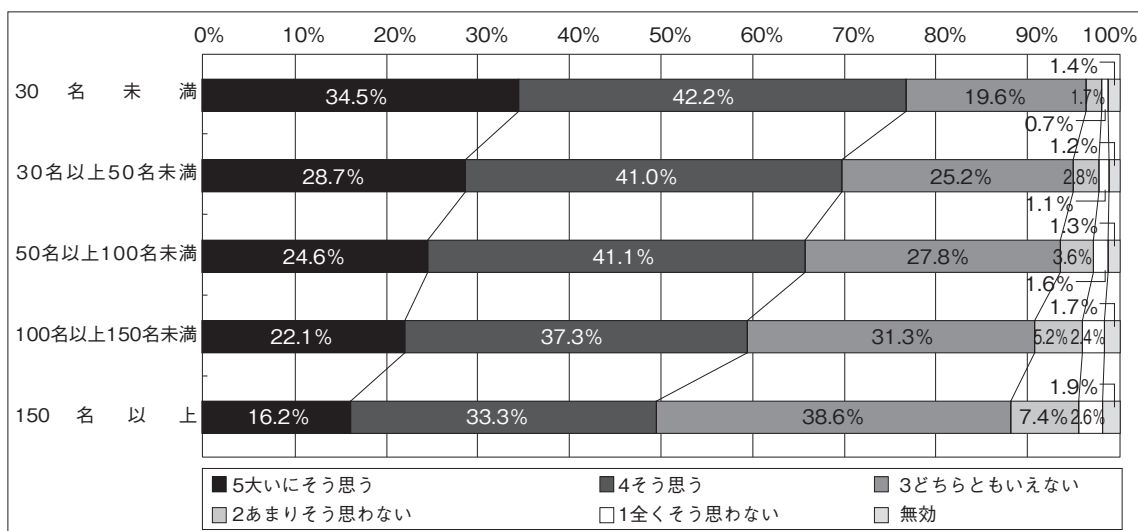
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,378	4,218	1,446	138	54	130	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	3,072	4,613	1,974	241	90	111	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	2,584	4,434	2,230	329	133	125	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	1,151	2,246	1,548	265	135	90	5,435
150 名 以 上	341	779	718	145	51	35	2,069



Q3－(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名（延べ）]

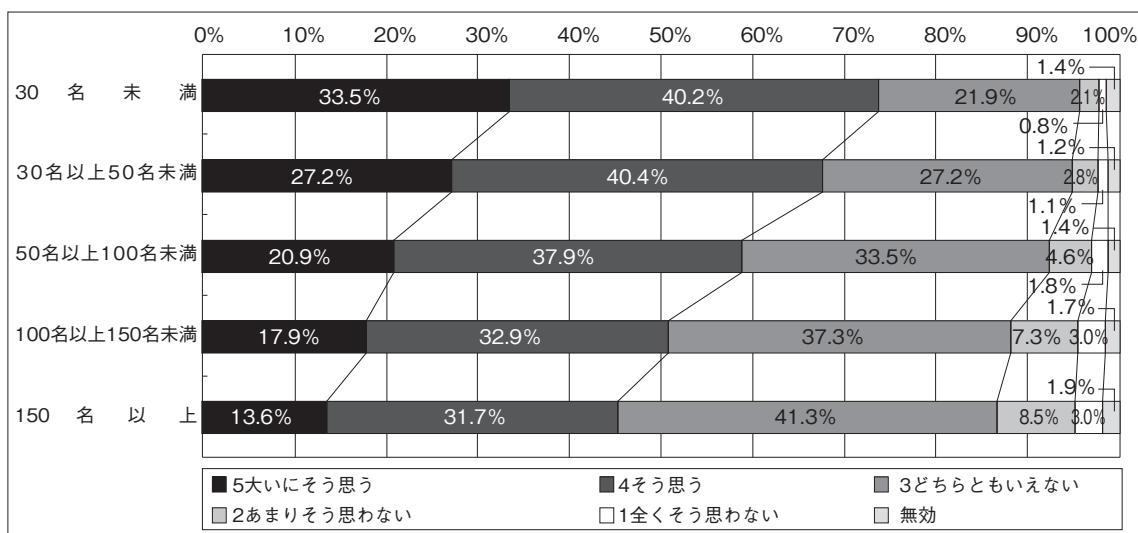
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,227	3,951	1,833	159	63	131	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	2,895	4,146	2,550	282	108	120	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	2,416	4,041	2,738	358	153	129	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	1,199	2,025	1,701	285	130	95	5,435
150 名 以 上	335	689	798	153	54	40	2,069



Q3－(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名（延べ）]

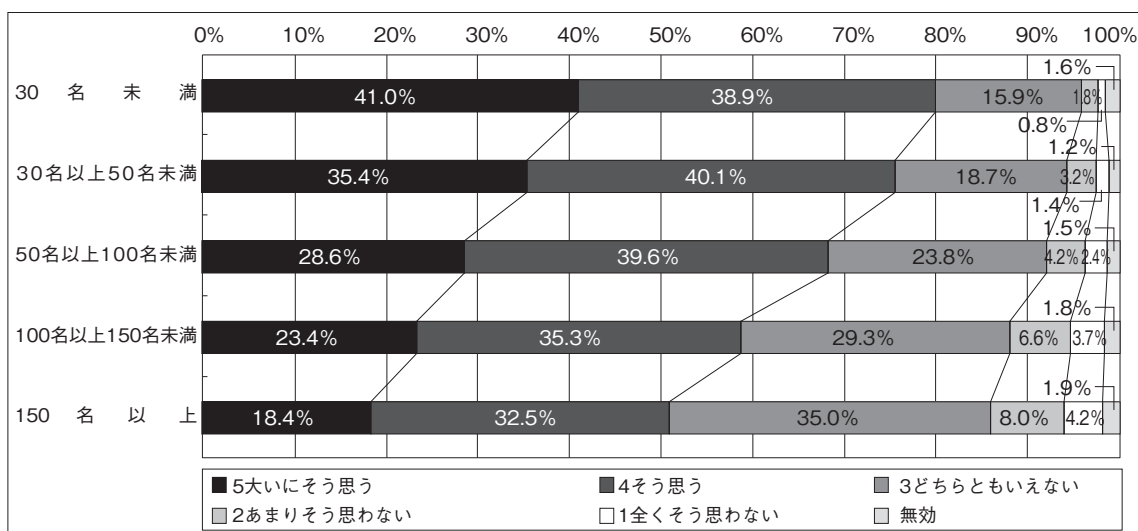
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,140	3,760	2,055	196	79	134	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	2,752	4,081	2,743	285	116	124	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	2,051	3,732	3,294	448	177	133	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	971	1,786	2,025	395	165	93	5,435
150 名 以 上	282	655	855	175	63	39	2,069



Q3－(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,836	3,639	1,492	172	77	148	9,364
30 名 以 上 50 名 未 満	3,579	4,050	1,885	320	142	125	10,101
50 名 以 上 100 名 未 満	2,811	3,895	2,337	411	236	145	9,835
100 名 以 上 150 名 未 満	1,273	1,919	1,592	356	199	96	5,435
150 名 以 上	381	672	724	166	86	40	2,069



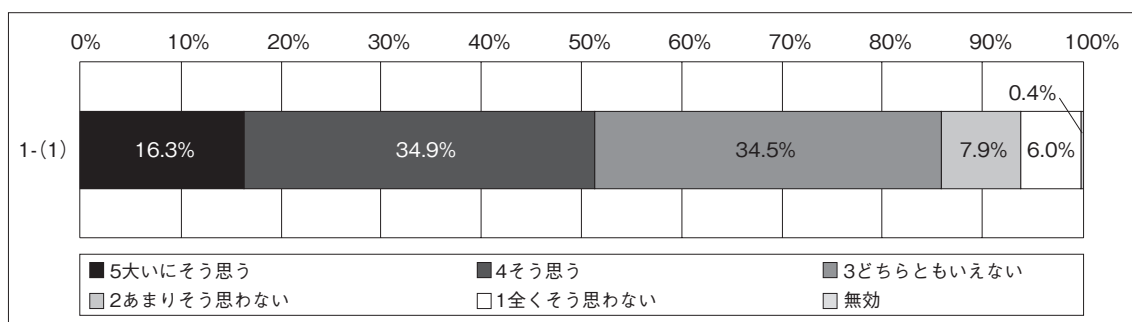
2011 年度 秋学期 授業アンケート 全体集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1－(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名（延べ）]

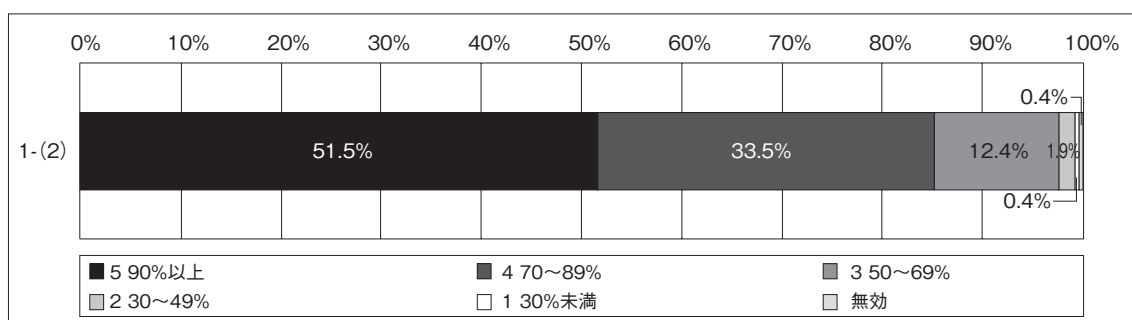
5 大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
5,110	10,907	10,785	2,465	1,886	125	31,278



Q1－(2) これまでの授業の出席率

[単位：名（延べ）]

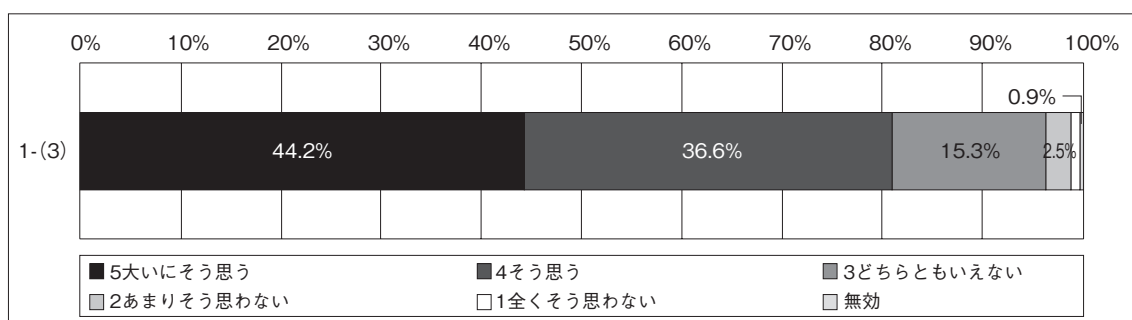
5 90% 以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30% 未満	無効	合計
16,099	10,476	3,875	592	124	112	31,278



Q1－(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった

[単位：名（延べ）]

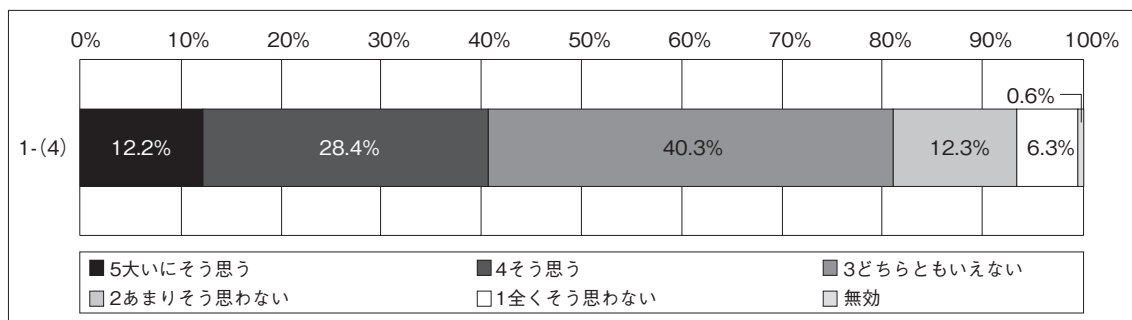
5 大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
13,823	11,460	4,773	768	288	166	31,278



Q1－(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名（延べ）]

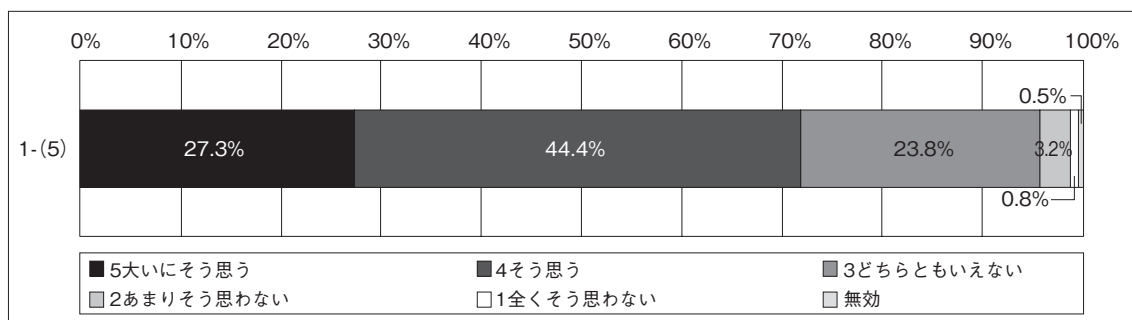
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
3,817	8,878	12,592	3,832	1,976	183	31,278



Q1－(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名（延べ）]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
8,531	13,876	7,447	998	263	163	31,278

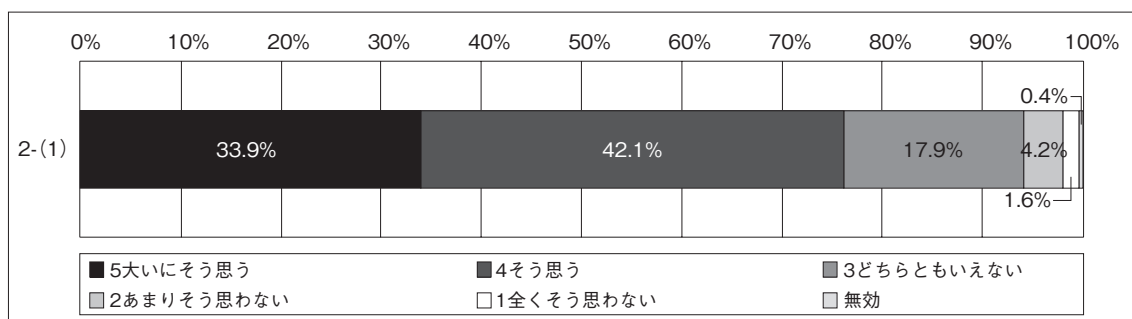


2. この授業の運営について

Q2－(1) わかりやすい授業であった

[単位：名（延べ）]

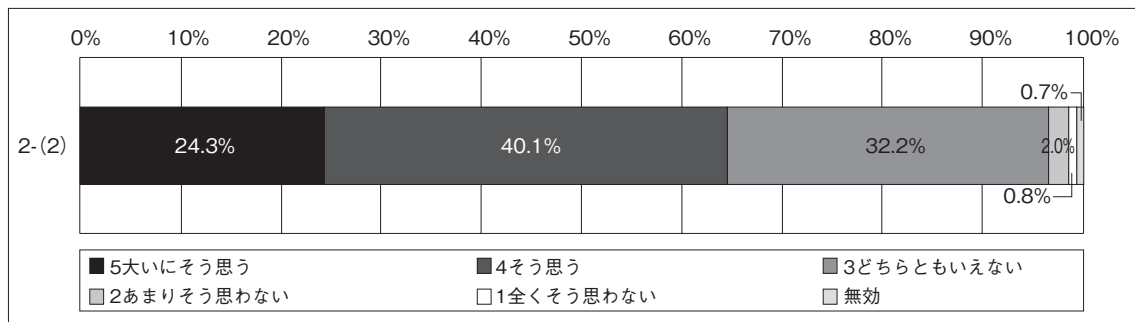
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
10,602	13,156	5,606	1,300	496	118	31,278



Q2－(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名（延べ）]

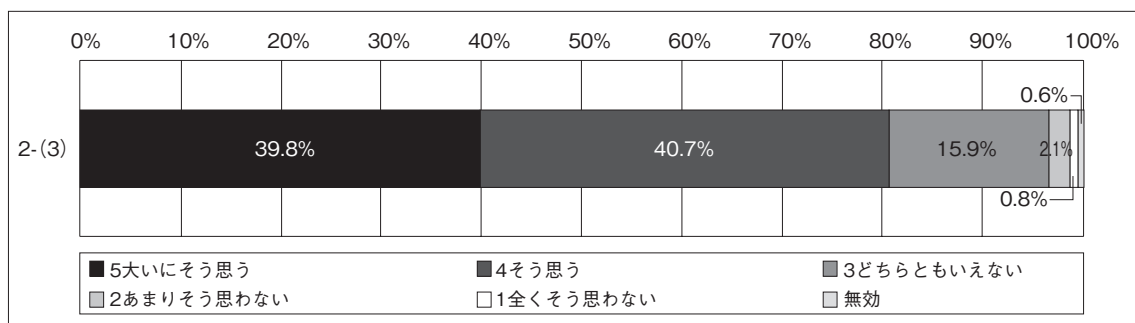
5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
7,591	12,533	10,081	617	242	214	31,278



Q2－(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名（延べ）]

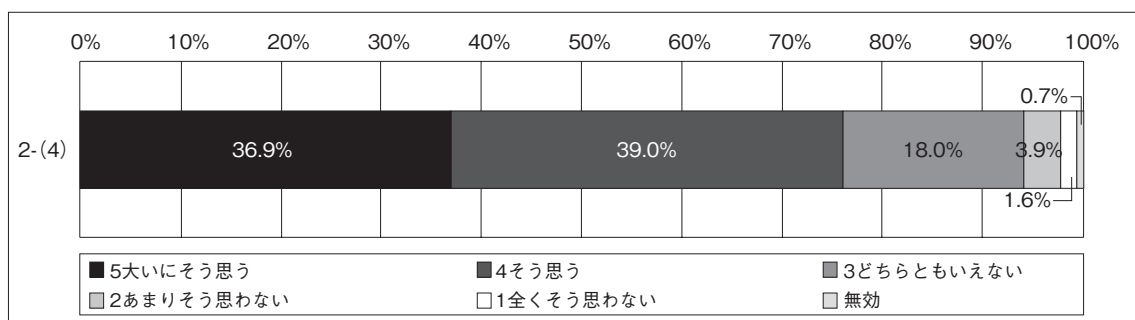
5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
12,450	12,736	4,974	666	264	188	31,278



Q2－(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名（延べ）]

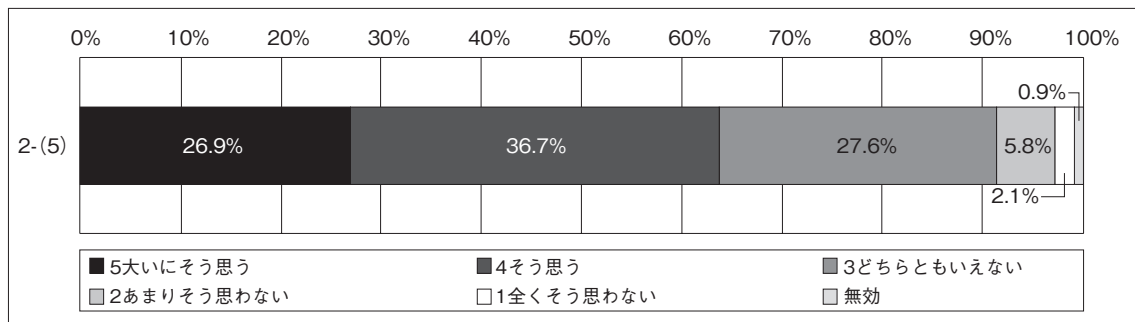
5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
11,540	12,204	5,622	1,216	490	206	31,278



Q2－(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

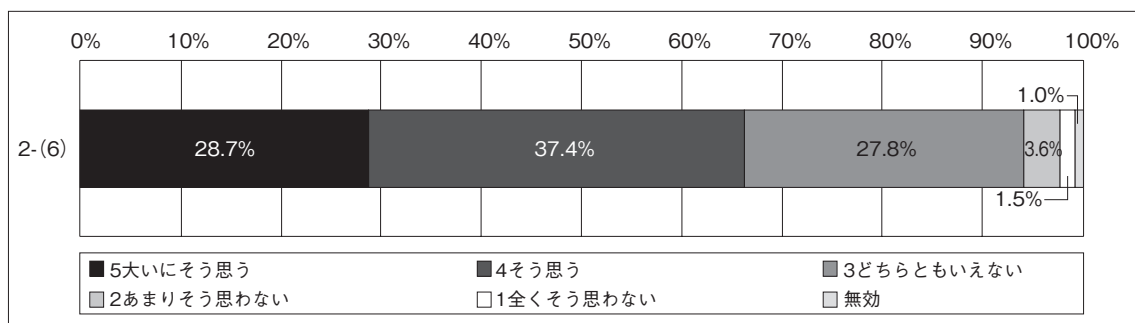
5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
8,413	11,479	8,635	1,816	662	273	31,278



Q2－(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

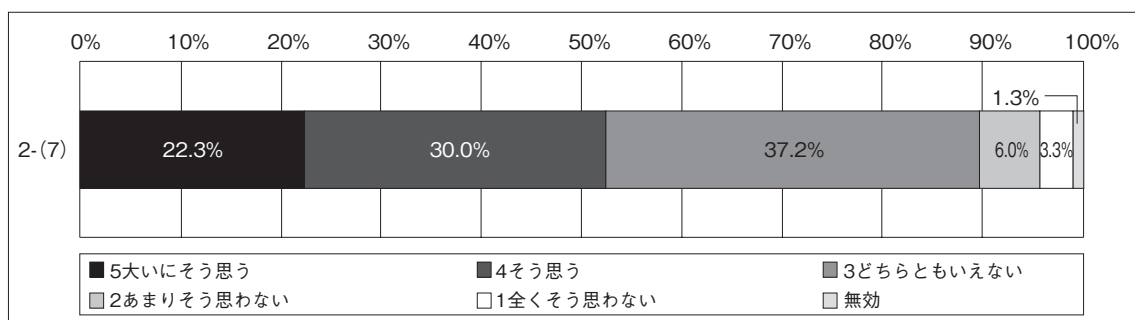
5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
8,990	11,690	8,701	1,132	462	303	31,278



Q2－(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

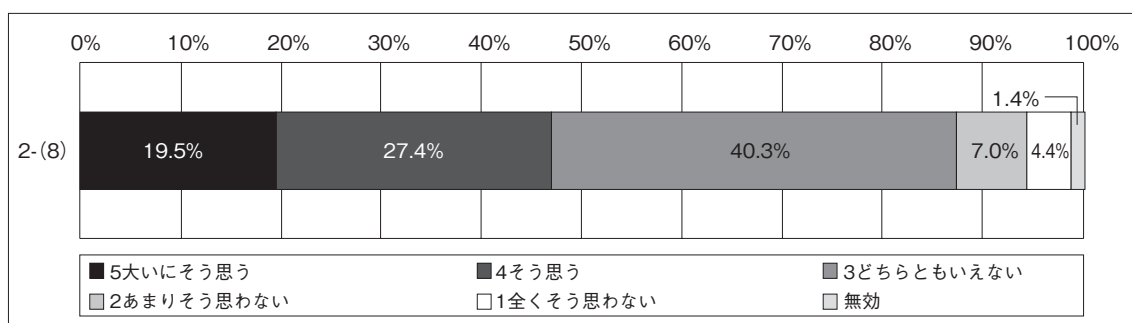
[単位：名（延べ）]

5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
6,961	9,387	11,620	1,879	1,025	406	31,278



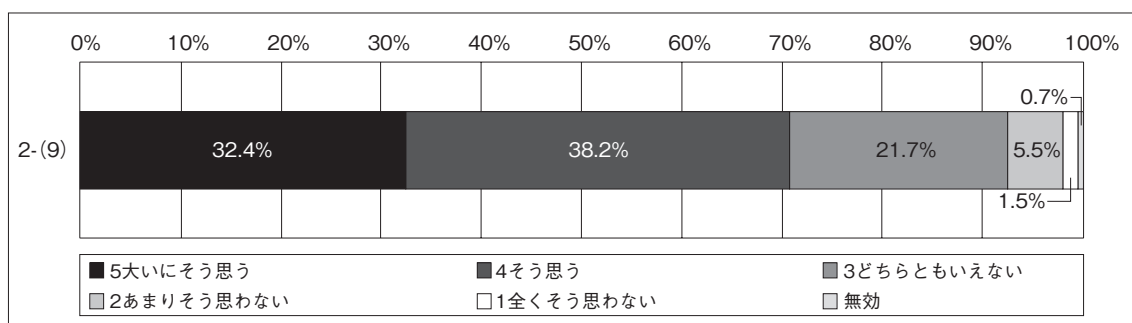
Q2－(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）” 含む）に工夫がみられた [単位：名（延べ）]

5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
6,085	8,584	12,608	2,175	1,379	447	31,278



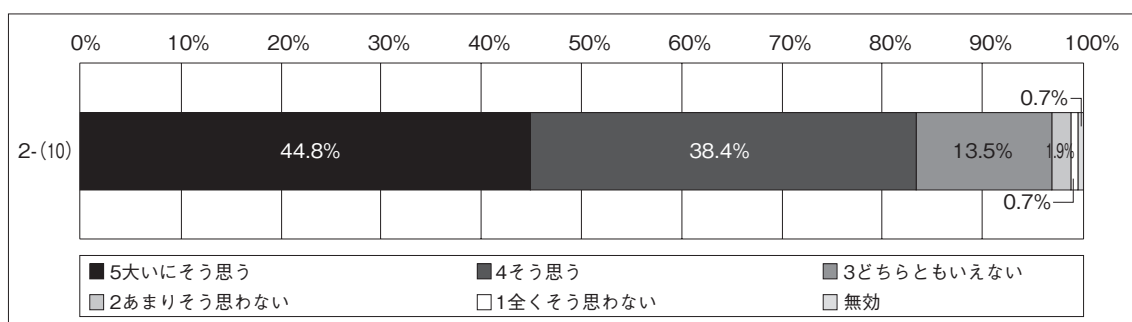
Q2－(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた [単位：名（延べ）]

5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
10,135	11,933	6,788	1,712	477	233	31,278



Q2－(10) 授業時間が守られていた [単位：名（延べ）]

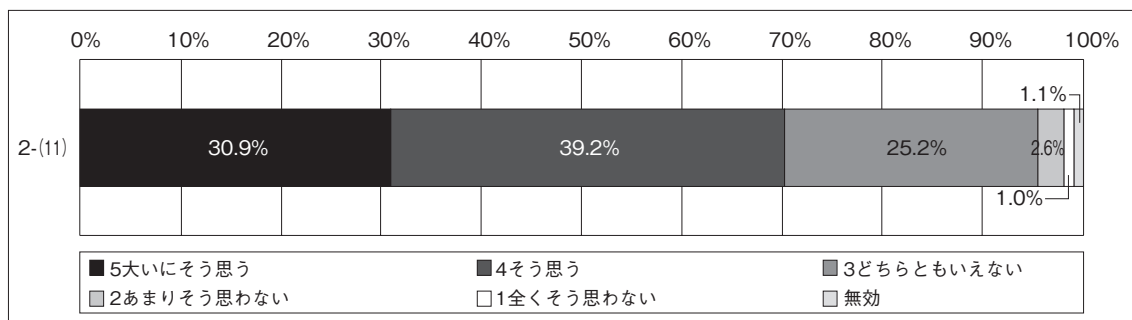
5大いにそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
14,014	12,012	4,229	586	210	227	31,278



Q2－(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名（延べ）]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
9,651	12,271	7,881	810	325	340	31,278

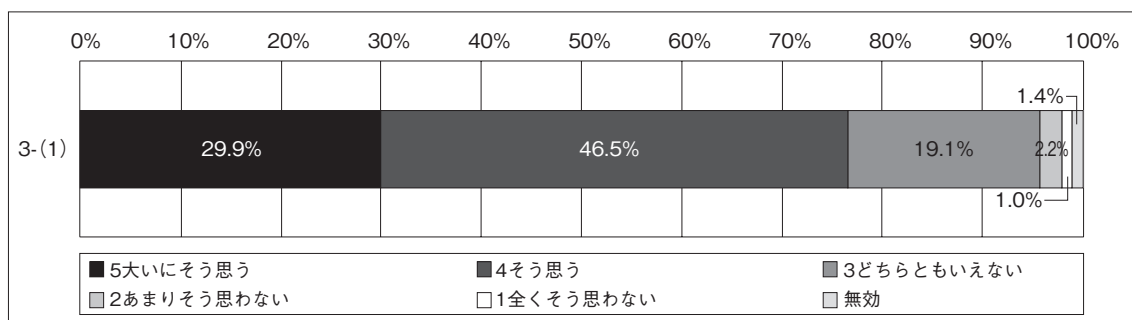


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3－(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名（延べ）]

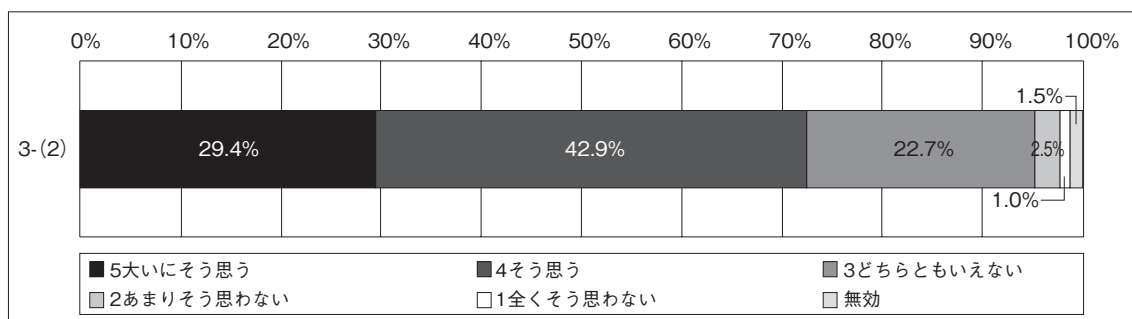
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
9,340	14,535	5,976	679	301	447	31,278



Q3－(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名（延べ）]

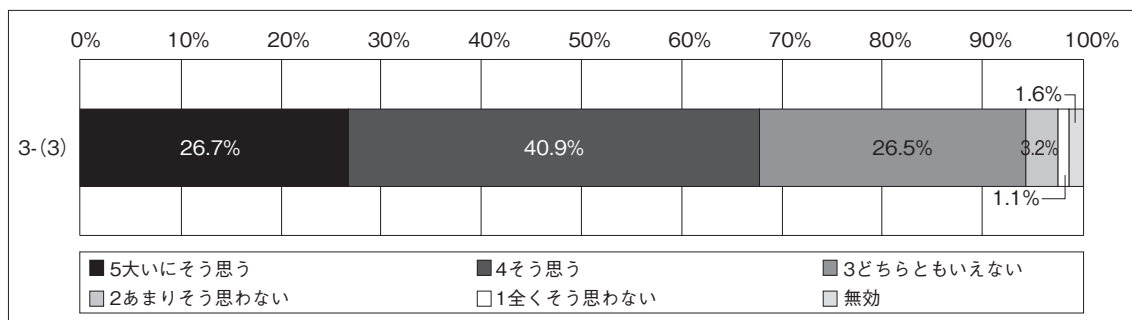
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
9,205	13,406	7,108	770	310	479	31,278



Q3－(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名（延べ）]

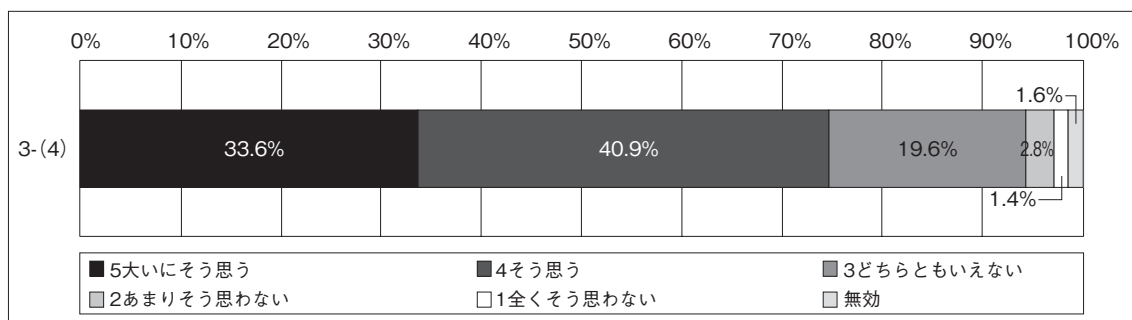
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
8,351	12,806	8,278	1,003	354	486	31,278



Q3－(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名（延べ）]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
10,516	12,798	6,139	875	439	511	31,278



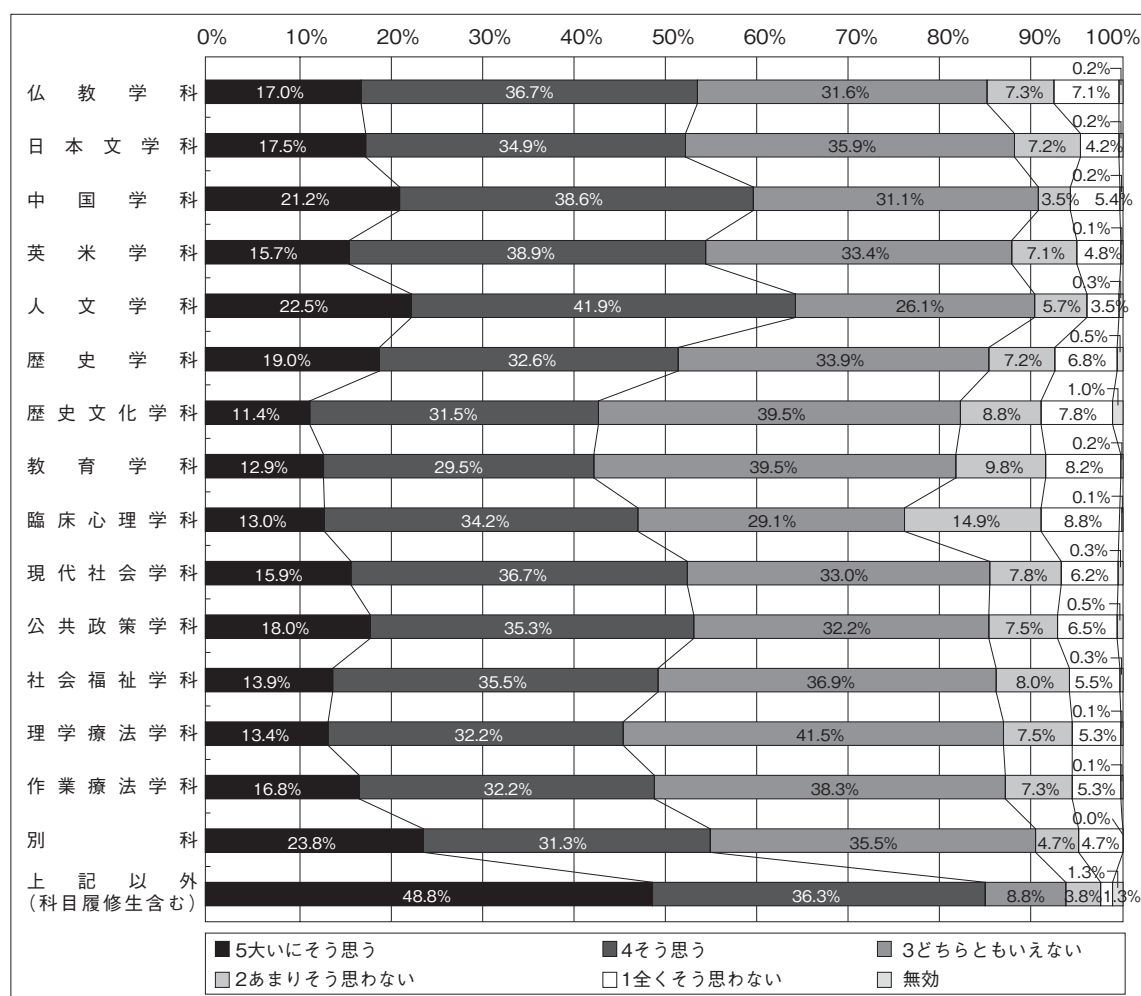
2011 年度 秋学期 授業アンケート マーク学科別集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1ー(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名（延べ）]

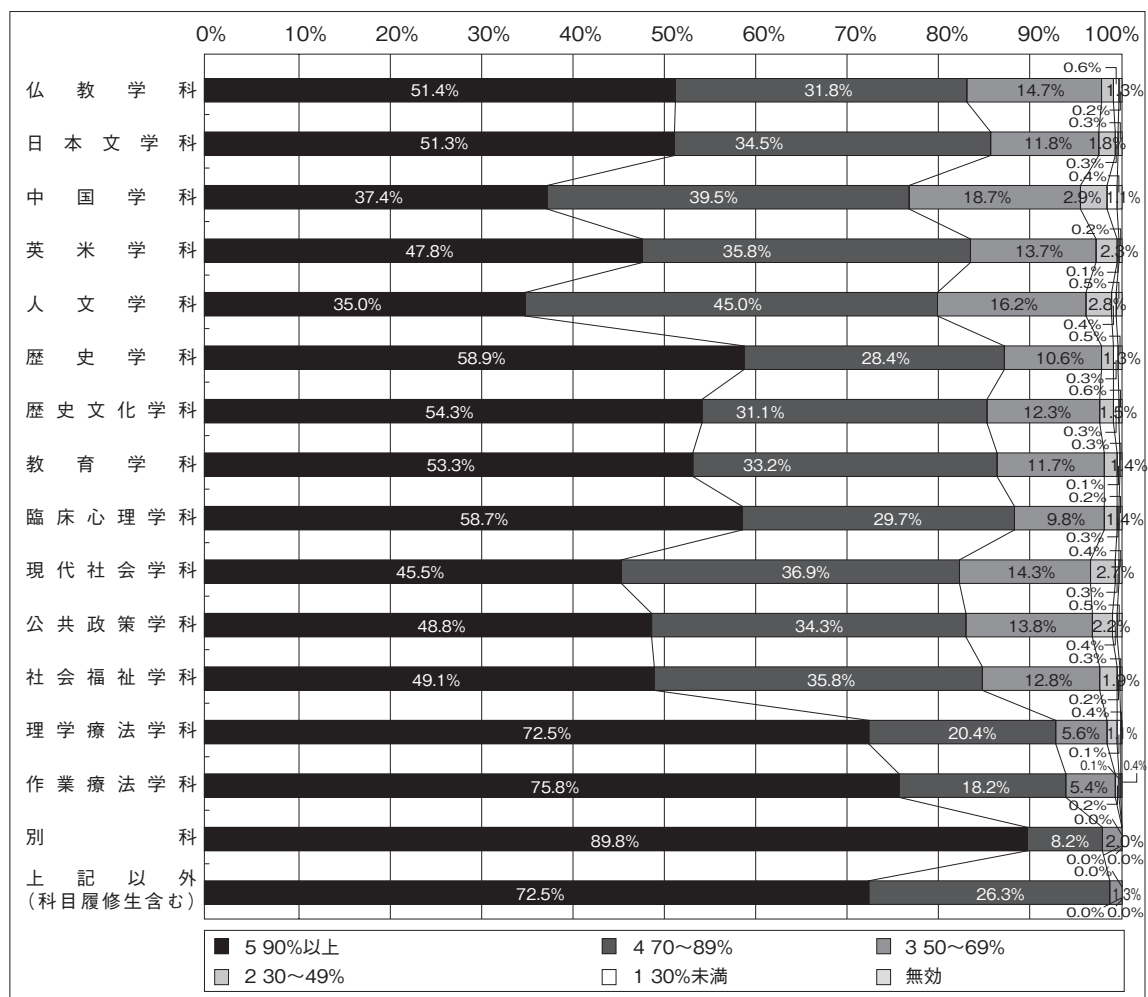
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	141	305	263	61	59	2	831
日 本 文 学 科	406	808	831	167	98	4	2,314
中 国 学 科	175	319	257	29	45	2	827
英 米 学 科	268	662	569	121	82	1	1,703
人 文 学 科	522	973	607	132	81	8	2,323
歴 史 学 科	396	677	704	150	142	10	2,079
歴史文化学科	141	391	490	109	97	12	1,240
教 育 学 科	443	1,012	1,355	335	282	7	3,434
臨床心理学科	191	504	428	220	129	1	1,473
現代社会学科	605	1,395	1,254	296	235	11	3,796
公共政策学科	444	871	794	184	161	12	2,466
社会福祉学科	759	1,933	2,012	436	298	14	5,452
理学療法学科	159	382	493	89	63	1	1,187
作業療法学科	198	379	451	86	62	1	1,177
別 科	61	80	91	12	12	0	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	39	29	7	3	1	1	80



Q1－(2) これまでの授業の出席率

[単位：名(延べ)]

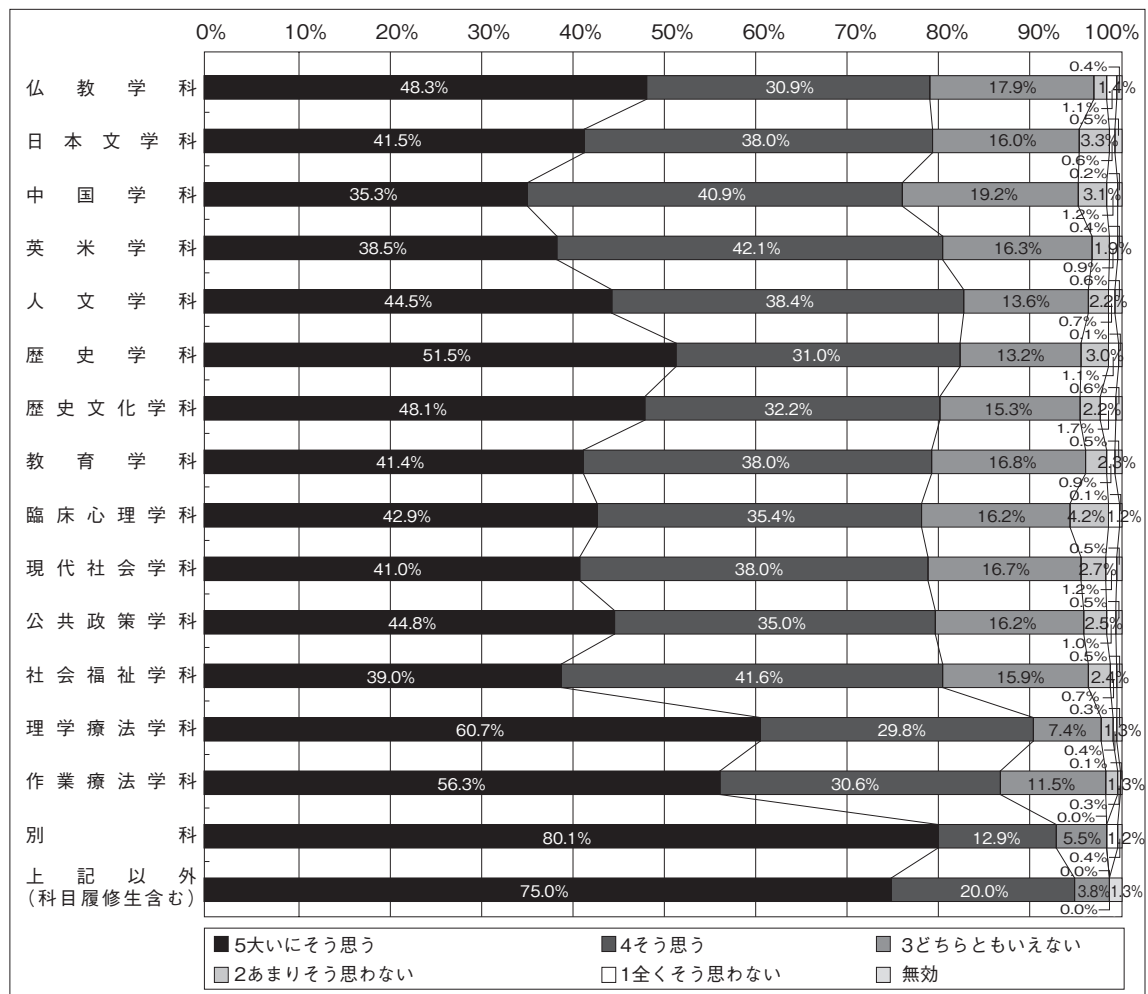
	5 90%以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30%未満	無効	合計
仏 教 学 科	427	264	122	11	5	2	831
日 本 文 学 科	1,188	798	273	41	7	7	2,314
中 国 学 科	309	327	155	24	9	3	827
英 米 学 科	814	609	234	40	4	2	1,703
人 文 学 科	814	1,045	376	66	12	10	2,323
歴 史 学 科	1,224	591	220	27	11	6	2,079
歴史文化学科	673	386	152	18	7	4	1,240
教 育 学 科	1,829	1,139	401	48	12	5	3,434
臨床心理学科	864	437	144	20	3	5	1,473
現代社会学科	1,727	1,399	542	103	14	11	3,796
公共政策学科	1,204	845	340	55	12	10	2,466
社会福祉学科	2,675	1,952	698	101	14	12	5,452
理学療法学科	860	242	66	13	5	1	1,187
作業療法学科	892	214	63	5	2	1	1,177
別 科	230	21	5	0	0	0	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	58	21	1	0	0	0	80



Q1－(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった

[単位：名（延べ）]

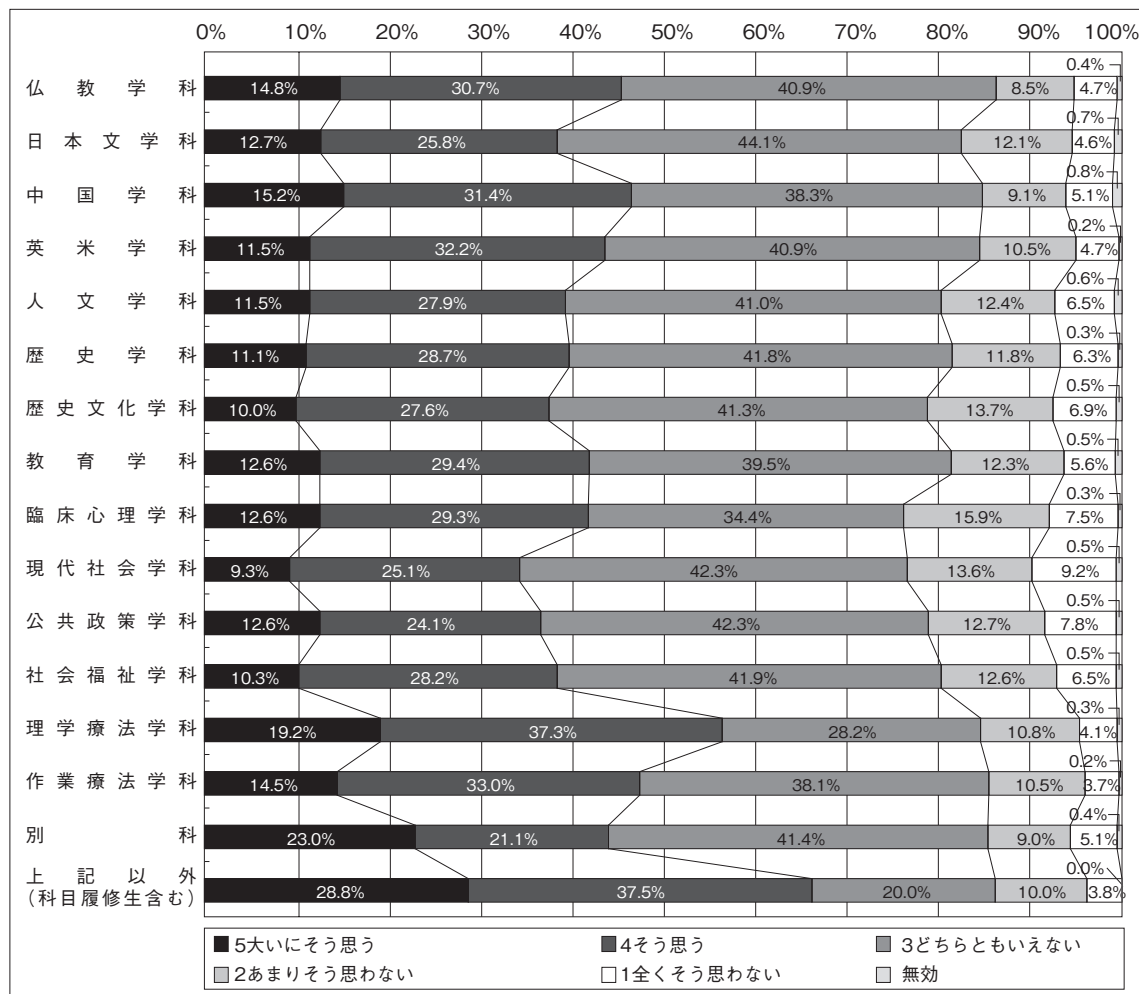
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	401	257	149	12	9	3	831
日 本 文 学 科	961	880	371	76	14	12	2,314
中 国 学 科	292	338	159	26	10	2	827
英 米 学 科	655	717	277	32	15	7	1,703
人 文 学 科	1,034	891	315	52	17	14	2,323
歴 史 学 科	1,070	645	275	63	23	3	2,079
歴史文化学科	596	399	190	27	21	7	1,240
教 育 学 科	1,421	1,305	578	80	32	18	3,434
臨床心理学科	632	521	239	62	17	2	1,473
現代社会学科	1,555	1,443	633	102	45	18	3,796
公共政策学科	1,105	863	399	61	25	13	2,466
社会福祉学科	2,126	2,269	865	129	38	25	5,452
理学療法学科	721	354	88	16	5	3	1,187
作業療法学科	663	360	135	15	3	1	1,177
別 科	205	33	14	0	3	1	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	60	16	3	0	0	1	80



Q1－(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名(延べ)]

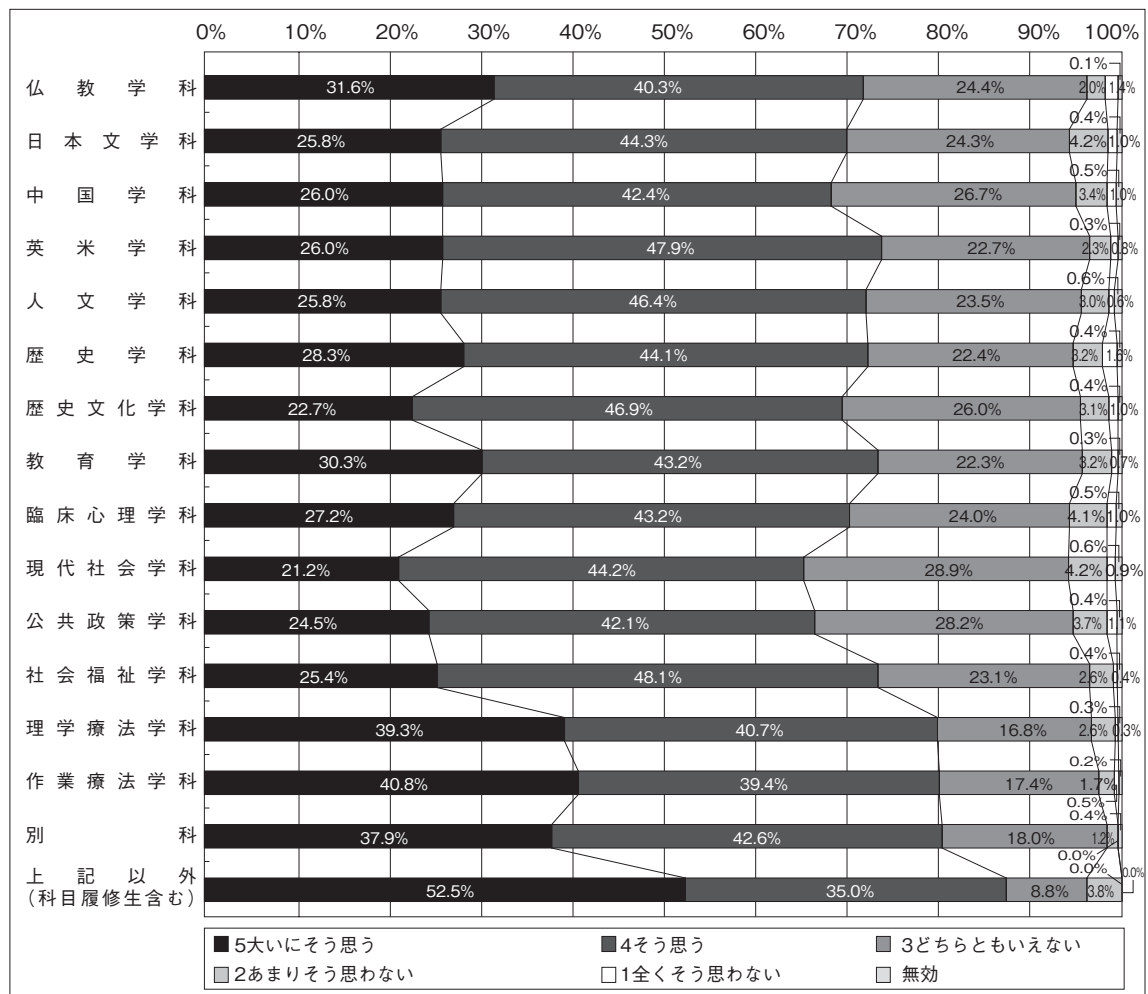
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	123	255	340	71	39	3	831
日 本 文 学 科	295	596	1,020	281	106	16	2,314
中 国 学 科	126	260	317	75	42	7	827
英 米 学 科	195	549	697	178	80	4	1,703
人 文 学 科	267	648	953	289	152	14	2,323
歴 史 学 科	231	596	868	246	131	7	2,079
歴史文化学科	124	342	512	170	86	6	1,240
教 育 学 科	433	1,009	1,357	424	193	18	3,434
臨床心理学科	185	432	507	234	110	5	1,473
現代社会学科	353	953	1,605	517	349	19	3,796
公共政策学科	311	594	1,042	314	193	12	2,466
社会福祉学科	561	1,540	2,282	686	355	28	5,452
理学療法学科	228	443	335	128	49	4	1,187
作業療法学科	171	388	449	124	43	2	1,177
別 科	59	54	106	23	13	1	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	23	30	16	8	3	0	80



Q1－(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	263	335	203	17	12	1	831
日 本 文 学 科	597	1,026	562	97	23	9	2,314
中 国 学 科	215	351	221	28	8	4	827
英 米 学 科	442	816	386	40	14	5	1,703
人 文 学 科	600	1,077	547	69	15	15	2,323
歴 史 学 科	588	917	465	67	34	8	2,079
歴史文化学科	281	581	322	38	13	5	1,240
教 育 学 科	1,041	1,482	767	110	25	9	3,434
臨床心理学科	400	637	354	60	15	7	1,473
現代社会学科	805	1,678	1,097	158	34	24	3,796
公共政策学科	603	1,038	695	91	28	11	2,466
社会福祉学科	1,383	2,622	1,259	144	23	21	5,452
理学療法学科	466	483	199	31	4	4	1,187
作業療法学科	480	464	205	20	6	2	1,177
別 科	97	109	46	3	0	1	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	42	28	7	3	0	0	80

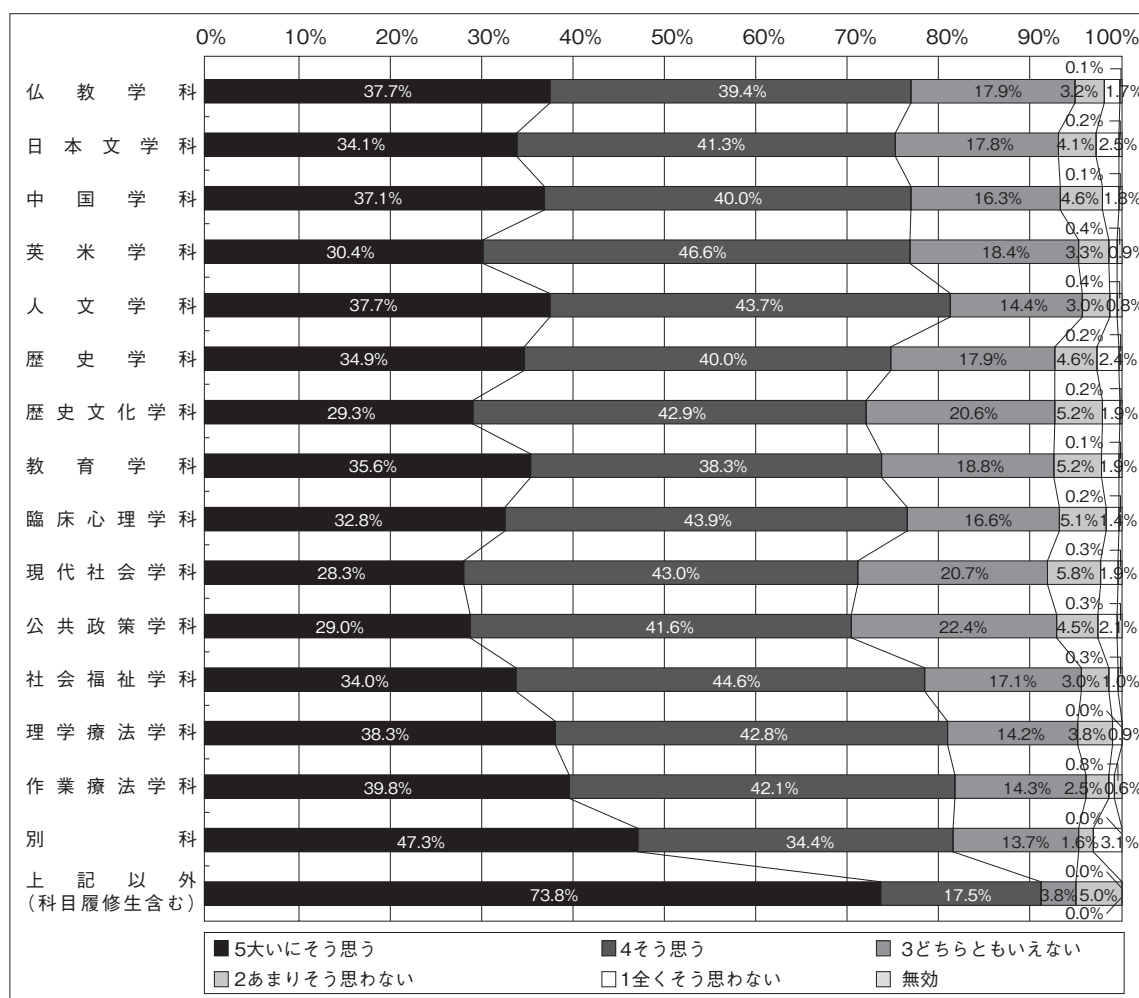


2. この授業の運営について

Q2－(1) わかりやすい授業であった

[単位：名（延べ）]

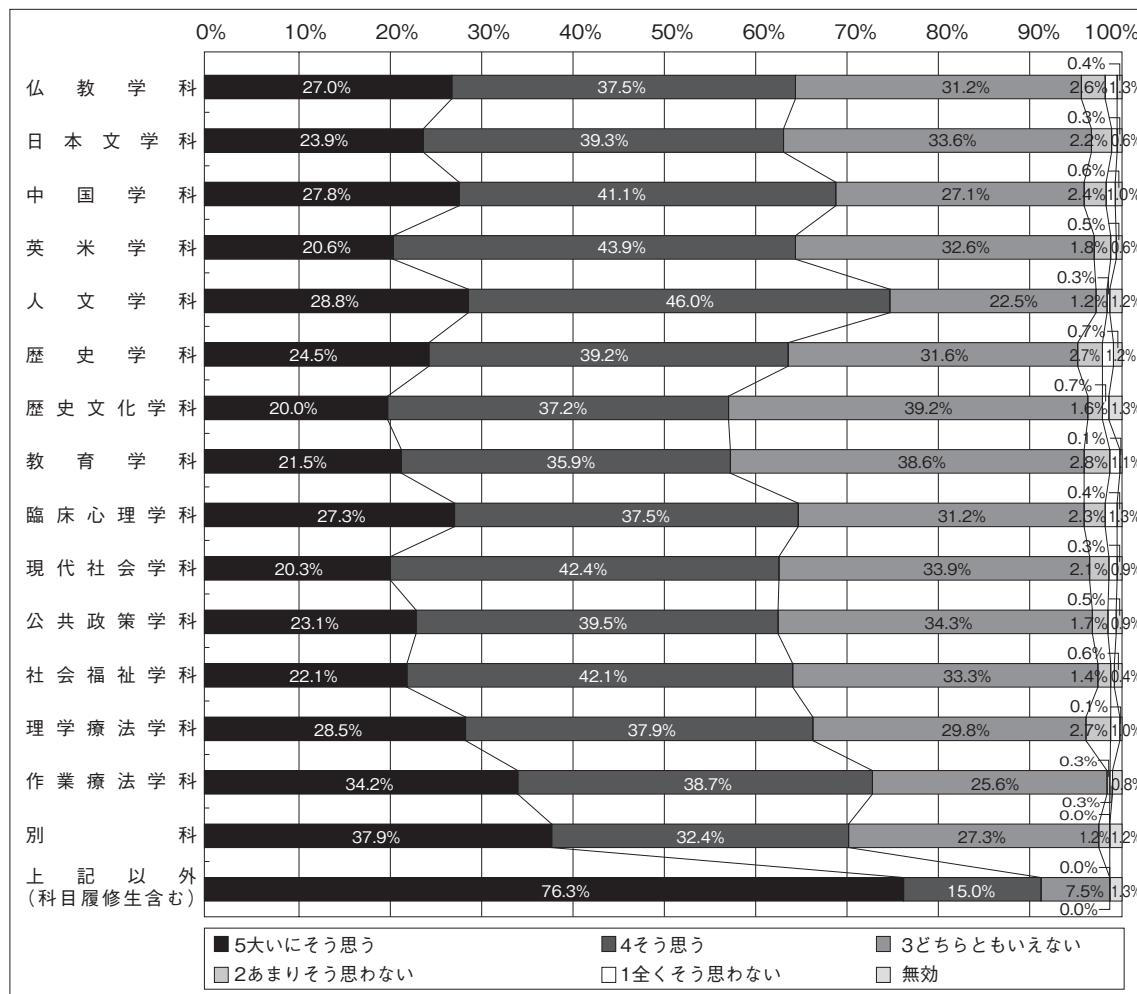
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	313	327	149	27	14	1	831
日 本 文 学 科	788	956	413	96	57	4	2,314
中 国 学 科	307	331	135	38	15	1	827
英 米 学 科	518	793	314	56	15	7	1,703
人 文 学 科	876	1,015	334	70	18	10	2,323
歴 史 学 科	726	831	373	95	50	4	2,079
歴史文化学科	363	532	255	65	23	2	1,240
教 育 学 科	1,223	1,316	647	180	64	4	3,434
臨床心理学科	483	647	244	75	21	3	1,473
現代社会学科	1,076	1,632	784	221	71	12	3,796
公共政策学科	716	1,026	553	110	53	8	2,466
社会福祉学科	1,851	2,431	930	166	56	18	5,452
理学療法学科	455	508	168	45	11	0	1,187
作業療法学科	468	496	168	29	7	9	1,177
別 科	121	88	35	4	8	0	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	59	14	3	4	0	0	80



Q2－(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名（延べ）]

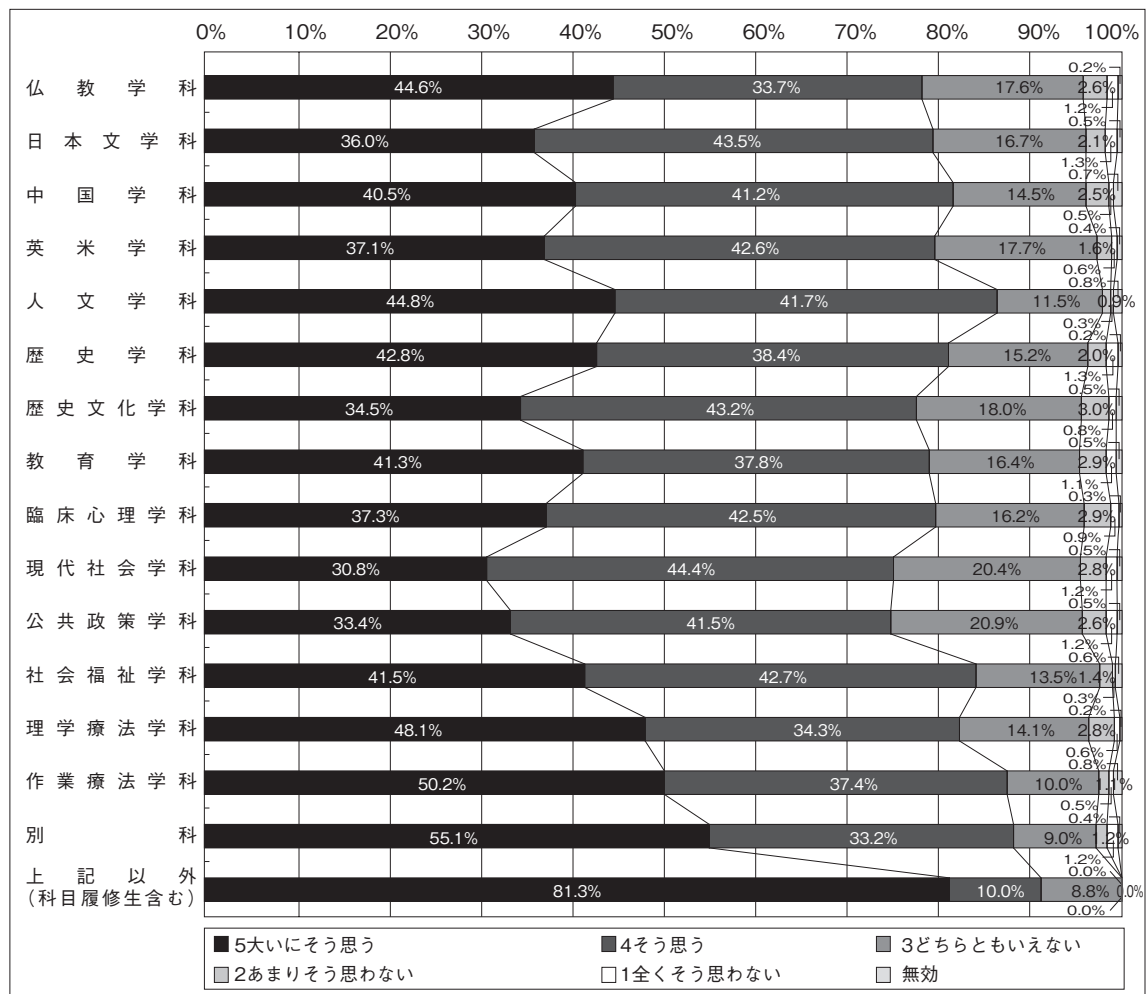
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	224	312	259	22	11	3	831
日 本 文 学 科	553	909	777	52	15	8	2,314
中 国 学 科	230	340	224	20	8	5	827
英 米 学 科	351	748	555	31	10	8	1,703
人 文 学 科	670	1,068	523	27	7	28	2,323
歴 史 学 科	510	815	657	57	25	15	2,079
歴史文化学科	248	461	486	20	9	16	1,240
教 育 学 科	740	1,233	1,324	95	37	5	3,434
臨床心理学科	402	553	459	34	19	6	1,473
現代社会学科	771	1,611	1,285	81	35	13	3,796
公共政策学科	570	973	846	43	21	13	2,466
社会福祉学科	1,203	2,298	1,817	79	20	35	5,452
理学療法学科	338	450	354	32	12	1	1,187
作業療法学科	403	456	301	4	3	10	1,177
別 科	97	83	70	3	0	3	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	61	12	6	0	0	1	80



Q2－(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名（延べ）]

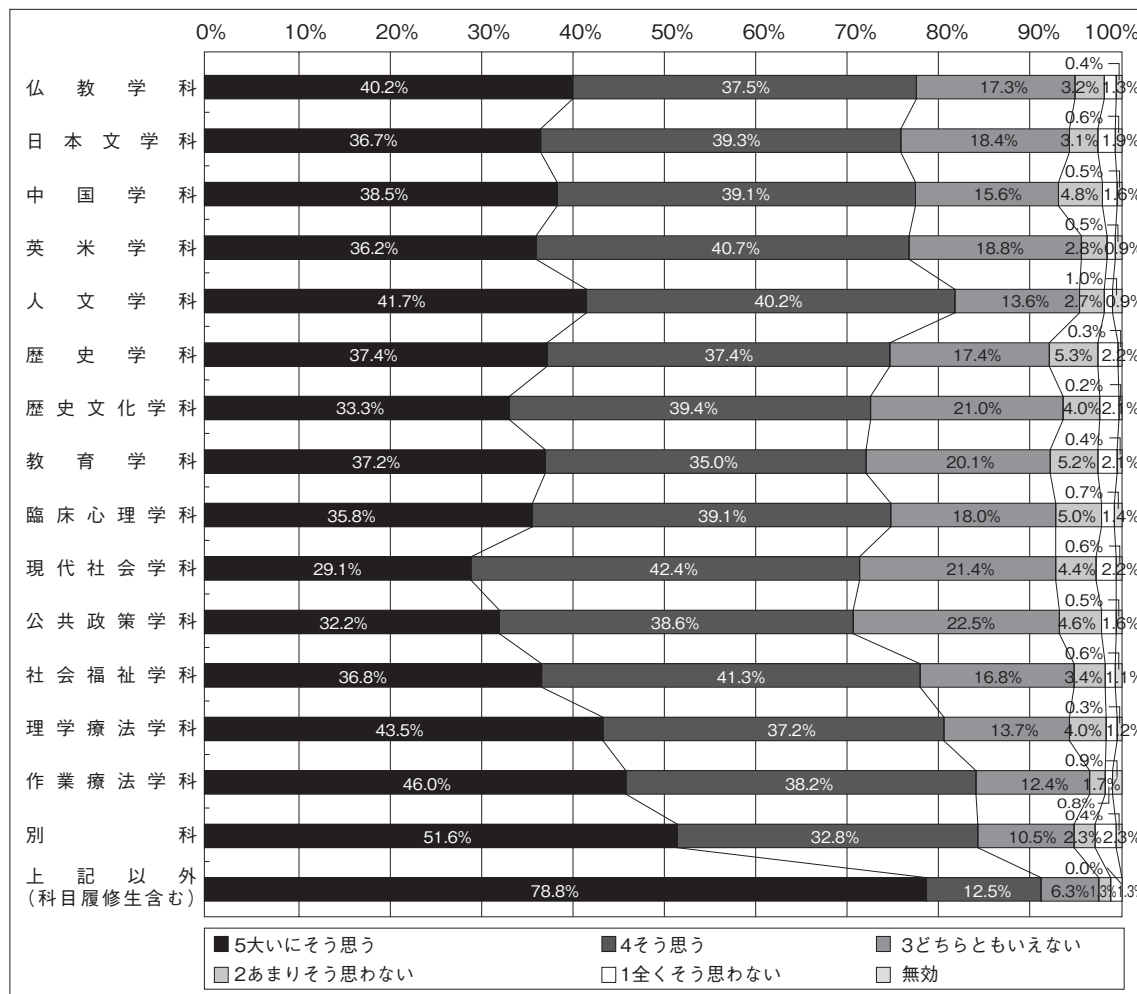
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	371	280	146	22	10	2	831
日 本 文 学 科	832	1,007	387	48	29	11	2,314
中 国 学 科	335	341	120	21	4	6	827
英 米 学 科	631	726	302	28	10	6	1,703
人 文 学 科	1,040	968	267	22	8	18	2,323
歴 史 学 科	890	798	317	41	28	5	2,079
歴史文化学科	428	536	223	37	10	6	1,240
教 育 学 科	1,418	1,299	564	99	38	16	3,434
臨床心理学科	550	626	238	42	13	4	1,473
現代社会学科	1,170	1,684	773	106	44	19	3,796
公共政策学科	823	1,023	515	63	29	13	2,466
社会福祉学科	2,262	2,330	738	76	16	30	5,452
理学療法学科	571	407	167	33	7	2	1,187
作業療法学科	591	440	118	13	6	9	1,177
別 科	141	85	23	3	3	1	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	65	8	7	0	0	0	80



Q2－(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名(延べ)]

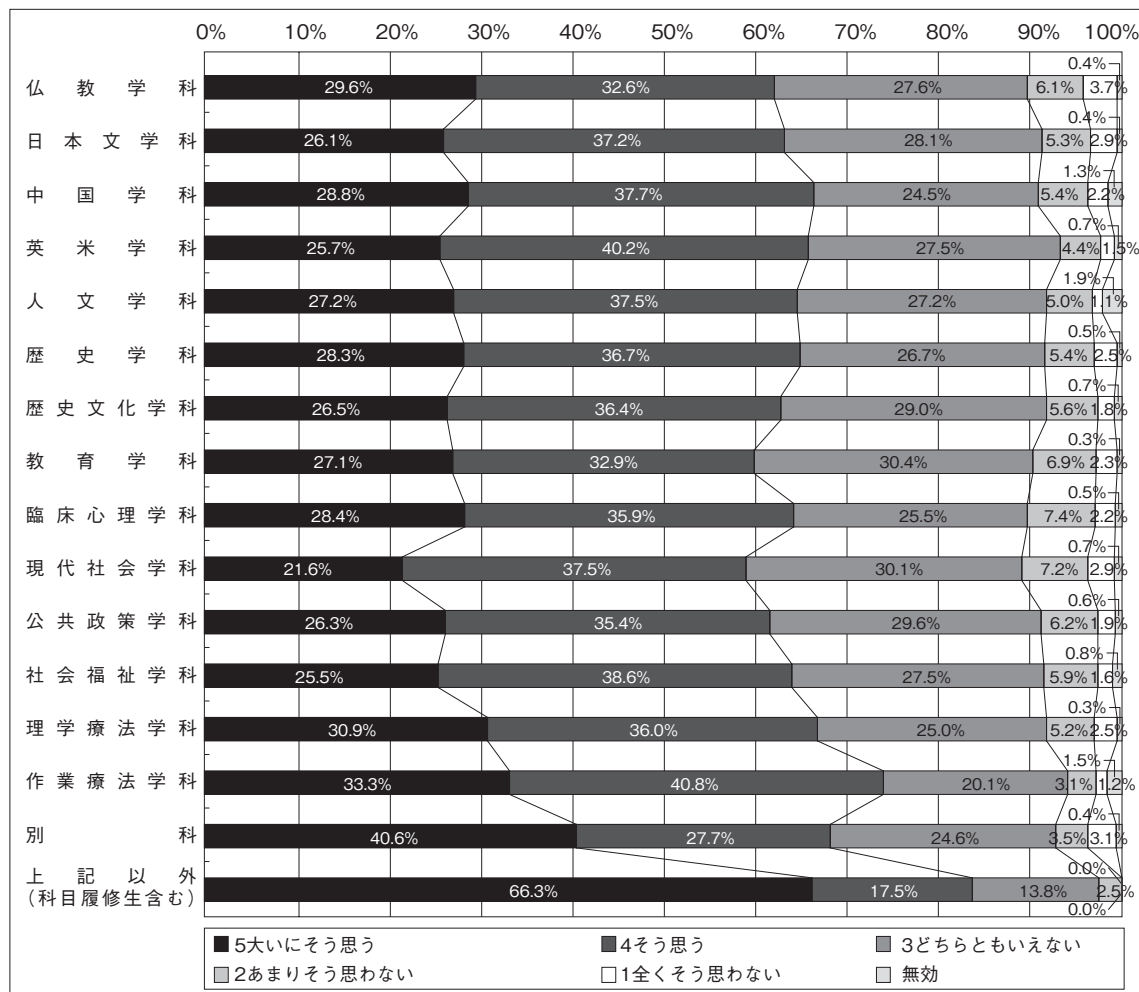
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	334	312	144	27	11	3	831
日 本 文 学 科	849	909	425	71	45	15	2,314
中 国 学 科	318	323	129	40	13	4	827
英 米 学 科	617	693	321	48	16	8	1,703
人 文 学 科	968	934	316	62	20	23	2,323
歴 史 学 科	778	778	362	110	45	6	2,079
歴史文化学科	413	489	260	49	26	3	1,240
教 育 学 科	1,278	1,202	691	179	71	13	3,434
臨床心理学科	528	576	265	74	20	10	1,473
現代社会学科	1,103	1,608	814	167	83	21	3,796
公共政策学科	794	952	555	113	40	12	2,466
社会福祉学科	2,008	2,253	916	186	58	31	5,452
理学療法学科	516	442	163	48	14	4	1,187
作業療法学科	541	450	146	20	9	11	1,177
別 科	132	84	27	6	6	1	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	63	10	5	1	1	0	80



Q2－(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

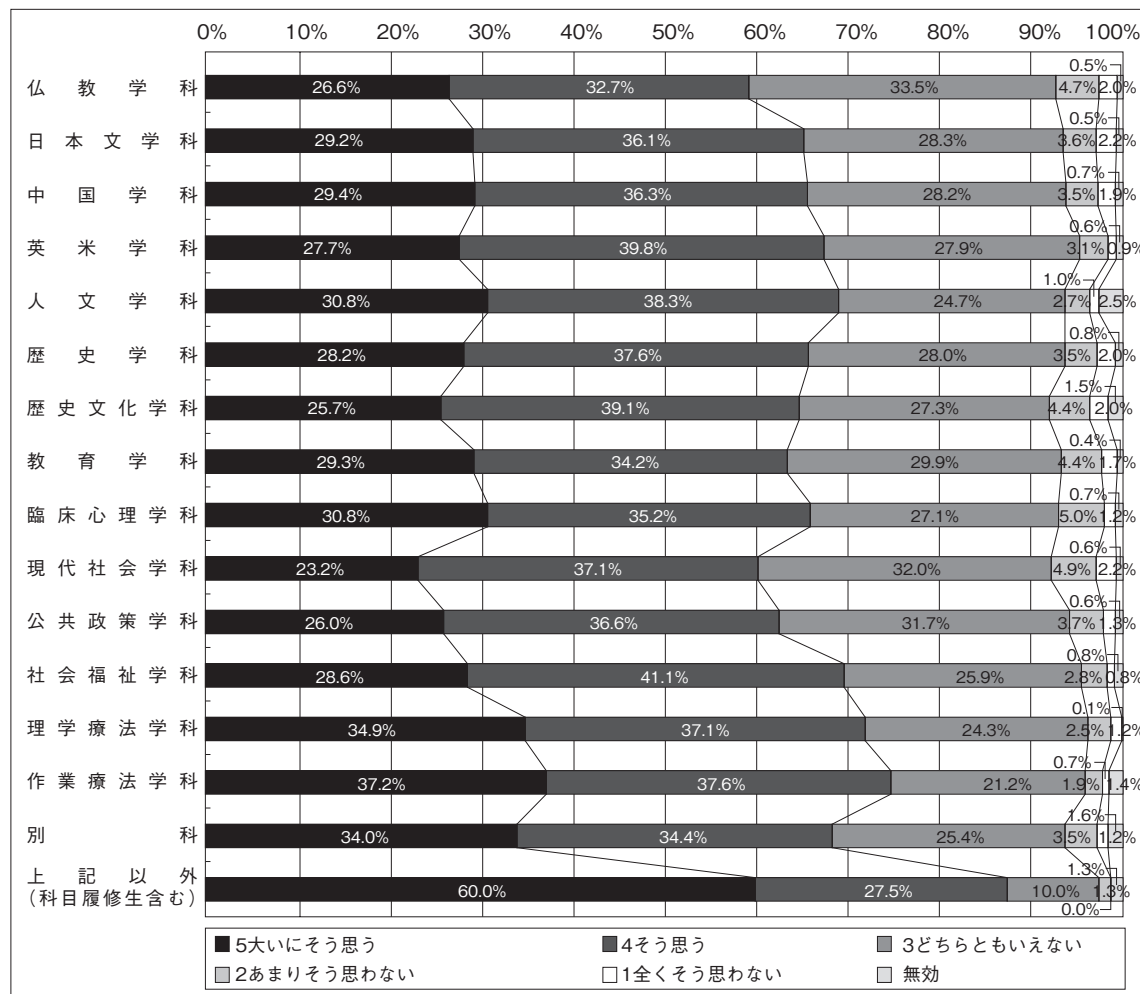
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	246	271	229	51	31	3	831
日 本 文 学 科	604	861	650	123	67	9	2,314
中 国 学 科	238	312	203	45	18	11	827
英 米 学 科	438	684	469	75	25	12	1,703
人 文 学 科	632	872	633	117	25	44	2,323
歴 史 学 科	589	762	555	112	51	10	2,079
歴史文化学科	328	451	360	70	22	9	1,240
教 育 学 科	932	1,131	1,044	236	80	11	3,434
臨床心理学科	419	529	376	109	32	8	1,473
現代社会学科	821	1,423	1,144	272	109	27	3,796
公共政策学科	649	873	730	152	48	14	2,466
社会福祉学科	1,392	2,104	1,498	323	89	46	5,452
理学療法学科	367	427	297	62	30	4	1,187
作業療法学科	392	480	237	36	14	18	1,177
別 科	104	71	63	9	8	1	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	53	14	11	2	0	0	80



Q2－(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

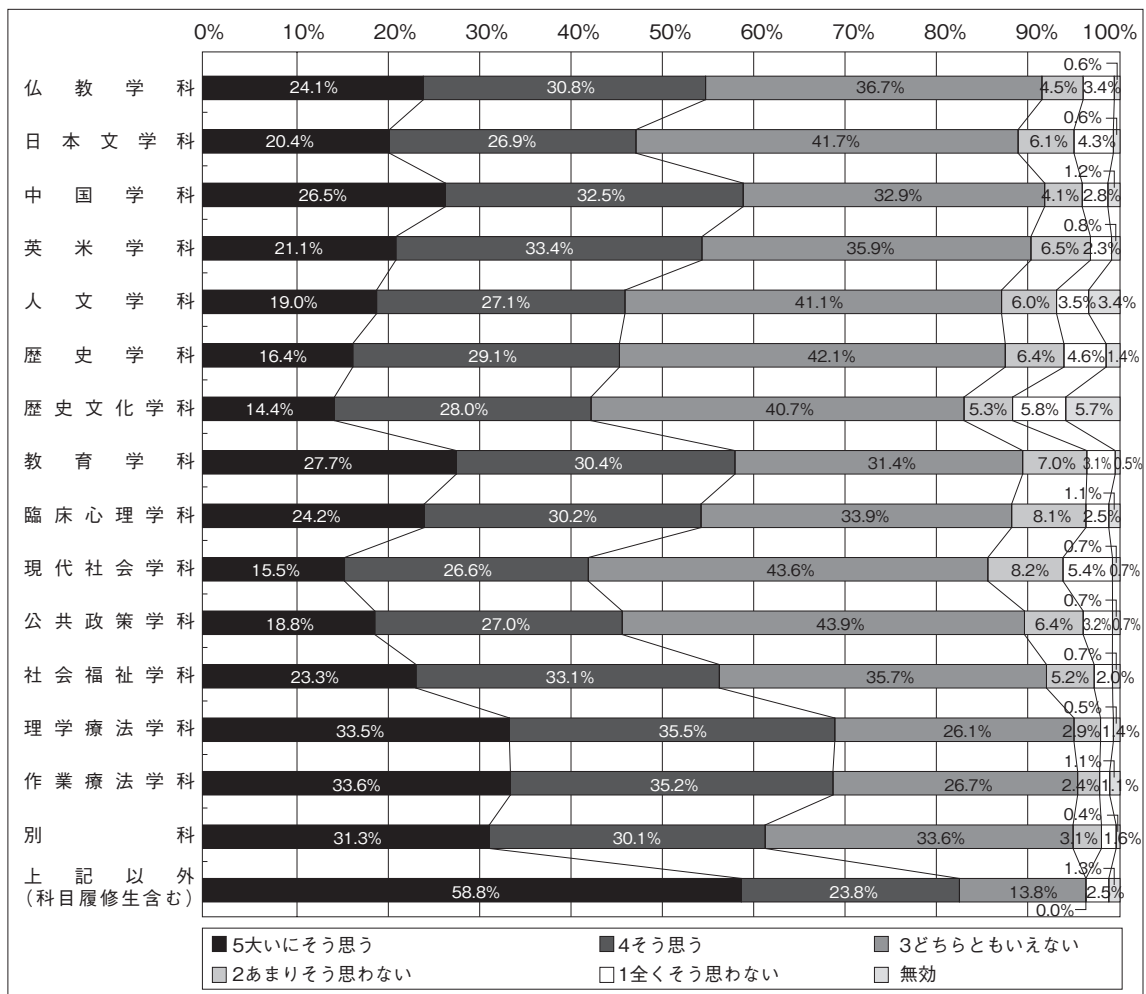
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	221	272	278	39	17	4	831
日 本 文 学 科	675	836	655	84	52	12	2,314
中 国 学 科	243	300	233	29	16	6	827
英 米 学 科	471	678	475	53	15	11	1,703
人 文 学 科	716	889	574	63	23	58	2,323
歴 史 学 科	586	781	582	72	42	16	2,079
歴史文化学科	319	485	339	54	25	18	1,240
教 育 学 科	1,007	1,175	1,027	151	59	15	3,434
臨床心理学科	454	519	399	73	18	10	1,473
現代社会学科	882	1,408	1,214	187	82	23	3,796
公共政策学科	642	902	782	91	33	16	2,466
社会福祉学科	1,558	2,240	1,412	154	45	43	5,452
理学療法学科	414	440	288	30	14	1	1,187
作業療法学科	438	443	250	22	8	16	1,177
別 科	87	88	65	9	3	4	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	48	22	8	1	0	1	80



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

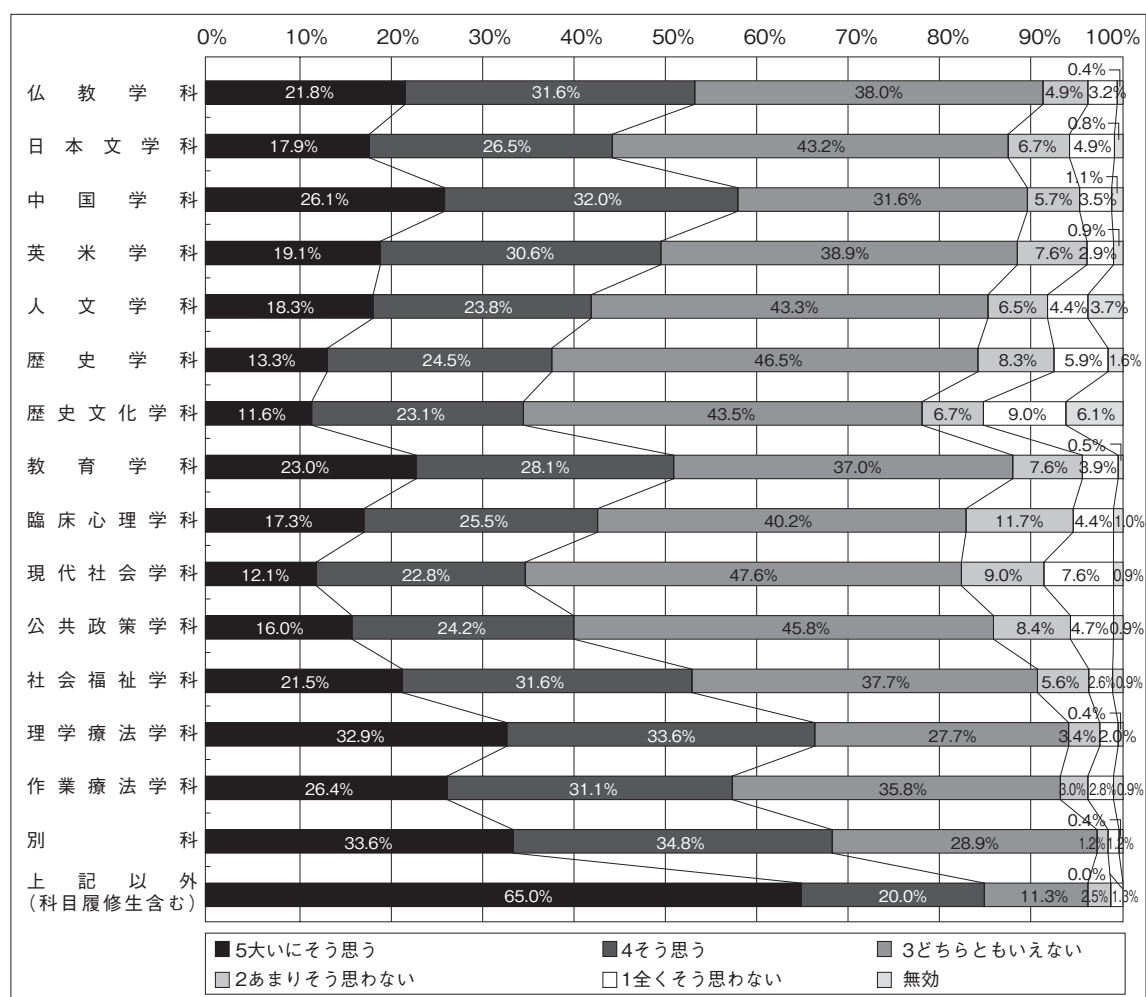
[単位：名（延べ）]

	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	200	256	305	37	28	5	831
日 本 文 学 科	471	623	964	142	99	15	2,314
中 国 学 科	219	269	272	34	23	10	827
英 米 学 科	360	568	612	110	39	14	1,703
人 文 学 科	441	629	954	140	81	78	2,323
歴 史 学 科	341	605	875	133	95	30	2,079
歴史文化学科	179	347	505	66	72	71	1,240
教 育 学 科	950	1,043	1,079	239	106	17	3,434
臨床心理学科	356	445	500	119	37	16	1,473
現代社会学科	588	1,009	1,655	313	205	26	3,796
公共政策学科	464	665	1,083	157	80	17	2,466
社会福祉学科	1,271	1,805	1,946	285	108	37	5,452
理学療法学科	398	421	310	35	17	6	1,187
作業療法学科	395	414	314	28	13	13	1,177
別 科	80	77	86	8	4	1	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	47	19	11	0	2	1	80



Q2－(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）” 含む）に工夫がみられた [単位：名（延べ）]

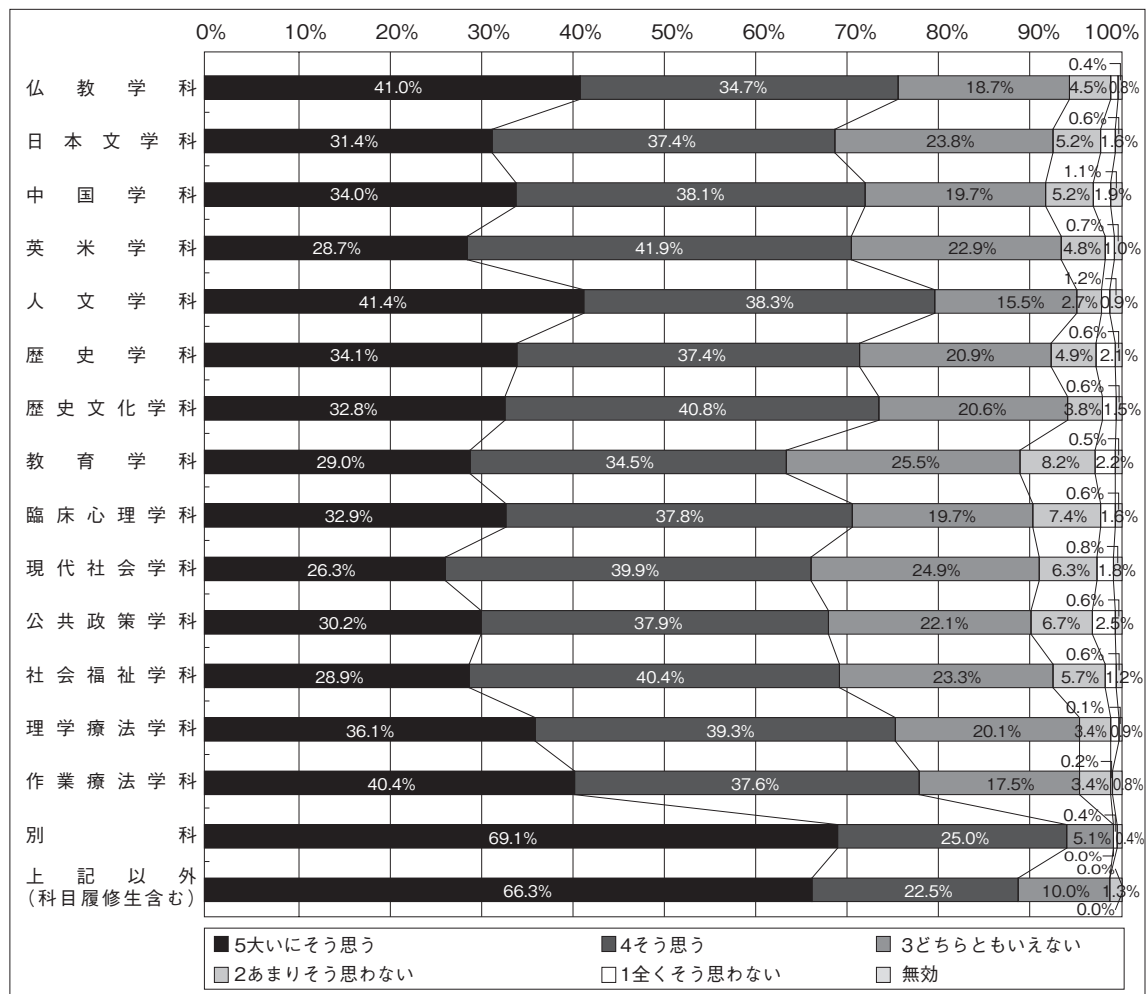
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	181	263	316	41	27	3	831
日 本 文 学 科	415	613	999	154	114	19	2,314
中 国 学 科	216	265	261	47	29	9	827
英 米 学 科	325	521	663	129	50	15	1,703
人 文 学 科	425	552	1,006	151	103	86	2,323
歴 史 学 科	276	509	966	173	122	33	2,079
歴史文化学科	144	287	539	83	111	76	1,240
教 育 学 科	791	965	1,269	260	133	16	3,434
臨床心理学科	255	375	592	172	65	14	1,473
現代社会学科	461	864	1,807	342	288	34	3,796
公共政策学科	395	597	1,130	206	116	22	2,466
社会福祉学科	1,172	1,722	2,058	307	143	50	5,452
理学療法学科	390	399	329	40	24	5	1,187
作業療法学科	311	366	421	35	33	11	1,177
別 科	86	89	74	3	3	1	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	52	16	9	2	1	0	80



Q2－(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた

[単位：名（延べ）]

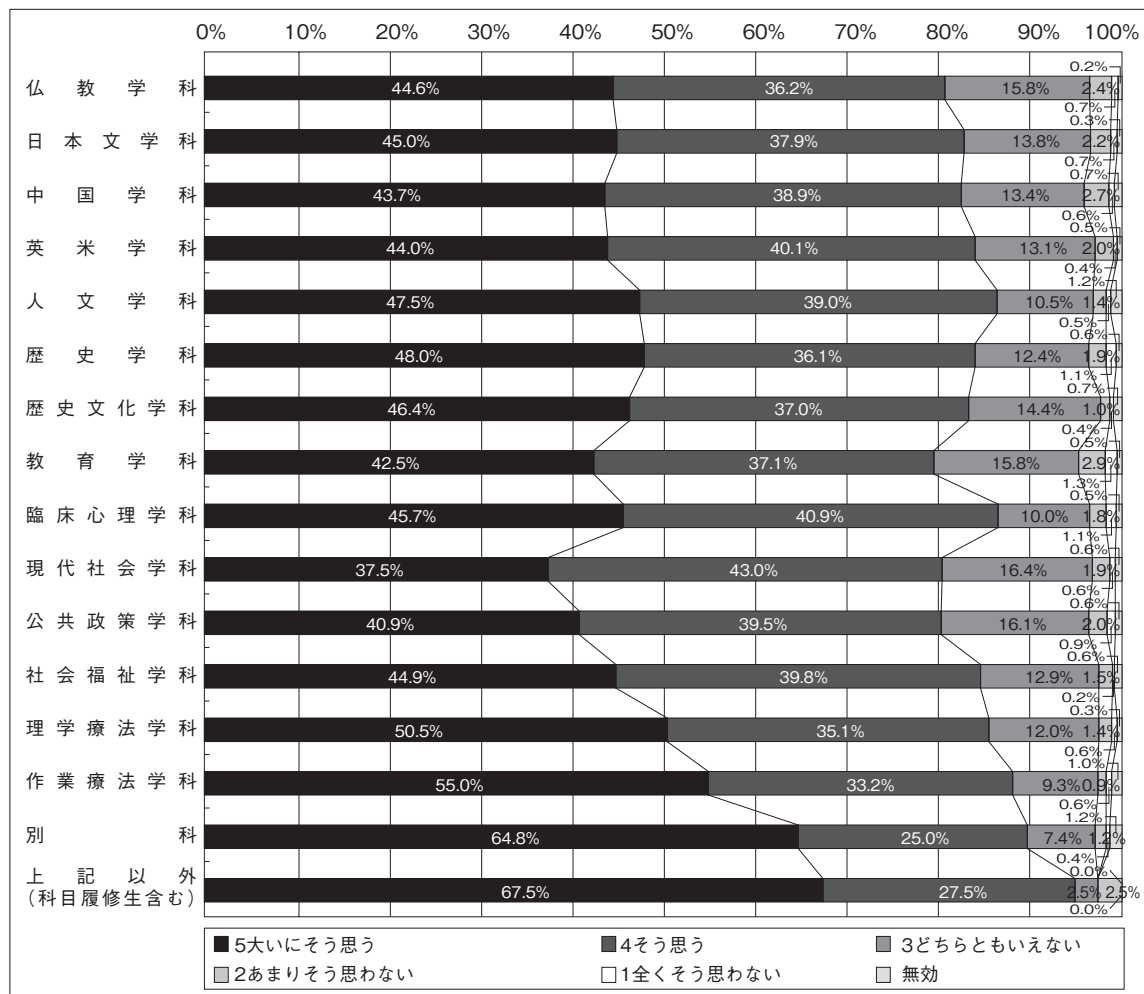
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	341	288	155	37	7	3	831
日 本 文 学 科	727	865	551	121	36	14	2,314
中 国 学 科	281	315	163	43	16	9	827
英 米 学 科	489	713	390	82	17	12	1,703
人 文 学 科	961	890	361	63	21	27	2,323
歴 史 学 科	709	778	435	101	44	12	2,079
歴史文化学科	407	506	255	47	18	7	1,240
教 育 学 科	997	1,186	877	280	77	17	3,434
臨床心理学科	485	557	290	109	23	9	1,473
現代社会学科	998	1,515	947	239	68	29	3,796
公共政策学科	745	934	546	166	61	14	2,466
社会福祉学科	1,574	2,201	1,273	310	64	30	5,452
理学療法学科	429	467	239	40	11	1	1,187
作業療法学科	476	443	206	40	2	10	1,177
別 科	177	64	13	0	1	1	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	53	18	8	1	0	0	80



Q2－(10) 授業時間が守られていた

[単位：名(延べ)]

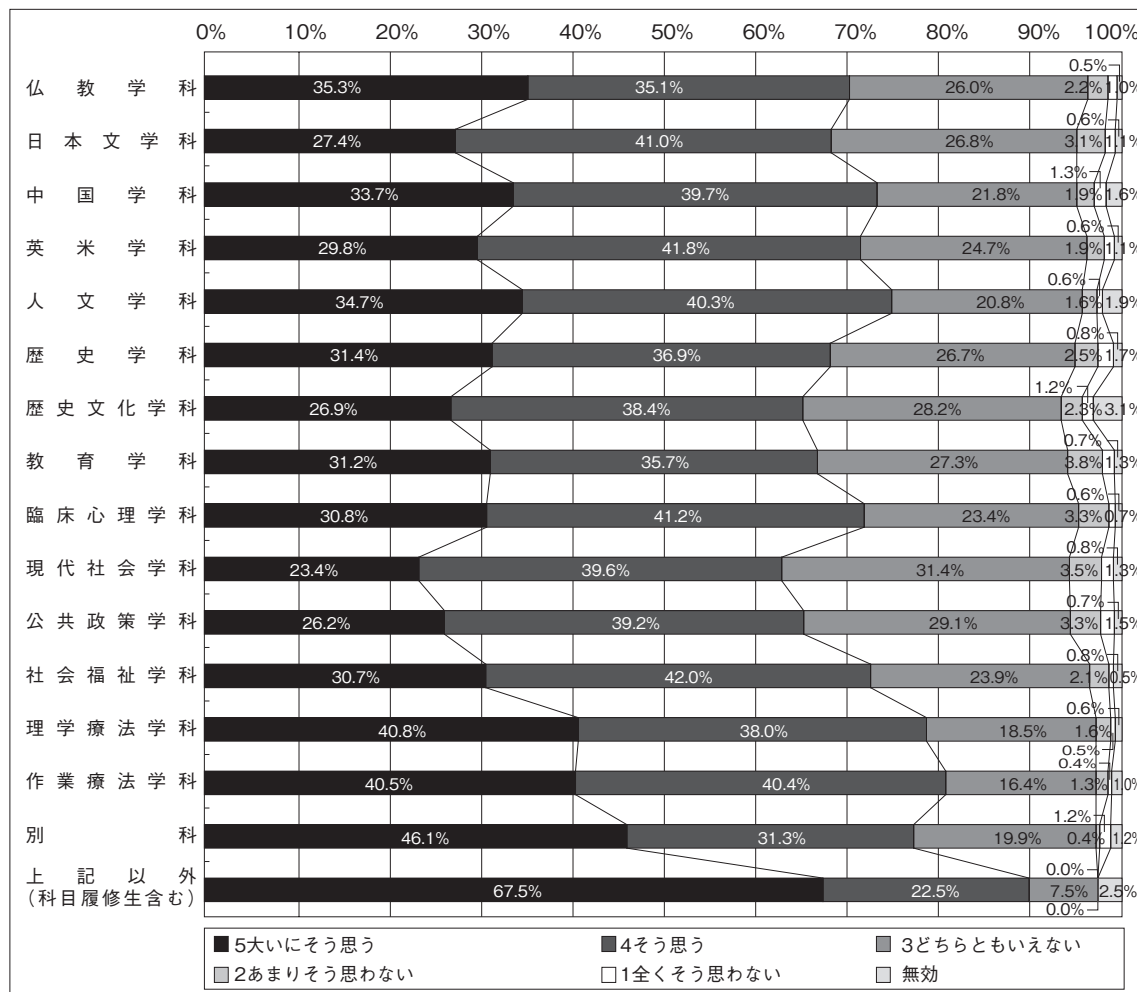
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	371	301	131	20	6	2	831
日 本 文 学 科	1,041	876	320	52	17	8	2,314
中 国 学 科	361	322	111	22	5	6	827
英 米 学 科	749	683	223	34	6	8	1,703
人 文 学 科	1,103	905	244	32	11	28	2,323
歴 史 学 科	998	750	258	39	22	12	2,079
歴史文化学科	575	459	179	13	5	9	1,240
教 育 学 科	1,460	1,273	543	98	44	16	3,434
臨床心理学科	673	602	148	27	16	7	1,473
現代社会学科	1,425	1,632	622	73	21	23	3,796
公共政策学科	1,009	973	398	50	22	14	2,466
社会福祉学科	2,450	2,171	706	80	12	33	5,452
理学療法学科	599	417	143	17	7	4	1,187
作業療法学科	647	391	109	11	7	12	1,177
別 科	166	64	19	3	1	3	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	54	22	2	2	0	0	80



Q2－(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名（延べ）]

	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	293	292	216	18	8	4	831
日 本 文 学 科	634	948	619	72	26	15	2,314
中 国 学 科	279	328	180	16	11	13	827
英 米 学 科	508	712	420	33	19	11	1,703
人 文 学 科	805	937	484	38	14	45	2,323
歴 史 学 科	653	768	555	51	35	17	2,079
歴史文化学科	333	476	350	28	15	38	1,240
教 育 学 科	1,073	1,227	936	129	45	24	3,434
臨床心理学科	453	607	345	48	11	9	1,473
現代社会学科	890	1,504	1,192	132	48	30	3,796
公共政策学科	646	966	717	82	37	18	2,466
社会福祉学科	1,673	2,288	1,301	116	29	45	5,452
理学療法学科	484	451	220	19	6	7	1,187
作業療法学科	477	475	193	15	5	12	1,177
別 科	118	80	51	1	3	3	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	54	18	6	0	0	2	80

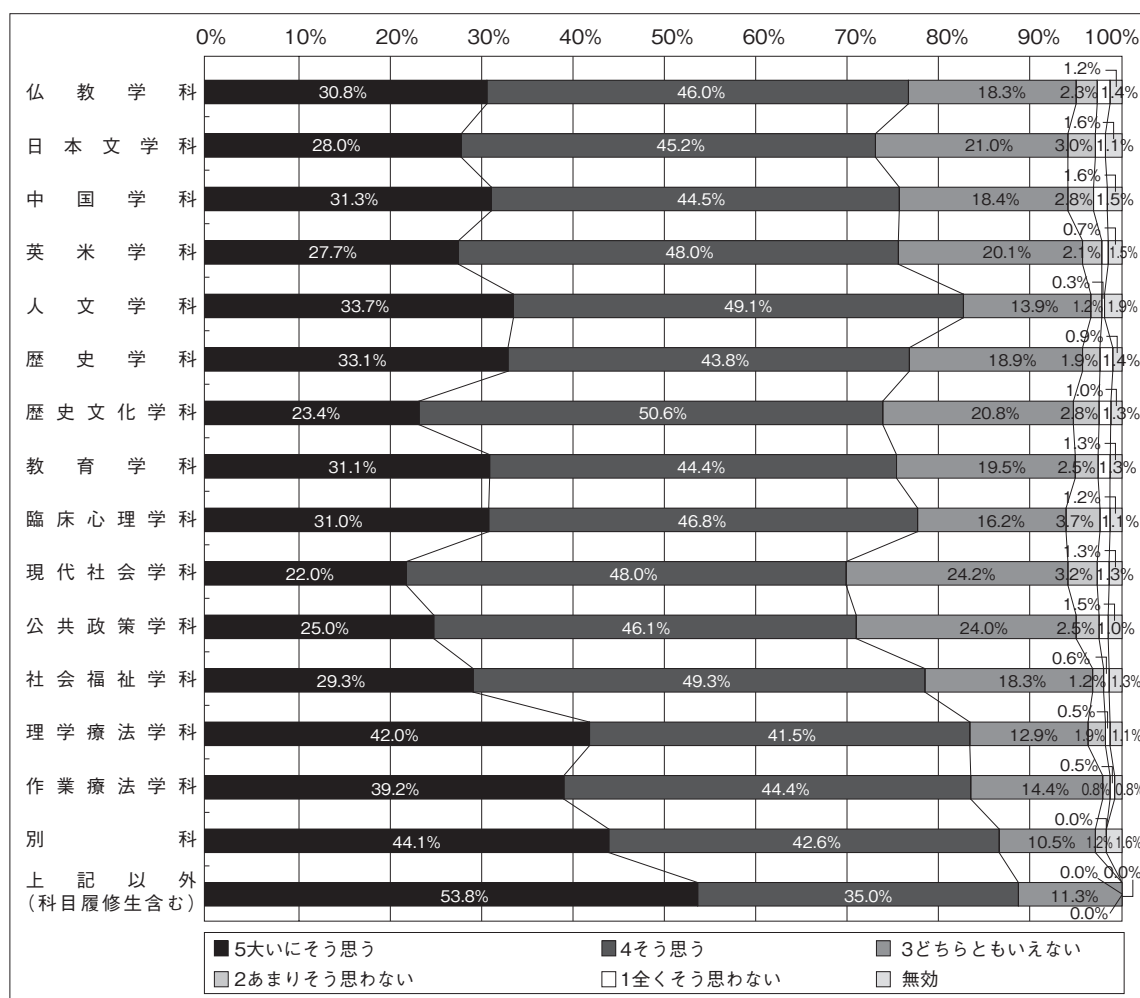


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3－(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名（延べ）]

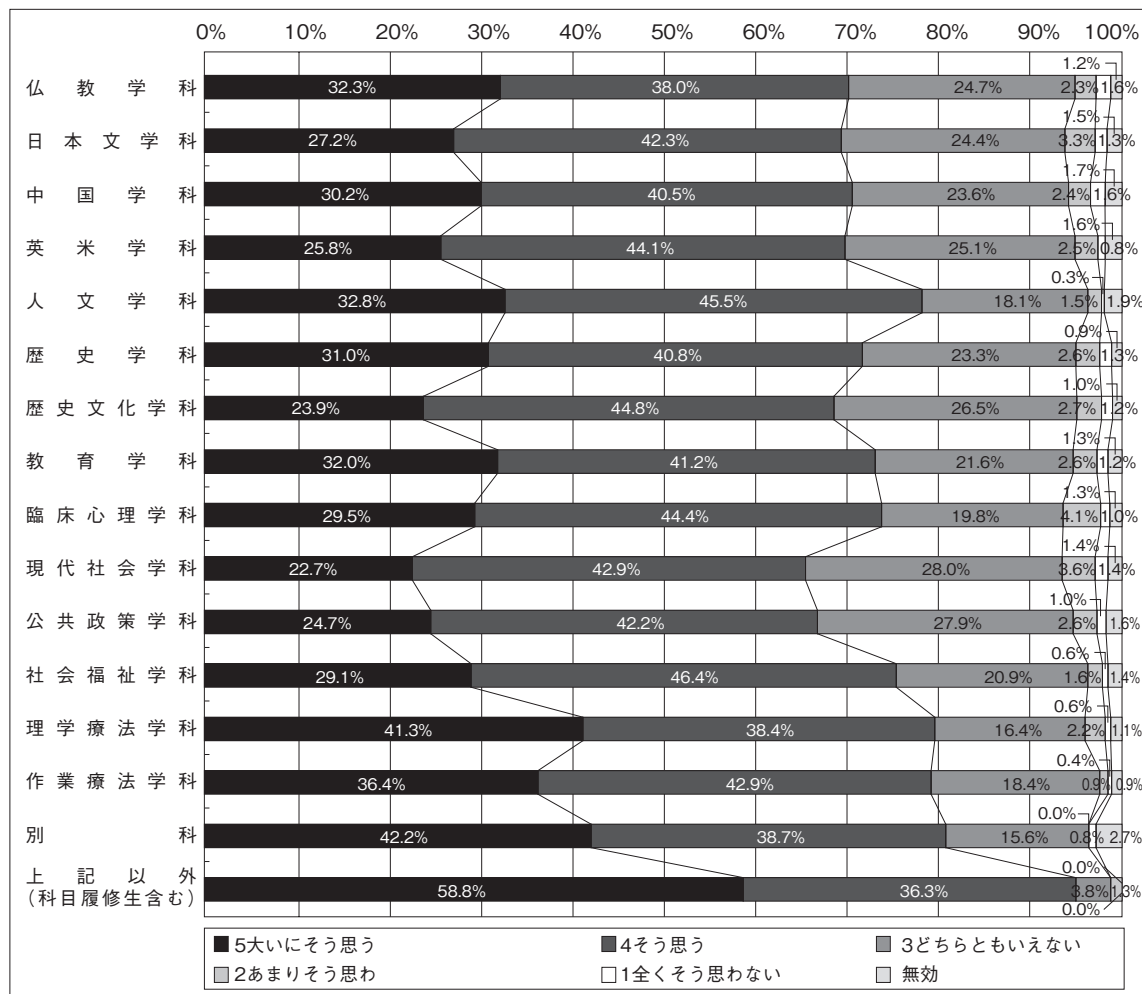
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	256	382	152	19	12	10	831
日 本 文 学 科	649	1,047	485	70	26	37	2,314
中 国 学 科	259	368	152	23	12	13	827
英 米 学 科	471	818	342	35	12	25	1,703
人 文 学 科	783	1,140	323	27	7	43	2,323
歴 史 学 科	689	911	392	40	29	18	2,079
歴史文化学科	290	628	258	35	16	13	1,240
教 育 学 科	1,069	1,524	668	85	43	45	3,434
臨床心理学科	457	690	239	54	16	17	1,473
現代社会学科	836	1,821	920	120	49	50	3,796
公共政策学科	616	1,136	591	62	25	36	2,466
社会福祉学科	1,600	2,689	995	67	31	70	5,452
理学療法学科	499	493	153	23	6	13	1,187
作業療法学科	461	522	170	9	6	9	1,177
別 科	113	109	27	3	0	4	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	43	28	9	0	0	0	80



Q3－(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名（延べ）]

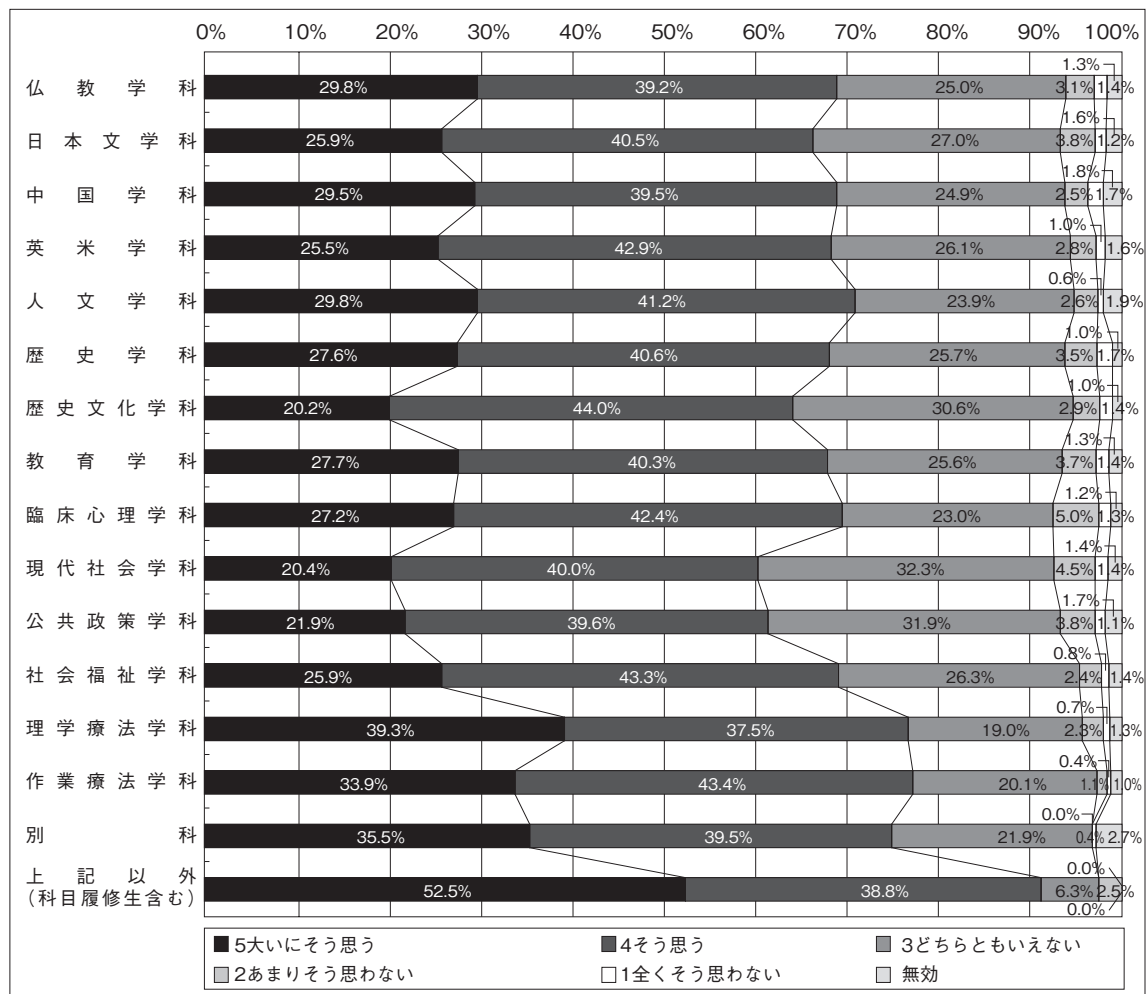
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	268	316	205	19	13	10	831
日 本 文 学 科	630	979	565	76	30	34	2,314
中 国 学 科	250	335	195	20	13	14	827
英 米 学 科	440	751	428	43	14	27	1,703
人 文 学 科	761	1,056	420	35	7	44	2,323
歴 史 学 科	644	848	485	55	28	19	2,079
歴史文化学科	296	555	328	33	15	13	1,240
教 育 学 科	1,099	1,414	743	91	42	45	3,434
臨床心理学科	435	654	291	60	14	19	1,473
現代社会学科	862	1,627	1,064	135	53	55	3,796
公共政策学科	609	1,040	688	65	24	40	2,466
社会福祉学科	1,588	2,532	1,139	88	31	74	5,452
理学療法学科	490	456	195	26	7	13	1,187
作業療法学科	429	505	216	11	5	11	1,177
別 科	108	99	40	0	2	7	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	47	29	3	1	0	0	80



Q3－(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名(延べ)]

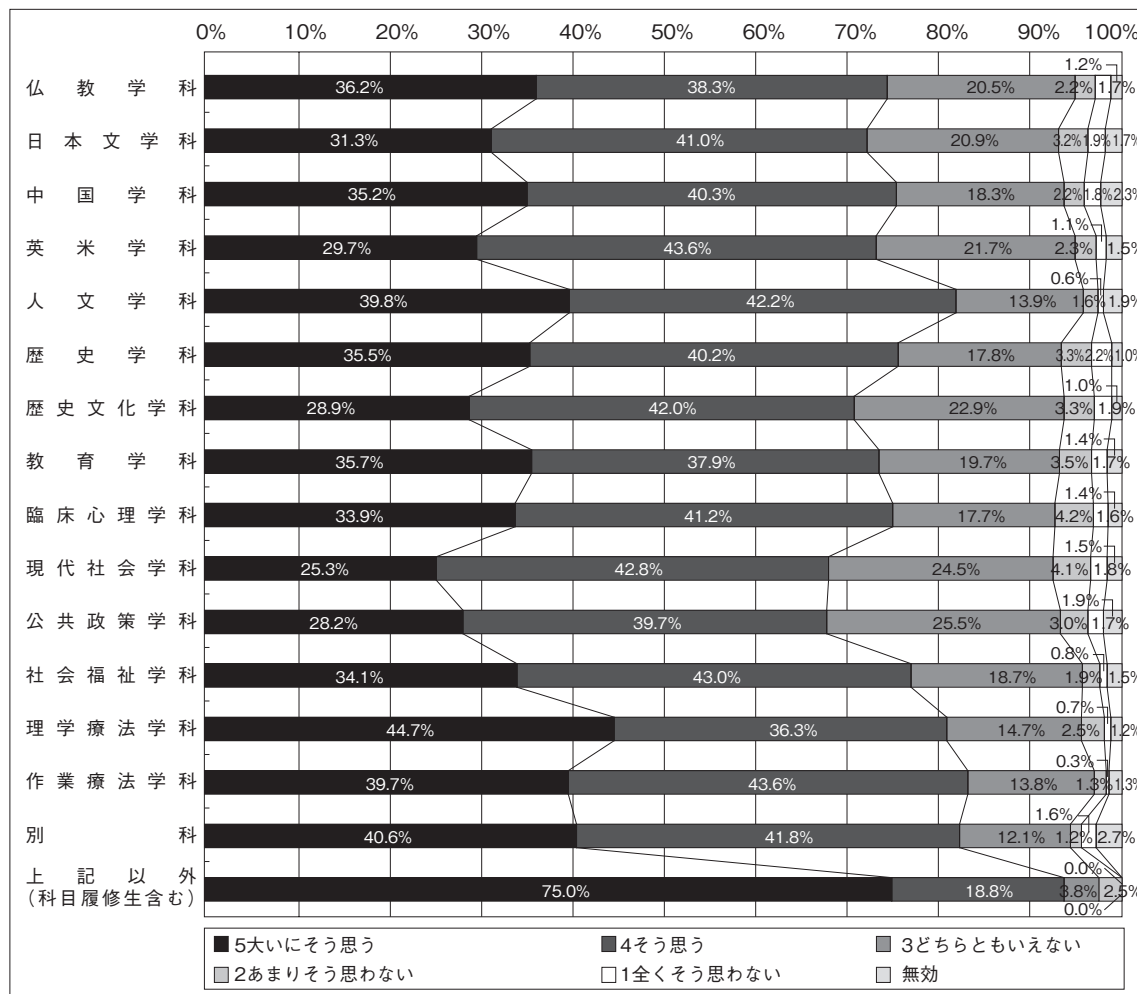
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	248	326	208	26	12	11	831
日 本 文 学 科	600	937	625	89	27	36	2,314
中 国 学 科	244	327	206	21	14	15	827
英 米 学 科	434	731	445	48	17	28	1,703
人 文 学 科	692	958	556	60	14	43	2,323
歴 史 学 科	573	844	534	72	36	20	2,079
歴史文化学科	250	545	379	36	17	13	1,240
教 育 学 科	950	1,385	880	128	48	43	3,434
臨床心理学科	400	624	339	73	19	18	1,473
現代社会学科	774	1,517	1,226	169	55	55	3,796
公共政策学科	541	976	786	93	27	43	2,466
社会福祉学科	1,413	2,359	1,434	131	41	74	5,452
理学療法学科	466	445	225	27	8	16	1,187
作業療法学科	399	511	237	13	5	12	1,177
別 科	91	101	56	0	1	7	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	42	31	5	2	0	0	80



Q3－(4) 総合的にみてこの授業に満足えた

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	301	318	170	18	14	10	831
日 本 文 学 科	724	949	484	75	43	39	2,314
中 国 学 科	291	333	151	18	15	19	827
英 米 学 科	506	743	370	40	18	26	1,703
人 文 学 科	925	980	324	37	14	43	2,323
歴 史 学 科	738	836	370	69	46	20	2,079
歴史文化学科	358	521	284	41	23	13	1,240
教 育 学 科	1,227	1,303	675	121	60	48	3,434
臨床心理学科	500	607	260	62	23	21	1,473
現代社会学科	959	1,626	931	155	68	57	3,796
公共政策学科	695	980	628	75	42	46	2,466
社会福祉学科	1,857	2,347	1,019	103	44	82	5,452
理学療法学科	530	431	174	30	8	14	1,187
作業療法学科	467	513	163	15	4	15	1,177
別 科	104	107	31	3	4	7	256
上 記 以 外 (科目履修生含む)	60	15	3	2	0	0	80



2011 年度 秋学期 授業アンケート 開講科目種別集計

科目種別は以下の3分割で分類しています。

共通科目：全学共通科目の仏教・自校教育・リテラシー・キャリア・スポーツ・総合

外国語科目：全学共通科目の外国語科目

専門基礎科目：専門基礎科目

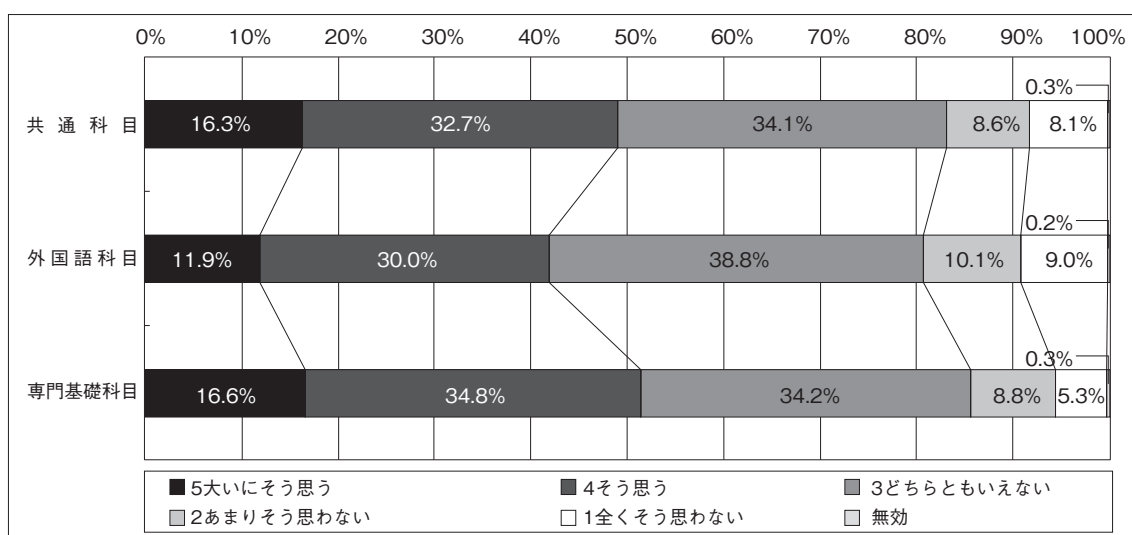
※学部基幹科目・学科基礎科目・コース科目・発展科目は学部集計で集計しています。

1. あなた自身の取り組みについて

Q1ー(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名(延べ)]

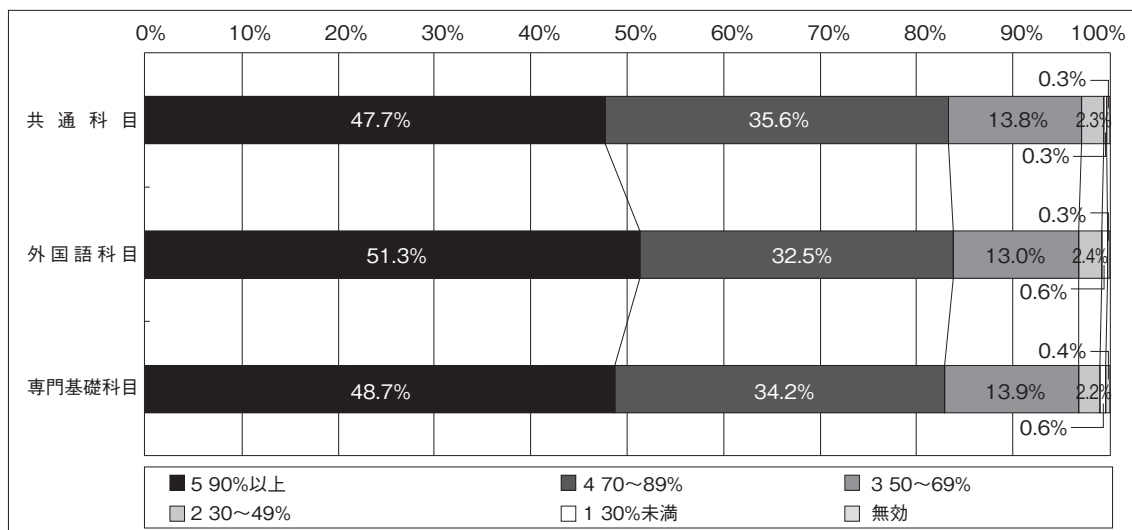
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	500	1,002	1,045	263	247	8	3,065
外国語科目	519	1,310	1,691	440	394	9	4,363
専門基礎科目	483	1,009	992	254	155	8	2,901



Q1－(2) これまでの授業の出席率

[単位：名（延べ）]

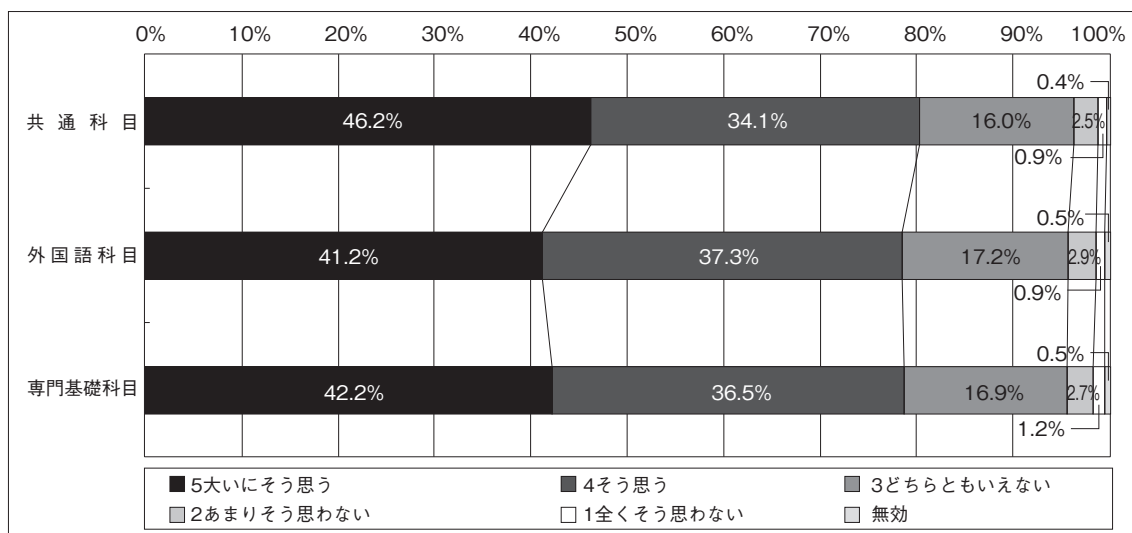
	5 90%以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30%未満	無効	合計
共 通 科 目	1,462	1,091	424	69	10	9	3,065
外 国 語 科 目	2,239	1,417	568	103	25	11	4,363
専門基礎科目	1,412	993	404	63	17	12	2,901



Q1－(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった

[単位：名（延べ）]

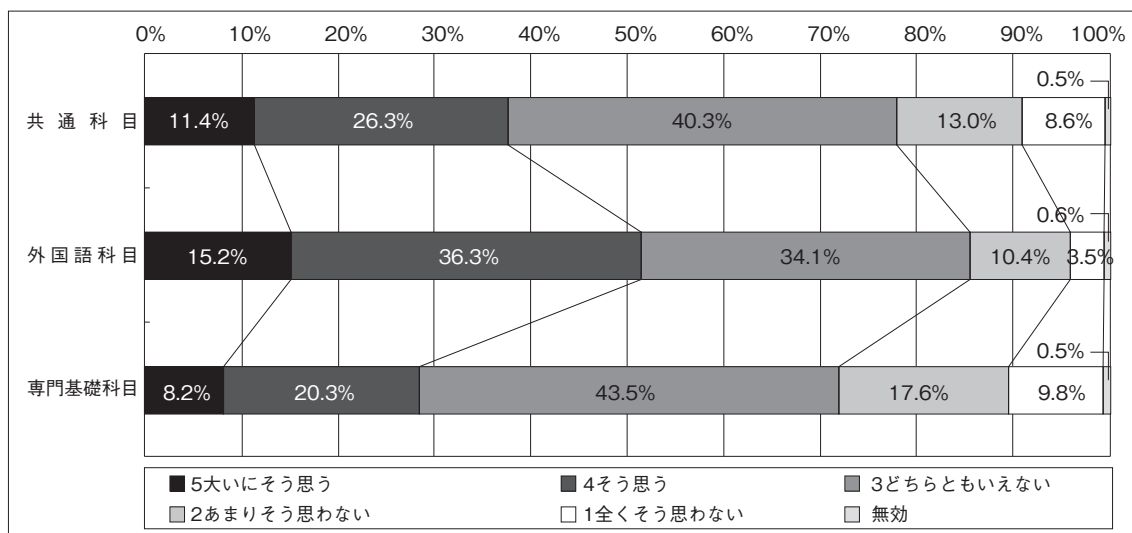
	5 大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
共 通 科 目	1,415	1,044	489	76	29	12	3,065
外 国 語 科 目	1,796	1,626	751	127	41	22	4,363
専門基礎科目	1,224	1,060	490	78	35	14	2,901



Q1－(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名（延べ）]

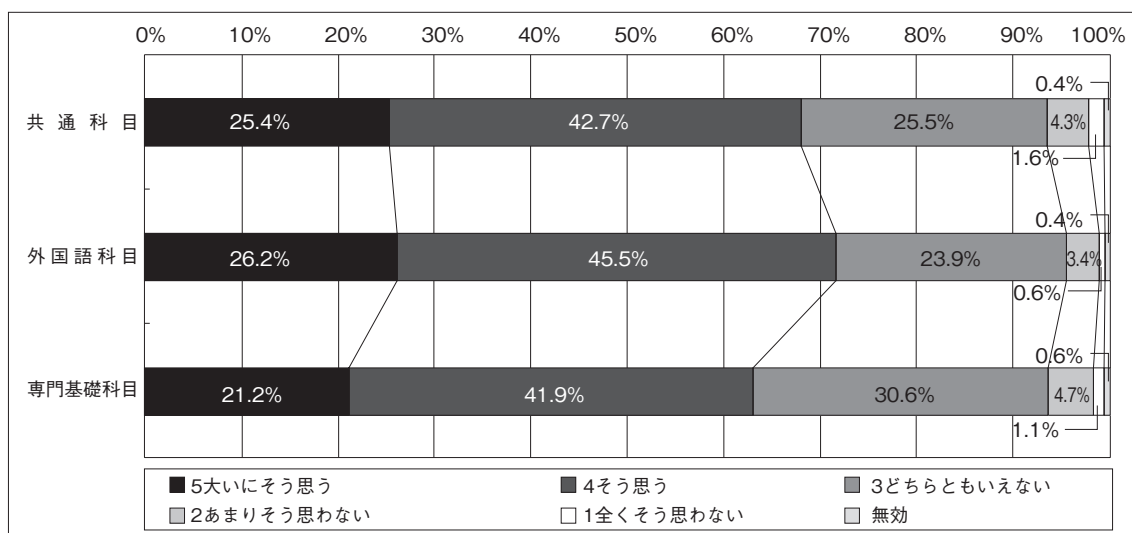
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共 通 科 目	348	806	1,234	399	264	14	3,065
外 国 語 科 目	661	1,583	1,487	453	151	28	4,363
専門基礎科目	237	589	1,263	512	285	15	2,901



Q1－(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名（延べ）]

	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共 通 科 目	779	1,309	782	132	50	13	3,065
外 国 語 科 目	1,142	1,987	1,042	147	26	19	4,363
専門基礎科目	616	1,215	888	135	31	16	2,901

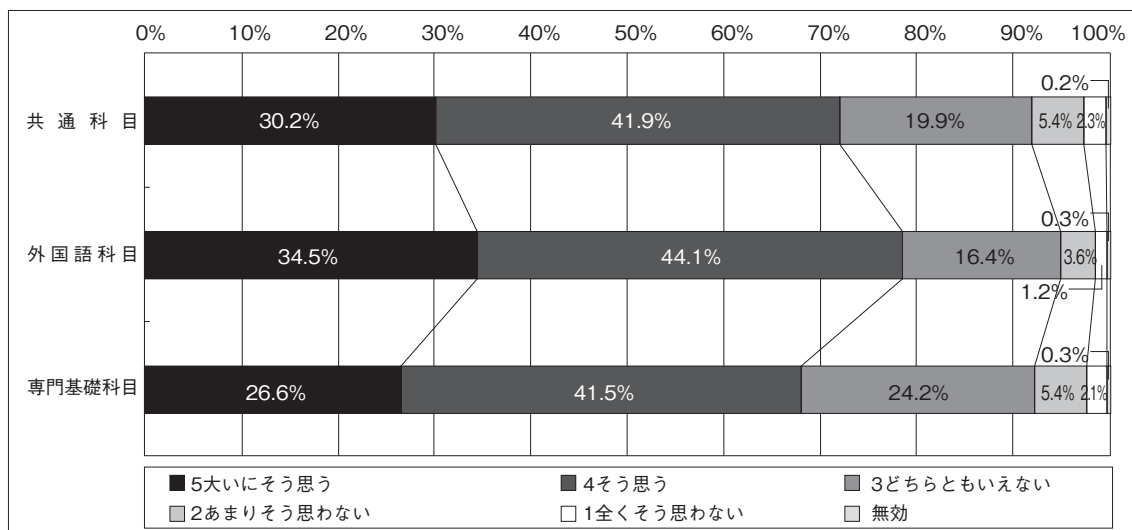


2. この授業の運営について

Q2－(1) わかりやすい授業であった

[単位：名（延べ）]

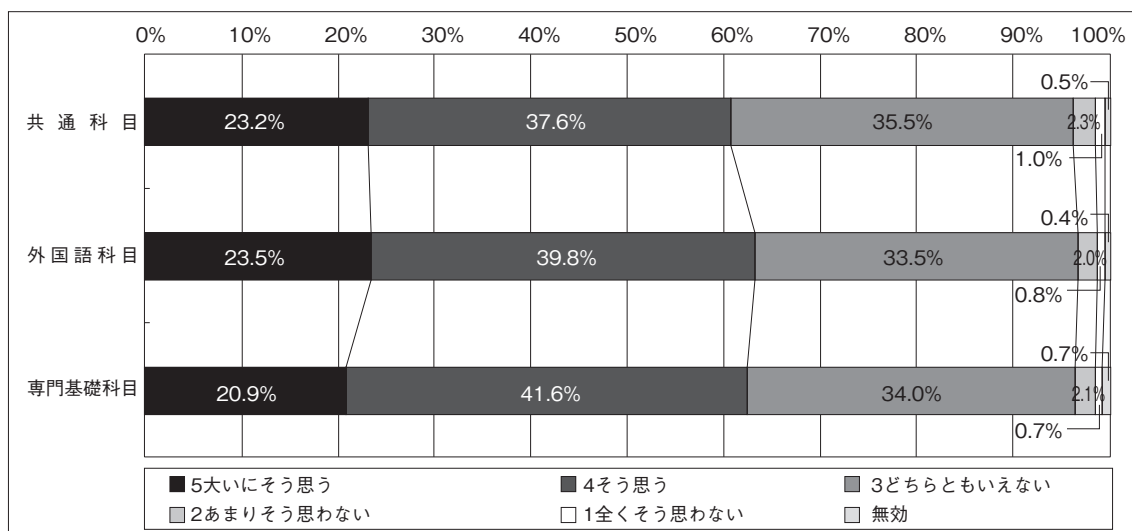
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	927	1,283	611	165	72	7	3,065
外 国 語 科 目	1,504	1,925	715	155	51	13	4,363
専門基礎科目	771	1,204	701	156	60	9	2,901



Q2－(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名（延べ）]

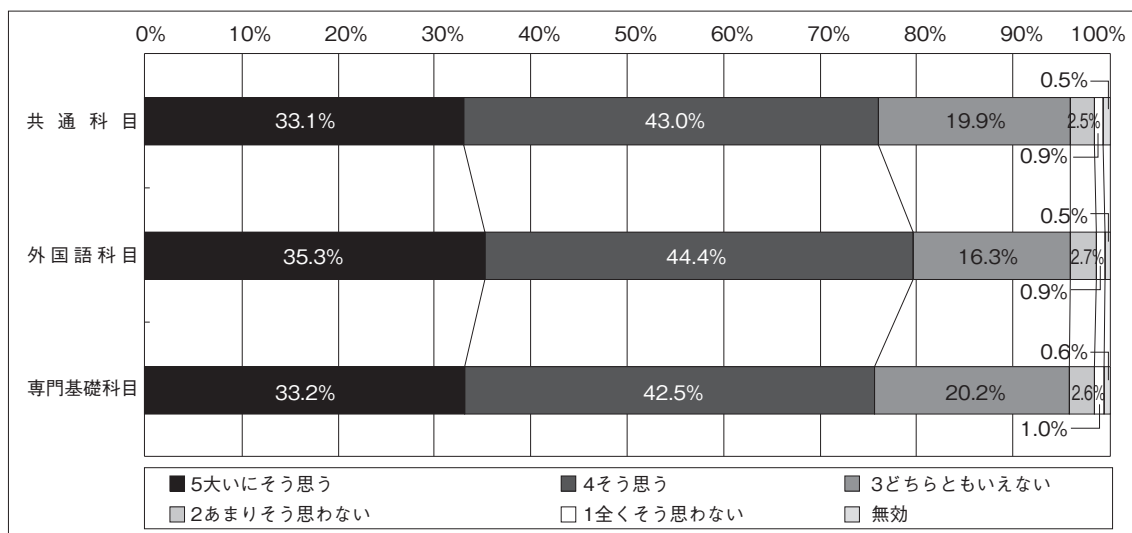
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	710	1,152	1,087	70	32	14	3,065
外 国 語 科 目	1,024	1,738	1,461	89	35	16	4,363
専門基礎科目	606	1,207	985	61	21	21	2,901



Q2－(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名（延べ）]

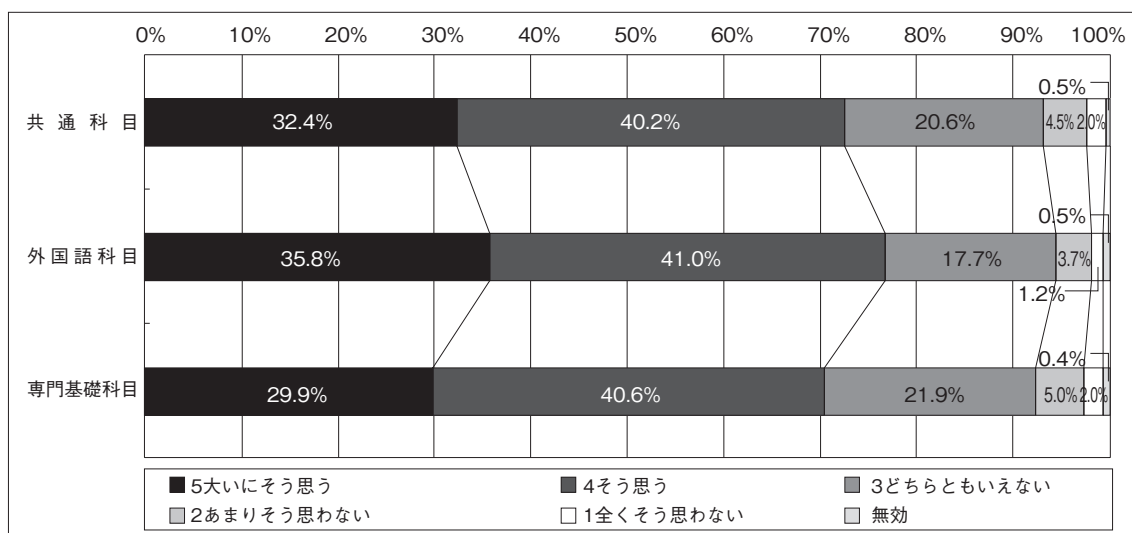
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	1,016	1,318	609	78	28	16	3,065
外 国 語 科 目	1,538	1,938	709	117	39	22	4,363
専門基礎科目	964	1,232	585	75	29	16	2,901



Q2－(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名（延べ）]

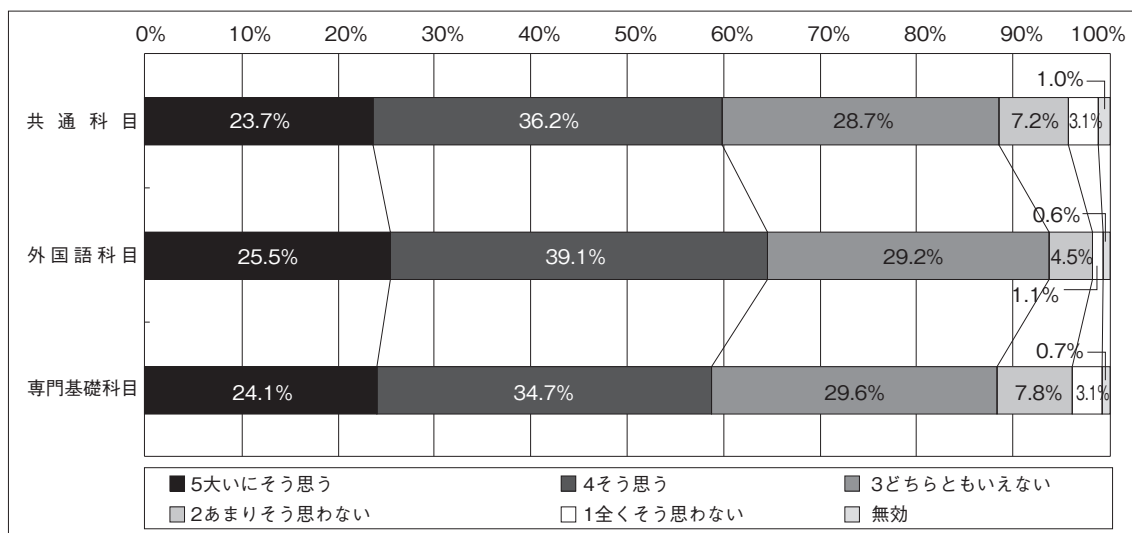
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	992	1,231	630	138	60	14	3,065
外 国 語 科 目	1,563	1,790	773	161	53	23	4,363
専門基礎科目	868	1,179	636	146	59	13	2,901



Q2－(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

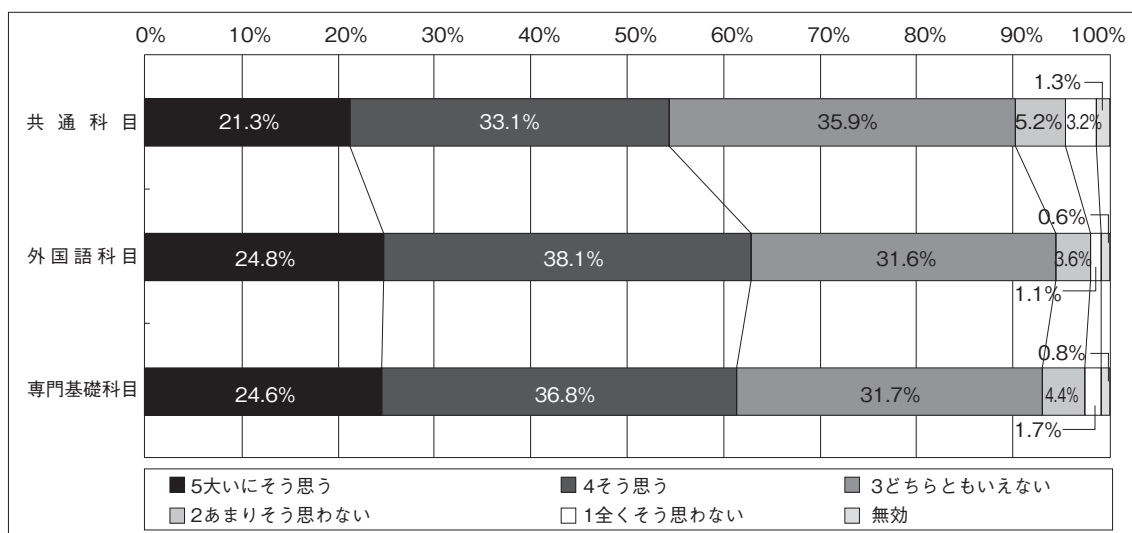
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	726	1,110	880	222	95	32	3,065
外 国 語 科 目	1,114	1,704	1,273	196	49	27	4,363
専門基礎科目	698	1,008	858	227	89	21	2,901



Q2－(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

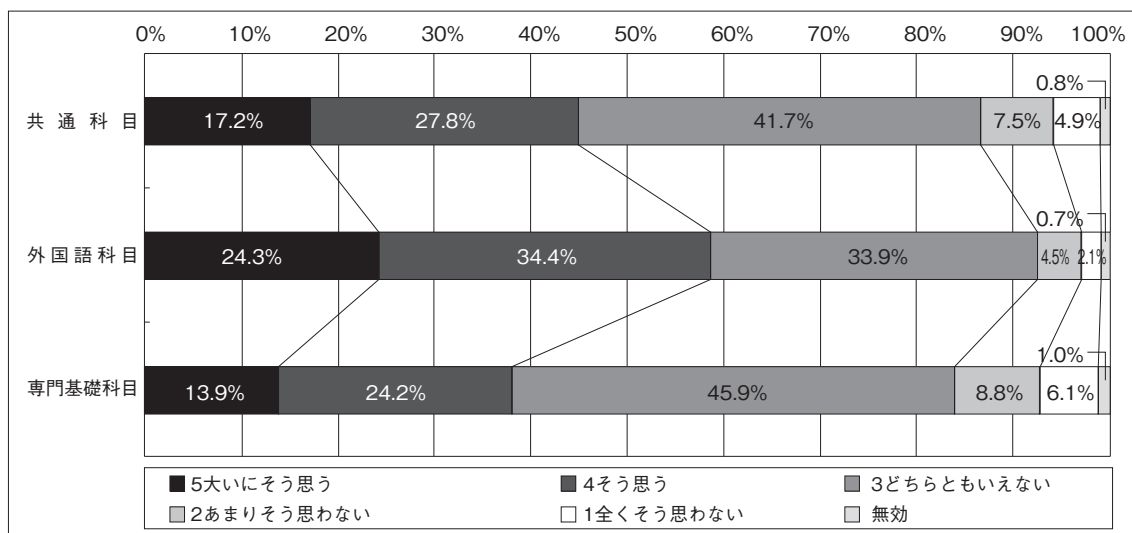
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	654	1,014	1,101	160	97	39	3,065
外 国 語 科 目	1,083	1,663	1,380	159	50	28	4,363
専門基礎科目	715	1,067	919	128	50	22	2,901



Q2－(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

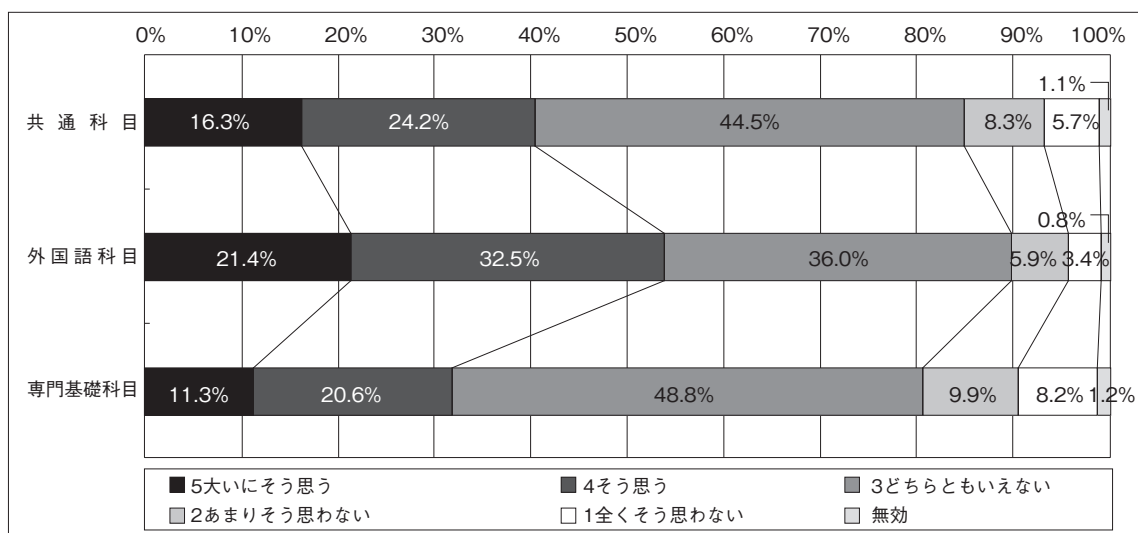
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共 通 科 目	527	853	1,279	230	150	26	3,065
外 国 語 科 目	1,060	1,503	1,477	198	93	32	4,363
専門基礎科目	404	703	1,331	256	177	30	2,901



Q2－(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）” 含む）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

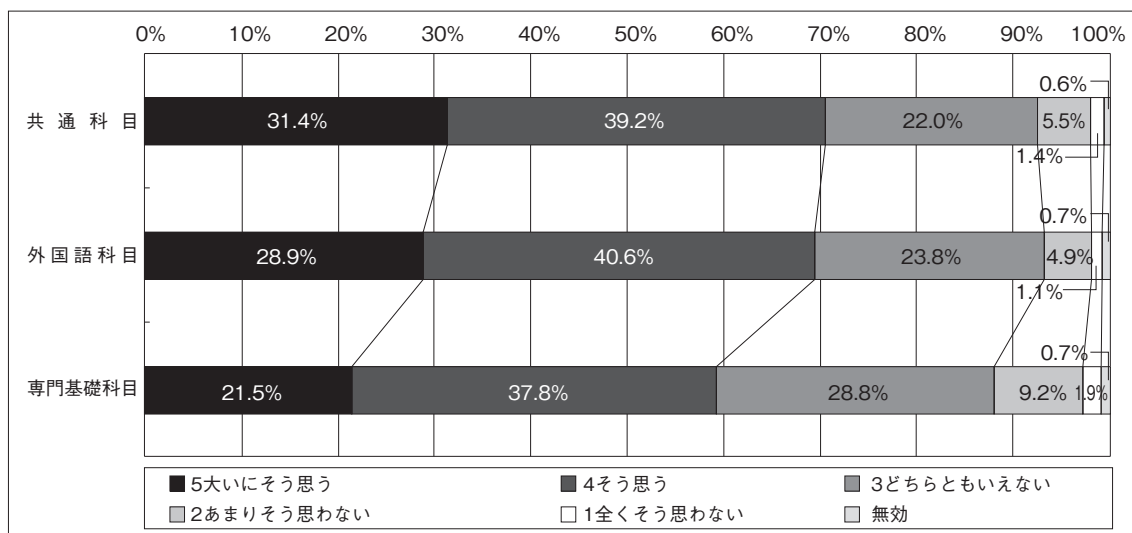
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共 通 科 目	499	742	1,363	254	174	33	3,065
外 国 語 科 目	932	1,417	1,570	259	150	35	4,363
専門基礎科目	327	599	1,415	288	238	34	2,901



Q2－(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた

[単位：名（延べ）]

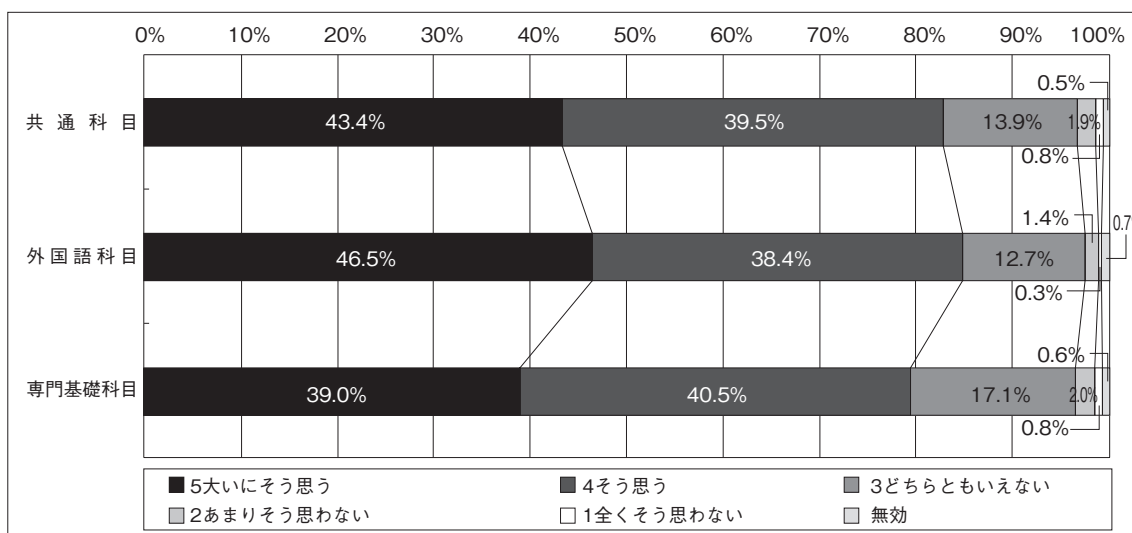
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	961	1,200	675	168	42	19	3,065
外 国 語 科 目	1,263	1,773	1,038	214	46	29	4,363
専門基礎科目	625	1,098	835	267	55	21	2,901



Q2－(10) 授業時間が守られていた

[単位：名（延べ）]

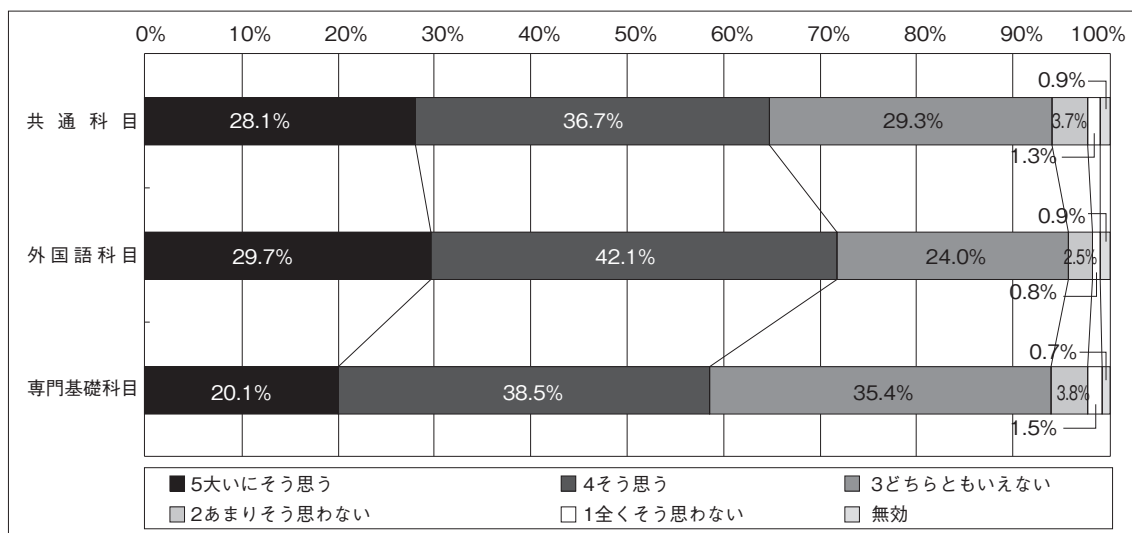
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	1,331	1,212	427	57	23	15	3,065
外 国 語 科 目	2,027	1,677	553	62	15	29	4,363
専門基礎科目	1,132	1,174	496	59	23	17	2,901



Q2－(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名（延べ）]

	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	862	1,126	897	112	39	29	3,065
外 国 語 科 目	1,297	1,837	1,047	109	35	38	4,363
専門基礎科目	584	1,118	1,027	109	44	19	2,901

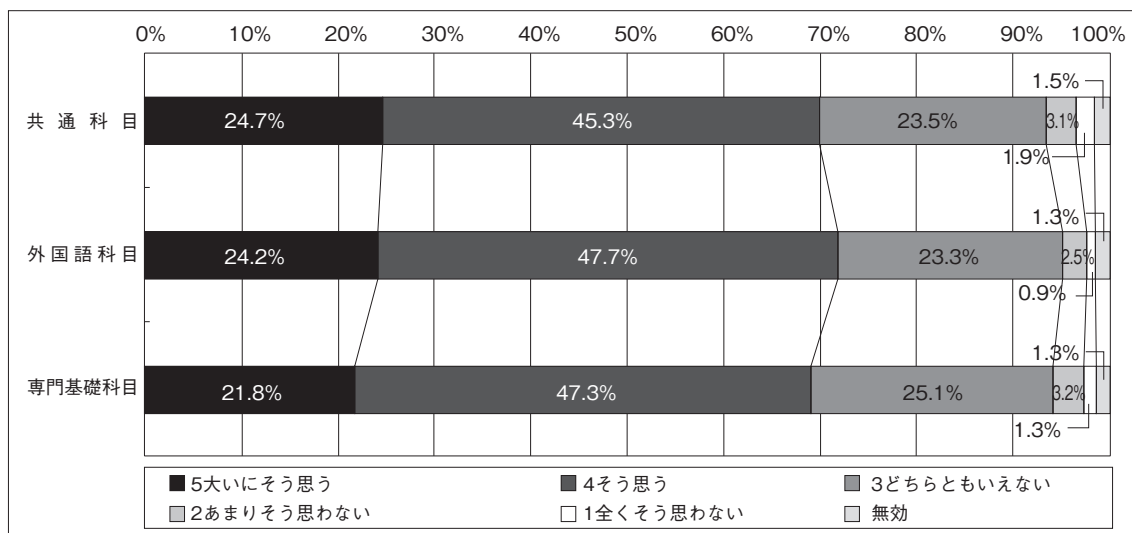


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3－(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名（延べ）]

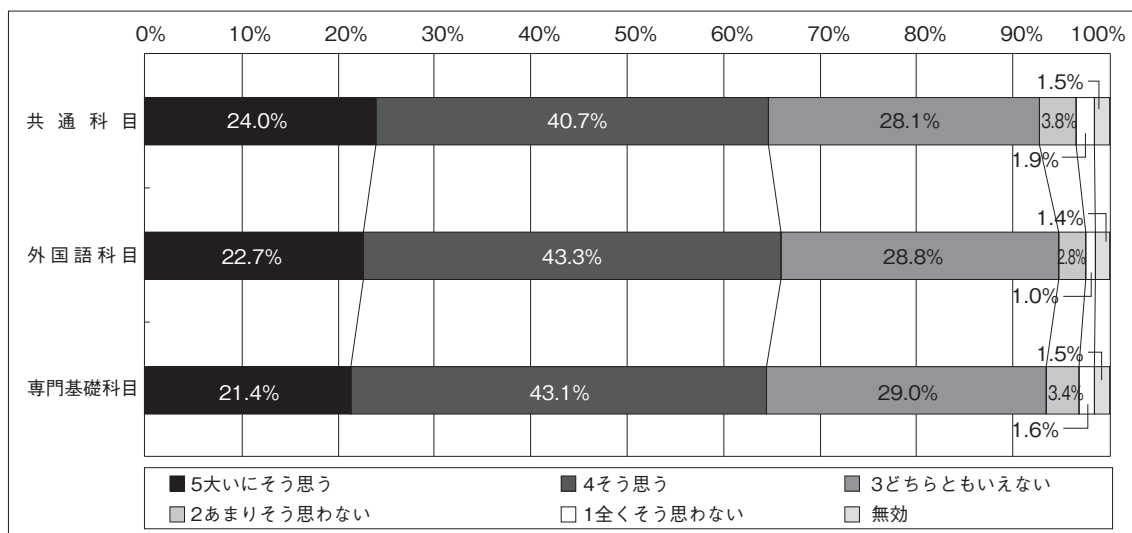
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	758	1,387	721	96	57	46	3,065
外 国 語 科 目	1,058	2,081	1,018	108	40	58	4,363
専門基礎科目	631	1,371	728	94	39	38	2,901



Q3－(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名（延べ）]

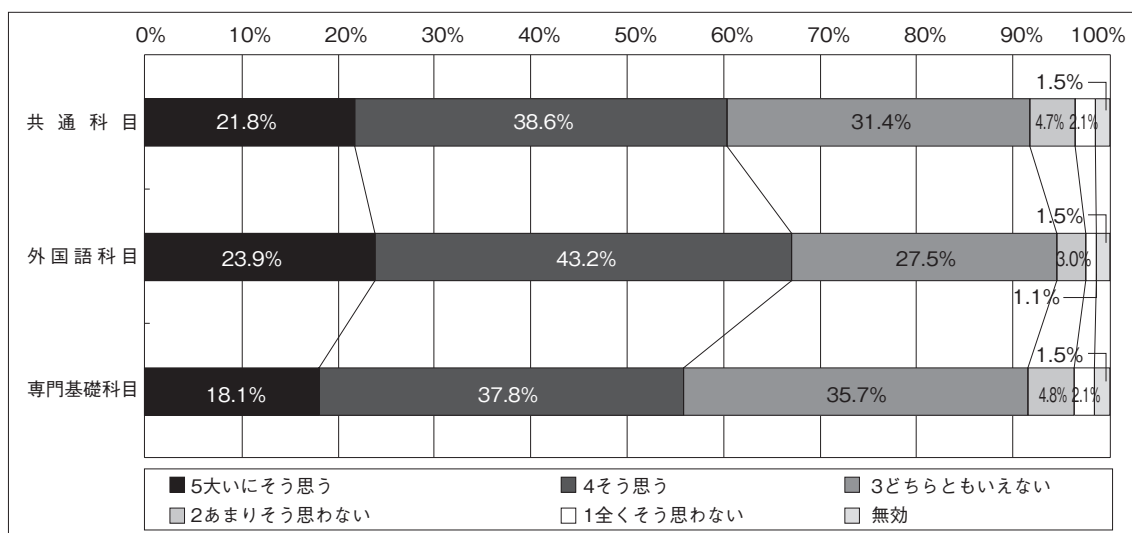
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	737	1,247	860	116	58	47	3,065
外 国 語 科 目	989	1,887	1,257	124	45	61	4,363
専門基礎科目	622	1,249	842	100	45	43	2,901



Q3－(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名（延べ）]

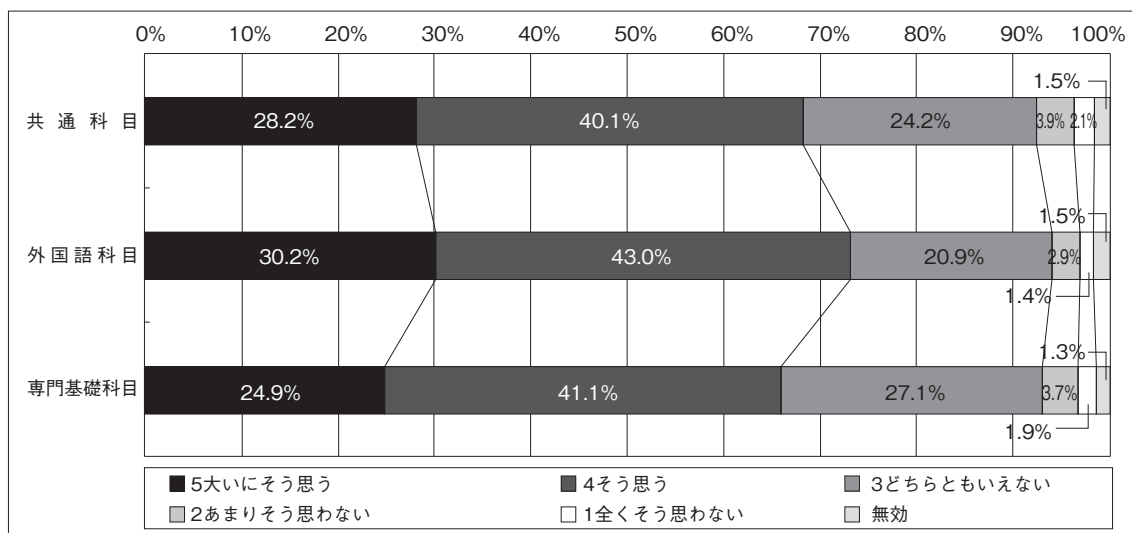
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	668	1,182	961	143	64	47	3,065
外 国 語 科 目	1,042	1,883	1,198	129	47	64	4,363
専門基礎科目	525	1,098	1,036	139	60	43	2,901



Q3－(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名（延べ）]

	5大いに思う	4 と思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共 通 科 目	863	1,228	742	120	65	47	3,065
外 国 語 科 目	1,319	1,876	914	125	62	67	4,363
専門基礎科目	721	1,193	786	107	56	38	2,901



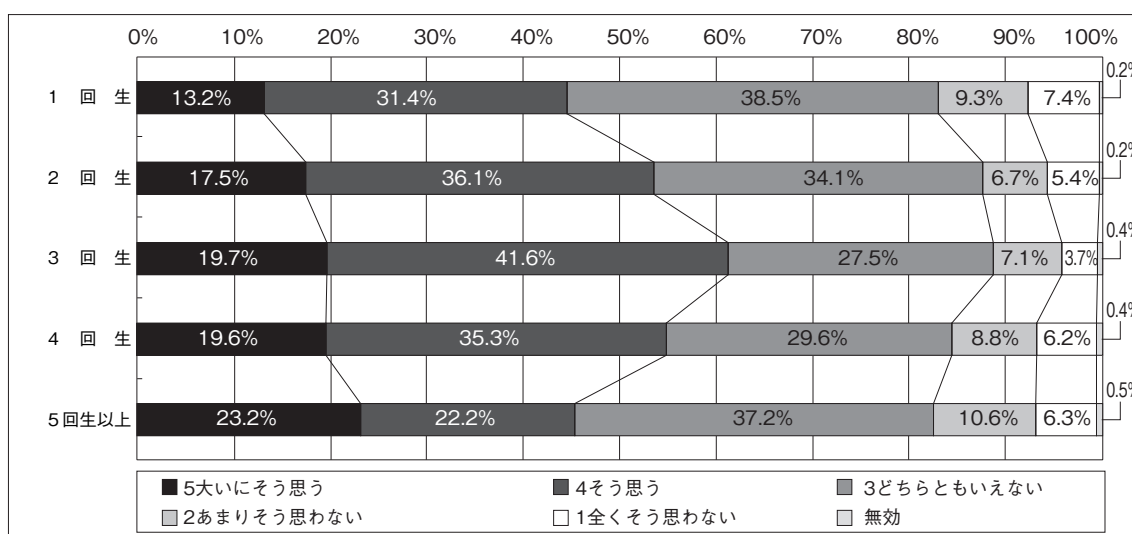
2011 年度 秋学期 授業アンケート 回生別集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1－(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名（延べ）]

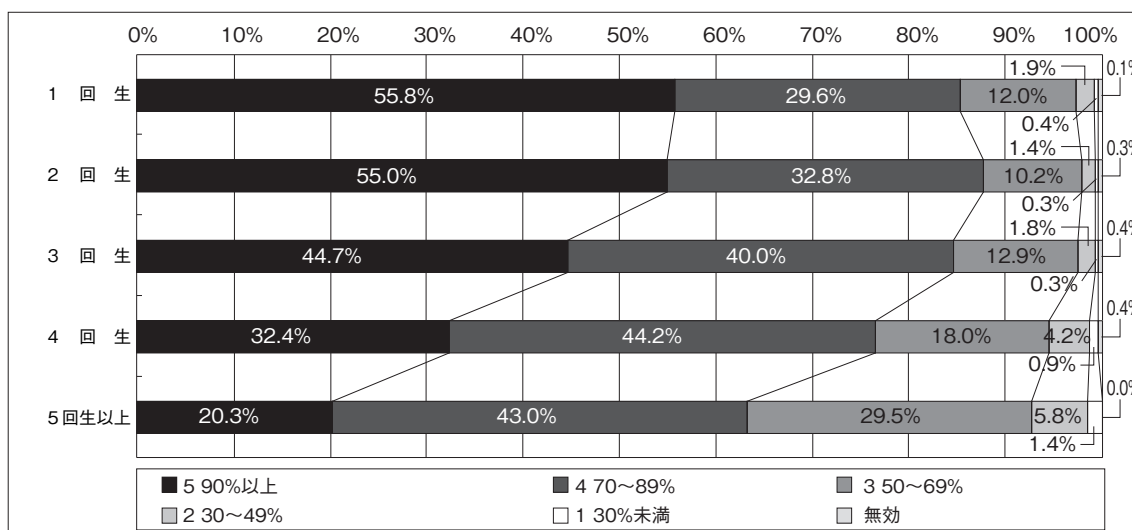
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
1 回 生	1,516	3,615	4,439	1,071	857	19	11,517
2 回 生	1,663	3,422	3,232	637	513	21	9,488
3 回 生	989	2,089	1,379	356	187	18	5,018
4 回 生	387	696	584	174	122	8	1,971
5 回生以上	48	46	77	22	13	1	207



Q1－(2) これまでの授業の出席率

[単位：名（延べ）]

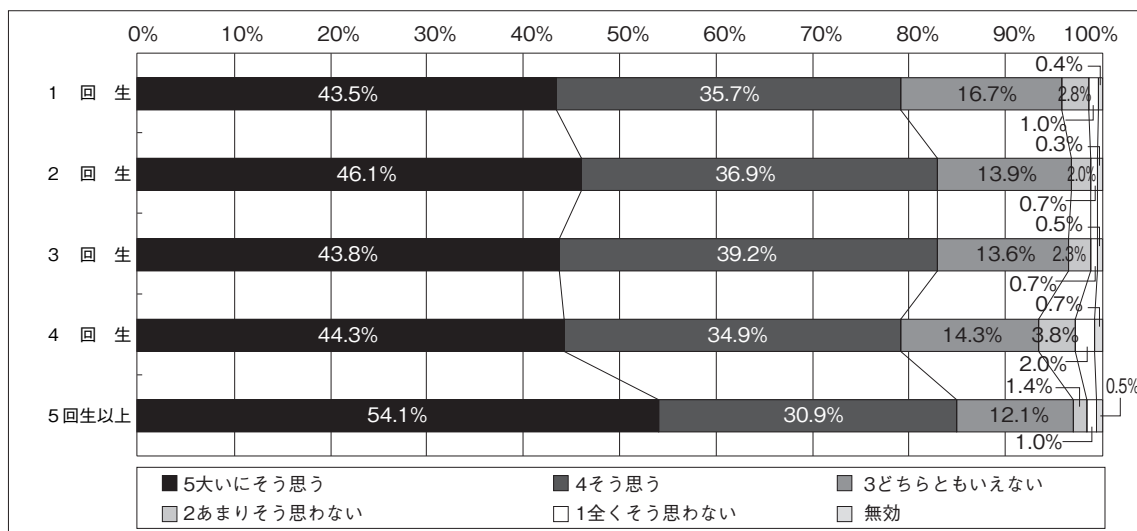
	5 90% 以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30% 未満	無効	合計
1 回 生	6,431	3,414	1,386	223	46	17	11,517
2 回 生	5,223	3,113	969	129	29	25	9,488
3 回 生	2,243	2,007	649	88	13	18	5,018
4 回 生	638	872	354	82	17	8	1,971
5 回生以上	42	89	61	12	3	0	207



Q1－(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった

[単位：名（延べ）]

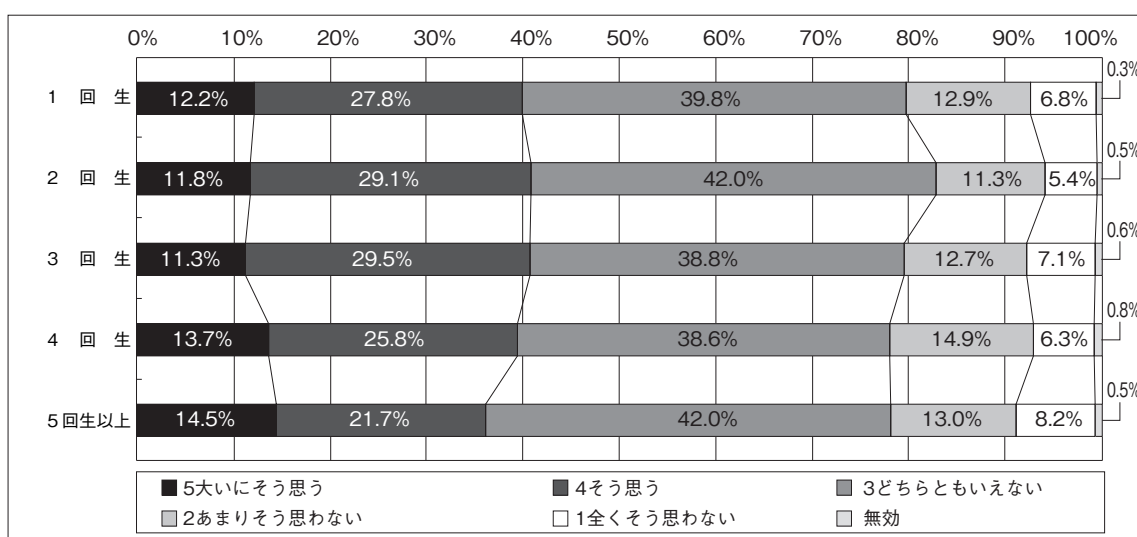
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
1 回 生	5,008	4,116	1,923	318	110	42	11,517
2 回 生	4,377	3,500	1,316	194	68	33	9,488
3 回 生	2,197	1,968	680	113	36	24	5,018
4 回 生	874	688	281	75	39	14	1,971
5 回生以上	112	64	25	3	2	1	207



Q1－(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名（延べ）]

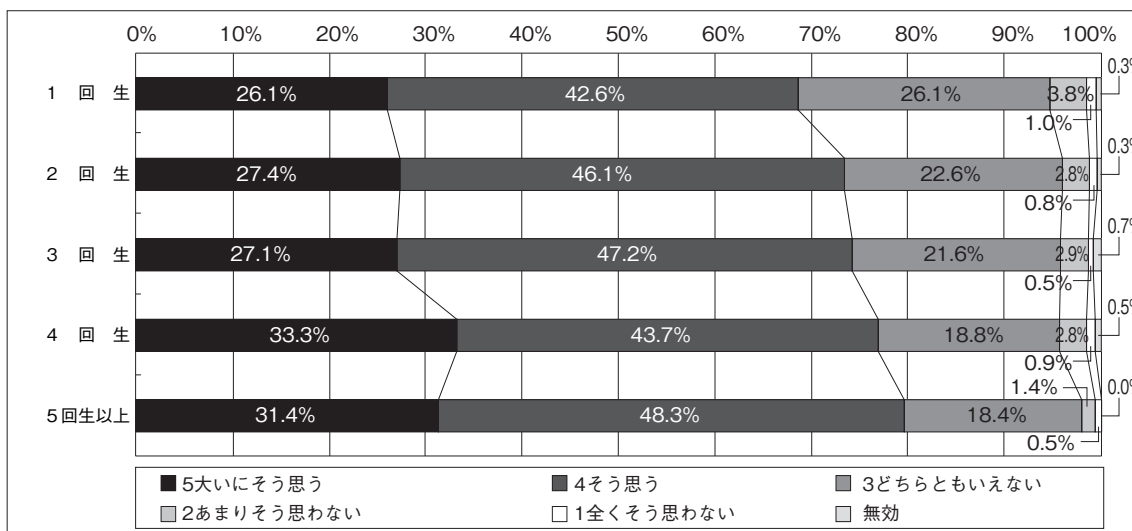
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
1 回 生	1,410	3,205	4,587	1,490	787	38	11,517
2 回 生	1,115	2,765	3,981	1,071	511	45	9,488
3 回 生	567	1,480	1,949	639	354	29	5,018
4 回 生	270	509	760	293	124	15	1,971
5 回生以上	30	45	87	27	17	1	207



Q1－(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,011	4,910	3,008	436	113	39	11,517
2 回 生	2,597	4,378	2,146	265	72	30	9,488
3 回 生	1,362	2,369	1,085	145	24	33	5,018
4 回 生	657	862	370	56	17	9	1,971
5 回生以上	65	100	38	3	1	0	207

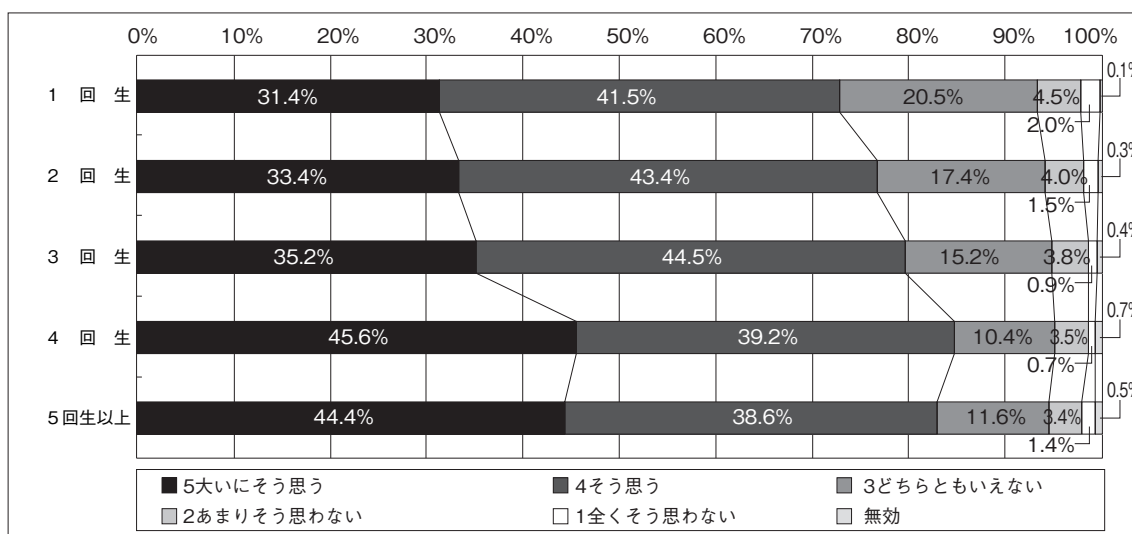


2. この授業の運営について

Q2－(1) わかりやすい授業であった

[単位：名（延べ）]

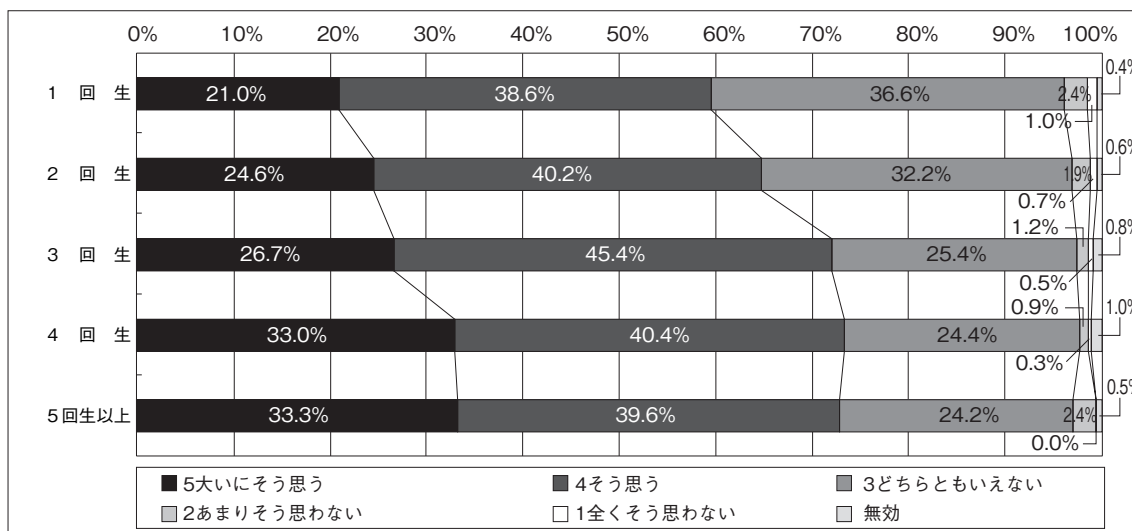
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,612	4,783	2,359	515	231	17	11,517
2 回 生	3,173	4,116	1,647	383	143	26	9,488
3 回 生	1,766	2,231	763	192	44	22	5,018
4 回 生	899	772	204	69	14	13	1,971
5 回生以上	92	80	24	7	3	1	207



Q2－(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名（延べ）]

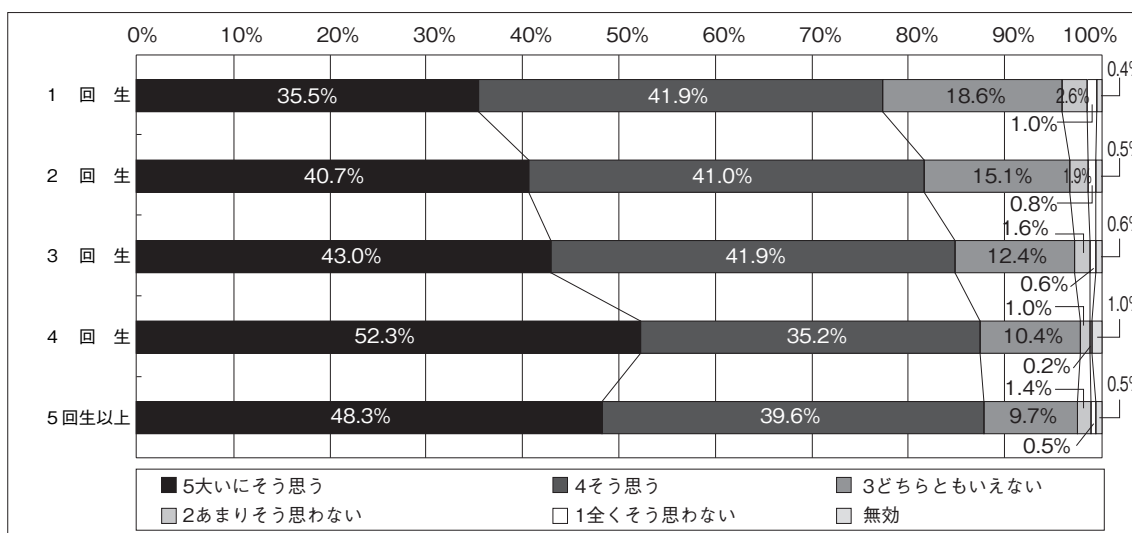
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,415	4,451	4,216	277	117	41	11,517
2 回 生	2,330	3,810	3,051	177	65	55	9,488
3 回 生	1,338	2,279	1,273	62	26	40	5,018
4 回 生	650	797	480	18	6	20	1,971
5 回生以上	69	82	50	5	0	1	207



Q2－(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名（延べ）]

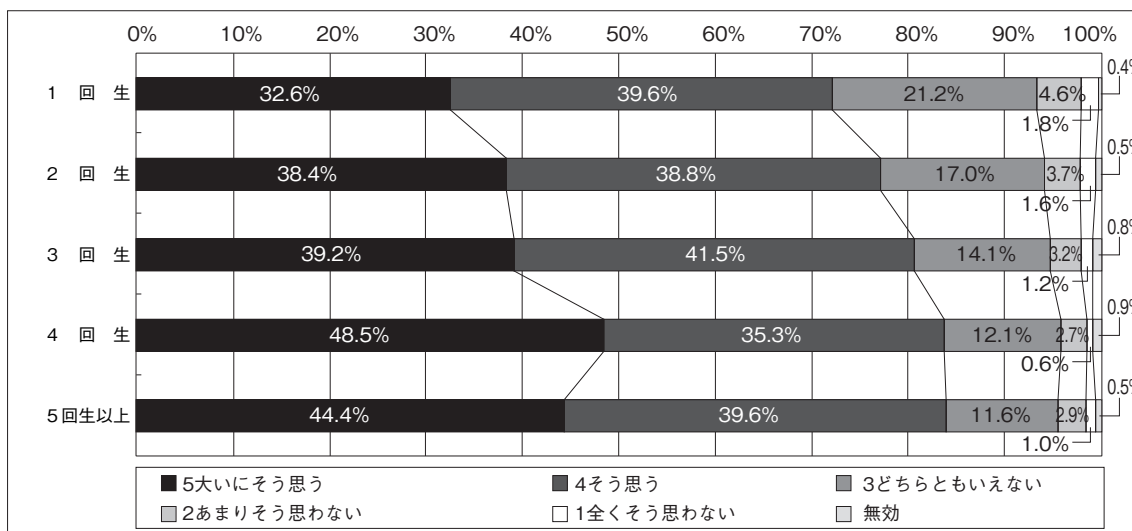
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	4,088	4,826	2,139	303	118	43	11,517
2 回 生	3,866	3,891	1,437	178	73	43	9,488
3 回 生	2,158	2,102	620	78	31	29	5,018
4 回 生	1,031	693	204	20	4	19	1,971
5 回生以上	100	82	20	3	1	1	207



Q2-(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名(延べ)]

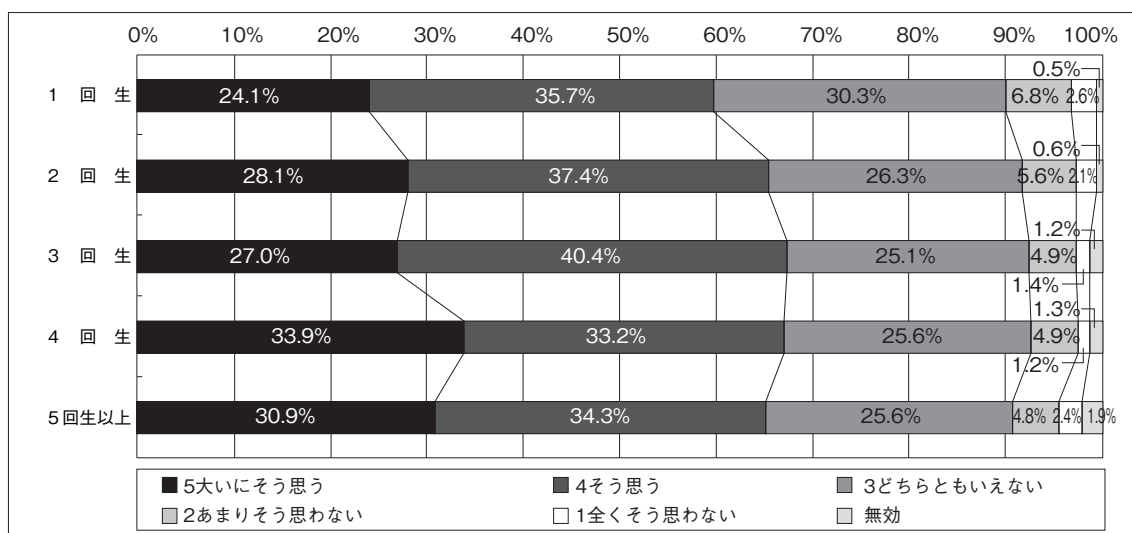
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,749	4,555	2,436	528	205	44	11,517
2 回 生	3,645	3,682	1,610	353	150	48	9,488
3 回 生	1,968	2,083	707	161	59	40	5,018
4 回 生	955	695	238	54	12	17	1,971
5 回生以上	92	82	24	6	2	1	207



Q2-(5) 板書 (OHP、パワーポイント含む) は見やすかった

[単位：名(延べ)]

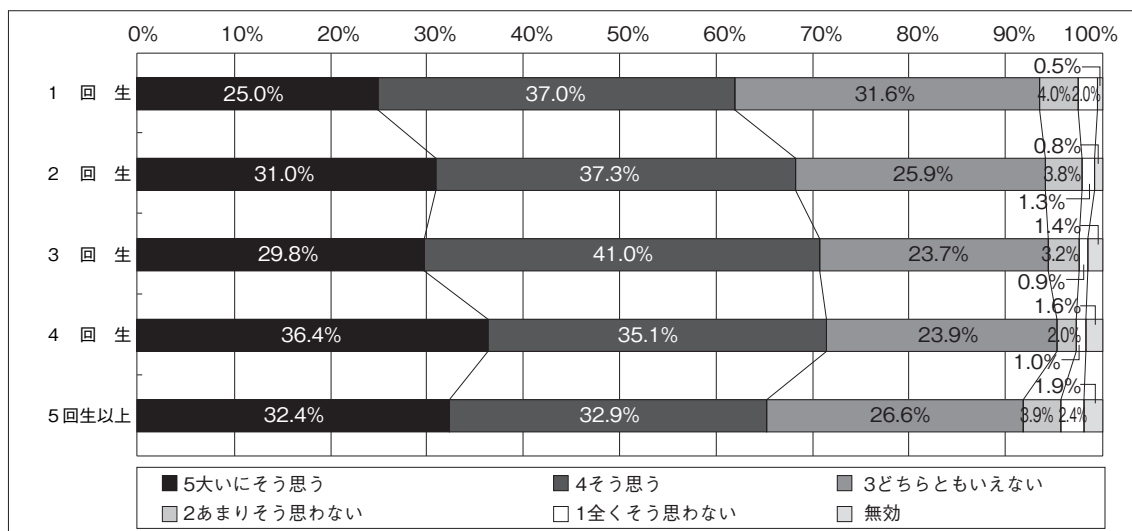
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,777	4,108	3,489	782	302	59	11,517
2 回 生	2,662	3,546	2,493	529	199	59	9,488
3 回 生	1,353	2,029	1,259	245	70	62	5,018
4 回 生	668	654	504	96	23	26	1,971
5 回生以上	64	71	53	10	5	4	207



Q2－(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

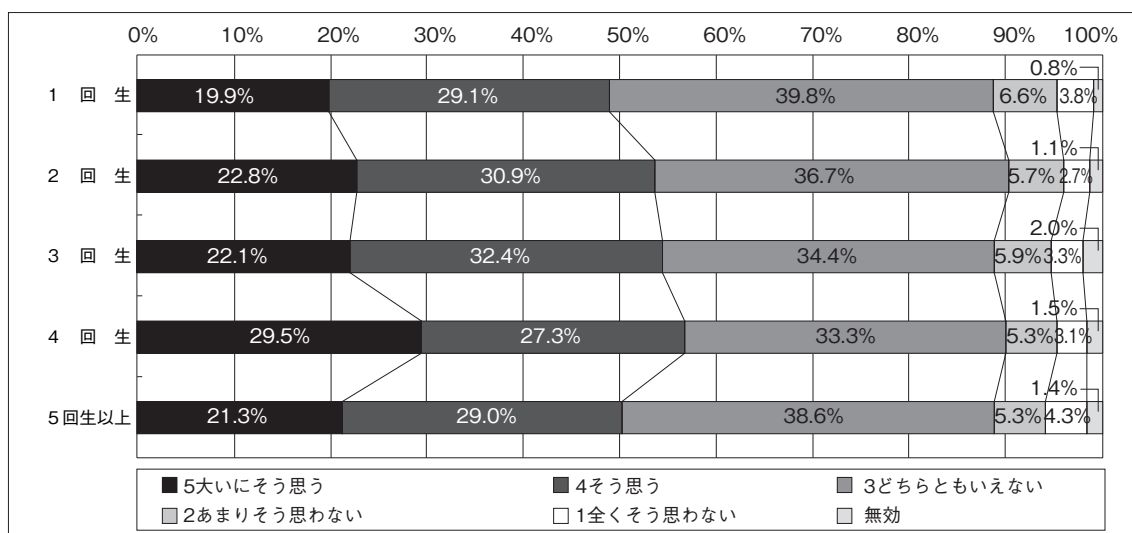
	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,881	4,256	3,635	463	225	57	11,517
2 回 生	2,942	3,537	2,460	358	119	72	9,488
3 回 生	1,496	2,056	1,187	161	46	72	5,018
4 回 生	717	692	472	39	19	32	1,971
5 回生以上	67	68	55	8	5	4	207



Q2－(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

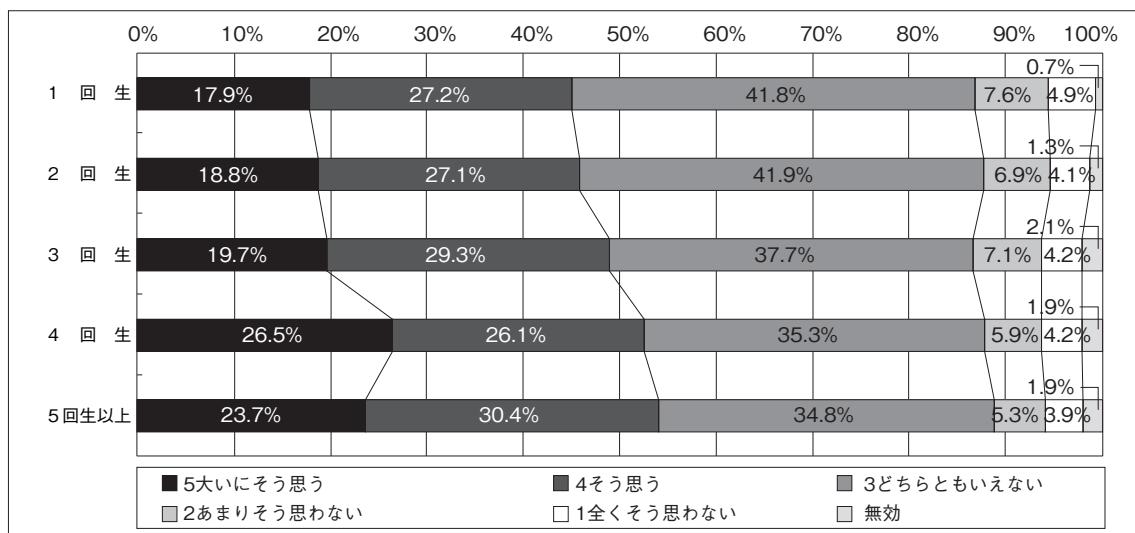
[単位：名（延べ）]

	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,294	3,352	4,587	764	432	88	11,517
2 回 生	2,163	2,935	3,479	545	259	107	9,488
3 回 生	1,109	1,625	1,728	294	164	98	5,018
4 回 生	581	538	656	105	61	30	1,971
5 回生以上	44	60	80	11	9	3	207



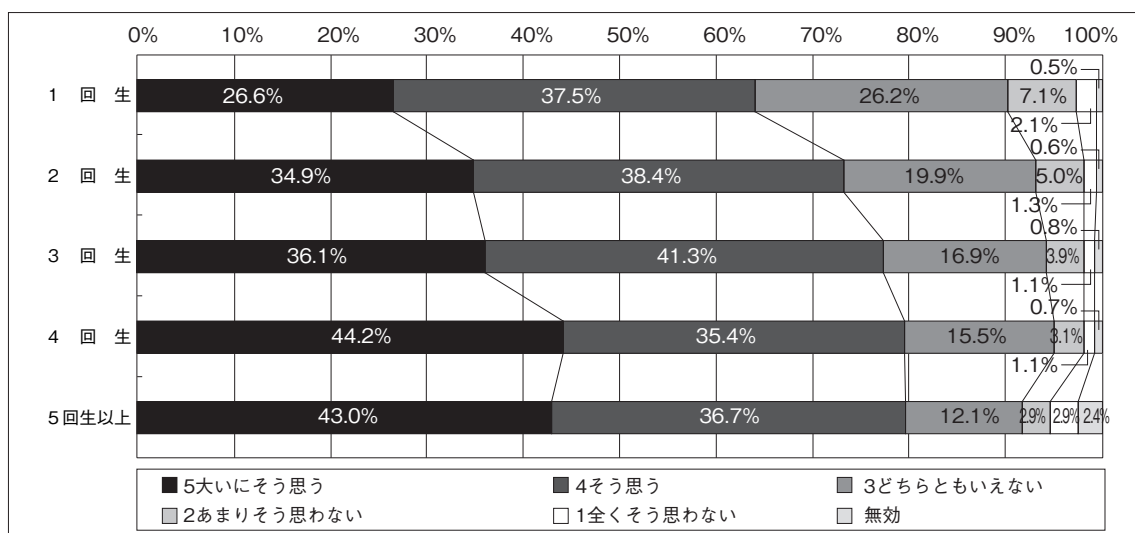
Q2－(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）” 含む）に工夫がみられた [単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,059	3,128	4,812	871	565	82	11,517
2 回 生	1,783	2,567	3,975	654	386	123	9,488
3 回 生	988	1,468	1,892	354	211	105	5,018
4 回 生	523	515	696	116	83	38	1,971
5 回生以上	49	63	72	11	8	4	207



Q2－(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた [単位：名（延べ）]

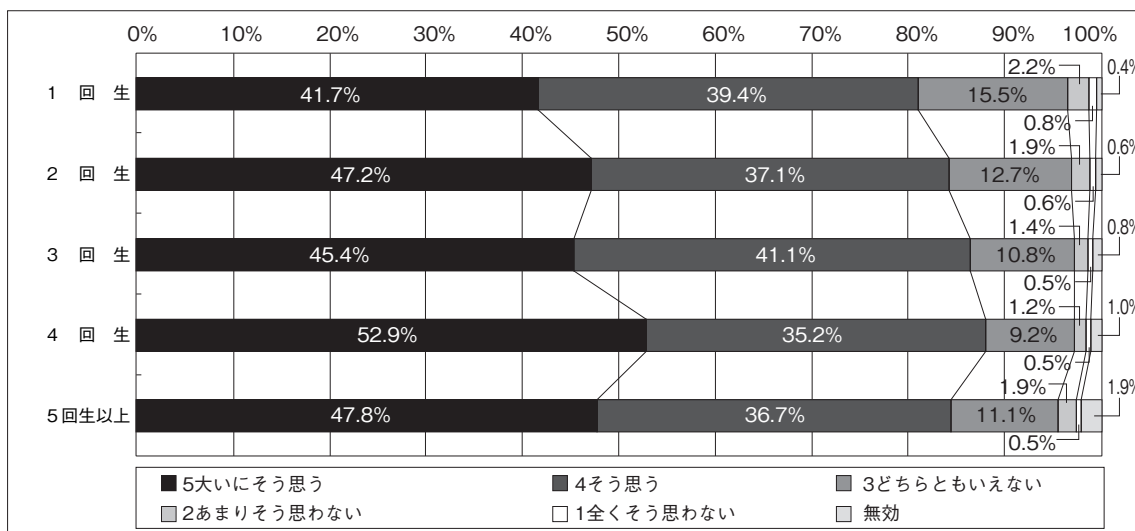
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,065	4,315	3,020	823	237	57	11,517
2 回 生	3,310	3,641	1,889	475	119	54	9,488
3 回 生	1,812	2,071	849	194	53	39	5,018
4 回 生	872	697	305	61	22	14	1,971
5 回生以上	89	76	25	6	6	5	207



Q2－(10) 授業時間が守られていた

[単位：名（延べ）]

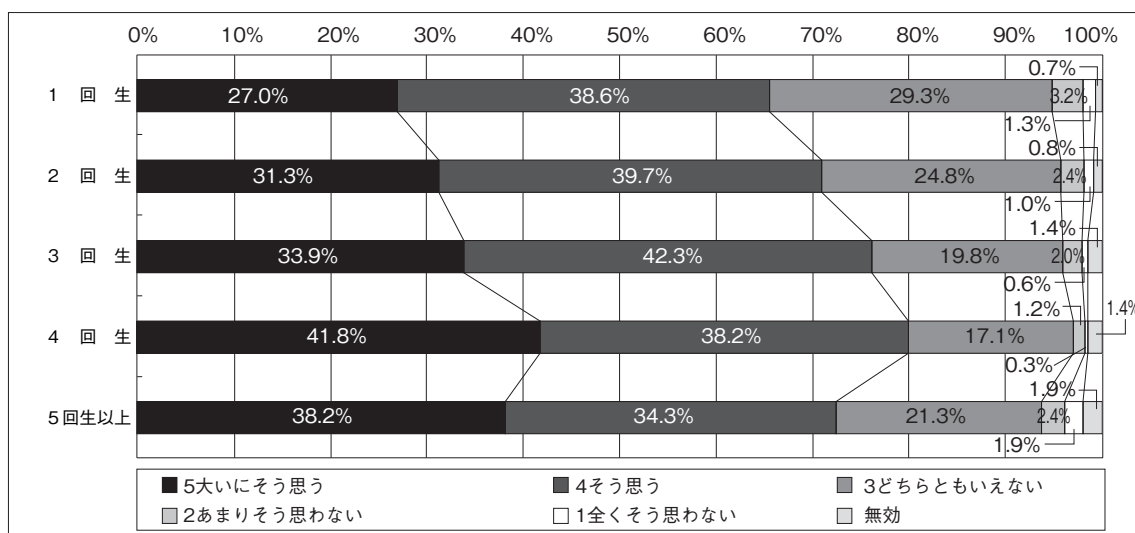
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	4,806	4,542	1,780	250	91	48	11,517
2 回 生	4,474	3,524	1,203	177	57	53	9,488
3 回 生	2,276	2,064	542	69	27	40	5,018
4 回 生	1,043	694	182	23	9	20	1,971
5 回生以上	99	76	23	4	1	4	207



Q2－(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,107	4,444	3,376	367	146	77	11,517
2 回 生	2,972	3,765	2,350	232	95	74	9,488
3 回 生	1,703	2,124	995	99	29	68	5,018
4 回 生	824	752	338	23	6	28	1,971
5 回生以上	79	71	44	5	4	4	207

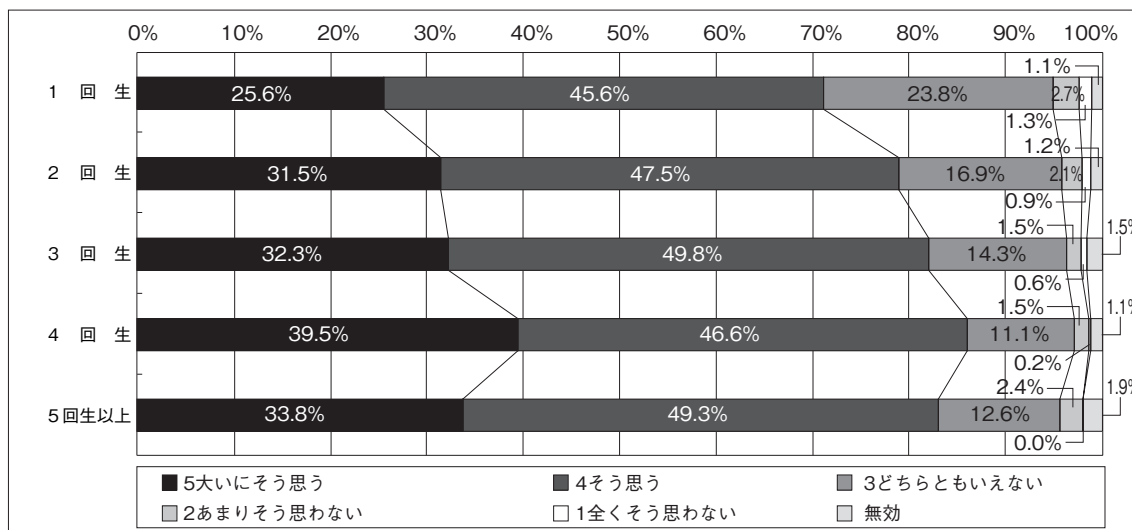


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3－(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名（延べ）]

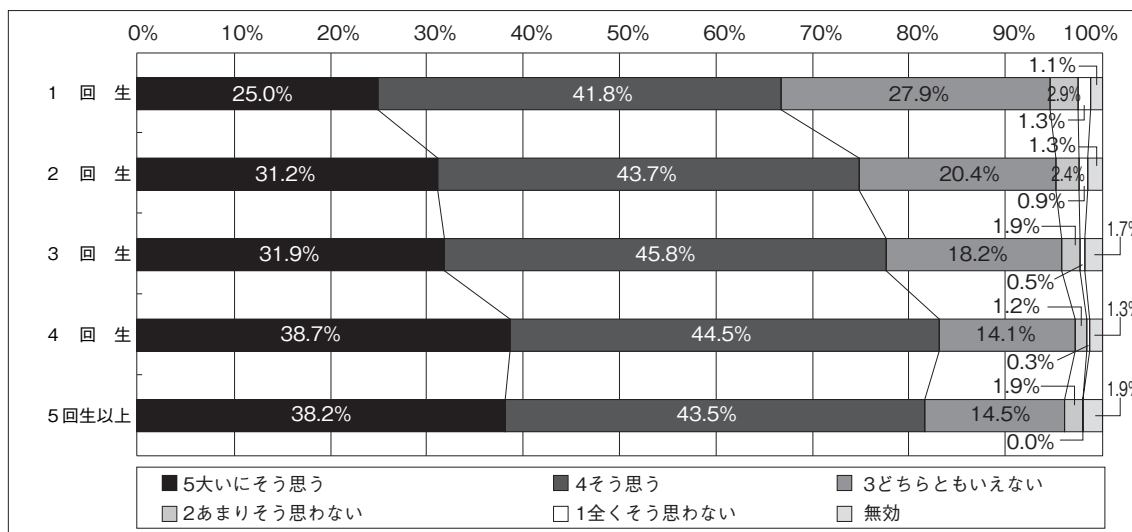
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,946	5,255	2,744	307	144	121	11,517
2 回 生	2,988	4,503	1,602	196	81	118	9,488
3 回 生	1,623	2,497	720	76	28	74	5,018
4 回 生	778	919	218	30	4	22	1,971
5 回生以上	70	102	26	5	0	4	207



Q3－(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名（延べ）]

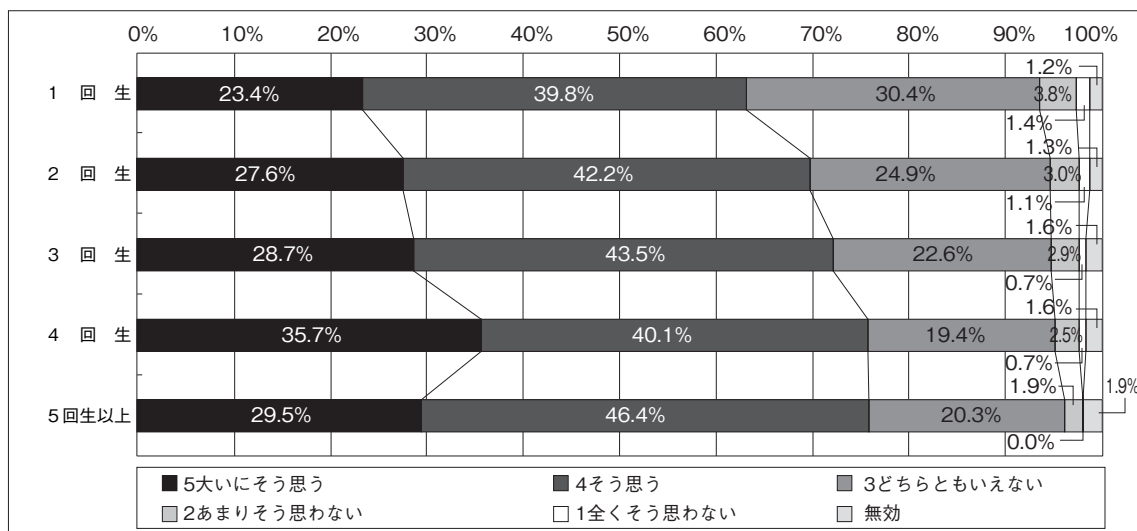
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,884	4,815	3,208	333	150	127	11,517
2 回 生	2,962	4,147	1,936	231	86	126	9,488
3 回 生	1,599	2,299	913	96	26	85	5,018
4 回 生	762	877	277	23	6	26	1,971
5 回生以上	79	90	30	4	0	4	207



Q3－(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名（延べ）]

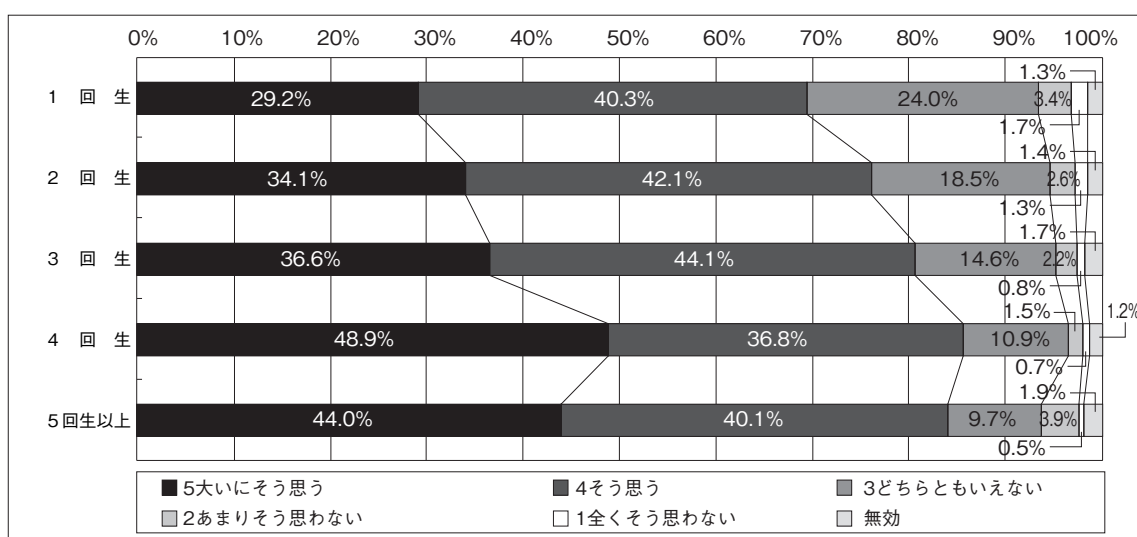
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,697	4,585	3,506	434	162	133	11,517
2 回 生	2,614	4,004	2,363	284	100	123	9,488
3 回 生	1,440	2,183	1,133	148	34	80	5,018
4 回 生	704	791	383	49	13	31	1,971
5 回生以上	61	96	42	4	0	4	207



Q3－(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,366	4,643	2,767	393	200	148	11,517
2 回 生	3,238	3,991	1,755	243	127	134	9,488
3 回 生	1,835	2,214	731	110	42	86	5,018
4 回 生	964	726	214	30	13	24	1,971
5 回生以上	91	83	20	8	1	4	207



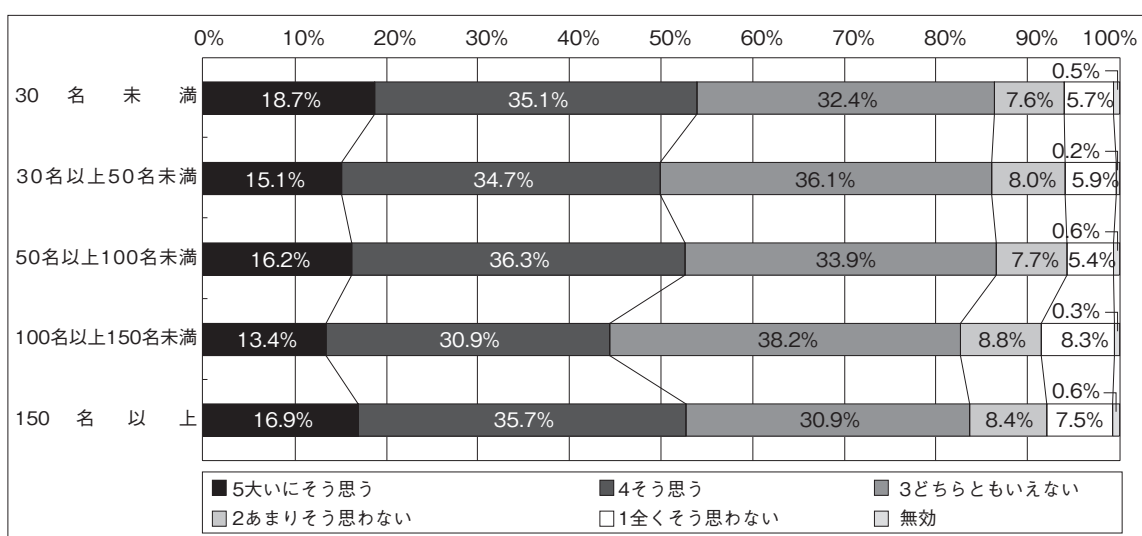
2011 年度 秋学期 授業アンケート クラス規模別集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1－(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名(延べ)]

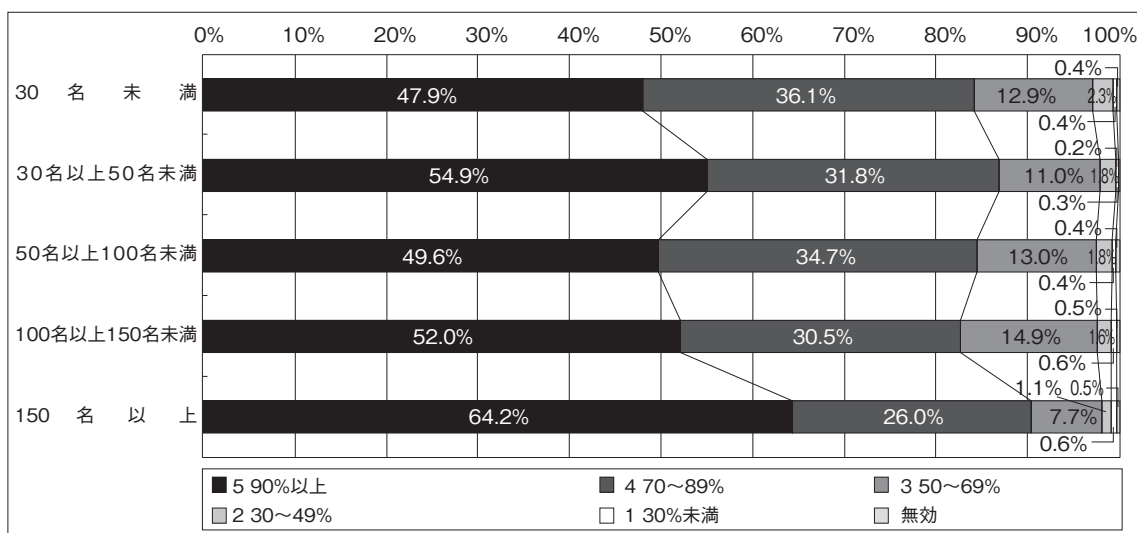
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	1,739	3,262	3,011	703	525	43	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	1,471	3,384	3,516	779	579	20	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	1,289	2,883	2,692	609	432	45	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	436	1,009	1,246	287	272	11	3,261
150 名 以 上	175	369	320	87	78	6	1,035



Q1－(2) これまでの授業の出席率

[単位：名（延べ）]

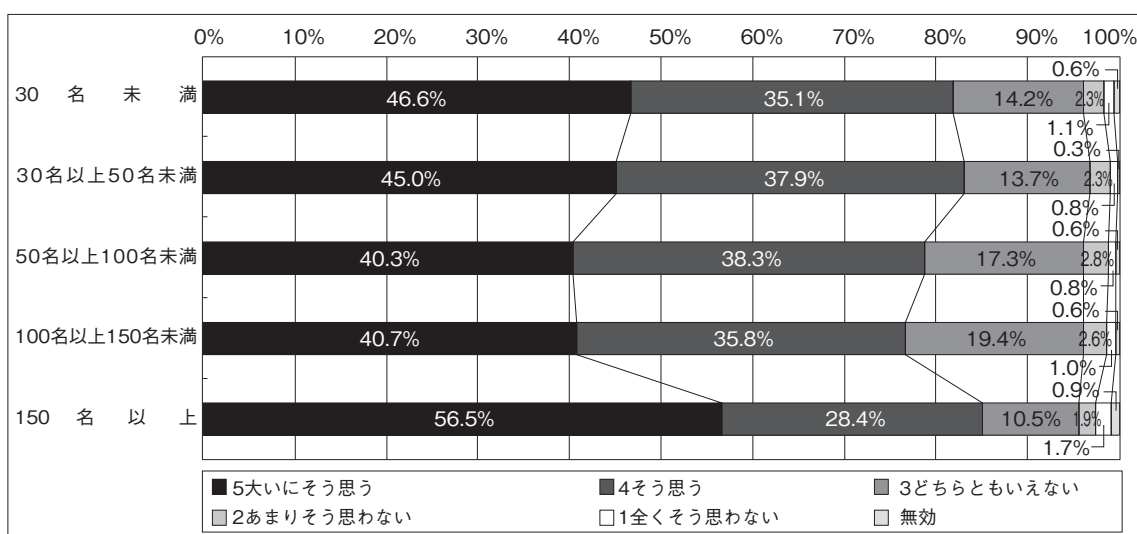
	5 90%以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30%未満	無効	合計
30名未満	4,444	3,353	1,200	209	38	39	9,283
30名以上50名未満	5,353	3,100	1,072	173	28	23	9,749
50名以上100名未満	3,942	2,761	1,036	147	34	30	7,950
100名以上150名未満	1,696	993	487	52	18	15	3,261
150名以上	664	269	80	11	6	5	1,035



Q1－(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった

[単位：名（延べ）]

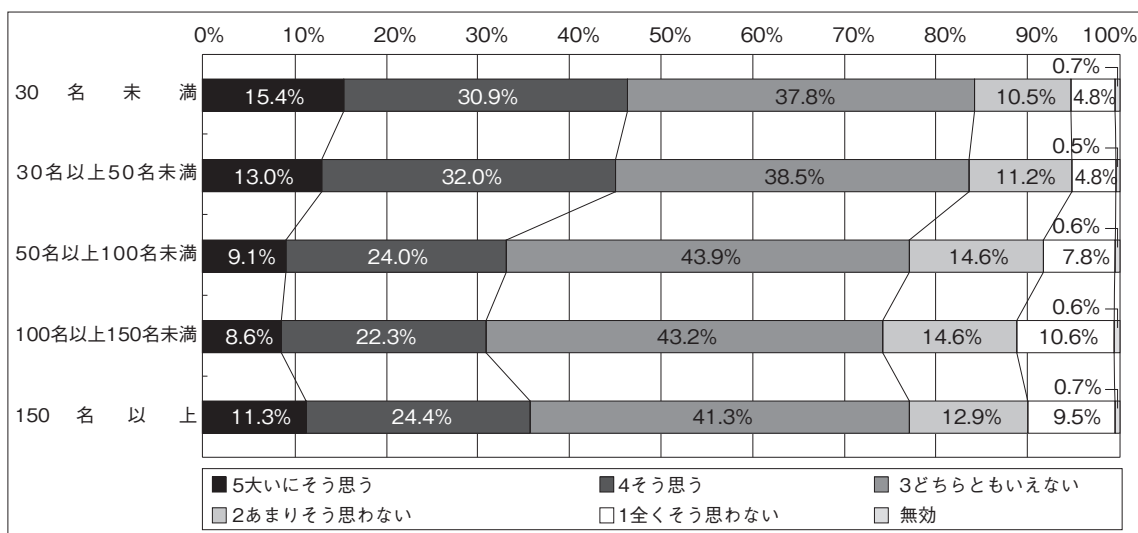
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
30名未満	4,324	3,261	1,322	218	100	58	9,283
30名以上50名未満	4,388	3,694	1,335	223	75	34	9,749
50名以上100名未満	3,200	3,045	1,375	223	62	45	7,950
100名以上150名未満	1,326	1,166	632	84	33	20	3,261
150名以上	585	294	109	20	18	9	1,035



Q1－(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名(延べ)]

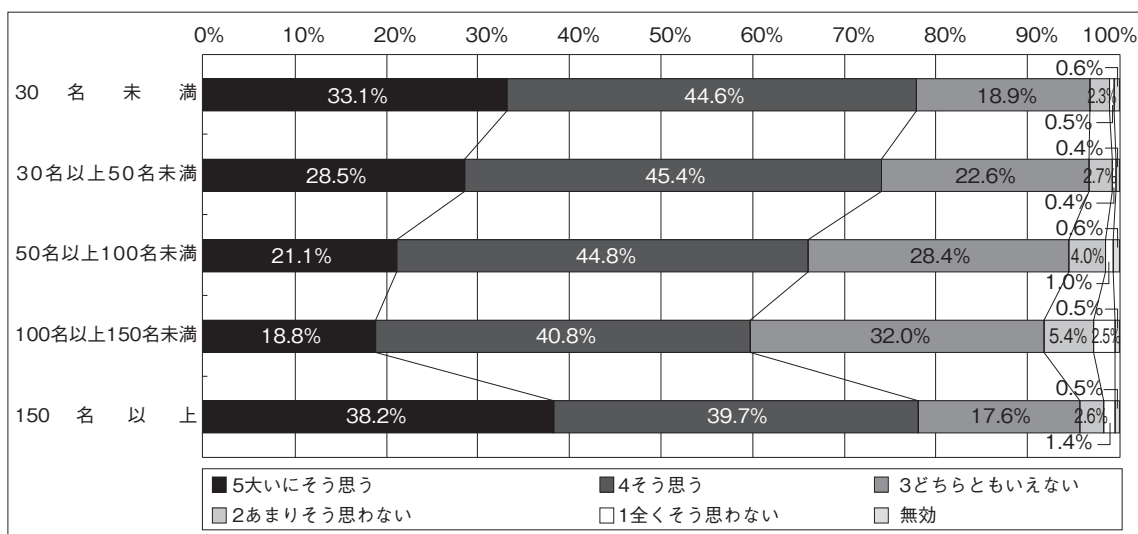
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	1,427	2,870	3,508	973	442	63	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	1,268	3,120	3,755	1,091	469	46	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	725	1,907	3,492	1,159	620	47	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	280	728	1,410	476	347	20	3,261
150 名 以 上	117	253	427	133	98	7	1,035



Q1－(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,073	4,142	1,758	211	45	54	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	2,775	4,428	2,202	263	40	41	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	1,676	3,564	2,261	320	83	46	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	612	1,331	1,044	177	80	17	3,261
150 名 以 上	395	411	182	27	15	5	1,035

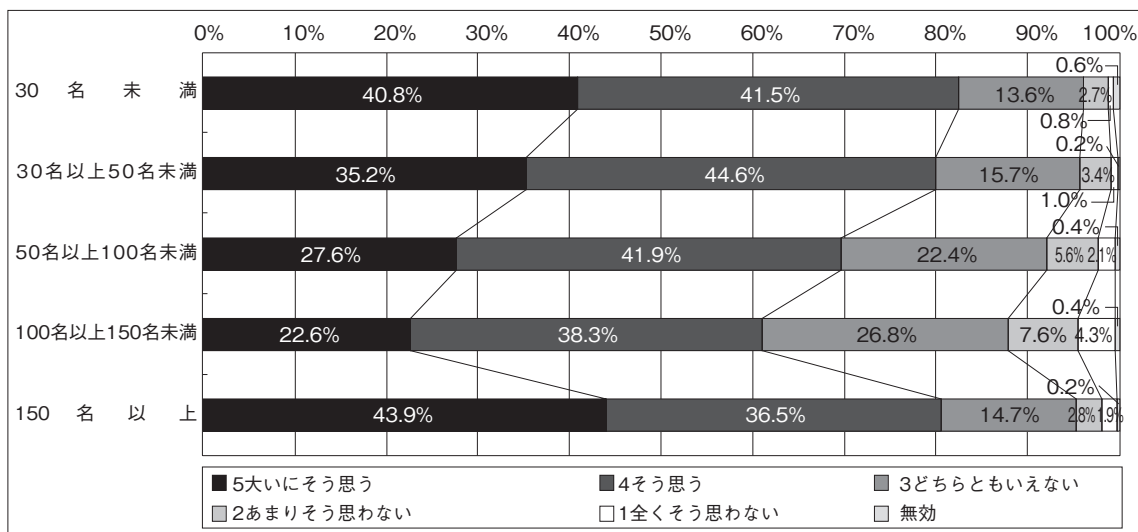


2. この授業の運営について

Q2－(1) わかりやすい授業であった

[単位：名（延べ）]

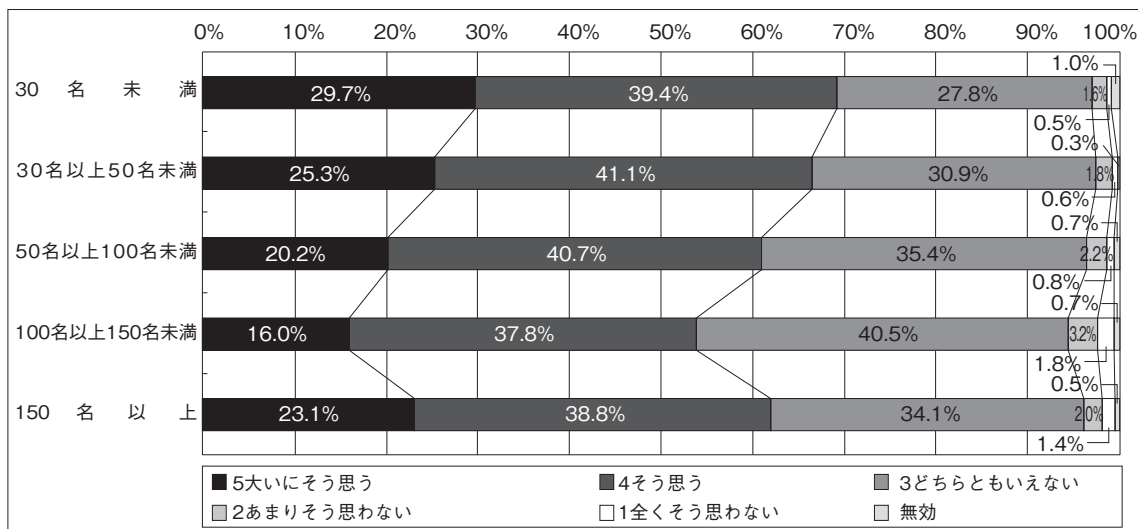
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,789	3,853	1,261	251	74	55	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	3,428	4,347	1,534	327	94	19	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	2,195	3,328	1,784	445	168	30	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	736	1,250	875	248	140	12	3,261
150 名 以 上	454	378	152	29	20	2	1,035



Q2－(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名（延べ）]

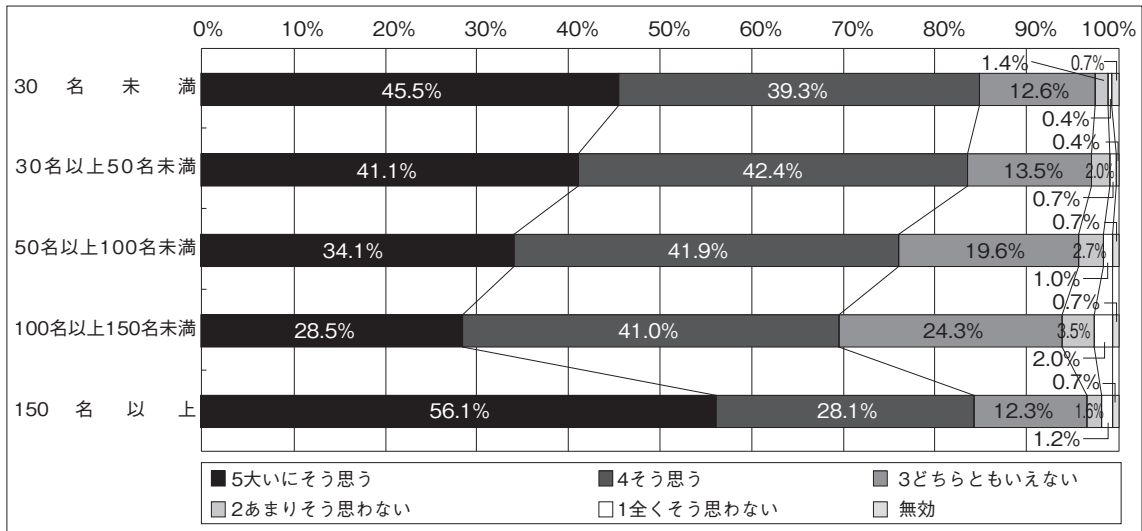
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	2,756	3,657	2,583	146	47	94	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	2,467	4,006	3,009	176	57	34	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	1,608	3,236	2,814	171	63	58	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	521	1,232	1,322	103	60	23	3,261
150 名 以 上	239	402	353	21	15	5	1,035



Q2－(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名（延べ）]

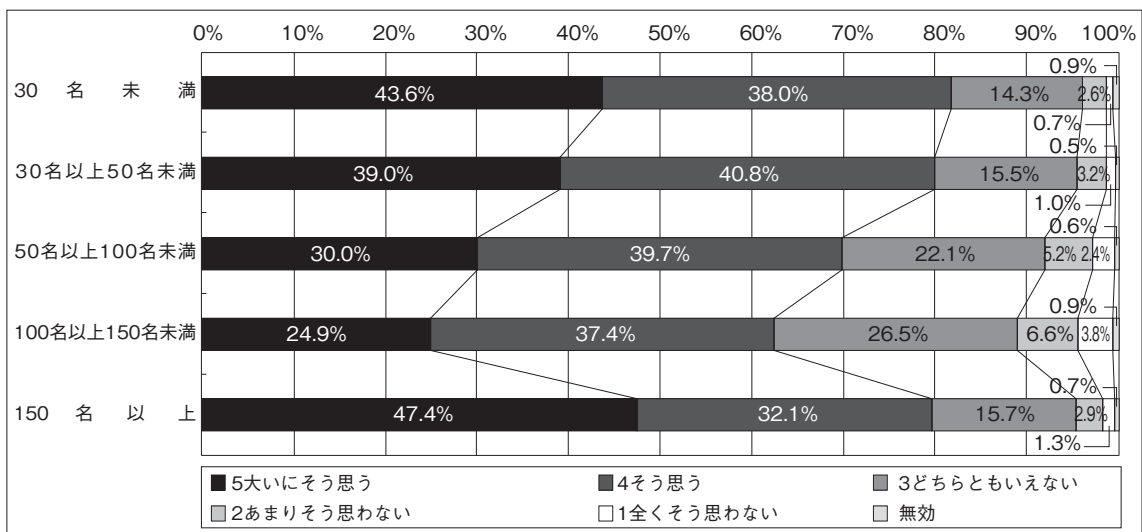
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	4,225	3,649	1,174	127	40	68	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	4,002	4,131	1,320	195	65	36	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	2,713	3,328	1,560	212	82	55	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	929	1,337	793	115	65	22	3,261
150 名 以 上	581	291	127	17	12	7	1,035



Q2－(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名（延べ）]

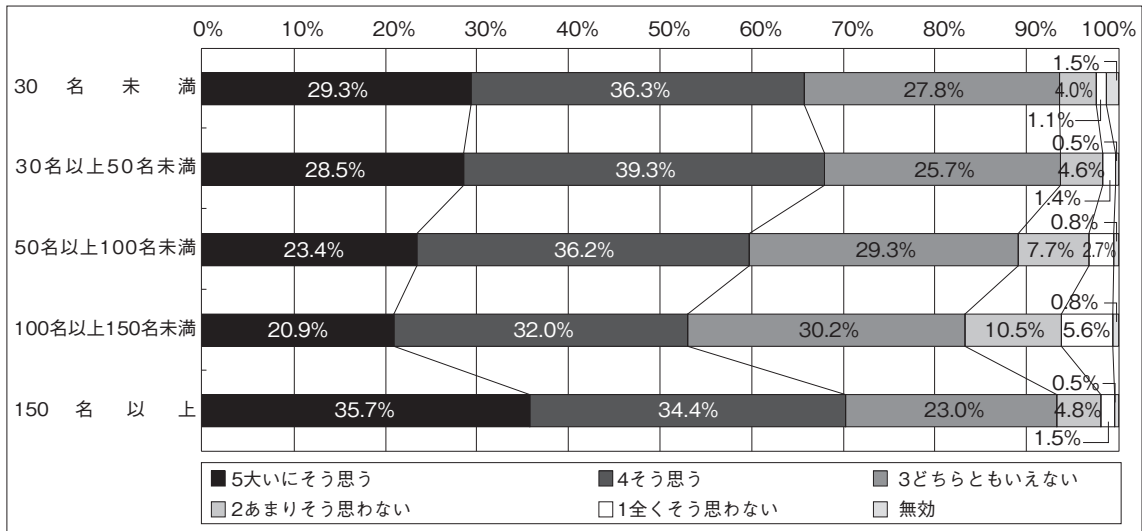
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	4,049	3,528	1,323	239	65	79	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	3,801	3,973	1,513	316	101	45	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	2,388	3,153	1,759	415	188	47	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	811	1,218	865	216	123	28	3,261
150 名 以 上	491	332	162	30	13	7	1,035



Q2－(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

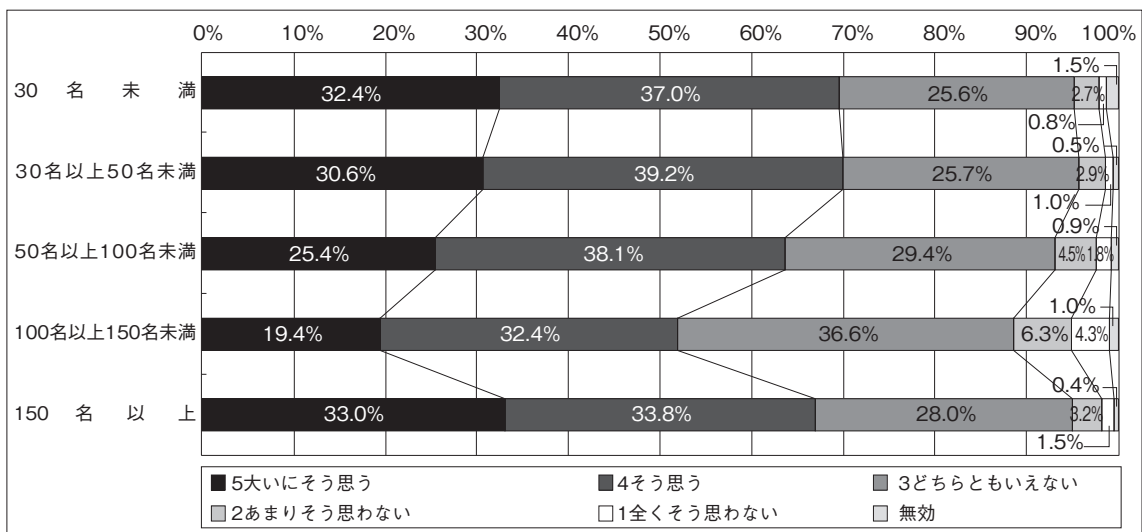
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	2,722	3,371	2,581	368	105	136	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	2,779	3,831	2,504	448	141	46	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	1,860	2,876	2,327	609	218	60	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	682	1,045	985	341	182	26	3,261
150 名 以 上	370	356	238	50	16	5	1,035



Q2－(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

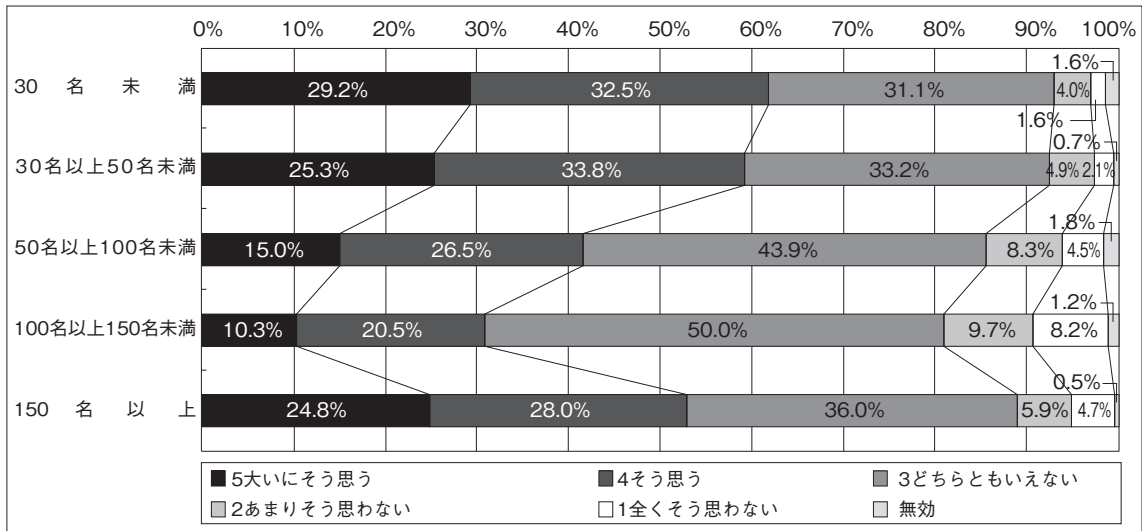
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,008	3,431	2,376	253	72	143	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	2,986	3,826	2,507	285	93	52	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	2,022	3,025	2,334	355	142	72	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	632	1,058	1,194	206	139	32	3,261
150 名 以 上	342	350	290	33	16	4	1,035



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

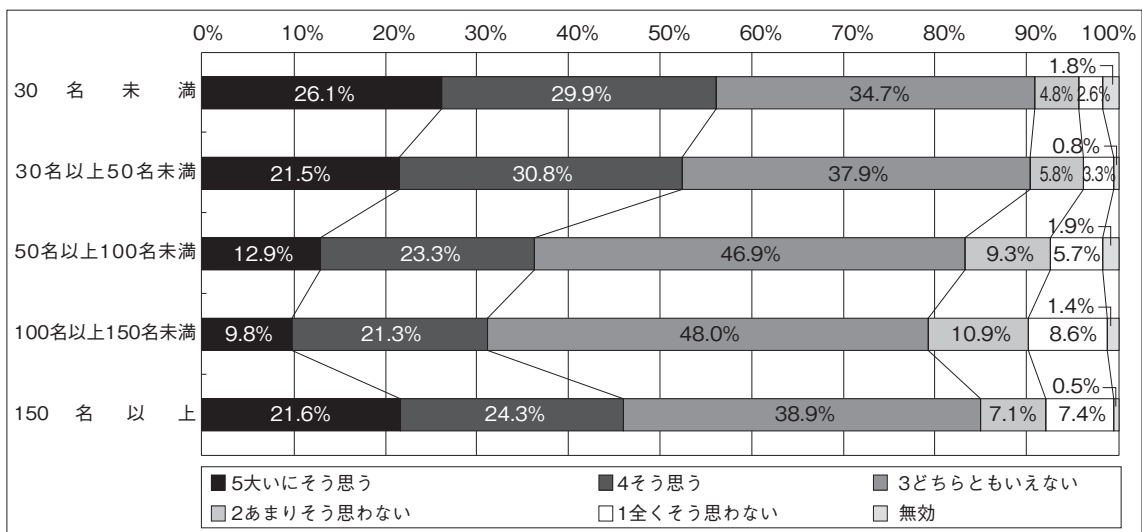
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	2,708	3,021	2,889	369	149	147	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	2,466	3,296	3,237	474	203	73	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	1,194	2,110	3,489	659	355	143	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	336	670	1,632	316	269	38	3,261
150 名 以 上	257	290	373	61	49	5	1,035



Q2-(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）” 含む）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

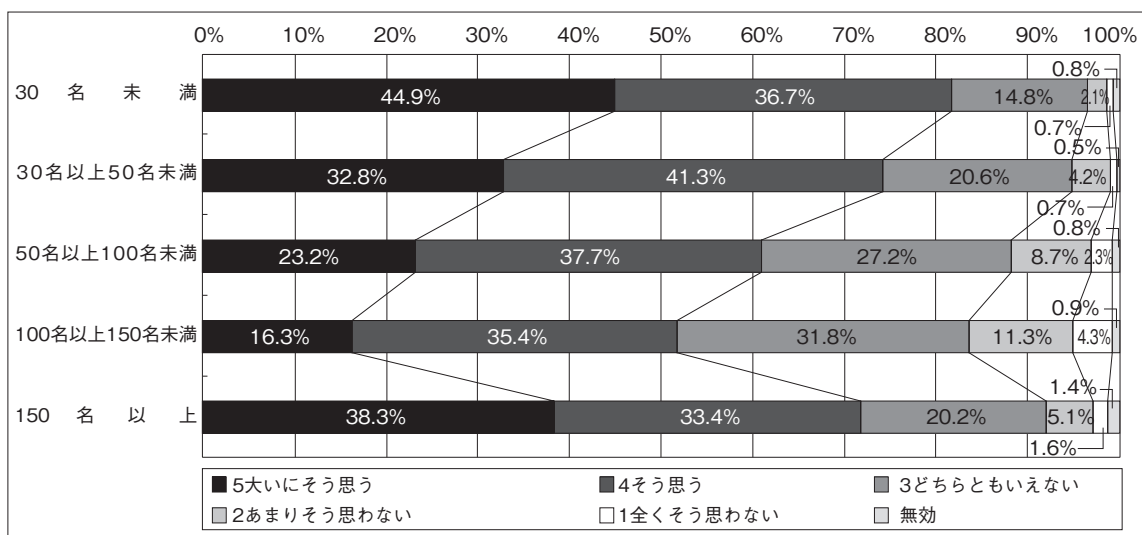
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	2,425	2,780	3,225	443	243	167	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	2,092	3,000	3,690	565	325	77	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	1,024	1,856	3,725	738	455	152	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	320	696	1,565	355	279	46	3,261
150 名 以 上	224	252	403	74	77	5	1,035



Q2－(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた

[単位：名（延べ）]

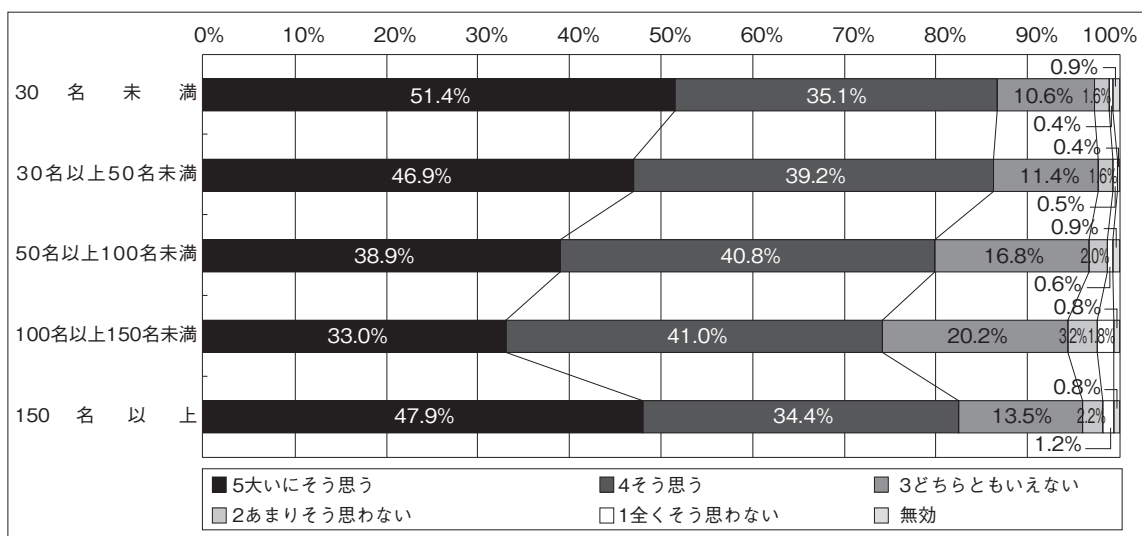
	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	4,165	3,407	1,372	192	69	78	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	3,195	4,027	2,005	407	69	46	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	1,847	2,998	2,166	691	182	66	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	532	1,155	1,036	369	140	29	3,261
150 名 以 上	396	346	209	53	17	14	1,035



Q2－(10) 授業時間が守られていた

[単位：名（延べ）]

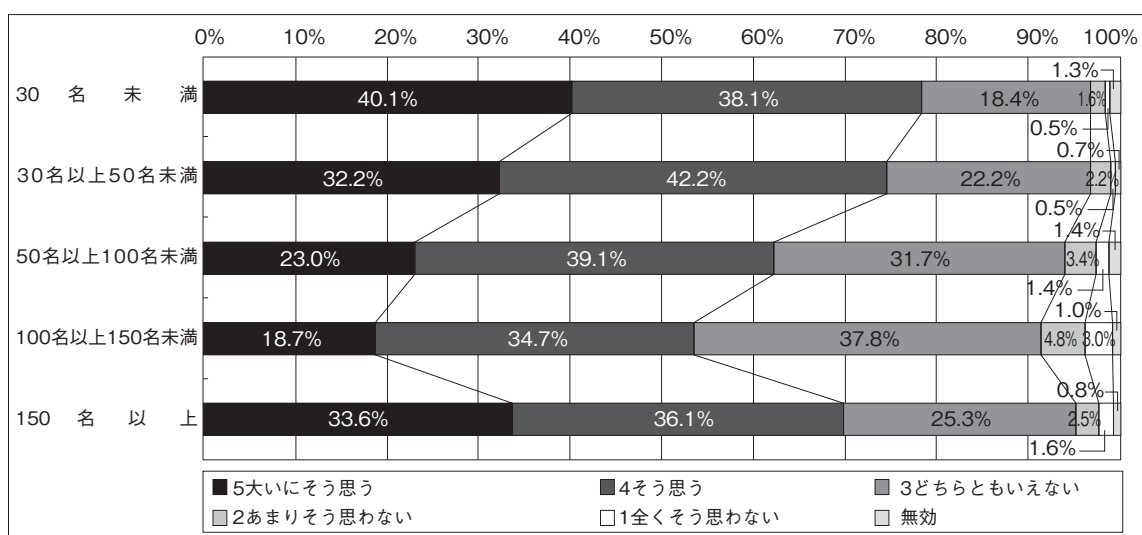
	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	4,776	3,258	982	147	39	81	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	4,571	3,817	1,115	155	50	41	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	3,095	3,245	1,332	158	50	70	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	1,076	1,336	660	103	59	27	3,261
150 名 以 上	496	356	140	23	12	8	1,035



Q2－(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,724	3,538	1,704	147	49	121	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	3,140	4,118	2,164	210	48	69	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	1,829	3,108	2,517	271	114	111	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	610	1,133	1,234	156	97	31	3,261
150 名 以 上	348	374	262	26	17	8	1,035

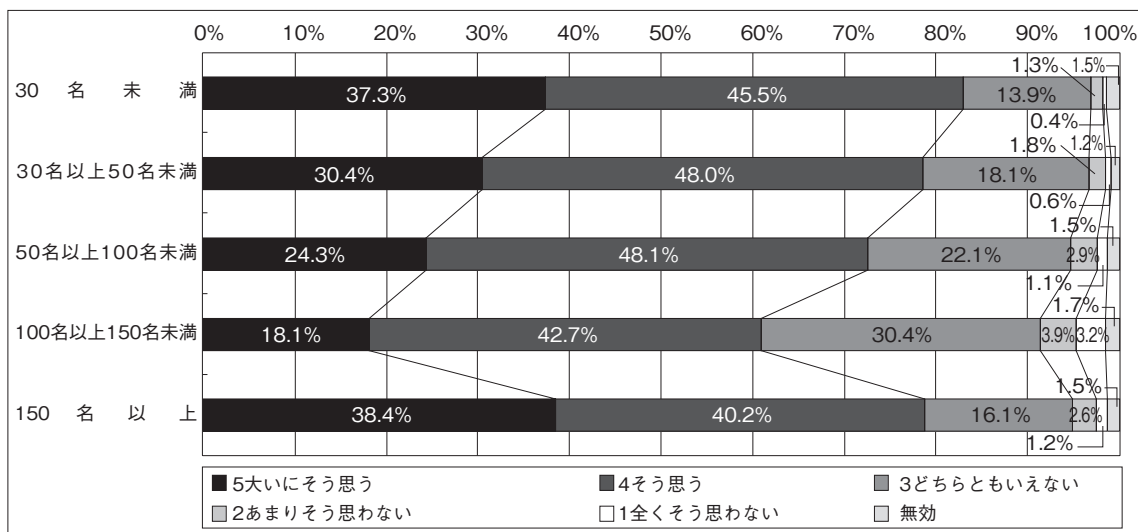


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3－(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名（延べ）]

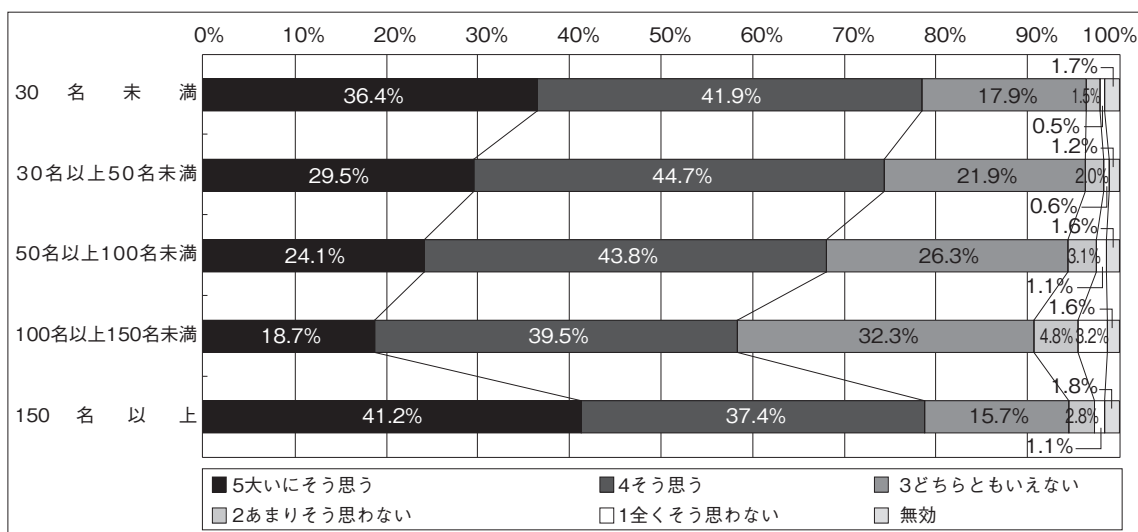
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,462	4,227	1,293	123	41	137	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	2,959	4,681	1,765	172	58	114	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	1,933	3,820	1,760	229	85	123	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	589	1,391	991	128	105	57	3,261
150 名 以 上	397	416	167	27	12	16	1,035



Q3－(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名（延べ）]

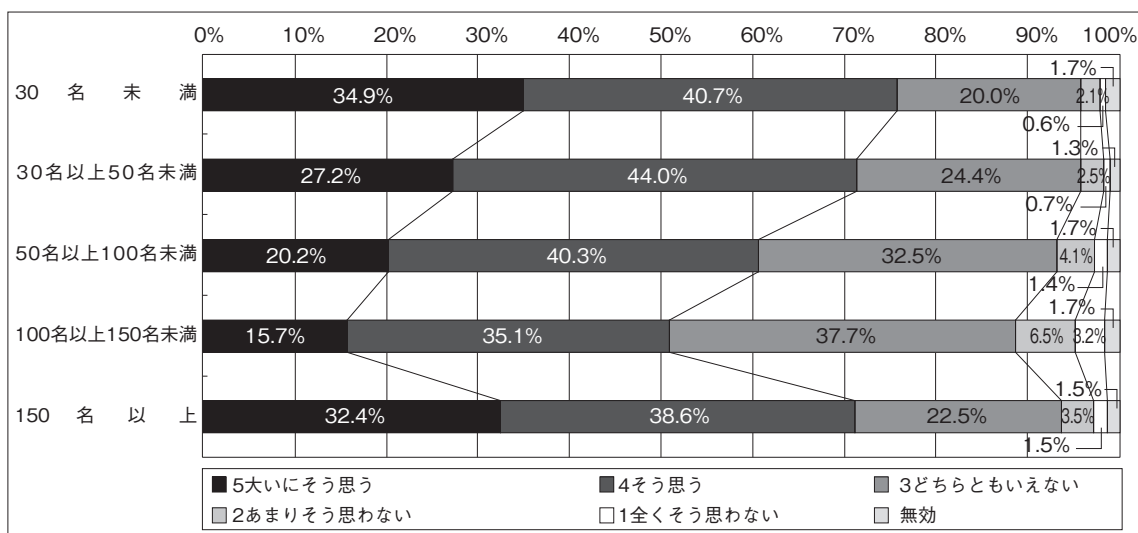
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,382	3,893	1,662	142	47	157	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	2,872	4,359	2,139	197	62	120	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	1,916	3,479	2,090	247	87	131	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	609	1,288	1,054	155	103	52	3,261
150 名 以 上	426	387	163	29	11	19	1,035



Q3－(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名（延べ）]

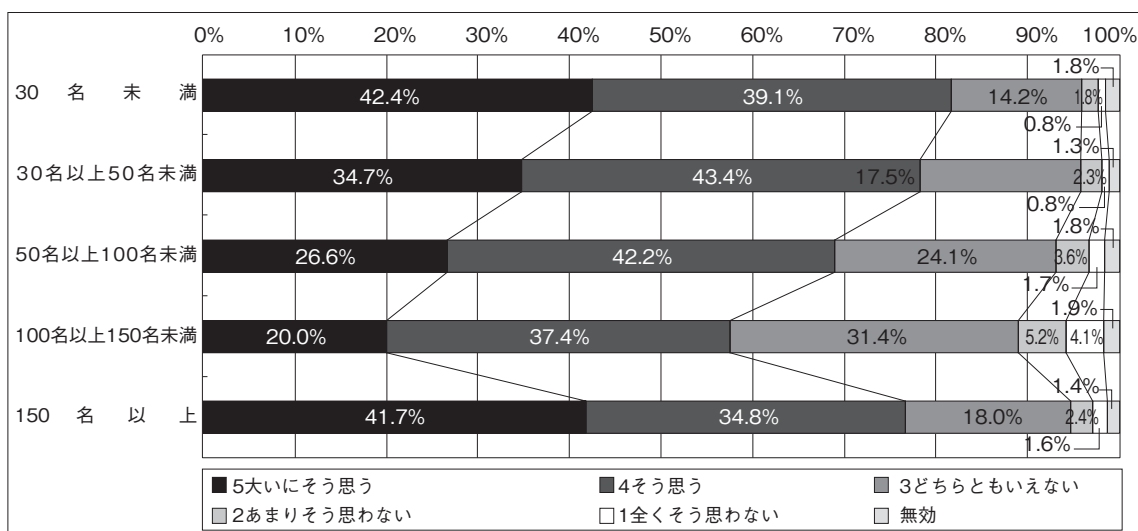
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,243	3,774	1,860	192	55	159	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	2,656	4,288	2,374	241	67	123	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	1,604	3,201	2,580	322	111	132	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	513	1,144	1,231	212	105	56	3,261
150 名 以 上	335	399	233	36	16	16	1,035



Q3－(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30 名 未 満	3,935	3,628	1,314	170	71	165	9,283
30 名 以 上 50 名 未 満	3,379	4,235	1,702	224	81	128	9,749
50 名 以 上 100 名 未 満	2,118	3,354	1,912	288	136	142	7,950
100 名 以 上 150 名 未 満	652	1,221	1,025	168	134	61	3,261
150 名 以 上	432	360	186	25	17	15	1,035



科目名	担当教員名
-----	-------

曜 日 ① 月曜日 ② 火曜日 ③ 水曜日 ④ 木曜日 ⑤ 金曜日 ⑥ 土曜日

講 時 ① 1 講時 ② 2 講時 ③ 3 講時 ④ 4 講時 ⑤ 5 講時

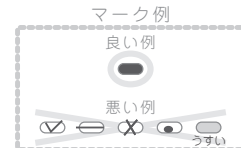
● あなたの所属について下記から選んでください。

学 科 ① 人文 ② 仏教 ③ 日文 ④ 中国 ⑤ 英米 ⑥ 歴史 ⑦ 歴史
 ⑧ 教育 ⑨ 臨床 ⑩ 現社 ⑪ 公共 ⑫ 社福 ⑬ 理学 ⑭ 作業
 ⑮ 別科 ⑯ 大学院修士課程 ⑰ 大学院博士後期課程 ⑱ 上記以外(科目履修生含む)

回 生 ① 1 回生 ② 2 回生 ③ 3 回生 ④ 4 回生 ⑤ 5 回生以上

【注意事項】

- 記入はHBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
- 訂正する場合はプラスチック消しゴムで丁寧に消してください。
- 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。



● 以下の項目に対して、あなたにとって当てはまる項目をマークしてください。

1. あなた自身の取り組みについて

	大いに そう思う 90%以上	そう 思う 70~89%	どちらとも いえない 50~69%	あまり そう 思わない 30~49%	全く そう 思わない 30%未満
(1) シラバスを読んで受講に備えた	⑤	④	③	②	①
(2) これまでの授業の出席率	⑤	④	③	②	①
(3) 授業を妨げる行為(私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等)をしなかった	⑤	④	③	②	①
(4) 1回の授業につき予習・復習をした	⑤	④	③	②	①
(5) 熱心に授業に取り組んだ	⑤	④	③	②	①

2. この授業の運営について

(1) わかりやすい授業であった	⑤	④	③	②	①
(2) 授業はシラバス通りに進行していた	⑤	④	③	②	①
(3) 教員の熱意が伝わってきた	⑤	④	③	②	①
(4) 聴きやすい話し方だった	⑤	④	③	②	①
(5) 板書(OHP、パワーポイント含む)は見やすかった	⑤	④	③	②	①
(6) 印刷教材(レジュメ・補助教材等)、視聴覚教材等が効果的だった	⑤	④	③	②	①
(7) 学習形態(グループ学習・発表、フィールドワーク等)に工夫がみられた	⑤	④	③	②	①
(8) 教員や学生同士のコミュニケーション(e-learning“縁(えにし)”含む)に工夫がみられた	⑤	④	③	②	①
(9) 授業は十分な静肅性が保たれていた	⑤	④	③	②	①
(10) 授業時間が守られていた	⑤	④	③	②	①
(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた	⑤	④	③	②	①

3. この授業からあなたが得たものについて

(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技能が身についた	⑤	④	③	②	①
(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた	⑤	④	③	②	①
(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた	⑤	④	③	②	①
(4) 総合的にみてこの授業に満足をした	⑤	④	③	②	①

4. 自由記述

(1) この授業を受けて、面白いと感じた点や学びが促進された点、授業を進める中で良かったと感じた点を記入してください。

(2) この授業を受けて、工夫してほしい点、改善してほしい点があれば、具体的に記入してください。

(3) 担当教員から指定された設問。(特に指定が無ければ)担当教員へのメッセージ等を自由に記入してください。

設問メモ欄▶

e-Learning システムの利用状況と今後の展望

教育研究連携調査課 課長 太 田 貴 久 男

はじめに

平成 24 年度からの事務機構改革により、e-Learning の担当事務部署が変わる。これまで e-Learning は、教育研究連携推進センター事務部教育研究連携調査課が担当していたが、今後は、教育推進部の教育推進課が事務所管となる。e-Learning の利用、また支援・サポート業務が無くなるわけではないが、事業の一つの区切りとして、ここ数年の e-Learning の動向について、利用者数等の資料を参考としつつ概観したい。併せて平成 23 年度に実施した利用者アンケートの結果報告を示すこととする。

本学における e-Learning システムの導入

本学において、本格的に e-Learning システムが導入されたのは、平成 17 年度（2005 年）からである。それ以前にも平成 14 年頃に数年間、L-Support（エル・サポート）というシステムが利用されていたが、定着するには至らなかった。平成 17 年度、教授法開発室（当時）と情報システムセンターが連携して、新たな e-Learning のシステムが開発された。XOOPS（ズープス）というオープンソースをベースに、本学独自でコンテンツのプログラムやメニュー画面の仕様をカスタマイズしたシステムである。当年度の秋学期より運用が開始され、教員 6 名（12 科目）、受講学生は 533 名（のべ人数）という規模であった（後掲資料①参照）。その後、平成 19 年度に事務機構が一部変更され、その業務は、新しく設置された教育研究連携推進部のメディア教材開発・知財課（当時）が受け継ぐこととなった。開発当初に関わった情報システムセンターや教育開発課は、その時点で e-Learning の業務から、少し距離を置く形となった。業務が移管された理由は、e-Learning が使われていた通学課程のシステム（e-Learning と講義を併用したブレンド型と呼ばれるもの）と、同時期に開発されていた通信教育課程のメディア履修科目でのコンテンツ作成と履修システム（遠隔教育の履修方法として単位化されたシステム：広義の e-Learning といえる）について、教育と研究連携の観点から、共同の開発、システムの融合等が目指されていたことによる。しがしながらそれ以降、両者のシステム共用化、融合等には至っていない。

e-Learning の運用と新たなシステム

平成 19 年度以降、メディア教材開発・知財課により、利用手引き書の配付や教員への個別の働きかけが功を奏して、その翌年となる平成 20 年春学期の e-Learning 利用者数は、教員 32 名（68 科目）、受講生延べ 2,234 名と、前年度秋学期の数値に比較して倍増した（後

掲資料①参照)。ただし利用している教員が30名前後、という数値は、それ以降も、毎学期ともに変動せず、利用教員が固定化しつつあることをうかがわせた。利用教員が増加しないことについて、これらのシステムを使うのには、ある程度のパソコンの操作技術、情報処理能力を必要とすること、また「難しいのではないか」という先入観を持たれやすいこと、担当科目での e-Learning の活用方策が見つからないこと、等の理由が考えられるが、平成 19 年度に事務担当がメディア教材開発・知財課に移管され、教授法の開発や教員の資質向上を図る FD 関連の事務組織との連携が希薄になったことも、その一因と思われる。

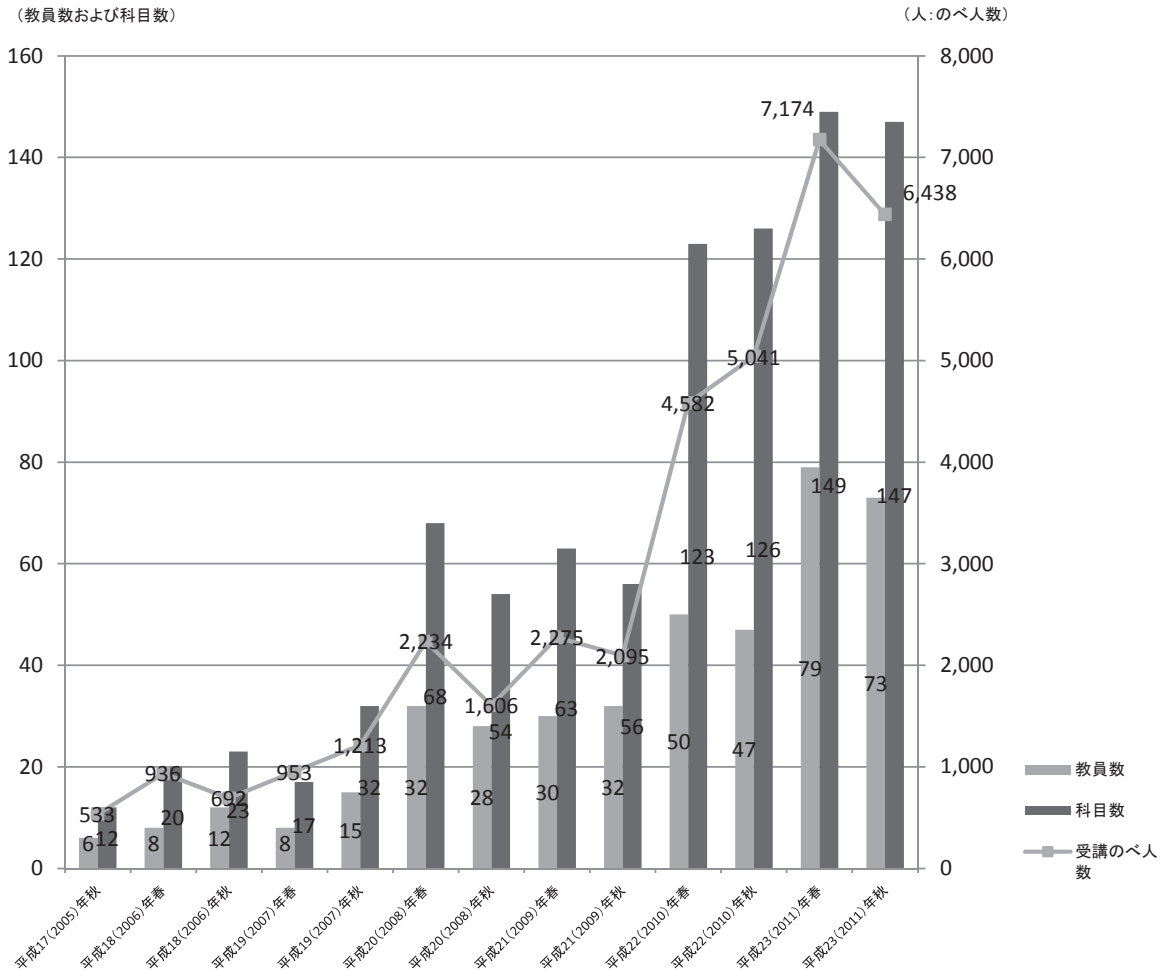
平成 20 年度には、この状況を踏まえて e-Learning のシステムを見直し、新たなシステムを検討することとなった。手始めに、全国の大学で多く利用されている Moodle（ムードル）というオープンソースのプログラムを利用したシステムについて翌年度（平成 21 年度）中に検討することとなった。また同時に私立大学情報教育協会や情報関連団体の主催する大会、研究会に参加するとともに、他大学の動向や、新たな e-Learning システムの情報収集を積極的に行なった。そのような中から、朝日ネットの提供する manaba course（マナバ・コース）が検討されることとなった。平成 21 年度秋学期からは、試験的に実際の講義に使い、その機能、使い勝手などを検証した。一部の教員からは、やや物足りないとの意見はあったものの、大半の利用教員からの意見としては、分かりやすい、使いやすい、動作が速い等の高評価があった。また導入している大学での利用実態について、その大学を訪問し聞き取り調査をした結果、高い評価があることが分かった。それらを取りまとめ、メディア教材開発・知的財産管理委員会に諮り、事業計画が認められ、翌年度からの利用に至った。

平成 22 年度より、新たなシステムとなることから、前年度末と年度始めの 2 回、朝日ネットの担当者による講習会を開催し、その普及に努めた。結果として、同年度春学期、教員 50 名（123 科目）、受講生延べ 4,582 名と、システム移行の初年度にもかかわらず、利用数は倍増した。新しいシステムに対する関心の高さがうかがえる結果であるが、この数値には、これまで積極的にシステムを紹介していなかった非常勤教員の新規登録者数が含まれている（利用教員数に占める非常勤教員の割合については後掲資料④～⑥参照）。この動きは、本学の教員から、関連講義を担当する非常勤教員に e-Learning の利用を勧めたことによるが、それ以上に、非常勤教員自身から、このシステムを積極的に利用したいと申し出てきた結果である。研究室を持たず、大学へは週に 1 回程度、といった状況下の非常勤教員にとって、受講学生とのコミュニケーションや教育方法の多様化といった利点に着目し、e-Learning の利用が増加したことは評価できる。e-Learning の機能を使えば、講義で使用する為の資料やデータを、事前に受講学生に提示することが可能となり、印刷資料を当日配付して講義に臨んでいたこれまでの手法に比べ、教育効果・コスト削減にも貢献するシステムである。平成 23 年度春学期の e-Learning 利用数は、教員 79 名（149 科目）、受講生のべ 7,174 名である。e-Learning が運用開始された 6 年前と比較して、10 倍を超える数値に成長したのである。

e-Learning 利用状況の資料（2005 ～ 2011）

資料① 平成 17（2005）年秋学期～平成 23（2011）年度 e -Learning 利用教員数・科目数・受講数

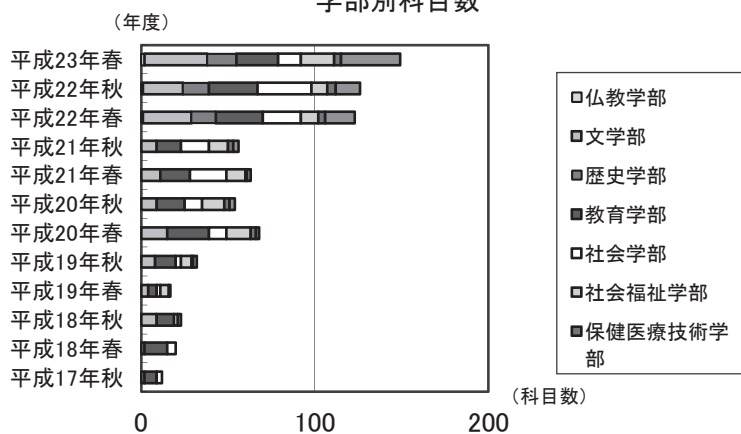
	教員数	科目数	受講のべ人数
平成 17（2005）年秋	6	12	533
平成 18（2006）年春	8	20	936
平成 18（2006）年秋	12	23	692
平成 19（2007）年春	8	17	953
平成 19（2007）年秋	15	32	1,213
平成 20（2008）年春	32	68	2,234
平成 20（2008）年秋	28	54	1,606
平成 21（2009）年春	30	63	2,275
平成 21（2009）年秋	32	56	2,095
平成 22（2010）年春	50	123	4,582
平成 22（2010）年秋	47	126	5,041
平成 23（2011）年春	79	149	7,174
平成 23（2011）年秋	73	147	6,438



資料② 学部別 e-Learning 科目数 (平成 17-23 年)

	平成17年秋	平成18年春	平成18年秋	平成19年春	平成19年秋	平成20年春	平成20年秋	平成21年春	平成21年秋	平成22年春	平成22年秋	平成23年春	平成23年秋
仏教学部										1	1	2	2
文学部	2	2	9	4	8	15	9	11	9	28	23	36	30
歴史学部										14	15	17	19
教育学部	7	13	10	5	12	24	16	17	14	27	28	24	23
社会学部	3	5	2	2	3	10	10	21	16	22	31	13	16
社会福祉学部	0	0	0	5	6	14	13	11	11	10	9	19	16
保健医療技術学部		0	0	0	1	3	3	1	3	4	5	4	6
その他	0	0	2	1	2	2	3	2	3	17	14	34	35
合計	12	20	23	17	32	68	54	63	56	123	126	149	147

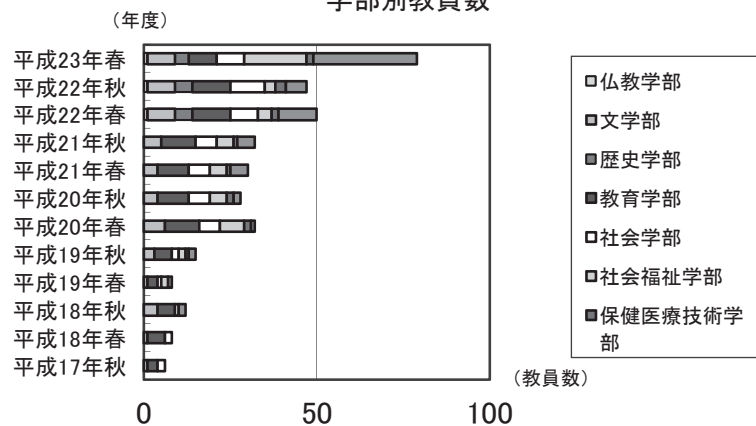
学部別科目数



資料③ 学部別 e-Learning 利用教員数 (平成 17-23 年)

	平成17年秋	平成18年春	平成18年秋	平成19年春	平成19年秋	平成20年春	平成20年秋	平成21年春	平成21年秋	平成22年春	平成22年秋	平成23年春	平成23年秋
仏教学部										1	1	1	1
文学部	1	1	4	1	3	6	4	4	5	8	8	8	8
歴史学部										5	5	4	6
教育学部	3	5	5	3	5	10	9	9	10	11	11	8	10
社会学部	2	2	1	1	2	6	6	6	6	8	10	8	8
社会福祉学部	0	0	0	2	2	7	5	5	5	4	3	18	8
保健医療技術学部		0	0	0	1	2	2	1	1	2	3	2	2
その他	0	0	2	1	2	1	2	5	5	11	6	30	30
合計	6	8	12	8	15	32	28	30	32	50	47	79	73

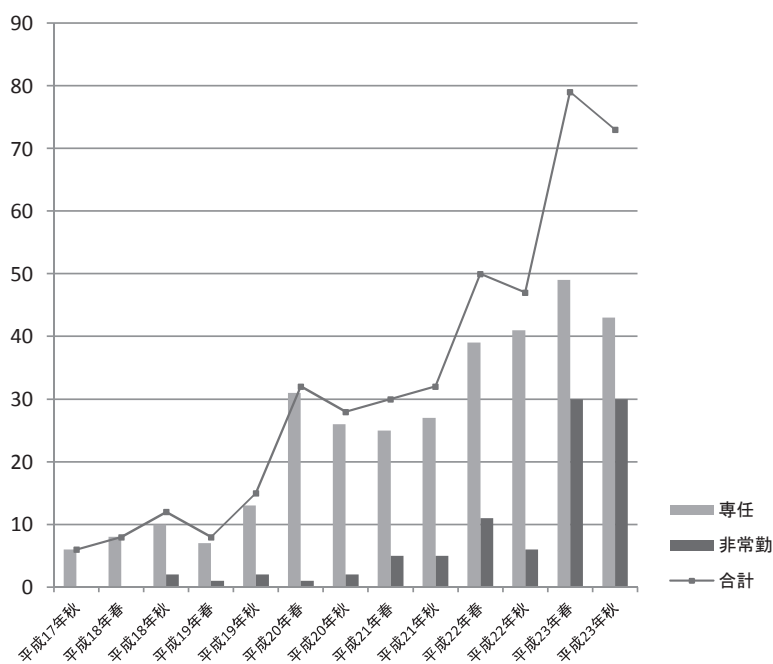
学部別教員数



資料④ e-Learning 利用教員 専任・非常勤数 / 比率 (平成 17-23 年)

	平成17年秋	平成18年春	平成18年秋	平成19年春	平成19年秋	平成20年春	平成20年秋	平成21年春	平成21年秋	平成22年春	平成22年秋	平成23年春	平成23年秋
専任	6	8	10	7	13	31	26	25	27	39	41	49	43
非常勤	0	0	2	1	2	1	2	5	5	11	6	30	30
専任 (比率)	100%	100%	83%	88%	87%	97%	93%	83%	84%	78%	87%	62%	59%
非常勤 (比率)	0%	0%	17%	13%	13%	3%	7%	17%	16%	22%	13%	38%	41%
合計	6	8	12	8	15	32	28	30	32	50	47	79	73

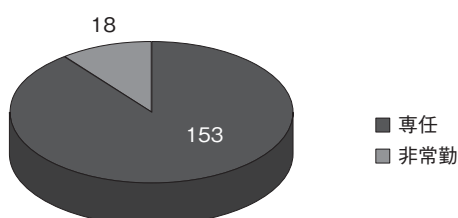
【専任・非常勤数推移】



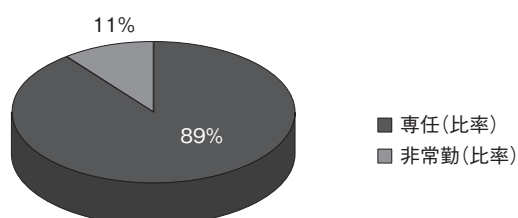
資料⑤ e-Learning 利用教員 専任・非常勤 / 比率 (2005 ~ 2009)

	平成17年秋	平成18年春	平成18年秋	平成19年春	平成19年秋	平成20年春	平成20年秋	平成21年春	平成21年秋	合計/比率
専任	6	8	10	7	13	31	26	25	27	153
非常勤	0	0	2	1	2	1	2	5	5	18
専任 (比率)	100%	100%	83%	88%	87%	97%	93%	83%	84%	89%
非常勤 (比率)	0%	0%	17%	13%	13%	3%	7%	17%	16%	11%
合計	6	8	12	8	15	32	28	30	32	171

【e-Learning 専任・非常勤数 (2005-2009)】



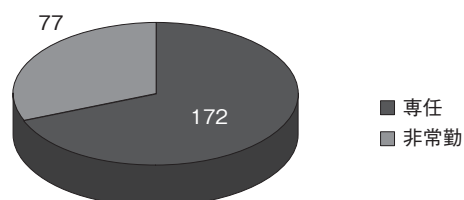
【e-Learning 専任・非常勤数比率 (2005-2009)】



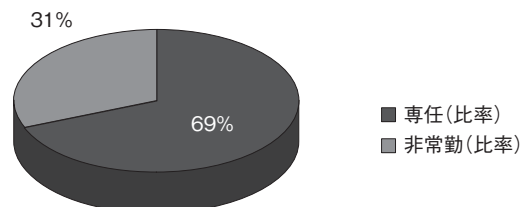
資料⑥ e-Learning 利用教員 専任・非常勤／比率（2010～2011）

	平成22年春	平成22年秋	平成23年春	平成23年秋	合計/比率
専任	39	41	49	43	172
非常勤	11	6	30	30	77
専任（比率）	78%	87%	62%	59%	69%
非常勤（比率）	22%	13%	38%	41%	31%
合計	50	47	79	73	249

【e-Learning 専任・非常勤数（2010-2011）】



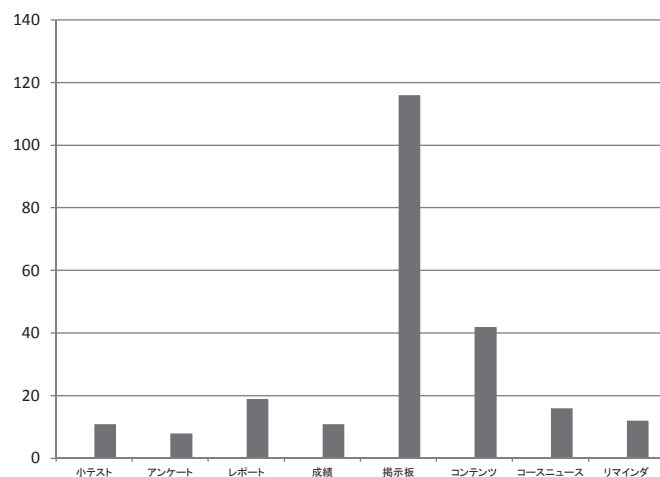
【e-Learning 専任・非常勤比率（2010-2011）】



参考資料 e-Learning 利用メニュー一覧（2011・春学期）

	小テスト	アンケート	レポート	成績	掲示板	コンテンツ	コースニュース	リマインダ
使用数	11	8	19	11	116	42	16	12
使用率	7.4%	5.4%	12.8%	7.4%	77.9%	28.2%	10.7%	8.1%

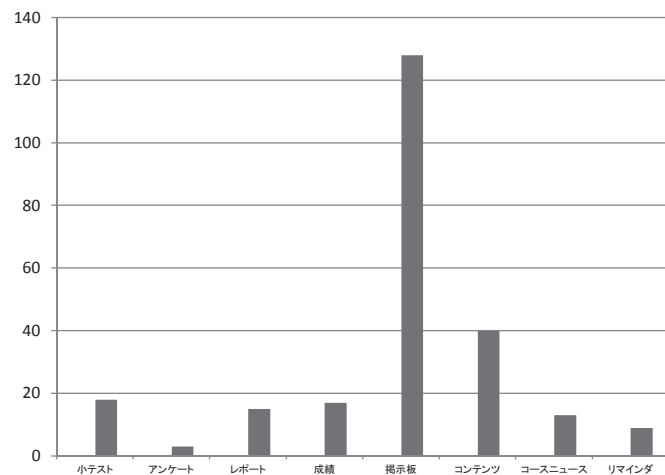
【春学期使用メニュー】



e-Learning 利用メニュー一覧（2011・秋学期）

	小テスト	アンケート	レポート	成績	掲示板	コンテンツ	コースニュース	リマインダ
使用数	18	3	15	17	128	40	13	9
使用率	12.2%	2.0%	10.2%	11.6%	87.1%	27.2%	8.8%	6.1%

【秋学期使用メニュー】



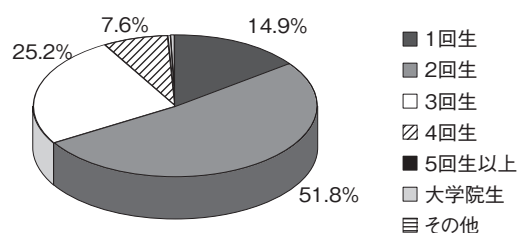
平成 23 年度 e-Learning 活用についての学生アンケート結果

1. 春学期のアンケート結果

回答	2,077
のべ人数	7,174
のべ回答率	29.0%

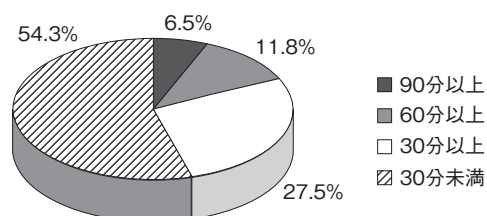
1.1 あなたは何回生ですか？

回生	人数	比率
1 回生	309	14.9%
2 回生	1,075	51.8%
3 回生	523	25.2%
4 回生	157	7.6%
5 回生以上	2	0.1%
大学院生	11	0.5%
その他	0	0.0%
合計	2,077	



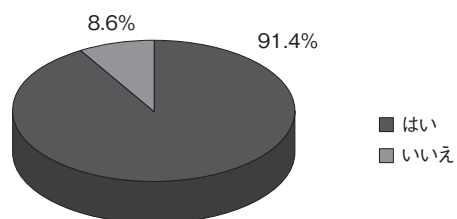
1.2 この科目について予習・復習はどれくらいしましたか？

時間	人数	比率
90 分以上	134	6.5%
60 分以上	245	11.8%
30 分以上	571	27.5%
30 分未満	1,127	54.3%
合計	2,077	



1.3 あなたの自宅にインターネット環境はありますか？

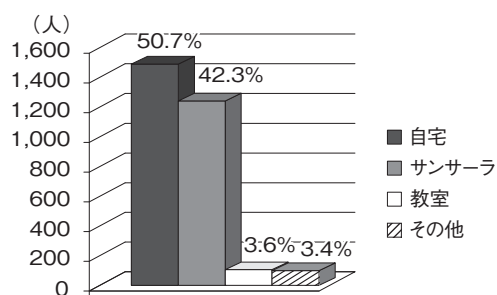
有無	人数	比率
はい	1,898	91.4%
いいえ	179	8.6%
合計	2,077	



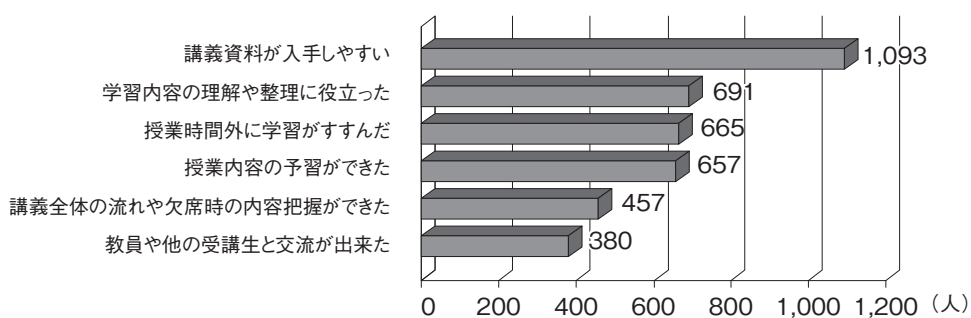
【補足】小数点第 2 位を四捨五入

1.4 e-Learning は主にどこでやってますか？（複数選択可）

場所	人数	比率
自宅	1,489	50.7%
サンサーラ	1,241	42.3%
教室	106	3.6%
その他	99	3.4%
合計	2,935	



1.5 e-Learning を活用することで学習効果があったことは何ですか？（複数回答可）



学習効果	人数	比率
講義資料が入手しやすい	1,093	27.7%
学習内容の理解や整理に役立った	691	17.5%
授業時間外に学習がすすんだ	665	16.9%
授業内容の予習ができた	657	16.7%
講義全体の流れや欠席時の内容把握ができた	457	11.6%
教員や他の受講生と交流が出来た	380	9.6%
合計	3,943	

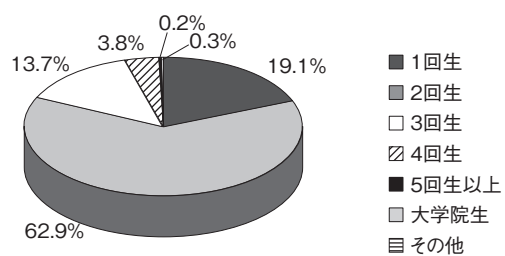
【補足】 小数点第2位を四捨五入

2. 秋学期のアンケート結果

回答	1,430
のべ人数	5,041
のべ回答率	28.4%

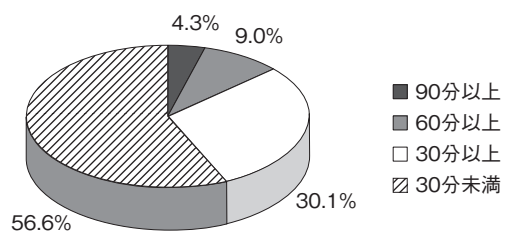
2.1 あなたは何回生ですか？

回生	人数	比率
1 回生	417	29%
2 回生	715	50%
3 回生	239	17%
4 回生	52	4%
5 回生以上	1	0%
大学院生	6	0%
その他	0	0%
合計	1,430	



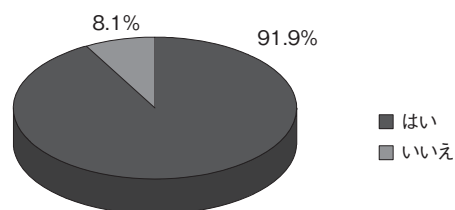
2.2 この科目について予習・復習はどれくらいしましたか？

時間	人数	比率
90 分以上	120	8%
60 分以上	179	13%
30 分以上	376	26%
30 分未満	755	53%
合計	1,430	



2.3 あなたの自宅にインターネット環境はありますか？

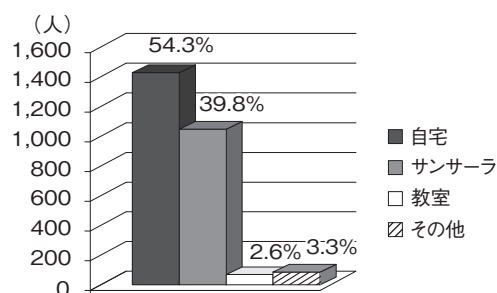
有無	人数	比率
はい	1,315	92%
いいえ	115	8%
合計	1,430	



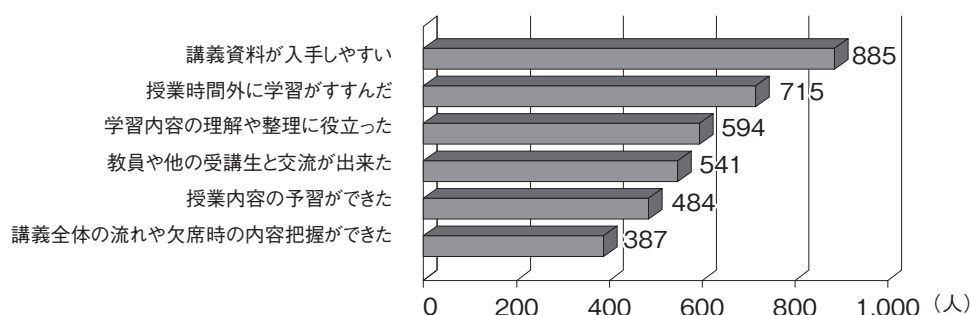
【補足】 小数点第 2 位を四捨五入

2.4 e-Learning は主にどこでやってますか？

場所	人数	比率
自宅	971	54%
サンサーラ	724	40%
教室	45	3%
その他	48	3%
合計	1,788	



2.5 e-Learning を活用することで学習効果があったことは何ですか？（複数回答可）



	人数	比率
講義資料が入手しやすい	885	24.5%
授業時間外に学習がすすんだ	715	19.8%
学習内容の理解や整理に役立った	594	16.5%
教員や他の受講生と交流が出来た	541	15.0%
授業内容の予習ができた	484	13.4%
講義全体の流れや欠席時の内容把握ができた	387	10.7%
合計	3,606	

【補足】小数点第2位を四捨五入

3. 自由記述コメント（春学期・秋学期）

注）同じ内容、e-Learning と無関係な内容等は割愛した。

a. e-Learning に好意的なコメント

a -1	11月に実習があったので1カ月授業を休んでいたのですが、manabaに講義の資料が掲載されていたので、休んでいる間にどういった授業内容だったのか把握するのに助かりました。
a -2	e-Learningはテストの勉強時に役に立ちました。
a -3	e-Learningはレポートを提出するときに、便利です。
a -4	e-Learningを利用することで、授業外の時間にも勉強が進むので効果的だと思います。
a -5	授業に行けなくてもe-Learningのおかげで勉強出来ました。この授業は為になったし、単位が取れたら嬉しいです。テスト頑張ります。
a -6	課題を掲載していただけるので、とても助かっています。
a -7	学習がしやすかった。
a -8	資料が手に入りやすく、班の人間とも交流しやすいです。
a -9	小テストがあったことで意欲的に勉強に取り組みました。
a -10	情報活用力を身につけることができました。教育活動でさらに活用できるように、さらに力をつけたいと思います。
a -11	他の班とも交流を深めることができたのではないかと考えます。発表を通して相手の意見を取り入れることで新たな発見もできました。

a -12	班ごとの活動など参加しやすかったです
a -13	班分けしたことによって友達が増えたのでよかったと思う。
a -14	予習・復習をする上で、役立ちました。
a -15	予習ができるので、授業中の話を分かることができます。
a -16	連絡に使えるので、便利であると思います。

b. e-Learning に否定的なコメント

b -1	e-Learning のページを開設されても、全く使われていなかったのが残念です。
b -2	e-Learning の話し合いに参加する人とならない人の差が激しくて使用しづらかったです。
b -3	インターネット環境のない学生には少々辛いシステムです。
b -4	スレッドを立てまくってポイントを稼ごうとする人が気に障る。
b -5	講義資料の入手が簡単であるが故に入手するのを忘れてしまったりするので、もう少し資料の入手の時間があれば、と思いました。
b -6	資料を印刷するのに手間がかかって困る。紙代及びインク代が馬鹿になりません。Q5 に『その他』の項目を作っていたかかないと、私の考えに近いものすらありません。
b -7	接続できない時が多々あり、困った。
b -8	佛教大学のページから e-Learning へのリンクの場所がわかりづらい。
b -9	佛教大学でのインターネットの環境があまり整っていないのが残念だと感じる。台数やパソコンの不具合を改善してもらいたいと感じている。

c. e-Learning に対する要望

c -1	課題が出れば携帯にメールが届くようになれば良いなと思います。
c -2	e-Learning をもっと普及させるなら学内のパソコンを増やしてください。
c -3	e-Learnig は基本的に PC がないとできないし、学内の PC の数には限りがある。なので、e-Learning を積極的に使うつもりなら、学内全てに全生徒対象の無線 LAN を飛ばして個人のノートパソコンからも e-Learning が使えるようにするなどすべき。
c -4	もっとこのシステムを増やしてほしい。レポート提出もウェブでやったほうが早いです。
c -5	確認テストや重要ポイントのコンテンツもあれば、予習・復習が進むので作ってほしい。
c -6	携帯電話からも閲覧できるようにしていただきたいです。
c -7	構文の小テストは、本当に役に立ったと感じています。ただ、家庭用のプリンタには B4 サイズは出力できないので、講義用の資料だけは、毎回配布していただけるとありがたいなと思います。
c -8	先生だけにメッセージが送れるコンテンツを増やしてほしい。 質問や相談などを他の受講生に見られたくないので。確認テストや重要ポイントのコンテンツもあれば、予習・復習が進むので作ってほしい。
c -9	毎回、課題などやることや見ることが更新されていれば、よりよいと思いました。

4. アンケート結果の傾向

2010 年度と同様の結果データを掲載している。アンケートの回答者は、学期（春学期と秋学期）ごと、科目ごとの登録学生である。したがって回答人数は、のべ人数となっている。ここでは、その結果をもとに e-Learning の活用状況と傾向について、前年度の結果などと比較して記述する。過年度のアンケート結果の詳細については、各年度の『FD Review』を参照されたい。

1) e-Learning を活用している回生

e-Learning を活用している授業は、2 回生が受講している科目に多い結果が出ている。前年度も同じ傾向である。

2) 1 回の授業の予習復習の時間

両学期ともに、1 科目あたりの予習復習時間が 30 分未満である学生が 50 パーセントを超えている。2009 年度は 41 パーセント、2010 年度は 50 パーセント、2011 年度は 55 パー

セント（それぞれ春学期と秋学期の平均）と、増加傾向にあることが憂慮される。回答率などの条件の影響も考えられるが、e-Learningの利用者だけの傾向なのか、学生全般に言える傾向なのか、全学的な調査も必要であろう。

3) 自宅のインターネット環境の有無

90 パーセント程度の学生が自宅にインターネット環境を有している。これは昨年度から変動のない傾向である。

4) e-Learning を行う場所

自宅とサンサラーで e-Learning を行っていることが多く、これも前年度並みの数値となっている。現在、大学キャンパス内での無線 LAN 環境が整いつつあるが、学生のノートパソコンやタブレット PC などの利用が増えれば、教室での数値も上るだろう。

5) e-Learning の学習効果

選択肢が限られているので、実態に即した結果となっているか不明だが、「講義資料が入手しやすい」「授業の予習ができる」「授業時間外に学習ができる」といった項目が高いポイントをあげている事は、e-Learning のメリットとして学生自身も認識していることを物語っている。併せて後掲の自由記述の内容を参照することで、e-Learning を活用することの学習効果を、さらに高めることができるだろう。

6) 自由記述について

好意的なコメントの中に、何らかの事情により講義を受けられなかった学生が、e-Learning を利用して学習し、講義内容を把握できたという長所を挙げている（a-1、5）。本学の通学課程では e-Learning と対面授業を併用したブレンド型で運用しているが、教育実習期間などやむを得ない理由で授業を欠席する学生への教育機会の保証が、部分的であっても可能であることを示す興味深いコメントである。また受講生が班ごとに分かれて意見交換などを行っているというコメント（a-8、11、12、13、16）があるが、おそらく掲示板（スレッド）の機能を使って運用していると思われる。限られたメニュー（機能）であっても、工夫次第で教育効果が上るという好例である。

一方、否定的なコメントとしては、e-Learning を使うための学生側の技術的なスキルの差、あるいは過度な利用に対する批判、といったマイナス面を指摘するコメントが目立った（b-2、4、5）。また学内のインターネット環境の未整備（b-9）や教員側の準備不足（b-1、6）などを挙げるコメントもあった。

最後に、要望の中には、学生の認識不足と思われるコメント（c-1、6：課題が出ればリマインダ機能を使ってメール送信可能、携帯電話からも掲示板の閲覧は可能）もあるが、前述した大学内でのインターネット環境の整備を挙げるコメント（c-2、3、4）が目立つ。さらに現行の e-Learning の機能に新たな機能を追加すればよいのではというコメント（c-5、8、9）があり、これらのコメント（要望）に対しては、大学をあげて改善していく姿勢が望まれる。

e-Learning の新たな展開に向けた契機に

平成 23 年度までは、e-Learning について教育研究連携推進センター事務部の教育研究連携調査課が担当していた。教育研究連携推進センターの目的は「佛教大学教育研究連携推進センター規程（平成 23 年 3 月 31 日廃止）」によれば、「本学における教育，研究，地域等との連携，メディア教材開発ならびに知的財産関連事業等を推進し，もって社会の要請に応えると共に，本学に対する社会的評価の向上に寄与すること」となっていた。この目的に沿ったセンター事業を具体的に推進する事務部門の中に、教育研究連携調査課（旧・メディア教材開発・知財課）があった。その課が、講義支援のツールである e-Learning のシステムを担当していた根拠は、条文の中にある「教育」と「メディア教材開発」の部分であると解釈出来る。しかしながら、教育研究連携推進センターが取り組むべき包括的な事業である地域連携、産学官連携、研究推進、外部資金獲得といった事項と、個別の教員の講義運営を支援するシステムである e-Learning が、教育的に連携して推進されることは考えにくい状況であった。

平成 24 年度から事務機構改革により、e-Learning の支援業務が、教育推進部の教育推進課に移行される。文字通り、個々の教員の講義、教育を支援し推進していく部署に落ち着いたといえる。近年、情報通信技術の急速な進展に伴い、効果的な教育の必要性が高まっている。その一つのシステムが e-Learning といえる。本学における e-Learning が、さらに進展・拡充し、教育の質を高めるツールとなることを期待する。

以上

映像資料を活用した大学授業の展開 ——保育・教育実践力を高めるための試み——

教育学科 橋 本 憲 尚

受講生に映像資料を視聴させれば、テキストやプリント資料とレジュメを使っただけの講義とは異なる経験を与えることができる。彼らの目先を変えることによって、いわゆるマンネリ化した授業を脱することができるかもしれない。しかしながら、それも回数を重ねると授業の手抜きだとの謗りを免れなくなるし、視聴することにどんな意味があったのかわからない無為な時間消費を受講生に強いて終わることになりかねない。筆者の専門は心理学であり、本学においては共通科目「社会における人間心理」・教職（保育職）専門科目「教育心理学」「発達心理学（保育の心理学）」・教育学科専門科目「入門ゼミ」「教育学講読」「教育学演習」などを担当してきたが、200～300名対象の大講義よりはむしろ中規模クラス（5～100名）において授業テーマに合わせて適時映像資料を活用してきた。

筆者は授業において映像資料を利用する場合、単に映像を受講生に見せて終わることをできるだけ忌避し、授業のなかに演習的要素を取り入れる工夫の一環と位置づけてきた。というのも、近年の社会事情を背景に、保育者・教員養成プログラムにおける実践力の育成が性急に迫られるところとなり、その基幹科目の担当者として何らかの授業改善に取り組まねばならないという使命感を僅かながらでも抱くようになったからである。また、学習過程を専門に研究を重ねてきた経験から、自主的な学習態度に欠ける近年の学生に対して、学習意欲を喚起しつつ様々な方法での学習機会を提供することで、保育者・教師としての彼らの資質を磨くことができるのではないかという見通しをもつに至った。この見通しが授業改善の試みの動機づけとなっている側面もある。

（1）講義における映像資料利用の工夫

したがって、本稿で筆者のいう映像資料とは、家庭・保育所・幼稚園での子どもの行動記録や育児・保育実践記録、学校（主として小学校）の授業実践記録である。ここではまず、今年度秋学期に担当した「発達心理学（保育の心理学）」（出席学生数60～80名）における映像資料を利用した授業工夫を紹介したい。この講義科目では映像資料を計4回利用したが、いずれも子どもの行動理解の促進あるいは実践場面における保育者・教師の行動分析という学習目的を意識した授業展開を企図したものである。

① 子どもの行動理解の促進

教育学科に入学してくる学生といえども、赤ん坊がどんな状態で生まれ、その後どのような経験を通してその能力を発達させていくかというイメージは極めて漠然としている。例えば、出生直後の赤ん坊は「目が見えないのではないか」と考えている者もいる。また、3歳児と5歳児では運動・認識・社会性といった多様な能力に差があるという漠然とした

知識はあっても、具体的にどこがどう違うのかをていねいに説明できるようになるのは実習経験後であるのが普通である。それゆえ、まずは直観的なイメージを膨らませておき、実践現場における子ども理解の素地を作っておく必要があるだろう。臨場感あふれる映像資料を通して、言語記述では表現しにくい、子どものしぐさ・表情・口調などが感じ取られると期待される。

しかしながら、筆者は DVD や VTR の動画映像をコマ送りし、スライド映像のごとく提示しては解説を加えていくというデモンストレーション方法には違和感を覚えるようになった。というのも、その場合の映像が提供する情報の流れは、実践場面における保育者や教師が得られる情報の流れとは明らかに異質だからである。加えて、その情報は他者（教授者）によって選択・焦点化されて提示されたものであり、学生（学習者）が情報を主体的に処理する余地がほとんどない状況を作り出してしまうからである。現実生活場面における私たちは絶えざる膨大な情報の流れに直面しながら、自らの視聴覚を使って情報を能動的に取捨選択し、それぞれを意味づけしたうえでその場面に適合的に行動しようとしている。学生にとって学ぶべきことは、各実践場面における情報の取捨選択を行い、保育・教育目標に応じてその情報を意味づけする行為なのではないか。

つまるところ、各学生が自分なりの観点で DVD や VTR を視聴し、取捨選択した情報を整理する機会を提供することが肝要と考える。この考えにそった試みとして、今年度秋学期の「発達心理学（保育の心理学）」における授業内課題を紹介しておこう。ひとつは、やや長い VTR 映像を視聴しながら、予め配布しておいたワークシートに気づいた内容を項目ごとに整理して記入していく課題（9 月 30 日）である。これは、本講の初回授業ということで、赤ん坊についての受講生のイメージを広げることを狙ったものである。ある乳児の生後約 1 週間から 3 か月までの変化を編集した VTR（約 13 分）を使用し、乳児の生理的状态と運動能力・周囲のモノや人についての認識能力の 2 項目について理解した内容を自由記述することを求めた。そして、課題終了後に改めて VTR を流しつつ、特徴的なポイントでスチルをかけながら解説を加えていく展開とした。もうひとつは、授業で説明した内容を踏まえて、提示された動画映像を解釈するというものである（12 月 16 日）。観察記述資料を参照しつつ象徴行動（見立て・ふり）の定義を説明、その後、筆者撮影のホームビデオ映像を視聴させた。そして、撮影された子どもの行動は象徴遊び（ふり）といえるのか、単なる模倣なのかを問い、なぜそう考えたか理由を問うた。多くの学生にとっては、経験したことのない映像資料利用の方法としてインパクトがあったようだ。

このように明確な学習目標にそった課題を絡ませることで、DVD や VTR の動画映像による単なるデモンストレーションに留まることなく、その視聴を契機に子ども理解の深化を図っていく授業展開が可能となる。今季は受講生が多く、しかも実習のために出席できないケースが目立ったため実現できなかったが、各学生自らが情報整理した内容と他の学生のそれを比較したり、それぞれの日常感覚的イメージと心理学的説明との差異を明確にしたりするなどの工夫を施すことも試してゆきたい。

② 実践場面における保育者・教師の行動分析

いくら優れた実践記録だといっても、受講生に 20 ～ 30 分もの DVD や VTR を流して感想を記述させてよしとするのでは、筆者には講義科目の授業の在り方として疑問に思え

る。視聴する側に何らかの観点がなくては、動画映像はただただ流れていくだけのものに終わる。また、実践記録映像をデモンストレーションとして提示し、視聴の後に実践の筋書きを解説してみせるという手法もあまり感心しない。それでは名探偵が事件のプロットを拾い集めて犯人の意図を推理するのを拝聴するごとく、受講生にとっては実は泥臭いはずの実践が実感の伴わない絵空事のように過ぎ去っていきただけに終わるであろう。ここでもやはり、受講生自身が少しでも主体的に思考し表現する機会を提供しなくてはならない。保育・教育実践力の育成を目指すためには、具体的な子どもとのかかわり場面を取り上げ、なぜその状況でそのような行動をとったのか、保育者・教師の行動の意味を考察することを受講生に求めていくことが必要である。ただし、実践における各場面での行動の意味を理解するには、場面を通しての行為の文脈を把握しておかねばならない。保育者・教師の行動のすべてがあらかじめ計画された意図的なものとは限らないが、優れた実践だと評価しうる記録からは、ひとつのクライマックスへと進行していくドラマの筋書きにも比肩される文脈（行為の流れ）が読み取れる。つまり、実践場面における保育者・教師の一連の行動が、ひとつのテクスチュアを織りなしていくようにスムーズに流れていくのである。

しかしながら、残念なことに「発達心理学（保育の心理学）」の受講生数が予想外に多く、学生各自の意見交流を図ることが期待できなかった。代わりに、映像資料から得られる情報整理の基本的な技能に焦点を当てた課題を与えることとした。利用した映像資料はある保育所の5歳児クラスでの実践記録（約10分）であり、仲間はずれにされてばかりの子どもが他児に対して自己主張するようになるまでを追ったTV放映の録画VTRである。課題では、保育者の子どもへの働きかけを中心にVTRの内容を時間経過にそって整理しワークシート（A4用紙1枚）に記述表現することを受講生に求めた（12月9日）。実は、VTRに収録されていた保育者の働きかけには、子どもの状態把握の方法・働きかけに対する子どもの応答の解釈・働きかけと待ちのタイミングや働きかけの方法に関する意思決定の過程など様々な営みが含意されている。その多様性は、2－3行程度の文章で表現することは困難であろう。また、それぞれの営みの相互関連性について時間経過を踏まえていかに紙面に記述表現するか、大いに工夫の余地があるところである。もちろん、どんな映像でもこうした分析が可能というわけではなく、適切な映像資料を選択しなくてはならない。筆者の経験からすると、ある一定の意図をもって編集されているとは言え、TV放映された実践記録映像資料は利用価値が高いように思われる。

（2） 演習における映像資料利用の工夫

前述のように筆者は映像資料の提示を単なるデモンストレーションとして考えているわけではなく、受講生の主体的な学習活動の契機となるように授業展開を考えて活用することを目指してきた。ただし、講義科目は一般に概論として位置づけられており、教授者は一定範囲の知識伝達を確実に行うことを求められる。したがって、比較的にリジッドな学習目的にそって、予め動画を比較的に短いユニットに限定（あるいは編集）して提示しなくてはならない。また、受講生の立場からすると、各自に配布された記録資料プリントを参照しながら授業が進行する場合に比べると受け身にならざるを得ない学習状況となることを考慮しなくてはならない。動画は絶えず流れていくものであり、受講生の多い講義科目で

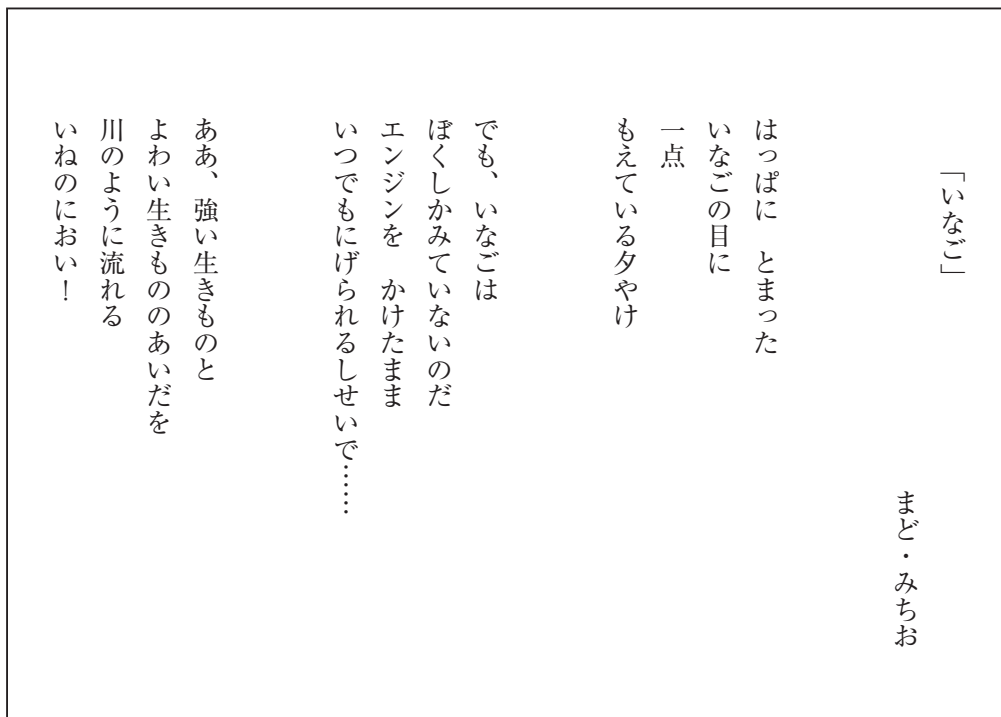
は教授者の制御のもと一斉に提示されるのが通常である。自分なりのペースで特定箇所を選択して反復視聴したり、自由にスチルをかけて確認したりしながら内容の理解を図っていくことはできない。

筆者は、受講生が少ない演習科目でこそ映像資料活用の幅が大きいと考えている。学習目標をゆるやかに設定でき、映像資料提示操作を臨機応変に行いながら、極めて具体的なイメージを共有しながら受講生どうしで話し合いを深めて行けるからである。また、映像資料が新奇なものであれば、授業を運営する教員も視聴者のひとりとして意見交換することも可能となる。

ここでは、今年度秋学期開講の「教育学演習」(3回生ゼミ)での試みを紹介したい。教育学科の学生は3回生秋口からさみだれに保育・教育実習に出かけていくが、その期間(4～8週)・時期(9～12月)が様々であるため登校できる学生が一定しない。それゆえ、演習授業の運営が非常に困難な状況にある。特に、体系的な知識伝達を意図した授業は展開不可能である。他方、学生の意識が実習に集中しているこの時期にこそ、各自に実習経験の見通しを持たせたり振り返ったりする機会を与えることが、保育・教育実践力の育成に有効に働く可能性は大きい。今年度の演習授業では、筆者はこうした状況を逆手にとった実習の事前・事後学習を取って取り入れることとした。実際には、実習を終えたゼミ受講生から順にそれぞれが実践した授業をひとつずつ報告してもらい、授業に参加できた他学生や筆者を含めてその授業の目的や方法についてフリートキングを重ねた。日程の都合で実習に出向いたすべての受講生から報告を聞くことはできなかったが、幼稚園教育実習で2件、小学校教育実習で3件について考察を深めることができた。

以下は、9月に小学校実習を終えたNさんの報告をもとに行った演習授業(平成23年11月9日1時限目,1-304教室にて)の要旨である。彼はたまたま、自分が手がけた実習授業風景を実習担当教諭のご厚意でDVDに収録してもらっていた。また、彼は他の受講生(当日参加学生はNさんの他、AさんHさんMさんSさんの5名)と共にそのDVDを視聴したいという筆者の要請を快く受け入れてくれた。録画されていた実習授業は、6年生を対象とした国語科の「いなご」と題された詩(資料1参照)を教材として扱ったものである。この詩は教科書に掲載されていないものだが、授業の進度が予定以上であったためNさん自身に選択が任されたものであるという。全体で約35分の動画映像を実習授業の展開(詩の第一連まで・第二連・第三連以降:資料2参照)にそって3つに分割し、各部の視聴が終わるごとにフリートークするという形で演習を進めた。以下、議論のなかで取り上げられたトピックごとに、Nさん自身が収録された実習授業での自らのパフォーマンスに関する解説(自己評価を含む)、および他の受講生からの質問・提案を記していく。

資料1 Nさんが選択した教材



① 教師の発声

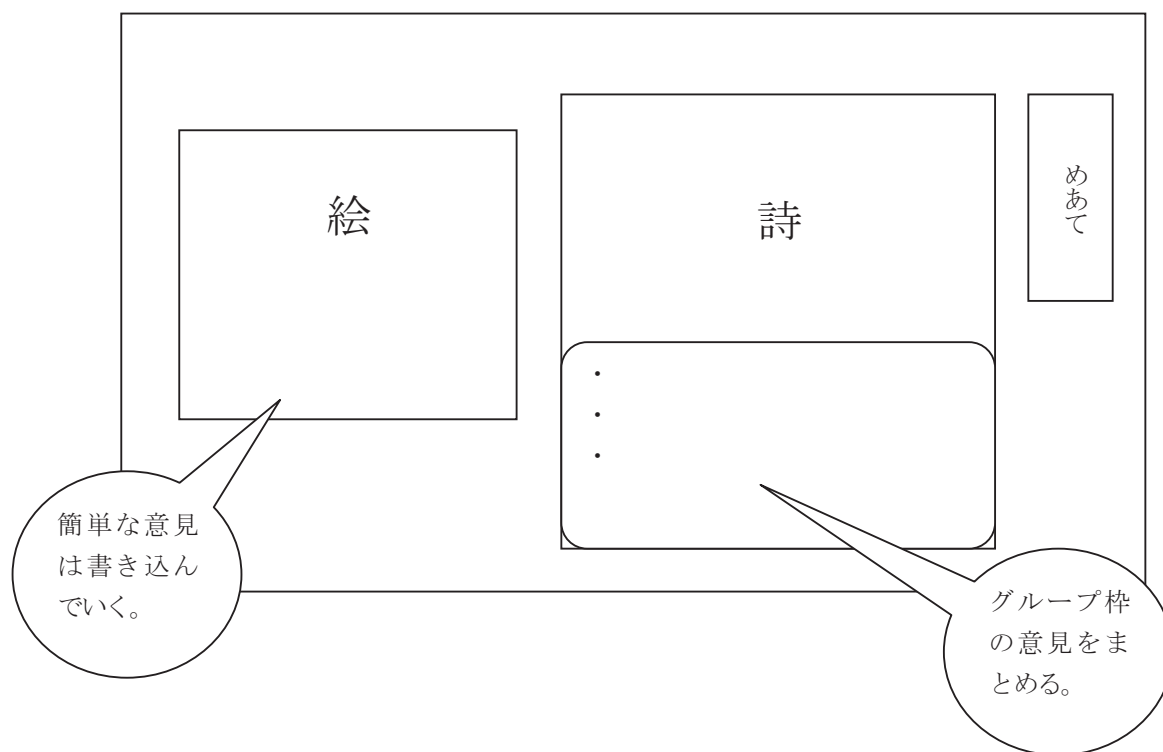
Nさん自身曰く、最初は意識してゆっくりハキハキと話そうにしていたが、次第に授業の進度が気になってきてボソボソ早口になってしまいがちだったという。ただし、元来彼の声はよく通るので、この点については筆者も他の受講生もあまり支障は感じなかった。

② 教師による児童からの応答の取り上げ方

通常、小学校における一斉授業では、教師は発問と同時に児童の挙手を促して指名した児童に発言を求めていく。しかしながら、ビデオ収録された実習授業では教師は挙手を求めることなく、発問に対する児童からの自由な発言を拾っていく形で進行していた。

他の受講生にとってこのような授業でのやりとりのしかたは珍しかったようで、自分の実習授業スタイルとの違いに気づいたHさんから、こうした方法を選んだ理由について質問が出された。Nさんによると、クラス担任教師が二学期になってから採用した方法だそうで、当学級では挙手して発言することをためらう児童が多く、全体としておとなしい印象を持たれたことによるという。Nさん自身も同様の印象を抱き、児童からの自由な意見に応じていくことで、教師から認めてもらえるから発言しようという雰囲気を作り出す、他児の意見を参考に自分の意見を整理して発言していく機会を与えていくことをねらったらしい。それ故、本人としてはより多くの児童が積極的に発言できているか、その発言に対して自分が適切に応答できているかを収録映像から確認したかったようだ。

資料3 Nさんによる板書計画



③ プレゼンテーションの工夫

Nさんは本実習授業実施にあたって、児童向けにプレゼンテーションの工夫を行った(以下、資料3参照)。彼は教材を選択した時点で、いなご・太陽(夕焼け)・少年(ぼく)の絵を貼付したマグネットカードを黒板に貼り付けてパフォーマンスすることを思いついたという。教材の内容というよりむしろ、思いついたパフォーマンスの実現が授業実施の動機となったらしい。その意図は、マグネットカードから矢印を付記したりカードどうしの間を調整したりすることで、これら登場物の視線と互いの距離感についての児童のイメージ形成を支援することであった。また、その背景には担当クラス児童の文字媒体からのイメージ形成力が弱いという実習担当教諭からの情報と自身の印象があった。なお、本授業を参観に来られた1・2年生担当教諭からは、通常低学年向けと考えられている方法が高学年においても有用である示唆を得たというコメントを頂いたという。

ただし、せっかく考案したプレゼンテーション方法だったのに、筆者が映像をみた限りでは十分に生かされていない印象を受けた。例えば、説明の際にマグネットカードの前に立って話しているシーンが目立ち、子どもたちの視野が遮られて小道具がイメージ形成の補助的役割を果たせていないように思われた。また、Mさんからは“ぼく”と“いなご”の絵に噴き出しをつけ、それぞれの気持ちをセリフに表してみようという問いかけが提案された。つまり、絵と言葉を結びつける働きかけを行う必要があるという指摘で、筆者も同感であった。

④ 教師による説明・質問のしかた

Nさんは収録された実習授業のポイントを、詩に登場する“ぼく”と“いなご”の距離感（物理的には目と鼻の先なのに、気持ちの上では強者と弱者という大きな隔たりがある）をいかに児童につかみとらせるかに置いていたという。しかしながら、第三連まで進んで“ぼく”と“いなご”の気持ちを整理し両者の間を『距離』という語で説明しようとした時、それまでにその語を使って説明してこなかったことに気づいたらしい（以下、資料2参照）。

資料2 Nさんによる実習授業指導案の展開部分 (A～Dの付記は筆者による)

	児童の学習内容	教師の指導・支援	評価
導入 3分	・ いなごの絵を見て何の生き物か当てる。(いなご・バッタ)	・ いなごは人にとっては稲を食べる害虫として扱われていることを説明する。	
	めあて：登場人物の気持ちを考え、詩を読もう。		
展開 一連、二連 17分 三連 20分	・ 2回黙読し、次に全員で読む。 ・ 詩の中に何が、または誰が出てきたかを挙げる。(いなご、ぼく、夕やけ、川、はっぱ) ・ 一連を読む(全員で)。 ・ 一連で、いなごが何を見ているかを文章から想像する。 ・ 一連をもう一度読む。 ・ 二連だけを読む(全員で) ・ 二連では本当はいなごが何を見ていたか、そしてどういう行動をとろうとしていたかを考える。 ・ いなごの行動から、ぼくがいなごに何をしようと思ったのかを想像する。 ・ もう一度、一、二連を通して読む(音読)。 ・ 三連だけを読む。(音読) ・ 三連のどの部分に、ぼくの気持ちが表れているかを考え、ぼくのどんな気持ちかを考える。 ・ 自分で3分、グループで5分 ・ グループごとに発表する。	・ リズミカルに読むことや連の間を空けることを説明する。 ・ いろいろ出た中で一連には何が出てきたかを確認する。 ・ 夕やけという言葉が出てきたら「夕やけがもえている」と「もえている夕やけ」ではどういう違いがあるかを考えさせる。 ・ 二人の距離感にも注目する。[A] ・ ここでも「しか」に注目してどのように“ぼく”を見ていたのかに注目させる。[B] ・ 隣どうして話し合う時間をとる。 ・ 出た意見はみんなできくりくるものを選びぼくといなごの周りに吹き出しで貼っていく。 ・ 難しい場合はヒントを与える。 ・ 一連二連までの二人の気持ちを整理し、説明は対比を使えばわかりやすいことを伝える。[C] ・ 時間があれば「ああ」読み方も考える。[D]	・ 詩に書かれている思いや情景を理解できたか。 ・ 正確な音読と豊かな朗読をすることができたか。
まとめ 5分	・ 心情を意識しながら全体を読んでまとめとする。(個人、もしくは何人かに読んでもらう。)	・ 絵を使い全体の流れを整理する。	

収録映像をチェックしたNさんは、第一連で“いなご”とその目を見ている“ぼく”との間を『距離』という語を使って把握しておくことをぬかった（単に倒置するのとしなのとの違いを考えさせたに終わった）【A】ために、第二連での“ぼく”しか見ていない“いなご”についての表現【B】、第三連での“ぼく”を“強い生きもの”、“いなご”を“弱い生きもの”とした対比的表現【C】に言及するも上滑りした解説になったようだと振り返った。結局、第三連の“ああ”の読み方について、それに続く作者の思いを汲み取ったうえで考えるという課題【D】をグループごとに与えて発表させたところ、満足のいく発表ができたグループは7つのうちひとつに過ぎなかったそうだ。特に、詩の文脈を考慮せず感嘆詞の一般的な読み方についての問いだにとらえて答えるグループもあったという。

Nさんは、前述のように第一連・第二連の表現にかかわって“ぼく”と“いなご”の距離感についての説明が不十分だったせいで、児童が第三連の表現に込められた作者の思いを汲み取るまでには至らなかったのだと反省していた。これに関連して、Aさんは説明を重ねた後に読み方を考えさせるのではなく、のっけから音読させていくなかで第三連の“ああ”の読み方を工夫していくよう求めていくことを提案した。彼によると、本来、感嘆詞のイントネーションのようなものは前後の文脈に合わせるよう考えて工夫されるというものでなく、言葉を重ねていくうちに自ずと発せられるものではないかという。そして、児童によって様々な読み方があることを起点に、読み方の背景に詩の作者の思いの汲み取りがあることに気づかせていくような授業展開も考えられることを指摘した。この指摘を受けてNさんはガックリ腰を落とし、「もう一度この授業をやり直してみたい」と叫んだ。筆者にとっては、教師を目指す学生の切なる思いとこの演習授業の手ごたえを感じた瞬間であった。

さて、以上が演習授業内容の要点であるが、こうした実習授業の録画映像を資料として振り返りを行う際の留意点を2つ挙げておこう。

(a) 録画映像の見直し単位

今回の実習授業録画映像の見直しにあたって、Nさんが意識して主にチェックしようとしていたのは、自分がどんな質問を発していたのか、児童の学習態度や発言に対して自分がうまく応答できていたかの2点である。彼によると、自分が質問を発してから児童からの応答があるまでをひとつの単位として映像を何度も見直すことで、質問の発し方に工夫の余地が見えてくることがあるという。また、児童から発せられた意見（つぶやき）に対して適当にあしらわれていると思わせない受け止め方ができているか、自分の口調や表情を見ることで客観的に振り返ることができたという。映像に映っている自分の姿を冷静に見て、適切な応答のしかたを思いつくこともあるらしい。

このように、授業録画映像資料も活用の利点として、その時・その場ではモニターしきれない、教師のパフォーマンスの細部を対児童との関係性において客観的に把握可能となることが指摘できる。特に、児童集団（クラス）のもつ雰囲気（全体的に乗り気でない・騒々しい・集中できている等の程度）が実際の授業場面とほぼ同様の臨場感をもって伝わってくる。それは他の受講生の実習授業録画と見比べてみるとより一層明確に意識されるであろうが、共に視聴する者にとってもその時・その場の状況把握を行ったうえで実習授業のパフォーマンスを吟味・評価するよう努めなくてはならない。さもなければ、得てして理

想論を振りかざした批判に終わる愚に陥りやすい。このように、指導案などのプリント資料に比べて、録画映像資料は、実践評価にあたっての詳細で微妙な現場の状況についての多くの情報を提供してくれるが、そのことをうまく利用した振り返りを工夫したい。ただし、Nさんが言うように、録画された映像を際限なくチェックするというのではなく、実習者が授業工夫した点、改めて振り返って見直しておきたいポイントを確認しておき、教師・児童間の一定のやりとり単位を意識して振り返っていくようにしなくてはならないだろう。そういう意味で、前頁④の振り返りはひとつの良い例だと考える。

(b) 録画映像の見直しがもつ意味

既述のごとく実習授業録画映像の視聴は、演習授業を運営する側からすると、実践現場における教師行動の分析を可能にする貴重な機会を提供し、多くの受講生にとって自らの実習授業振り返りの視点を得る契機となる。しかしながら、実習した本人の立場からすると、授業している自分の姿を他者とともに見るなんてしたくないのが本音であろう。特に、授業のパフォーマンスについてあれこれ細かいチェックが入ると、まるで晒しものにされ辱められているような気分になることもあるだろう。演習授業担当者としては、資料を提供してくれた受講生の保育者・教師としての資質を監視的に評価することにならないよう、授業運営に配慮しなくてはならない。また、自分が意識できていなかったところにも気を配れるようになったという聞こえは良いが、気になるところが多くなりすぎて、それ以降の授業がやりにくくなってしまうこともあるだろう。実習経験とそれに対する自己評価は、学生各自の職業人としてのアイデンティティ形成に影響する重みのあるものだということを認識しておかねばならない。

さて、上記のような倫理的な問題以外にも、実習授業振り返りについて本質的な問題が残る。実は、「もう一度この授業をやり直してみたい」と叫んだNさんも、同じ児童を相手に同じテーマで同じ教材を用いて授業をする機会はないことを知っている。それゆえ彼は、他者からのコメントはアドバイスというより提案として受け止めたいという。つまり、実習授業が再現不可能なものである限り、その振り返りによって導かれた考察の細かな内容は受講生にとって実践的価値を伴わないように見える。経験的には、振り返りの必要性は了解されてはいるものの、振り返りが実践力へと結びついていくプロセスは詳らかになっていない。筆者は、その考察内容をどのような形の情報として受講生にフィードバックするかが鍵を握ると考えているが、今その答えは持ち合わせていない。

入学前教育

教授法開発室員 林 悠 子

1 はじめに

本学での入学前教育は、2003 年度から実施され、9 年目を迎えた。教授法開発室を中心とした改善に向けての議論が重ねられ、2011 年度入学前教育からは、入学予定者のニーズに応えた、自宅学習（レポート作成）と本学での授業体験とを組み合わせた形で実施されている。

2 概要

(1) 入学前教育の目的

入学前教育の目的は以下の 5 点である。

- ①本学に対する理解の向上
- ②学部教育に対する理解の向上
- ③学習意欲（モチベーション）の向上
- ④学習に対する意識づけ
- ⑤学習や大学生活への不安緩和

実施の目的に関連して、今年度特筆すべき点を以下に記す。

・参加者アンケート結果より、授業体験の内容だけでなく、参加者間および教員との交流体験が、入学後の学習意欲の向上や不安解消に効果的であることが実証されたことから、2011 年度入学前教育以降、新たな取り組みとして、在学生スタッフによる授業体験のサポートを実施した。その結果、上記の目的達成について在学生スタッフが大きな役割を果たしたことが、参加者アンケート（後述）結果にも表れており、2012 年度入学前教育でも継続実施することとなった。

・入学手続き締切が昨年度より遅くなった特別推薦入試（法人系列校入試）の入学予定者については、別個にコース（C コース）を設けることとなった。C コースの参加者については、一定の基礎学力を有しており、学部学科の理解も高等学校段階ですでに教育されていることから、4 年間の学生生活を具体的にプランニングし目標を明確化すること、とした。

・2011 年度入学前教育では先輩・友人とのつながりをサポートするツールとして縁 SNS の活用を取り入れたが、参加者による SNS 利用は期待していたほど伸びなかった（「2011 年度入学前教育実施報告書」参照）こと、また、在学生の利用実績の低迷・face to face でのつながりの必要性の認識等により、縁コミュニティ支援委員会にて SNS 廃止が決定されたことから、2012 年度入学前教育での導入は行われなかった。

(2) 対象

昨年度に引き続き、早期に行われる入試での合格者が対象である。2012 年度入学前教育では、2012 年度法人系列校入試の入学手続き締切が 3 月となり、通常の授業体験（エンジョイ！キャンパスライフ）への参加が困難になったため、別日程を設けることとなった。したがって、2012 年度入学前教育は以下の 3 コース設定となった（表 1）。

【表 1：各コースの対象者】

コース	入試種別	対象者数	対象者数 (コース全体)
A コース	・特別推薦入試（課外活動） ・特別推薦入試（スポーツ強化枠） ・宗門後継者入試	課外（33 名） スポ強（17 名） 宗門（15 名）	65 名
B コース	・AO 選抜 ・特別推薦入試（指定校） ・特別推薦入試（教育連携校） ・同窓入試 ・帰国生徒入試	AO（23 名） 指定（153 名） 連携（30 名） 同窓（26 名） 帰国（若干名）	232 名
C コース	・特別推薦入試（法人系列校）	法人（39 名）	39 名

(3) 内容

各コースの内容は表 2 の通りである。

【表 2：各コースの内容】

コース	自宅学習課題	授業体験
A コース	国語教材（問題集）5 課題	全 3 回 12/23、2/12、3/17
B コース	レポート課題 2 課題	全 2 回 2/12、3/17
C コース	ワークシート（「大学生生活に向けた 3 つの目標」）	全 1 回 3/23

各コースの内容の特色は以下の通りである。

【A コース】

12 月の授業体験においてプレイスメントテストを行い、レベル別（上級・初級）国語教材を選定した。12 月・2 月の授業体験は A コースのみで実施した。3 月の授業体験は、B コースと合同実施のため、2011 年度の課題を踏まえて、A コースの学生の第 5 課題は B コースの 2 回目のレポート課題と内容を統一させ、授業体験の内容の理解が深まるよう配慮した。

【B コース】

各学科の担当教員の設題によるレポート課題を与え、担当教員の添削、レポート内容と関連した授業体験へと連続性を持たせたプログラムを実施した。1 回目は専門的知識がなくても高校生の知識・学力でも取り組めるレポート課題と、学科の基礎的な学びに触れ、第 2 回目のレポート課題につながる授業体験、2 回目は、1 回目との関連を持たせながら、より学科の領域に踏み込んだレポート課題と、学部教育への導入教育の授業体験を実施した。

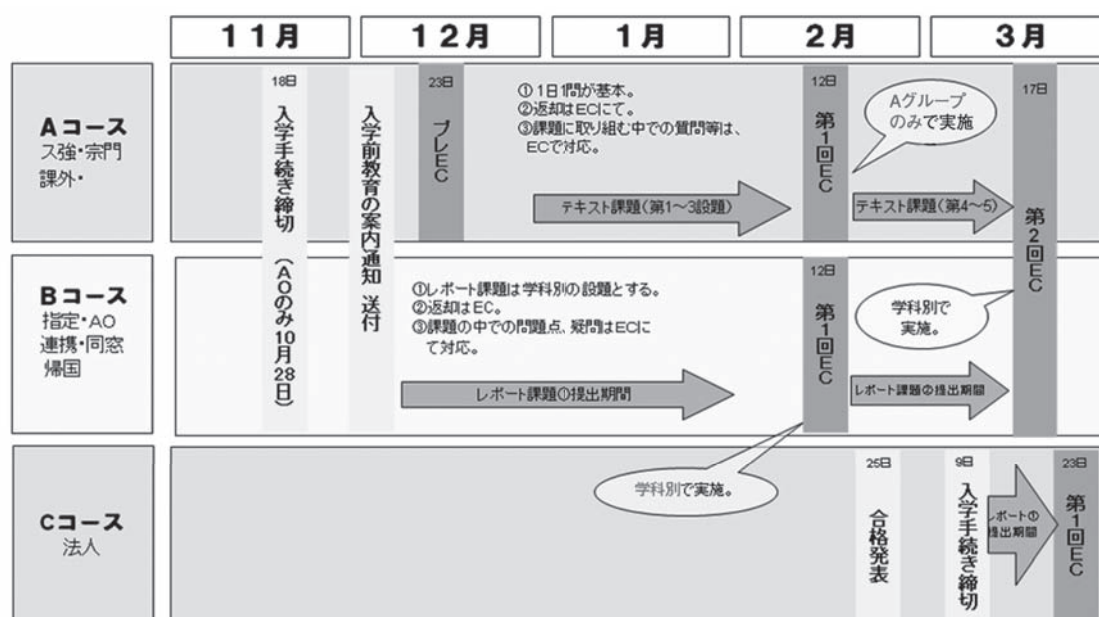
【Cコース】

「大学生活に向けた3つの目標」ワークシートを配布し、①達成したい目標、②目標に設定した理由、③達成への方法、を3つずつ記入させた。授業体験では、在学生スタッフおよび教員の助言のもと、各自の大学での目標を明確にし、ワークシートの内容を深めて発表するグループワークを実施した。

(4) 全体の実施スケジュール

各コースの実施スケジュールは図1の通りである。

【図1：入学前教育全コースの実施スケジュール】



注：EC= エンジョイ・キャンパスライフ

(5) 授業体験（エンジョイ・キャンパスライフ）のスケジュール

各回ごとの授業体験の詳細なスケジュールは以下の図の通りである。

【図2： Aコース 12月23日 プレ・エンジョイ・キャンパスライフ 2012】



【図3：Aコース・Bコース 2月12日 エンジョイ・キャンパスライフ 2012】

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
Aコース ス強・宗門 課外			Aコースで実施。 ・自宅学習課題の返却&コメント。 ・大学での学び方。		何でも 質問コーナー	宗門後 継者役 業体験
Bコース 指定・AO 連携・同窓 帰国	自校教育	オリエンテーション	仏教学部 文学部 歴史学部 教育学部 社会学部 社会福祉学部 保健医療技術学部 ※この時間帯は学科別に実施。 学科に分かれて授業体験実施。 ・レポート課題①の返却&コメント ・学科で設定した授業体験。	①ランチタイム ②上回生との交流	授業を振り返るグループワーク。 (新たに知ったことや自分のイメージと 違ったこと、疑問などを発表)	

【図4：Aコース・Bコース 3月17日 エンジョイ・キャンパスライフ 2012】

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
Aコース ス強・宗門 課外						
Bコース 指定・AO 連携・同窓 帰国	オリエンテーション	講演会&在学生対談	何でも質問コーナー	ランチタイム	自宅学習課題返却	授業体験 授業を振り返るグループワーク
			仏教学部 文学部 歴史学部 教育学部 社会学部 社会福祉学部 保健医療技術学部 ※この時間帯は学科別に実施。			下宿相談会(学生部)

【図5：Cコース 3月23日 エンジョイ・キャンパスライフ 2012】

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00
Cコース 法人系列		オリエンテーション (全体の流れや主旨説明)	学科別ワーク ①ワークシートの返却・講評 ②同学科の学生スタッフとのディス カッションを通してワークシートを ブラッシュアップ。 ③ワークシートの仕上げ。	ランチタイム	発表会 プレゼンテーション・教員&在学 生スタッフからの講評、質疑応答 など)

〈授業体験の様子〉



〈ランチタイムの様子〉



〈自校教育の様子〉



3 成果と課題

筆者は、昨年度に引き続き今年度も社会福祉学部の入学前教育を担当した。ここでは担当者の視点も含めて入学前教育の成果と課題について考察する。

入学前教育の5つの目的は、参加者アンケート結果にも見られるように、一定達成できていると言えるだろう。

「①本学に対する理解の向上」については、2月12日のエンジョイ・キャンパスライフにおいて、山極学長による自校教育が全参加者に対して行われた。

「②学部教育に対する理解の向上」については、各学部学科での学びに関連の深いテーマでのレポートに取り組む中で、参加者自らがテーマについて考え、レポートとして言語化するプロセスを経験している。参加者の主体的な取り組みによって、入学後どのような学びが待っているのか、その入り口をのぞくことができていると言える。

「③学習意欲（モチベーション）の向上」についても、レポートと授業体験を通して、高校までの暗記中心の学習とは異なる学びのスタイルがあることを知り、調べて、読んで、書いて、聞いて、話す、といった複数のアプローチのしかたでテーマを追究する学問の楽しさも垣間見ることができただろう。

「④学習に対する意識づけ」については、高校まではほとんど経験したことのない「レポート」が、大学では多くの授業で課せられること、ただ黒板を写すだけでない「自分のノートづくり」も求められること、などの新たな発見から、受け身の姿勢では学びは促されないことを、授業体験の振り返りにおいても多くの参加者が気づいていた。

「⑤学習や大学生活への不安緩和」については、在学生スタッフのサポートが非常に大きな力を発揮してくれた。全学部合同での「なんでも質問コーナー」で多くの参加者に共通した質問への回答があり、さらに学科ごとに個別に交流する機会があることで、よりきめ細かい不安緩和の手立てとなっている。授業体験の中で学部学科の先輩のサポートが常により、食事時間などを中心に学生生活の具体的な内容を生の声で聞けることは、教員が同じことを話すのとは、参加者への伝わり方が格段に違うはずである。

それぞれの目的ごとに振り返ってみたが、筆者が担当者として考える成果は、前述した点を踏まえて、大きく2つの点にある。

1点目は、参加者が、大学での学びの世界へ入ってゆく、という自覚を持つことができたことである。生徒から学生になることの意味を、講演と授業体験を通して、個々の参加者がおぼろげながらも理解するきっかけになったと言える。同時に、自分の学ぼうとする学問への関心が、レポート作成経験と授業体験を通して、受験時よりも深められているだろう。また、Cコースなどで実施されたグループワークのように、あるテーマ（問い）について学生間で議論し、意見を集約し、報告する、というプロセスにおいて学ぶ、という一つの学びのスタイルを経験することで、大学での学び方の多様性の一端を知ることにもなった。

2点目は、在学生のサポートが、参加者と在学生双方に良い影響を与えていることである。参加者にとっては、かつては新入生として同様の不安を抱えていた先輩と交流ができ、自分の近い将来のモデルとしての姿を見いだせることで、不安緩和だけでなく、大学生活への期待を高められている。また、授業体験のグループワーク等では、先輩がリードしてくれることで、初対面の参加者の緊張が解きほぐされ、参加者どうしの交流が深められている。在学生においては、新入生をサポートする役割を担う経験によって自信がつき、自分自身の学びに対する姿勢を見直す姿も見られた。

以上の成果と同時に今後の課題も考察できる。

1点目は、入学前教育参加者への長期的な効果についての検証である。大学での学びへのモチベーションが一定高まった入学前教育参加者が、入学後どのように学び、学生生活を送ってゆくかを追跡し、入学前教育の長期的な効果検証を行うことによって、より効果的な入学前教育のありかた、入学前教育と初年時教育との関連のありかた、などを検討することも可能になるのではないだろうか。量的な分析と同時に、入学後数か月たった時点で参加者にインタビューを実施するなどの方法も用いることができるだろう。

2点目は、1点目とも関連するが、入学前教育で芽生えた先輩との縦の関係を、継続させるしくみを作ることである。昨年度・今年度の大きな成果である在学生サポートを、入学前教育の場だけにとどめておくのはもったいないだろう。3月の授業体験「なんでも質問コーナー」で登壇した在学生が話してくれたように、「1回生の春学期は何が何だかわ

からない状態」である。すでに縁の取り組みとして、入門ゼミでの在学生サポートを行っている学部学科もあるが、新入生がおそらくもっとも戸惑うであろう履修登録の時期から、何らかの形で在学生サポートがあれば、新入生の不安・戸惑いの軽減に効果があると思われる。新入生として参加した学生が、翌年には先輩として授業体験のサポートにあたる、という循環が生まれつつあるので、この循環を定着させてゆきたい。

3点目は、現在入学前教育の対象となっていない、一般入試での入学予定者に対するプログラムの検討である。レポート・授業体験の実施は人数上困難かもしれないが、例えば、Cコースで実施したワークシート形式の課題を与えて、入学後に入門ゼミで活用するなど、推薦入試での入学予定者だけでなく、入学予定者全員に対して大学での学びへの意識づけを行うプログラムの実施も検討できるだろう。

これまでの成果を発展させ、課題を明確にシクリアするために、今後も、担当者の意見交換の場を設けることも含め、議論を重ねることが求められる。

2012 年度入学前教育 エンジョイ！キャンパスライフ 2012（授業体験） 参加者一覧

2012 年度入学前教育 「プレ・エンジョイ！キャンパスライフ 2012」実施結果

対象者数		対象者	参加者	参加者	参加率	スタッフ
A コ ー ス	仏教	22	8	7	31.8%	2
	日本文	4	1	1	25.0%	1
	中国	0	0	0	-	0
	英米	1	1	1	100.0%	1
	歴史	4	3	3	75.0%	1
	歴史文化	1	0	0	0.0%	0
	教育	3	1	1	33.3%	1
	臨床心理	2	1	1	50.0%	1
	現代社会	8	5	5	62.5%	2
	公共政策	7	4	4	57.1%	2
	社会福祉	11	4	4	36.4%	2
	理学療法	0	0	0	-	0
	作業療法	0	0	0	-	0
	看護	0	0	0	-	0
合計		63	28	27	42.9%	13

注 1) 出欠の返信が無かった生徒は「参加申込者」に含まない。

注 2) 特別推薦入試（スポーツ強化枠）17 名のうち、陸上競技部 7 名はエンジョイ！キャンパスライフの対象外。対外的に数値を出すときは対象者に含む。

2012 年度入学前教育

「第 1 回エンジョイ！キャンパスライフ 2012」実施結果

対象者数		対象者	参加者	参加者	参加率	スタッフ
A コース	仏教	22	16	16	72.7%	5
	日本文	5	2	1	20.0%	5
	中国	0	0	0	0.0%	2
	英米	1	1	1	100.0%	3
	歴史	4	4	4	100.0%	5
	歴史文化	1	1	1	100.0%	2
	教育	3	1	1	33.3%	9
	臨床心理	2	1	1	50.0%	3
	現代社会	8	6	2	25.0%	5
	公共政策	7	5	3	42.9%	10
	社会福祉	10	7	7	70.0%	14
	理学療法	0	0	0	-	1
	作業療法	0	0	0	-	3
	小計	63	44	37	58.7%	67
B コース	仏教	3	3	3	100.0%	A コースと 同スタッフ
	日本文	11	8	7	63.6%	
	中国	3	3	3	100.0%	
	英米	9	8	4	44.4%	
	歴史	15	15	15	100.0%	
	歴史文化	7	6	6	85.7%	
	教育	29	28	28	96.6%	
	臨床心理	8	8	8	100.0%	
	現代社会	23	20	19	82.6%	
	公共政策	20	19	18	90.0%	
	社会福祉	41	40	37	90.2%	
	理学療法	3	3	3	100.0%	
	作業療法	6	6	6	100.0%	
	小計	178	167	157	88.2%	67
	合計	241	211	194	80.5%	

注 1) 出欠の返信が無かった生徒は「参加申込者」に含まない。

注 2) 特別推薦入試（スポーツ強化枠）17 名のうち、陸上競技部 7 名はエンジョイ！キャンパスライフの対象外。対外的に数値を出すときは対象者に含む。

2012 年度入学前教育

「第 2 回エンジョイ！キャンパスライフ 2012」実施結果

対象者数		対象者	参加者	参加者	参加率	スタッフ
A・B コース	仏教	26	16	5	19.2%	6
	日本文	15	12	4	26.7%	3
	中国	5	3	3	60.0%	2
	英米	11	8	6	54.5%	3
	歴史	20	19	16	80.0%	5
	歴史文化	9	6	4	44.4%	2
	教育	35	28	24	68.6%	9
	臨床心理	10	9	9	90.0%	4
	現代社会	37	24	20	54.1%	4
	公共政策	29	24	17	58.6%	9
	社会福祉	56	45	36	64.3%	12
	理学療法	3	3	3	100.0%	1
	作業療法	6	6	4	66.7%	1
合計		262	203	151	57.6%	61

注 1) 出欠の返信が無かった生徒は「参加申込者」に含まない。

注 2) 特別推薦入試（スポーツ強化枠）17 名のうち、陸上競技部 7 名はエンジョイ！キャンパスライフの対象外。対外的に数値を出すときは対象者に含む。

2012 年度入学前教育

「第 3 回エンジョイ！キャンパスライフ 2012」実施結果

対象者数		対象者	参加者	参加者	参加率	スタッフ
C コース	仏教	1	1	1	100.0%	1
	中国	2	2	2	100.0%	0
	英米	1	1	1	100.0%	1
	歴史	1	1	1	100.0%	0
	歴史文化	1	1	1	100.0%	1
	教育	3	3	3	100.0%	1
	現代社会	6	5	5	83.3%	1
	公共政策	2	2	2	100.0%	1
	社会福祉	4	4	4	100.0%	0
	看護	2	2	2	100.0%	0
合計		23	22	22	95.7%	6

エンジョイ！キャンパスライフ 2012（授業体験）

	対象者数	参加者数	参加率
プレ エンジョイ！キャンパスライフ 2012 < 12/23 >	56	28	50.0%
第 1 回エンジョイ！キャンパスライフ 2012 < 2/12 >	235	196	83.4%
第 2 回エンジョイ！キャンパスライフ 2012 < 3/17 >	235	152	64.7%
第 3 回エンジョイ！キャンパスライフ 2012 < 3/23 >	23	22	95.6%
計（延べ人数）	549	398	72.4%

※「プレ」については A コースのみが対象。

入学前教育 アンケート集計結果

プレ・エンジョイ！キャンパスライフ 2012（2011/12/23 実施）

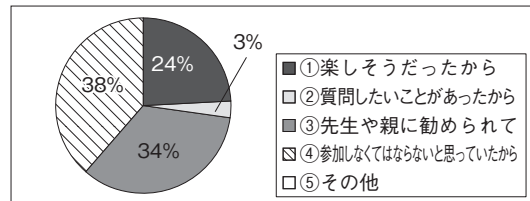
参加者アンケート結果

【参加動機】

Q1 本日、エンジョイ！キャンパスライフに参加した理由を教えてください。

①	楽しそうだったから	7
②	質問したいことがあったから	1
③	先生や親に勧められて	10
④	参加しなくてはならないと思っていたから	11
⑤	その他	0

総回答者数 29

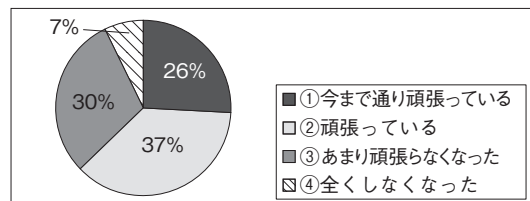


【学習状況】

Q2-1 合格後、高校での学習にどのように取り組んでいますか。

①	今まで通り頑張っている	7
②	頑張っている	10
③	あまり頑張らなくなった	8
④	全くしなくなった	2

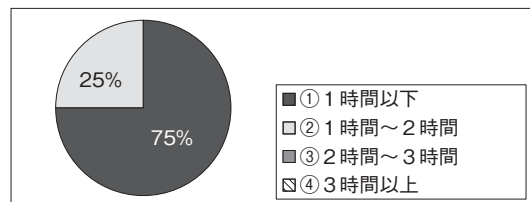
総回答者数 27



Q2-2 合格後、勉強に費やす時間はどの位ですか。

①	1 時間以下	21
②	1 時間～2 時間	7
③	2 時間～3 時間	0
④	3 時間以上	0

総回答者数 28

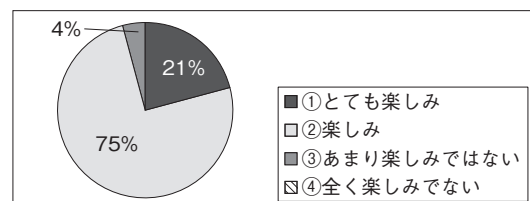


【入学に向けた心境】

Q3-1 合格した後、佛教大学への入学を楽しみにしていますか。

①	とても楽しみ	6
②	楽しみ	21
③	あまり楽しみではない	1
④	全く楽しみでない	0

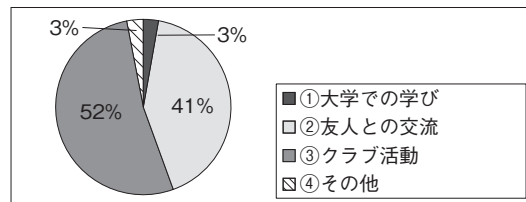
総回答者数 28



【入学に向けた心境】

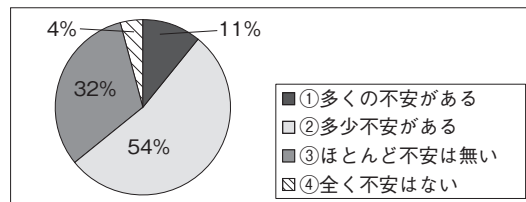
Q3-2 入学後楽しみにしていることは何ですか。

①	大学での学び	1
②	友人との交流	12
③	クラブ活動	15
④	その他	1
総回答者数		29



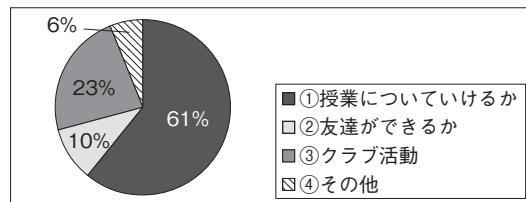
Q3-3 合格した後、大学生になる事について不安はありますか。

①	多くの不安がある	3
②	多少不安がある	15
③	ほとんど不安は無い	9
④	全く不安はない	1
総回答者数		28



Q3-4 入学後に不安に思っていることは何ですか。

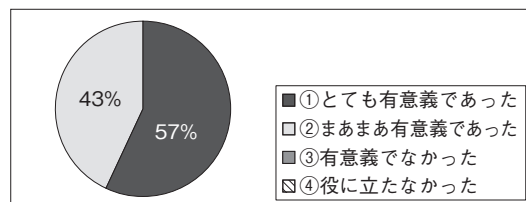
①	授業についていけるか	19
②	友達ができるか	3
③	クラブ活動	7
④	その他	2
総回答者数		31



【参加後の満足度】

Q4-1 本日参加した感想

①	とても有意義であった	16
②	まあまあ有意義であった	12
③	有意義でなかった	0
④	役に立たなかった	0
総回答者数		28



【自由感想】

Q5 本日参加した感想をできるだけたくさん書いてください。今後の要望でもけっこうです。

- ・大学入学後の話を聞くことができて、とてもためになりました。
- ・とてもわかりやすく説明していただけてよかった。先輩達がとても優しくかった
- ・先輩の方が親切に接して下さり、佛教大学の事を知ることができ、よかったです。
- ・いろんな人と話せてよかった。
- ・大学生活についても色々勉強できた。
- ・いろんな話がきけて良かったです。
- ・大学の仕組みが理解できてよかった。大学で学べることが分かった。
- ・よくわからないことが多かったけど最後は知れてよかった。
- ・友達もできたし、なにより、大学のことについて詳しく学べたからよかったです。

- ・参加できて良かったです。
- ・大学の雰囲気があったし、色々な人と話せて良かったです。
- ・今日は友達もできたので良かったです。
- ・大学について少しわかりました。単位の心配が少なくなった。
- ・先輩方もとてもやさしくてたのしかったです。大学についていろいろ分かることができました。
- ・わからない事を聞けてよかった。
- ・分からない事がたくさんあったので、だいたい分かって良かったです。
- ・先輩たちや入学する人たちと少しでも話せてとてもよかった。
- ・佛教大学への入学にあたって不安であった部分などが取り除かれた。
- ・入学前に何人か話せる友達ができてよかった。まだ、不安が残ってるけど楽しく大学生活を過ごせる気がしてきた。
- ・じっくり大学の中を見て回れてよかった。
- ・先輩の方も先生もとてもおもしろくて良かったです。気になっていたこともたくさん質問できたしとても有意義でした。
- ・なかなか楽しく出来たが長くてつかれた。
- ・1 回生の先輩がめっちゃ優しく何でも教えてくださった。でも、テストがあったのがびっくりした。
- ・佛教大学のことをよく知れて良かったです。
- ・最初はガチガチだったけどはやく打ちとけられてよかった。学科の先パイも明るくてやさしかったので、入学後がたのしみになりました。次の入学前教育もたのしみです。
- ・早く入学したい

入学前教育 アンケート集計結果

佛教大学入学前教育

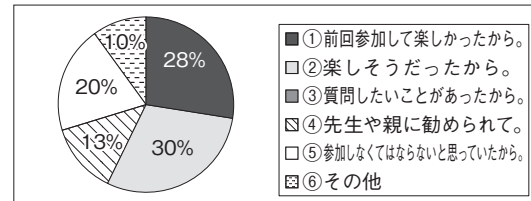
エンジョイ！キャンパスライフ 2012 2012/2/12 参加者アンケート結果（A）

【参加動機】

Q1 本日、エンジョイ！キャンパスライフに参加した理由を教えてください。（複数回答可）

①	前回参加して楽しかったから。	11
②	楽しそうだったから。	12
③	質問したいことがあったから。	0
④	先生や親に勧められて。	5
⑤	参加しなくてはならないと思っていたから。	8
⑥	その他	4

総回答者数 40



Q1 で⑥と回答した記述

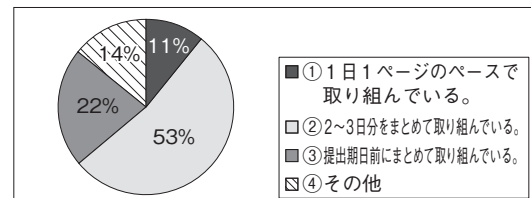
- ・宗門の事前学習があったため
- ・友人を作りたい
- ・入学前に友人を作りたいから
- ・学校の様子を見たかった

【自宅学習課題の学習状況】

Q2-1 自宅学習課題の取り組みについて教えてください。

①	1日1ページのペースで取り組んでいる。	4
②	2～3日分をまとめて取り組んでいる。	19
③	提出期日前にまとめて取り組んでいる。	8
④	その他	5

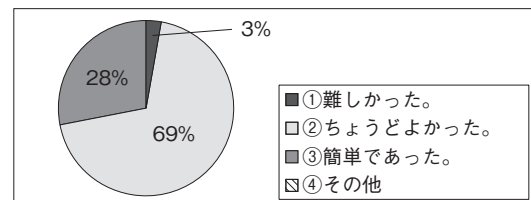
総回答者数 36



Q2-2 自宅学習課題の難易度について教えてください。

①	難しかった。	1
②	ちょうどよかった。	25
③	簡単であった。	10
④	その他	0

総回答者数 36



Q2-2 で④と回答した記述

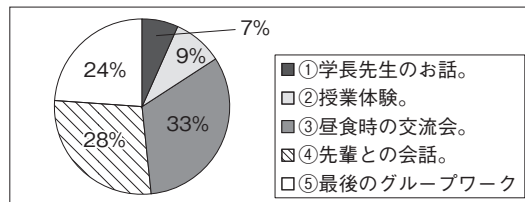
- ・一日で殆ど終わらせる。
- ・全て一日で
- ・全て終わりました。
- ・現在も停滞している
- ・もう出し終わった

【プログラムについて】

Q3-1 本日のプログラムの中で、大学入学への期待が高まったものは何ですか。（複数回答可）

①	学長先生のお話。	4
②	授業体験。	5
③	昼食時の交流会。	19
④	先輩との会話。	16
⑤	最後のグループワーク	14

総回答者数 58



Q3-2 今日のような入学前教育（入学への準備教育）の取り組みとして、希望する企画やイベントがあれば自由に書いてください。

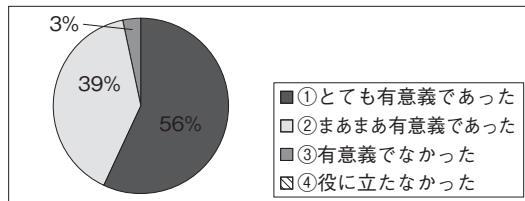
- ・特にありません。優しく色々教えてもらったからよかった。
- ・特にありません。
- ・特にない
- ・先輩方をまぜた交流
- ・今は特にないがこれから入学したら考えたいです。
- ・もう少し会話をする時間が欲しかった
- ・特になし
- ・部活見学
- ・先生の話をもっと聞きたい。
- ・このままで良いと思います。

【参加の感想】

Q4-1 本日、参加してみてどのように感じましたか。

①	とても有意義であった。	20
②	まあまあ有意義であった。	14
③	有意義でなかった。	1
④	役に立たなかった。	1

総回答者数 36



【自由感想】

Q4-2 今日のような入学前教育（入学への準備教育）の取り組みとして、希望する企画やイベントがあれば自由に書いてください。

- ・前は一人だったけれど、今日は他の臨床心理の人とも話せたので良かったです。授業のことも詳しく教えてもらったので、少し不安がなくなりました。
- ・先輩がとてもやさしく、明るく接してもらえたので、すごくなじみやすかったです。ご飯もおいしかったし、入学してからの楽しみがまた1つ増えました。入学後、友達ができるか不安ですが、たくさん友達作って大学生活楽しみたいです！
- ・社会福祉のみんなとたくさんしゃべれて良かった。
- ・頑張ります。
- ・友達ができるか不安でしたが色々な高校の人と喋れて不安が少し解消されました。
- ・初めて参加したけど先輩とか楽しくて良かったです。
- ・前回よりも緊張が解けて、友人作りが出来たことがうれしかったです。もう少し、自由な時間が欲しかったです。
- ・同じ学科の仲間と顔を合わせることができて、とても良かったです。入学前の不安が少しなくなった。
- ・これから自分がどのような道を行くのか、ある程度分かったので、良かったです。自分と同じ人が来ていたので、仲良くやれればいいと思います。
- ・佛教大学のことをあまりよくわからなかったから、来て良かったと思いました。先輩とも会話できて良かった。
- ・死ぬ気で頑張らなければ私の将来はないのだと思いました。本気で頑張ろうと思います。
- ・大学に入って大変なことがあると思うけど、頑張りたいです。
- ・2回目のエンジョイキャンパスライフで友達もできたり、前回より詳しく大学について知ることができたので良かったです。
- ・とてもいろいろな事を知れてよかった。今日の話を参考にしていきたい。
- ・よく知らなかった大学のことを知ることができて良かったです。
- ・最初は不安でしたが、結果的に楽しかったと思います。
- ・最後の話でプレッシャーを感じた。不安がたくさんありますが、逃げずに懸命に取り組んでいきたい。
- ・最初は誰も知らない人ばかりいて不安だったのですが、途中話してみるとすごく楽しい人がたくさんいたので、これから仲良くしていけそうだと思います。参加して本当に良かったと思います。

- ・他の人と知り合えて大学に入学するという意欲がより高まった。
- ・できることなら入学予定者全員で顔合わせをしてみたいです。他の学科とも交流をしてみたいです。
- ・先生の脱線しながら核心に向かうような授業が、高校で体験したものより物珍しく感じた。発展させる力が弱いと今後、授業中つらそうだなと思った。
- ・良かったと思うが、あんまりわからなかった。
- ・授業がとても楽しかったです。友達とも仲良くできたので次回も楽しみです。
- ・自分も物と話せる超能力がほしいと思った。
- ・今日、授業などを体験させていただいてまず初めに思ったことは90分授業っていうのはとても長いなと思いました。
- ・大学の先生は変わった人が多いことがわかった。
- ・とても楽しかったです。
- ・楽しかった。
- ・交流ができて良かった。
- ・色々な人達といっぱい話ができて良かった。
- ・人見知りで不安でしたが、3回生の先輩たちのおかげで楽しかったです。

入学前教育 アンケート集計結果

佛教大学入学前教育

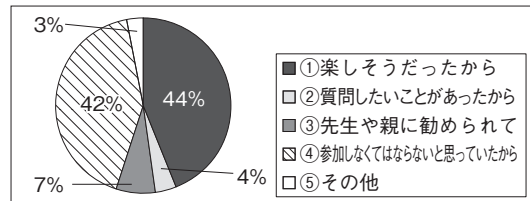
エンジョイ！キャンパスライフ 2012 2012/2/12 参加者アンケート結果（B）

【参加動機】

Q1 本日、エンジョイ！キャンパスライフに参加した理由を教えてください。

①	楽しそうだったから	69
②	質問したいことがあったから	6
③	先生や親に進められて	11
④	参加しなくてはならないと思っていたから	65
⑤	その他	5

総回答者数 156



Q1 で⑤と回答した記述

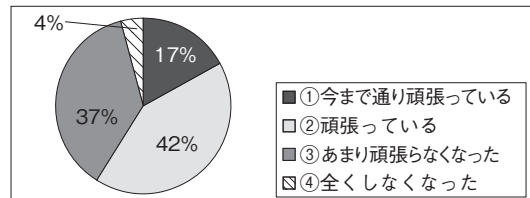
- ・友達ができるかなと思って。
- ・事前教育は絶対自分のためになると思ったから。
- ・行こうと思ったから。
- ・学校の事を知りたかったから。
- ・すこしでも慣れたかったから。

【学習状況】

Q2-1 合格後、高校での学習にどのように取り組んでいますか。

①	今まで通り頑張っている	27
②	頑張っている	65
③	あまり頑張らなくなった	57
④	全くしなくなった	7

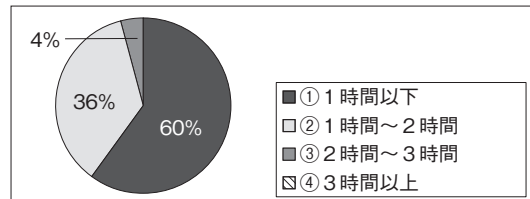
総回答者数 156



Q2-2 合格後、勉強に費やす時間はどの位ですか。

①	1 時間以下	93
②	1 時間～2 時間	55
③	2 時間～3 時間	6
④	3 時間以上	0

総回答者数 154

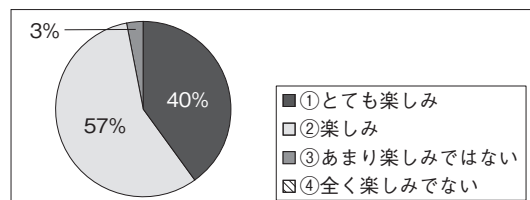


【入学に向けた心境】

Q3-1 合格した後、佛教大学への入学を楽しみにしていますか。

①	とても楽しみ	62
②	楽しみ	89
③	あまり楽しみではない	5
④	全く楽しみでない	0

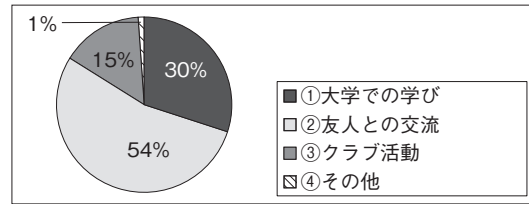
総回答者数 156



Q3-2 入学後楽しみにしていることは何ですか。

①	大学での学び	54
②	友人との交流	99
③	クラブ活動	27
④	その他	2

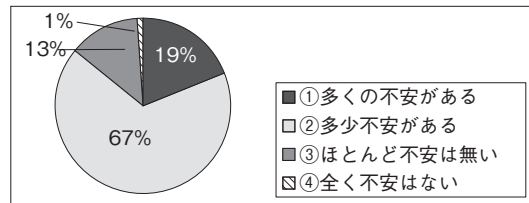
総回答者数 182



Q3-3 合格した後、大学生になる事について不安はありますか。

①	多くの不安がある	29
②	多少不安がある	104
③	ほとんど不安は無い	21
④	全く不安はない	2

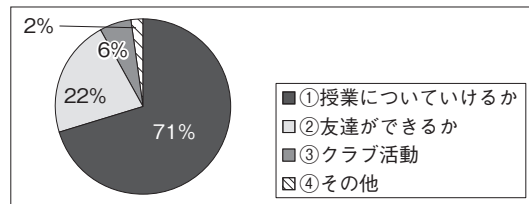
総回答者数 156



Q3-4 入学後に不安に思っていることは何ですか。

①	授業についていけるか	122
②	友達ができるか	37
③	クラブ活動	10
④	その他	3

総回答者数 172



Q3-4 で④と回答した記述

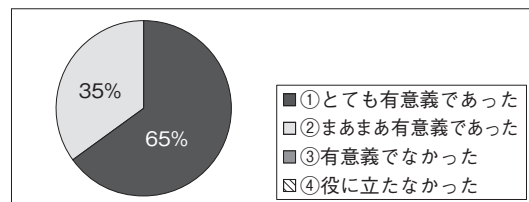
- ・一人暮らし
- ・夢についての大学での学びと、自分の今したいこと、やらなければいけないことの両立

【参加後の満足度】

Q5-1 本日参加した感想

①	とても有意義であった	101
②	まあまあ有意義であった	54
③	有意義でなかった	0
④	役に立たなかった	0

総回答者数 155



【自由感想】

Q6 本日参加した感想をできるだけたくさん書いてください。今後の要望でもけっこうです。

- ・先輩方から沢山色々教えてもらい有意義な時間を過ごせた。
- ・大学の授業の感じや、雰囲気が多分分かった。
- ・先輩がとても優しく、とても楽しく過ごせました。大学生みんなとても面白かったです。
- ・4時間とても充実していました。質問したかったことも全部聞けたし、大学生活のことも聞けて、本当にありがたいです。入学する前に授業の心構えができて良かったです。これからさらに頑張っていこう！と強く思えました。

- ・各学科に分かれて、その学科の先輩や先生の話をして聞くことができたので、不安が少し和らぎました。スライドで内容を見て分からないことがたくさんあって、もっと自分で調べようと思いました。受身でなく、色々なことに興味をもって予習・復讐して知識を増やしたいと思いました。同じ学科の人も友達になれて楽しかったです。大学生になるのが楽しみになりました。
- ・本当にこれから授業についていけるか不安なんですけど、先輩や先生の話聞いて改めて頑張りたいと思いました。「あれが出来ない、これが出来ないなど関係なく一緒に生きていく社会」を作るのに私もできることから頑張ります。今日は、自分の考え方が変わったこともあったので、参加して良かったです。芸術作品はその人にしかできないことだからこそ価値があると気づけました。
- ・3月のキャンパスライフでも、もしディスカッションがあれば、今日学んだ「より良いディスカッションのやり方」を取り入れて、素晴らしいディスカッションをしていきたいと思います。そしてこれからもたくさんの人と意見を交わしていきたいと思います。今日のキャンパスライフでたくさんの事を学びました。
- ・今まで気付かなかったことや、他者の意見を聞くことができてとても勉強になりました。また先生方や先輩方の話を聞けたり、とても楽しかったです。今日思ったことや考えたことを忘れずに、頑張っていきたいと思いました。
- ・今回、参加してみて色々な人の意見を聞くことができ、もっと様々な視点で物事を見たり、柔軟な思考を持つことが大切だと改めて思いました。豊かな心について先生の意見も聞けたり、自分のやるべきことが少し明確になりました。他にも幸せは人それぞれということもわかったし、もっと意見交換してみたいと思いました。
- ・ディスカッションは難しく上手くできなかったかわからなかったけど、自分から発言するということができたり、有意義な時間でした。先輩にも色々質問できたしこのような機会があった良かったです。
- ・作業療法士というのは、他の医療職がやらないようなことをやって一緒に生きていける社会にしよう！という役割ということに今回気がつきました。
- ・勉強ばかり知識ばかりというわけではなく熱意が大事であるということ。
- ・これからの大学生活をどのようにしていいたら良いのか具体的に分かってきたような気がします。クラブ活動もしっかりやっていきたいと思いました。
- ・とても楽しかったので、大学生活が楽しみです。
- ・実際に授業体験をしたり、学生さんの話を聞いたりして、佛教大学への入学がより楽しみになりました。次回のエンジョイ！キャンパスライフもとても楽しみです。
- ・本日、エンジョイ！キャンパスライフに参加して、先生や先輩方との関わりが近いように感じました。次回も参加したいと思います。
- ・とてもいい時間を過ごさせていただきました。大学入学への不安が少し消えた気がします。二回目もぜひ来たいです。
- ・色々な人と交流出来て、楽しかったと思える事が一番有意義だったと思います。大学に入ってもっと友達を作っていきたいです。ありがとうございます。
- ・自校教育を取り組むことの大切さを学ぶことができ、4月からスタートするキャンパスライフをより豊かにできるものだと感じました。学びのスタイルをしっかりと固めていきたいです。
- ・公共政策学科ということもあり、人見知りが少ないから大丈夫とおもっていて、その通りだったのでとても楽しかったし、今後の大学生活がとても楽しみになった。
- ・本日参加できて、友達と色々話せて、とても楽しかった。講義でも知らないことを聞けてとてもよい機会だったと思う。
- ・友達とたくさん話せてよかった。講義？みたいなので保育の事を勉強できてためになりました。
- ・自分が知らなかったことを知ることができて、保育のことを、もっと知りたくなった。先輩たちも皆さんよくしていただいて、大学生活が楽しみです。
- ・今日参加してみて、もっと先生の一方的なお話を聞いただけだと思っていたんですけど、最後にみんなと話し合いながらできたので楽しかったです。
- ・今日の体験授業に参加して、自分の知らなかったこと、保育の現状、などを聞きました。入学後の授業が楽しみになりました。次の3月にあるやつも楽しみにしています。少し大学のことを知れて良かったです。ありがとうございました。
- ・大学の授業体験では、知らなかったこと（待機児）を知れて、とてもためになりました。
- ・思っていたよりも先輩や他の生徒さんたちは、フレンドリーでとても楽しかった。参加したことで、友達もでき、今まであった不安が殆どなくなった。第2回目が楽しみになった。
- ・めっちゃアウェーやった。大学生はいい人でした！
- ・全体での説明やディスカッションなど、大学での取り組みの先取りができてよかった。
- ・多くの話を聞けてよかった。
- ・学生さんとたくさん話せたので楽しかったです。
- ・大学の授業を体験することができてよかった。
- ・思ったよりも楽しかったし、知らなかったことを知ること、気付くこともできた。でも、グループが連携で集まったので、もう少し他の人も交流したかった。
- ・楽しかったです。
- ・楽しかったです！また来ます！
- ・色々な人と話すことができて、とても楽しかったです！
- ・室内のエアコンが暑かった。
- ・話を筋道立てて言っていたので、大学生という感じがした。
- ・先輩や先生と、交流が多く、楽しく過ごすことができた。次に来る時も楽しみになりました。
- ・高校とは全く違った内容である大学での学びについての知識や自分がそれに対しどうすればよいのかを学ぶことができてよかった。大学に入るにあたっての不安も少し解消でき、同じ学科の友達も数人ではあるが、作ることができ、参加してよかったと思った。
- ・不安が少しなくなってよかった。レポートの書き方も分かってよかった。自分の学科は、人数が少なかったから、驚いたけど、友達ができてよかった。入学してから、授業がんばりたいと思った。
- ・入学前にこういう体験が出来て良かったです。やっぱり授業などは受けてみないと分からないこともありますし、大学へ入ってから不安とかも減るんで来て良かったです。
- ・大学ではどのようなことを学び、どのようにして学んでいくのかを知ることができたので、参加して良かった
- ・大学での授業の事を聞くことが出来て良かった
- ・歴史学の基本的なことが分かった。もっと基本的なことを身につけていきたいと思います。色々なことを聞けてよかった。前より大学に対して不安がなくなった。
- ・歴史について高校と大学の学び方がどう違うのかが分かったので自分のためになった。今日学んだことを活かして今後頑張ってい

- きたいです。
- ・大学に入学する前にこのような機会を与えて頂いて、大学についての不安が少し消えました。また色々な人と触れ合うことで、有意義な時間が過ごせました
 - ・多少、不安な気持ちで来てみたが、思っていた以上に楽しかった。
 - ・大学で学ぶことが自分の思っていたことと少し違ったことが意外でした。とても今日は有意義でした。
 - ・僕は歴史を知識として学ぶものだと思っていたので自分で過去を探究したいと努力をしたいと思いました。
 - ・歴史って奥が深いんだと思いました。次も頑張ります。
 - ・大学で学ぶ上で、高校とは違うということが良く分かった。有意義に過ごせた
 - ・初めて大学の講義を聞いて少し大学での授業を知ることが出来ました。まだまだ不安なことはたくさんありますが、キャンパスライフで慣れていきたいと思います。今日はとても楽しかったです。
 - ・いきなりの授業でびっくりした。けど楽しかった。色々校内をまわられてよかった。
 - ・就職につながる具体的な話なども聞くことができ、とてもよかったです。今日言われたように、やはり少しでも1日15分だとしても毎日続けることが大切なんだと思いました。
 - ・大学の授業を体験できてよかったです。先輩方が優しくかったので安心しました。
 - ・大学内を案内していただいたり、学食が無料で食べれたりして良かったです。
 - ・中国学科の先生が面白くて、楽しく授業できました。
 - ・体験授業が楽しかった。
 - ・先輩方がとても親切でよかった。
 - ・学科ごとに昼食を済ませることは良かった。これから頑張りたいと思います。
 - ・初めての人ばかりだったので緊張したけど、先輩はとても良い人ばかりで楽しかった。
 - ・授業体験など大学の雰囲気を感じられてよかった。
 - ・先輩さんたちが面白かったです。
 - ・授業内容を聞いた時、新しく知ったことばかりで、すごく考えさせられることばかりでした。
 - ・楽しみです。
 - ・自分の知らないことを沢山知れてよかったと思います。先輩からも色々教えてもらえて良かったです。
 - ・授業を受けてもっと子供のことについて学びたいなりました。
 - ・緊張したけど、グループ学習などもあったりして少し大学での生活の不安が無くなったので良かったです。
 - ・教育に関する知らないことを知ることができたので良かったです。
 - ・友達がたくさんできて、意味のある1日だった。先生の授業はとても興味が持てて面白かった。
 - ・友達ができて楽しかったです。先生や先輩方も面白かったです。
 - ・90分間といういつもより長い講義だったけど、知らないことが知れてあっという間に感じた。
 - ・大学の授業を体験できて良かったです。色々、交流もできてとても良かったです。
 - ・実際に授業を受けてみて、疲れたけど、久々の授業だったので、何か新鮮でした。3月17日も楽しみにしています。
 - ・入学前に友達が出来るきっかけにもなったし、授業も興味深かったので来て良かったです。次回も楽しくやっていきたいと思います。
 - ・友達ができるか心配でしたが、みんなと仲良くできて、先輩に質問ができて、参加して良かったです。大学入学が楽しみになりました。
 - ・入学する前に佛教大学のことや心理学について少しでも知れて良かったです。友人とか少し不安なところがあったのが今日で無くなりました。とても楽しかったです。
 - ・とても皆がフレンドリーで楽しかったです。入学するのがとても楽しみになりました。これから大学生活を楽しみたいです。
 - ・同じクラスの人と友達になって楽しくしゃべれたのでとても良かったです。不安だったけど、入学がちょっと楽しみになりました。
 - ・昼食時、仲良くしてくれた友達とかもいて、あんがい楽しく過ごせました。これからも楽しみです。
 - ・自分の学校からは一人だけだったので、行く前は不安だったけど、来て良かったと思った。
 - ・分からないことがたくさん聞けてとても参考になりました。
 - ・今回、参加して、大学ではどのような感じで授業があるのか、少し分かりました。入学するまでにすることも分かって良かったです。
 - ・社会学とは本当に幅広くて、正解がないことも分かった。
 - ・先輩から色々なことを聞くことができたので良かったです。
 - ・学食がしんどい
 - ・カラアゲを食べすぎてしんどかった。
 - ・大学の事が少しずつだけ分かった感じがします。来て良かったです。
 - ・人見知りだったので、色々不安でした。友達ができるか、授業についていけるか色々思っていました。少し解消された感じがしました。楽しかったです。
 - ・とても楽しかった。大学生の人達も優しくかったです。
 - ・もっと沢山のひとと仲良くなりたいです。
 - ・本当に先生も先輩方も積極的に話かけてくださり、学校のことについて知ることができて来て良かったです。
 - ・先輩がとても親切で大学の事がよく分かりました。昼食がおいしかった。
 - ・体験授業をさせていただき、貴学で勉強する楽しみが増し、社会に役立つためのヒントとなりました。ありがとうございました。
 - ・学校に来るまではすごく不安だったけど、来てみたら気さくな人や面白い人ばかりで、人間関係についての不安はなくなった。
 - ・先生や先輩方と触れ合い、少しですが心を開くことができました。
 - ・学校内も紹介してもらったし、授業も楽しくできた。一人一人の考え方が違うなと改めて感じた。
 - ・事前体験をしたことで、色々なひととしゃべることができたし、大学への意欲がわいた。大学へ行く不安も少しはなくなったと思う。
 - ・大学に事が知ることができて、授業の仕方やテストなどのやり方も知れてとても良かったです。先輩や先生とも仲良くできて良かったです。
 - ・佛教大学や学習内容についてたくさん知れたので良かったです。
 - ・先輩方から授業がどのようなものかや、サークルの種類などたくさん教えていただきものすごく楽しかったです。
 - ・大学の授業は高校の授業と学ぶことややり方がちがうんだなと思った。
 - ・ほんまに眠ったかったです。
 - ・今日参加したことで佛教大学を知り、学科の先輩をつけてくれるなど配慮していただいたので、過ごしやすくてとても楽しかったです。また模擬授業やグループワークなど大学でやる事を体験できて良かったです。ありがとうございました。

- ・昼食の時まで、友達ができるか不安だったけれど、昼食の時に一杯話せて、しかも、かなり気の合う子でよかった。3月の時も楽しみになった。
- ・最初は雰囲気になれなかったけど友達ができ楽しかったです。
- ・授業が少し難しそうでしたが、とても興味深い内容でした。
- ・今の保育の状況について初めて知ったことが多くあり、これからたくさん考えていかなければと思いました。
- ・大学の事が色々わかって、友達もできたので不安が少し減ったので良かったです。
- ・社会福祉について具体的に聞けて良かったのと、友達も出来て良かったです。大学での勉強に不安はすごくあるけれど、頑張りたいです。
- ・少しだけ大学で学ぶことへの不安が減った。
- ・レポート課題の大変さを知ることができました。大学入るのが楽しみです。
- ・やはり、出身地が違う同級生と接することがとても新鮮だった。優しい先輩方にも短いながらも大学の色々な事を聞いた。
- ・予想以上に男子が少なかった。キャンパスライフは良かったので来て良かったと思う。
- ・緊張や不安が多かったけれど、1日参加してみて、とても楽しかったです。みんなでグループになって話合っていると、自分ではでてこなかったことがあったりと、とても考えさせられてとても面白かったです。
- ・とてもよい先輩で色んなことを学べました。良い経験になりました。
- ・高校とは違い大学は、レポートなどで自分の考えをまとめるし、授業を受けてみて、社会福祉のことが少しわかったし、難しいなと思いました。先輩としゃべれてとても楽しかったです。
- ・高校とはまた違う内容を学ぶというのが、不思議な感じになりました。内容は難しかったけれど、深く学ぶことが出来たと思います。
- ・同じ高校の友達がいなくて、不安がいっぱいだったけど、新しく同じ学部の友達ができただけで良かった。入学後の学生生活が楽しみにになりました。
- ・大学の授業っていうのがまったくわからなかったけど、今日受けてみて楽しかったので、大学に入学するのが楽しみになった。新しく友達もできたのでよかった。
- ・来るまでは不安だらけだったけど来て先輩や友達ができ良かったです。3月17日も来るのが楽しみにしました。もっと佛教大学のことを知りたいと思いました。
- ・大学の講義を初めて受けて色々知れて良かったです。先輩も優しく良かったです。
- ・グループで最初から動くことでグループワークがしやすく、とても楽しくできました。大学生活にずっと入れそうです。
- ・待機児童について1つまた新しいことを学べてよかった。少子化だから、保育園に入れる子が殆どだと思っていたけど逆に両親が働くところが増えているため、待機児童が今、問題になっていることが分かった。難しい問題だけど、幼いころの経験は大人になったら影響するから早く解決しないといけないと思った。
- ・大学の授業の雰囲気も分かり、不安が少し減った。
- ・パンフレットやインターネットでは分からない情報や知識を知ることができてとてもよかった。先生や先輩が、私一人のためにすごく良くしてくださり、入学に向けての不安が大きく軽減されて、楽しみになった。
- ・同じ学科の先輩が丁寧に教えてくれて、入学前、後にどのように過ごしたらいいのかがわかった。今日言ってもらったことを入学してから、生かしていけるようになりたいし、勉強だけでなく遊びやサークルなど様々なこともやっていきたいと思います。
- ・先輩方の話や他の人の話などを聞いて、自分の作業療法についての理解が全然できていなかったことが今回気付いたことでした。もっと作業療法について学んでいきたいです。他の人の意見を聞くことができ、ためになる話も聞くことができて良かったです。
- ・レポートの作成のポイントを教えてもらったので参考になりました。歴史文化学科は歴史学科よりも多くの観点から学ぶということを理解しました。
- ・自分の思っていた歴史学と実際の違いが良く分かりました。
- ・自分がイメージしていた授業とは全然違っていたので授業についていけるかが不安である
- ・大学に入学してから何を学ぶかが分かってとてもよかった。みんなとお昼を食べたり話合ったりして打ち解けて良かった
- ・色々施設が知られて良かった。授業も受けて大学がどんなところか知られて良かった
- ・先輩の話が沢山聞けて良かったです。
- ・大学のことを知ることができ、来て良かったと思っています。授業も面白かったですし、古文に興味がわきました。ありがとうございます。
- ・改めて強く教師になりたいと思った！今日の授業で新たに引き出しが増えたと思う。ありがとうございました。
- ・参加する前はたくさん不安はありましたが、少しは楽しい学生生活が送れる気がしてきました。メモの仕方とかも教えてもらったので、有効活用したいです。
- ・参加する前は不安だったけど、自分の知らなかったこともたくさん知れて良かったです。参加して良かったと思います。次も参加するので、楽しみです。
- ・もっと話せる時間が欲しかった。
- ・友達や先輩などと触れ合えて良かったです。大学の雰囲気なども少し分かりました。
- ・とてもみんなフレンドリーですぐに友達になれてすぐに話ができよかった。人見知りの自分でも大学でも友達が多く作られそうな気がしてとてもよかった。
- ・友達ができるか不安だったけど、みんな優しい人達だったので良かった。
- ・思ったよりも話せる人達がいてよかった！先生の自己紹介もまた詳しく聞いてみたいです！
- ・福祉を学びたい人達が集まっていたのでとても楽しかった。友達もできてよかった。
- ・新鮮な話がたくさん聞けた。
- ・先輩が面白くて楽しかった。
- ・担当してくださった先輩がとても親切で、大学のイメージが良くなった。質問に対しての対応もよくて、今日は来て良かったと思いました。
- ・最初、会場に入った時は雰囲気が張り詰めてたけど、後半はやわらいだ感じになったのでよかった。
- ・今の自分の課題が多く見つかったし、これからやってみたいことも見つかったので良かったです。
- ・とても沢山の事を知れたので良かったです。
- ・来るまではとても不安だったけど、先輩や同じ学年の人と交流ができ良かった。大学での授業はレポートや論文のような記述が多いということで、思考力とかが大事だと思うから、新聞を読むなどしたいと思う。
- ・今日初めて、実際の大学の授業に参加してみて、周りの人はほぼ全員が知らない人でとまどいもあったけれど、思ったよりも他の人とも話すことができたし、大学の雰囲気、授業もだいたい知ることができました。

入学前教育 アンケート集計結果

佛教大学入学前教育

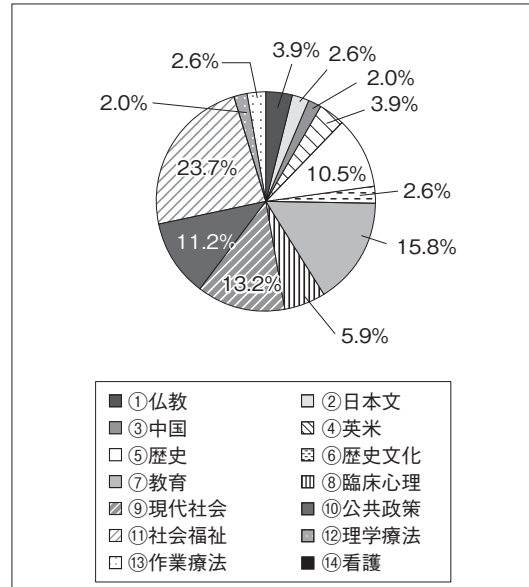
エンジョイ！キャンパスライフ 2012 2012/3/17 参加者アンケート結果

【属性】

Q0-1 入学予定学科を教えてください。

①	仏教	6
②	日本文	4
③	中国	3
④	英米	6
⑤	歴史	16
⑥	歴史文化	4
⑦	教育	24
⑧	臨床心理	9
⑨	現代社会	20
⑩	公共政策	17
⑪	社会福祉	36
⑫	理学療法	3
⑬	作業療法	4
⑭	看護	0

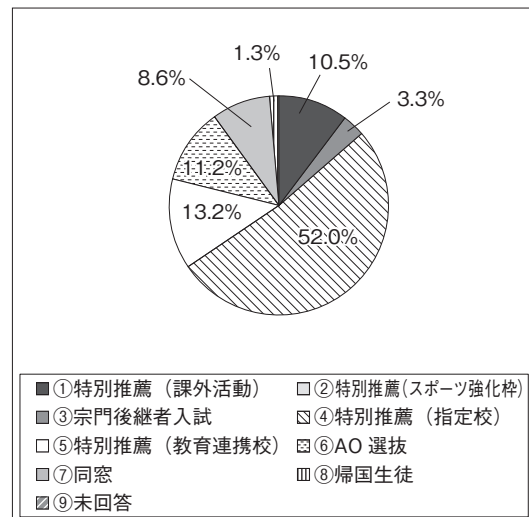
総回答者数 152



Q0-2 受験した入試

①	特別推薦（課外活動）	16
②	特別推薦（スポーツ強化枠）	0
③	宗門後継者入試	5
④	特別推薦（指定校）	79
⑤	特別推薦（教育連携校）	20
⑥	AO 選抜	17
⑦	同窓	13
⑧	帰国生徒	2
⑨	未回答	0

総回答者数 152

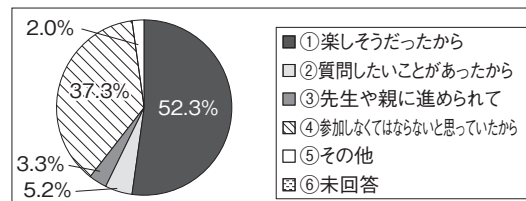


【参加動機】

Q1-1 本日、エンジョイ！キャンパスライフに参加した理由を教えてください。（複数回答可）

①	楽しそうだったから	80
②	質問したいことがあったから	8
③	先生や親に進められて	5
④	参加しなくてはならないと思っていたから	57
⑤	その他	3
⑥	未回答	0

総回答者数 153

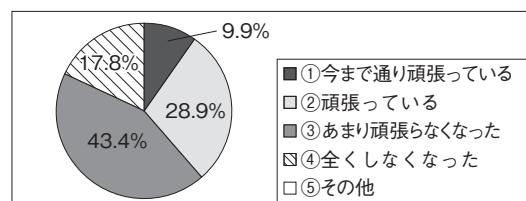


【学習状況】

Q2-1 合格後、高校での学習にどのように取り組んでいますか。

①	今まで通り頑張っている	15
②	頑張っている	44
③	あまり頑張らなくなった	66
④	全くしなくなった	27
⑤	未回答	0

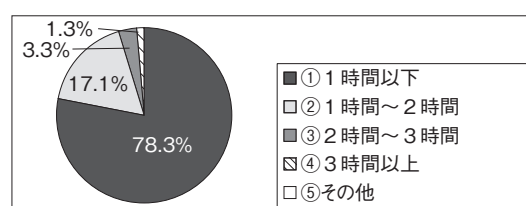
総回答者数 152



Q2-2 合格後、勉強に費やす時間はどの位ですか。

①	1時間以下	119
②	1時間～2時間	26
③	2時間～3時間	5
④	3時間以上	2
⑤	未回答	0

総回答者数 152

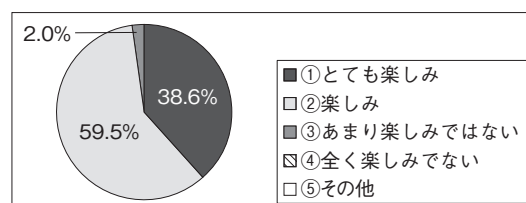


【入学に向けた心境】

Q3-1 合格した後、佛教大学への入学を楽しみにしていますか。

①	とても楽しみ	59
②	楽しみ	91
③	あまり楽しみではない	3
④	全く楽しみでない	0
⑤	未回答	0

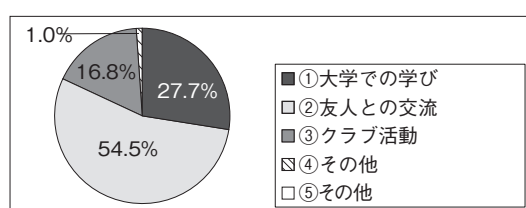
総回答者数 153



Q3-2 入学後楽しみにしていることは何ですか。

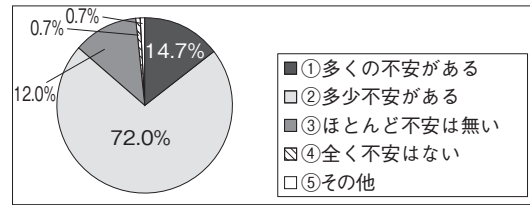
①	大学での学び	53
②	友人との交流	104
③	クラブ活動	32
④	その他	2
⑤	未回答	0

総回答者数 191



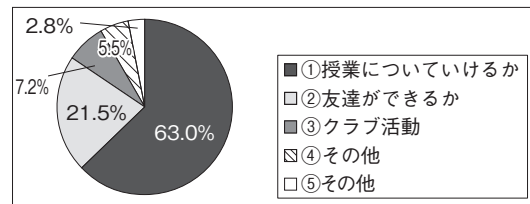
Q3-3 合格した後、大学生になる事について不安はありますか。

①	多くの不安がある	22
②	多少不安がある	108
③	ほとんど不安は無い	18
④	全く不安はない	1
⑤	未回答	1
総回答者数		150



Q3-4 入学後に不安に思っていることは何ですか。

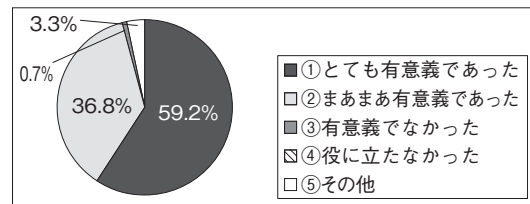
①	授業についていけるか	114
②	友達ができるか	39
③	クラブ活動	13
④	その他	10
⑤	未回答	5
総回答者数		181



【参加後の満足度】

Q4-1 本日参加した感想

①	とても有意義であった	90
②	まあまあ有意義であった	56
③	有意義でなかった	1
④	役に立たなかった	0
⑤	未回答	5
総回答者数		152



【自由感想】

Q5 本日参加した感想をできるだけたくさん書いてください。今後の要望でもけっこうです。

- ・最後に部屋に集まって過ごした時間が楽しかった。先生たちも先輩たちもとても明るくて心が休まりました。入学後のモチベーションも上がってきた！
- ・先生方と先輩の人達がとても良く教えて頂いたので勉強になりました。
- ・これから英語を積み重ね、聞く話す、書くなどの行いを頑張ろうと思います。将来に役立てる英語を学びたいと思います。
- ・大学のことについて色々なことが聞けて良かった。
- ・スピーキングがとても難しかったです。普段読み訳してとかしかしていなかったのが、自分に欠けていることがわかったので勉強しなそうと思えました。
- ・楽しい時間を過ごすことができてよかった。大学入学に向けてモチベーションが上がってきた。
- ・色々な先生、先輩のお話を聞き、よりいっそう佛教大学への入学が楽しみになりました。4月から新たな気持ちでがんばりたいと思います。
- ・早く大学生になって自分の夢に近づいていきたいと思いました。
- ・楽しかったです。
- ・新1回生同士の関わりがあればよいと思います。
- ・発表させてもらったけど、もっと調べておくべきだった。視覚的に楽しくするために、パワポとかも作れば良かった。もっと聞いていて楽しいものに出来るようにしたい。
- ・自分の発表をする機会と、友達の発表を聞く機会があって本当に良かったです。入学後も自分の力を伸ばせるようにしたいです。
- ・4回生のお話を直に聞いたのが一番よかった。発表は上手くいったか分からないけど、少しでも伝わったなら良かったと思う。
- ・卒業生の方の話を聞くことができてよかったし、その人の言葉も忘れずに大学生活を楽しく送れるようにしたいと思いました。他の人達との交流もできたので良かったです。
- ・前回と同じく来て良かったと思います。同世代の人達が教育の事で興味深い発表をしたので、ますます大学での勉強にやる気が出ました。
- ・同じ学年の人達なのに既に差があって、頑張らなくてはと思った。

- ・同じ学年の子が教育についてや、色々なことについて詳しく調べていたので、自分ももっと教育などについて調べたいと思いました。
- ・色々な人の教育への意見が聞けて、いい刺激になった。
- ・先輩の生の声が聞けてとてもよかった。いい刺激をたくさん受けることもできまし、大学生活が楽しみになった。
- ・新しい友達ができたり、同じ年の子たちが発表する中で、びっくりしたけど自分もこんなふうに来るようになりたいと思いました。
- ・7人の人に課題が出されているとは知らなかったで、びっくりしました。みんなすごかったです。入学まであとちょっとなんで不安がありますが、楽しみにしています。
- ・自分と同じ年齢の子がすごく大人に見えて、どこも高校はすべてやっていることが同じだと思っていたので焦りました。でも、自分も負けないようにがんばろうと思いました！！
- ・同じ教育学部の人たちの発表はとても素晴らしくて、驚きました。自分には絶対に出来ないと思いました。とても良い刺激を受けさせて頂きました。
- ・同じ年の人がすごくしっかり発表していて、自分もがんばらないといけないなと思いました。
- ・前回も参加していたので今回はこの前より楽しめた気がします。ほかの高校の人たちの発表も聞けてたくさん勉強になって良かったです。
- ・同年代の人の教育についての話を聞けて良い刺激になった。
- ・周りの人のスピーチをきいて、すごいと思うことばかりだったけど、いい刺激をうけた。もっとがんばれるようにこれからがたのしみです。
- ・楽しかったです。これからの大学生活にいかすことの出来る良い経験をさせてもらいました。
- ・大学生の人だけじゃなくて合格した新入生にも発表する機会を増やしてほしい。
- ・入学前にあたって、事前に佛教大学のことを少し知れたのはよい経験になったと思う。
- ・今回で2回目の参加だったので、少しは慣れてきたかなと思いました。
- ・色々分からなかったことが分かった。これから役立ちそうだった。
- ・たのしかったです。大学は高校とはぜんぜんちがうなと思いました。
- ・先輩の話をたくさん聞くことができてよかった。体験授業のグループに同性が居なくて少しさびしかった。
- ・先輩の話を聞かせてもらい、多くの事を学ぶ事ができました。
- ・とても勉強になりました。先輩の方もやさしかったです。
- ・とても先輩方が優しくしてくださったので、良かったです。
- ・実際に授業を受けて考えることがたくさんあった。とても難しくついていけるか心配だけどがんばりたいと思う。
- ・不安に思っていたことが少し解消されました。少しやけど同じ学科にも友達ができたので良かったです。
- ・午前中は佛教大学についてというより、大学についての質問とかも聞け、午後は話し合いもでき、有意義でした。
- ・消費税について、みんな自分の意見を持っていたので、他の内容等も自分の意見を持てるようにしたいです。
- ・学食が無料で食べられるのでよかった。班分けされてまわりと接しやすかった。
- ・消費税の考え方について変わった。
- ・1回目の授業とはまた違った風に受けることが出来て、とてもよかったと思います。ありがとうございました。
- ・今後も先生や先輩にいろいろと教えてもらいたいです。
- ・教授によって授業の雰囲気が全然違う。今日は今日で楽しかった。
- ・むずかしい授業だなと思いました。いい感じに楽しめた。
- ・授業スタイルが先生によって違うことがわかった。ちょっとは大学について学べた。
- ・先生によって授業の進み方が変わることがよくわかった。
- ・1回目の時とはまた違って楽しかったです。今後は楽しみです。
- ・面白かったです。
- ・先輩や先生からいろいろなアドバイスが聞けて良かったです。
- ・とても印象に残った話を聞けました。入学してからが楽しみです。
- ・授業のスケジュールや、今後の活動について先生や先輩方に教えてもらい、とてもいい一日でした。
- ・在校生との対談の中で自分が不安に思っていることを解消できてよかった。
- ・前回とは少し違った内容、違った人で新しい体験ができてよかった。入学が少し楽しみになった。
- ・先生によって授業の違いが分かって良かったです。
- ・ためになった。
- ・とても楽しかったです。
- ・今日は自分の考え方が変わったというか、多くの新しい知識が得られました。大学生になることに対する不安も少しずつ解消されてきたので、良かったです。入学してからががんばろうと思いました。
- ・今回は初めに全学科で、先輩方の話も聞けていろいろ知ることが出来て、とても良かったです。作業療法学科の人数は4人しか参加していませんでしたがその分交流も深まり、グループディスカッションもたくさん意見が言えて良かったです。次は多くの人数で、またグループディスカッションという意見交換はしてみたいです。
- ・今日はたくさんの意見を聞くことができて自分の意見が変わったところもあります。もっと多くのはなしや意見を聞いてみたいと思いました。不安も少し無くなっていったので参加してよかったと思ってます。頑張ろうという気持ちになりました。
- ・今回は前回とはまた違った題についてディスカッション出来たし、作業とは何かについて何となくだけ知ることができまし、とても楽しかったです。全体での説明でも、大学生活について話を聞けて不安が解消されました。
- ・助けられる時にプロの人が1.7%ていうのにすごく驚きました。持つべきものは友人って言うけれど本当なんだなーって思いました。
- ・大学の先輩の話をいろいろ聞けてとても良かったです。
- ・ゼミのことや在学生の様子がよく分かった1日だったので参加して良かったです。
- ・たくさん不安もありますが、とにかく最後まであきらめず頑張りが続けることが大切なのだと知ることができました。
- ・今日参加して、とても為になったし、これからも頑張ろうと思いました。
- ・午後のグループでの話し合いで、レポートを発表し合って、そんな案があったんだとか新たな発見がありました。
- ・楽しかった！！
- ・先輩の話を聞く事が出来たのが心強かったです。体験授業の内容はむずかしく感じたけれどこれからの参考になりました。
- ・良い先輩が多くいたので早く入学したいと思いました。

- ・みんなのレポート内容を聞けて、こんな考えもあるのかと考えが広がりました。
- ・この前仲良くなった子とも、新しく仲良くなった子とも、たくさん話せてよかった。入学しても毎日楽しいと思えたので、ボランティアとか、色々な事にも参加していきたいと思いました。
- ・在校生の話聞いて、入学後は大変だけど、秋になると慣れてくるそうなので、早く慣れたいと思った。
- ・参加してみて大学に入ってからどおしたらいいのかよくわからないことが、今日来て色々な話を聞けたので、すごく参考になりました。
- ・自分の地域で佛大生が活動しているとは思わなかった。
- ・前回とは違う体験ができて、より大学で学ぶ事が楽しみになりました。
- ・佛教大学では、被災者を助ける活動をしているなんてすばらしいなと思いました。早く福祉の勉強がしたいです。
- ・2月に続いて、先輩と直に交流ができたのが良かったと思う。今日聞いた話は、今後の大学生としての生活の参考にしたい。
- ・勉強の不安はありますが、学ぶことは楽しみです。
- ・不安に思ってた事とか先輩に聞くこともできたし友達もできて大学に行くのが楽しみになりました。大学は自分でいっぱい積極的に発言していかないといけないんだなと思いました。
- ・これからの勉強になることばかりでした。4年間でたくさんの学びとクラブや友達との交流を増やしていきたいと思いました。
- ・大学生の意欲的な活動の多くに感心しました。自分から積極的になることが大切だと思いました。
- ・災害から辛いこともあるがそれを通してこれからにつなげていって、次災害にあった時に多くの人が助かるように自分もしっかり専門知識？をつけたいと思った。ボランティアとかもしたいと思った。
- ・前回もあったので、今回は少し気が楽でした。いろいろな話を聞けて楽しかったし、今後も楽しみ(^O^)/
- ・昼食おいしかったです。話はやっぱり難しいです。大学楽しみです。
- ・先輩方が大学生生活について話されて、とても参考になりました。まだまだ不安なことが多くあるけど、少し解消された気がしました。もっと本を読んだり、知識をたくわえなければならないと思いました。
- ・在校生の話聞くことができて、大学の授業内容も知ることができ、とても良かったです。
- ・友達ができるような配慮や各学科ごとのワークなどがとても参考になり入学がより楽しみになりました。ありがとうございました。
- ・お昼ごはんおいしかったです。先輩方の意見は非常に参考になりました！
- ・専門的な内容になってきたので、知らないことばかりだったけど噛みくだいて説明してもらえたので楽しかった。
- ・自分のやりたいことがあっても、何のためにやりたいのか、なぜやりたいのかということをしっかり分かっていないといけないなと思った。ボランティア活動などをして、いろんな経験をつんでいきたいなと思った。
- ・同じ学部の人と様々な意見を交換できて、有意義だったし楽しかった。同じ学部の中でも、こんなに色々な考え方があったので参考になったと思う。
- ・二度目の参加で、大学とはどんなものなのか、何を学ぶのか少し理解できた。これからの4年間を無駄にしないように積極的に学習していきたいと思った。
- ・先輩にいろんな話がきけてよかったです。勉強やクラブが心配です。
- ・知らなかったことを知ることができました。
- ・佛大に通っている先輩の話が聞けて良かった。
- ・前回の時は、語学的な感じやったけど今回は、歴史的なことをやって興味出たこともあった。
- ・同じ学科の人達にいろいろ話することができて、気になっていたことも大学の学生の人や先生などに聞くことができてとても良かったです。
- ・今回参加してみて、授業の受け方やノートのとり方がわかって良かったです。
- ・1回目参加していたので、前より慣れた感じでいけたけど、大学での友人関係が多少不安に思いました。
- ・体験講義で討論会をしたら良いと思う
- ・先輩達の意見をたくさん聞けてよかった。
- ・仏教をもっと深く調べていこうと思った。
- ・本をもっとたくさん読もうと思った。知識をたくさんつけたい。仏教の思想に少し触れることができ、さらに興味がわいた。不安が消え、前向きに勉強したいと思えるようになった。参加してよかった。
- ・今回のエンジョイキャンパスライフも授業があったけどねむたくて、ところどころきていなかった。入学して本当の授業のときは頑張りたい！
- ・今日はレポートの書き方や何に重点を置かなどが分かったので、とても自分のためになりました。先輩と友達と会うのは2回目だけど、少し慣れたかな？と思いました。先生の話も前よりはリラックス？して聞けた感じがします。できたら、他の人のレポートが読みたいと思いました。
- ・前回聞けなかったことを今回先輩に聞けて良かったです。勉強も頑張りつつ、たくさんの仲間と交流することでとても充実した大学生活が送れるということを、先輩を通して少し分かった気がします。入学後の生活も不安がなくなりました。ありがとうございました。
- ・学科別で最後のグループディスカッションをした時あまり主張ができなかった。発表とかが苦手なので他の人がすらすら言えるのがすごいと思った。もっと積極的にそういう話にどんどん参加していかないとだめだと思いました。
- ・前は1人だったけど、今日は同じ学科の人といろいろ話せたのでよかった。講義も楽しかったです。大学に入学するのが楽しみになりました。
- ・今まで知らなかったことを知った。先生の話聞いて、大学で学ぶ学び方が少しわかった。今日参加して入学式が楽しみになった。
- ・先生によって授業の雰囲気も違い楽しかった。とてもこれからの大学生活が楽しみになりました。
- ・有意義な時間でした。
- ・楽しかったです。
- ・先輩方の話が聞けたので良かったです。
- ・前回にできた友達とまた交流ができて良かったです。また不安が消えたと思います。
- ・楽しかったです。ありがとうございました。
- ・授業が体験できてよかった。自分の考えとかをもつことが必要だと思った。
- ・興味津津でした。90分がはやく感じました。いろいろな人と交流が持てて良かったです\(^O^)/！！
- ・今日、2回目のエンジョイキャンパスライフに参加して、新たに同じ学科の人と、多く交流出来たことが嬉しかったです。また、歴史という分野はとても広いものなんだなと改めて思いました。大学の先輩の質問コーナーも良かったです。
- ・短い時間だったが、とても有意義に過ごせた。大学生活がとても楽しみになった。

- ・入学前に、色々と体験できたことは、とても貴重なことだと思うし、良い時間を過ごせたと思います。
- ・前日も参加して思っていたより、楽しかったから、今回も参加した。今回も結構楽しく話し合うことが出来た。
- ・前回の入学前教育のように1つだけのことを考えるのではなくて、様々な角度から考えたらいいと改めて思いました。
- ・浦島太郎の昔話でまさか地獄という言葉が出てきて自分が知っている物とは違ったので来てよかったと思う。
- ・質問をきけてよかったです。先輩方の体験をふまえて答えてくれたのでわかりやすかったです。学科別授業も勉強になりました。昔話の見方が変わりました。
- ・大学での授業は高校の授業と違い、個人の発想に重点をおいているので、楽しいと思った。
- ・昔話に対する新しい見方ができて、とても面白かった。
- ・入学後、どのように歴史に向き合っていけばいいのかのスタンスがよく分かって良かった。
- ・すごい深いところまで学びました。身近な題材から、こんなに学ぶことを知れたので、何か探して調べたいです。
- ・昔話の見方をこれから考える
- ・昔話を見る目線が変わった。
- ・2回目だったけど、とても緊張しました。施設も充実してるのでなるべく進んで学びにいけないと思いました。入学してから、はやくリラックスして生活できるようになりたいです。
- ・午後の授業は、前回も思ったのですが、とても楽しく色々な話が聞けてとても良かったです。午前は、先輩方のお話も聞けて、参加して良かったなと思いました。
- ・先輩の話によって、自分の中の価値観が変わりました。1回の授業でこの様子なのでこれからの大学の学びが楽しみになりました。
- ・歴史文化についての基礎を知れてよかったです。歴史文化に対しての観点をこれから学んでいきたいです。
- ・今回参加させていただいて先輩の話とかも聞けて良かったし、授業体験ではほかの人の話など聞けて自分の知らなかった知識などを知れて良かったです。

入学前教育 アンケート集計結果

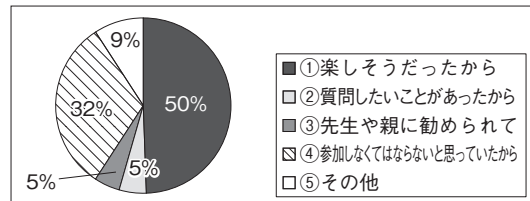
プレ・エンジョイ！キャンパスライフ 2012（2012/3/23 実施） 参加者アンケート結果

【参加動機】

Q1 本日、エンジョイ！キャンパスライフに参加した理由を教えてください。

①	楽しそうだったから	11
②	質問したいことがあったから	1
③	先生や親に勧められて	1
④	参加しなくてはならないと思っていたから	7
⑤	その他	2

総回答者数 22

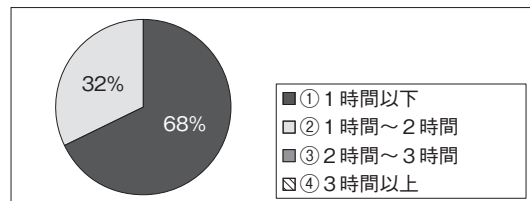


【学習状況】

Q2 合格後、勉強に費やす時間はどの位ですか。

①	1 時間以下	15
②	1 時間～2 時間	7
③	2 時間～3 時間	0
④	3 時間以上	0

総回答者数 22

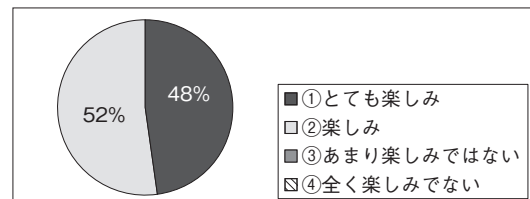


【入学に向けた心境】

Q3-1 合格した後、佛教大学への入学を楽しみにしていますか。

①	とても楽しみ	10
②	楽しみ	11
③	あまり楽しみではない	0
④	全く楽しみでない	0

総回答者数 21

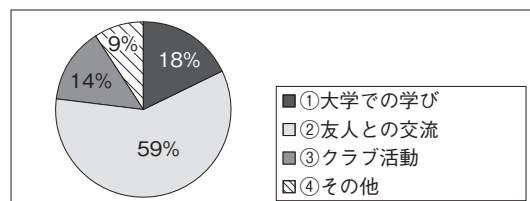


【入学に向けた心境】

Q3-2 入学後楽しみにしていることは何ですか。

①	大学での学び	4
②	友人との交流	13
③	クラブ活動	3
④	その他	2

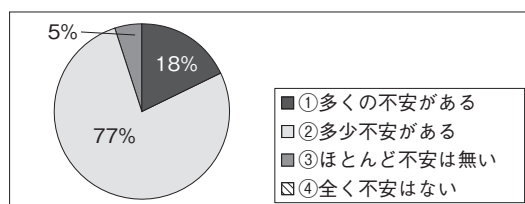
総回答者数 22



Q3-3 合格した後、大学生になる事について不安はありますか。

①	多くの不安がある	4
②	多少不安がある	17
③	ほとんど不安は無い	1
④	全く不安はない	0

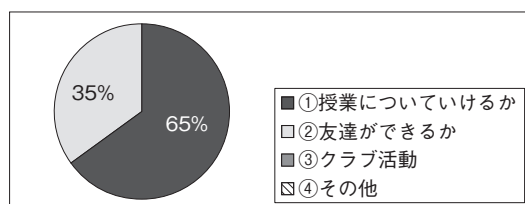
総回答者数 22



Q3-4 入学後に不安に思っていることは何ですか。

①	授業についていけるか	15
②	友達ができるか	8
③	クラブ活動	0
④	その他	0

総回答者数 23

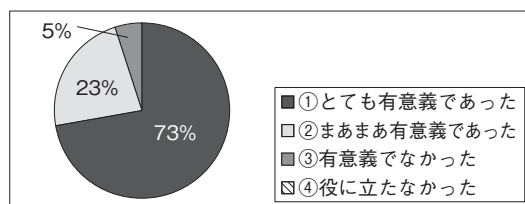


【参加後の満足度】

Q4-1 本日参加した感想

①	とても有意義であった	16
②	まあまあ有意義であった	5
③	有意義でなかった	1
④	役に立たなかった	0

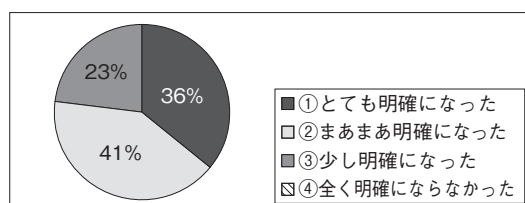
総回答者数 22



Q4-2 本日の入学前教育を通して、これからの4年間の目標が明確になりましたか。

①	とても明確になった	8
②	まあまあ明確になった	9
③	少し明確になった	5
④	全く明確にならなかった	0

総回答者数 22



【自由感想】

Q5 本日参加した感想をできるだけたくさん書いてください。今後の要望でもけっこうです。

- ・今日のキャンパスライフで入学後の目標を改めて考えることができて有意義な時間をすごせた。このような会を開いてくれたことを感謝します。
- ・同じ学部の人たち、他学部の人たちの意見などが聞けてとても参考になった。参加して良かったです。
- ・私は人見知りで、行く前とても不安でしたが、今日はとても楽しかったです。グループのみんなでポスターを作成するのは小学生以来でした。4月からの大学生活が楽しみです。
- ・とにかく楽しかったです。大学入って「大丈夫かな？」と不安なことがあったけど、今日参加して大学生活が楽しみになりました。
- ・いろんな人の意見が聞けて勉強になったと思う。
- ・先輩も一緒にグループになった同級生も良く接してくれた。特に緊張する事無く過ごせたので良かった。又、大学に入ってから目標も立てられたので参画して良かった。
- ・こんな楽しくワイワイしながら皆と話せると思わなかったのでも楽しいと思えた。
- ・女子校に通っていたので、性別の違う人達と沢山の会話ができとても新鮮で楽しかったです。先輩からも大学生活の話聞いて4月から入学できるのが嬉しいです。
- ・今日、参加した理由は佛教大学のことを、もっともっと知りたかったのと、先生や先輩のアドバイスを質問してみたかったからです。参加して、本当に楽しかったし、4月から大学生活を送るのにとてもウキウキしてきました。
- ・参加するまでは、色々な不安があったけど、参加して本当に良かったと思いました。4月の入学が楽しみになりました。
- ・先輩とお話ができとてもたのしかったです。
- ・もうちょっとかた苦しいものかと思っていたがそうではなくて安心した。
- ・元々、目標などは明確だったのがかたまった。
- ・初対面の人とこれだけいっぱい話をしたのは初めてでした。緊張もたくさんしたけど、楽しく話せたと思います。思っていたより楽しかったし、これをこれから生かしたいと思いました。
- ・実際に質問等をしてまとめ、発表するという事をするためになった。
- ・今日参加して勉強になりました。大学での学びを大切にします。
- ・最初は緊張したが最後は参加できてよかったと思います。
- ・自分が入学する大学のことを多少なりとも知ることができた。
- ・最初はきんちょうして、どうしようと思いました。少しは交流できたので良かったなあとと思いました。
- ・グループで意見交換し合って良い新聞ができたと思います。
- ・最初はかなり緊張していたけどグループを作ってみることで1つの目標をたっせいするためにがんばっていくうちにだんだん楽しくなってきた。
- ・入学前にこういった体験ができたのはとてもよかったので、今後も続けてもらいたいなと思いました。

第 1 回 FD 研究会

——黒板とパワーポイントの効果的な活用法——

教授法開発室員 松 本 真 治

テーマ：黒板とパワーポイントの効果的な活用法

発表者：梶川裕司氏（京都外国語大学教授・マルチメディア教育研究センター長）

吉川裕介氏（佛教大学・京都外国語大学他 非常勤講師）

日 時：平成 23 年 10 月 13 日（木）16：00～18：00

場 所：本学 1 - 301 教室

参加者：44 名（学内 28 名、学外 16 名）

◆新しい FD 研究会をめざして

平成 23 年度の第 1 回 FD 研究会は、次のような趣旨のもとに実施した。

- ①個々の教員にとって身近でかつ実用性が高いテーマの設定
- ②本学教員の日頃の実践を紹介
- ③学外で実施されている FD の催しを本学用アレンジ
- ④学内だけでなく学外の教職員にも公開

FD 関連のセミナーでは「FD とは何か?」「授業評価アンケートの組織的活用法」「IR とは何か?」といった大学執行部や FD 担当部門関係者を対象としたものも多くみられるが、テーマ設定にあたっては、どのような教員でも議論に参加できるもので、また翌日からでもすぐに自身の授業改善に役立てることのできるテーマを選定することにした。そこで、おそらく誰もが気になっていると思われる板書やパワーポイントの使い方を今回の FD 研究会のテーマとした。

学外からその筋の専門家をメインの講演者としてお招きするというパターンのセミナーが多いが、今回は本学の教員が実際に授業で実践していることを前面に紹介し、学内での情報交換ができることも重視した。発表者の一人である吉川裕介氏は本学の非常勤講師であり、授業アンケートにおいてパワーポイント等の使用に関する評価が高いということで参加していただいた。ちなみに吉川氏は本学英語英米文学科（現英米学科）の出身者である。吉川氏には、パワーポイントを使った普段の授業をそのまま再現してもらった。また歴史学部・西川利文先生、社会学部・近藤敏夫先生、社会福祉学部・田中智子先生には、授業時における黒板の使用方法を事前に写真撮影させていただき、当日スライドで紹介させていただいた。

今回の企画は教授法開発室によるオリジナルのものではなく、学外で開催された FD 関連のセミナーや講演のうち、室員が実際に参加して有益であると認められたものを、本学用アレンジしている。もう一人の発表者である梶川裕司氏は、本学が代表校として推進

した平成 20 年度文部科学省戦略的大学連携支援事業「地域内大学連携による FD の包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」の一環として実施された FD セミナー（平成 22 年 7 月 31 日）の講師であり、その時の講演内容がとても興味深かったということで今回お招きしたという次第である。教授法開発室では学外で行われている様々な FD イベントの紹介と参加支援を行っており、これらのイベントに参加された教職員の方々と、これはと思えるテーマや講演者があれば、ぜひご推薦いただきたい。

多くの大学が各種の FD イベントを学外にも開放しているのは昨今の FD の流れであり、本学も社会貢献の立場からも学外への開放をすべきであろうと考えた。また、今回の研究会がそうであったように、学外参加者も交えることで質疑応答が活発になり、単なる「お話を聴く」で終わることはなかった。研究会成功の秘訣は、学内学外を問わず、そのテーマに興味関心を抱く者が集まり、いかに相乗効果が期待できるかということではなかろうか。今回は 16 名の学外からの参加者があり、近畿圏のみならず、遠くは静岡大学や福島大学からもご参加いただいた。

◆発表要旨

吉川氏には、英米学科コース科目「英文法」の授業を、聴衆を学生と見なして普段通りに実践していただいた。授業内容は「定冠詞 (the)、不定冠詞 (an)、ゼロ冠詞 (Ø)」「時制 (tense) と時 (time)」であり、英語教師として個人的には興味深いものであった。授業内容についてはさておき、吉川氏がパワーポイントを使用する際に気をつけていることは以下の通りである。

- 1) 「重要な所だけ色を変えハンドアウトに書き入れる」⇒パワーポイントは一見すると目に優しいが、眺めているだけでは記憶に残らない。
- 2) 「文字のサイズは 24 ポイント以上」⇒パワーポイントの強みはデザイン性。文字を詰めすぎると学生は情報を処理しきれない。
- 3) 「オチは隠す」⇒見せ方を工夫することによって強く印象づけることができる。一度に全部の情報を出すのではなく、順を追って小出しにする。
- 4) 「アニメーションは必要最低限」⇒必要以上にアニメーションを多用しない。見た目に関心を引くが、中身に注意が向かない可能性も。ただし、適切に使うと効果絶大。

また、間接的な意味で次の 2 点も工夫されている。

- 5) 「その日の授業をその日にまとめる」⇒10 分前には授業を終え、残りの時間で授業の要点を紙にまとめさせ、点数化する。
- 6) 「自分の文法ノートを作ってもらおう」⇒ハンドアウトを配りっぱなしでは学生は見直してくれない。自分のノートを作ることによって知識を整理することができる。

次いで梶川氏であるが、マルチメディア教育研究センター長でありながら、ローテクの授業を実践されており、ご専門の教育心理学の理論も援用しながら「黒板はすぐれた教具」という観点からお話いただいた。

まずマルチメディアは有効か？という疑問に対しては、1) すでにパワーポイントの「新奇性は失われて」おり、それは「過去の OHP、スライドと同じ」である、2) 「DVD を見せると、睡眠の時間になる」、3) 「驚くべきことに学生はコンピュータに関心がなくなっている」、たとえば iPad を好んで使っているのは中年であって、学生は携帯の方を好む、と言われる。むしろ、「黒板を使ってリアルタイムで板書されていくことが重要」であり、「生きた人間が、ライブで話しつつ書く」授業の方が訴求力あるのではないか、「実演には価値がある」とお考えである。たとえてみれば、CD を聞くよりもコンサート（ライブ）の方が集中して聞くことができるようなものである。

では黒板の利点であるが、ホワイトボードとは異なり、緑色の背景に白い文字を書くことによって視覚的によく見えるのであり、またホワイトボードのマーカーのように、書いている途中でだんだんと字が薄くなることもない。ただ、黒板を使うにしても「法則性のある板書をする」ことが重要で、「絶対に写してもらいたい内容の領域」「写してもいいし、写さなくてもいい領域」「レポート課題と文献紹介の領域」という具合に区分する必要もあるとのことである。

「視覚に訴える」という点では、パワーポイントで細かな統計資料や図表を一度に映しだしても、学生にとっては見る気がしないであろう。人は動くものを注視するという傾向があるので、その点では実演していく黒板が有利であるとも言える。絵を見せるにしても、パワーポイントで上手なものを見せるよりも、黒板に手書きで実際に絵を描いて見せる方がよい。また、絵自体は上手である必要はなく、むしろ下手な絵の方が学生の注意を引きつけるのである。

この黒板の使い方に加えて、本学教員の黒板の使い方に対するコメントや、梶川氏自身の講義での工夫（「学生をいじらない」「当てないけれど、挙手を求める」「雑談はしない」「出席をとる」）をご紹介いただいた。

◆質疑応答より（抜粋）

- ・パワーポイントでも空欄を作って学生自身に書き取らせるような使い方をしているが、単に写しているだけになってしまう。学生が話を聞いて自ら書き取らせることができるような板書やパワーポイント使用の工夫はないだろうか。
- ・学生はパワーポイントのプリントアウトしたものを欲しがりますが、それをどうすればいいだろうか。
- ・資料はできるだけ配らずに、手で書かせるようにしている。
- ・e-Learning 上に資料をアップし、学生が各自ダウンロードする。
- ・学生にはパワーポイントのすべてではなく、エッセンスの部分だけを配布している。
- ・パワーポイント資料はあっても、試験は手書きノートのみ持ち込み可にしている。
- ・黒板に書かないと学生はノートをとってくれないので、黒板のみを使用している。
- ・文系と理系では黒板やパワーポイントの使い方は異なるのではないか。理系であれば、ノートテイクのためではなく、事例紹介や実物を見せるために使っている。
- ・教科内容によって、黒板、パワーポイントの向き不向きがある。視覚化しやすいものを教える場合は黒板が便利である。パワーポイントで一気に見せても、結局学生は理解できない。説明しながら文章を書き加えていき、それを書き写すことで学生の理解

が深まる。

◆まとめに代えて

黒板とパワーポイントのいずれかが優れているのではなく、それぞれの特性を活かしながら効果的な授業運営を考えていくことが結論となるのであろう。今回の研究会で黒板やパワーポイントの斬新な使用法が紹介されたというわけではなく、その意味では「何をいまさら」と感じられる方もいるかもしれないが、それはそれで正しい。しかしながら、たとえ少数であれ、今回の研究会に参加してみて得るところ、再認識するところがあったとお考えの方がおられれば研究会は十分成功であったのではなかろうか。なぜなら授業改善に関して何かを必要としている人がいる限り、その人に必要としているものを提供することこそが組織的な職能開発（FD）であるからだ。

最後に一言。学外からの参加者のお一人は、発表内容が「黒板＋パワーポイント（＝2つの同時使用）」だと思っておられたようである。あらためて言葉の難しさに気づかされた。以後気をつけたい。

2011年 10月 13日
第1回 FD研究会
於：佛教大学 1-301教室

英文法1H/2Aの実践報告

吉川裕介
(佛教大学・京都外国語大学 非常勤)

英文法1H/2A

・クラス形態と規模

講義形式：38人(2011年度)

・クラスの性質

- ① 教職科目(英語)の必修科目
- ② クラスの7割以上が英米の学生
- ③ 理論言語学の見地に基づいた英文法

英文法1H/2A

・クラスの目標：

英語の教員になった際に、自信をもって英語を教えるための素地を養う。これまで身につけた英文法の知識に理論的な背景を加えることで、真の理解に繋げる。

英文法1H/2A

・クラスの目標：

英語の教員になった際に、自信をもって英語を教えるための素地を養う。これまで身につけた英文法の知識に理論的な背景を加えることで、真の理解に繋げる。

→ 学校文法から一歩進んだ文法へ

私がPPTを使用する際に注意している点

- ① 重要な所だけ色を変えハンドアウトに書き入れる(参考資料)
- ② 文字のサイズは24ポイント以上
- ③ オチは隠す
- ④ アニメーションは必要最低限

③オチは隠す

→ 見せ方を工夫することによって強く印象づけることができる。一度に全部の情報を出すのではなく、順を追って小出しにする

④アニメーションは必要最低限

→ 必要以上にアニメーションを多用しない。見た目に興味は引くが、中身に注意が向かない可能性も。ただし、適切に使うと効果絶大

まずは実演いたします

2.2. 冠詞

定冠詞(the) :

不定冠詞(a, an) :

無冠詞 :

2.2. 冠詞

定冠詞(the) : 特定できる名詞につく ?

不定冠詞(a, an) : 1つ ?

無冠詞 : 複数形、不可算名詞の場合 ?

2.2. 冠詞

定冠詞(the) : 特定できる名詞につく ?

不定冠詞(a, an) : 1つ ?

まずは問題意識を
もってもらおう

無冠詞 : 複数形、不可算名詞の場合 ?

2.2. 冠詞

定冠詞(the) : 単数形、複数形、不可算名詞のいずれにもつく

→ the table, the tables, the water

不定冠詞(a, an) : 複数形や不可算名詞とは一緒に使えない

→ *a tables, *a water

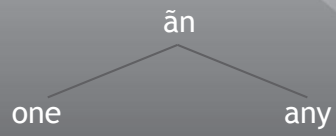
ゼロ冠詞 ($\varnothing$) : a, an が使えないときにつく

→ $\varnothing$ water, $\varnothing$ tables, * $\varnothing$ table

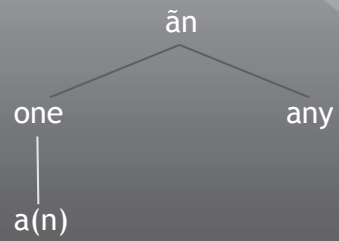
冠詞 a(n) はどのようにしてできたのか ?

$\tilde{a}n$

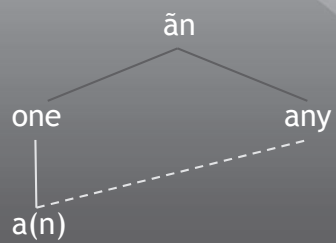
冠詞 a(n) はどのようにしてできたのか？



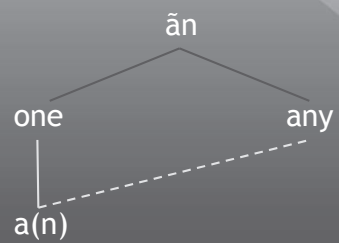
冠詞 a(n) はどのようにしてできたのか？



冠詞 a(n) はどのようにしてできたのか？



冠詞 a(n) はどのようにしてできたのか？



1つ、あるいは、数ある中から任意の1つ

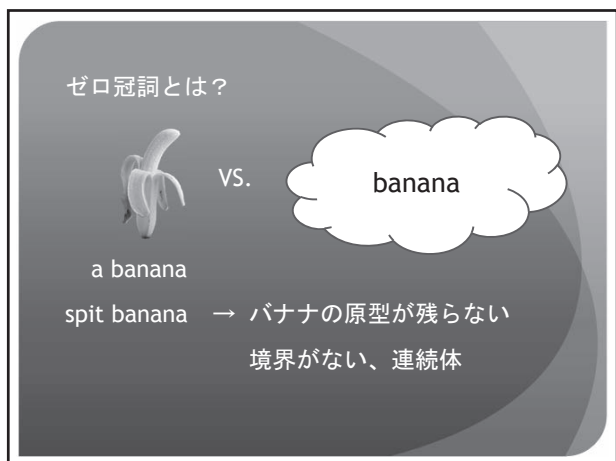
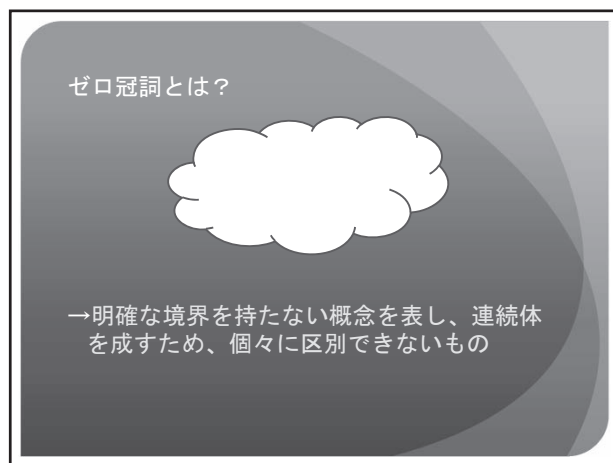
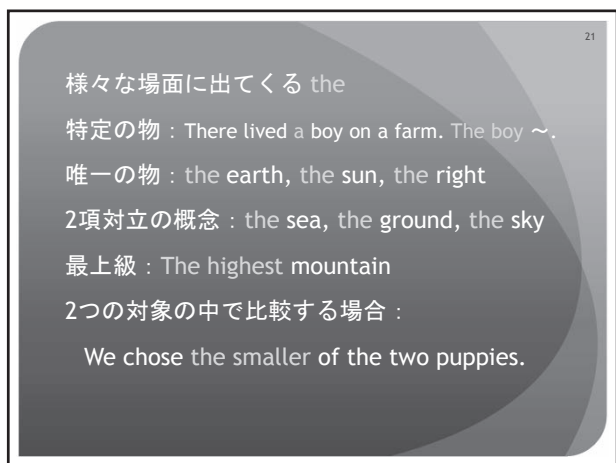
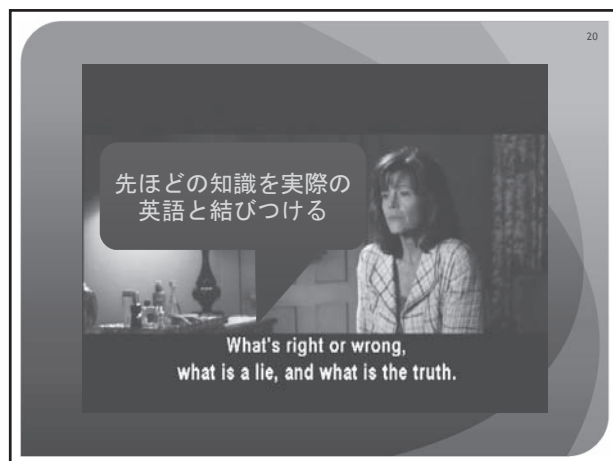
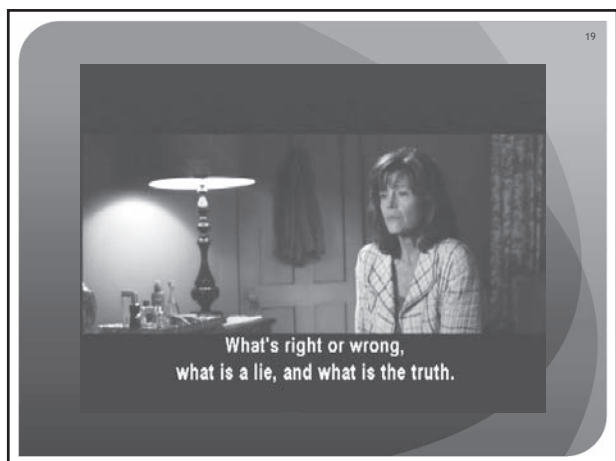
冠詞 the はどのようにしてできたのか？



冠詞 the はどのようにしてできたのか？



話し手と聞き手との間で両者が特定(同定)できる名詞に付く。→ 既知情報



時制 (tense)

英語における時制の区別は動詞の形によってなされる。つまり、過去時制と現在時制のみであり、未来時制はない。

時制 (tense)

英語における時制の区別は動詞の形によってなされる。つまり、過去時制と現在時制のみであり、未来時制はない。

(1)

- a. John *lived* in Kyoto. (過去時制)
- b. John *lives* in Kyoto. (現在時制)
- c. John *?live?* in Kyoto. *(未来時制)

時制 (tense)

英語における時制の区別は動詞の形によってなされる。つまり、過去時制と現在時制のみであり、未来時制はない。

(1)

- a. John *lived* in Kyoto. (過去時制)
 - b. John *lives* in Kyoto. (現在時制)
 - c. John *?live?* in Kyoto. *(未来時制)
- John *will* live in Kyoto.

時制とは異なり、出来事の時の概念を示すものに「時(time)」がある。時は過去、現在、未来の3つに分類され、2つの時制によって示される。

時制とは異なり、出来事の時の概念を示すものに「時(time)」がある。時は過去、現在、未来の3つに分類され、2つの時制によって示される。

時制 (tense)

現在時制

過去時制

時制とは異なり、出来事の時の概念を示すものに「時(time)」がある。時は過去、現在、未来の3つに分類され、2つの時制によって示される。

時制 (tense)

時 (time)

現在時制

現在

過去時制

過去

未来

31

時制とは異なり、出来事の時の概念を示すものに「時(time)」がある。時は過去、現在、未来の3つに分類され、2つの時制によって示される。

時制 (tense)	時 (time)
現在時制	現在
過去時制	過去
	未来

32

時制とは異なり、出来事の時の概念を示すものに「時(time)」がある。時は過去、現在、未来の3つに分類され、2つの時制によって示される。

時制 (tense)	時 (time)
現在時制	現在
過去時制	過去
	未来

33

時制とは異なり、出来事の時の概念を示すものに「時(time)」がある。時は過去、現在、未来の3つに分類され、2つの時制によって示される。

時制 (tense)	時 (time)
現在時制	現在
過去時制	過去
	未来

34

過去時制 (past tense)

概念的に過去時制は発話時からより離れた状況を表す

→

35

過去時制 (past tense)

概念的に過去時制は発話時からより離れた状況を表す

→ リモートネス (remoteness)

36

過去時制 (past tense)

概念的に過去時制は発話時からより離れた状況を表す

→ リモートネス (remoteness)

①過去時制(tense)ー現在(time)

(8)

a. I *wanted* to ask your opinions.

「ご意見をお聞きたいのですが」

b. *Could* you spare me a few minutes?

「数分時間を割いて頂けますか？」

37

c. If I *was* rich, I *would* change the world.

もしお金持ちだったら、世界を一変させるのに

38

c. If I *was* rich, I *would* change the world.

もしお金持ちだったら、世界を一変させるのに

☆ 現在の事実や出来事でも、それを丁寧に述べる時、もしくは仮想的事実を述べる場合には、現在とはかけ離れた意味合いを帯びさせるため、過去時制が使用される。

39

(8)

a. I *wanted* to ask your opinions.

「ご意見をお聞きたいのですが」

b. *Could* you spare me a few minutes?

「数分時間を割いて頂けますか？」

→ 依頼する際に、過去形を使用することによって「現在は強く思っていないよ」と、距離を置くことができ、相手に断りやすい状況を作る

40

(8)

a. I *wanted* to ask your opinions.

「ご意見をお聞きたいのですが」

b. *Could* you spare me a few minutes?

「数分時間を割いて頂けますか？」

→ 依頼する際に、過去形を使用することによって「現在は強く思っていないよ」と、距離を置くことができ、相手に断りやすい状況を作る

→ 丁寧度が上がる ポライトネス理論参照

41

c. If I *was* rich, I *would* change the world.

もしお金持ちだったら、世界を一変させるのに

→ 過去形を用いることで現在と距離を置き、現在の内容と反した内容であることを表す。

42

c. If I *was* rich, I *would* change the world.

もしお金持ちだったら、世界を一変させるのに

→ 過去形を用いることで現在と距離を置き、現在の内容と反した内容であることを表す。

→ 反事実

43

I lived in Kyoto for 6 years.

I have lived in Kyoto for 6 years.

44

I lived in Kyoto for 6 years.

I have lived in Kyoto for 6 years.

45

I lived in Kyoto for 6 years.
→ I no longer live there.

I have lived in Kyoto for 6 years.
→ I still live there

46

過去時制で示されている出来事は

‘the happening takes places before the present moment’

the present moment is excluded

47

過去時制で示されている出来事は、

‘the happening takes places before the present moment’

the present moment is excluded

48

過去時制で示されている出来事は、

現在とは完全に切り離された概念

‘the happening takes places before the present moment’

the present moment is excluded

過去時制で示されている出来事は、
現在とは完全に切り離された概念

‘the happening takes places before the
present moment’

the present moment is excluded



概念構造とは

結果構文の概念構造：

[x ACT_{<manner>} ON y], CAUSE [y BECOME z]

上位事象

下位事象

X (動作主)がある行為を Y (被動作主)に働きかける

その結果(CAUSE)

Y (被動作主)が Z (結果状態)に変化する

概念構造とは

Mary painted the wall black.の概念構造：

[Mary ACT_{<paint>} ON the wall]

CAUSE [the wall BECOME black]

上位事象：Maryが壁を塗った

その結果(CAUSE)

下位事象：壁が黒になった

①重要な所だけ色を変えハンドアウトに書き
入れる

→ パワーポイントは一見すると目に優しいが、
眺めているだけでは記憶に残らない

②文字のサイズは24ポイント以上

→ パワーポイントの強みはデザイン性。文字
を詰めすぎると学生は情報を処理しきれない

③オチは隠す

→ 見せ方を工夫することによって強く印象づ
けることができる。一度に全部の情報を出す
のではなく、順を追って小出しにする

④アニメーションは必要最低限

→ 必要以上にアニメーションを多用しない。見
た目に興味は引くが、中身に注意が向かない
可能性も。ただし、適切に使うと効果絶大

①重要な所だけ色を変えハンドアウトに書き
入れる

→ パワーポイントは一見すると目に優しいが、
眺めているだけでは記憶に残らない

②文字のサイズは24ポイント以上

→ パワーポイントの強みはデザイン性。文字
を詰めすぎると学生は情報を処理しきれない

55

③オチは隠す

→ 見せ方を工夫することによって強く印象づけることができる。一度に全部の情報を出すのではなく、順を追って小出しにする

④アニメーションは必要最低限

→ 必要以上にアニメーションを多用しない。見た目に興味は引くが、中身に注意が向かない可能性も。ただし、適切に使うと効果絶大

56

⑤その日の授業をその日にまとめる

→ 10分前には授業を終え、残りの時間で授業の要点を紙にまとめさせ、点数化する

⑥自分の文法ノートを作ってもら

→ ハンドアウトを配りっぱなしでは学生は見直してくれない。自分のノートを作ることによって知識を整理することができる

57

ご清聴ありがとうございました

58

授業の流れ：

1. 導入で学校文法の復習・確認
2. 学生に「なぜ？」と思わせる → 問題意識
3. 言語学理論に基づく説明
4. 自ら理解できる
5. 説明できる


**2011年度 佛教大学
第1回 FD 研究会**
 2011年10月13日

黒板の効果的な活用法

—先生の板書は効果的ですか？—

京都外国語大学マルチメディア教育研究センター
 梶川 裕司
 Kyoto University of Foreign Studies

I-1. 報告の流れ

- I. はじめに
 1. 本日の流れ
 2. 演者自己紹介
- II. 黒板の活用に関する私の授業実践例
 1. 黒板は優れた教具
 2. 黒板の特徴を知る
 3. 法則性ある板書をする
 4. 人は動くものを注視する
 5. 「絵」の工夫
- III. 貴学の先生方の板書の例
- IV. 私の講義での工夫(時間があれば)
 1. 当てない
 2. 挙手を求める
 3. 雑談はしない
 4. 出席をとる

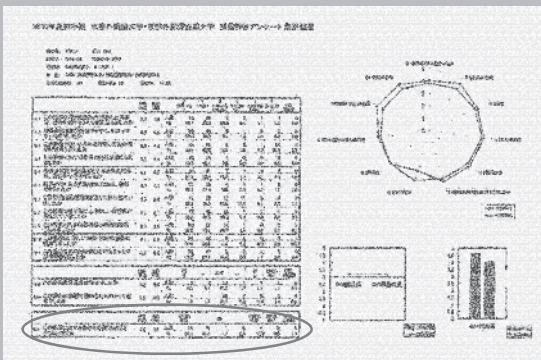
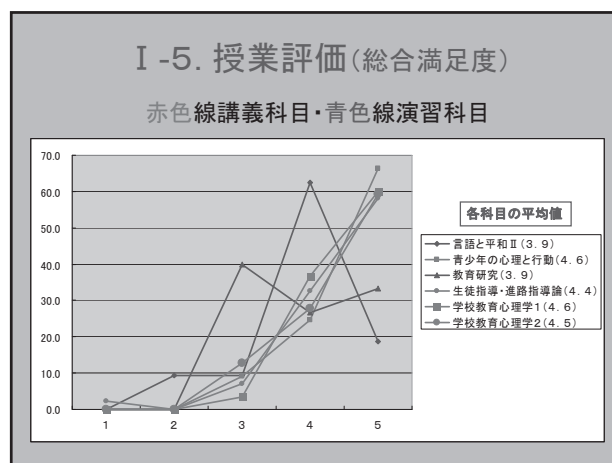
I-2. 専門・担当科目

- I. 専門領域 教育心理学と教育学のすきま
- II. 現在の研究テーマ
 - (1) 自己実現理論
 - (2) 高校教育
 - ① 高校生の意識と行動
 - ② 高校教育課程論
- III. 大学での担当科目
 - (1) 教職課程科目(教育心理学2・生徒指導論4・教職総合演習2)
 - (2) 教養科目(心理学系科目1、教育学系科目2)
 - (3) 総合科目(「言語と平和」1)
 - (4) 卒論ゼミ1

I-3. 担当科目(昨年度秋学期)

1. 教養科目
 - ① 青少年の行動と心理(講義: 430人)
 - ② 言語と平和Ⅱ(必修初年次導入ゼミ: 30人)
 - ③ 教育研究(演習体: 70人)
 - ④ 教育研究ゼミ(卒論ゼミ: 18人)
2. 教職科目
 - ① 学校教育心理学(講義: 100人×2コマ)
 - ② 生徒指導・進路指導論(講義: 50人)

I-4. 京都外国語大学の授業評価アンケート

I-6.

演習科目より、講義科目の評価が高いという、珍しいタイプの教員です。

また自己矛盾しているのですが、ローテクの授業をしています。

II-1.

黒板の活用に関する私の授業実践例

II-2. 黒板は、すぐれた教具

【素朴な疑問】マルチメディアは有効か？

○すでにパワーポイントの『新奇性』は失われている。
→ 過去のOHP、スライドと同じ

○DVDを見せると、睡眠の時間になる。

○驚くべきことに学生はコンピュータに、関心がなくなってきた。

携帯がいい。ではなく、携帯がいい。

II-3. 例～音楽が好きな人なら～

CDを聞く < カラオケで歌う < コンサート(ライブ)



学習



体験学習



講義

アーティストのコンサートは、TVやCDよりあれだけ集中して聞くことができる。



「実演」には価値がある。

II-4. リアルタイムで 板書されていくことが重要

生きた人間が、ライブで話しつつ、書く。



リアルな動く3D 画像とサラウンド音響

いわゆるマルチメディアを駆使した授業よりも訴求力があるのでは？

II-5. 黒板の特徴を知る

どちらがよく見えますか？

Ⅱ-6. 黒板の特徴を知る

どちらがよく見えますか？

Ⅱ-7. 黒板の特徴を知る

ホワイトボードでは、マーカーがだんだん薄くなっていき、いらいらしますが、

黒板では最後まで、白は白、はっきりした線で書くことができます。

Ⅱ-8. 黒板の特徴を知る

どれがよく見えますか？
どれがよく見えますか？
どれがよく見えますか？

Ⅱ-9. 法則性ある板書をする

絶対写してもらいたい
内容の領域

写してもいいし、
写さなくてもいい領域

レポート課題
と文献紹介の
領域

(実験の図を描
いていることが
多い)

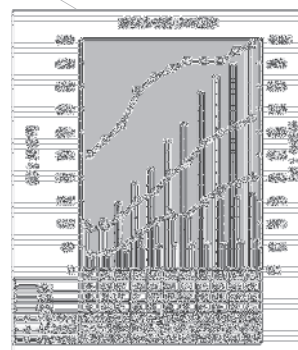
Ⅱ-10. 「視覚に訴える」の意味(1)

学生なら見る気がすると思われませんか？

区分	計		国		立		公		立		私	
	入学志願者	入学者	入学志願者	入学者	入学志願者	入学者	入学志願者	入学者	入学志願者	入学者	入学志願者	入学者
文学部	339,210	48,983	9,343	2,278	10,305	1,833	319,557	44,672				
文芸学部	14,235	1,469	—	—	—	—	14,235	1,469				
神学部	974	163	—	—	—	—	974	163				
仏教学部	972	463	—	—	—	—	972	463				
外国語学部	70,875	13,928	8,148	1,738	4,484	1,042	58,043	11,150				
人文学部	56,418	13,883	13,870	2,895	918	222	41,830	10,688				
国際言語文化学部	83	82	—	—	—	—	83	82				
比較文化学部	897	180	—	—	—	—	897	180				
国際文化学部	15,421	2,597	570	145	948	134	13,803	2,318				
現代文化学部	5,188	1,462	—	—	—	—	5,188	1,462				
日本文化学部	305	86	—	—	—	—	305	86				
国際言語学部	2,280	567	—	—	—	—	2,280	567				
国際英語学部	2,053	185	—	—	—	—	2,053	185				

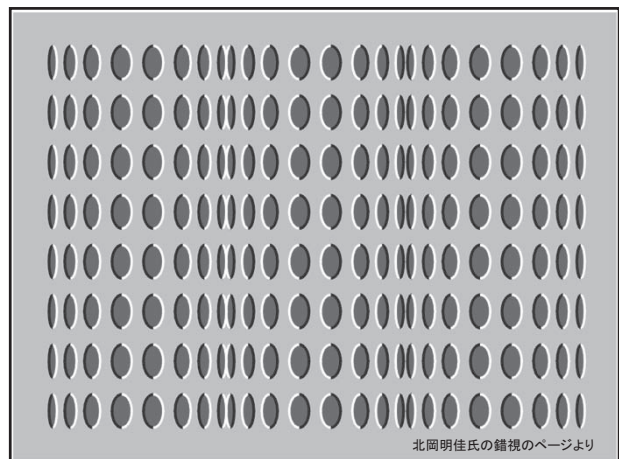
Ⅱ-11. 「視覚に訴える」の意味(2)

学生なら見る気がする
と思われませんか？

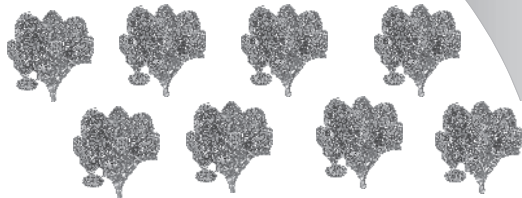


Ⅱ-12. 人は動くものを注視する

次のスライドの絵を見てください。



Ⅱ-14.「視覚に訴える」の意味(3)

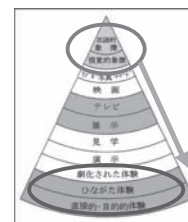


Ⅱ-15. 視覚的に訴えることの積極的意味

実験の紹介の大半は『絵』

絵をみることは、具体的体験の一つ

デールの
経験の円錐



Ⅱ-16. 絵の例ー古典的条件づけ



Ⅱ-17. 絵の例

講演の際にお示したいと思います。

Ⅱ-18.

絵は上手である必要は、まったくありません。

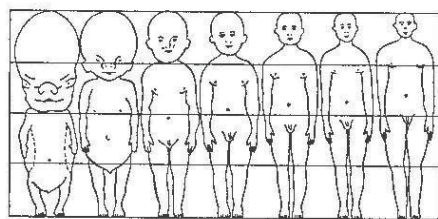
逆に下手な方が、学生の注意を引きつけます。

Ⅱ-19～21. 絵の工夫のヒント —いろいろな絵の実例—

講演の際にお示し、したいと思います。

Ⅱ-22.3枚目の絵がかわいいのです。

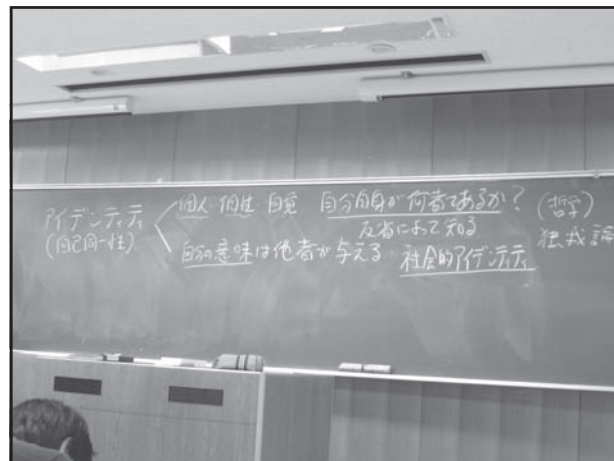
根拠: 成長による頭と体の比率

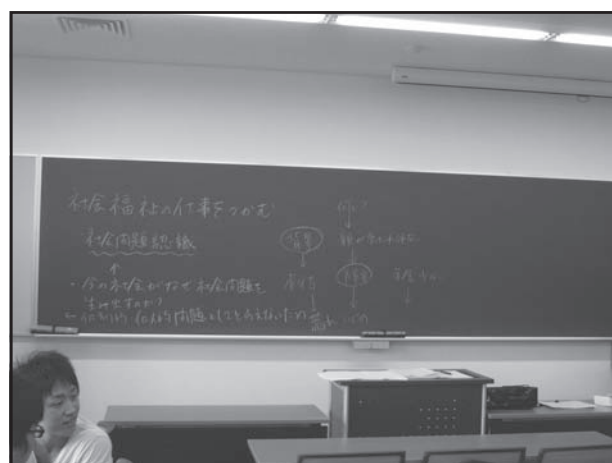
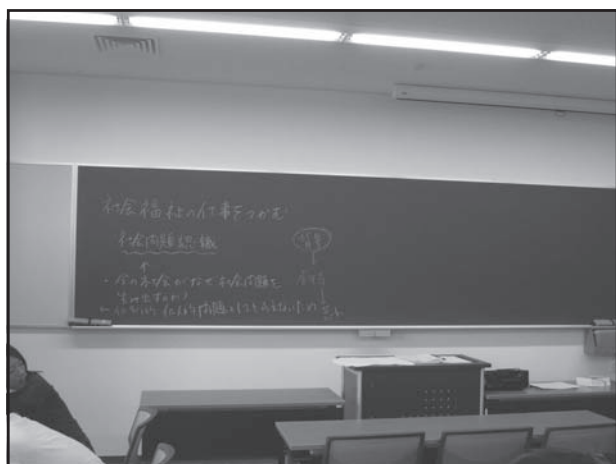
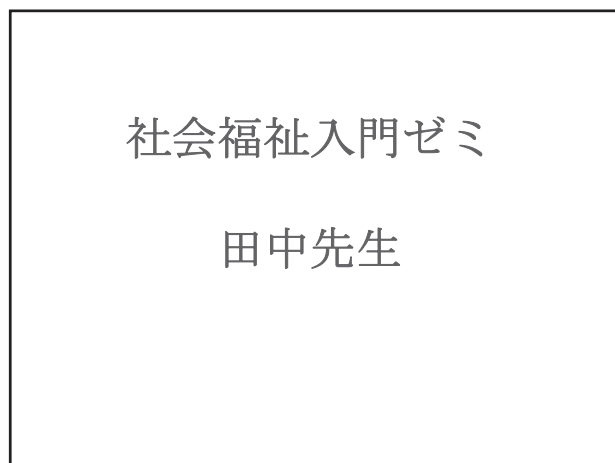
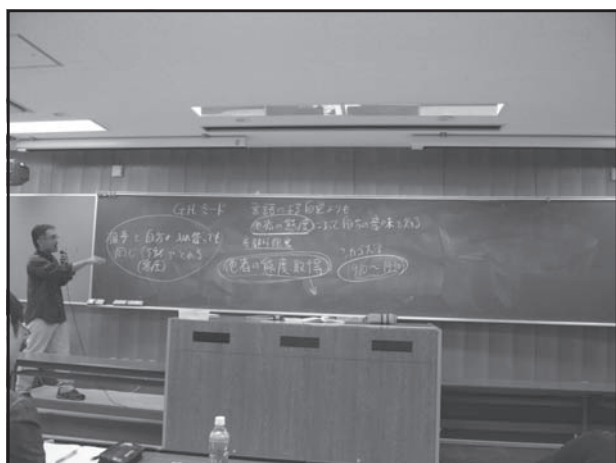
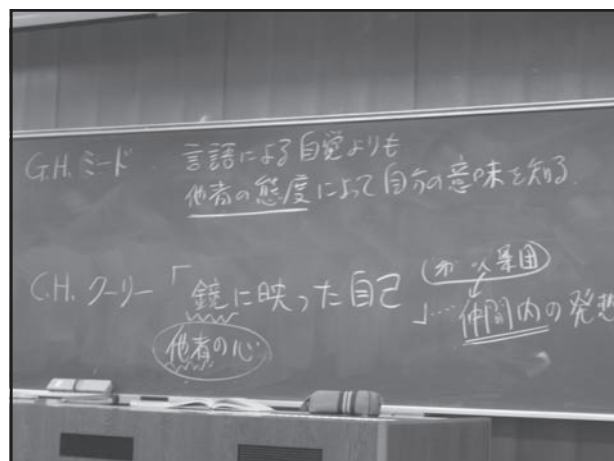
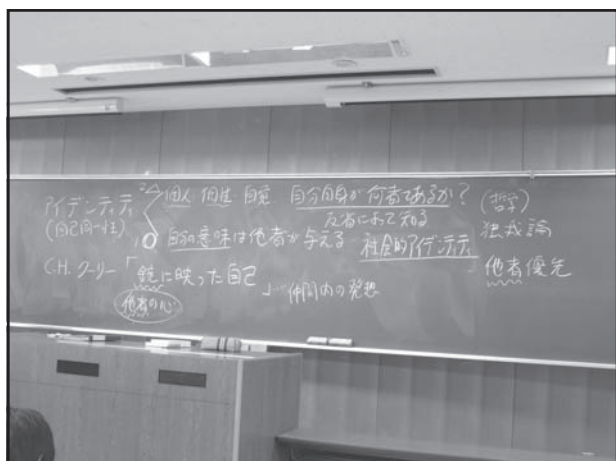


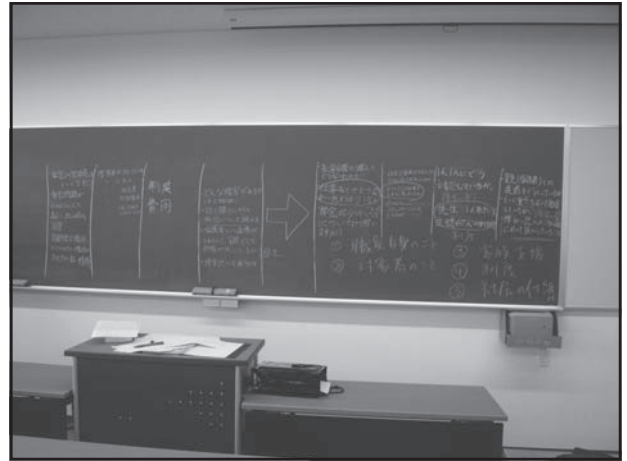
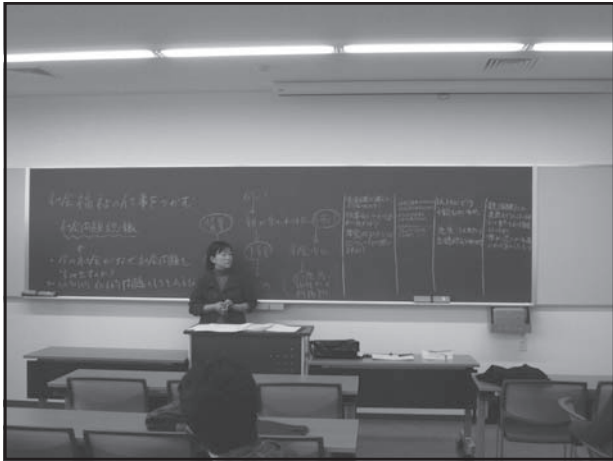
胎生 2 カ月 2 頭身 胎生 5 カ月 3 頭身 新生児 4 頭身 2 歳 5 頭身 6 歳 6 頭身 12 歳 7 頭身 25 歳 8 頭身
ロビンズ, W.J. et al. 1928

アイデンティティ論

近藤先生

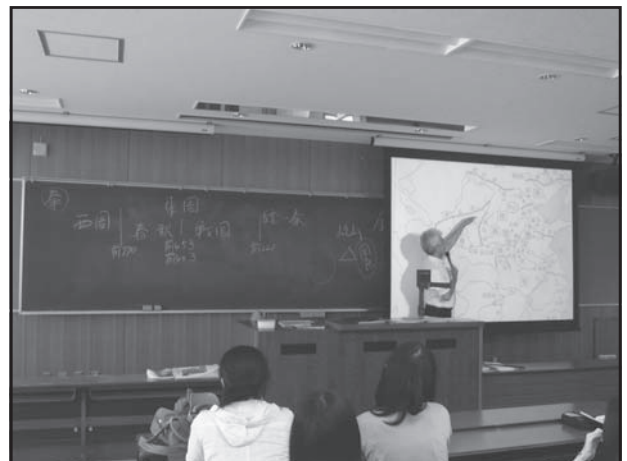
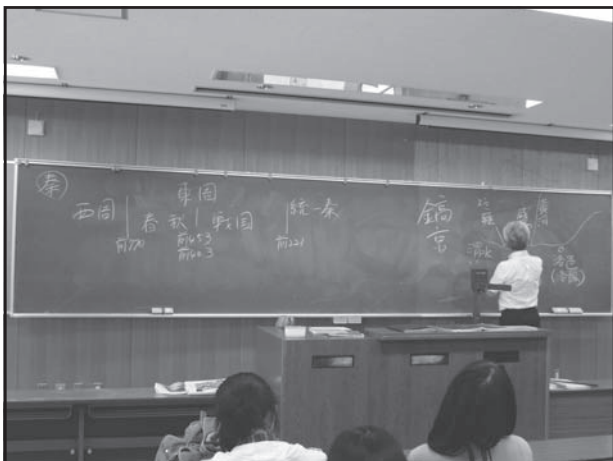
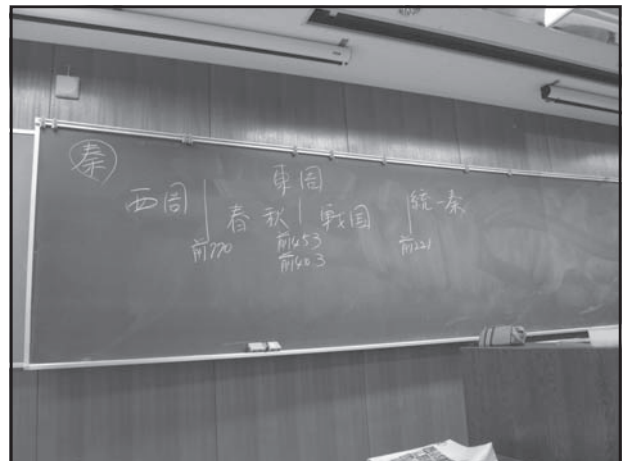


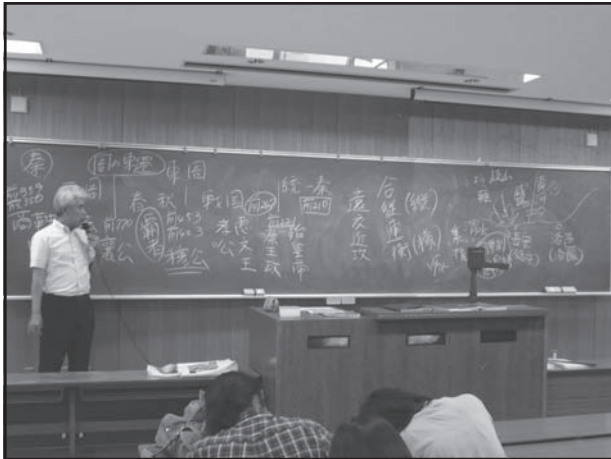




東洋史概論

西川先生





IV-1. 私の講義での工夫

IV-2. 客(学生)をいじらない

- 1) 学生への質問、一対一の話は、時間がもったいない
- 2) 予想外の応答が返ってきたとき、即座に、適切に回答できるか？いやできない。
- 3) 「一部の学生とだけコミュニケーションをしている」というネガティブな反応も・・・
→ 前回、誰をあてたかなど覚えていない
- 4) 発問の工夫で、全学生に考えさせる質問はあり得るが・・・
→ 小中学校の先生は、問答が一対一にならないような工夫をしている

IV-3. 当てないけれど、挙手を求める

- 全体への発問と同じ効果
→ 発問に関して考えさせる効果
- しかも学生は労力が少ないので、参加してくれる
→ しかし一人一人は考えている
- さらに自分が講義に参加しているという意識を作ることができる

IV-4. 雑談はしない

- 「雑談」の定義：講義の論旨に関係のない話。学生の注意を惹きつけるためにおこなわれることが多い。
- 授業料を払っている学生に失礼
- 雑談の例
その日の朝、おもしろい光景にであった。それを学生に聞かせたい。
→ 話がこなれていないので おもしろさはきっと伝わりません。
自分の子どもが、がんばって資格を取った。これを聞かせて学生を奮起させたい。
→ 「自慢話はやめてほしい」と学生は思っています。

V-5. 出席をとる

- 1) 出席を取らない方が人道的のようだが・・・
- 2) オペラント条件づけから学ぶ



トークン(token: 強化子)を導入することで、学習を進める方法。
【例】小学生のシール学習ポイントカード

VI. おわりに

授業改善がうまくいくかどうかは、その講義を担当されている先生が、授業改善をすることを、楽しめるか一知的好奇心を持って取り組めるかどうかにかかっていると思います。

研究と同じく、授業を楽しめれば、教員としての生活を2倍、楽しめると思います。



ご清聴ありがとうございました。

Kyoto University of Foreign Studies

第2回 FD 研究会 ——入門ゼミの位置づけと可能性——

教授法開発室員 小野田 俊 藏

本学では平成22年度より、各学部・学科における「入門ゼミ1H」を初年次教育科目として位置づけ、全学共通シラバスという考え方を基本にして各学科でそれぞれ工夫を凝らしながら展開してきている。今回のFD研究会で、各学科の担当者の話を直接伺い、実際に受講生と講義をすすめる中で捉えられている位置づけや意義を聴き合わせてみると、そこには大きな振幅があり共通意識の再度の構築が必要と思われる点が多い。

第2回 FD 研究会での議論

平成23年度の第2回FD研究会では、入門ゼミの現時点での検証を行った。（「初年次教育の到達点と課題～入門ゼミを通して考える～」平成24年1月26日（木）16:15～18:00 佛教大学紫野キャンパス1号館1-407教室）この研究会の開催趣旨は、平成22年度から展開されている全学共通シラバスの「入門ゼミ1H」の各学部各学科での位置づけを直接担当者あるいは教務担当者から聞きながら、初年次教育科目としての役割り等を検証しようとするものであった。つまり「入門ゼミ1H」に焦点を絞り、共通シラバスおよび授業内容や運営に係わる成果と課題について幅広い意見交換のもとに点検を行う機会としたい、というのが主催者の考えであった。

同時に研究会に先立って、当該授業の受講者からは「授業アンケート」という方法で一定に意見を収集し、担当教員からは具体的な授業内容・運営についての意見を頂き、それらは資料として研究会当日参加者に配られた。

開催に際して挨拶に立った教学部長の岡崎祐司先生からは入門ゼミのみならず初年次教育全体から見た入門ゼミの位置づけ、つまり共通科目や語学科目との関わり等についての調整という問題意識にも言及があった。司会の藤松素子教授法開発室長から当日のプログラムの説明等があった後、各学科の担当者代表あるいは教務担当者から報告があった。

仏教学科の田山令史先生からは、宗門子弟の割合が半分以上なので様々な機会を利用して一般学生との間の意思疎通交流の為の様々な試みがされている、そしてその一貫として入門ゼミ1Hが利用されているとのご報告があった。また大学院生や上回生との交流を設定することによって大学生生活つまり自立的な学びへのメインスイッチを入れてもらうことが念頭に置かれているとの事。スキル以前の心構えの構築が主眼とされているとのご報告であった。

次に日本文学科の水谷隆之先生は、日本文学の根幹である日本語の読み書きそして話す能力に重点をおいた内容を入門ゼミ1Hで行なっているとの事。秋学期での担当者と学生との組み合わせを新たな組み合わせとなるように配慮しているのも、交流の場を広げる目的であるという。しかし担当者により共通テキストの利用方法と利用頻度がまちまちで講義内容にばらつきがある恐れもあり検討を要するとの事。

中国文学科の鵜飼光昌先生からも、大学に入って新たに学ぶ中国語の能力の育成に主たるウエイトが注がれている現状が報告された。このあたりが語学系の学科の特徴でもあるのだろう。

英文学科の松本真治先生もその点では同じ指摘であった。様々なスキル以前の英語力にやはり担当者は力を入れるようだ。ディスカッションや研究の技法はむしろ3回生以降のゼミで学ぶほうが現実的ではないかとの意見も紹介された。さらに学生の中に文献学的志向が少なく実学としての語学への関心の高さを考えると、アカデミックスキルの前提とした共通シラバスとの方向性の不一致も指摘された。

改組新設学部である歴史学部の事情は少々異なっている。先ず歴史学科の貝英幸先生が現在に至るまでの経緯を説明された。改組の議論の中で比較的時間をかけて、つまり担当者だけではなく学科全体で話をする機会があったという点である。全学共通シラバスに加える形で学部内での共通シラバスと学科別のシラバスが階層的に構築された。すなわち担当者間でのばらつきは少ないが、1H から2A への連続性とクラス間の連携についてはさらに検討を要する課題であるとの報告であった。

歴史文化学科の渡邊秀一先生からは、学生の意識と教員の意識とのズレが指摘された。つまり学生側からすれば今までの学習方法に疑問を持つことはなく、しかし研究者である教員にしてみれば大学で期待される研究態度を培ってほしいという気持ちが強い。共通授業で行われる図書館等のガイダンスが授業の流れを分断する恐れがあるとの指摘もあった。

教育学科の松戸宏予先生からは資料に基づき入門ゼミ各回の授業テーマやそこで学習されるスキルの説明が行われた。ゲストを迎えながらのフィールド調査の話しやディスカッションそしてプレゼンテーションの方法等の指導がある。この基本的な枠組みに沿う形で各担当教員が微調整をしながら講義が行われているとの報告であった。

臨床心理学科の免田賢先生は、学科ではアカデミックスキルの同様にソーシャルスキルの学習が入門ゼミで伝えるべき内容と理解されていると説明された。例えば悪徳商法を例に心理的な分析の例を示しながら臨床心理学への導入と共に実際に学生生活での危険から身を守ってもらう目的も持たせているとの事。グループ学習等の発表の折にも質問を促して充実感を持たせるように心がけ学生のモチベーションを第一に考えているとの報告であった。

現代社会学科と公共政策学科を代表して関谷龍子先生が、学科の改組が行われた2004年度の時点で歴史学部と同じように学科内での入門ゼミの持ち方に議論の時間が持たれた経緯が説明された。共通内容での講義を念頭においたがクラス数が多いので担当者による違いが徐々に目立ち始めた。2010年から学部内にFDの小委員会を作って入門ゼミ1Hと2Aとを連動させた内容の検討と共通シラバスの作成を行なっているという。内容的には1Hではアカデミックスキルに特化し学科の内容には立ち入らないようにし、2Aでは学科の内容にも触れるように構成されているという。あくまで講義ではなくゼミ形式での教育を担当者に依頼しているとの報告であった。支援上回生も制度化されているとのこと。

社会福祉学科の加美嘉史先生は、共通のシラバスの整備をすることによって数多くのクラスを専任のみならず非常勤の先生に依頼出来る体制を整備すべきこと、定期的に担当学会議を開催していること、コースの資格ガイダンスや、専門職についている本学出身者や

ハンディキャップを持つ方々等ゲストスピーカーの招請などが重要な機会として組み込まれている等の報告があった。

理学療法学科の坂口光晴先生は、学科の特徴として進路の方向性や学生の志向がはっきりしており、人数も多くないので把握は出来易いが、専門性が強いので欠席による遅れは大きな問題になる。専門的な講義へ如何にスムーズに導入するかという点が主眼となること。しかし基本的なアカデミックスキル、特に文章力のなさを補う必要を感じていると報告された。

作業療法学科の荻山和生先生からも同様に学生が少人数なので把握は容易だが、理学療法学科と異なる点は、進路に迷う学生が存在すること。入門ゼミの内容としては、テキストは使用せず、雑誌論文等を補助教材として使用して工夫しているとのこと。現実的には入門ゼミの役割は2回生ゼミへの導入という捉え方がなされている。これも3回生以降に大きなウエイトをしめる実習講義を見据えての位置づけであると、ご報告を承って筆者は理解した。やはり理学療法学科と作業療法学科を含めて全学共通シラバスとすることの意味は十分再考されるべきではないかと感じた。

17時30分からは全体での質疑応答・議論に入ったが、議論の中心は学科の特色をどう盛り込むべきかという点にあった。さらに、単位を取り残した上回生や編入生への配慮も話題になった。最近の学生の傾向として講義の連続性に対する認識に乏しい傾向があり、担当者の思いとのズレを指摘する意見もあった。つまり学生自身が自らの習得をチェック出来る「スキルの種類と段階」という考えをシラバスの考案の時には想定する必要があるのではないかと意見もあった。また、技術的な問題として、同性同名同綴りの名前を持つ学生を同じクラスに振り分けないような方法を望む声もあった。

最後に総括を行った藤松教授法開発室長および副学長の清水稔先生からは、シラバス全体の中での入門ゼミの位置づけが話題とされた。

入門ゼミに初年次教育の要素の全てを過度に担わせる傾向があることには反省点が大いにあるだろう。また、少人数クラスによる学生と教員との繋がりによって脱落者を出すことなくきめ細かに学生一人ひとりの学習状況を把握していこうとするねらいはゼミ形式の講義の一つの側面であろうが、同じく教員との個人的な繋がりをこの入門ゼミに過度に担わせる傾向も一方では存在しているようだ。さらに語学系の学科からの現状報告では語学学習の基礎を入門ゼミに担わせることも現実的にはあるという。これでは担当者はどこに主眼を絞るべきかに迷ってしまう。つまり再確認すべきは、入門ゼミは、全学科で共通して行う初年次教育のあくまで一部を担うものであり、少人数教育による学生把握をその目的の一つとするゼミ教育のこれもあくまで一部を担うものであり、そして各学科個別の語学教育や学科で特化される学習内容を学ぶ学科教育のあくまで一部を担うものであるという点だ。

第3回 FD 研究会 ——授業の基本と授業づくり——

教授法開発室員 漆 葉 成 彦

日 時 平成 24 年 2 月 28 日

場 所 佛教大学紫野キャンパス 1-309 教室

講 師 倉茂 好匡氏（滋賀県立大学教育実践支援室長）

文 責 漆葉 成彦

福祉教育開発センターと教授法開発室の共催で、滋賀県立大学教育実践支援室長である倉茂好匡先生を講師とした「授業の基本と授業づくり」のレクチャーとワークショップが開かれた。

内容

第1講 授業の基本 12:50～14:20

この内容は、滋賀県立大学のオープン講座として120分×6回で行われているものを80分に短縮したものである。

＜基本項目＞

まず講師により「味噌汁の作り方」を題材とした「悪い授業」と「良い授業」の例が演じられた。この例を通して、以下の基本項目が説明された。

授業の構成：授業においてもっとも大切なことは「何を話すか」ではなく「どう話し、どのように学生に理解させるか」である。

「導入」：学生の興味をひきつけるための工夫が必要である。目標明示型、「ハッと、ドキッと」型、例示型、抒情型などのパターンがある。

「展開」：具体例（文章、映像、物、実験等）を用いて授業を展開することが重要である。「総論大好き症候群」「具体例欠乏症」に陥ってはならない。

＜授業のスキルに関すること＞

1. 板書

「見やすく、書き写しやすい」板書をつくることが重要である。

そのために、字の大きさ、チョークの色、黒板への書き方、体のさばきかたなどに工夫をしなければならないが、最も大切なのは「書いたら動け」ということと黒板の左から整理して書くということである。

板書を写させる時間を取ることで、「ノートを取れ」の指示、重要事項の繰り返しも大切である。

初心のうちは、「板書案」を作ること。

2 話し方、視線のおき方

最重要事項は、「学生を見て話せ」ということである。板書をしているときも学生を意

識して、書いたら視線をZ字状に動かして学生を見まわすこと。

口調は、一本調子を避け、適度な間や強弱の工夫をすること。

3 授業中の教師の動き

可能な限り、教壇から降り机間巡視をすること。

4 発問の基本

予想外の答えが返ってくることもあるため、発問は難しいのであるが、これを上手に使用すれば授業が非常に面白いものとなる。

発問は具体的にすること、学生の反応をみながら変更することが重要である。

以上の説明をもとに第2講のワークショップが行われた。

第2講 授業づくりワークショップ

教材は「おいしい野菜炒めの作り方」。授業の「ヤマ」への持って行き方、そのための「ストーリー」を作り出すことが重要であることが話された後、参加者を3～4名のグループに分け、各グループに5分間の授業づくりの課題が与えられた。

佛教大学のFDに活用していきたいことがら

一見単純な内容であっても学生の興味をひきつけ、授業のヤマをつくり、わかりやすい授業を構成するためには、その裏付けになる技術と工夫が不可欠であるということが、実感された。

大学教育のあり方が大きく変わりつつある現在、このように授業の基本に立ち返ったトレーニングは非常に大切なものであると考える。

初年次教育

教授法開発室員 水 谷 隆 之

1. はじめに

初年次教育の主な課題は、①大学生活への円滑な適応、②大学での学びに必要な学習技術の獲得、およびそれらを基盤とした③専門教育への導入、と言ってよいであろう。そしてこれらの課題を達成するために中心的な役割を担っているのが、初年次に設けられた「入門ゼミ」である。

本学では2010年度より、初年次生対象の「入門ゼミ1」（春学期開講）に全学共通シラバスを適用した。これをうけて教授法開発室では、2010年度、2011年度に「入門ゼミ」に関するFD研究会を開催し、初年次教育の成果と課題について検討を行った。以上の各研究会の詳細については、「第1回FD研究会」（『FD Review』vol.6）および本号「第2回FD研究会」（『FD Review』vol.7）を参照されたい。

本誌前号「初年次教育」（『FD Review』vol.6）では、全学共通シラバスを用いた文学部日本文学科の取り組みについて紹介し、その成果と今後の課題を述べた。本稿では、本学における初年次教育の取り組みを改めて紹介したうえで、前号に引き続き日本文学科の事例を、学生へのアンケート調査をもとに報告することとする。

2. 全学共通シラバスによる「入門ゼミ1」

2010年度に作成された全学共通シラバスのうち、「毎回の授業テーマ・内容」「成績評価の基準」においては学部学科毎に多少のアレンジがなされており、使用テキストにも違いがあるが、「授業のテーマ」「授業の目的・ねらい」「到達目標」といった基本的な項目は全学共通である。以下がその共通項目である。

■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

■授業の概要

＊＊学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の探索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

■到達目標

①大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。

- ②自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。
- ⑤効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

上記の全学共通項目のうち、「授業の目的・ねらい」は、「大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する」である。ここでいう「基本的な学び方」とは、「授業の概要」にある「基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）」に相当する。すなわち、全学共通シラバスでは、本稿の冒頭に掲げた初年次教育の課題のうち、「②大学での学びに必要な学習技術の獲得」に重点が置かれ、学問領域を問わない汎用可能な学習技術を早期に習得することが目指されていると言ってよい。もっとも、「入門ゼミ」において「①大学生活への円滑な適応」や、「③専門教育への導入」が軽視されているのでは決してない。学部学科毎に学生数や学問領域に違いがあるゆえの措置であり、各学科の特徴をふまえ別途工夫がなされている。

以下では日本文学科における取り組みを紹介し、2011年度の初年次教育の成果について述べることとする。

3. 文学部日本文学科における初年次教育

3.1 日本文学科の「入門ゼミ」シラバス

日本文学科では、「入門ゼミ 1」（春学期）、「入門ゼミ 2」（秋学期）ともに、150名弱の学生を10クラスに分け、14名ないし15名ずつのクラス編成としている。なお、他学部他学科においてもその多くが6～25名程度の少人数クラスを採用している。

また、日本文学科では、春学期と秋学期とで教員やクラスの学生が重複しないように配慮してクラス替えを行っている。多様な人的交流の機会を学生に提供することが目的である。

以下が日本文学科の2011年度「入門ゼミ 1」シラバスである。

日本文学科「入門ゼミ 1」シラバス

■毎回の授業テーマ・内容

第1回 授業概要の説明 自己紹介

第2回 日本文学科への誘い：日本文学科の教育内容の紹介 大学での学びの見通し

第3回 ノートの取り方

第4回 文献の探し方（図書館の利用法 文献探索の方法 資料収集の方法）①

第5回 文献の探し方（図書館の利用法 文献探索の方法 資料収集の方法）②

第6回 読解の仕方①

第7回 読解の仕方②

第8回 レジュメ作成の仕方

第9回 レジュメを使った発表の仕方

第10回 レジュメの発表とディスカッション①

第11回 レジュメの発表とディスカッション②

第12回 レジュメの発表とディスカッション③

第13回 レポートの書き方①

第14回 レポートの書き方②

第15回 授業の振り返りとまとめ

全学共通シラバスに示された「授業の目的」「到達目標」にあわせ、アカデミック・スキルの習得に重点を置くとともに、日本語、日本文学作品を対象とする日本文学科の特徴をふまえ、文献探索や文章の読解・記述に関する授業に時間を多く割いてある。また、各クラスの指導内容を統一するため、『知へのステップ』（くろしお出版）を学科共通の教科書として採用している。

ついで秋学期開講の「入門ゼミ2」では、「入門ゼミ1」での学習内容を定着させるべく、学生による発表・ディスカッションの機会を多く設けている。以下が日本文学科の2011年度「入門ゼミ2」のシラバスである。

日本文学科「入門ゼミ2」シラバス

■毎回の授業テーマ・内容

第1回 ガイダンス

第2回 文学作品の読解—先行研究の収集とその理解

第3回 文学作品の読解—先行研究の収集とその理解

第4回 文学研究の方法—研究発表

第5回 文学研究の方法—研究発表

第6回 文学研究の方法—論文（レポート）

第7回 文学研究の方法—論文（レポート）

第8回 学生による発表とディスカッション

第9回 学生による発表とディスカッション

第10回 学生による発表とディスカッション

第11回 学生による発表とディスカッション

第12回 学生による発表とディスカッション

第13回 学生による発表とディスカッション

第14回 学生による発表とディスカッション

第15回 授業の振り返りとまとめ

3.2 日本文学科における初年次教育の成果と今後の課題

以上の学習の効果をはかるため、日本文学科では「入門ゼミ1・2」受講後の学生を対象に、「入門ゼミ2」の授業最終週に以下の内容でアンケート調査を行った（無記名、10クラス中6クラスで実施、有効回答数85）。

A. 「入門ゼミ」への取り組みについて

A-1. 授業にどの程度出席しましたか（1（50%未満）・2（50～60%）・3（60～70%）・4（70～80%）・5（90～100%）から一つを回答）

(以下、A-2～Hは、「そう思う」か否かを5段階で回答)

- A-2. 授業に熱心に取り組んだ
- B. 「入門ゼミ」は大学生活に適応するために役に立った
- C. 「入門ゼミ」により大学で学ぶために必要な学習技術が身についた
 - C-1. ノートの取り方
 - C-2. 文献の探し方 (図書館の利用法 文献探索の方法 資料収集の方法)
 - C-3. 読解の仕方
 - C-4. レジюмеを使った発表とディスカッション
 - C-5. レポートの書き方
- D. 自律的な学習をすることができる (or できるようになった)
- E. 「入門ゼミ」により2年次以降の専門的な学習への見通しがえられた
- F. 「入門ゼミ」のクラスが少人数 (15名程度) で良かった
- G. 「入門ゼミ」の春学期と秋学期のクラス替えについて
 - G-1. 異なる教員の授業を受けることができて良かった
 - G-2. 異なる学生と知り合うことができて良かった
- H. テキスト (『知へのステップ』) は大学での学びを開始するにあたり役に立った
- I. その他、「入門ゼミ」で良かった点や悪かった点、今後の要望など

以下、上記のアンケート結果とその分析を記す。なお、昨年度も一部の学生を対象に同様のアンケート調査を行った (学生の所属クラスに偏りが生じないように配慮のうえ、28名から有効回答を得た)。今回は項目を増やすとともに、新たに理由欄を設けた。昨年度との共通項目については、それとの比較も適宜述べることにする。

A. 「入門ゼミ」への取り組みについて

A-1. 授業にどの程度出席しましたか

全体平均は5段階中4.2で出席率は高い。初年次における大学生活の基盤を担う科目として有効に機能していると言える。ただし、少数ながら「1 (50%以下)」をつけた学生が1名、「2 (50～60%)」が3名いた。出席率の低い学生に対しては、少人数クラスの利点を活かし、担当教員より個別に連絡をするなどの指導が現在なされている。今後も引き続き学生の大学生活への円滑な適応に努めたい。

A-2. 授業に熱心に取り組んだ

5段階中3.8とまずまずの結果であった。高い評価をつけた学生は、授業内課題や発表の機会が多く、自ら主体的に学習する機会が多かったことを理由にあげている。詳しくはC以下の項目で述べる。

B. 「入門ゼミ」は大学生活に適応するために役に立った

前年度のアンケート調査では3.5であったが、今回は3.9と概ね良好な結果が得られた。C以下の各項目においても学生の評価は向上しており、当科目の運営が軌道に乗ってきたことがうかがわれる。

C. 「入門ゼミ」により大学で学ぶために必要な学習技術が身についた

各項目の結果は以下の通りである。

- C-1. ノートの取り方 2.9
- C-2. 文献の探し方 (図書館の利用法 文献探索の方法 資料収集の方法) 4.0

C-3. 読解の仕方 3.7

C-4. レジューメを使った発表とディスカッション 3.9

C-5. レポートの書き方 3.9

「C-1. ノートの取り方」を除き、概ね良好な結果が得られた。「ノートの取り方」は昨年度のアンケートでも2.8と低評価であったが、今回も2.9と低い数値となった。うち、「1」をつけた学生は10名であるが、その理由として、「当該授業が少なかった」(3名)、「授業であまりノートをとっていない」(4名)ことをあげている。「2」の評価は17名で、やはり「当該授業が少なかった」(2名)、「授業であまりノートをとっていない」(4名)を理由にあげている。

日本文学科シラバスに示したように、「ノートのとり方」は春学期の「入門ゼミ1」において1回授業があるのみであり、大学の講義で実際に活用できるまでには至っていないのではないか。「C-3. 読解の仕方」も3.7(前年度は3.4)と他の項目に比べ評価が低い、低評価をつけた学生はやはり授業回数の少なさを理由にあげている。より効果的な授業方法を模索する必要があるだろう。

一方、そもそも「授業であまりノートをとっていない」と答えた学生が多いことも問題である。受講に際し、講義の要点や必要事項をみずから整理し記録する方法や習慣の必要性を感じていない学生が少なくないのではないか。また、本学で行っている全学対象の授業アンケートでは、教員の板書に関する学生からの要望が最も多いが、そこにはあらかじめ整理された板書を求める受け身の姿勢での要望が多く含まれている可能性もある。教授法開発室では、「黒板とパワーポイントの効果的な活用法」と題したFD研究会(2011年10月13日開催)を行うなど、学生の理解を深めるための板書技術の向上につとめているが、学生の主体的な受講姿勢を確立するための工夫も必要であると思われる。

「C-2. 文献の探し方」は4.0と、前年度の3.7よりも向上した。図書館における説明会が、2010年度は希望する一部のクラスのみを対象として実施されていたが、2011年度はこれが全学的に開始され、その効果が大きかったものと思われる。

「C-4. レジューメを使った発表とディスカッション」「C-5. レポートの書き方」も、それぞれ3.9(前年度は3.6)、3.9(前年度は3.7)と高評価であった。学生からは、「入門ゼミ」で学んだ技術や方法を授業内発表や期末レポートに活かすことができたとの感想が多かった。

D. 自律的な学習をすることができる (or できるようになった)

3.5とやや低調な結果である(前年度は3.3)。「4」以上の高評価をつけた学生の感想では、発表やレジューメの作成を通して自分で調べ自分でまとめる力がつき、学習への意欲が湧いたと答えたものが多い。

一方、「1」「2」の低評価をつけた学生(11人)は全て理由欄が無回答であり、授業への不満や要望は記されていない。そこで、これらの学生の他のアンケート項目をみると、授業への出席率については50～60%が1人、60～70%が3人、70～80%が1人、90～100%が3人で、全体平均よりはやや低いものの、授業にはある程度出席している。しかしながら、当該学生は「読解の仕方」が平均2.7(全体平均は3.7)、「レポートの書き方」が1.8(全体平均は3.9)であり、全体平均に比べかなり低いことが分かる。自律的な学習ができていない学生は、こうした読み書きの能力が低いため、自律的な学習習慣を確立し

にくいものと思われる。基礎学力の底上げが必要であるが、週に1回の入門ゼミのみではその達成は困難であり、全科目をとおしての配慮が必要であると思われる。

E. 「入門ゼミ」により2年次以降の専門的な学習への見通しがえられた

3.6とまずまずの結果である（前年度は3.4）。日本文学科では日本語日本文学、書道文化の全分野を紹介する「日本文学初学び」（日本文学科全教員によるリレー授業）を春学期に開講している。学生の知的好奇心を喚起し、主体的な学修姿勢の早期育成を目指した科目であり、これと「入門ゼミ」とのより有機的な関係の構築を目指したい。

F. 「入門ゼミ」のクラスが少人数（15名程度）で良かった

前回に続き、4.1（前年度は4.2）との高評価が得られた。

G. 「入門ゼミ」の春学期と秋学期のクラス替えについて

「G-1. 異なる教員の授業を受けることができて良かった」「G-2. 異なる学生と知り合うことができて良かった」のいずれも4.2と高評価である。G-1については、ほとんどの学生が、教員によって異なる教え方や考え方に触れられたことがためになったと答えている。G-2においても、異なる友達ができたこと、異なる意見や考え方に触れ、自分を客観的にみることができたことを評価している。

H. テキスト（『知へのステップ』）は大学での学びを開始するにあたり役に立った

2.7と他の項目にくらべてかなり低い評価となった。しかし、低評価を与えた学生の理由をみると、9割以上が「授業で使わなかった」ことをあげており、テキストの内容について不満を述べた学生は皆無であった。一方、2011年度第2回FD研究会「初年次教育の到達点と課題～入門ゼミを通して考える～」（2012年1月26日開催）に先立ってなされた教員向けのアンケートでは、日本文学科教員はテキストについて、4名が「使いやすい」、2名が「不要」と答えており、テキストを使用するか否かについては意見が分かれている。ただし、「不要」と答えた教員は、授業各回のテーマに沿って独自にプリントを作成するなどの工夫を講じている。また、教員それぞれが独自の教授方法を採用することによって得られる学習効果は、上記G-1において、「教員によって異なる教え方に触れられた」ことを評価する学生が多数にのぼったことにも表れている。そこで、テキストに記された内容は確実に修得することを教員間で再確認したうえで、授業での使用の有無にかかわらず引き続き当該テキストを使用することとした。

4. まとめ

本稿冒頭に初年次教育の目標として、①大学生活への円滑な適応、②大学での学びに必要な学習技術の獲得、およびそれらを基盤とした③専門教育への導入を掲げておいた。

まず①大学生活への円滑な適応という点では、少人数クラスの導入により、学生間および学生と教員間のコミュニケーションが円滑になされ、当初の目的を概ね達成できたと思われる。また、クラス替えへの評価が高く、教員・学生ともに広い交遊関係が大学生活の開始に効果的であることが確認できた。今後は初年次におけるつまずきのさらなる解消を目指したい。

②大学での学びに必要な学習技術の獲得という点では、到達度の低かった「ノートの取り方」といった項目の改善をはかる。学生の習熟度を見極めつつ「入門ゼミ」の授業方法

を模索する必要があるが、他の授業においても学生の主体的な受講態度を育成するための工夫が望まれる。

③専門教育への導入という点では、「入門ゼミ」と他の科目との有機的なつながりを目指すとともに、初年次教育の成果が2年次以降の学習に実際に反映されているかどうかについても今後検証を行っていく予定である。

学外研修会報告

——2011 年度「授業の基本」ワークショップに参加して——

福祉教育開発センター 塩 満 卓

授業を終えると、「うまく教えられなかった」と猛省する日々が続いていた。特に、現場の福祉職から教員へ転職した1年目は酷かった。当時の授業準備では、「何をどのように教えるのか」という思考は殆ど無かった。もっぱら「いかに90分を乗り切るか」であった。それゆえ、「分かり合えた」とか「通じた」という実感はほとんどなく、あるのは授業後の脱力感だけであった。

2年目に入ると、隣の研究室に現場の福祉職から転職した新米教員がやってきた。彼も私の1年目と同じように困っていた。そこで、授業に行き詰まっている者同士で、使っている教材や教え方について、報告し合うようになった。今風に言えば、ミニFDとか教員同士の自助グループとでも称されるのだろうが、その時は「傷の舐め合い」というのが相応しかったように思う。

それでも、続けることでの効果は少なくなかった。悩んでいた自分の考えを話すことは、自らを客観視することとなり、「困っているのは自分だけじゃない」とか「授業は悩みながらするものだ」と思えるようになったからだ。「一人前の教員になっていく過程」等の先行研究から、殆どの教員が私と同じような過程を経ている、と知ったのは最近のことである。

「傷の舐め合い」のような2人のミニFDでは、同じ教材を使った授業でも、学生の反応や理解の深度が違うということを発見した。これは、教授内容が同じでも、「どう教えるか」という教授方法によるものだと考えさせられた。端的に言えば教員の腕前、即ち教える側のスキルの問題である。では、どうやってそのスキルを身体に染みこませるのか。「今、ここ」といった再現性のない授業ゆえ、これらのことを体得するには、演習形式の参加型研修会でなければ身につかないと考えようになった。

2011（平成23）年の4月に「FD研究会」（正式名称：社会福祉・保育実習研究会）の主担当となった。研究会をどのように運営していけばいいのか、皆目検討がつかなかった。そんな折、教育開発課から滋賀県で開催予定の「FD研修会の案内」メールを受信した。私自身のFD研修会の認識は、近畿以外の遠方で開催される案内が多く、泊まりで行く研修会という感覚であった。近いということとテーマの「授業の基本と授業づくり」に惹かれ申し込んだ。講師は、滋賀県立大学教育実践室長の倉茂好匡氏であった。

研修会に参加して感じたことは、「授業の基本」さえ理解していなかったということである。授業は、「導入」、「展開」、「まとめ」の3パートに分けられ、最初の5分の「導入」で学生の興味・関心を惹きつけられるかどうか。そこが生命線である。導入がうまくいけば授業のヤマである「展開」に学生を乗せていくことができることを知った。

「授業づくり」で大切なポイントは、以下の3つ。「何を話すか（教授内容）」、「板書案」を準備した①講義ノートを作成し、「どう話すか」「時間配分」を考えた②授業計画を練る、

インタラクティブな授業としていくために③発問項目を準備する。である。その他にも授業運営のスキルとして、机間巡視、チョークの色の使い分け、板書の基本、発声の仕方を学ばせていただいた。

この研修会では最後に模擬授業を行った。グループ毎に授業計画を練りあげたものをグループ代表者が演じ、講師からスーパービジョンを受けた。ジャンケンに弱い私は演じるハメになり、多くのことを指導いただいた。恥ずかしかった模擬授業ではあるが、学んだ内容を実際に演じることにより、事前準備としての「授業づくり」と導入、展開、まとめの「授業の基本」をなんとなく感得することができた。

研修会への参加の機会を与えていただいた教育開発課（現：教育推進課）にこの場をお借りして感謝申し上げたい。また、学生が考えること、学びあうことの楽しさを感じられる授業としていくためにも、教員間での教授方法の交流や開発は不可欠であると感じている。その意味から FD 研究会の活性化にむけて取り組んでいきたいと考えている。

現実から出発する FD

教学部長 岡 崎 祐 司

FD の第一歩

FD の第一歩は、現実を直視することにある。つまり、教育の対象となる学生の学力や知識、学習姿勢、理解力が実際にはどうなのか、もう一つは教員としてのわれわれの実力や技能がどれだけの水準なのか、という現実を直視することからはじまる。現実を直視できなければ、有効な対策をとることはできないし、場合によっては現実から逃避する事態を招来しかねない。

FD の基本は学生の潜在能力を信頼して、個々の学生の力を引き出し能力を伸ばす一人一人の教員の活動と組織的取り組みの統一である。我々は、中等教育までの知識や思考力が十分で高等教育を受けるには万全であるという学生を受け入れているわけではない。これは本学に限らず日本の大学はどこでも事情は同じである。しかし、(というか、だからこそ) 知識が豊かになり思考力もつき、実践力も高くなるよう、学生を伸ばすことが、大学教育には求められる。

社会の大学に対する期待も目線も、研究の発展とともに学生を成長させ、能力を引きだしているかどうかに向けられている。評価の目線は厳しいのである。

「学習の場」をつくる

「大学教育の質」という言葉がよく使われるが、教員が質の高い教育サービスを一方的に提供しているというより、教員の取り組みが学生のやる気や潜在能力を引き出し、学生が伸びて行くことで教育の質が高まるというイメージで理解すべきであろう。受け身の学生への一方的な質の高い教育サービスの提供ではなく(実際にまったく受け身の人間に質の高い教育を行うことは不可能である)、熱意と工夫に満ちた教員の取り組みを受けて学生が主体的に学んでいるという「学習の場」が存在するというイメージである。この場合、「学習の場」とは、講義でも演習でも、研究室での学生との語らいでも、フィールドワークでもよいはずである。

考えてみれば、そんなことはおよそ教育と名のつく営みにおいては当たり前のことなのである。その当たり前のことを遂行できる仕掛けを組織的方法として確立し、一人一人の教員の教育活動のなかに落とし込んで行くことが FD だといってよい。

「授業アンケート」をどう生かすか

FD の第一歩の現実を直視するという点では、身につけておいてほしい知識の不足や学習姿勢の立ち遅れをふまえて、本学では「入学前教育」と「初年次教育」の工夫を行ってきた。「入学前教育」は、入学予定者に大学での学びをイメージさせ各学科の学びの導入教育や在学生との交流を行っている。受講生アンケートをみると、よく理解できたとか、楽しかったなど、評価は高い。「初年次教育」では入門ゼミにおいて大学における学びの

技法や姿勢を統一的シラバスで取り組んでいることも成果である。

ただ、現実を直視するという点では、「授業アンケート」が組織的に十分に活用されているとはいえない。結果を教員に返しているが、アンケートに答えた学生にはその結果を公表していない。これはアンケートの基本に反する。学生が自分が答えたアンケートの結果がその授業全体でどうなっていたのか、どう授業改善に生かされているのか、知りたいと思うのは当然である。また、授業アンケートの結果を学生に公表し、担当者として弁明を含めコメントをしたいと考える教員は、わたし一人ではないであろう。

学生に返すにしても、授業アンケートの実施時期（たとえば期中にするとか）、項目の内容、結果の公表方法については、これから検討しなければならない。また教員組織で、学科ごとや科目のカテゴリー別の結果（データ）を見てもらって教育成果や課題を集团的に議論してもらうことも広く実施できていない。いずれにしても、授業アンケート結果を授業の見直し・改善に活用できるような、集团的な討論の場を学部学科や科目担当者間で作って行く必要がある。

ちなみに私自身は、秋学期・春学期とも同じ受講生が受講する同一名称科目（〇〇論1と〇〇論2）があるので、前の学期のアンケート結果とコメントを印刷して学生に返すつもりである。次の学期のアンケートに熱心に学生は答えてくれることを期待し、受講姿勢が良い方に変わることを期待している。多少とも参画の意識がでてくるのかもしれない。

次は「成績評価の厳格化」

本学のFDを振り返ると、授業公開、授業アンケート、入門ゼミシラバス統一、シラバスの項目整備など、授業にかかわる活動はそれなりに行ってきた。しかし、成績評価のありかたはまだ本格的に議論したことがない。残されている課題のひとつは、授業の評価方法である。けっして、いままでの授業の成績評価がいい加減だったというわけではないが、厳格であったかと問われると、そうだとはいきれない問題がある。

成績評価の厳格化というと教員サイドの成績評価の方法・技術を洗練させることのみに焦点があたりがちだが、課題はそれだけではない。ひとつひとつの授業で教育目的と到達目標を明確にし、それを学生（受講生）と担当者が共有するうえで、また学生（受講生）がその授業のなかで何を獲得でき何ができていなかったのかを知り、自己の学修を振り返るうえで、そして学生の学修意欲を高め主体的な学習に向かわせるうえで、厳格な成績評価方法の導入はこれからの大学には避けて通れない。

こちらの方はなかなか難しい課題である。ことは教育とはなにか、授業とはなにか、そして担当教員に求められる能力とはなにかという、かなり本質に迫る問題であり、デリケートな問題でもある。しかし、成績評価の厳格化への取り組みを避けたままで、本学のFDは次の段階には進むことはできない。現実を直視するFDを推進する立場からいえば、これは決して逃避できない課題なのである。先行事例に学びつつ、具体的な手法をあわせて、大学教育とはなにかという本質に迫る議論をしながら進めてゆくしかないであろう。

活動記録

2011 年

- 4 月 4 日 (月) 基礎学力調査実施 (国語) (1 回生)
英語基礎学力調査実施 (1 回生)
- 4 月 28 日 (木) 第 1 回教育開発委員会
- 5 月 18 日 (水) 第 1 回教授法開発室会議
- 6 月 1 日 (水) 第 2 回教授法開発室会議
- 6 月 9 日 (木) 第 2 回教育開発委員会
- 6 月 29 日 (水) 第 3 回教授法開発室会議
- 6 月 1 日 (水)～ 春学期中間授業アンケート
- 6 月 28 日 (火)～ 春学期授業アンケート (通学課程)
- 7 月 13 日 (水) 第 4 回教授法開発室会議
- 7 月 16 日 (土)～ 授業アンケート (通信教育課程、夏期)
- 9 月 22 日 (木) 第 5 回教授法開発室会議
- 9 月 29 日 (木) 第 3 回教育開発委員会
- 10 月 13 日 (木) 第 1 回 FD 研究会「黒板とパワーポイントの効果的な活用法」
- 10 月 26 日 (水) 第 6 回教授法開発室会議
- 11 月 2 日 (水)～ 秋学期中間授業アンケート
- 11 月 10 日 (木) 第 4 回教育開発委員会
- 11 月 19 日 (土)～ 授業アンケート (通信教育課程、集中Ⅱ・学外 6)
- 12 月 1 日 (木) 『FD Review Vol.6』刊行
- 12 月 3 日 (土)～ 授業アンケート (通信教育課程、冬期・冬期夜間・学外 7)
- 12 月 12 日 (月)～ 秋学期授業アンケート (通学課程)
- 12 月 15 日 (木) 第 7 回教授法開発室会議
- 12 月 23 日 (金) 入学前教育 授業体験 (A コース)

2012 年

- 1 月 7 日 (土) 英語基礎力調査実施 (第 2 回目、1 回生)
- 1 月 21 日 (土)～ 授業アンケート (通信教育課程、学外 8・集中Ⅲ)
- 1 月 16 日 (月) 英語基礎力調査実施 (予備日、1 回生)
- 1 月 25 日 (水) 第 8 回教授法開発室会議
- 1 月 26 日 (木) 第 2 回 FD 研究会
「初年次教育の到達点と課題～入門ゼミを通して考える～」
- 2 月 12 日 (日) 入学前教育 授業体験 (A コース・B コース))

- 2月22日（水） 平成23年度佛教大学教員研修会
「3つのポリシー策定の意義と手順
～ディプロマ・ポリシーの達成に向けて～」
- 2月28日（火） 第3回FD研究会「授業の基本と授業づくり」
- 3月1日（土） 『教授法開発室だより Vol.20』刊行
- 3月17日（土） 入学前教育 授業体験（Aコース・Bコース）
- 3月21日（水） 第9回教授法開発室会議
- 3月22日（木） 第5回教育開発委員会
- 3月23日（金） 入学前教育 授業体験（Cコース）

教授法開発室のご紹介

2011 年度

室長 藤松 素子 (社会福祉学科)
室員 水谷 隆之 (日本文学科)
松本 真治 (英米学科)
小野田俊藏 (歴史文化学科)
菅原 伸康 (教育学科)
堀家由妃代 (教育学科)
近藤 敏夫 (現代社会学科))
林 悠子 (社会福祉学科)
漆葉 成彦 (作業療法学科)

事務局スタッフ

岡崎 祐司 (教学部長 社会福祉学科)
三木 京子 (教育開発課課長)
平井 孝典 (教育開発課主任)
拝野 香織 (教育開発課課員)